

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7291980号
(P7291980)

(45)発行日 令和5年6月16日(2023.6.16)

(24)登録日 令和5年6月8日(2023.6.8)

(51)国際特許分類 F I
A 6 3 F 5/04 (2006.01) A 6 3 F 5/04 6 1 1 B

請求項の数 1 (全387頁)

(21)出願番号	特願2022-122415(P2022-122415)	(73)特許権者	598098526 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 東京都江東区有明三丁目7番26号 有明フロンティアビルA棟
(22)出願日	令和4年8月1日(2022.8.1)	(74)代理人	100145698 弁理士 清水 俊介
(62)分割の表示	特願2021-51034(P2021-51034)の分割	(72)発明者	柴田 孝忠 東京都江東区有明3丁目7番26号
原出願日	平成29年5月16日(2017.5.16)	審査官	森田 真彦
(65)公開番号	特開2022-136307(P2022-136307A)		
(43)公開日	令和4年9月15日(2022.9.15)		
審査請求日	令和4年8月1日(2022.8.1)		

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技に関する制御を行う遊技制御手段と、
 遊技者による開始操作を検出可能な開始操作検出手段と、
 複数種類の図柄が設けられた複数のリールと、
 前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、前記複数のリールを回転させる回転手段と、
 前記複数のリールの各リールに対応して設けられ、停止操作を検出可能な停止操作検出手段と、
 前記停止操作検出手段による停止操作の検出に基づいて、前記リールの回転を停止させる停止制御手段と、
 を備え、
 前記遊技制御手段は、
 遊技に関する演算処理を行う演算処理手段と、
 前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段と、
 前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段と、
 を備え、
 前記演算処理手段は、

10

20

前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される複数の汎用レジスタと、

前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第 1 記憶手段又は前記第 2 記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタと、

を有し、

全リールの励磁が停止状態であるかを判別する停止チェック処理において、前記拡張レジスタを用いて論理和演算を行う命令が用いられる

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチスロ機などの遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、遊技者により、メダルやコインなどの遊技媒体が投入（以下、「投入操作」という。）され、スタートレバーが操作（以下、「開始操作」という。）されると、複数の図柄がそれぞれの表面に配された複数のリールの回転が開始し、ストップボタンが操作（以下、「停止操作」という。）されると、複数のリールの回転が停止し、その結果表示された図柄の組合せに応じて特典が付与される、いわゆるパチスロ機と称される遊技機が知られている。

20

【0003】

このような遊技機においては、開始操作をスタートスイッチにより検出すると、乱数値を抽出して抽籤を行う（以下、この抽籤の結果を「内部当籤役」という。）とともに、ステッピングモータを駆動制御して複数のリールの回転を開始させる制御を行い、停止操作をストップスイッチにより検出すると、ステッピングモータを駆動制御し、内部当籤役に基づいて複数のリールの回転を停止させる制御を行う。

【0004】

従来、上述した構成の遊技機において、電断時に RAM に記憶されているデータのチェックサムを求め、電源復帰時に、電断時に求めたチェックサムの判定処理を行う遊技機が知られている（例えば、特許文献 1）。特許文献 1 に記載の遊技機では、電源復帰時のチェックサムの判定処理において、電源復帰時に求めたチェックサムが電断時に求めたチェックサムが一致しない場合にエラー報知が行われる。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【文献】特開 2009 - 011375 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

40

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。

【0007】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであり、処理プログラムなどの容量を削減して主制御回路の ROM の空き容量を増やし、該増えた容量分の ROM の空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明に係る遊技機は、遊技に関する制御を行う遊技制御手段と、遊技者による開始操作を検出可能な開始操作検出手段と、複数種類の図柄が設けられた複数のリールと、前記

50

開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、前記複数のリールを回転させる回転手段と、前記複数のリールの各リールに対応して設けられ、停止操作を検出可能な停止操作検出手段と、前記停止操作検出手段による停止操作の検出に基づいて、前記リールの回転を停止させる停止制御手段と、を備え、前記遊技制御手段は、遊技に関する演算処理を行う演算処理手段と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される複数の汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第1記憶手段又は前記第2記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタと、を有し、全リールの励磁が停止状態であるかを判別する停止チェック処理において、前記拡張レジスタを用いて論理和演算を行う命令が用いられることを特徴とする。

10

【発明の効果】

【0009】

本発明によれば、処理プログラムなどの容量を削減して主制御回路のROMの空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明の一実施形態における遊技機の機能フローを説明するための図である。

20

【図2】本発明の一実施形態における遊技機の外觀構造を示す斜視図である。

【図3】本発明の一実施形態における遊技機の内部構造を示す図である。

【図4】本発明の一実施形態における遊技機の内部構造を示す図である。

【図5】本発明の一実施形態のサブ表示装置に表示される各種表示画面の概略構成を示す図である。

【図6】本発明の一実施形態におけるサブ表示装置の表示画面の遷移例を示す図である。

【図7】本発明の一実施形態の遊技機が備える回路の全体構成を示すブロック図である。

【図8】本発明の一実施形態における主制御回路の内部構成を示すブロック図である。

【図9】本発明の一実施形態におけるマイクロプロセッサの内部構成を示すブロック図である。

30

【図10】本発明の一実施形態における副制御回路の内部構成を示すブロック図である。

【図11】本発明の一実施形態におけるメインCPUが有する各種レジスタの構成図である。

【図12】本発明の一実施形態における主制御回路のメモリマップを示す図である。

【図13】本発明の一実施形態におけるパチスロのボーナス状態及び非ボーナス状態間における遊技状態の遷移フローを示す図である。

【図14】本発明の一実施形態におけるパチスロのART遊技状態、非ART遊技状態及びボーナス状態間における遊技状態の遷移フローを示す図である。

【図15】本発明の一実施形態における図柄配置テーブルの一例を示す図である。

【図16】本発明の一実施形態における内部抽籤テーブルの一例を示す図である。

40

【図17】本発明の一実施形態における内部抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図18】本発明の一実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

【図19】本発明の一実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

【図20】本発明の一実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

【図21】本発明の一実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

【図22】本発明の一実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

【図23】本発明の一実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

【図24】本発明の一実施形態における内部当籤役と停止図柄組合せとの対応関係を示す図である。

【図25】本発明の一実施形態における内部当籤役と停止図柄組合せとの対応関係を示す

50

図である。

【図 26】本発明の一実施形態におけるリール停止初期設定テーブルの一例を示す図である。

【図 27】本発明の一実施形態における引込優先順位テーブルの一例を示す図である。

【図 28】本発明の一実施形態における当り要求フラグ格納領域、入賞作動フラグ格納領域の構成（その 1）を示す図である。

【図 29】本発明の一実施形態における当り要求フラグ格納領域、入賞作動フラグ格納領域の構成（その 2）を示す図である。

【図 30】本発明の一実施形態における当り要求フラグ格納領域、入賞作動フラグ格納領域の（その 3）を示す図である。

10

【図 31】本発明の一実施形態における持越役格納領域の構成を示す図である。

【図 32】本発明の一実施形態における遊技状態フラグ格納領域の構成を示す図である。

【図 33】本発明の一実施形態における作動ストップボタン格納領域の構成を示す図である。

【図 34】本発明の一実施形態における押下順序格納領域の構成を示す図である。

【図 35】本発明の一実施形態における図柄コード格納領域の構成を示す図である。

【図 36】本発明の一実施形態における内部当籤役とサブフラグとの対応表（その 1）を示す図である。

【図 37】本発明の一実施形態における内部当籤役とサブフラグとの対応表（その 2）を示す図である。

20

【図 38】本発明の一実施形態の遊技機において、サブフラグ E X 「3 連チリリブ」又は「リーチ目リブ」が当籤した際の報知動作を説明するための図である。

【図 39】本発明の一実施形態における一般遊技状態中の遊技の流れを説明するための図である。

【図 40】本発明の一実施形態における通常中高確率抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 41】本発明の一実施形態における C Z 抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 42】本発明の一実施形態における C Z 1 中モードアップ抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 43】本発明の一実施形態における C Z 2 中ポイント抽籤テーブルの一例を示す図である。

30

【図 44】本発明の一実施形態における C Z 中 A R T 抽籤テーブル（C Z 1 , C Z 2 用）の一例を示す図である。

【図 45】本発明の一実施形態における C Z 中 A R T 抽籤テーブル（C Z 3 用）の一例を示す図である。

【図 46】本発明の一実施形態における通常 A R T 中の遊技の流れを説明するための図である。

【図 47】本発明の一実施形態における A R T 中フラグ変換抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 48】本発明の一実施形態における A R T レベル決定テーブルの一例を示す図である。

【図 49】本発明の一実施形態における通常 A R T 中高確率抽籤テーブルの一例を示す図である。

40

【図 50】本発明の一実施形態における A R T 中 C T 抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 51】本発明の一実施形態における通常 A R T 中上乗せ抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 52】本発明の一実施形態における C T 状態中の遊技の流れを説明するための図である。

【図 53】本発明の一実施形態における C T 中テーブル抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 54】本発明の一実施形態における C T 中フラグ変換抽籤テーブルの一例を示す図である。

50

【図 5 5】本発明の一実施形態における C T 中上乘せ抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 5 6】本発明の一実施形態における C T 中セット数上乘せ抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 5 7】本発明の一実施形態におけるボーナス状態中の遊技の流れを説明するための図である。

【図 5 8】本発明の一実施形態におけるボーナス種別抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 5 9】本発明の一実施形態におけるボーナス中 A R T ゲーム数上乘せ抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 6 0】本発明の一実施形態におけるボーナス終了時 C T 抽籤テーブルの一例を示す図である。

10

【図 6 1】本発明の一実施形態における一般遊技状態中の遊技（その他）の流れを説明するための図である。

【図 6 2】本発明の一実施形態における非 A R T 中フラグ変換抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 6 3】本発明の一実施形態におけるメイン側ナビデータとサブ側ナビデータとの対応関係を示す図である。

【図 6 4】本発明の一実施形態における遊技機の主制御回路により実行される電源投入（リセット割込み）時処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 5】本発明の一実施形態における電源投入時処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

20

【図 6 6】本発明の一実施形態における遊技復帰処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 7】本発明の一実施形態における遊技復帰処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 6 8】本発明の一実施形態における設定変更確認処理の例を示すフローチャートである。

【図 6 9】本発明の一実施形態における設定変更確認処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 7 0】本発明の一実施形態における設定変更コマンド生成格納処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 1】本発明の一実施形態における設定変更コマンド生成格納処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

30

【図 7 2】本発明の一実施形態における通信データ格納処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 3】本発明の一実施形態における通信データ格納処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 7 4】本発明の一実施形態における通信データポインタ更新処理の例を示すフローチャートである。

【図 7 5】本発明の一実施形態における通信データポインタ更新処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 7 6】本発明の一実施形態における電断時（外部）処理の例を示すフローチャートである。

40

【図 7 7】本発明の一実施形態におけるチェックサム生成処理（規定外）の例を示すフローチャートである。

【図 7 8】本発明の一実施形態におけるチェックサム生成処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例、並びに、チェックサム生成処理で実行されるスタックポインタの更新動作及びレジスタへのデータの読み出し動作の様子を示す図である。

【図 7 9】本発明の一実施形態におけるサムチェック処理（規定外）の例を示すフローチャートである。

【図 8 0】本発明の一実施形態におけるサムチェック処理（規定外）の例を示すフローチャートである。

50

ャートである。

【図 8 1】本発明の一実施形態におけるサムチェック処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 8 2】本発明の一実施形態における遊技機の主制御回路により実行されるメイン処理（主要動作処理）の例を示すフローチャートである。

【図 8 3】本発明の一実施形態におけるメダル受付・スタートチェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 8 4】本発明の一実施形態におけるメダル受付・スタートチェック処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 8 5】本発明の一実施形態におけるメダル投入処理の例を示すフローチャートである。 10

【図 8 6】本発明の一実施形態におけるメダル投入処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 8 7】本発明の一実施形態におけるメダル投入チェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 8 8】本発明の一実施形態におけるメダル投入チェック処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 8 9】本発明の一実施形態におけるエラー処理の例を示すフローチャートである。

【図 9 0】本発明の一実施形態におけるエラー処理のソースプログラム上で、実際に参照されるエラーテーブルの構成の一例を示す図である。

【図 9 1】本発明の一実施形態における乱数取得処理の例を示すフローチャートである。 20

【図 9 2】本発明の一実施形態における内部抽籤処理の例を示すフローチャートである。

【図 9 3】本発明の一実施形態における内部抽籤処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 9 4】本発明の一実施形態における内部抽籤処理のソースプログラム上で、実際に参照される内部抽籤テーブル（一般遊技用）の構成の一例を示す図である。

【図 9 5】本発明の一実施形態における内部抽籤処理のソースプログラム上で、実際に参照される R T 状態別抽籤値選択テーブルの構成の一例を示す図である。

【図 9 6】本発明の一実施形態における内部抽籤処理のソースプログラム上で、実際に参照される、内部抽籤値テーブル選択テーブル、1 バイト内部抽籤値テーブル、2 バイト内部抽籤値テーブル、1 バイト設定別内部抽籤値テーブル及び 2 バイト設定別内部抽籤値テーブルの構成の一例を示す図である。 30

【図 9 7】本発明の一実施形態における図柄設定処理の例を示すフローチャートである。

【図 9 8】本発明の一実施形態における特賞（ボーナス）当籤番号及び小役当籤番号と、内部当籤役との対応を示す図である。

【図 9 9】本発明の一実施形態における図柄設定処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 0 0】本発明の一実施形態における図柄設定処理のソースプログラム上で、実際に参照される当り要求フラグテーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 0 1】本発明の一実施形態における圧縮データ格納処理の例を示すフローチャートである。 40

【図 1 0 2】本発明の一実施形態における第 2 インターフェースボード制御処理（規定外）の例を示すフローチャートである。

【図 1 0 3】本発明の一実施形態における第 2 インターフェースボード出力処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 0 4】本発明の一実施形態における状態別制御処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 0 5】本発明の一実施形態におけるサブフラグ変換処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 0 6】本発明の一実施形態におけるサブフラグ変換処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。 50

【図 1 0 7】本発明の一実施形態におけるサブフラグ変換処理のソースプログラム上で、実際に参照されるサブフラグ変換テーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 0 8】本発明の一実施形態におけるナビセット処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 0 9】本発明の一実施形態におけるナビセット処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 1 0】本発明の一実施形態におけるナビセット処理のソースプログラム上で、実際に参照されるナビデータテーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 1 1】本発明の一実施形態におけるフラグ変換処理の例を示すフローチャートである。

10

【図 1 1 2】本発明の一実施形態における通常中スタート時処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 1 3】本発明の一実施形態における C Z 中スタート時処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 1 4】本発明の一実施形態における C Z 1 (C Z 2) 中処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 1 5】本発明の一実施形態における C Z 1 (C Z 2) 中処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 1 6】本発明の一実施形態における C Z 3 中処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 1 7】本発明の一実施形態における通常 A R T 中スタート時処理の例を示すフローチャートである。

20

【図 1 1 8】本発明の一実施形態における C T 中スタート時処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 1 9】本発明の一実施形態における C T 中 C T 抽籤処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 2 0】本発明の一実施形態におけるテーブルデータ取得処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 2 1】本発明の一実施形態におけるテーブルデータ取得処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 2 2】本発明の一実施形態におけるテーブルデータ取得処理のソースプログラム上で、実際に参照される C T 中 C T 抽籤テーブルの構成の一例を示す図である。

30

【図 1 2 3】本発明の一実施形態における 1 バイト抽籤処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 2 4】本発明の一実施形態における 1 バイト抽籤処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 2 5】本発明の一実施形態における B B 中スタート時処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 2 6】本発明の一実施形態における引込優先順位格納処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 2 7】本発明の一実施形態における引込優先順位格納処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

40

【図 1 2 8】本発明の一実施形態における図柄コード取得処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 2 9】本発明の一実施形態における図柄コード取得処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 3 0】本発明の一実施形態における図柄コード取得処理のソースプログラム上で、実際に参照される第 1 回胴 (左リール) 図柄配置テーブル、及び、第 1 回胴図柄配置テーブルセット時に参照される図柄対応入賞作動テーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 3 1】本発明の一実施形態における図柄コード取得処理のソースプログラム上で、実際に参照される第 2 回胴 (中リール) 図柄配置テーブル、及び、第 2 回胴図柄配置テ

50

ブルセット時に参照される図柄対応入賞作動テーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 3 2】本発明の一実施形態における図柄コード取得処理のソースプログラム上で、実際に参照される第 3 回胴（右リール）図柄配置テーブル、及び、第 3 回胴図柄配置テーブルセット時に参照される図柄対応入賞作動テーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 3 3】本発明の一実施形態における論理積演算処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 3 4】本発明の一実施形態における引込優先順位取得処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 3 5】本発明の一実施形態における引込優先順位取得処理の例を示すフローチャートである。

10

【図 1 3 6】本発明の一実施形態における引込優先順位取得処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 3 7】本発明の一実施形態における引込優先順位取得処理のソースプログラム上で、実際に参照される引込優先順位テーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 3 8】本発明の一実施形態におけるリール停止制御処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 3 9】本発明の一実施形態におけるリール停止制御処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 4 0】本発明の一実施形態におけるリール停止制御処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

20

【図 1 4 1】本発明の一実施形態におけるリール停止可能信号 OFF 処理（規定外）の例を示すフローチャートである。

【図 1 4 2】本発明の一実施形態におけるリール停止可能信号 ON 処理（規定外）の例を示すフローチャートである。

【図 1 4 3】本発明の一実施形態における規定外ポート出力処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 4 4】本発明の一実施形態における規定外ポート出力処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 4 5】本発明の一実施形態における入賞検索処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 4 6】本発明の一実施形態における入賞検索処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

30

【図 1 4 7】本発明の一実施形態における入賞検索処理のソースプログラム上で、実際に参照される払出枚数データテーブルの構成の一例を示す図である。

【図 1 4 8】本発明の一実施形態におけるイリーガルヒットチェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 4 9】本発明の一実施形態におけるイリーガルヒットチェック処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 5 0】本発明の一実施形態における入賞チェック・メダル払出処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 5 1】本発明の一実施形態における入賞チェック・メダル払出処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

40

【図 1 5 2】本発明の一実施形態におけるメダル払出枚数チェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 5 3】本発明の一実施形態におけるメダル払出枚数チェック処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図 1 5 4】本発明の一実施形態における BB チェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 5 5】本発明の一実施形態における RT チェック処理の例を示すフローチャートである。

【図 1 5 6】本発明の一実施形態における RT チェック処理の例を示すフローチャートで

50

ある。

【図157】本発明の一実施形態におけるCZ・ART終了時処理の例を示すフローチャートである。

【図158】本発明の一実施形態における遊技機の主制御回路により実行される割込処理の例を示すフローチャートである。

【図159】本発明の一実施形態における7セグLED駆動処理の例を示すフローチャートである。

【図160】本発明の一実施形態における7セグLED駆動処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図161】本発明の一実施形態における7セグ表示データ生成処理の例を示すフローチャートである。

10

【図162】本発明の一実施形態における7セグ表示データ生成処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図163】本発明の一実施形態における7セグ表示データ生成処理のソースプログラム上で、実際に参照される7セグカソードテーブルの構成の一例を示す図である。

【図164】本発明の一実施形態におけるタイマー更新処理の例を示すフローチャートである。

【図165】本発明の一実施形態におけるタイマー更新処理のフローチャート中の各種処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【図166】本発明の一実施形態における試射試験信号制御処理(規定外)の例を示すフローチャートである。

20

【図167】本発明の一実施形態における回胴制動信号生成処理の例を示すフローチャートである。

【図168】本発明の一実施形態における特賞信号制御処理の例を示すフローチャートである。

【図169】本発明の一実施形態における条件装置信号制御処理の例を示すフローチャートである。

【図170】本発明の一実施形態における条件装置信号制御処理の例を示すフローチャートである。

【図171】本発明の一実施形態における遊技機の副制御回路により実行されるサブ側ナビ制御処理の例を示すフローチャートである。

30

【図172】本発明の一実施形態における遊技者登録処理の例を示すフローチャートである。

【図173】本発明の一実施形態における履歴管理処理の例を示すフローチャートである。

【図174】本発明の変形例1におけるCT前兆中の遊技の流れを示す図である。

【図175】本発明の変形例2における内部当籤役と停止図柄組合せとの対応関係を示す図である。

【図176】本発明の変形例3におけるメイン側ナビデータとサブ側ナビデータとの対応関係を示す図である。

【図177】本発明の変形例5における押し順とロック状態との対応関係を示す図である。

40

【図178】本発明の別実施形態におけるパチスロのボーナス状態及び非ボーナス状態間における遊技状態の遷移フローを示す図である。

【図179】上記実施形態における図柄配置テーブルの一例を示す図である。

【図180】上記実施形態における内部抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図181】上記実施形態における内部抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図182】上記実施形態における内部抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図183】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

【図184】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

【図185】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

【図186】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。

50

- 【図187】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図188】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図189】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図190】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図191】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図192】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図193】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図194】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図195】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図196】上記実施形態における図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
- 【図197】上記実施形態における図柄組合せの内容の一例を示す図である。
- 【図198】上記実施形態における図柄組合せの内容の一例を示す図である。
- 【図199】上記実施形態における図柄組合せの内容の一例を示す図である。
- 【図200】上記実施形態における図柄組合せの内容の一例を示す図である。
- 【図201】上記実施形態における図柄組合せの内容の一例を示す図である。
- 【図202】上記実施形態における図柄組合せの内容の一例を示す図である。
- 【図203】上記実施形態における図柄組合せの内容の一例を示す図である。
- 【図204】上記実施形態における図柄組合せの内容の一例を示す図である。
- 【図205】上記実施形態における内部当籤役と停止図柄組合せとの対応関係を示す図である。
- 【図206】上記実施形態におけるパチスロの報知を考慮した遊技状態の遷移フローを示す図である。
- 【図207】上記実施形態におけるパチスロの報知を考慮した遊技状態の遷移条件を示す図である。
- 【図208】上記実施形態における内部当籤役と抽籤用フラグとの対応関係を示す図である。
- 【図209】上記実施形態における通常状態中の遊技の流れを示す図である。
- 【図210】上記実施形態におけるCZ中の遊技の流れを示す図である。
- 【図211】上記実施形態におけるCZ中の遊技の流れを示す図である。
- 【図212】上記実施形態におけるART状態中の遊技の流れを示す図である。
- 【図213】上記実施形態におけるART状態中の遊技の流れを示す図である。
- 【図214】上記実施形態におけるボーナス状態中の遊技の流れを示す図である。
- 【図215】上記実施形態におけるモード移行抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図216】上記実施形態における状態移行抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図217】上記実施形態における状態移行抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図218】上記実施形態における高確保証ゲーム数抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図219】上記実施形態におけるモード別CZ抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図220】上記実施形態におけるBB当籤時状態別CZ抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図221】上記実施形態における状態別CZ抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図222】上記実施形態におけるCZ前兆ゲーム数抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図223】上記実施形態におけるBB当籤時ART抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図224】上記実施形態における通常時ART抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図225】上記実施形態におけるART前兆ゲーム数抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図226】上記実施形態におけるCZ中ART抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図227】上記実施形態におけるCZ中ART抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図228】上記実施形態におけるART中ストック抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図229】上記実施形態におけるART中ストック抽籤テーブルの一例を示す図である。
- 【図230】上記実施形態におけるART中ストック抽籤テーブルの一例を示す図である。

10

20

30

40

50

【図 2 3 1】上記実施形態における A R T 中 B B 当籤時ストック抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 3 2】上記実施形態における A R T 当籤時ストック数抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 3 3】上記実施形態における特殊 C Z 移行抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 3 4】上記実施形態における A R T 当籤時ランク抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 3 5】上記実施形態における A R T 当籤時ランク抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 3 6】上記実施形態における A R T 当籤時ランク抽籤テーブルの一例を示す図である。

10

【図 2 3 7】上記実施形態における A R T 当籤時ランク抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 3 8】上記実施形態における A R T 当籤時ランク抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 3 9】上記実施形態におけるストック放出順序抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 4 0】上記実施形態におけるランク決め A R T 中ランク昇格抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 4 1】上記実施形態におけるナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブルの一例を示す図である。

20

【図 2 4 2】上記実施形態における C Z ゲーム数獲得抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 4 3】上記実施形態における A R T ゲーム数獲得抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 4 4】上記実施形態における転落モード抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 4 5】上記実施形態における転落モード移行抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 4 6】上記実施形態における B B 当籤時転落モード移行抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 4 7】上記実施形態における B B 中 A R T 抽籤テーブル、B B 中 C Z 抽籤テーブル、B B 中 E P ストック抽籤テーブルの一例を示す図である。

【図 2 4 8】上記実施形態におけるパチスロの主制御回路により実行されるメイン処理（主要動作処理）の例を示すフローチャートである。

30

【図 2 4 9】上記実施形態におけるパチスロの通常状態中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 5 0】上記実施形態におけるパチスロの C Z 前兆中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 5 1】上記実施形態におけるパチスロの A R T 前兆中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 5 2】上記実施形態におけるパチスロの初当り C Z、及び、初当り C Z 終了の次遊技の抽籤内容を示す図である。

【図 2 5 3】上記実施形態におけるパチスロの A R T 準備中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 5 4】上記実施形態におけるパチスロのランク決め A R T 中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 5 5】上記実施形態におけるパチスロの通常 A R T 中の抽籤内容を示す図である。

40

【図 2 5 6】上記実施形態におけるパチスロの E P 準備中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 5 7】上記実施形態におけるパチスロの E P 中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 5 8】上記実施形態におけるパチスロの C Z（A R T 後）、C Z（A R T 後）終了の次遊技、及び特殊 C Z 中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 5 9】上記実施形態におけるパチスロの通常フラグ間中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 6 0】上記実施形態におけるパチスロの通常 B B 中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 6 1】上記実施形態におけるパチスロの A R T 中フラグ間中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 6 2】上記実施形態におけるパチスロの A R T 中 B B 中の抽籤内容を示す図である。

【図 2 6 3】上記実施形態におけるパチスロの C Z の残りゲーム数と C Z 中の各抽籤との

50

関係性を示す図である。

【図 2 6 4】上記実施形態におけるパチスロの C Z 中のストックの有無と各抽籤との関係性を示す図である。

【図 2 6 5】上記実施形態におけるパチスロの R T 4 状態又は R T 5 状態中の A R T 抽籤の概要を示す図である。

【図 2 6 6】上記実施形態におけるパチスロの押し順ベル当籤時の押し順と図柄組合せとの対応関係を示す図である。

【図 2 6 7】上記実施形態におけるパチスロの押し順ベル当籤時の押し順と R T 制御との対応関係を示す図である。

【図 2 6 8】上記実施形態におけるパチスロの押し順ベル当籤時の押し順と R T 制御との対応関係の別例を示す図である。

10

【図 2 6 9】上記実施形態におけるパチスロのナビ高確ゲーム数の管理方法を示す図である。

【図 2 7 0】上記実施形態におけるパチスロのナビ高確の有無と各抽籤との関係性を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0 0 1 1】

以下、本発明の一実施形態に係る遊技機としてパチスロを例に挙げ、図面を参照しながら、その構成及び動作について説明する。なお、本実施形態では、ボーナス作動機能及び A R T 機能を備えたパチスロについて説明する。

20

【0 0 1 2】

<機能フロー>

まず、図 1 を参照して、パチスロの機能フローについて説明する。本実施形態のパチスロでは、遊技を行うための遊技媒体としてメダルを用いる。なお、遊技媒体としては、メダル以外にも、例えば、コイン、遊技球、遊技用のポイントデータ又はトークン等を適用することもできる。

【0 0 1 3】

遊技者によりパチスロにメダルが投入され、スタートレバーが操作されると、予め定められた数値範囲（例えば、0 ~ 6 5 5 3 5）の乱数から 1 つの値（以下、乱数値という）が抽出される。

30

【0 0 1 4】

内部抽籤手段は、抽出された乱数値に基づいて抽籤を行い、内部当籤役を決定する。この内部抽籤手段は、後述の主制御回路が備える各種処理手段（処理機能）の一つである。内部当籤役の決定により、後述の有効ライン（入賞判定ライン）に沿って表示を行うことを許可する図柄の組合せが決定される。なお、図柄の組合せの種別としては、メダルの払い出し、再遊技（リプレイ）の作動、ボーナスの作動等といった特典が遊技者に与えられる「入賞」に係るものと、それ以外のいわゆる「はずれ」に係るものとが設けられる。なお、以下では、メダルの払い出しに係る役を「小役」と称し、再遊技（リプレイ）の作動に係る役を「リプレイ役」と称する。また、ボーナスの作動（ボーナスゲーム）に係る役を「ボーナス役」ともいう。

40

【0 0 1 5】

また、スタートレバーが操作されると、複数のリールの回転が行われる。その後、遊技者により所定のリールに対応するストップボタンが押されると、リール停止制御手段は、内部当籤役とストップボタンが押されたタイミングとに基づいて、該当するリールの回転を停止する制御を行う。このリール停止制御手段は、後述の主制御回路が備える各種処理手段（処理機能）の一つである。

【0 0 1 6】

パチスロでは、基本的に、ストップボタンが押されたときから規定時間（1 9 0 m s e c）内に、該当するリールの回転を停止する制御が行われる。本実施形態では、この規定時間内にリールの回転に伴って移動する図柄の数を「滑り駒数」という。そして、本実施

50

形態では、規定期間が190 msecである場合には、滑り駒数の最大数（最大滑り駒数）を図柄4個分に定める。

【0017】

リール停止制御手段は、入賞に係る図柄の組合せ表示を許可する内部当籤役が決定されているときは、通常、190 msec（図柄4駒分）の規定時間内に、その図柄の組合せが有効ラインに沿って極力表示されるようにリールの回転を停止させる。また、リール停止制御手段は、規定時間を利用して、内部当籤役によってその表示が許可されていない図柄の組合せが有効ラインに沿って表示されないようにリールの回転を停止させる。

【0018】

このようにして、複数のリールの回転がすべて停止されると、入賞判定手段は、有効ラインに沿って表示された図柄の組合せが、入賞に係るものであるか否かの判定を行う。この入賞判定手段もまた、後述の主制御回路が備える各種処理手段（処理機能）の一つである。そして、表示された図柄の組合せが、入賞判定手段により入賞に係るものであると判定されると、メダルの払い出し等の特典が遊技者に与えられる。パチスロでは、以上のようない連の流れが1回の遊技（単位遊技）として行われる。

10

【0019】

また、パチスロでは、前述しい連の遊技動作の流れの中で、表示装置などによる映像の表示、各種ランプによる光の出力、スピーカによる音の出力、或いは、これらの組合せを利用して様々な演出が行われる。

【0020】

具体的には、スタートレバーが操作されると、上述しい内部当籤役の決定に用いられた乱数値とは別に、演出用の乱数値が抽出される。演出用の乱数値が抽出されると、演出内容決定手段は、内部当籤役に対応づけられた複数種類の演出内容の中から今回実行する演出を抽籤により決定する。この演出内容決定手段は、後述の副制御回路が備える各種処理手段（処理機能）の一つである。

20

【0021】

次いで、演出内容決定手段により演出内容が決定されると、演出実行手段は、リールの回転開始時、各リールの回転停止時、入賞の有無の判定時等の各契機に連動させて対応する演出を実行する。このように、パチスロでは、例えば、内部当籤役に対応づけられた演出内容を実行することによって、決定された内部当籤役（言い換えると、狙うべき図柄の組合せ）を知る機会又は予想する機会が遊技者に提供され、遊技者の興味の向上を図ることができる。

30

【0022】

<パチスロの構造>

次に、図2～図4を参照して、本発明の一実施形態に係るパチスロの構造について説明する。

【0023】

[外観構造]

図2は、パチスロ1の外部構造を示す斜視図である。

【0024】

パチスロ1は、図2に示すように、外装体（遊技機本体）2を備える。外装体2は、リールや回路基板等を収容するキャビネット2aと、キャビネット2aの開口を開閉可能に取り付けられるフロントドア2bとを有する。

40

【0025】

キャビネット2aの内部には、3つのリール3L、3C、3R（変動表示手段、表示列）が横一列に並べて設けられている。以下、各リール3L、3C、3R（メインリール）を、それぞれ左リール3L、中リール3C、右リール3Rともいう。各リール3L、3C、3Rは、円筒状に形成されたリール本体と、リール本体の周面に装着された透光性のシート材を有する。そして、シート材の表面には、複数（例えば20個）の図柄が周方向（リールの回転方向）に沿って所定の間隔をあけて描かれている。

50

【 0 0 2 6 】

フロントドア 2 b は、ドア本体 9 と、フロントパネル 1 0 と、腰部パネル 1 2 と、台座部 1 3 とを備える。ドア本体 9 は、ヒンジ（不図示）を用いてキャビネット 2 a に開閉可能に取り付けられる。ヒンジは、パチスロ 1 の前方側（遊技者側）から見て、ドア本体 9 の左側の側端部に設けられる。

【 0 0 2 7 】

フロントパネル 1 0 は、ドア本体 9 の上部に設けられている。このフロントパネル 1 0 は、開口 1 0 a を有する枠状部材で構成される。フロントパネル 1 0 の開口 1 0 a は、表示装置カバー 3 0 によって塞がれ、表示装置カバー 3 0 は、キャビネット 2 a の内部に配置された後述の表示装置 1 1 と対向して配置される。

10

【 0 0 2 8 】

表示装置カバー 3 0 は、黒色の半透明な合成樹脂により形成される。それゆえ、遊技者は、後述の表示装置 1 1 により表示された映像（画像）を、表示装置カバー 3 0 を介して視認することができる。また、本実施形態では、表示装置カバー 3 0 を黒色の半透明な合成樹脂で形成することにより、キャビネット 2 a 内への外光の入り込みを抑制して、表示装置 1 1 により表示された映像（画像）を鮮明に視認できるようにしている。

【 0 0 2 9 】

フロントパネル 1 0 には、ランプ群 2 1 が設けられている。ランプ群 2 1 は、例えば、遊技者側から見て、フロントパネル 1 0 の上部に設けられたランプ 2 1 a、2 1 b を含む。ランプ群 2 1 を構成する各ランプは、L E D（Light Emitting Diode）等で構成され（後述の図 7 中の L E D 群 8 5 参照）、演出内容に対応するパターンで、光を点灯及び消灯する。

20

【 0 0 3 0 】

腰部パネル 1 2 は、ドア本体 9 の略中央部に設けられる。腰部パネル 1 2 は、任意の画像が描かれた装飾パネルと、この装飾パネルを背面側から照明するための光を出射する光源（後述の L E D 群 8 5 に含まれる L E D）とを有する。

【 0 0 3 1 】

台座部 1 3 は、フロントパネル 1 0 と腰部パネル 1 2 との間に設けられる。台座部 1 3 には、図柄表示領域 4 と、遊技者による操作の対象となる各種装置（メダル投入口 1 4、MAXベットボタン 1 5 a、1ベットボタン 1 5 b、スタートレバー 1 6、3つのストップボタン 1 7 L、1 7 C、1 7 R、精算ボタン（不図示）等）とが設けられる。

30

【 0 0 3 2 】

図柄表示領域 4 は、正面から見て、3つのリール 3 L、3 C、3 R に重畳する領域で、かつ、3つのリール 3 L、3 C、3 R より遊技者側の位置に配置されており、3つのリール 3 L、3 C、3 R を視認可能にするサイズを有する。この図柄表示領域 4 は、表示窓としての機能を果たすものであり、その背後に設けられた各リール 3 L、3 C、3 R を視認することが可能な構成になっている。以下、図柄表示領域 4 を、リール表示窓 4 という。

【 0 0 3 3 】

リール表示窓 4 は、その背後に設けられた3つのリール 3 L、3 C、3 R の回転が停止されたとき、各リールの周面に設けられた複数の図柄のうち、連続して配置された3つの図柄がその枠内に表示されるように構成されている。すなわち、3つのリール 3 L、3 C、3 R の回転が停止されたとき、リール表示窓 4 の枠内には、リール毎に上段、中段及び下段の各領域にそれぞれ1個の図柄（合計で3個）が表示される（リール表示窓 4 の枠内には、3行×3列の態様で図柄が表示される）。そして、本実施形態では、リール表示窓 4 の枠内において、左リール 3 L の中段領域、中リール 3 C の中段領域、及び、右リール 3 R の中段領域を結ぶ擬似的なライン（センターライン）を、入賞か否かの判定を行う有効ラインとして定義する。

40

【 0 0 3 4 】

リール表示窓 4 は、台座部 1 3 に設けられた枠部材 3 1 の開口により形成される。また、リール表示窓 4 を画成する枠部材 3 1 の下方には、略水平面の台座領域が設けられる。

50

そして、遊技者側から見て、台座領域の右側にはメダル投入口14が設けられ、左側にはMAXベットボタン15a及び1ベットボタン15bが設けられる。

【0035】

メダル投入口14は、遊技者によって外部からパチスロ1に投下されるメダルを受け入れるために設けられる。メダル投入口14から受け入れられたメダルは、予め設定された所定枚数（例えば3枚）を上限として1回の遊技に使用され、所定枚数を越えたメダルの枚数分は、パチスロ1の内部に預けることができる（いわゆるクレジット機能（遊技媒体貯留手段））。

【0036】

MAXベットボタン15a及び1ベットボタン15bは、キャビネット2aの内部に預けられているメダルから1回の遊技に使用する枚数を決定するために設けられる。なお、MAXベットボタン15aの内部には、メダル投入が可能時に点灯するベットボタンLED（不図示）が設けられている。また、精算ボタンは、パチスロ1の内部に預けられているメダルを外部に引き出す（排出する）ために設けられる。

10

【0037】

なお、遊技者がMAXベットボタン15aを押下操作すると、単位遊技のベット枚数（3枚）のメダルが投入され、有効ラインが有効化される。一方、1ベットボタン15bが1回、押下操作される度に1枚のメダルが投入される。1ベットボタン15bが3回操作されると、単位遊技のベット枚数（3枚）のメダルが投入され、有効ラインが有効化される。

20

【0038】

なお、以下では、MAXベットボタン15aの操作、1ベットボタン15bの操作及びメダル投入口14にメダルを投入する操作（遊技を行うためにメダルを投入する操作）をいずれも「投入操作」という。

【0039】

スタートレバー16は、全てのリール（3L、3C、3R）の回転を開始するために設けられる。ストップボタン17L、17C、17Rは、それぞれ、左リール3L、中リール3C、右リール3Rに対応づけて設けられ、各ストップボタンは対応するリールの回転を停止するために設けられる。以下、ストップボタン17L、17C、17Rを、それぞれ左ストップボタン17L、中ストップボタン17C、右ストップボタン17Rともいう。

30

【0040】

また、リール表示窓4の下方の略水平面の台座領域の略中央には、情報表示器6が設けられる。なお、情報表示器6は、透明の窓カバー（不図示）によって覆われている。

【0041】

情報表示器6には、特典として遊技者に対して払い出されるメダルの枚数（以下、「払出枚数」という）の情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための2桁の7セグメントLED（以下、「7セグLED」という）や、パチスロ1の内部に預けられているメダルの枚数（以下、「クレジット枚数」という）などの情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための2桁の7セグLEDが設けられる。なお、本実施形態では、メダルの払出枚数表示用の2桁の7セグLEDは、エラー発生及びエラー種別の情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための2桁の7セグLEDとしても用いられる。それゆえ、エラー発生時には、メダルの払出枚数表示用の2桁の7セグLEDの表示態様は、払出枚数の表示態様からエラー種別の情報の表示態様に切り替わる。

40

【0042】

さらに、情報表示器6には、内部当籤役として決定された役に応じた図柄組合せを有効ラインに沿って表示するために必要な停止操作の情報を報知する指示モニタ（不図示）が設けられている。指示モニタ（指示表示器）は、例えば、2桁の7セグメントLEDにより構成される。そして、指示モニタでは、報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様で、2桁の7セグLEDが点灯、点滅又は消灯することにより、遊技者に対して必要な停止操作の情報を報知する。

50

【 0 0 4 3 】

なお、ここでいう、報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様とは、例えば、押し順「1st（第1停止操作を左リール3Lに対して行うこと）」を報知する場合には指示モニタに数値「1」を表示し、押し順「2nd（第1停止操作を中リール3Cに対して行うこと）」を報知する場合には指示モニタに数値「2」を表示し、押し順「3rd（第1停止操作を右リール3Rに対して行うこと）」を報知する場合には指示モニタに数値「3」を表示するなどの態様のことである。なお、指示モニタにおける停止操作の情報の報知態様（後述のメイン側で決定されるナビデータ）については、後述の図63を参照しながら後で詳述する。

【 0 0 4 4 】

情報表示器6は、後述の図7に示すように、ドア中継端子板68及び遊技動作表示基板81を介して主制御基板71に電氣的に接続され、情報表示器6の表示動作は、主制御基板71内の後述の主制御回路90により制御される。また、上述した各種7セグLEDの制御方式は、ダイナミック点灯制御である。

【 0 0 4 5 】

なお、本実施形態のパチスロ1では、主制御基板71により制御される指示モニタに加えて、副制御基板72により制御される他の手段を用いて停止操作の情報を報知する構成を設ける。具体的には、後述のプロジェクタ機構211及び表示ユニット212（図3及び後述の図7参照）により構成される後述の表示装置11により停止操作の情報を報知する。

【 0 0 4 6 】

このような構成を適用した場合、指示モニタにおける報知の態様と、副制御基板72により制御されるその他の手段における報知の態様とは、互いに異なる態様であってもよい。すなわち、指示モニタでは、報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様で報知すればよく、必ずしも、停止操作の情報を直接的に報知する必要はない（例えば、指示モニタにおいて数値「1」が表示されたとしても、遊技者によっては報知内容を特定できない可能性もあり、直接的な報知とは言えない）。一方、後述の表示装置11等のその他の手段によるサブ側（副制御基板側）での報知では、停止操作の情報を直接的に報知してもよい。例えば、押し順「1st」を報知する場合、指示モニタでは報知する押し順と一義的に対応する数値「1」を表示するが、その他の手段（例えば、表示装置11等）では、左リール3Lに対して第1停止操作を行わせるための指示情報を直接的に報知してもよい。

【 0 0 4 7 】

このような構成のパチスロ1では、副制御基板72の制御だけでなく、主制御基板71の制御によっても、内部当籤役に応じた必要な停止操作の情報を報知することができる。また、このような停止操作の情報の報知の有無は、遊技状態に応じて制御されるようにしてもよい。例えば、後述の一般遊技状態（非ART遊技状態）では停止操作の情報を報知せずに、後述のART遊技状態（後述の図14参照）において停止操作の情報を報知するようにしてもよい。

【 0 0 4 8 】

また、遊技者側から見て、リール表示窓4の左方には、サブ表示装置18が設けられる。サブ表示装置18は、図2に示すように、ドア本体9の前面部のうち、台座部13の略水平面の台座領域から略垂直に立設するように設けられる。サブ表示装置18は、液晶ディスプレイや有機EL（Electro-Luminescence）ディスプレイで構成され、各種情報を表示する。

【 0 0 4 9 】

また、サブ表示装置18の表示面上には、タッチセンサ19が設けられている（後述の図7参照）。タッチセンサ19は、静電容量方式などの所定の動作原理に従い動作し、遊技者の操作を受け付けると、タッチ入力情報として当該操作に応じた信号を出力する。そして、本実施形態のパチスロ1は、タッチセンサ19を介して受け付けた遊技者の操作（タッチセンサ19から出力されるタッチ入力情報）に応じて、サブ表示装置18の表示を

10

20

30

40

50

切り替え可能にする機能を有する。なお、サブ表示装置 18 は、タッチセンサ 19 から出力されるタッチ入力情報に基づいて後述の副制御基板 72（後述の図 7 参照）により制御される。

【0050】

ドア本体 9 の下部には、メダル払出口 24、メダル受皿 25、2つのスピーカ用孔 20L、20R等が設けられる。メダル払出口 24は、後述のメダル払出装置 51の駆動により排出されるメダルを外部に導く。メダル受皿 25は、メダル払出口 24から排出されたメダルを貯める。また、2つのスピーカ用孔 20L、20Rからは、演出内容に対応する効果音や楽曲等の音声が出力される。

【0051】

[内部構造]

次に、パチスロ 1 の内部構造を、図 3 及び図 4 を参照しながら説明する。図 3 は、キャビネット 2 a の内部構造を示す図であり、図 4 は、フロントドア 2 b の裏面側の内部構造を示す図である。

【0052】

キャビネット 2 a は、図 3 に示すように、上面板 27 a と、底面板 27 b と、左右の側面板 27 c、27 d と、背面板 27 e とを有する。そして、キャビネット 2 a 内の上部には、表示装置 11 が配設される。

【0053】

表示装置 11 は、プロジェクタ機構 211 と、プロジェクタ機構 211 から投射された映像光が投影される箱状の被投影部材 212 a とを有し、プロジェクションマッピングによる映像表示を行う。具体的には、表示装置 11 では、立体物となる被投影部材 212 a の位置（投影距離や角度など）や形状に基づいて映像光を生成し、その映像光が、プロジェクタ機構 211 により被投影部材 212 a の表面に投影される。このような演出機能を設けることにより、高度で且つ迫力のある演出を行うことができる。また、図 3 には示さないが、箱状の被投影部材 212 a の裏側には、表示面が湾曲した別の被投影部材が設けられ、遊技状態に応じて、どちらか一方の被投影部材が、映像光が投影されるスクリーンとして使用される。それゆえ、キャビネット 2 a 内は、遊技状態に応じて、被投影部材を切り換える機能（不図示）も設けられる。

【0054】

キャビネット 2 a 内の下部には、メダル払出装置（以下、ホッパー装置という）51 と、メダル補助収納庫 52 と、電源装置 53 とが配設される。

【0055】

ホッパー装置 51 は、キャビネット 2 a における底面板 27 b の中央部に取り付けられる。このホッパー装置 51 は、多量のメダルを収容可能で、それらを 1 枚ずつ排出可能な構造を有する。ホッパー装置 51 は、貯留されたメダルが例えば 50 枚を超えたとき、又は、精算ボタンが押下されてメダルの精算が実行されるときに、メダルを払い出す。そして、ホッパー装置 51 によって払い出されたメダルは、メダル払出口 24（図 2 参照）から排出される。

【0056】

メダル補助収納庫 52 は、ホッパー装置 51 から溢れ出たメダルを収納する。このメダル補助収納庫 52 は、キャビネット 2 a 内部を正面から見て、ホッパー装置 51 の右側に配置される。また、メダル補助収納庫 52 は、キャビネット 2 a の底面板 27 b に対して着脱可能に取り付けられている。

【0057】

電源装置 53 は、電源スイッチ 53 a と、電源基板 53 b（電源供給手段）とを有している（後述の図 7 参照）。この電源装置 53 は、キャビネット 2 a 内部を正面から見て、ホッパー装置 51 の左側に配置されており、左側面板 27 c に取り付けられている。電源装置 53 は、サブ電源装置（不図示）から供給された交流電圧 100 V の電力を各部で必要な直流電圧の電力に変換して、変換した電力を各部へ供給する。

10

20

30

40

50

【 0 0 5 8 】

また、キャビネット 2 a 内の電源装置 5 3 の上方には、副制御基板 7 2（後述の図 7 参照）を収容する副制御基板ケース 5 7 が配設される。副制御基板ケース 5 7 に収納された副制御基板 7 2 には、後述の副制御回路 2 0 0（後述の図 1 0 参照）が搭載されている。この副制御回路 2 0 0 は、映像の表示等による演出の実行を制御する回路である。副制御回路 2 0 0 の具体的な構成については後述する。

【 0 0 5 9 】

キャビネット 2 a 内の副制御基板ケース 5 7 の上方には、副中継基板 6 1 が配設される。この副中継基板 6 1 は、副制御基板 7 2 と後述の主制御基板 7 1 とを接続する配線が実装された中継基板である。また、副中継基板 6 1 は、副制御基板 7 2 と副制御基板 7 2 の周辺に配設された基板や各種装置部（ユニット）などを接続する配線が実装された中継基板である。

10

【 0 0 6 0 】

また、図 3 には示さないが、キャビネット 2 a 内には、キャビネット側中継基板 4 4（後述の図 7 参照）が配設される。このキャビネット側中継基板 4 4 は、主制御基板 7 1（後述の図 7 参照）と、ホッパー装置 5 1、遊技メダル補助収納庫スイッチ 7 7（後述の図 7 参照）及びメダル払出カウントスイッチ（不図示）のそれぞれとを接続する配線が実装された中継基板である。

【 0 0 6 1 】

フロントドア 2 b の裏面側の中央部には、図 4 に示すように、ミドルドア 4 1 が、配設され、リール表示窓 4（図 2 参照）を裏側から開閉可能に取り付けられている。また、図 4 には示さないが、ミドルドア 4 1 のリール表示窓 4 側には、3 つのリール 3 L, 3 C, 3 R が取り付けられ、ミドルドア 4 1 のリール表示窓 4 側とは反対側には、主制御基板 7 1（後述の図 7 参照）が収納された主制御基板ケース 5 5 が取り付けられている。なお、3 つのリール 3 L, 3 C, 3 R には、所定の減速比をもったギアを介してステッピングモータ（不図示）が接続されている。

20

【 0 0 6 2 】

主制御基板ケース 5 5 に収納された主制御基板 7 1 は、後述する主制御回路 9 0（後述の図 9 参照）を有する。主制御回路 9 0（主制御手段）は、内部当籤役の決定、各リール 3 L, 3 C, 3 R の回転及び停止、入賞の有無の判定といった、パチスロ 1 における遊技の主な流れを制御する回路である。また、本実施形態では、例えば、ART の決定の有無の抽籤処理、ナビ情報の指示モニタへの表示処理、各種試験信号の送信処理などの制御も主制御回路 9 0 により行われる。なお、主制御回路 9 0 の具体的な構成は後述する。

30

【 0 0 6 3 】

フロントドア 2 b の裏面側において、ミドルドア 4 1 の下方には、スピーカ 6 5 L, 6 5 R が配設される。スピーカ 6 5 L, 6 5 R は、それぞれスピーカ用孔 2 0 L, 2 0 R（図 2 参照）と対向する位置に配置されている。

【 0 0 6 4 】

また、スピーカ 6 5 L の上方には、セレクトア 6 6 と、ドア開閉監視スイッチ 6 7 とが配設される。セレクトア 6 6 は、メダルの材質や形状等が適正であるか否かを選別する装置であり、メダル投入口 1 4 に投入された適正なメダルをホッパー装置 5 1 へ案内する。セレクトア 6 6 内においてメダルが通過する経路上には、適正なメダルが通過したことを検出するメダルセンサ（遊技媒体検出手段：不図示）が設けられている。

40

【 0 0 6 5 】

ドア開閉監視スイッチ 6 7 は、フロントドア 2 b を裏面側から見て、セレクトア 6 6 の左斜め下に配置される。このドア開閉監視スイッチ 6 7 は、フロントドア 2 b の開閉を報知するためのセキュリティ信号をパチスロ 1 の外部に出力する。

【 0 0 6 6 】

また、図 4 には示さないが、フロントドア 2 b を裏面において、ミドルドア 4 1 により開閉された領域であり且つリール表示窓 4 の下方には、ドア中継端子板 6 8 が配設される

50

(後述の図7参照)。このドア中継端子板68は、主制御基板ケース55内の主制御基板71と、各種のボタンやスイッチ、副中継基板61、セレクタ66、遊技動作表示基板81、試験機用第1インターフェースボード301及び試験機用第2インターフェースボード302のそれぞれとを接続する配線が実装された中継基板である。なお、各種のボタン及びスイッチとしては、例えば、MAXベットボタン15a、1ベットボタン15b、ドア開閉監視スイッチ67、後述のBETスイッチ77、スタートスイッチ79等が挙げられる。

【0067】

<サブ表示装置の表示例>

ここで、図5A～図5Eを参照して、サブ表示装置18に表示される各種表示画面について説明する。なお、図5Aは、サブ表示装置18に表示されるトップ画面221を示す図であり、図5Bは、サブ表示装置18に表示されるメニュー画面222を示す図である。また、図5C～図5Eは、サブ表示装置18に表示される遊技情報画面223, 224, 225を示す図である。

10

【0068】

サブ表示装置18には、遊技者のタッチ操作により様々な表示画面が表示され、図5A～図5Eに示すように、トップ画面221、メニュー画面222及び遊技情報画面223, 224, 225を含む各種表示画面が表示される。これらの表示画面は、タッチセンサ19を介して受け付けた遊技者の操作信号に基づいて切り替えられる。

【0069】

トップ画面221は、サブ表示装置18に表示される表示画面のうちの初期画面であり、トップ画面221では、「MENU」ボタン221aと、概要遊技履歴221bとが表示される。「MENU」ボタン221aは、図5Bに示すメニュー画面222を呼び出すための操作ボタンであり、「MENU」ボタン221aに対して遊技者による所定操作(例えばタップ)が行われると、メニュー画面222が呼び出される。また、トップ画面221では、概要遊技履歴221bとして、パチスロ1の一部の遊技履歴(概要遊技履歴)を表示する。本実施形態では、概要遊技履歴221bとして、例えば、ボーナス回数、ART回数及びゲーム数(遊技回数)が表示される。

20

【0070】

メニュー画面222は、サブ表示装置18で表示可能なメニューを表示する画面であり、メニュー画面222では、「戻る」ボタン222a、「登録」ボタン222b、「説明」ボタン222c、「配列配当」ボタン222d、「リーチ目」ボタン222e、「WEBサイト」ボタン222f及び「音量」ボタン222gが表示される。「戻る」ボタン222aは、トップ画面221を呼び出すための操作ボタンであり、「戻る」ボタン222aに対して遊技者による操作が行われると、トップ画面221が呼び出される。また、「登録」ボタン222b～「音量」ボタン222gは、対応するメニュー内容の表示画面を呼び出すための操作ボタンであり、各ボタンに対して遊技者による操作が行われると、対応するメニュー内容の表示画面が呼び出される。

30

【0071】

例えば、メニュー画面222において「登録」ボタン222bが遊技者により操作された場合、遊技中の遊技者を登録するための登録画面(不図示)がサブ表示装置18の表示画面に呼び出される。近年のパチスロでは、機種ごとに遊技者を登録しておき、当該遊技者のこれまでの遊技履歴から、定められたミッションの達成状況などの様々な情報を管理するサービスが広く行われている。「登録」ボタン222bにより呼び出される登録画面は、このサービスの提供を受ける際に遊技者を登録するための表示画面である。

40

【0072】

また、例えば、メニュー画面222において「説明」ボタン222cが遊技者により操作された場合、パチスロ1の説明画面(不図示)がサブ表示装置18の表示画面に呼び出される。説明画面で表示される情報には、例えば、設定値ごとのボーナス当籤確率やART当籤確率などのパチスロ1の仕様に関する説明や、パチスロ1の演出に登場するキャラ

50

クタの紹介説明などが含まれる。

【0073】

また、例えば、メニュー画面222において「配列配当」ボタン222dが遊技者により操作された場合、パチスロ1の配列配当画面（不図示）がサブ表示装置18の表示画面に呼び出される。配列配当画面には、例えば、パチスロ1において入賞と判定される図柄の組合せと、入賞と判定された際の特典との対応関係（配当表）や、各リール3L, 3C, 3Rに描かれた図柄列（リール配列）などが表示される。

【0074】

また、例えば、メニュー画面222において「リーチ目」ボタン222eが遊技者により操作された場合、パチスロ1のリーチ目画面（不図示）がサブ表示装置18の表示画面に呼び出される。リーチ目画面には、パチスロ1で設定されている「リーチ目」と称される図柄組合せがの情報が表示される。なお、「リーチ目」と称する図柄組合せは、該図柄組合せが有効ラインに沿って表示されることにより、特別な特典が付与される図柄組合せであり、本実施形態のパチスロ1では、後述の図28～図30の入賞作動フラグ格納領域の内容欄に示す略称「リーチ目リブ」に対応する図柄組合せが該当する。そして、本実施形態では、「リーチ目リブ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示された場合、その後、遊技者にとって有利な状態（例えば、ボーナス状態、通常ART又はCT（後述の図14参照））に移行することが確定する。

10

【0075】

また、例えば、メニュー画面222において「WEBサイト」ボタン222fが遊技者により操作された場合、パチスロ1のWEB紹介画面（不図示）がサブ表示装置18の表示画面に呼び出される。WEB紹介画面には、例えば、パチスロ1の機種ごとに設けられた特設WEBサイトやパチスロ1のメーカーのWEBサイトなど任意のWEBサイトのURLを示す二次元コード（例えば、QRコード（登録商標））が表示される。遊技者は、携帯電話などでWEB紹介画面に表示される二次元コードを読み込むことにより、対応するWEBサイトにアクセスすることができる。

20

【0076】

また、例えば、メニュー画面222において「音量」ボタン222gが遊技者により操作された場合、スピーカ65L, 65Rから出力する音の音量を調整することが可能な音量調整画面（不図示）がサブ表示装置18の表示画面に呼び出される。遊技者は、音量調整画面を介してパチスロ1の演出音の音量を調整することができる。

30

【0077】

なお、サブ表示装置18は、上述した表示装置11（プロジェクタ機構211及び表示ユニット212）とは別体に設けられるため、表示装置11とは別個に制御することができる。それゆえ、本実施形態のパチスロ1では、遊技中（表示装置11による演出の実行中）であっても、サブ表示装置18の表示画面を遊技者の操作により切り替えることができる。その結果、例えば、遊技者が、表示装置11の演出において登場するキャラクターのことを知りたいと思った場合、遊技者は、「説明」ボタン222cを操作して説明画面を呼び出すことにより、キャラクター間の関係性などの情報を遊技中に把握することができる。また、例えば、遊技者が、遊技中に、いわゆる「レア役」が当籤した場合のリール回転中にレア役を入賞させるために目安とすべき図柄を把握したいと思った場合、遊技者は、「配列配当」ボタン222dを操作して配列配当画面を呼び出すことにより、リール配列を把握することができる。

40

【0078】

遊技情報画面223, 224, 225は、パチスロ1の遊技履歴のうちのトップ画面221に表示する概要遊技履歴を含む詳細遊技履歴情報を表示する表示画面である。

【0079】

遊技情報画面223には、「戻る」ボタン223aと、「MENU」ボタン223bと、「前へ」ボタン223cと、「次へ」ボタン223dと、遊技履歴223eとが表示される。「戻る」ボタン223a及び「MENU」ボタン223bは、それぞれトップ画面

50

221及びメニュー画面222をサブ表示装置18の表示画面に呼び出すための操作ボタンであり、各ボタンを遊技者が操作することにより、対応する表示画面が呼び出される。また、「前へ」ボタン223c及び「次へ」ボタン223dは、遊技情報画面を所定の順序で切り替えるための操作ボタンであり、「前へ」ボタン223cが遊技者により操作されると、表示画面が遊技情報画面223から遊技情報画面225に切り替わり、「次へ」ボタン223dが遊技者により操作されると、表示画面が遊技情報画面223から遊技情報画面224に切り替わる。また、遊技履歴223eとしては、図5Cに示すように、ゲーム数(遊技回数)、ボーナス回数、ART回数及びCZ(チャンスゾーン)回数が表示される。

【0080】

遊技情報画面224には、「戻る」ボタン224aと、「MENU」ボタン224bと、「前へ」ボタン224cと、「次へ」ボタン224dと、遊技履歴214eとが表示される。「戻る」ボタン224a及び「MENU」ボタン224bは、それぞれトップ画面221及びメニュー画面222をサブ表示装置18の表示画面に呼び出すための操作ボタンであり、各ボタンを遊技者が操作することにより、対応する表示画面が呼び出される。また、「前へ」ボタン224c及び「次へ」ボタン224dは、遊技情報画面を所定の順序で切り替える操作ボタンであり、「前へ」ボタン224cが遊技者に操作されると、表示画面が遊技情報画面224から遊技情報画面223に切り替わり、「次へ」ボタン224dが遊技者により操作されると、表示画面が遊技情報画面224から遊技情報画面225に切り替わる。また、遊技履歴224eとしては、後述のCZ(チャンスゾーン)の突入回数及び成功回数が表示される。なお、後述するように、本実施形態では、CZとして、CZ1,CZ2,CZ3の3種類のCZが設けられる。それゆえ、遊技履歴224eとしては、図5Dに示すように、CZ1~CZ3のそれぞれの突入回数及び成功回数が表示される。

【0081】

遊技情報画面225には、「戻る」ボタン225aと、「MENU」ボタン225bと、「前へ」ボタン225cと、「次へ」ボタン225dと、遊技履歴225eとが表示される。「戻る」ボタン225a及び「MENU」ボタン225bは、それぞれトップ画面221及びメニュー画面222をサブ表示装置18の表示画面に呼び出すための操作ボタンであり、各ボタンを遊技者が操作することにより、対応する表示画面が呼び出される。また、「前へ」ボタン225c及び「次へ」ボタン225dは、所定の順序で遊技情報画面を切り替えるための操作ボタンであり、「前へ」ボタン225cが遊技者に操作されると、表示画面が遊技情報画面225から遊技情報画面224に切り替わり、「次へ」ボタン225dが遊技者により操作されると、表示画面が遊技情報画面225から遊技情報画面223に切り替わる。また、遊技履歴225eとしては、図5Eに示すように、小役の当籤回数及び当籤確率(分子が1の分数)が表示される。

【0082】

なお、サブ表示装置18に表示される表示画面の切り替え手法としては、例えば、それぞれの表示画面に表示される操作ボタンに対するタップ操作に基づいて切り替える手法を採用してもよいし、また、例えば、表示画面に対するスワイプ操作に基づいて切り替える手法を採用してもよい。

【0083】

<サブ表示装置の表示画面の各種切り替え機能>

次に、本実施形態のパチスロ1におけるサブ表示装置18の表示画面の各種切り替え機能について説明する。

【0084】

[サブ表示装置の表示画面の遷移例]

まず、図6A及び6Bを参照して、本実施形態のパチスロ1におけるサブ表示装置18の表示画面の遷移例(切り替え態様)について説明する。なお、図6Aは、遊技者登録状態がセットされていない状況におけるサブ表示装置18の表示画面の遷移例を示す図であ

10

20

30

40

50

り、図6Bは、遊技者登録状態がセットされている状況におけるサブ表示装置18の表示画面の遷移例を示す図である。

【0085】

遊技者登録状態がセットされていない状況では、図6Aに示すように、サブ表示装置18の表示画面は、トップ画面221とメニュー画面222との間、並びに、メニュー画面222とメニュー画面222から遷移可能な各種表示画面との間でのみ遷移可能であり、これらの表示画面間の遷移は副制御基板72（後述のサブCPU201）により制御される。例えば、副制御基板72は、タッチセンサ19を介して取得したタッチ操作（例えば、所定のボタンに対するタップ操作や、表示画面上におけるスワイプ操作）に基づいて、トップ画面221及びメニュー画面222間で、表示画面を切り替える。しかしながら、遊技者登録状態がセットされていない状況では、副制御基板72は、遊技情報画面223、224、225の表示が不可能となるように制御する。すなわち、遊技者登録状態がセットされていない状況では、遊技者は、サブ表示装置18に遊技情報画面223、224、225を表示することができない。

10

【0086】

一方、遊技者登録状態がセットされている状況では、図6Bに示すように、サブ表示装置18の表示画面は、トップ画面221とメニュー画面222との間、並びに、メニュー画面222とメニュー画面222から遷移可能な各種表示画面との間に加え、メニュー画面222と遊技情報画面223、224、225との間においても遷移可能となり、これらの表示画面間の遷移は副制御基板72（後述のサブCPU201）により制御される。すなわち、副制御基板72は、タッチセンサ19を介して取得したタッチ操作に基づいて、トップ画面221とメニュー画面222との間だけでなく、トップ画面221及びメニュー画面222のそれぞれと、遊技情報画面223、224、225との間においても表示画面を切り替えることができる。それゆえ、本実施形態において、遊技者登録状態がセットされている場合、遊技者は、サブ表示装置18に遊技情報画面223、224、225を表示することができる。

20

【0087】

なお、図6Bに示すように、トップ画面221、メニュー画面222及び遊技情報画面223、224、225間における表示画面の遷移順序は任意である。それゆえ、例えば、トップ画面221から遊技情報画面223、224、225に直接遷移可能となる構成にしてもよいし、トップ画面221からメニュー画面222を介してのみ遊技情報画面223、224、225に遷移可能となる構成にしてもよい。

30

【0088】

本実施形態のパチスロ1では、トップ画面221からメニュー画面222を介してのみ遊技情報画面223、224、225に遷移可能な構成（トップ画面221から遊技情報画面223、224、225に直接遷移できない構成）を採用している。なお、本実施形態のパチスロ1では、メニュー画面222において、遊技者が表示画面に対してスワイプ操作（メニュー選択操作ではない）を行うことにより、表示画面をメニュー画面222から遊技情報画面223、224、225に遷移させることができる。

【0089】

なお、本実施形態では、遊技情報画面223、224、225は、メニュー画面222とは完全に独立して設けられた表示画面である。すなわち、本実施形態のパチスロ1では、遊技履歴という、遊技者が遊技中に強い関心を抱く遊技の結果を示す情報を、配当配列や音量調節などの遊技の結果とは関係のない情報として独立して表示する。そして、本実施形態では、遊技者登録状態がセットされている状況において、メニュー画面222に対して遊技者がメニュー選択操作を行うことなく、遊技情報画面223、224、225を表示可能にしている。それゆえ、本実施形態では、遊技者登録状態がセットされている場合、遊技者が所望する情遊技履歴情報へのアクセスを容易に行うことができる。

40

【0090】

また、本実施形態では、メニュー画面222に対するメニュー選択操作では、表示画面

50

を遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 に遷移させることができず、メニュー画面 2 2 2 に対してスワイプ操作（メニュー表示では指定されていない操作）を行わなければ、表示画面を遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 に遷移させることができない。それゆえ、本実施形態のパチスロ 1 では、表示画面を遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 に遷移させるためのスワイプ操作を、遊技者登録状態がセットされている状況における隠しコマンドとして扱うことができる。この場合、遊技者にとってみれば、パチスロ 1 に対する自身の知識により、知識の少ない他の遊技者では見ることで見ることができない、より詳細な遊技履歴情報を見ることができるため、当該他の遊技者よりも有利に遊技を行うことができ、結果、遊技者が積極的に遊技を行うことを期待することができる。

【 0 0 9 1 】

10

[遊技情報画面からトップ画面への表示切り替え機能]

本実施形態のパチスロ 1 は、サブ表示装置 1 8 の表示画面を、遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 から、遊技者の手動により、又は、自動的に、トップ画面 2 2 1 に遷移させる機能を有する。具体的には、本実施形態では、遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 において「戻る」ボタンが操作されると、表示画面が遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 からトップ画面 2 2 1 に遷移する（手動遷移機能）。また、本実施形態では、遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 が表示されている状態において所定の条件を満たした場合には、遊技者の操作とは関係なく自動的に表示画面がトップ画面 2 2 1 に遷移する（自動遷移機能）。

【 0 0 9 2 】

20

より具体的には、パチスロ 1 では、遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 が表示されている状態において、投入操作（MAXベットボタン 1 5 a への操作、1ベットボタン 1 5 b への操作及びメダル投入口 1 4 にメダルを投入する操作）が行われると、サブ表示装置 1 8 の表示画面が自動的にトップ画面 2 2 1 に遷移する。なお、ART遊技状態のように、リプレイ役が内部当籤役として決定される確率が高い遊技状態（高リプ状態）では、リプレイ役入賞に伴う再遊技の作動によりメダルが自動的に投入されてしまう結果、高リプ状態では、遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 を表示する機会が制限されてしまう可能性がある。そこで、本実施形態のパチスロ 1 では、再遊技の作動によりメダルが自動的に投入された場合には、メダルの投入操作ではなく、開始操作を契機として、自動的に表示画面が遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 からトップ画面 2 2 1 に遷移する。

30

【 0 0 9 3 】

すなわち、本実施形態では、再遊技が作動し、かつ、遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 が表示されている場合には、開始操作を契機として、自動的に表示画面が遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 からトップ画面 2 2 1 に遷移する。一方、再遊技の作動が行われていない場合には、投入操作を契機として、自動的に表示画面が遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 からトップ画面 2 2 1 に遷移する。

【 0 0 9 4 】

[メニュー内容表示画面からトップ画面（又はメニュー画面）への表示切り替え機能]

本実施形態のパチスロ 1 は、サブ表示装置 1 8 の表示画面を、メニュー画面 2 2 2 に対するメニュー選択操作により遷移可能な各種メニュー内容表示画面（登録画面、説明画面、配列配当画面、リーチ目画面、WEB紹介画面及び音量調整画面）から、遊技者の手動により、又は、自動的に、トップ画面 2 2 1（又はメニュー画面 2 2 2）に遷移させる機能を有する。具体的には、本実施形態では、メニュー内容表示画面において所定のボタン（例えば、「TOPへ戻る」ボタン）が操作されると、表示画面が当該メニュー内容表示画面からトップ画面 2 2 1 に遷移する（手動遷移機能）。また、本実施形態では、メニュー内容表示画面において特定のボタン（例えば、「戻る」ボタン）が操作されると、表示画面が当該メニュー内容表示画面からメニュー画面 2 2 2 に表示画面を遷移する（手動遷移機能）。

40

【 0 0 9 5 】

さらに、本実施形態では、メニュー内容表示画面が表示されている状態において所定の

50

時間が経過すると、遊技者の操作とは関係なく、自動的に表示画面がトップ画面 2 2 1 (又はメニュー画面 2 2 2) に遷移する (自動遷移機能)。なお、この際、トップ画面 2 2 1 (又はメニュー画面 2 2 2) に自動遷移する契機となる所定の時間は、現在表示しているメニュー内容表示画面の種類に応じて異なる。例えば、パチスロ 1 から出力する音量の調整を行う音量調整画面を長時間表示していると、音量が誤操作により意図しない音量に調整されてしまうおそれがあるだけでなく、誤操作により他の遊技者を不快にしまうおそれもある。それゆえ、音量調整画面では、他のメニュー内容表示画面よりも短い時間で、自動的にトップ画面 2 2 1 (又はメニュー画面 2 2 2) に遷移するように設定されている。一方、登録画面は、遊技者の登録を行い易くするために、他のメニュー内容表示画面よりも長い時間で、自動的にトップ画面 2 2 1 (又はメニュー画面 2 2 2) に遷移する

10

【 0 0 9 6 】

すなわち、各メニュー内容表示画面には、トップ画面 2 2 1 (又はメニュー画面 2 2 2) に自動遷移する契機となる経過時間 (自動遷移時間) が、当該メニュー内容表示画面の種類に応じて適宜設定されており、音量調整画面には、他のメニュー内容表示画面よりも短い自動遷移時間が設定され、登録画面には、他のメニュー内容表示画面よりも長い自動遷移時間が設定されている。

【 0 0 9 7 】

[メニューの操作可否の選択機能]

本実施形態のパチスロ 1 では、サブ表示装置 1 8 の表示画面を、メニュー画面 2 2 2 から、登録画面、説明画面、配列配当画面、リーチ目画面、WEB 紹介画面及び音量調整画面に遷移させることにより、遊技者が、これらのメニュー内容表示画面に応じた各種操作を行うことができ、また、各種情報を確認することができる。なお、このような遊技者がメニュー選択できる機能を遊技店側の設定に応じて制限できるような機能 (メニューの操作可否の選択機能) を設けてもよい。

20

【 0 0 9 8 】

例えば、遊技店側の設定により、表示画面をメニュー画面 2 2 2 から音量調節画面に遷移不可能にする (例えば、メニュー画面 2 2 2 に「音量」ボタン 2 2 2 g を表示しない) ようにしてもよい。この場合、遊技者による音量調節を不可能にすることができる。

【 0 0 9 9 】

< パチスロが備える制御系 >

次に、パチスロ 1 が備える制御系について、図 7 を参照して説明する。図 7 は、パチスロ 1 の制御系の構成を示す回路ブロック図である。

30

【 0 1 0 0 】

パチスロ 1 は、ミドルドア 4 1 に設けられた主制御基板 7 1 と、フロントドア 2 b に設けられた副制御基板 7 2 とを有する。また、パチスロ 1 は、主制御基板 7 1 に接続された、リール中継端子板 7 4、設定用鍵型スイッチ 5 4 (設定スイッチ) 及びキャビネット側中継基板 4 4 を有する。さらに、パチスロ 1 は、キャビネット側中継基板 4 4 を介して主制御基板 7 1 に接続された外部集中端子板 4 7、ホッパー装置 5 1、メダル補助収納庫スイッチ 7 5、リセットスイッチ 7 6 及び電源装置 5 3 を有する。なお、ホッパー装置 5 1 の構成については上述したので、ここでは、その説明を省略する。

40

【 0 1 0 1 】

リール中継端子板 7 4 は、各リール 3 L, 3 C, 3 R のリール本体の内側に配設されている。リール中継端子板 7 4 は、各リール 3 L, 3 C, 3 R のステッピングモータ (不図示) に電氣的に接続されており、主制御基板 7 1 からステッピングモータに出力される信号を中継する。

【 0 1 0 2 】

設定用鍵型スイッチ 5 4 は、主制御基板ケース 5 5 に設けられる。設定用鍵型スイッチ 5 4 は、パチスロ 1 の設定 (設定 1 ~ 設定 6) を変更するとき、若しくは、パチスロ 1 の設定を確認するとき使用される。

50

【 0 1 0 3 】

キャビネット側中継基板 4 4 は、主制御基板 7 1 と、外部集中端子板 4 7、ホッパー装置 5 1、メダル補助収納庫スイッチ 7 5、リセットスイッチ 7 6 及び電源装置 5 3 のそれぞれとを接続する配線が実装された中継基板である。外部集中端子板 4 7 は、メダル投入信号、メダル払出信号及びセキュリティ信号などの信号をパチスロ 1 の外部へ出力するために設けられる。メダル補助収納庫スイッチ 7 5 は、メダル補助収納庫 5 2 に設けられ、メダル補助収納庫 5 2 がメダルで満杯になっているか否かを検出する。リセットスイッチ 7 6 は、例えば、パチスロ 1 の設定を変更する際に用いられる。

【 0 1 0 4 】

電源装置 5 3 は、電源基板 5 3 b と、電源基板 5 3 b に接続された電源スイッチ 5 3 a とを有する。電源スイッチ 5 3 a は、パチスロ 1 に必要な電源を供給するときに押下される。電源基板 5 3 b は、キャビネット側中継基板 4 4 を介して主制御基板 7 1 に接続されるとともに、副中継基板 6 1 を介して副制御基板 7 2 にも接続される。

10

【 0 1 0 5 】

また、パチスロ 1 は、ドア中継端子板 6 8、並びに、該ドア中継端子板 6 8 を介して、主制御基板 7 1 に接続された、セレクト 6 6、ドア開閉監視スイッチ 6 7、B E T スイッチ 7 7、精算スイッチ 7 8、スタートスイッチ 7 9、ストップスイッチ基板 8 0、遊技動作表示基板 8 1、副中継基板 6 1、試験機用第 1 インターフェースボード 3 0 1 及び試験機用第 2 インターフェースボード 3 0 2 を有する。なお、セレクト 6 6、ドア開閉監視スイッチ 6 7 及び副中継基板 6 1 については、上述したので、ここでは、それらの説明を省略する。

20

【 0 1 0 6 】

B E T スイッチ 7 7 (投入操作検出手段) は、M A X ベットボタン 1 5 a 又は 1 ベットボタン 1 5 b が遊技者により押下されたことを検出する。精算スイッチ 7 8 は、精算ボタン (不図示) が遊技者により押下されたことを検出する。スタートスイッチ 7 9 (開始操作検出手段) は、スタートレバー 1 6 が遊技者により操作されたこと (開始操作) を検出する。

【 0 1 0 7 】

ストップスイッチ基板 8 0 (停止操作検出手段) は、回転しているメインリールを停止させるための回路と、停止可能なメインリールを L E D などにより表示するための回路とを備える。また、ストップスイッチ基板 8 0 には、ストップスイッチ (不図示) が設けられる。ストップスイッチは、各ストップボタン 1 7 L, 1 7 C, 1 7 R が遊技者により押下されたこと (停止操作) を検出する。

30

【 0 1 0 8 】

遊技動作表示基板 8 1 は、情報表示器 (7セグ表示器) 6 及び L E D 8 2 に接続される。L E D 8 2 には、例えば、今回の遊技に投入されたメダルの枚数 (以下、「投入枚数」という) に対応して点灯する、メダル投入枚数表示用の 3 つの L E D (以下、「第 1 L E D」~「第 3 L E D」という) や、遊技動作表示基板 8 1 から入力される信号に基づいて、メダル投入が可能であることを表示するマーク、遊技開始を表示するマーク、再遊技を行うマークなどを点灯させる L E D などが含まれる。第 1 L E D ~ 第 3 L E D (表示手段) では、メダルが 1 枚投入されると、第 1 L E D が点灯し、メダルが 2 枚投入されると、第 1 及び第 2 L E D が点灯し、メダルが 3 枚 (遊技開始可能枚数) 投入されると、第 1 L E D ~ 第 3 L E D が点灯する。なお、情報表示器 6 については、上述したので、ここでは、それらの説明を省略する。

40

【 0 1 0 9 】

試験機用第 1 インターフェースボード 3 0 1 及び試験機用第 2 インターフェースボード 3 0 2 はともに、パチスロ 1 の検定試験 (試射試験) において、遊技に関する各種信号を試験機に出力する際に用いられる中継基板である (なお、販売用のリリース製品としてのパチスロ 1 にはこれらの中継基板は搭載されていないので、販売用の主制御基板 7 1 の主制御回路 9 0 には、試験機用第 1 インターフェースボード 3 0 1 及び試験機用第 2 インタ

50

ーフェースボード 302 に接続するために必要な各種電子部品もまた実装されていない)。例えば、遊技に係る主要な動作(例えば、内部抽籤、リール停止制御等)を制御するための試験信号は、試験機用第1インターフェースボード 301 を介して出力され、例えば、主制御基板 71 で決定された押し順ナビに係る試験信号などは、試験機用第2インターフェースボード 302 を介して出力される。

【0110】

副制御基板 72 は、ドア中継端子板 68 及び副中継基板 61 を介して主制御基板 71 に接続される。また、パチスロ 1 は、副中継基板 61 を介して副制御基板 72 に接続された、スピーカ群 84、LED 群 85、24h ドア開閉監視ユニット 63、タッチセンサ 19 及び表示ユニット 212 を有する。なお、タッチセンサ 19 については、上述したので、ここでは、その説明を省略する。

10

【0111】

スピーカ群 84 は、スピーカ 65L、65R や図示しない各種スピーカを含んで構成される。LED 群 85 は、フロントパネル 10 に設けられたランプ群 21 や、腰部パネル 12 の装飾パネルを背面側から照明するための光を出射する光源などを含んで構成される。24h ドア開閉監視ユニット 63 は、ミドルドア 41 の開閉の履歴情報を保存する。また、24h ドア開閉監視ユニット 63 は、ミドルドア 41 が開放されたときに、表示装置 11 によりエラー表示を行うための信号を副制御基板 72 (副制御回路 200) に出力する。表示ユニット 212 は、例えば、表示装置 11 を構成する被投影部材 212a、及び、被投影部材 212a の裏側に設けられた表示面が湾曲した別の被投影部材を含んで構成される。

20

【0112】

また、パチスロ 1 は、副制御基板 72 に接続された、ロムカートリッジ基板 86 及び液晶中継基板 87 を有する。なお、ロムカートリッジ基板 86 及び液晶中継基板 87 は、副制御基板 72 とともに副制御基板ケース 57 に収納されている。

【0113】

ロムカートリッジ基板 86 は、サブCPU 201 により実行される各種制御プログラムと、演出用の画像(映像)、音声(スピーカ群 84)、光(LED 群 85)及び通信のデータを管理するための基板である。液晶中継基板 87 は、副制御基板 72 と、表示装置 11 を構成するプロジェクタ機構 211、及び、サブ表示装置 18 との間の接続配線を中継する基板である。なお、プロジェクタ機構 211 及びサブ表示装置 18 については、上述したので、ここでは、それらの説明を省略する。

30

【0114】

<主制御回路>

次に、図 8 を参照して、主制御基板 71 に実装される主制御回路 90 の構成について説明する。図 8 は、パチスロ 1 の主制御回路 90 の構成例を示すブロック図である。

【0115】

主制御回路 90 は、マイクロプロセッサ 91 と、クロックパルス発生回路 92 と、電源管理回路 93 と、スイッチングレギュレータ 94 (電源供給手段) とを備える。

【0116】

マイクロプロセッサ 91 は、遊技機用のセキュリティ機能付きマイクロプロセッサである。なお、本実施形態のマイクロプロセッサ 91 では、後述するように、ソースプログラム上で規定可能な該マイクロプロセッサ 91 に特有の様々な命令コード(例えば、後述の「LDQ」命令等:以下、「メインCPU 101 専用命令コード」という)が設けられている。本実施形態では、このメインCPU 101 専用命令コードを用いることにより、処理の効率化やプログラム容量の削減などを実現している。マイクロプロセッサ 91 の内部構成については、後述の図 9 を参照して詳述し、マイクロプロセッサ 91 に設けられているメインCPU 101 専用命令コードについては、後述の主制御回路が実行する各種処理において詳述する。

40

【0117】

50

クロックパルス発生回路 9 2 は、メイン CPU 作動用のクロックパルス信号を生成し、該生成したクロックパルス信号をマイクロプロセッサ 9 1 に出力する。マイクロプロセッサ 9 1 は、入力されたクロックパルス信号に基づいて、制御プログラムを実行する。

【 0 1 1 8 】

電源管理回路 9 3 は、電源基板 5 3 b (図 7 参照) から供給される直流 1 2 V の電源電圧の変動を管理する。そして、電源管理回路 9 3 は、例えば、電源が投入された際 (電源電圧が 0 V から起動電圧値 (1 0 V) を上回った際) には、リセット信号をマイクロプロセッサ 9 1 の「 X S R S T 」端子に出力し、電断が発生した際 (電源電圧が 1 2 V から停電電圧値 (1 0 . 5 V) を下回った際) には、電断検知信号をマイクロプロセッサ 9 1 の「 X I N T 」端子に出力する。すなわち、電源管理回路 9 3 は、電源投入時に、マイクロ
10
プロセッサ 9 1 にリセット信号 (起動信号) を出力する手段 (起動手手段) 、及び、電断発生時に、マイクロプロセッサ 9 1 に電断検知信号 (停電信号) を出力する手段 (停電手段) も兼ねる。

【 0 1 1 9 】

スイッチングレギュレータ 9 4 は、DC / DC 変換回路であり、マイクロプロセッサ 9 1 の直流駆動電圧 (直流 5 V の電源電圧) を生成し、該生成した直流駆動電圧をマイクロプロセッサ 9 1 の「 V C C 」端子に出力する。

【 0 1 2 0 】

< マイクロプロセッサ >

次に、図 9 を参照して、マイクロプロセッサ 9 1 の内部構成について説明する。図 9 は、
20
マイクロプロセッサ 9 1 の内部構成を示すブロック図である。

【 0 1 2 1 】

マイクロプロセッサ 9 1 は、メイン CPU 1 0 1 と、メイン ROM 1 0 2 (第 1 記憶手段) と、メイン RAM 1 0 3 (第 2 記憶手段) と、外部バスインターフェース 1 0 4 と、クロック回路 1 0 5 と、リセットコントローラ 1 0 6 と、演算回路 1 0 7 と、乱数回路 1 1 0 と、パラレルポート 1 1 1 と、割込みコントローラ 1 1 2 と、タイマー回路 1 1 3 と、第 1 シリアル通信回路 1 1 4 と、第 2 シリアル通信回路 1 1 5 と、を有する。そして、マイクロプロセッサ 9 1 を構成するこれらの各部は信号バス 1 1 6 を介して互いに接続されている。

【 0 1 2 2 】

メイン CPU 1 0 1 は、クロック回路 1 0 5 で生成されたクロックパルスに基づいて、各種制御プログラムを実行して、遊技動作全般に係る制御を行う。ここで、メイン CPU
30
1 0 1 の制御動作の一例としてリール停止制御について説明する。

【 0 1 2 3 】

メイン CPU 1 0 1 は、リールインデックスを検出してから各リール 3 L , 3 C , 3 L (メインリール) のステッピングモータに対してパルスを出力した回数をカウントする。これにより、メイン CPU 1 0 1 は、各リールの回転角度 (主に、リールが図柄何個分だけ回転したか) を管理する。なお、リールインデックスとは、リールが一回転したことを示す情報である。このリールインデックスは、例えば、発光部及び受光部を有する光センサと、各リールの所定の位置に設けられ、各メインリールの回転により発光部と受光部と
40
の間に介在される検知片とを備えたリール位置検出部 (不図示) により検出される。

【 0 1 2 4 】

ここで、各リール 3 L , 3 C , 3 L (メインリール) の回転角度の管理について、具体的に説明する。ステッピングモータに対して出力されたパルスの数は、メイン RAM 1 0 3 に設けられたパルスカウンタによって計数される。そして、図柄 1 つ分の回転に必要な所定回数のパルスの出力がパルスカウンタで計数される毎に、メイン RAM 1 0 3 に設けられた図柄カウンタが 1 ずつ加算される。図柄カウンタは、各リールに応じて設けられている。図柄カウンタの値は、リール位置検出部 (不図示) によってリールインデックスが検出されるとクリアされる。

【 0 1 2 5 】

10

20

30

40

50

すなわち、本実施形態では、図柄カウンタを管理することにより、リールインデックスが検出されてから図柄何個分の回転が行われたのかを管理する。したがって、各リールの各図柄の位置は、リールインデックスが検出される位置を基準として検出される。

【0126】

メインROM102には、メインCPU101により実行される各種制御プログラム、各種データテーブル、副制御回路200に対して各種制御指令（コマンド）を送信するためのデータ等が記憶される。メインRAM103には、制御プログラムの実行により決定された内部当籤役等の各種データを格納する格納領域が設けられる。なお、メインROM102及びメインRAM103の内部構成（メモリーマップ）については、後述の図12を参照して詳述する。

10

【0127】

外部バスインターフェース104は、マイクロプロセッサ91の外部に設けられた各種構成部（例えば、各リール等）が接続された外部信号バス（不図示）と、マイクロプロセッサ91とを電気的に接続するためのインターフェース回路である。クロック回路105は、例えば分周器（不図示）等を含んで構成され、クロックパルス発生回路92から入力されたCPU作動用のクロックパルス信号を、その他の構成部（例えば、タイマー回路113）で使用される周波数のクロックパルス信号に変換する。なお、クロック回路105で生成されたクロックパルス信号は、リセットコントローラ106にも出力される。

【0128】

リセットコントローラ106は、電源管理回路93から入力されたリセット信号に基づいて、IAT（Illegal Address Trap）やWDT（watchdog timer）のリセットを行う。演算回路107は、乗算回路及び除算回路を含んで構成される。例えば、ソースプログラム上において、後述する「MUL（乗算）」命令（後述の図93B参照）を実行するときには、演算回路107がこの「MUL」命令に基づく乗算処理を実行する。

20

【0129】

乱数回路110は、予め定められた範囲の乱数（例えば、0～65535又は0～255）を発生させる。また、図示しないが、乱数回路110は、2バイトのハードラッチ乱数を得るための乱数レジスタ0と、2バイトのソフトラッチ乱数を得るための乱数レジスタ1～3と、1バイトのソフトラッチ乱数を得るための乱数レジスタ4～7とで構成されている。なお、メインCPU101は、乱数回路110で発生させた所定範囲の乱数の中から1つの値を、例えば内部抽籤用の乱数値として抽出する。パラレルポート111は、マイクロプロセッサ91と、マイクロプロセッサ91の外部に設けられた各種回路（例えば、電源管理回路93等）との間で入出力される信号のポート（メモリーマップI/O）である。また、パラレルポート111は、乱数回路110及び割込みコントローラ112にも接続される。スタートスイッチ79はパラレルポート111のPI0～PI4のいずれかの入力ポートに接続され、スタートスイッチ79がオン状態になったタイミング（オンエッジ）で、パラレルポート111から乱数回路110の乱数レジスタ0へラッチ信号が出力される。そして、乱数回路110では、ラッチ信号が入力されることにより乱数レジスタ0がラッチされ、2バイトのハードラッチ乱数が取得される。

30

【0130】

割込みコントローラ112は、パラレルポート111を介して電源管理回路93から入力される電断検知信号、又は、タイマー回路113から1.1172ms周期で入力されるタイムアウト信号に基づいて、メインCPU101による割込処理の実行タイミングを制御する。電源管理回路93から電断検知信号が入力された場合、又は、タイマー回路113からタイムアウト信号が入力された場合には、割込みコントローラ112は、割込処理開始指令を示す割込要求信号をメインCPU101に出力する。メインCPU101は、タイマー回路113からのタイムアウト信号に応じて割込みコントローラ112から入力される割込要求信号に基づいて、入力ポートチェック処理、リール制御処理、通信データ送信処理、7セグLED駆動処理、タイマー更新処理等の各種割込処理（後述の図158参照）を行う。

40

50

【 0 1 3 1 】

タイマー回路 1 1 3 (P T C) は、クロック回路 1 0 5 で生成されたクロックパルス信号 (メイン C P U 作動用のクロックパルス信号を分周器 (不図示) で分周された周波数のクロックパルス信号) で動作する (経過時間をカウントする) 。そして、タイマー回路 1 1 3 は、 1 . 1 1 7 2 m s e c の周期で割込みコントローラ 1 1 2 にタイムアウト信号 (トリガー信号) を出力する。

【 0 1 3 2 】

第 1 シリアル通信回路 1 1 4 は、主制御基板 7 1 から副制御基板 7 2 にデータ (各種制御指令 (コマンド)) を送信する際のシリアル送信動作を制御する回路である。第 2 シリアル通信回路 1 1 5 は、主制御基板 7 1 から試験機用第 2 インターフェースボード 3 0 2 にデータを送信する際のシリアル送信動作を制御する回路である。

10

【 0 1 3 3 】

< 副制御回路 >

次に、図 1 0 を参照して、副制御基板 7 2 に実装される副制御回路 2 0 0 (副制御手段) の構成について説明する。図 1 0 は、パチスロ 1 の副制御回路 2 0 0 の構成例を示すブロック図である。

【 0 1 3 4 】

副制御回路 2 0 0 は、主制御回路 9 0 と電氣的に接続されており、主制御回路 9 0 から送信されるコマンドに基づいて演出内容の決定や実行等の処理を行う。副制御回路 2 0 0 は、基本的に、サブ C P U 2 0 1、サブ R A M 2 0 2、レンダリングプロセッサ 2 0 3、描画用 R A M 2 0 4、ドライバ 2 0 5 を含んで構成される。

20

【 0 1 3 5 】

なお、サブ C P U 2 0 1 は、ロムカートリッジ基板 8 6 に接続される。ドライバ 2 0 5 は、液晶中継基板 8 7 に接続される。すなわち、ドライバ 2 0 5 は、液晶中継基板 8 7 を介してプロジェクタ機構 2 1 1 及びサブ表示装置 1 8 に接続される。

【 0 1 3 6 】

サブ C P U 2 0 1 は、主制御回路 9 0 から送信されたコマンドに応じて、ロムカートリッジ基板 8 6 に記憶されている制御プログラムに従い、映像、音、光の出力の制御を行う。ロムカートリッジ基板 8 6 は、基本的に、プログラム記憶領域とデータ記憶領域とによって構成される。

30

【 0 1 3 7 】

プログラム記憶領域には、サブ C P U 2 0 1 が実行する制御プログラムが記憶される。例えば、制御プログラムには、主制御回路 9 0 との通信を制御するための主基板通信タスクや、演出用の乱数値を抽出し、演出内容 (演出データ) の決定及び登録を行うための演出登録タスクを実行するための各種プログラムが含まれる。また、制御プログラムには、決定した演出内容に基づいて表示装置 1 1 による映像の表示を制御する描画制御タスク、 L E D 群 8 5 等の光源による光の出力を制御するランプ制御タスク、スピーカ群 8 4 による音の出力を制御する音声制御タスク等を実行するための各種プログラムも含まれる。

【 0 1 3 8 】

データ記憶領域には、各種データテーブルを記憶する記憶領域、各演出内容を構成する演出データを記憶する記憶領域、映像の作成に関するアニメーションデータを記憶する記憶領域が含まれる。また、データ記憶領域には、 B G M や効果音に関するサウンドデータを記憶する記憶領域、光の点消灯のパターンに関するランプデータを記憶する記憶領域等も含まれる。

40

【 0 1 3 9 】

サブ R A M 2 0 2 には、決定された演出内容や演出データを登録する格納領域や、主制御回路 9 0 から送信されるサブフラグ (内部当籤役) 等の各種データを格納する格納領域が設けられる。

【 0 1 4 0 】

サブ C P U 2 0 1、レンダリングプロセッサ 2 0 3、描画用 R A M (フレームバッファ

50

を含む) 204及びドライバ205は、演出内容により指定されたアニメーションデータに従って映像を作成し、作成した映像を表示装置11(プロジェクタ機構211)及び/又はサブ表示装置18に表示させる。なお、表示装置11(プロジェクタ機構211)及びサブ表示装置18は、副制御基板72により、それぞれ個別に制御される。

【0141】

また、サブCPU201は、演出内容により指定されたサウンドデータに従ってBGMなどの音をスピーカ群84により出力させる。また、サブCPU201は、演出内容により指定されたランプデータに従ってLED群85の点灯及び消灯を制御する。

【0142】

<メインCPUが有する各種レジスタ>

10

次に、図11を参照しながら、メインCPU101が有する各種レジスタについて説明する。なお、図11は、メインCPU101に含まれる各種レジスタの概略構成図である。

【0143】

メインCPU101は、メイン・レジスタとして、アキュムレータA(以下、「Aレジスタ」という)、フラグ・レジスタF(フラグレジスタ)、汎用レジスタB(以下、「Bレジスタ」という)、汎用レジスタC(以下、「Cレジスタ」という)、汎用レジスタD(以下、「Dレジスタ」という)、汎用レジスタE(以下、「Eレジスタ」という)、汎用レジスタH(以下、「Hレジスタ」という)及び汎用レジスタL(以下、「Lレジスタ」という)を有する。また、メインCPU101は、サブ・レジスタとして、アキュムレータA、フラグ・レジスタF、汎用レジスタB、汎用レジスタC、汎用レジスタD、汎用レジスタE、汎用レジスタH及び汎用レジスタLを汎用レジスタとして有する。なお、各レジスタは、1バイトのレジスタで構成される。

20

【0144】

また、本実施形態では、BレジスタとCレジスタとをペアレジスタ(以下、「BCレジスタ」という)として用い、DレジスタとEレジスタとをペアレジスタ(以下、「DEレジスタ」という)として用いる。さらに、本実施形態では、HレジスタとLレジスタとをペアレジスタ(以下、「HLレジスタ」という)として用いる。

【0145】

フラグ・レジスタF、Fの各ビットには、図11に示すように、演算処理の結果等を示す所定のフラグ情報がセットされる。例えばビット6(D6)には、演算結果の判定処理において演算結果が「0」であるか否かを示すデータ(ゼロフラグ)がセットされる。具体的には、演算結果が「0」である場合、ビット6にデータ「1」がセットされ、演算結果が「0」でない場合には、ビット6にデータ「0」がセットされる。そして、演算結果の判定処理では、メインCPU101は、ビット6のデータ「0」/「1」を参照して判定(YES/NO)を行う。

30

【0146】

また、メインCPU101は、拡張レジスタQ(以下、「Qレジスタ」という)を有する。Qレジスタは、1バイトのレジスタで構成される。なお、本実施形態では、後述の各種処理フローの中で説明するように、ソースプログラム上において、このQレジスタを用いてアドレス指定を行う各種メインCPU101専用命令コードが設けられており、この命令コードの使用により、処理の効率化やメインROM102の容量削減などを実現している。なお、Qレジスタを用いてアドレス指定を行う各種メインCPU101専用命令コードでは、Qレジスタには、アドレスの上位側のアドレスデータ(アドレス値)が格納される。なお、Qレジスタには、メインCPU101のリセット直後に、初期値として「F0H」がセットされる。また、Qレジスタを用いた「LDQ, n(8ビットデータ)」命令において、「n」に任意の1バイトのデータをセットして該命令を実行することにより、Qレジスタの値を変更することができる。

40

【0147】

さらに、メインCPU101は、1バイトのレジスタで構成された、インタラプト・ページアドレス・レジスタI及びメモリ・リフレッシュ・レジスタR、並びに、2バイトの

50

レジスタで構成された、インデックス・レジスタIX、インデックス・レジスタIY、スタックポインタSP及びプログラムカウンタPCを専用レジスタとして有する。

【0148】

<メインROM及びメインRAMの内部構成(メモリマップ)>

次に、図12A～図12Cを参照しながら、主制御回路90(マイクロプロセッサ91)に含まれるメインROM102及びメインRAM103の内部構成(以下「メモリマップ」という)について説明する。なお、図12Aは、メモリ全体のメモリマップを示す図であり、図12Bは、メインROM102のメモリマップを示す図であり、図12Cは、メインRAM103のメモリマップを示す図である。

【0149】

主制御回路90(マイクロプロセッサ91)が備えるメモリ全体のメモリマップでは、図12Aに示すように、アドレスの先頭(0000H)側から、メインROM102のメモリ領域、メインRAM103のメモリ領域、内蔵レジスタエリア及びXCSデコードエリアが、不使用領域を間に挟んでこの順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。

【0150】

メインROM102のメモリマップでは、図12Bに示すように、メインROM102のアドレスの先頭(0000H)側から、プログラムエリア、データエリア、規定外エリア、商標記録エリア、プログラム管理エリア及びセキュリティ設定エリアが、この順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。

【0151】

なお、プログラムエリアには、遊技者により実施される遊技の遊技性に関連する各種制御処理において、メインCPU101により実行される各種処理の制御プログラムが記憶される。データエリアには、遊技者により実施される遊技の遊技性に関連する各種制御処理において、メインCPU101により使用される各種データ(例えば、内部抽籤テーブル等のデータテーブル、副制御回路42に対して各種制御指令(コマンド)を送信するためのデータ等)が記憶される。すなわち、プログラムエリアとデータエリアとからなる遊技用ROM領域(遊技用記憶領域)には、遊技店で遊技者が実際に行う遊技の遊技性に関連する制御処理(遊技性に関する処理)に必要な各種プログラム及び各種データが格納される。

【0152】

また、規定外エリアには、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理(遊技性に影響を与えない処理)の制御プログラム及びデータが記憶される。例えば、パチスロ1の検定試験(試射試験)で使用されるプログラム及びデータ、電断時のチェックサム生成処理や電源復帰時のサムチェック処理などで使用される制御プログラム及びデータ、並びに、不正対策プログラム及びそれに必要なデータ等が、規定外エリアに格納される。

【0153】

メインRAM103のメモリマップでは、図12Cに示すように、メインRAM103のアドレスの先頭(F000H)側から、遊技用RAM領域(所定格納領域、遊技用一時記憶領域)及び規定外RAM領域(規定外一時記憶領域)が、この順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。

【0154】

遊技用RAM領域には、遊技者により実施される遊技の遊技性に関連する制御プログラムの実行により決定された例えば内部当籤役等の各種データを一時的に格納する作業領域及びスタックエリアが設けられる。そして、各種データのそれぞれは、遊技用RAM領域内の所定アドレスの作業領域に格納される。

【0155】

また、規定外RAM領域には、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理の作業領域となる規定外作業領域と、規定外スタックとが設けられる。本実施形態では、この規定外RAM領域を使用して、例えばサムチェック処理等の遊技者により実

10

20

30

40

50

施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理が実行される。

【 0 1 5 6 】

上述のように、本実施形態のパチスロ 1 では、メイン ROM 1 0 2 内において、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理に使用される各種プログラム及び各種データ（テーブル）を、遊技用 ROM 領域とは異なるアドレスに配置された規定外 ROM 領域（規定外記憶領域）に格納する。また、そのような遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理は、メイン RAM 1 0 3 内において、遊技用 RAM 領域とは異なるアドレスに配置された規定外 RAM 領域を使用して行われる。

【 0 1 5 7 】

このようなメイン ROM 1 0 2 の構成では、従来の規則上においてプログラム等の配置不可とされていた ROM 領域（規定外 ROM 領域）に、遊技者が実際に行う遊技そのものには不要なプログラム及びデータを配置することができる。それゆえ、本実施形態では、遊技用 ROM 領域の容量の圧迫を回避することができる。

10

【 0 1 5 8 】

< 遊技状態の遷移フロー >

次に、図 1 3 及び図 1 4 を参照しながら、本実施形態のパチスロ 1 の主制御回路 9 0（メイン CPU 1 0 1）により管理される各種遊技状態及びその遷移フローについて説明する。なお、図 1 3 A は、パチスロ 1 の基本的な遊技状態の遷移フロー図であり、図 1 3 B は、その遊技状態の移行条件をまとめた表である。また、図 1 4 A は、報知（ART）機能の作動の有無を考慮した遊技状態の遷移フロー図であり、図 1 4 B は、その遊技状態の移行条件をまとめた表である。

20

【 0 1 5 9 】

[基本的な遊技状態の遷移フロー]

本実施形態のパチスロ 1 では、ボーナスゲームの種類として、ビッグボーナス（以下、「BB」と記す）が設けられる。BB は、第 1 種特別役物と呼ばれるレギュラーボーナス（以下、「RB」と記す）に係る役物連続作動装置であり、RB を連続して作動させる。

【 0 1 6 0 】

それゆえ、本実施形態では、主制御回路 9 0 は、ボーナス役の当籤 / 作動（入賞）の有無に基づいて遊技状態を管理する。具体的には、図 1 3 A に示すように、主制御回路 9 0 は、ボーナス役（後述の名称「F__BB1」, 「F__BB2」の内部当籤役）の当籤 / 作動（入賞）の有無に基づいて、「ボーナス非当籤状態」、「フラグ間状態」及び「ボーナス状態」と称する 3 種類の遊技状態を管理する。

30

【 0 1 6 1 】

なお、ボーナス非当籤状態は、ボーナスに非当籤であり、かつ、ボーナスが作動（入賞）していない状態であり、ボーナス状態は、ボーナスが作動している状態である。また、本実施形態では、ボーナス役が内部当籤役として決定されると、ボーナスが入賞するまで複数回の遊技に渡りボーナス役が内部当籤役として持ち越された状態が発生する。フラグ間状態は、ボーナス役が内部当籤役として持ち越されている状態、すなわち、ボーナス役が当籤し、かつ、ボーナスが作動していない状態である。

【 0 1 6 2 】

なお、ボーナス役の当籤の有無は、メイン RAM 1 0 3 に設けられる後述の当り要求フラグ格納領域（後述の図 2 8 ~ 図 3 0 参照）及び持越役格納領域（後述の図 3 1 参照）に格納されるデータに基づいて管理される。また、ボーナスの作動（入賞）の有無は、メイン RAM 1 0 3 に設けられる後述の遊技状態フラグ格納領域（後述の図 3 2 参照）に格納されるデータに基づいて管理される。

40

【 0 1 6 3 】

また、本実施形態では、図 1 3 A に示すように、ボーナスが作動していない遊技状態（ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態）において、リプレイに係る内部当籤役の種類及びその当籤確率が互いに異なる、RT 0 遊技状態 ~ RT 5 遊技状態の 6 種類の状態（以下、それぞれ「RT 0 状態」 ~ 「RT 5 状態」という）が設けられる。なお、RT 0 状態、R

50

ＲＴ２状態及びＲＴ５状態は、リプレイ役が内部当籤役として決定される確率が低確率となる遊技状態であり、ＲＴ１状態はリプレイ役が内部当籤役として決定される確率が中程度の中確率となる遊技状態である。また、ＲＴ３状態及びＲＴ４状態は、リプレイ役が内部当籤役として決定される確率が高確率となる遊技状態である。なお、本実施形態では、ボーナス非当籤状態のＲＴ状態は、ＲＴ０状態～ＲＴ４状態のいずれかとなり、フラグ間状態のＲＴ状態はＲＴ５状態となる。

【０１６４】

それゆえ、本実施形態では、主制御回路９０は、ボーナスが作動していない遊技状態（ボーナス非当籤状態及びフラグ間状態）において、さらに、リプレイに係る内部当籤役の種類及びその当籤確率に基づいて、ＲＴ１状態～ＲＴ５状態の６種類の状態も管理する。

10

【０１６５】

なお、ＲＴ０状態～ＲＴ５状態は、メインＲＡＭ１０３に設けられる後述の遊技状態フラグ格納領域（後述の図３２参照）に格納されるデータに基づいて管理される。具体的には、本実施形態のパチスロ１では、ＲＴ１状態フラグ～ＲＴ５状態フラグの５つのＲＴ状態を示すフラグが設けられ、これらのフラグのオン／オフ状態をメインＲＡＭ１０３により管理することによりＲＴ状態が管理される。そして、主制御回路９０は、オン状態であるＲＴ状態フラグに対応するＲＴ状態を現在のＲＴ状態として特定する。なお、全てのＲＴ状態フラグがオフ状態である場合には、主制御回路９０は、現在のＲＴ状態がＲＴ０状態であると特定する。

【０１６６】

20

図１３Ａ及び１３Ｂに示すように、ボーナス非当籤状態においてボーナス役（後述の名称「Ｆ__ＢＢ１」，「Ｆ__ＢＢ２」の内部当籤役）が内部当籤役として決定されると（移行条件（１）が成立すると）、主制御回路９０は、遊技状態をボーナス非当籤状態からフラグ間状態に移行させる。また、フラグ間状態においてボーナス役が入賞すると（移行条件（２）が成立すると）、主制御回路９０は、遊技状態をフラグ間状態からボーナス状態に移行させる。

【０１６７】

また、ボーナス状態において規定枚数（２１６枚）を超えるメダルが払い出され、ボーナス状態が終了すると（移行条件（３）が成立すると）、主制御回路９０は、遊技状態をボーナス状態からＲＴ１状態（ボーナス非当籤状態）に移行させる。

30

【０１６８】

ＲＴ１状態において、２０ゲームが経過すると（移行条件（４）が成立すると）、主制御回路９０は、遊技状態をＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行させる。また、ＲＴ１状態において、２０ゲームが経過する前に、略称「ベルこぼし目」に係る図柄組合せ（後述の図２８参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（５）が成立すると）、主制御回路９０は、遊技状態をＲＴ１状態からＲＴ２状態に移行させる。

【０１６９】

ＲＴ０状態において、略称「ベルこぼし目」に係る図柄組合せが有効ライン上に表示されると（移行条件（５）が成立すると）、主制御回路９０は、遊技状態をＲＴ０状態からＲＴ２状態に移行させる。ＲＴ２状態において、略称「ＲＴ３移行リブ」に係る図柄組合せ（後述の図２８参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（６）が成立すると）、主制御回路９０は、遊技状態をＲＴ２状態からＲＴ３状態に移行させる。

40

【０１７０】

ＲＴ３状態において、略称「ＲＴ４移行リブ」に係る図柄組合せ（後述の図２８参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（７）が成立すると）、主制御回路９０は、遊技状態をＲＴ３状態からＲＴ４状態に移行させる。また、ＲＴ３状態において、略称「ベルこぼし目」又は「ＲＴ２移行リブ」に係る図柄組合せ（後述の図２８参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（８）が成立すると）、主制御回路９０は、遊技状態をＲＴ３状態からＲＴ２状態に遊技状態を移行させる。さらに、ＲＴ４状態において、略称「ベルこぼし目」又は「ＲＴ２移行リブ」に係る図柄組合せが有効ライン上に表示されると

50

(移行条件(8)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をRT4状態からRT2状態に遊技状態を移行させる。

【0171】

なお、略称「ベルこぼし目」に係る図柄組合せは、後述の名称「F__3択ベル__1st」、「F__3択ベル__2nd」又は「F__3択ベル__3rd」に係る内部当籤役(小役)が決定され、かつ、停止操作の順序が該小役の種別ごとに定められた押し順に対して不正解であるときに表示される図柄の組合せである(後述の図24参照)。略称「RT2移行リップ」に係る図柄組合せは、後述の名称「F__維持リップ__1st」、「F__維持リップ__2nd」又は「F__維持リップ__3rd」に係る内部当籤役(リプレイ役)が決定され、かつ、停止操作の順序が該リプレイ役の種別ごとに定められた押し順に対して不正解であるときに表示される図柄の組合せである。

10

【0172】

略称「RT3移行リップ」に係る図柄組合せは、後述の名称「F__RT3リップ__1st」、「F__RT3リップ__213」、「F__RT3リップ__231」又は「F__RT3リップ__3rd」に係る内部当籤役(リプレイ役)が決定され、かつ、停止操作の順序が該リプレイ役の種別ごとに定められた押し順に対して正解であるときに表示される図柄の組合せである。また、略称「RT4移行リップ」に係る図柄組合せは、後述の名称「F__RT4リップ__123」、「F__RT4リップ__132」、「F__RT4リップ__2nd」又は「F__RT4リップ__3rd」に係る内部当籤役(リプレイ役)が決定され、かつ、停止操作の順序が該リプレイ役の種別ごとに定められた押し順に対して正解であるときに表示される図柄の組合せである。

20

【0173】

[報知(ART)機能の作動の有無を考慮した遊技状態の遷移フロー]

本実施形態では、主制御回路90(メインCPU101)により、遊技者にとって有利な停止操作を報知する機能(ART機能)の作動の有無が決定される。それゆえ、本実施形態では、ボーナス非作動状態においてART機能の作動/非作動状態も遊技状態として管理する。

【0174】

本実施形態のパチスロ1では、図14Aに示すように、主制御回路90は、非ボーナス作動状態において、報知(ART)の有無に基づいて「一般遊技状態」と「ART遊技状態」とを別個の遊技状態として管理する。すなわち、報知(ART)の有無を考慮した遊技状態の管理では、図14Aに示すように、主制御回路90は、大きな分類として、「ボーナス状態」、「一般遊技状態」及び「ART遊技状態」の3種類の遊技状態を管理する。

30

【0175】

なお、一般遊技状態は、基本的には、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しない遊技状態(非ART)であり、遊技者にとって不利な遊技状態である。また、一般遊技状態は、RT0~RT4状態のいずれかの状態であり、かつ、ART非当籤の遊技状態である。

【0176】

一方、ART遊技状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する遊技状態であり、遊技者にとって有利な遊技状態である。また、ART遊技状態は、基本的には、RT4状態であり、かつ、ART当籤中の遊技状態である。なお、本実施形態では、ART当籤後、RT状態がRT4状態まで移行すると、ART遊技が開始される。

40

【0177】

また、本実施形態では、図14Aに示すように、一般遊技状態として、「通常遊技状態」及び「CZ(チャンスゾーン)」と称する2種類の状態が設けられる。

【0178】

通常遊技状態は、遊技者にとって最も不利な遊技状態であるが、通常遊技状態の遊技ではCZへの移行抽籤を行っている。そして、図14A及び14Bに示すように、通常遊技状態の遊技において、CZへの移行抽籤に当籤すると(移行条件(A)が成立すると)、

50

主制御回路 90 は、遊技状態を、通常遊技状態から C Z に移行させる。

【0179】

C Z は、A R T 遊技状態への移行に対する期待度が高い遊技状態（チャンスゾーン）であり、C Z 中の遊技では A R T への移行抽籤が行われている。そして、図 14 A 及び 14 B に示すように、C Z 中の遊技において、A R T への移行抽籤に非当籤である場合には（移行条件（B）が成立すると）、主制御回路 90 は、遊技状態を、C Z から通常遊技状態に移行させる。一方、C Z 中の遊技において、A R T への移行抽籤に当籤すると（移行条件（C）が成立すると）、主制御回路 90 は、遊技状態を、C Z から A R T 遊技状態に移行させる。この際、図 14 A には示さないが、主制御回路 90 は、遊技状態を、C Z から後述の A R T 準備状態を経由して A R T 遊技状態（後述の通常 A R T 又は C T）に移行させる。

10

【0180】

A R T 遊技状態は、上述のように、A R T 当籤後に R T 状態が R T 4 状態まで移行すると開始される。なお、図 13 A で示したように、R T 4 状態は、R T 0 ~ R T 2 状態から R T 3 状態を経由して移行するので、A R T 当籤後であってもすぐに A R T 遊技状態が開始されない。そこで、本実施形態のパチスロ 1 では、A R T 当籤後から R T 状態が R T 4 状態に移行するまでの期間の遊技状態を A R T 準備状態とする。そして、この A R T 準備状態の遊技では、R T 状態を R T 4 状態に移行させるために必要な停止操作の情報が報知される。

【0181】

また、本実施形態では、図 14 A に示すように、A R T 遊技状態として、遊技性が互いに異なる、「通常 A R T」及び「C T（上乘せチャンス）」と称する 2 種類の状態が設けられる。

20

【0182】

通常 A R T は、所定ゲーム数の期間、遊技者にとって有利な停止操作（例えば、払い出されるメダルの枚数が多い図柄組合せを表示させるための停止操作や、R T 4 状態を維持するために必要な停止操作）が報知される遊技状態である。また、通常 A R T 中の遊技では、C T への移行抽籤が行われる。

【0183】

C T は、遊技者にとって有利な停止操作が報知されるとともに、特定期間（1 セット 8 ゲームの期間）、通常 A R T の継続期間を上乗せすることが可能となる遊技状態であり、上乘せチャンスゾーンとして機能する遊技状態である。また、C T 中では、通常 A R T の継続期間を消化せずに遊技が行われる。なお、C T 中の遊技性については、後述の図 5 2 A ~ 5 2 C を参照して後で詳述する。

30

【0184】

図 14 A 及び 14 B に示すように、通常 A R T 中の遊技において、C T への移行抽籤に当籤すると（移行条件（D）が成立すると）、主制御回路 90 は、遊技状態を、通常 A R T から C T に遊技状態を移行させる。また、通常 A R T において、当該通常 A R T の継続期間が終了すると（移行条件（E）が成立すると）、主制御回路 90 は、遊技状態を、通常 A R T から一般遊技状態（通常遊技状態又は C Z）に移行させる。なお、本実施形態では、ゲーム数により通常 A R T の継続期間を管理するが、本発明はこれに限定されず、通常 A R T の継続期間の管理方法は任意である。例えば、通常 A R T の継続期間を、通常 A R T 中に払い出されるメダルの枚数や差枚数により管理してもよいし、通常 A R T 中にメダルの払い出しに影響を与える報知を行った回数（ナビ回数）により管理してもよい。

40

【0185】

図 14 A 及び 14 B に示すように、C T 中の遊技において、C T の継続期間（1 セット 8 ゲーム）が終了すると（移行条件（F）が成立すると）、主制御回路 90 は、遊技状態を、C T から通常 A R T に移行させる。

【0186】

また、図 14 A に示すように、一般遊技状態（通常遊技状態又は C Z）又は A R T 遊技

50

状態（通常ART又はCT）において、ボーナス役が入賞すると（図13A及び13B中で説明した移行条件（2）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態を、一般遊技状態又はART遊技状態からボーナス状態に移行させる。

【0187】

ボーナス状態の遊技では、上述のように、ARTへの移行抽籤を行っており、ボーナス状態の遊技において、ARTへの移行抽籤が非当籤である場合には（移行条件（G）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態を、ボーナス状態から一般遊技状態（通常遊技状態又はCZ）に移行させる。ただし、ART遊技状態（通常ART又はCT）からボーナス状態に移行していた場合には、ボーナス状態の遊技においてARTの移行抽籤に非当籤であっても、主制御回路90は、遊技状態を、ボーナス状態からART遊技状態（通常ART又はCT）に移行させる。一方、ボーナス状態の遊技において、ARTへの移行抽籤に当籤すると（移行条件（H）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態を、ボーナス状態からART遊技状態（通常ART又はCT）に移行させる。なお、上述のように、ボーナス状態の終了時には、RT状態がRT1状態に移行するので、ボーナス状態からART遊技状態に移行する場合には、主制御回路90は、遊技状態を、ART準備状態を経由してART遊技状態に移行させる。

10

【0188】

<メインROMに記憶されているデータテーブルの構成>

次に、図15～図27を参照して、メインROM102に記憶されている各種データテーブルの構成について説明する。なお、一般遊技状態中及びART遊技状態中の遊技性（CZ、通常ART、CTの遊技性）に係る各種抽籤で用いられる各種データテーブルについては、別途、各遊技性の説明と一緒に後述する。

20

【0189】

[図柄配置テーブル]

まず、図15を参照して、図柄配置テーブルについて説明する。図柄配置テーブルは、左リール3L、中リール3C及び右リール3Rのそれぞれの回転方向における各図柄の位置と、各位置に配置された図柄の種類を特定するデータ（以下、図柄コード（図15中の図柄コード表を参照）という）との対応関係を規定する。

【0190】

図柄配置テーブルでは、リールインデックスが検出されたときに、リール表示窓4の枠内における各リールの中段領域に位置する図柄の位置を「0」と規定する。そして、各リールにおいて、図柄位置「0」を基準としてリールの回転方向（図15中の図柄位置「19」から図柄位置「0」に向かう方向）に進む順に、図柄カウンタの値に対応する「0」～「19」が、図柄位置として、各図柄に割り当てられる。

30

【0191】

すなわち、図柄カウンタの値（「0」～「19」）と、図柄配置テーブルとを参照することにより、リール表示窓4の枠内における各リールの上段領域、中段領域及び下段領域に表示されている図柄の種類を特定することができる。なお、本実施形態では、図柄として、「白7」、「青7」、「チリ上1」、「チリ上2」、「チリ下」、「リプレイ」、「帽子」、「サボテン1」、「サボテン2」及び「サボテン3」の10種類の図柄を用いる。

40

【0192】

また、本実施形態では、図柄コード表に示すように、図柄「白7」（図柄コード1）には、データとして「00000001」が割り当てられ、図柄「青7」（図柄コード2）には、データとして「00000010」が割り当てられている。図柄「チリ上1」（図柄コード3）には、データとして「00000011」が割り当てられ、図柄「チリ上2」（図柄コード4）には、データとして「00000100」が割り当てられている。

【0193】

図柄「チリ下」（図柄コード5）には、データとして「00000101」が割り当てられ、図柄「リプレイ」（図柄コード6）には、データとして「00000110」が割り当てられている。図柄「帽子」（図柄コード7）には、データとして「00000111

50

1」が割り当てられ、図柄「サボテン1」（図柄コード8）には、データとして「00001000」が割り当てられている。また、図柄「サボテン2」（図柄コード9）には、データとして「00001001」が割り当てられ、図柄「サボテン3」（図柄コード10）には、データとして「00001010」が割り当てられている。

【0194】

[内部抽籤テーブル]

次に、図16及び図17を参照して、内部当籤役を決定する際に参照される内部抽籤テーブルについて説明する。なお、図16は、RT0状態～RT4状態のそれぞれにおいて参照される内部抽籤テーブルである。また、図17Aは、RT5状態において参照される内部抽籤テーブルであり、図17Bは、ボーナス状態において参照される内部抽籤テーブルである。

10

【0195】

内部抽籤テーブルは、遊技状態毎に設けられ、各種内部当籤役と、各内部当籤役が決定されるとき抽籤値との対応関係を規定する。なお、抽籤値は、予め設定されたボーナス役や小役等の内部当籤の期待値を調整するための設定（設定1～6）毎に規定される。この設定は、例えば、リセットスイッチ76及び設定用鍵型スイッチ54（図7参照）を用いて変更される。

【0196】

本実施形態の内部抽籤処理では、まず、乱数回路110の乱数レジスタ0により、予め定められた数値の範囲（例えば、0～65535）から抽出される乱数値を、各内部当籤役に対応して規定された抽籤値で順次加算する。次いで、抽籤結果（抽籤値+乱数値）が65535を超えたか否か（抽籤結果がオーバーフローしたか否か）の判定を行う。そして、所定の内部当籤役において、抽籤結果が65535を超えた場合、該内部当籤役が当籤したと判定される。なお、本実施形態の内部抽籤処理では、抽出した乱数値に抽籤値を加算して抽籤を行う例を説明したが、本発明はこれに限定されず、乱数値から抽籤値を減算して、減算結果（抽籤結果）が「0」を下回ったか否か（抽籤結果がアンダーフローしたか否か）を判定して、内部抽籤の当籤/非当籤を決定してもよい。

20

【0197】

それゆえ、本実施形態の内部抽籤処理では、抽籤値として規定されている数値が大きい内部当籤役ほど、決定される確率が高い。なお、各内部当籤役の当籤確率は、「各当籤番号に規定された抽籤値/抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：65536）」によって表すことができる。

30

【0198】

RT0状態～RT4状態のそれぞれにおいて参照される内部抽籤テーブルでは、図16に示すように、基本的には、RT状態の種別に応じて、内部当籤役として決定されるリプレイ役の種別及び当籤確率が変化する。例えば、名称「F__チリリプ（No.25）」～「F__リーチ目リプD（No.31）」に係るリプレイ役は、RT0状態～RT3状態では内部当籤役として決定されることなく、RT4状態でのみ内部当籤役として決定される。なお、本実施形態のパチスロ1では、RT4状態中に、名称「F__チリリプ（No.25）」～「F__リーチ目リプD（No.31）」に係るリプレイ役が内部当籤役として決定された場合、特有の制御（後述のフラグ変換）を行う。このフラグ変換については、後で詳述する。

40

【0199】

また、図16に示すように、RT0状態～RT3状態では、名称「F__リーチ目リプA」～「F__リーチ目リプD」のそれぞれの内部当籤役は、名称「F__BB1」又は「F__BB2」に係るボーナス役と重複して決定されることはあるが（No.3～6、15～18参照）、名称「F__リーチ目リプA」～「F__リーチ目リプD」のそれぞれの内部当籤役（リプレイ役）が単独で内部当籤役として決定されることはない。それゆえ、本実施形態において、RT0状態～RT3状態中に名称「F__リーチ目リプA」～「F__リーチ目リプD」に係るリプレイ役が内部当籤役として決定された場合（遊技者からすると名称「

50

「F__リーチ目リブA」～「F__リーチ目リブD」に係るリプレイ役に応じた図柄組合せが表示された場合)、ボーナス役(名称「F__BB1」又は「F__BB2」)が同時に内部当籤役として決定されていることになる。

【0200】

また、フラグ間状態であるRT5状態は、上述のようにボーナス役を内部当籤役として持ち越す遊技状態である。それゆえ、図17Aに示すように、RT5状態において参照される内部抽籤テーブルでは、持ち越しているボーナス役が必ず内部当籤役として決定されるようになっている。また、図17Bに示すように、ボーナス状態において参照される内部抽籤テーブルでは、名称「F__RB役1」～「F__RB役4」のいずれかに係る内部当籤役が必ず当籤する構成になっている(「はずれ」が当籤することはない)。

10

【0201】

[内部当籤役と図柄組合せ(入賞役)との対応表(図柄組合せ決定テーブル)]

次に、図18～図23を参照して、内部当籤役と図柄組合せとの対応表(図柄組合せ決定テーブル)について説明する。図柄組合せ決定テーブルは、各種内部当籤役と、各内部当籤役に対応付けられた、有効ライン(センターライン)上に表示可能な図柄組合せ(コンビネーション)との対応関係を規定する。すなわち、内部当籤役が決定されると、有効ライン上に表示可能な図柄組合せの種別(入賞可能な表示役の種別)が一義的に決定される。

【0202】

各図柄組合せ決定テーブル中の図柄組合せ欄に記載の各種データは、左リール3L、中リール3C及び右リール3Rに渡って設定された有効ラインに沿って表示を許可する図柄組合せを識別するためのデータである。なお、図柄組合せ(表示役)欄に記載の各名称と、具体的な図柄組合せとの関係は、後述の図28～図30の入賞作動フラグ格納領域に示す。

20

【0203】

また、図柄組合せ決定テーブル中に記載の「」印は、決定された内部当籤役において、有効ライン上に表示可能な図柄組合せ(コンビネーション)、すなわち、入賞可能となる表示役を示す。例えば、内部当籤役「F__チリリブ」が決定された場合、図18及び図19に示すように、コンビネーション名称「C__維持リブA__01」～「C__維持リブG__01」、「C__チリリブA__01」～「C__チリリブD__01」に係る図柄組合せが停止表示可能となる。なお、図柄組合せ決定テーブルには、「内部当籤役」が「はずれ」となる場合が規定されていないが、これは、図18～図23に示した図柄組合せテーブルにより規定されている全ての図柄組合せの表示が許可されないことを示す。

30

【0204】

本実施形態のパチスロ1では、主制御回路90(メインCPU101)は、内部当籤役及び遊技状態に応じて停止制御を異ならせ、所定の役が内部当籤役として決定された場合に、図18～図23に示す対応関係の図柄組合せ(コンビネーション)を表示可能とするように左リール3L、中リール3C及び右リール3Rの回転停止制御を行う。なお、図18～図23に示す対応表では、決定された内部当籤役に対して表示可能な全ての図柄組合せを「」印で列挙しているが、「」印が付された図柄組合せであっても、表示されないことがある。

40

【0205】

本実施形態では、停止表示可能な図柄組合せや現在の遊技状態に応じて停止制御(例えば、優先して引き込む図柄)を異ならせる機能を有し、優先して引き込む図柄の関係上、「」印が付された図柄組合せであっても表示されないことがある。内部当籤役の種別と実際に表示される図柄組合せとの対応関係については、後述の図24及び図25を参照して説明する。

【0206】

[非フラグ間状態中の当籤役と停止表示される図柄組合せとの対応関係]

ここで、図24を参照して、フラグ間状態を除く遊技状態(非フラグ間状態)における

50

内部当籤役と停止表示される図柄組合せとの対応関係について説明する。なお、図 2 4 は、非フラグ間状態において決定され得る各種内部当籤役と、各内部当籤役決定時に停止表示される図柄組合せ（略称）との対応関係（一部の役については省略）を示す図である。なお、図 2 4 中に記載の図柄組合せの名称は、後述の図 2 8 ~ 図 3 0 の入賞作動フラグ格納領域に示す内容欄に記載の「略称」である。

【 0 2 0 7 】

本実施形態のパチスロ 1 では、遊技者の停止操作の順序（押し順）に応じて表示される図柄組合せが異なる役、いわゆる「押し順役」を設ける。なお、図 2 4 に記載の「押し順正解」に対応付けられた図柄組合せは、押し順に応じて表示される図柄組合せのうち、遊技者にとって有利な図柄組合せであり、「押し順不正解」に対応付けられた図柄組合せは、押し順に応じて表示される図柄組合せのうち、遊技者にとって不利な図柄組合せである。遊技者にとって有利な停止操作を報知する場合、正解となる押し順が報知され、その報知に従って停止操作が行われれば、「押し順正解」に対応付けられた図柄組合せが表示される。また、ART 遊技状態であっても、不正解となる押し順が報知されることもあるが、その内容については、後で詳述する。

10

【 0 2 0 8 】

なお、本実施形態では、押し順役の一部に対しては、その名称の末尾に、正解となる押し順を示す。具体的には、内部当籤役の名称の末尾「1 s t」は、正解となる押し順が、第 1 停止操作（1 番目に行われる停止操作）が左リール 3 L に対するものであることを意味し、内部当籤役の名称の末尾「2 n d」は、正解となる押し順が、第 1 停止操作が中リール 3 C に対するものであることを意味し、内部当籤役の名称の末尾「3 r d」は、正解となる押し順が、第 1 停止操作が右リール 3 R に対するものであることを意味する。また、内部当籤役の名称の末尾「1 2 3」は、正解となる押し順が「左、中、右」の順であることを意味し、内部当籤役の名称の末尾「1 3 2」は、正解となる押し順が「左、右、中」の順であることを意味し、内部当籤役の名称の末尾「2 1 3」は、正解となる押し順が「中、左、右」の順であることを意味し、内部当籤役の名称の末尾「2 3 1」は、正解となる押し順が「左、右、中」の順であることを意味する。

20

【 0 2 0 9 】

また、以下では、第 1 停止操作が左リール 3 L に対して行われた場合の停止操作順序、具体的には、「左、中、右」及び「左、右、中」の押し順を「順押し」ともいう。さらに、以下では、第 1 停止操作が中リール 3 C 又は右リール 3 R に対して行われた場合の停止操作順序、具体的には、「中、左、右」、「中、右、左」、「右、中、左」、及び、「右、左、中」の押し順を、「変則押し」ともいう。

30

【 0 2 1 0 】

本実施形態では、図 2 4 に示すように、内部当籤役「F__チリリブ」は、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なる押し順役であり、押し順が正解である場合には、略称「チリリブ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、略称「リプレイ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。なお、内部当籤役「F__チリリブ」が決定された場合、図 1 8 ~ 図 2 3 に示すように、コンビネーション名称「C__チリリブA__0 1」、「C__チリリブB__0 1」又は「C__チリリブC__0 1」（略称「単チリリブ」又は「2 連チリリブ」：後述の図 2 8 中の略称「チリリブ（否 3 連）」に対応）に係る図柄組合せは表示できるが、コンビネーション名称「C__チリリブD__0 1」~「C__1 確チリリブD__0 1」（略称「3 連チリリブ」：後述の図 2 8 中の略称「チリリブ（3 連）」に対応）に係る図柄組合せを表示できない。すなわち、内部当籤役「F__チリリブ」は、略称「3 連チリリブ」に係る図柄組合せを表示できない役である。

40

【 0 2 1 1 】

また、内部当籤役「F__確チリリブ」及び「F__1 確チリリブ」はともに、押し順に応

50

じて表示される図柄組合せが異なる押し順役であり、押し順が正解である場合には、略称「チリリブ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、略称「リプレイ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。なお、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1 確チリリブ」が決定された場合、図 1 8 ~ 図 2 3 に示すように、略称「3 連チリリブ」に係る図柄組合せを表示できる。すなわち、内部当籤役「F__確チリリブ」及び「F__1 確チリリブ」は、略称「3 連チリリブ」に係る図柄組合せを表示できる役である。

【 0 2 1 2 】

また、内部当籤役「F__リーチ目リブ A」~「F__リーチ目リブ D」は、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なる押し順役であり、押し順が正解である場合には、略称「リーチ目リブ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 及び図 2 9 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、略称「リプレイ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

【 0 2 1 3 】

なお、本実施形態では、内部当籤役「F__チリリブ」、「F__確チリリブ」、「F__1 確チリリブ」及び「F__リーチ目リブ A」~「F__リーチ目リブ D」の当籤時における正解の押し順は、左リール 3 L に対して第 1 停止操作を行うものである。それゆえ、例えば、内部当籤役「F__リーチ目リブ A」が決定されている遊技において、遊技者が左リール 3 L に対して第 1 停止操作を行った場合には、略称「リーチ目リブ」に係る図柄組合せが停止表示される。なお、本発明はこれに限定されず、内部当籤役「F__チリリブ」、「F__確チリリブ」、「F__1 確チリリブ」及び「F__リーチ目リブ A」~「F__リーチ目リブ D」の当籤時における正解の押し順は、任意に設定することができる。

【 0 2 1 4 】

また、内部当籤役「F__維持リブ A」及び「F__維持リブ B」はともに、押し順役ではなく、押し順に関わらず略称「リプレイ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

【 0 2 1 5 】

また、内部当籤役「F__維持リブ__1 s t」~「F__維持リブ__3 r d」はいずれも、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なる押し順役であり、押し順が正解である場合には、略称「リプレイ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、略称「RT 2 移行リブ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

【 0 2 1 6 】

また、内部当籤役「F__RT 3 リブ__1 s t」~「F__RT 3 リブ__3 r d」はいずれも、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なる押し順役であり、押し順が正解である場合には、略称「RT 3 移行リブ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）が有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、略称「リプレイ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

【 0 2 1 7 】

また、内部当籤役「F__RT 4 リブ__1 2 3」~「F__RT 4 リブ__3 r d」はいずれも、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なる押し順役であり、押し順が正解である場合には、略称「RT 4 移行リブ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）が有効ライン

10

20

30

40

50

に沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、略称「リプレイ」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

【 0 2 1 8 】

また、内部当籤役「F__3 択ベル__1 s t」~「F__3 択ベル__3 r d」はいずれも、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なる押し順役であり、押し順が正解である場合には、略称「ベル」に係る図柄組合せ（後述の図 1 9 参照）が有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、略称「ベルこぼし目」に係る図柄組合せ（後述の図 2 8 参照）、又は、略称「1 枚出目」に係る図柄組合せ（後述の図 3 0 参照）が表示される。

10

【 0 2 1 9 】

また、内部当籤役「F__共通ベル」は、押し順役ではなく、押し順に関わらず略称「ベル」に係る図柄組合せ（後述の図 2 9 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。また、内部当籤役「F__サボ 1」及び「F__サボ 2」はいずれも、押し順役ではなく、押し順に関わらず略称「サボテン」に係る図柄組合せ（後述の図 3 0 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

【 0 2 2 0 】

また、内部当籤役「弱チェリー」は、押し順役ではなく、押し順に関わらず略称「弱チェリー」に係る図柄組合せ（後述の図 3 0 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。また、内部当籤役「F__強チリ 1」及び「F__強チリ 2」はいずれも、押し順役ではなく、押し順に関わらず略称「強チェリー」に係る図柄組合せ（後述の図 3 0 参照）のうちの図 1 8 ~ 図 2 3 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

20

【 0 2 2 1 】

[フラグ間状態中の当籤役と停止表示される図柄組合せとの対応関係]

次に、図 2 5 を参照して、フラグ間状態における、内部当籤役と停止表示される図柄組合せとの対応関係について説明する。なお、図 2 5 は、フラグ間状態における、内部当籤役と停止表示される図柄組合せとの対応関係（一部の役については省略）を示す図であり、特に、フラグ間状態中にボーナス役（BB 役）に係る図柄組合せ（コンビネーション名称「C__BB 1」又は「C__BB 2」）を表示可能であるか否を示す図である。

30

【 0 2 2 2 】

図 2 5 の対応表中の「BB の成立可否」欄に記載の「」印は、BB 役に係る図柄組み合わせが表示可能であることを示し、「x」印は、BB 役に係る図柄組み合わせが表示不可能であることを示す。なお、BB 役に係る図柄組み合わせが表示不可能である場合には、内部当籤役としてボーナス役と重複して決定されている役に係る図柄組み合わせが表示される。例えば、内部当籤役「F__BB 1 + F__チリリブ」が当籤した場合（内部当籤役「F__BB 1」と、内部当籤役「F__チリリブ」とが重複当籤した場合）、図 2 5 に示すように、内部当籤役「F__BB 1」に係る図柄組合せを停止表示することはできず、内部当籤役「F__チリリブ」に係る図柄組合せが停止表示される。

40

【 0 2 2 3 】

また、フラグ間状態中において、BB 役に係る図柄組合せが表示不可能であり、かつ、ボーナス役と重複して決定されている役に係る図柄組合せが表示される場合、図 2 4 で説明した押し順正解時の図柄組合せのみを表示可能にしてもよいし、押し順不正解時の図柄組合せのみを表示可能にしてもよい。

【 0 2 2 4 】

例えば、内部当籤役「F__BB 1 + F__3 択ベル__1 s t」が当籤した場合、図 2 5 に示すように、内部当籤役「F__BB 1」に係る図柄組合せを停止表示することはできないので、内部当籤役「F__3 択ベル__1 s t」に係る図柄組合せが停止表示されるが、この際、押し順正解時に表示される略称「ベル」に係る図柄組合せのみを表示可能にし、押し

50

順不正解時に表示される略称「ベルこぼし目」又は「1枚出目」に係る図柄組合せを表示不可能にしてもよい(図24参照)。また、例えば、内部当籤役「F__BB1+F__RT3リブ__1st」が当籤した場合に、押し順不正解時に表示される略称「リプレイ」に係る図柄組合せのみを表示可能にし、押し順正解時に表示される略称「RT3移行リブ」に係る図柄組合せを表示不可能にしてもよい(図24参照)。

【0225】

なお、フラグ間状態では、図25に示すように、ボーナス役(BB役)と、内部当籤役「はずれ」、「F__特殊1」、「F__特殊2」及び「F__特殊3」のいずれかとは重複して決定された場合、BB役に係る図柄組合せを停止表示することができる。

【0226】

[リール停止初期設定テーブル]

次に、図26を参照して、リール停止初期設定テーブルについて説明する。リール停止初期設定テーブルは、内部当籤役と、後述のリール停止制御処理で用いられる各種データとの対応関係を規定する。

【0227】

図26に示すリール停止初期設定テーブルは、内部当籤役(小役当籤番号)と、引込優先順位テーブル選択テーブル番号、引込優先順位テーブル番号及び停止テーブル番号との対応関係を規定する。なお、図26には、参照される遊技状態、及び、内部当籤役の名称も併せて記載する。

【0228】

引込優先順位テーブル選択テーブル番号、及び、引込優先順位テーブル番号は、引込優先順位テーブルの選択処理で用いられるデータである。例えば、リール停止初期設定テーブルにおいて、停止テーブル番号に対応する引込優先順位テーブル番号が規定されていれば、引込優先順位テーブル(後述の図27参照)に規定された引込優先順位テーブル番号に対応する表示役の優先順位に関するデータを取得することができる。一方、リール停止初期設定テーブルにおいて、停止テーブル番号に対応する引込優先順位テーブル番号が規定されていなければ、引込優先順位テーブル選択テーブル(不図示)を参照して、引込優先順位テーブル選択テーブル番号に対応する引込優先順位テーブル番号が決定される。

【0229】

ここで、本実施形態のパチスロ1におけるリールの停止制御(停止図柄位置の決定手法)について簡単に説明する。本実施形態では、ストップスイッチにより停止操作が検出された後、該当するリールの回転が190ms以内(以下、「190ms以内」)に停止するようにリールの停止制御が行われる。具体的には、停止操作が検出されたときの該当リールに応じた図柄カウンタの値に、滑り駒数「0」～「4」のうちの何れかを加算し、得られた値に対応する図柄位置を、リールの回転が停止する図柄位置(以下、「停止予定位置」という)として決定する。なお、停止操作が検出されたときの該当リールに応じた図柄カウンタの値に対応する図柄位置は、リールの回転の停止が開始される図柄位置(以下、「停止開始位置」という)である。

【0230】

すなわち、滑り駒数は、ストップスイッチにより停止操作が検出されてから該当するリールの回転が停止するまでのリールの回転量である。言い換えれば、ストップスイッチにより停止操作が検出されてから該当するリールの回転が停止するまでの期間において、リール表示窓4の該当するリールの中段領域を通過する図柄の数である。これは、ストップスイッチにより停止操作が検出されてから更新された図柄カウンタの値により把握される。

【0231】

図示しない停止テーブルを参照すると、各リールの停止開始位置に応じて滑り駒数が取得される。なお、本実施形態では、停止テーブルに基づいて滑り駒数が取得されるが、これは仮のものであり、取得した滑り駒数が直ちにリールの停止予定位置が決定されるものではない。本実施形態では、停止テーブルに基づいて取得された滑り駒数(以下、「滑り駒数決定データ」という)より適切な滑り駒数が存在する場合には、後述する引込優先順

10

20

30

40

50

位テーブル（後述の図 2 7 参照）を参照して滑り駒数を変更する。そして、滑り駒数決定データは、停止開始位置から最大滑り駒数である 4 個先の図柄位置までの各図柄について、優先順位の比較を行う際の検索順序を決定するために参照される。

【 0 2 3 2 】

[引込優先順位テーブル]

次に、図 2 7 を参照して、引込優先順位テーブルについて説明する。引込優先順位テーブルは、引込優先順位テーブル番号「 0 0 」～「 0 5 」のそれぞれにおける、後述の入賞作動フラグ格納領域（後述の図 2 8 ～ 図 3 0 参照）の種別毎の引込データ（入賞作動フラグデータ）と、予め定められたその優先順位との対応関係を規定する。

【 0 2 3 3 】

引込優先順位テーブルは、停止テーブル（不図示）に基づいて得られた滑り駒数の他に、より適切な滑り駒数が存在するか否かを検索するために使用される。優先順位は、入賞に係る図柄組合せ（入賞作動フラグ）の種別間で優先的に停止表示される（引き込まれる）順位を規定するデータである。また、図 2 7 では、説明の便宜上、引込データ（入賞作動フラグデータ）の欄には、入賞作動フラグのコンビネーション名称を記載するが、実際の引込優先順位テーブルでは、各引込データは、後述の入賞作動フラグ格納領域（後述の図 2 8 ～ 図 3 0 参照）に示すように、1 バイトのデータで表され、該 1 バイトデータ中の各ビットに対して固有の図柄組合せ（入賞作動フラグ）が割り当てられる。

【 0 2 3 4 】

本実施形態のリール停止制御では、まず、停止テーブル（不図示）に基づいて滑り駒数が取得される。しかしながら、優先順位に基づいて、この滑り駒数の他に、より適切な滑り駒数が存在する場合には、その適切な滑り駒数に変更する。すなわち、本実施形態では、停止テーブルにより取得された滑り駒数に関係なく、内部当籤役によって停止表示を許可する図柄組合せの優先順位に基づいて、より適切な滑り駒数を決定する。

【 0 2 3 5 】

本実施形態では、優先順位が上位である図柄組合せの停止表示（引き込み）が、優先順位が下位である図柄組合せの停止表示よりも優先的に行われる。

【 0 2 3 6 】

また、本実施形態では、図 2 7 に示すように、引込優先順位テーブル番号に応じて図柄組合せ（入賞作動フラグ）の優先順位が異なるだけでなく、優先順位の区分数も異なる。具体的には、引込優先順位テーブル番号が「 0 0 」である場合には、優先順位の区分数を 5 とし、引込優先順位テーブル番号が「 0 1 」又は「 0 4 」である場合には、優先順位の区分数を 4 とする。また、引込優先順位テーブル番号が「 0 2 」又は「 0 3 」である場合には、優先順位の区分数を 2 とし、引込優先順位テーブル番号が「 0 5 」である場合には、優先順位の区分数を 3 とする。

【 0 2 3 7 】

ここでは、引込優先順位テーブル番号が「 0 0 」である場合の優先順位について説明し、それ以外の引込優先順位テーブル番号における優先順位の説明は省略する。引込優先順位テーブル番号が「 0 0 」である場合の優先順位「 1 」（最上位の優先順位）には、コンビネーション名称「 C __ 9 枚 A __ 0 1 」、 「 C __ 1 確チリリプ C __ 0 1 」、 「 C __ 1 確チリリプ D __ 0 1 」、及び「 C __ R T 3 リプ __ 0 1 」に対応する引込データが規定される。

【 0 2 3 8 】

引込優先順位テーブル番号が「 0 0 」である場合の優先順位「 2 」には、コンビネーション名称「 C __ 強 2 枚 C __ 0 1 」、 「 C __ 強 2 枚 C __ 0 9 」、 「 C __ 弱 2 枚 B __ 0 1 」、 「 C __ 弱 2 枚 B __ 0 3 」、 「 C __ 3 枚 E __ 0 1 」、 「 C __ 3 枚 E __ 0 2 」、 「 C __ 9 枚 F __ 0 1 」、 「 C __ 9 枚 F __ 0 3 」、 「 C __ 1 確チリリプ B __ 0 1 」、 「 C __ チリリプ D __ 0 1 」、及び「 C __ チリリプ C __ 0 1 」に対応する引込データが規定される。

【 0 2 3 9 】

引込優先順位テーブル番号が「 0 0 」である場合の優先順位「 3 」には、コンビネーション名称「 C __ 1 確チリリプ A __ 0 1 」、 「 C __ チリリプ A __ 0 1 」、 「 C __ チリリプ B

10

20

30

40

50

__01」及び「C__維持リブレ__01」～「C__維持リブレ__04」に対応する引込データが規定される。

【0240】

引込優先順位テーブル番号が「00」である場合の優先順位「4」には、コンビネーション名称「C__SP1__01」、「C__SP2__01」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__リーチ目リブレ__02」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__リーチ目リブレ__02」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__リーチ目リブレ__02」、「C__リーチ目リブレ__01」～「C__リーチ目リブレ__03」、「C__リーチ目リブレ__01」～「C__リーチ目リブレ__03」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__リーチ目リブレ__01」～「C__リーチ目リブレ__09」、「C__リーチ目リブレ__01」～「C__リーチ目リブレ__03」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__リーチ目リブレ__02」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__リーチ目リブレ__02」、「C__リーチ目リブレ__01」～「C__リーチ目リブレ__03」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__リーチ目リブレ__02」、「C__リーチ目リブレ__01」、「C__維持リブレ__01」、「C__維持リブレ__02」、「C__維持リブレ__01」～「C__維持リブレ__04」、「C__維持リブレ__01」～「C__維持リブレ__03」、「C__維持リブレ__01」、「C__維持リブレ__02」及び「C__維持リブレ__01」に対応する引込データが規定される。

【0241】

また、引込優先順位テーブル番号が「00」である場合の優先順位「5」（最下位の優先順位）には、コンビネーション名称「C__BB1」及び「C__BB2」に対応する引込データが規定される。

【0242】

<メインRAMに設けられている格納領域の構成>

次に、図28～図35を参照して、メインRAM103に設けられる各種格納領域の構成について説明する。

【0243】

[当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域]

まず、図28～図30を参照して、当り要求フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）及び入賞作動フラグ格納領域（表示役格納領域）の構成について説明する。なお、本実施形態では、当り要求フラグ格納領域（フラグデータ格納領域、当籤役フラグデータ格納領域）と、入賞作動フラグ格納領域（入賞フラグデータ格納領域）とは、互いに同じ構成を有する。

【0244】

本実施形態では、当り要求フラグ格納領域は、それぞれ1バイトのデータにより表される当り要求格納領域0～11で構成され、入賞作動フラグ格納領域は、それぞれ1バイトのデータにより表される入賞作動格納領域0～11で構成される。なお、当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域の各格納領域に格納されるデータは、図28～図30中の「データ」欄の1バイトデータのみであるが、図28～図30では、説明の便宜上、各格納領域のビットに対応付けられた、各リールの図柄組合せ（図中では、左リール3Lの図柄、中リール3Cの図柄及び右リール3Rの図柄の順で記載）、その名称（コンビネーション名称）及び略称、並びに、メダルの払出枚数も併せて記載する。

【0245】

当り要求フラグ格納領域0～11のそれぞれにおいて、所定のビットに「1」が格納されているとき、その所定のビットに対応する内部当籤役が内部当籤したことを示す。また、入賞作動格納領域0～11のそれぞれにおいて、所定のビットに「1」が格納されているとき、その所定のビットに対応する表示役（入賞作動フラグ）が入賞したことを示す。すなわち、所定のビットに「1」が格納されているとき、その所定のビットに対応する内部当籤役の各種図柄組合せが有効ライン上に表示されたことを示す。

【 0 2 4 6 】

また、当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域では、図 2 8 ~ 図 3 0 に示すように、各格納領域内の一つのビット（フラグ）に対して、複数の図柄組合せ（コンビネーション）が割り当てられているものもある。すなわち、そのようなフラグに対しては、停止表示可能な図柄組合せ（入賞可能なコンビネーション）が複数存在することを意味する。

【 0 2 4 7 】

例えば、当り要求格納領域 5 及び入賞作動格納領域 5 のビット 5 には、図柄組合せ「サポテン 2」 - 「白 7」 - 「帽子」（コンビネーション名称「C__維持リプC__0 1」）、図柄組合せ「サポテン 2」 - 「チリ上 1」 - 「帽子」（コンビネーション名称「C__維持リプC__0 2」）、及び、図柄組合せ「サポテン 2」 - 「サポテン 2」 - 「帽子」（コンビネーション名称「C__維持リプC__0 3」）の 3 つの図柄組合せが割り当てられている。それゆえ、当り要求格納領域 5 のビット 5 に「1」が格納されている場合には、この 3 つの図柄組合せが有効ライン上に停止表示可能であることを示す。また、入賞作動格納領域 5 のビット 5 に「1」が格納されている場合には、この 3 つの図柄組合せのいずれかが有効ライン上に表示されたことを示す。

【 0 2 4 8 】

[持越役格納領域]

次に、図 3 1 を参照して、持越役格納領域の構成について説明する。本実施形態では、持越役格納領域は、1 バイトのデータ格納領域で構成される。

【 0 2 4 9 】

内部抽籤の結果、内部当籤役「F__BB 1」又は「F__BB 2」が決定されたときには、その内部当籤役（BB 役）は、持越役として持越役格納領域に格納される。持越役格納領域に格納された持越役は、対応する図柄組合せが有効ライン上に表示されるまでクリアされずに保持される。また、持越役格納領域に持越役が格納されている間、内部抽籤によって決定された内部当籤役に加えて、持越役が当り要求格納領域に格納される。

【 0 2 5 0 】

[遊技状態フラグ格納領域]

次に、図 3 2 を参照して、遊技状態フラグ格納領域の構成について説明する。遊技状態フラグ格納領域は、1 バイトのデータ格納領域で構成される。本実施形態では、図 3 2 に示すように、遊技状態フラグ格納領域の各ビットに対して固有のボーナスの種別又は R T の種別が割り当てられる。

【 0 2 5 1 】

遊技状態フラグ格納領域において、所定のビットに「1」が格納されているとき、その所定のビットに該当するボーナスゲーム又は R T の作動が行われていることを示す。例えば、遊技状態フラグ格納領域のビット 0 に「1」が格納されているときには、ビッグボーナス「BB」の作動が行われており、遊技状態が BB 遊技状態であることを示す。また、例えば、遊技状態フラグ格納領域のビット 3 に「1」が格納されているときは、遊技状態が R T 3 状態であることを示す。

【 0 2 5 2 】

[作動ストップボタン格納領域]

次に、図 3 3 を参照して、作動ストップボタン格納領域の構成について説明する。作動ストップボタン格納領域は、1 バイトのデータ格納領域で構成され、1 バイトからなる作動ストップボタンフラグを格納する。作動ストップボタンフラグにおいて、各ビットには、ストップボタンの操作状態が割り当てられる。

【 0 2 5 3 】

例えば、左ストップボタン 1 7 L が今回押されたストップボタン、つまり、作動ストップボタンである場合には、作動ストップボタン格納領域のビット 0 に「1」が格納される。また、例えば、左ストップボタン 1 7 L が未だに押されていないストップボタン、つまり、有効ストップボタンである場合には、ビット 4 に「1」が格納される。メイン CPU

10

20

30

40

50

101は、作動ストップボタン格納領域に格納されているデータに基づいて、今回押されたストップボタンと未だに押されていないストップボタンとを識別する。

【0254】

[押下順序格納領域]

次に、図34を参照して、押下順序格納領域の構成について説明する。押下順序格納領域は、1バイトのデータ格納領域で構成され、1バイトからなる押下順序フラグを格納する。

【0255】

押下順序フラグにおいて、各ビットには、ストップボタンの押下順序の種別が割り当てられる。例えば、ストップボタンの押下順序が「左、中、右」である場合には、押下順序格納領域のビット0に「1」が格納される。

10

【0256】

[図柄コード格納領域]

次に、図35を参照して、図柄コード格納領域の構成について説明する。本実施形態では、図柄コード格納領域は、それぞれ1バイトのデータにより表される図柄コード格納領域0～11で構成される。なお、図柄コード格納領域は、当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域（図28～図30参照）と同様の構成となる。

【0257】

図柄コード格納領域では、有効ライン上に停止可能な図柄組合せ（コンビネーション）に対応するビットに「1」が格納される。なお、全てのルールが停止後、図柄コード格納領域0～11には、表示役（入賞作動フラグ）に対応する図柄コードが格納される。

20

【0258】

[内部当籤役と各種サブフラグとの関係]

一般遊技状態やART遊技状態において、主制御回路90による各種抽籤では各種データテーブルを参照するが、この際に用いるパラメータとして、本実施形態では、内部当籤役だけでなく、内部当籤役に対応する別の名称の各種パラメータ（以下、「サブフラグ（第1のサブフラグ）」、「サブフラグEX（第2のサブフラグ）」及び「サブフラグD」という）も用いる。それゆえ、本実施形態では、主制御回路90により、内部当籤役を各種サブフラグに変換する処理を行う（後述の図104中のサブフラグ変換処理、フラグ変換処理、サブフラグ圧縮処理参照）。なお、本実施形態では、内部当籤役に関する情報（通信パラメータ）として、サブフラグがスタートコマンドにセットされ、主制御回路90から副制御回路200に送信される。

30

【0259】

ここで、図36及び図37を参照して、内部当籤役と各種サブフラグとの対応関係について説明する。図36は、内部当籤役（小役当籤番号）と各種サブフラグとの対応関係を示す図であり、図37は、内部当籤役（特賞当籤番号）とサブフラグとの対応関係を示す図である。

【0260】

本実施形態のフラグ変換処理では、まず、同じ種別に属する複数の内部当籤役を一つのサブフラグにまとめる。本実施形態では、このフラグ変換処理により、図36に示すように、小役及びリプレイに関する32種類の内部当籤役（小役当籤番号）が、18種類のサブフラグ（「01」～「18」：フラグデータ）に変換される。例えば、内部当籤役「F__維持リブ__1st（10：小役当籤番号）」～「F__維持リブ__3rd（12）」は、サブフラグ「押し順リブ1（09：フラグデータ）」にまとめられる。なお、内部当籤役「はずれ」に対しては、サブフラグ「ハズレ（00）」が割り当てられる。

40

【0261】

また、本実施形態のフラグ変換処理では、図36に示すように、サブフラグ「ハズレ（00）」を含む19種類のサブフラグ（「00」～「18」）が、9種類のサブフラグEX（「00」～「08」：フラグデータ）に変換される。それゆえ、この変換処理では、サブフラグデータをさらに圧縮することができる。なお、この際、本実施形態では、抽籤

50

(フラグ変換抽籤)によりサブフラグをサブフラグEXに変換する。具体的には、次のように変換される。

【0262】

サブフラグ「ハズレ(00)」は、フラグ変換抽籤の結果に関係なく、サブフラグEX「ハズレ(00)」に変換され、サブフラグ「2連チリリプ(01)」は、フラグ変換抽籤の結果に関係なく、サブフラグEX「リプレイ(01)」に変換される。

【0263】

サブフラグ「3連チリリプA(02)」及びサブフラグ「3連チリリプB(03)」は、フラグ変換抽籤に当籤した場合(後述の「変換有り」の場合)、サブフラグEX「確定役(06)」又は「3連チリリプ(07)」に変換され、フラグ変換抽籤に非当籤であった場合(後述の「変換無し」の場合)には、サブフラグEX「リプレイ(01)」に変換される。

10

【0264】

サブフラグ「リーチ目リプ1(04)」～「リーチ目リプ4(07)」は、フラグ変換抽籤に当籤した場合、サブフラグEX「確定役(06)」又は「リーチ目リプ(08)」に変換され、フラグ変換抽籤に非当籤であった場合には、サブフラグEX「リプレイ(01)」に変換される。

【0265】

サブフラグ「リプレイ(08)」及び「押し順リプ1(09)」～「押し順リプ3(11)」は、フラグ変換抽籤の結果に関係なく、サブフラグEX「リプレイ(01)」に変換され、サブフラグ「押し順ベル(12)」及び「共通ベル(13)」は、フラグ変換抽籤の結果に関係なく、サブフラグEX「ベル(02)」に変換される。

20

【0266】

サブフラグ「サボテン(14)」、「弱チェリー(15)」及び「強チェリー(16)」は、フラグ変換抽籤の結果に関係なく、それぞれサブフラグEX「サボテン(03)」、「弱チェリー(04)」及び「強チェリー(05)」に変換される。また、サブフラグ「リーチ目1(17)」及び「リーチ目2(18)」は、フラグ変換抽籤の結果に関係なく、サブフラグEX「ハズレ(00)」に変換される。

【0267】

上述のように、本実施形態では、実質、サブフラグ「3連チリリプA(02)」、「3連チリリプB(03)」及び「リーチ目リプ1(04)」～「リーチ目リプ4(07)」のみがフラグ変換抽籤の対象となる。なお、上述したフラグ変換抽籤に用いられる抽籤テーブルについては、後で詳述する。

30

【0268】

さらに、本実施形態のフラグ変換処理では、図36に示すように、9種類のサブフラグEX(「00」～「08)」が7種類のサブフラグD(「00」～「06)」に変換される。それゆえ、この変換処理では、より一層、サブフラグデータを圧縮することができる。なお、この変換処理では抽籤を行わず、次のようにして、サブフラグEXとサブフラグDとを対応付けて変換を行う。

【0269】

サブフラグEX「ハズレ(00)」、「リプレイ(01)」及び「ベル(02)」は、サブフラグD「ハズレ(00)」に変換される。サブフラグEX「サボテン(03)」は、サブフラグD「サボテン(01)」に変換され、サブフラグEX「弱チェリー(04)」は、サブフラグD「弱チェリー(02)」に変換され、サブフラグEX「強チェリー(05)」は、サブフラグD「強チェリー(03)」に変換される。

40

【0270】

また、サブフラグEX「確定役(06)」は、サブフラグD「確定役(04)」に変換され、サブフラグEX「3連チリリプ(07)」は、サブフラグD「3連チリリプ(05)」に変換され、サブフラグEX「リーチ目リプ(08)」は、サブフラグD「リーチ目リプ(06)」に変換される。

50

【 0 2 7 1 】

また、本実施形態のフラグ変換処理では、図 3 7 に示すように、内部当籤役「F__BB 1 (0 1 : 特賞当籤番号) 」及び「F__BB 2 (0 2) 」はいずれも、サブフラグ「BB」に変換される。

【 0 2 7 2 】

[サブフラグ E X 変換時の遊技性]

ここで、上述した内部当籤役をサブフラグ及びサブフラグ E X に変換する処理の過程、及び、サブフラグ E X 変換時の遊技性の一例を、図 3 8 A 及び 3 8 B を参照して説明する。図 3 8 A は、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1 確チリリブ」が決定された場合のフラグ変換過程を示す図であり、図 3 8 B は、内部当籤役「F__リーチ目リブ A 」～「F__リーチ目リブ D 」のいずれかが決定された場合のフラグ変換過程を示す図である。

10

【 0 2 7 3 】

なお、本実施形態のパチスロ 1 では、R T 4 遊技状態中に内部当籤役「F__確チリリブ」、「F__1 確チリリブ」及び「F__リーチ目リブ A 」～「F__リーチ目リブ D 」のいずれかが単独で内部当籤役として決定されると、フラグ変換抽籤を行う。そして、本実施形態では、このフラグ変換抽籤に当籤した場合、特別な特典（例えば、A R T ゲーム数の上乘せや C T 当籤）が付与される。

【 0 2 7 4 】

例えば、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1 確チリリブ」が決定された場合、図 3 8 A に示すように、内部当籤役「F__確チリリブ」及び「F__1 確チリリブ」は、それぞれサブフラグ「3 連チリリブ A (0 2) 」及び「3 連チリリブ B (0 3) 」に変換される。

20

【 0 2 7 5 】

次いで、サブフラグ「3 連チリリブ A (0 2) 」及び「3 連チリリブ B (0 3) 」は、フラグ変換抽籤に当籤すると、サブフラグ E X 「3 連チリリブ (0 7) 」又は「確定役 (0 6) 」に変換される。一方、フラグ変換抽籤に非当籤であった場合には、サブフラグ「3 連チリリブ A (0 2) 」及び「3 連チリリブ B (0 3) 」はともに、サブフラグ E X 「リプレイ (0 1) 」に変換される。

【 0 2 7 6 】

なお、図 2 4 で説明したように、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1 確チリリブ」が当籤した場合、押し順正解時には略称「3 連チリリブ」に係る図柄組合せが表示され、押し順不正解時には略称「リプレイ」に係る図柄組合せが表示される。それゆえ、本実施形態では、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1 確チリリブ」が決定され、かつ、フラグ変換抽籤に当籤した場合、内部当籤役「F__確チリリブ」及び「F__1 確チリリブ」はいずれも、サブフラグ E X 「3 連チリリブ (0 7) 」又は「確定役 (0 6) 」の役として扱われる。

30

【 0 2 7 7 】

そして、このフラグ変換過程によって内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1 確チリリブ」がサブフラグ E X 「3 連チリリブ (0 7) 」又は「確定役 (0 6) 」に変換されると、略称「3 連チリリブ」に係る図柄組合せを表示するための情報が報知される（例えば、遊技者に対して順押しでチリ図柄を狙わせる旨の情報が報知される）。一方、このフラグ変換過程において、フラグ変換抽籤が非当籤となり、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1 確チリリブ」がサブフラグ E X 「リプレイ (0 1) 」に変換されると、略称「リプレイ」に係る図柄組合せを表示するための情報が報知される（例えば、順押し以外の押し順（変則押し）が報知される）。

40

【 0 2 7 8 】

また、例えば、内部当籤役「F__リーチ目リブ A 」～「F__リーチ目リブ D 」のいずれかが決定された場合、図 3 8 B に示すように、内部当籤役「F__リーチ目リブ A 」～「F__リーチ目リブ D 」は、それぞれサブフラグ「リーチ目リブ 1 (0 4) 」～「リーチ目リブ 4 (0 7) 」に変換される。

50

【0279】

次いで、サブフラグ「リーチ目リプ1(04)」～「リーチ目リプ4(07)」は、フラグ変換抽籤に当籤すると、サブフラグEX「リーチ目リプ(08)」又は「確定役(06)」に変換される。一方、フラグ変換抽籤に非当籤であった場合には、サブフラグ「リーチ目リプ1(04)」～「リーチ目リプ4(07)」は、サブフラグEX「リプレイ(01)」に変換される。

【0280】

なお、図24で説明したように、内部当籤役「F__リーチ目リプA」～「F__リーチ目リプD」のいずれかが当籤した場合、押し順正解時には略称「リーチ目リプ」に係る図柄組合せが表示され、押し順不正解時には略称「リプレイ」に係る図柄組合せが表示される。それゆえ、本実施形態では、内部当籤役「F__リーチ目リプA」～「F__リーチ目リプD」のいずれかが決定され、かつ、フラグ変換抽籤に当籤した場合、内部当籤役「F__リーチ目リプA」～「F__リーチ目リプD」はいずれも、サブフラグEX「リーチ目リプ(08)」又は「確定役(06)」の役として扱われる。

10

【0281】

そして、このフラグ変換過程によって内部当籤役「F__リーチ目リプA」～「F__リーチ目リプD」が例えばサブフラグEX「リーチ目リプ(08)」又は「確定役(06)」に変換されると、略称「リーチ目リプ」に係る図柄組合せを表示するための情報が報知される(例えば、遊技者に対して順押しで図柄「白7」を狙わせる旨の情報が報知される)。一方、このフラグ変換過程において、フラグ変換抽籤が非当籤となり、内部当籤役「F__リーチ目リプA」～「F__リーチ目リプD」がサブフラグEX「リプレイ(01)」に変換されると、略称「リプレイ」に係る図柄組合せを表示するための情報が報知される(例えば、順押し以外の押し順(変則押し)が報知される)。

20

【0282】

また、本実施形態では、図38A又は38Bに示すフラグ変換過程において、フラグ変換抽籤に当籤して報知に従い遊技者が停止操作を行うと、略称「3連チリリプ」又は「リーチ目リプ」に係る図柄組合せが有効ライン上に停止表示され、特別な特典が付与される。この付与処理は、実質的には処理上において、パチスロ1がフラグ変換抽籤に当籤したことに応じて特別な特典を遊技者に付与することになるが、遊技者に対しては、略称「3連チリリプ」に係る図柄組合せが表示されたことにより、特別な特典が付与されたと感じさせることができる。

30

【0283】

パチスロの遊技性を高めるためには、特典が付与される図柄組合せの出現頻度が一定であるよりも、状態に応じて異なる方が好ましい場合がある。停止制御(表示される図柄組合せ)は、内部当籤役の種類によって異なるため、特典が付与される図柄組合せの出現頻度を状態に応じて異ならせる手法としては、内部当籤役の当籤確率を異ならせる手法も考えられる(パチスロ1では、内部当籤役の当籤確率は、ボーナスの作動の有無やRT状態に応じて異ならせることができるため、例えば、ART遊技状態に対応するRT状態として、RT4状態だけでなく、RT6状態やRT7状態などの他のRT状態を設けるという手法も考えられる)。しかしながら、内部当籤役の当籤確率を異ならせる契機(RT状態の移行契機)は限定されているため、遊技性(興趣)の向上という観点では、この手法は柔軟性に欠けている。

40

【0284】

それに対して、本実施形態のパチスロ1では、内部当籤役の当籤確率を変えずに、内部当籤役を決定するための内部抽籤に加え、フラグ変換抽籤及びその抽籤結果に基づく報知を行うことにより、特典が付与される図柄組合せの出現頻度を状態に応じて柔軟に異ならせることができる。すなわち、フラグ変換抽籤に当籤し易い状態では、特典が付与される図柄組合せの出現頻度を上げることができ、逆に、フラグ変換抽籤に当籤し難い状態では、特典が付与される図柄組合せの出現頻度を下げることができる。

【0285】

50

< 一般遊技状態中の遊技性 >

次に、図39A～39Cを参照して、一般遊技状態中の遊技の流れについて説明する。本実施形態のパチスロ1では、一般遊技状態中において、遊技状態が通常遊技状態からCZに移行し、その後、遊技状態がCZからART遊技状態に移行することにより、一般遊技状態（非ART遊技状態）からART遊技状態への移行が行われる（図14A及び14B参照）。

【0286】

図39Aは、一般遊技状態中において、遊技状態が通常遊技状態からCZに移行する際の遊技の流れを示す図である。通常遊技状態は、図39Aに示すように、CZの抽籤状態として低確率状態と高確率状態とを有する。この低確率状態及び高確率状態は、通常遊技状態中に行われるCZ抽籤に当籤する期待度が互いに異なる状態であり、低確率状態はCZ抽籤に当籤し難い状態であり、高確率状態はCZ抽籤に当籤し易い状態である。そして、通常遊技状態中の遊技において行われるCZ抽籤に当籤した場合には、遊技状態が通常遊技状態からCZに移行する。

10

【0287】

なお、本実施形態のパチスロ1では、CZ（チャンスゾーン）として、「CZ1」、「CZ2」及び「CZ3」の複数のチャンスゾーンを設ける。CZ1～CZ3は、CZ中の遊技で行われるART抽籤に当籤する期待度が互いに異なるチャンスゾーンであり、CZ3は、ART抽籤に必ず当籤するチャンスゾーンであり、CZ1及びCZ2は、所定の確率でART抽籤に当籤するチャンスゾーンである。通常遊技状態中の遊技で行われるCZ抽籤では、CZの当籤/非当籤だけでなく、当籤時に移行するCZの種別（CZ1～CZ3のいずれか）も決定される（後述の図41参照）。

20

【0288】

図39Bは、遊技状態が一般遊技状態のCZ1及びCZ2からART遊技状態に移行する際の遊技の流れを示す図である。CZ1及びCZ2はともに、前半部と後半部とから構成される。前半部は、CZ中の遊技で行われるART抽籤に当籤する期待度のランクを昇格させる期間であり、後半部は、ランクに基づくART抽籤の抽籤結果を所定の演出（本実施形態では、キャラクタによるバトル演出）により報知する期間である。

【0289】

CZ1中では、ランクとして6段階のモード（モード1～6）が用意され、モードが上がるほど、ART抽籤に当籤する期待度が高くなる。CZ1の前半部では、第1の所定ゲーム数（例えば、最大で12ゲーム）の期間、継続して遊技が行われ、内部当籤役に基づいてモードの昇格抽籤が行われる。そして、CZ1の後半部の1ゲーム目では、前半部で昇格させたモード（前半部終了時点のモード）に基づいてART抽籤が行われる。

30

【0290】

また、CZ2中では、ランクとして10段階のポイントが用意され、ポイントが上がるほど、ART抽籤に当籤する期待度が高くなる。CZ2の前半部では、第2の所定ゲーム数（例えば、最大で15ゲーム）の期間、継続して遊技が行われ、内部当籤役に基づいてポイントの昇格抽籤が行われる。そして、CZ2の後半部の1ゲーム目では、前半部で昇格させたポイント（前半部終了時点のポイント）に基づいてART抽籤が行われる。

40

【0291】

CZ1の後半部では、味方キャラクタと敵キャラクタAとが対戦するバトル演出が行われ、CZ2の後半部では、味方キャラクタと敵キャラクタBとが対戦するバトル演出が行われる。このバトル演出は、第3の所定ゲーム数（例えば、最大で4ゲーム）の期間の遊技に渡って行われる。また、バトル演出の勝敗は、ART抽籤の結果に基づいて管理（決定）され、ART抽籤に当籤している場合には、バトル演出で味方キャラクタが勝利し、非当籤である場合には、バトル演出で敵キャラクタが勝利する。

【0292】

また、CZ1及びCZ2の各後半部（バトル演出中）では、毎ゲーム、内部当籤役に基づいてART抽籤が行われる。そして、このART抽籤に当籤すると、バトル演出の結果

50

が書き換えられる。例えば、バトル演出中にいわゆる「レア」役が内部当籤役として決定されると、ART抽籤が行われ、その結果に基づいてバトル演出の結果が書き換えられる。

【0293】

CZ1及びCZ2において、ARTに非当籤の場合には、後半部のバトル演出で敗北し、基本的には、その後、遊技状態が通常遊技状態に移行する。一方、CZ1及びCZ2において、ARTに当籤している場合には、後半部のバトル演出で勝利し、その後、遊技状態がCZからART準備状態を経由して通常ARTに移行する。なお、本実施形態では、CZ1及びCZ2の前半部の遊技において、フリーズが発生する場合があります。その場合には、遊技状態がCZからART準備状態を経由して、通常ARTではなくCT（上乘せチャンスゾーン）に移行する。

10

【0294】

図39Cは、遊技状態が一般遊技状態のCZ3からART遊技状態に移行する際の遊技の流れを示す図である。CZ3は、第4の所定ゲーム数（例えば、最大で17ゲーム）の期間、継続して遊技が行われる。そして、CZ3では、毎ゲーム、内部当籤役に基づいてART抽籤が行われる。

【0295】

CZ3は、ART抽籤に当籤した時点で終了し、その次のゲーム以降、遊技状態がCZ3からART準備状態を経由してCT（上乘せチャンスゾーン）に移行する。また、CZ3では、フリーズが発生する場合があります。その場合にも、次ゲーム以降、遊技状態がCZ3からART準備状態を経由してCT（上乘せチャンスゾーン）に移行する。一方、CZ3において、ART抽籤に当籤せずにCZ3の遊技期間（第4の所定ゲーム数）が経過した場合、遊技状態がCZ3からART準備状態を経由して通常ARTに移行する。すなわち、本実施形態では、CZ3は、ART遊技状態への移行が確定しているチャンスゾーンである。

20

【0296】

<一般遊技状態中に用いる各種データテーブル>

続いて、図40～図45を参照して、一般遊技状態中に行われる遊技性に関する抽籤処理で用いられる各種データテーブルについて説明する。なお、以下に説明する各種データテーブルは、メインROM102に格納される。

【0297】

また、以下に示す各種データテーブルでは、抽籤値の情報を概念的に示す。データテーブル中の「0」は、当籤確率「0%」に相当する抽籤値が規定されていることを意味し、「極々低」は、当籤確率「0%～1%未満」に相当する抽籤値が規定されていることを意味し、「極低」は、当籤確率「1%～10%未満」に相当する抽籤値が規定されていることを意味する。また、データテーブル中の「低」は、当籤確率「10%～30%未満」に相当する抽籤値が規定されていることを意味し、「中」は、当籤確率「30%～60%未満」に相当する抽籤値が規定されていることを意味し、「高」は、当籤確率「60%～80%未満」に相当する抽籤値が規定されていることを意味する。さらに、データテーブル中の「極高」は、当籤確率「80%～99%未満」に相当する抽籤値が規定されていることを意味し、「極々高」は、当籤確率「99%～100%未満」に相当する抽籤値が規定されていることを意味し、「確定」は、当籤確率「100%」に相当する抽籤値が規定されていることを意味する。

30

40

【0298】

そして、以下に示す各種データテーブルでは、乱数回路110の乱数レジスタ1により、予め定められた数値の範囲（0～65535）から抽出される抽籤用乱数値を、規定された抽籤値で順次減算し、減算の結果が負となったか否か（いわゆる「桁かり」が生じたか否か）の判定を行うことによって内部的な抽籤が行われる。なお、本実施形態では、一般遊技状態中に行われる遊技性に関する抽籤処理において抽籤用乱数値から抽籤値を減算して当籤/非当籤を判定する例を説明したが、本発明はこれに限定されず、抽出した抽籤用乱数値に抽籤値を加算し、加算結果が65536を超えたか否か（いわゆる「桁あふれ

50

」が生じたか否か)を判定して、当籤/非当籤を決定してもよい。

【0299】

[通常中高確率抽籤テーブル]

まず、図40A及び40Bを参照して、CZの抽籤状態(低確率及び高確率)の移行抽籤で用いられる通常中高確率抽籤テーブルについて説明する。なお、本実施形態のパチスロ1では、毎ゲーム、内部当籤役に基づいてCZの抽籤状態の移行抽籤が行われるだけでなく、例えばボーナス終了時やCZ, ART終了時などの場合にもCZの抽籤状態の移行抽籤が行われる。図40Aは、通常遊技状態中に毎ゲーム参照される通常中高確率抽籤テーブルの構成図であり、図40Bは、例えば設定変更時、ボーナス終了時又はCZ, ART終了時等に参照される通常中高確率抽籤テーブルの構成図である。なお、図40Aに示す内部当籤役の名称は、上述したサブフラグの名称に対応する。

10

【0300】

図40Aに示す通常中高確率抽籤テーブルは、現在のCZの抽籤状態と内部当籤役との各組合せと、移行後のCZの抽籤状態の抽籤結果(低確率/高確率)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。

【0301】

図40Aに示す通常中高確率抽籤テーブルから明らかのように、現在のCZの抽籤状態が低確率である場合には、内部当籤役がサブフラグ「弱チェリー」に対応する役であるときに、CZの抽籤状態が高確率に移行し易くなる。一方、現在のCZの抽籤状態が高確率である場合には、内部当籤役がサブフラグ「共通ベル」、「サボテン」、「弱チェリー」及び「強チェリー」のいずれかに対応する役であるときに、CZの抽籤状態が高確率に維持される。

20

【0302】

図40Bに示す通常中高確率抽籤テーブルは、該テーブルを参照する際の各状況と、移行後のCZの抽籤状態の抽籤結果(低確率/高確率)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。図40Bに示す通常中高確率抽籤テーブルから明らかのように、ボーナス終了時にはCZの抽籤状態が必ず高確率に移行する。

【0303】

[CZ抽籤テーブル]

次に、図41A及び41Bを参照して、CZ抽籤で用いられるCZ抽籤テーブルについて説明する。図41Aは、通常遊技状態中に内部当籤役に基づいてCZ抽籤を行う際に用いられるCZ抽籤テーブルの構成図であり、図41Bは、例えばCZ失敗時やART終了時などにおいて、CZの引き戻しを行うか否かのCZ抽籤を行う際に用いられるCZ抽籤テーブルの構成図である。なお、図41Aに示す内部当籤役の名称は、上述したサブフラグの名称に対応する。

30

【0304】

図41Aに示すCZ抽籤テーブルは、現在のCZの抽籤状態と内部当籤役との各組合せと、CZ1、CZ2, CZ3の当籤/非当籤(抽籤結果)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。図41Aに示すCZ抽籤テーブルから明らかのように、現在のCZの抽籤状態が高確率中である場合には、現在のCZの抽籤状態が低確率中である場合よりも、CZ抽籤に当籤する確率が高くなる。

40

【0305】

図41Bに示すCZ抽籤テーブルは、CZ失敗時やART終了時における、CZ1、CZ2, CZ3の当籤/非当籤(抽籤結果)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。CZ失敗時(CZ1、CZ2中のART抽籤に非当籤時)やART遊技状態の終了時には、このCZ抽籤テーブルを用いてCZの引き戻し抽籤が行われる。

【0306】

[CZ1中モードアップ抽籤テーブル]

次に、図42を参照して、CZ1の前半部において行われるCZ1のモードアップ抽籤

50

で用いられるC Z 1中モードアップ抽籤テーブルについて説明する。図4 2は、C Z 1中モードアップ抽籤テーブルの構成図である。なお、図4 2に示す内部当籤役の名称は、上述したサブフラグの名称に対応する。

【0307】

C Z 1中モードアップ抽籤テーブルは、現在のモードと内部当籤役との各組合せと、モードアップ抽籤の結果（当籤／非当籤）と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。後述の図4 4 Aに示すように、C Z 1では、モードが上がる（モードの値が高くなる）ほどART抽籤に当籤する確率が上がり、モードがモード6まで上がると、ART抽籤に必ず当籤する。

【0308】

なお、図4 2中の抽籤結果「モード1UP」とは、C Z 1のモードが1段階上がることを意味し、抽籤結果「モード2UP」とは、C Z 1のモードが2段階上がることを意味する。それゆえ、例えば、現在のモードがモード2である状況において、抽籤結果「モード2UP」に当籤すると、C Z 1のモードはモード2からモード4に上がる。また、例えば、抽籤結果「モード6UP__フリーズ発生」に当籤すると、フリーズが発生し、ART抽籤の当籤及びCTの付与が決定される。

【0309】

[C Z 2中ポイント抽籤テーブル]

次に、図4 3を参照して、C Z 2の前半部において行われるC Z 2のポイントアップ抽籤で用いられるC Z 2中ポイント抽籤テーブルについて説明する。図4 3は、C Z 2中ポイント抽籤テーブルの構成図である。なお、図4 3に示す内部当籤役の名称は、上述したサブフラグの名称に対応する。

【0310】

C Z 2中ポイント抽籤テーブルは、現在のポイントと内部当籤役との各組合せと、ポイントアップ抽籤の結果（当籤／非当籤）と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。後述の図4 4 Bに示すように、C Z 2では、ポイントが上がるほどART抽籤に当籤する確率が上がり、ポイントが「ポイント10」まで上がると、ART抽籤に必ず当籤する。なお、図4 3中の抽籤結果「ポイント2UP」とは、現在のC Z 2のポイントに「2」が加算されることを意味し、例えば、現在のポイントが「2」である状況において、抽籤結果「ポイント2UP」に当籤すると、C Z 2のポイントは「2」から「4」に上がる。また、例えば、抽籤結果の「ポイント10UP__フリーズ発生」に当籤すると、フリーズが発生し、ART抽籤の当籤及びCTの付与が決定される。

【0311】

[C Z中ART抽籤テーブル]

次に、図4 4 A～4 4 C及び図4 5を参照して、C Z中に実行されるART抽籤で用いられるC Z中ART抽籤テーブルについて説明する。なお、図4 4 Aは、C Z 1の後半部の1ゲーム目で用いられるC Z中ART抽籤テーブル（C Z 1用）の構成図であり、図4 4 Bは、C Z 2の後半部の1ゲーム目で用いられるC Z中ART抽籤テーブル（C Z 2用）の構成図であり、図4 4 Cは、C Z 1、C Z 2の後半部で用いられるC Z中ART抽籤テーブル（C Z 1、C Z 2共通 後半バトル中用）の構成図である。また、図4 5は、C Z 3中に実行されるART抽籤で用いられるC Z中ART抽籤テーブル（C Z 3用）の構成図である。なお、図4 4 C及び図4 5に示す内部当籤役の名称は、上述したサブフラグの名称に対応する。

【0312】

図4 4 Aに示すC Z中ART抽籤テーブル（C Z 1用）は、現在のモードと、ART抽籤の結果（当籤の有無）と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。また、図4 4 Bに示すC Z中ART抽籤テーブル（C Z 2用）は、現在のポイントと、ART抽籤の結果（当籤の有無）と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。

【0313】

10

20

30

40

50

C Z中A R T抽籤テーブル(C Z 1用)及びC Z中A R T抽籤テーブル(C Z 2用)から明らかなように、C Z 1及びC Z 2では前半部のランク(モード又はポイント)が上がるほど、A R T抽籤に当籤し易くなる。

【0314】

図44Cに示すC Z中A R T抽籤テーブル(C Z 1, C Z 2共通 後半バトル中用)は、内部当籤役と、A R T抽籤の結果(当籤の有無)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。C Z中A R T抽籤テーブル(C Z 1, C Z 2共通 後半バトル中用)から明らかなように、C Z 1及びC Z 2の後半部において、レア役(サブフラグ「弱チェリー」、「サポテン」又は「強チェリー」に対応する役)が内部当籤役として決定されると、所定の確率でA R T抽籤に当籤する。

10

【0315】

図45に示すC Z中A R T抽籤テーブル(C Z 3用)は、C Z 3の消化ゲーム数と内部当籤役との各組合せと、A R T抽籤の結果(当籤の有無)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。C Z中A R T抽籤テーブル(C Z 3用)から明らかなように、本実施形態では、C Z 3中においてA R T抽籤に当籤すると必ずC Tにも当籤する。

【0316】

<通常A R T中の遊技性>

次に、図46A及び46Bを参照して、遊技A R T中の遊技の流れについて説明する。本実施形態のパチスロ1では、上述のように、A R T遊技状態として、通常A R TとC Tとが設けられ(図14A及び14B参照)、C T中を上乗せチャンスゾーンとしている。それゆえ、本実施形態では、遊技者は、通常A R T中の遊技において、C Tへの移行を目指して遊技を行うことになる。

20

【0317】

[通常A R TからC Tへの移行態様]

図46Aは、通常A R TからC Tへの遊技状態の移行態様を示す図である。本実施形態のパチスロ1では、図46Aに示すように、通常A R T中に行われるC T抽籤に当籤した場合、遊技状態が通常A R TからC Tに移行する。なお、本実施形態のパチスロ1は、図46Aに示すように、通常A R T中に行われる様々な抽籤に影響を与えるパラメータとして、A R Tレベル及びC T抽籤状態が設けられる。

30

【0318】

A R Tレベルとしては、レベル1～レベル4の4段階のレベルが設けられ、このA R Tレベルは、主に通常A R T中の継続(消化)ゲーム数に基づいて制御(決定)される。そして、A R Tレベルは、C T抽籤状態の決定や後述する通常A R T中のフラグ変換抽籤などに対して影響を与える。

【0319】

C T抽籤状態としては、低確率、通常、高確率及び超高確率の4段階の状態が設けられ、C T抽籤状態は、主に、A R Tレベルや通常A R T中の内部当籤役などに基づいて制御(決定)される。そして、C T抽籤状態は、通常A R T中に行うC T抽籤や後述する通常A R T中のフラグ変換抽籤などに対して影響を与える。

40

【0320】

[通常A R T中のフラグ変換]

上述のように、本実施形態のパチスロ1では、R T 4状態中、すなわち、A R T遊技状態中に、内部当籤役「F__確チリリブ」、「F__1確チリリブ」及び「F__リーチ目リブA」～「F__リーチ目リブD」のいずれかが単独で内部当籤役として決定されると、フラグ変換抽籤を行い、その抽籤結果に応じて特別な特典(例えば、A R Tゲーム数の上乗せやC T当籤)を付与する。図46Bは、通常A R T中に行われるフラグ変換抽籤の手法の概要を示す図である。

【0321】

本実施形態では、図46Bに示すように、通常A R T中において、A R Tレベル及びC

50

T抽籤状態を参照して、フラグ変換抽籤が行われる。その結果、フラグ変換抽籤に当籤した場合には、特別な特典を付与するとともに、略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せや略称「リーチ目リブ」に係る図柄組合せなどを有効ライン上に停止表示させるためのナビ（例えば、順押しで所定の図柄を狙わせる旨の情報の報知）が行われる。一方、フラグ変換抽籤に非当籤であった場合には、略称「リプレイ」に係る図柄組合せを有効ライン上に停止表示させるためのナビ（例えば、順押し以外の押し順の報知）が行われる。

【0322】

そして、遊技者がこの報知（ナビ）に従い停止操作を行うと、報知内容に応じた図柄組合せが有効ライン上に停止表示される。具体的には、フラグ変換抽籤に当籤した場合には略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せや略称「リーチ目リブ」に係る図柄組合せなどが有効ライン上に停止表示され、フラグ変換抽籤に非当籤であった場合には略称「リプレイ」に係る図柄組合せが有効ライン上に停止表示される。

10

【0323】

<通常ART中に用いる各種データテーブル>

次に、図47～図51を参照して、通常ART中の抽籤処理で用いられる各種データテーブルについて説明する。なお、以下に説明する各種データテーブルは、メインROM102に格納される。

【0324】

[ART中フラグ変換抽籤テーブル]

図47A及び47Bは、通常ART中に行われるフラグ変換抽籤で用いられるART中フラグ変換抽籤テーブルの構成図である。

20

【0325】

本実施形態に係るパチスロ1では、通常ART中のフラグ変換抽籤を2段階で行う。具体的には、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」が当籤した場合、まず、1段階目のフラグ変換抽籤が行われ、この1段階目のフラグ変換抽籤に当籤すると、その後、2段階目のフラグ変換抽籤が行われる。そして、この2段階目のフラグ変換抽籤に当籤すると、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」がサブフラグEX「3連チリリブ」に変換される。一方、1段階目のフラグ変換抽籤又は2段階目のフラグ変換抽籤が非当籤であった場合には、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」はサブフラグEX「リプレイ」に変換される（通常のリプレイ役として扱う）。なお、内部当籤役「F__リーチ目リブA」～「F__リーチ目リブD」のいずれかが当籤した場合には、2段階目のフラグ変換抽籤のみが行われる。

30

【0326】

図47Aは、1段階目のフラグ変換抽籤で用いられるART中フラグ変換抽籤テーブルの構成図であり、図47Bは、2段階目のフラグ変換抽籤で用いられるART中フラグ変換抽籤テーブルの構成図である。

【0327】

図47Aに示すART中フラグ変換抽籤テーブルは、内部当籤役（「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」）と、1段階目のフラグ変換抽籤の抽籤結果（変換無し/変換有り（仮））と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。

40

【0328】

図47Bに示すART中フラグ変換抽籤テーブルは、内部当籤役とARTレベルとCT抽籤状態との各組合せと、2段階目のフラグ変換抽籤の抽籤結果（変換無し/変換有り）と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。なお、通常ARTにおいて1回、CTに当籤するまでの遊技では、図47B中の項目「ARTレベル」の「初回（一度CTに当籤するまで）」欄のテーブルが参照される。

【0329】

本実施形態において、図47A及び47Bに示すように、ART中フラグ変換抽籤テーブルのそれぞれを用いた段階目及び2段階目のフラグ変換抽籤では、確率分母が「256」となる乱数値（0～255）を用いて抽籤が行われる。それゆえ、本実施形態では、上

50

述した２段階のフラグ変換抽籤は、確率分母が「６５５３６」となる乱数値を用いて一回抽籤を行う場合と実質同一の抽籤であるとみなすことができる。

【０３３０】

近年のパチスロでは、従来、副制御基板７２側（以下、「サブ側」という）で行っていた出玉に関する抽籤（ＡＲＴ抽籤など）を主制御基板７１側（以下、「メイン側」という）で行うことが求められている。しかしながら、メイン側の記憶手段（メインＲＯＭ１０２）の容量が小容量に制限されているため、処理容量の増加を抑えつつ遊技性を損なうことのない抽籤を可能にする仕組みが求められている。

【０３３１】

この点に関して、本実施形態のパチスロ１では、確率分母が「２５６」となる抽籤を２段階で行うことにより、確率分母が「６５５３６」となる抽籤を行うことができるので、抽籤処理に係るメイン側の容量の増加を抑えることができる。また、２段階目の抽籤では、ＡＲＴレベルやＣＴ抽籤状態などを参照するので、内部当籤役だけでなく現在の状態に応じたフラグ変換抽籤を行うことができ、その結果、多様な遊技性を持ったフラグ変換抽籤を行うことができる。

10

【０３３２】

[ＡＲＴレベル決定テーブル]

図４８Ａ及び４８Ｂは、ＡＲＴレベルを決定する際に用いられるＡＲＴレベル決定テーブルの構成図である。なお、ＡＲＴレベルの決定処理は、ＡＲＴ遊技状態への移行が決まったＡＲＴ当籤時、及び、通常ＡＲＴ中に行われる。図４８Ａは、ＡＲＴ当籤時に用いられるＡＲＴレベル決定テーブルの構成図であり、図４８Ｂは、通常ＡＲＴ中に用いられるＡＲＴレベル決定テーブルの構成図である。

20

【０３３３】

図４８Ａに示すＡＲＴレベル決定テーブルは、ＡＲＴレベル１～４（抽籤結果）と、各ＡＲＴレベルに対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。なお、本実施形態では、ＡＲＴ当籤時にフリーズが発生している場合には、ＡＲＴレベルとしてＡＲＴレベル２が決定される。

【０３３４】

図４８Ｂに示すＡＲＴレベル決定テーブルは、現在のＡＲＴレベルと通常ＡＲＴの経過（消化）ゲーム数との各組合せと、移行先の各種ＡＲＴレベルと、移行先の各ＡＲＴレベルに対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。また、図４８Ｂに示すＡＲＴレベル決定テーブルは、現在のＡＲＴレベルとＣＴ突入時の通常ＡＲＴの経過ゲーム数との各組合せと、移行先の各種ＡＲＴレベルと、移行先の各ＡＲＴレベルに対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。すなわち、通常ＡＲＴ中では、通常ＡＲＴの経過（消化）ゲーム数が所定ゲーム数に到達したタイミングでＡＲＴレベルが移行可能となるだけでなく、通常ＡＲＴ中においてＣＴに突入したタイミングにおいてもＡＲＴレベルが移行可能となる。

30

【０３３５】

[通常ＡＲＴ中高確率抽籤テーブル]

図４９は、通常ＡＲＴ中においてＣＴ抽籤状態を決定する際に用いられる通常ＡＲＴ中高確率抽籤テーブルの構成図である。

40

【０３３６】

通常ＡＲＴ中高確率抽籤テーブルは、現在のＣＴ抽籤状態と内部当籤役との各組合せと、移行先の各種ＣＴ抽籤状態と、各ＣＴ抽籤状態に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。なお、図４９に示す内部当籤役の名称は、上述したサブフラグの名称に対応する。

【０３３７】

通常ＡＲＴ中高確率抽籤テーブルから明らかなように、サブフラグ「３連チリリプ（３連チリリプＡ及び３連チリリプＢ）」やサブフラグ「リーチ目リプ（リーチ目リプ１～４）」に対応する内部当籤役が当籤している場合、ＣＴ抽籤状態が「低確率」に移行（転落

50

)し易くなる。ただし、後述の図50に示すように、サブフラグ「3連チリリブ」や「リーチ目リブ」に対応する内部当籤役が当籤している場合には、CT抽籤状態が転落しても、CT抽籤に必ず当籤する構成になっている。

【0338】

[ART中CT抽籤テーブル]

図50は、通常ART中に行われるCT抽籤で用いられるART中CT抽籤テーブルの構成図である。

【0339】

ART中CT抽籤テーブルは、現在のCT抽籤状態と内部当籤役との各組合せと、CT抽籤の各種抽籤結果(非当籤/通常CT/高確率CT)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。なお、図50に示す内部当籤役の名称は、上述したサブフラグの名称に対応する。

10

【0340】

本実施形態において、内部当籤役として、サブフラグ「サポテン」、「弱チェリー」、「強チェリー」、「3連チリリブ(3連チリリブA及び3連チリリブB)」、「リーチ目リブ(リーチ目リブ1~4)」又は「BB」に対応する役が決定されている場合、ART中CT抽籤テーブルを用いたCT抽籤処理では、確率分母が「256」となる範囲の乱数値を用いたCT抽籤が行われる。また、内部当籤役としてこれらの役以外の内部当籤役(例えば、サブフラグ「リプレイ」、「共通ベル」、「押し順ベル」などに対応する役)が決定されている場合には、ART中CT抽籤テーブルを用いたCT抽籤処理において、確率分母が「65536」となる範囲の乱数値を用いたCT抽籤が行われる。

20

【0341】

なお、本実施形態のパチスロ1では、CTとして「通常CT」及び「高確率CT」と称する2種類のCTを設ける。通常CTと高確率CTとでは、CT(上乘せチャンスゾーン)中に上乘せされるARTゲーム数の期待度が互いに異なり、高確率CTは、通常CTに比べて多くのARTゲーム数が上乘せされ易いCTである(後述の図55参照)。

【0342】

[通常ART中上乘せ抽籤テーブル]

図51は、通常ART中に行われるARTゲーム数の上乘せ抽籤で用いられる通常ART中上乘せ抽籤テーブルの構成図である。なお、図51に示す内部当籤役の名称は、上述したサブフラグの名称に対応する。

30

【0343】

通常ART中上乘せ抽籤テーブルは、内部当籤役と、上乘せ抽籤の各種抽籤結果(非当籤/上乘せ10G~300G)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。

【0344】

<CT中の遊技性>

次に、図52A~52Cを参照して、CT中の遊技の流れについて説明する。なお、図52A及び52Bは、主に、サブフラグEX「3連チリリブ」当籤時におけるCT中の遊技フローの概要を示す図であり、図52Cは、CT中に行われるフラグ変換処理の概要を示す図である。

40

【0345】

[CT中の遊技内容]

本実施形態のパチスロ1において、CTでは、1セット8回(8ゲーム)の遊技が行われる。CT期間中には、毎ゲーム、内部当籤役に基づいて、ARTゲーム数の上乘せ抽籤が行われる。そして、その上乘せ抽籤に当籤した場合には、CT遊技の単位遊技数(ゲーム数)の減算は行われず、一方、上乘せ抽籤が非当籤であった場合には、CT遊技の単位遊技数(ゲーム数)の減算が行われる。それゆえ、CT期間中において、ARTゲーム数が上乘せされた遊技では、CTが終了することなく、同一のセット内でARTゲーム数が上乘せされない遊技が8回実施されると、CTが終了する。

50

【 0 3 4 6 】

また、本実施形態では、図 5 2 A 及び 5 2 B に示すように、C T 期間中にサブフラグ E X 「 3 連チリリブ」が当籤した場合、すなわち、内部当籤役「 F __ 確チリリブ」又は「 F __ 1 確チリリブ」が当籤し、かつ、フラグ変換抽籤に当籤した場合、1 セット 8 回の C T 遊技が再セット（ストック）される。そして、この再セット（ストック）された C T 遊技のセットは、当該 C T 遊技のセットが終了した後に開始される。

【 0 3 4 7 】

例えば、同一セット内で A R T ゲーム数の上乗せ抽籤に非当籤である単位遊技が 7 回行われた後、A R T ゲーム数が上乗せされない C T 遊技が 1 回行われると C T が終了するが、このゲームにおいてサブフラグ E X 「 3 連チリリブ」が当籤していると、C T 遊技の再セットが行われる。その結果、C T 遊技が再セットされた後、A R T ゲーム数の上乗せ抽籤に非当籤である単位遊技が 8 回行われるまで C T が終了しないことになる。それゆえ、C T の遊技期間は、サブフラグ E X 「 3 連チリリブ」が当籤するほど長くなる。

10

【 0 3 4 8 】

[C T 中のフラグ変換]

次に、図 5 2 C を参照して、C T 中に行われるフラグ変換抽籤の手法について説明する。上述のように、本実施形態では、C T 期間中にサブフラグ E X 「 3 連チリリブ」が当籤すると（内部当籤役「 F __ 確チリリブ」又は「 F __ 1 確チリリブ」が当籤し、かつ、フラグ変換抽籤に当籤すると）、C T が再セット（ストック）される。また、後述の図 5 4 の C T 中フラグ変換抽籤テーブルに示すように、C T 中に内部当籤役「 F __ 確チリリブ」又は「 F __ 1 確チリリブ」が当籤すると、フラグ変換抽籤に必ず当籤する（サブフラグ E X 「 3 連チリリブ」に必ず変換される）。すなわち、本実施形態では、C T 中において、内部当籤役「 F __ 確チリリブ」又は「 F __ 1 確チリリブ」が当籤すると、C T が必ず再セットされる。

20

【 0 3 4 9 】

また、内部当籤役「 F __ リーチ目リブ A 」～「 F __ リーチ目リブ D 」のいずれかが当籤した場合におけるフラグ変換抽籤では、3 種類のフラグ変換テーブル（テーブル 0 ～ 2 ）に基づいて、フラグ変換抽籤の当籤確率が制御される。具体的には、図 5 2 C に示すように、テーブル 0 はサブフラグ E X 「 リーチ目リブ」に変換される確率が最も低いフラグ変換テーブルであり、テーブル 1 はサブフラグ E X 「 リーチ目リブ」に変換される確率が次に低いフラグ変換テーブルであり、テーブル 2 はサブフラグ E X 「 リーチ目リブ」に変換される確率が最も高いフラグ変換テーブルである。なお、C T 中にサブフラグ E X 「 リーチ目リブ」に当籤すると、後述の図 5 6 の C T 中セット数上乗せ抽籤テーブルに示すように、C T が新たに付与される。

30

【 0 3 5 0 】

また、本実施形態において、通常 C T では、図 5 2 C に示すように、A R T レベルに基づいてフラグ変換テーブルが決定される。一方、高確率 C T では、A R T レベルに関係なく、フラグ変換テーブルとして、テーブル 0 が必ず決定される。

【 0 3 5 1 】

< C T 中に用いる各種データテーブル >

次に、図 5 3 ～ 図 5 6 を参照して、C T 中に行われる抽籤処理で用いられる各種データテーブルについて説明する。なお、以下に説明する各種データテーブルは、メイン R O M 1 0 2 に格納される。

40

【 0 3 5 2 】

[C T 中テーブル抽籤テーブル]

図 5 3 は、3 段階のフラグ変換テーブル（テーブル 0 ～ 2 ）の中からフラグ変換抽籤に用いるテーブルを決定する際に用いられる C T 中テーブル抽籤テーブルの構成図である。

【 0 3 5 3 】

C T 中テーブル抽籤テーブルは、A R T レベルやこれから実行する C T の種別などの各状態と、フラグ変換テーブル（テーブル 0 ～ 2 ）の種別と、各種別に対応付けられた抽籤

50

値の情報との対応関係を規定する。なお、C T中テーブル抽籤テーブルは、C T抽籤に当籤してC Tに移行することが決定された時、又は、C Tの開始時に参照される。

【0354】

[C T中フラグ変換抽籤テーブル]

図54は、C T中に行われるフラグ変換抽籤で用いられるC T中フラグ変換抽籤テーブルの構成図である。

【0355】

C T中フラグ変換抽籤テーブルは、内部当籤役(「F__確チリリプ」、「F__1確チリリプ」及び「F__リーチ目リプA」～「F__リーチ目リプD」のいずれか)と、各フラグ変換テーブル(テーブル0～2)におけるフラグ変換抽籤の抽籤結果(変換無し/変換有り)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。C T中フラグ変換抽籤テーブルから明らかなように、C T中に内部当籤役「F__確チリリプ」又は「F__1確チリリプ」が当籤すると、フラグ変換抽籤に必ず当籤する(サブフラグEX「3連チリリプ」に必ず変換される)。

10

【0356】

[C T中上乘せ抽籤テーブル]

図55は、C T中に行われるARTゲーム数の上乘せ抽籤で用いられるC T中上乘せ抽籤テーブルの構成図である。

【0357】

C T中上乘せ抽籤テーブルは、現在のC T状態と内部当籤役との各組合せと、上乘せ抽籤の各種抽籤結果(非当籤/上乘せ10ゲーム/.../上乘せ300ゲーム)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。なお、図55に示す内部当籤役の名称は、上述したサブフラグの名称に対応し、図55に示す内部当籤役(サブフラグ)以外の役が内部当籤した場合には、C T中の上乗せ抽籤に当籤することはない。

20

【0358】

また、本実施形態の通常C T中における上乘せ抽籤では、サブフラグ「3連チリリプ」(内部当籤役「F__確チリリプ」又は「F__1確チリリプ」)の当籤回数に応じて上乘せゲーム数の付与形態が変化する。

【0359】

具体的には、同一のC Tセット中におけるサブフラグ「3連チリリプ」の当籤回数が1～8回である場合には、図55中に示す抽籤結果「上乘せ__10G」及び「上乘せ__20G」で付与される上乘せゲーム数はそれぞれ10ゲーム及び20ゲームとなる。それゆえ、この場合には、ARTの上乗せゲーム数として10ゲームが決定され易くなる。また、同一のC Tセット中におけるサブフラグ「3連チリリプ」の当籤回数が9～16回である場合には、図55中に示す抽籤結果「上乘せ__10G」及び「上乘せ__20G」で付与される上乘せゲーム数はともに20ゲームとなる。すなわち、図55中のサブフラグ「3連チリリプ」の抽籤値「極高」に対応する上乘せゲーム数(抽籤結果)が20ゲームに昇格する。それゆえ、この場合には、ARTの上乗せゲーム数として20ゲームが決定され易くなる。

30

【0360】

また、同一のC Tセット中におけるサブフラグ「3連チリリプ」の当籤回数が17～24回である場合には、図55中に示す抽籤結果「上乘せ__10G」及び「上乘せ__20G」で付与される上乘せゲーム数はともに30ゲームとなる。すなわち、図55中のサブフラグ「3連チリリプ」の抽籤値「極高」及び「極低」に対応する上乘せゲーム数(抽籤結果)が30ゲームに昇格する。それゆえ、この場合には、ARTの上乗せゲーム数として「30ゲーム」が決定され易くなる。さらに、同一のC Tセット中におけるサブフラグ「3連チリリプ」の当籤回数が25回以上である場合には、図55中に示す抽籤結果「上乘せ__10G」及び「上乘せ__20G」で付与される上乘せゲーム数はともに50ゲームとなる。すなわち、図55中のサブフラグ「3連チリリプ」の抽籤値「極高」及び「極低」に対応する上乘せゲーム数(抽籤結果)が50ゲームに昇格する。それゆえ、この場合に

40

50

は、ARTの上乗せゲーム数として「50ゲーム」が決定され易くなる。

【0361】

上述のように、本実施形態のパチスロ1では、CT中のサブフラグ「3連チリリブ」の当籤回数に応じて1回の上乗せ抽籤により上乗せできるARTゲーム数を増やすことが可能になる。また、上述のように、本実施形態では、ARTゲーム数の上乗せが行われている限り、CTは終了することなく、さらに、サブフラグEX「3連チリリブ」に当籤するとCTの再セット（ストック）が行われる。それゆえ、本実施形態では、遊技者に対して、CTが継続するほど、1ゲーム当りの上乗せ量の増加に対する期待を抱かせることができ、CT中の興趣を向上させることができる。また、1ゲーム当りの上乗せ量を増やす契機となるサブフラグ「3連チリリブ」の当籤回数は、CT1セット分の基本遊技回数（8回）よりも多い回数（9回以上）であるため、遊技者に対して過大な利益を与えてしまうことを防止でき、遊技者及び遊技店間において、利益のバランスをとることができる。

10

【0362】

なお、本実施形態では、上述したサブフラグ「3連チリリブ」（内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」）の当籤回数は、同一のCTセット中において計数された回数とするが、本発明はこれに限定されない。例えば、CT中に行われるセット数上乗せ抽籤に当籤した場合に付与される新たなCTも「同一のCTセット中」に含めるようにしてもよい。

【0363】

[CT中セット数上乗せ抽籤テーブル]

図56は、CT中に行われるCTセットの上乗せ抽籤で用いられるCT中セット数上乗せ抽籤テーブルの構成図である。

20

【0364】

CT中セット数上乗せ抽籤テーブルは、現在のCT状態と内部当籤役（サブフラグ「リーチ目リブ（リーチ目リブ1~4）」）との各組合せと、上乗せ抽籤の各種抽籤結果（非当籤/通常CT当籤/高確率CT当籤）と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。

【0365】

CT中セット数上乗せ抽籤テーブルから明らかなように、CT中に内部当籤役「F__リーチ目リブA」~「F__リーチ目リブD」のいずれかに当籤すると、CTセットの上乗せ抽籤に必ず当籤する（CTのセットが必ずストックされる）。なお、ストックされたCTのセットは、現在作動中のCTのセットが終了した後に開始される。

30

【0366】

<ボーナス状態中の遊技性>

次に、図57A~57Cを参照して、ボーナス状態中の遊技の流れについて説明する。図57Aは、一般遊技状態（ART非当籤）中に遊技状態がボーナス状態に移行した場合における遊技の流れを示す図であり、図57Bは、通常ART中に遊技状態がボーナス状態に移行した場合における遊技の流れを示す図であり、図57Cは、CT中に遊技状態がボーナス状態に移行した場合における遊技の流れを示す図である。

【0367】

なお、本実施形態のパチスロ1では、図57A~57Cに示すように、遊技性の面において、ボーナスの種別として通常BBと特殊BBとを設け、ボーナス状態への移行時にこのボーナスの種別が決定される。この際、特殊BBが決定された場合には、ボーナス状態の終了後、遊技状態はART準備状態を経由してCTに移行する。一方、通常BBが決定された場合には、移行先の遊技状態は、ボーナス状態に移行する前の状態に応じて異なる。

40

【0368】

遊技状態が一般遊技状態から通常BBに移行した場合、図57Aに示すように、通常BB中の遊技では、内部当籤役に基づいてART抽籤が行われる。そして、このART抽籤に当籤すると、ボーナス状態の終了後、遊技状態がART準備状態を経由して通常ARTに移行する。なお、この場合、ART抽籤に当籤した後のボーナス状態中の遊技では、A

50

R Tゲーム数の上乗せ抽籤が行われる。

【0369】

遊技状態が通常ARTから通常BBに移行した場合、図57Bに示すように、通常BBの終了時にCT抽籤が行われる。このCT抽籤の当籤確率は50%であり、当籤するとボーナス状態の終了後に、遊技状態はART準備状態を経由してCTに移行する。一方、CT抽籤に非当籤である場合には、ボーナス状態の終了後に、遊技状態はART準備状態を経由して通常ARTに移行する。なお、通常ARTから移行したボーナス状態中の遊技では、ARTゲーム数の上乗せ抽籤も行われる。

【0370】

遊技状態がCTから通常BB又は特殊BBに移行した場合、図57Cに示すように、ボーナス状態の終了後に、遊技状態はART準備状態を経由してCTに移行する。なお、CTから移行したボーナス状態中の遊技では、ARTゲーム数の上乗せ抽籤も行われる。

10

【0371】

<ボーナス状態中の遊技で用いる各種データテーブル>

続いて、図58～図60を参照して、ボーナス状態中の遊技で行われる抽籤処理で用いられる各種データテーブルについて説明する。なお、以下に説明する各種データテーブルは、メインROM102に格納される。

【0372】

[ボーナス種別抽籤テーブル]

図58は、ボーナス種別(通常BB、特殊BB)を決定する際に用いられるボーナス種別抽籤テーブルの構成図である。

20

【0373】

ボーナス種別抽籤テーブルは、ボーナス状態に移行する前の各遊技状態(CT及びそれ以外)と、各種抽籤結果(ボーナス種別:通常BB/特殊BB)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。なお、ボーナス種別抽籤テーブルを参照したボーナス種別の決定処理は、ボーナス状態の開始時に行われる。

【0374】

[ボーナス中ARTゲーム数上乗せ抽籤テーブル]

図59は、ボーナス状態中の遊技で行われるART抽籤及びARTゲーム数の上乗せ抽籤で用いられるボーナス中ARTゲーム数上乗せ抽籤テーブルの構成図である。

30

【0375】

ボーナス中ARTゲーム数上乗せ抽籤テーブルは、現在のボーナス種別と内部当籤役との各組合せと、上乗せ抽籤の各種抽籤結果(非当籤/5ゲーム/.../300ゲーム)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。

【0376】

本実施形態では、ART非当籤の状態(一般遊技状態から移行した通常BBにおいて、ART抽籤に当籤するまでの状態)では、ボーナス中ARTゲーム数上乗せ抽籤テーブルは、ART抽籤に用いられる。具体的には、ART非当籤の状態において、ボーナス中ARTゲーム数上乗せ抽籤テーブルを用いた抽籤により1ゲーム以上(図59に示す例では50ゲーム以上)の上乗せゲーム数が決定されると、ART抽籤に当籤するとともに、対応するゲーム数がARTゲーム数として付与される。一方、ART当籤後の状態では、ボーナス中ARTゲーム数上乗せ抽籤テーブルは、ARTゲーム数の上乗せ抽籤のみに用いられる。

40

【0377】

[ボーナス終了時CT抽籤テーブル]

図60は、ボーナス状態の終了時に行われるCT抽籤で用いられるボーナス終了時CT抽籤テーブルの構成図である。

【0378】

ボーナス終了時CT抽籤テーブルは、ボーナス種別(通常BB、特殊BB)とボーナス状態に移行する前の遊技状態(通常CT中、高確率CT中)との各組合せと、CT抽籤の

50

各種抽籤結果（非当籤／通常ＣＴ当籤／高確率ＣＴ当籤）と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。ボーナス終了時ＣＴ抽籤テーブルから明らかのように、例えば、通常ＡＲＴ中に通常ＢＢが行われると、ボーナス状態の終了時に５０％の確率でＣＴに当籤する。

【０３７９】

<一般遊技状態中の例外的な遊技性>

次に、図６１を参照して、一般遊技状態中の例外的な遊技の流れについて説明する。

【０３８０】

本実施形態のパチスロ１における基本的な遊技状態の流れでは、一般遊技状態中に遊技状態が通常遊技状態からＣＺに移行し、ＣＺにおいてＡＲＴ抽籤に当籤することにより遊技状態がＡＲＴ遊技状態に移行する。そして、本実施形態では、ＲＴ４状態において報知を行うことによりＡＲＴ遊技状態を実現している。また、本実施形態では、図６１に示すように、停止表示される図柄組合せに応じてＲＴ状態の移行制御を行う。

10

【０３８１】

なお、ＲＴ状態を移行させるための図柄組合せは、遊技者の停止操作の順序（押し順）に応じて停止表示されるもの（図２４参照）であるので、報知が行われない場合であっても偶然、ＲＴ状態がＲＴ４状態に移行することもある。また、ＲＴ４状態では、内部当籤役「Ｆ__リーチ目リプＡ」～「Ｆ__リーチ目リプＤ」のいずれかが決定される可能性があるため、一般遊技状態（非ＡＲＴ）中であっても、特別な特典が付与されるリーチ目（略称「リーチ目リプ」に係る図柄組合せ）を表示することができる。

20

【０３８２】

そこで、本実施形態のパチスロ１では、図６１に示すように、一般遊技状態（非ＡＲＴ）中に偶然、ＲＴ状態がＲＴ４状態に移行し、略称「リーチ目リプ」に係る図柄組合せが表示可能な状態になると、ＣＺを経由することなく、遊技状態をＡＲＴ遊技状態（通常ＡＲＴ）に移行可能にする。

【０３８３】

より具体的には、一般遊技状態で、かつ、ＲＴ４状態中に内部当籤役「Ｆ__リーチ目リプＡ」～「Ｆ__リーチ目リプＤ」のいずれかが決定されると、フラグ変換抽籤を行い、このフラグ変換抽籤に当籤すると、略称「リーチ目リプ」に係る図柄組合せを表示するための報知（ナビ）が行われるとともに、ＡＲＴの権利が付与される。一方、一般遊技状態で、かつ、ＲＴ４状態中に内部当籤役「Ｆ__リーチ目リプＡ」～「Ｆ__リーチ目リプＤ」のいずれかが決定された場合において、フラグ変換抽籤に非当籤となると、略称「リプレイ」に係る図柄組合せを表示するための報知が行われ、略称「リーチ目リプ」に係る図柄組合せが表示されないような制御が行われる。

30

【０３８４】

<一般遊技状態中の例外的な遊技制御で用いる各種データテーブル>

次に、図６２を参照して、上述した一般遊技状態中の例外的な遊技制御で行われる抽籤処理で用いるデータテーブルについて説明する。なお、以下に説明するデータテーブルは、メインＲＯＭ１０２に格納される。

【０３８５】

[非ＡＲＴ中フラグ変換抽籤テーブル]

図６２は、一般遊技状態で、かつ、ＲＴ４状態中の遊技で行われるフラグ変換抽籤で用いられる非ＡＲＴ中フラグ変換抽籤テーブルの構成図である。

40

【０３８６】

非ＡＲＴ中フラグ変換抽籤テーブルは、内部当籤役（「Ｆ__リーチ目リプＡ」～「Ｆ__リーチ目リプＤ」）と、フラグ変換抽籤の抽籤結果（変換無し／変換あり）と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。

【０３８７】

<メイン側の制御による報知機能>

従来のパチスロでは、ＡＲＴ中にサブ（副制御基板７２）側の制御により、リールの停

50

止操作の情報（押し順など）の報知（ナビ）を行っていた。しかしながら、この報知の有無が遊技者の利益（いわゆる、出玉）に影響を与えるため、近年では、遊技者の利益を管理するメイン（主制御基板 7 1）側で報知を行うことが求められている。そこで、本実施形態のパチスロ 1 では、上述のように、メイン側で制御される情報表示器 6 に停止操作の情報を報知するための指示モニタ（不図示）を設け、メイン側の制御により、リールの停止操作の情報を報知する機能が設けられている。

【 0 3 8 8 】

ここで、図 6 3 A ~ 6 3 D に、本実施形態のパチスロ 1 において、メイン側で行う報知（ナビ）とサブ側で行う報知（ナビ）との対応関係を示す。なお、図 6 3 A は、ART 準備状態における、メイン側で行う報知（ナビ）とサブ側で行う報知（ナビ）との対応関係を示す図であり、図 6 3 B は、ART（通常 ART 又は CT）中における、メイン側で行う報知（ナビ）とサブ側で行う報知（ナビ）との対応関係を示す図である。また、図 6 3 C は、RT 5 状態中（BB 1 フラグ間）における、メイン側で行う報知（ナビ）とサブ側で行う報知（ナビ）との対応関係を示す図であり、図 6 3 D は、RT 5 状態中（BB 2 フラグ間）における、メイン側で行う報知（ナビ）とサブ側で行う報知（ナビ）との対応関係を示す図である。

10

【 0 3 8 9 】

本実施形態では、図 6 3 A ~ 6 3 D に示すように、メイン（主制御基板 7 1）側では、指示モニタに「1」~「11」の数値を表示することにより、リールの停止操作の情報を報知する。なお、指示モニタに表示されるこの「1」~「11」の数値は、それぞれが報知する停止操作の内容に一義的に対応している。

20

【 0 3 9 0 】

具体的には、数値「1」~「3」はそれぞれ、第 1 停止操作を行うリールの種別を示しており、数値「1」は第 1 停止操作を左リール 3 L に対して行うことを意味し、数値「2」は第 1 停止操作を中リール 3 C に対して行うことを意味し、数値「3」は第 1 停止操作を右リール 3 R に対して行うことを意味する。

【 0 3 9 1 】

また、数値「4」~「9」はそれぞれ、報知する押し順を示しており、数値「4」は押し順が「左、中、右」の順であることを意味し、数値「5」は押し順が「左、右、中」の順であることを意味し、数値「6」は押し順が「中、左、右」の順であることを意味し、数値「7」は押し順が「中、右、左」の順であることを意味し、数値「8」は押し順が「右、左、中」の順であることを意味し、数値「9」は押し順が「右、中、左」の順であることを意味する。

30

【 0 3 9 2 】

また、数値「10」及び「11」はそれぞれ、ボーナス役を報知するものであり、数値「10」は、コンビネーション名称「C__BB 1」に係る図柄組合せ（図柄「白 7」 - 図柄「白 7」 - 図柄「白 7」）を意味し、数値「11」は、コンビネーション名称「C__BB 2」に係る図柄組合せ（図柄「青 7」 - 図柄「青 7」 - 図柄「青 7」）を意味する。

【 0 3 9 3 】

なお、メイン側（指示モニタ）で報知する数値「1」~「11」は、報知する停止操作の内容に一義的に対応しているものの、全ての遊技者が、その数値に基づいて、明確に報知内容を把握できるとは限らない。例えば、メイン側で指示モニタに数値「6」を表示しただけでは、遊技者によっては報知内容を把握できない可能性もある。

40

【 0 3 9 4 】

そこで、本実施形態のパチスロ 1 では、メイン側の報知と併せてサブ側でもストップボタンの停止操作に係る情報を報知する。具体的には、サブ側で制御される表示装置 1 1（プロジェクタ機構 2 1 1 及び表示ユニット 2 1 2）を用いて、サブ側の制御により停止操作に係る情報の報知を行う。

【 0 3 9 5 】

例えば、第 1 停止操作を左リール 3 L に対して行う押し順を報知する場合、メイン側で

50

指示モニタに数値「1」を表示するとともに、サブ側では、表示装置11の表示画面内の左リール3Lの上方に数値「1」と表示し、左リール3Lが第1停止操作の対象であることを報知する。また、押し順「中、左、右」を報知する場合、メイン側で指示モニタに数値「6」を表示するとともに、サブ側では、表示装置11の表示画面内の中リール3Cの上方に数値「1」を表示し、左リール3Lの上方に数値「2」を表示し、右リール3Rの上方に数値「3」を表示し、この表示により押し順が「中、左、右」の順であることを報知する。また、内部当籤役「F__BB1」が決定されている場合、メイン側で指示モニタに数値「10」を表示するとともに、サブ側では、表示装置11の表示画面に「白7」 - 「白7」 - 「白7」の図柄組合せに関する情報を表示し、遊技者に対して狙うべき図柄を報知する。

10

【0396】

なお、メイン側で報知を行うタイミングは、少なくとも報知を行う一遊技の期間であれば任意のタイミングに設定することができる。例えば、遊技者の開始操作を検知した（受け付けた）タイミングでメイン側の報知を行ってもよいし、リールの回転開始時にメイン側の報知を行ってもよいし、第1停止操作～第3停止操作のいずれかを検知したタイミングでメイン側の報知を行ってもよい。一方、サブ側で報知を行うタイミングは、少なくとも第1停止操作よりも前のタイミングであることが好ましい。それゆえ、本実施形態のパチスロ1では、開始操作を検知したタイミング、又は、リールの回転開始時のタイミングで、メイン側及びサブ側の双方において報知（ナビ）を行う。これにより、遊技者が停止操作を行う前に、メイン側の指示モニタ及びサブ側の表示装置11の双方において停止操作の情報が報知される。

20

【0397】

ART準備状態では、図63Aに示すように、メイン側の制御により、「ベルナビ」、「維持リブナビ」、「RT3移行リブナビ」及び「RT4移行リブナビ」と称する報知（ナビ）が行われる。「ベルナビ」では、内部当籤役「F__3択ベル__1st」～「F__3択ベル__3rd」が決定された際に、略称「ベル」に係る図柄組合せ（図29参照）を有効ライン上に停止表示させるための押し順が報知される。「維持リブナビ」では、内部当籤役「F__維持リブ__1st」～「F__維持リブ__3rd」が決定された際に、略称「リブレイ」に係る図柄組合せ（図28参照）を有効ライン上に停止表示させるための押し順が報知される。「RT3移行リブナビ」では、内部当籤役「F__RT3移行リブ__1st」～「F__RT3移行リブ__3rd」が決定された際に、略称「RT3移行リブ」に係る図柄組合せ（図28参照）を有効ライン上に停止表示させるための押し順が報知される。また、「RT4移行リブナビ」では、内部当籤役「F__RT4移行リブ__123」～「F__RT4移行リブ__3rd」が決定された際に、略称「RT4移行リブ」に係る図柄組合せ（図28参照）を有効ライン上に停止表示させるための押し順が報知される。

30

【0398】

また、ART遊技状態（通常ART又はCT）中では、図63Bに示すように、メイン側の制御により、「ベルナビ」、「維持リブナビ」、「RT3移行リブナビ」及び「RT4移行リブナビ」と称する報知（ナビ）が行われる。なお、ART遊技状態（RT4状態）中の遊技は、フラグ変換抽籤が行われ、この抽籤結果に基づいて略称「3連チリリブ」、「リーチ目リブ」又は「リブレイ」に係る図柄組合せを表示させるための押し順が報知されるが、この報知は、サブ側のみで行われ、メイン側では行われない。

40

【0399】

上述のように、略称「3連チリリブ」又は「リーチ目リブ」に係る図柄組合せは、特別な特典の付与に関係しているため、報知の有無が遊技者の利益（出玉）に影響を与えるように見えるが、実際には、本実施形態のパチスロ1では、特別な特典は、フラグ変換抽籤の抽籤結果に基づいて付与されるものであるため、表示される図柄組合せは付与する特典に対して影響を与えない。それゆえ、例えば、フラグ変換抽籤に当籤している状態において、仮に、略称「リブレイ」に係る図柄組合せが停止表示されてしまっても、特別な特典が付与される。一方、フラグ変換抽籤に当籤していない状態において、仮に、略称「3連

50

チリリブ」又は「リーチ目リブ」に係る図柄組合せを停止表示できたとしても、特別な特典は付与されない。本実施形態のパチスロ 1 では、このように表示される図柄組合せが遊技者の利益（出玉）に影響を与えない場合、メイン側の指示モニタでの報知を行わずに、サブ側で制御される表示装置 11 でのみ報知を行う。

【0400】

また、RT5 状態（フラグ間状態）中では、図 63C 及び 63D に示すように、内部当籤役として持ち越されているボーナス役に係る図柄組合せを遊技者に狙わせる旨の情報が報知される。例えば、内部当籤役「F__BB1」が持ち越されている場合には、図 63C に示すように、メイン側の制御により、「白7ナビ」と称する報知（ナビ）が行われ、内部当籤役「F__BB2」が持ち越されている場合には、図 63D に示すように、メイン側の制御により、「青7ナビ」と称する報知（ナビ）が行われる。

10

【0401】

「白7ナビ」では、内部当籤役「F__BB1」に対応する図柄組合せ、すなわち、コンビネーション名称「C__BB1」に係る図柄組合せ（「白7」-「白7」-「白7」：図 28 参照）を有効ライン上に停止表示させるための停止操作の情報が報知される。また、「青7ナビ」では、内部当籤役「F__BB2」に対応する図柄組合せ、すなわち、コンビネーション名称「C__BB2」に係る図柄組合せ（「青7」-「青7」-「青7」：図 28 参照）を有効ライン上に停止表示させるための停止操作の情報が報知される。

【0402】

フラグ間状態において、ボーナス役と、内部当籤役「はずれ」、「F__特殊1」、「F__特殊2」及び「F__特殊3」のいずれかが決定されている場合、図 24 で説明したように、ボーナス役（BB 役）に係る図柄組合せを有効ライン上に停止表示することができる。しかしながら、内部当籤役「はずれ」、「F__特殊1」、「F__特殊2」及び「F__特殊3」以外の内部当籤役とボーナス役とが当籤している場合には、ボーナス役に係る図柄組合せを有効ライン上に停止表示することができない。それゆえ、本実施形態では、図 63C 及び 63D に示すように、持ち越されているボーナス役と、内部当籤役「はずれ」、「F__特殊役1」、「F__特殊役2」及び「F__特殊役3」のいずれかが当籤としている場合に限り、メイン側の制御による「白7ナビ」又は「青7ナビ」と称する報知が行われる。それゆえ、本実施形態では、メイン側の制御による「白7ナビ」又は「青7ナビ」と称する報知（ナビ）を、ボーナス役を入賞させることのできる適切なタイミングで行うことができる。

20

30

【0403】

なお、本実施形態のパチスロ 1 には、例えば、ボーナス確定画面を表示することや、ボーナス確定ランプを点灯させることなどにより、ボーナス告知を行う機能も設けられている。そこで、メイン側では、ボーナス役が内部当籤役として決定されていることを告知（ボーナス告知）した後にのみ、「白7ナビ」又は「青7ナビ」と称するナビを行うようにしてもよい。

【0404】

ボーナス告知としては、例えば、複数回の遊技期間に渡って行われる演出（いわゆる連続演出）を行い、この連続演出の結果に応じてボーナス確定画面を表示するような演出が一般的に行われている。このような連続演出の最中にメイン側で「白7ナビ」などを行うと、連続演出の結果が途中で分かってしまうので、興趣を損ねてしまう可能性がある。そこで、本実施形態では、主制御基板 71 は、ボーナス告知が行われた後に、メイン側の制御による「白7ナビ」又は「青7ナビ」と称する報知（ナビ）が行われる。

40

【0405】

なお、ボーナス告知が行われたタイミングをメイン側で把握可能にする手法は任意である。その一手法として、ボーナス役が内部当籤役として決定されると、主制御基板 71 がボーナス告知終了までに要するゲーム数を決定し、このゲーム数の遊技を消化した後に、「白7ナビ」又は「青7ナビ」と称する報知（ナビ）を行う手法が考えられる。より具体的には、主制御基板 71 は、ボーナス告知終了までに要するゲーム数を決定すると、この

50

ゲーム数を副制御基板 7 2 に通知する。副制御基板 7 2 は、このゲーム数に従い演出の制御を行い、該ゲーム数の遊技が消化されたタイミングでボーナス確定画面を表示することにより、メイン側においてボーナス告知が行われたタイミングを把握することができる。すなわち、主制御基板 7 1 は、ボーナス役が持ち越されていない状態でボーナス役を内部当籤役として決定してからの単位遊技の回数を計数し、その計数結果が所定回数に達した後、ボーナス役と、内部当籤役「はずれ」、「F__特殊役 1」、「F__特殊役 2」及び「F__特殊役 3」のいずれかが内部当籤役として決定された場合に、「白 7 ナビ」又は「青 7 ナビ」を行う。

【 0 4 0 6 】

また、他の手法としては、ボーナス告知をサブ側ではなくメイン側において制御する手法が考えられる。より具体的には、主制御基板 7 1 は、ボーナス役が持ち越されていない状態でボーナス役を内部当籤役として決定すると、表示装置 1 1 で実行する演出（少なくとも演出に要するゲーム数）を決定し、副制御基板 7 2 に通知する。副制御基板 7 2 が通知された演出を実行し、ボーナス確定画面を表示することにより、メイン側においてボーナス告知が行われたタイミングを把握することができる。

【 0 4 0 7 】

なお上述した 2 つの手法以外の他の手法によりボーナス告知が行われたタイミングをメイン側で把握可能にする構成にしてもよい。この場合、主制御基板 7 1 は、副制御基板 7 2 などからの信号を受け付けることができないため、主制御基板 7 1 が受け付け可能な信号に基づいてボーナス告知が行われたタイミングを把握する必要がある。例えば、停止操作に伴う信号は、主制御基板 7 1 が受け付け可能であるため、ボーナス役が内部当籤役として決定されている状態で、所定の停止操作（例えば、順押し以外）が行われた場合に、ボーナス告知を行う手法も考えられる。具体的には、副制御基板 7 2 は、主制御基板 7 1 から内部当籤役に関する情報と停止操作に関する情報とを取得し、これらの情報の組合せが所定の組合せである場合にボーナス告知を行う。このようなボーナス告知の手法を採用することにより、ボーナス告知の契機を主制御基板 7 1 でも把握することができるため、メイン側においてボーナス告知が行われたタイミングを把握することができる。

【 0 4 0 8 】

< 主制御回路の動作説明 >

次に、図 6 4 ~ 図 1 7 0 を参照して、主制御回路 9 0 のメイン CPU 1 0 1 が、プログラムを用いて実行する各種処理の内容について説明する。

【 0 4 0 9 】

[電源投入（リセット割込）時処理]

まず、メイン CPU 1 0 1 の制御により行われるパチスロ 1 の電源投入（リセット割込）時処理を、図 6 4 及び図 6 5 を参照して説明する。図 6 4 は、電源投入（リセット割込）時処理の手順を示すフローチャートであり、図 6 5 A ~ 6 5 C は、それぞれ、該フローチャート中の S 2、S 7 及び S 8、並びに、S 1 3 の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。なお、図 6 4 に示す電源投入（リセット割込）時処理は、電源管理回路 9 3 が、マイクロプロセッサ 9 1 に電源電圧の供給が開始されたことを検知した際に、リセット信号をマイクロプロセッサ 9 1 の「X S R S T」端子に出力し、それにより、マイクロプロセッサ 9 1 の割込みコントローラ 1 1 2 からメイン CPU 1 0 1 に出力される割込要求信号に基づいて、実行される。

【 0 4 1 0 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、電源監視ポート（電源監視手段）がオン状態であるか否かを判別する（S 1）。

【 0 4 1 1 】

S 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、電源監視ポートがオン状態であると判別したとき（S 1 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、S 1 の処理を繰り返す。なお、ここでいう、電源監視ポートがオン状態とは、メイン CPU 1 0 1 に供給されている電源電圧（DC + 5 V）が安定していない状態のことである。

10

20

30

40

50

【0412】

一方、S1において、メインCPU101が、電源監視ポートがオン状態でないと判別したとき（S1がNO判定の場合）、メインCPU101は、タイマー回路113（PTC）の初期化処理を行う（S2）。この処理では、メインCPU101は、タイマー回路113の初期設定を行う。具体的には、メインCPU101は、タイマー用プリスケアラレジスタ（不図示）に分周比をセットし、タイマー用制御レジスタ（不図示）に割り込み可等の設定を行い、タイマー用カウンタ（不図示）の初期カウント値を設定する。

【0413】

次いで、メインCPU101は、主制御回路90及び副制御回路200間用の第1シリアル通信回路114（SCU1）の初期化処理、及び、第2インターフェースボード用の第2シリアル通信回路115（SCU2）の初期化処理を行う（S3）。次いで、メインCPU101は、乱数回路110（RDG）の初期化処理を行う（S4）。次いで、メインCPU101は、メインRAM103の書き込みテストを行う（S5）。

10

【0414】

次いで、メインCPU101は、書き込みテストの結果、メインRAM103への書き込みが正常に行われたか否かを判別する（S6）。

【0415】

S6において、メインCPU101が、メインRAM103への書き込みが正常に行われなかったと判別したとき（S6がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS13の処理を行う。一方、S6において、メインCPU101が、メインRAM103への書き込みが正常に行われたと判別したとき（S6がYES判定の場合）、メインCPU101は、タイマー回路113のタイマー用制御レジスタ（不図示）の状態を取得する（S7）。

20

【0416】

次いで、メインCPU101は、取得したタイマー用制御レジスタの状態に基づいて、現在の状態が割込処理の発生タイミングであるか否かを判別する（S8）。具体的には、メインCPU101は、取得したタイマー用制御レジスタの状態に基づいて、タイマーカウンタ開始後から1.1172ms経過したか否かを判別する。

【0417】

なお、本実施形態では、S2のタイマー回路113の初期化処理によりタイマー時間1.1172msがセットされると、CPU内蔵タイマーのカウント処理が開始される。その後、タイマー用制御レジスタ（不図示）の情報を読み込むことによりタイマー回路113のステータスを取得することができる。そして、本実施形態では、タイマー用制御レジスタに、現在の状態が割込処理の発生タイミングであるか否か（タイマー割込状態であるか否か）を判別（参照）可能なビット（判別ビット）が設けられる。

30

【0418】

それゆえ、上記S7の処理では、メインCPU101は、タイマー用制御レジスタ（不図示）の情報を読み込み、上記S8の処理では、メインCPU101は、タイマー用制御レジスタ内の判別ビットのオン/オフ状態（「1」/「0」）を参照することにより、現在の状態が割込処理の発生タイミングであるか否かを判別する。なお、タイマー回路113によるカウント開始から1.1172ms経過したとき（タイマー回路113のカウント値が0であれば）、該判別ビットはオン状態となる。

40

【0419】

S8において、メインCPU101が、現在の状態が割込処理の発生タイミングでないと判別したとき（S8がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS7の処理に戻し、S7以降の処理を繰り返す。

【0420】

一方、S8において、メインCPU101が、現在の状態が割込処理の発生タイミングであると判別したとき（S8がYES判定の場合）、メインCPU101は、サムチェック処理（規定外）を行う（S9）。この処理では、メインCPU101は、メインRAM

50

103のサムチェック処理を行うが、この処理の作業は、メインRAM103内の規定外作業領域(図12C参照)で行われる。また、このサムチェック処理で用いられるプログラムはメインROM102内の規定外エリアに格納されている(図12B参照)。なお、サムチェック処理の詳細については、後述の図79及び図80を参照しながら後で説明する。

【0421】

また、S8において、メインCPU101が、現在の状態が割込処理の発生タイミングであると判別したとき(S8がYES判定の場合)には、メインCPU101は、S9の処理の前に、後述の割込処理(後述の図158参照)を実行する。そして、この割込処理により、主制御回路90(主制御基板71)から副制御回路200(副制御基板72)には、無操作コマンドが送信される。

10

【0422】

S9の処理後、メインCPU101は、設定用鍵型スイッチ54がオン状態であるか否かを判別する(S10)。

【0423】

S10において、メインCPU101が、設定用鍵型スイッチ54がオン状態であると判別したとき(S10がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS15の処理を行う。一方、S10において、メインCPU101が、設定用鍵型スイッチ54がオン状態でないと判別したとき(S10がNO判定の場合)、メインCPU101は、S9のサムチェック処理の結果に基づいて、サムチェック判定結果が正常であったか否かを判別する(S11)。

20

【0424】

S11において、メインCPU101が、サムチェック判定結果が正常でないと判別したとき(S11がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS13の処理を行う。一方、S11において、メインCPU101が、サムチェック判定結果が正常であると判別したとき(S11がYES判定の場合)、メインCPU101は、遊技復帰処理を行う(S12)。この処理では、メインCPU101は、遊技の状態を電断検知前の状態に戻す処理を行う。なお、遊技復帰処理の詳細については、後述の図66を参照しながら後で説明する。

【0425】

S6又はS11がNO判定の場合、メインCPU101は、情報表示器6(7セグLED表示器)に、エラー発生を意味する文字列「rr」を表示する(S13)。その後、メインCPU101は、WDTのクリア処理を繰り返す(S14)。

30

【0426】

ここで再度、S10の処理に戻って、S10がYES判定の場合、メインCPU101は、設定変更確認処理を行う(S15)。この処理では、メインCPU101は、主に、設定変更開始時における設定変更コマンドの生成格納処理を行う。なお、設定変更確認処理の詳細については、後述の図68を参照しながら後で説明する。

【0427】

次いで、メインCPU101は、RAM初期化処理を行う(S16)。この処理では、メインCPU101は、図12Cに示すメインRAM103の遊技用RAM領域内の「RAM異常時又は設定変更開始時」のアドレスを、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用RAM領域の最終アドレスまでの情報を消去(クリア)する。そして、S16の処理後、メインCPU101は、後述のメイン処理(後述の図82参照)を開始する。

40

【0428】

本実施形態では、上述のようにして電源投入(リセット割込)時処理が行われる。そして、上述した電源投入(リセット割込)時処理中のS2の処理は、メインCPU101が、図65Aのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

50

【0429】

図65Aのソースプログラムでは、CPUクロックとして10MHz（供給クロックは20MHz）が設定され、プリスケアラレジスタ設定値として228が設定され、初期カウント値として49が設定される。この結果、割り込み処理のタイマー時間（実行周期）として、 $1.1172\text{ms} (= 1 / (10\text{MHz} / 288) \times 49)$ が算出される。

【0430】

また、上述した電源投入（リセット割込）時処理中のS7及びS8の処理は、メインCPU101が、図65Bのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。具体的には、S7のタイマー用制御レジスタの状態の取得処理は、図65B中の「LD」命令により実行され、S8の判定処理は、図65B中の「JB IT」命令により実行される。そして、タイマー回路113によるカウント開始から1.1172ms経過するまで、図65B中の「LD」命令及び図65B中の「JB IT」命令が繰り返し行われ、タイマー回路113によるカウント開始から1.1172ms経過すると、タイマー回路113から割込みコントローラ112を介してメインCPU101に割込要求信号が出力される。メインCPU101は、この割込要求信号の入力を契機として、電源復帰後の最初の1.1172ms周期の割込処理を開始する。

10

【0431】

なお、この電源復帰直後（電源投入時の初期化後）の最初の1.1172ms周期の割込処理では、遊技動作に関するコマンドはセットされていないので、主制御回路90から副制御回路200には無操作コマンドが送信される。このように電源復帰直後に割込処理を許可することにより、電源復帰後、最短時間で無操作コマンドが送信され、主制御回路90及び副制御回路200間の通信接続を確立することができ、主制御回路90及び副制御回路200間の通信動作を安定化させることができる。

20

【0432】

また、この通信動作で送信される無操作コマンドを構成する通信パラメータ1～5には、電源復帰時に、それぞれLレジスタ、Hレジスタ、Eレジスタ、Dレジスタ及びCレジスタに格納されているデータがセットされる。それゆえ、本実施形態では、電源復帰後の最初の割込処理で送信される無操作コマンドの通信パラメータ1～5にそれぞれセットされるデータを、電源復帰毎に異ならせる（不定にする）ことができる。すなわち、電源復帰直後（電源投入時の初期化後）の割込処理で送信される無操作コマンドのサム値（BC C）を、電源復帰毎に異ならせることができる。この場合、ゴト等の不正行為を抑制することができる。

30

【0433】

また、上述した電源投入（リセット割込）時処理中のS13の処理（割込み禁止処理）は、メインCPU101が、図65Cのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。そして、エラーコード「rr」を、情報表示器6内の2桁の7セグLEDに表示する際の制御は、図65Cに示すように、一つのソースコード「LDW HL, 100H * c ZCHRAR + c BX__PAYSEG」により実行され、2桁の7セグLEDへの7セグコモン出力データの出力動作と7セグカソード出力データの出力動作とが同時に行われる。

40

【0434】

すなわち、本実施形態のパチスロ1では、2桁の7セグLEDをダイナミック点灯制御する際に、7セグコモン出力データと、7セグカソード出力データとが同時に出力される。この場合、ソースプログラム上において、7セグLEDのダイナミック点灯制御に必要な命令コード数を減らすことができ、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。それゆえ、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【0435】

なお、ここでいう、「7セグコモン出力データ」は、7セグLEDをダイナミック制御

50

する際に、7セグLEDのコモン（共通）端子に出力されるLED駆動データであり、「7セグカソード出力データ」は、7セグLEDをダイナミック点灯制御する際に、7セグLEDの各カソード端子に出力されるLED駆動データである。

【0436】

[遊技復帰処理]

次に、図66及び図67を参照して、電源投入（リセット割込）時処理（図64参照）中のS12で行う遊技復帰処理について説明する。なお、図66は、遊技復帰処理の手順を示すフローチャートであり、図67は、該フローチャート中のS25～S32の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【0437】

まず、メインCPU101は、スタックポインタ（SP）に、電断時のスタックポインタをセットする（S21）。次いで、メインCPU101は、入力ポートの1割込処理前のオンエッジデータ、及び、現在セットされているオンエッジデータをクリア（オフ）する（S22）。次いで、メインCPU101は、出力ポートのバックアップデータを出力ポートにセットする（S23）。次いで、メインCPU101は、入力ポートのデータを読み込み、該データを、入力ポートの現在及び1割込処理前のデータ格納領域に保存する（S24）。

【0438】

次いで、メインCPU101は、回胴制御データ格納領域のアドレスをセットする（S25）。次いで、メインCPU101は、チェックするリール数（本実施形態では「3」）をセットする（S26）。

【0439】

次いで、メインCPU101は、セットされた回胴制御データ格納領域のアドレスに基づいて、所定のリールのリール制御管理情報（電断発生時の表示列の変動制御に関するデータ）を取得する（S27）。なお、リール制御管理情報（表示列の変動制御管理情報）は、各リールの制御状態（回転状況）に関する情報であり、電断時には、バックアップされて保存される。

【0440】

次いで、メインCPU101は、リール制御管理情報がリールの加速中、定速待ち又は定速中の回転状況に対応する情報であるか否かを判別する（S28）。

【0441】

S28において、メインCPU101が、S28の条件を満たさないと判別したとき（S28がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS31の処理を行う。一方、S28において、メインCPU101が、S28の条件を満たすと判別したとき（S28がYES判定の場合）、メインCPU101は、回胴制御データ（リール制御管理情報）をクリアする（S29）。この処理により、遊技復帰後、リールの回転制御が加速処理から開始される。次いで、メインCPU101は、リールの作動タイミング値（回胴制御データの実行開始タイミング「1」）をセットする（S30）。なお、リールの作動タイミングに「1」がセットされると、リール制御処理（後述の図158中のS903参照）内で、励磁変更タイミングとなるため、メインCPU101は、リールの回転制御を加速処理から開始する。

【0442】

S30の処理後又はS28がNO判定の場合、メインCPU101は、リール数の値を1減算する（S31）。次いで、メインCPU101は、減算後のリール数の値が「0」であるか否かを判別する（S32）。

【0443】

S32において、メインCPU101が、減算後のリール数の値が「0」でないと判別したとき（S32がNO判定の場合）、メインCPU101は、チェック対象のリールを変えて、処理をS27の処理に戻し、S27以降の処理を繰り返す。

【0444】

10

20

30

40

50

一方、S 3 2において、メインCPU 1 0 1が、減算後のリール数の値が「0」であると判別したとき（S 3 2がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、RAM初期化処理を行う（S 3 3）。この処理では、メインCPU 1 0 1は、図1 2 Cに示すメインRAM 1 0 3の遊技用RAM領域内の「電源復帰時」のアドレスを、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用RAM領域の最終アドレスまでの情報を消去（クリア）する。

【0 4 4 5】

次いで、メインCPU 1 0 1は、電断検知時に退避させた全てのレジスタのデータを全てのレジスタに復帰させる（S 3 4）。そして、S 3 4の処理後、メインCPU 1 0 1は、遊技復帰処理を終了し、処理を電断検知時の処理に戻す。

10

【0 4 4 6】

本実施形態では、上述のようにして遊技復帰処理が行われる。本実施形態の遊技復帰処理では、上述のように、電断発生時の各ポートの入出力状態を電源復帰時に担保するとともに、電断時にリール回転中の場合には、電源復帰時にリール制御管理情報を取得してリールの再回転開始に必要な処理も行う（S 2 5 ~ S 3 2の処理参照）。それゆえ、本実施形態では、回胴回転中の電断から復帰したときであっても、安定して、リールの再回転制御を行うことができ、遊技者に不快感を与えることが無くなる。

【0 4 4 7】

また、上述した遊技復帰処理中のS 2 5 ~ S 3 2の処理は、メインCPU 1 0 1が、図6 7のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。なお、上述のように、本実施形態のパチスロ1で用いられている遊技機用セキュリティ機能付きのマイクロプロセッサ9 1では、メインCPU 1 0 1専用の各種命令コードが設けられている。例えば、図6 7中の「LDQ」命令（所定の読み出し命令）は、メインCPU 1 0 1専用命令コードの一つである。

20

【0 4 4 8】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「LDQ HL, k」が実行されると、Qレジスタの内容（格納データ）と、1バイトの整数k（直値）とで指定されたアドレスが、HLレジスタにロードされる。この際、Qレジスタの内容が指定先アドレスの上位側のアドレス値となり、整数k（直値）が指定先アドレスの下位側のアドレス値となる。それゆえ、図6 7中のソースコード「LDQ HL, .LOW.WR1__CTRL」が実行されると、Qレジスタの内容（回胴制御データ格納領域のアドレスの上位側のアドレス値）と、整数値「.LOW.WR1__CTRL」（回胴制御データ格納領域のアドレスの下位側のアドレス値）とで指定されるアドレス（回胴制御データ格納領域のアドレス）が、HLレジスタにロードされる。なお、「.LOW.」は、実際の命令ではなく、擬似命令と呼ばれるものである。この疑似命令の機能では、「.LOW.」に続いて規定される格納領域のアドレスの下位側アドレスのみが有効にされる。また、疑似命令は、実際のROMに格納される命令ではなく、ソースファイルをROMに格納するための形式に変換する際に、変換プログラム（アセンブラ）が参照するための命令である。

30

【0 4 4 9】

上述のように、本実施形態では、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行うメインCPU 1 0 1専用命令コードを使用することにより、直値により、メインROM 1 0 2、メインRAM 1 0 3やメモリーマップI/Oにアクセスすることができる。この場合、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令コードを省略することができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM 1 0 2の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM 1 0 2において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

40

【0 4 5 0】

[設定変更確認処理]

次に、図6 8及び図6 9を参照して、電源投入（リセット割込）時処理（図6 4参照）

50

中の S 1 5 で行う設定変更確認処理について説明する。なお、図 6 8 は、設定変更確認処理の手順を示すフローチャートであり、図 6 9 A は、該フローチャート中の S 4 4 ~ S 4 7 の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図 6 9 B は、該フローチャート中の S 5 7 の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【 0 4 5 1 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、メイン RAM 1 0 3 内の規定外 RAM 領域の初期化処理を行う (S 4 1)。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、1 割り込み待ち処理を行う (S 4 2)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、割込処理による無操作コマンドの副制御回路 2 0 0 への送信処理が終了するまで待機する。

【 0 4 5 2 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、RAM 初期化処理を行う (S 4 3)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、図 1 2 C に示すメイン RAM 1 0 3 の遊技用 RAM 領域内の「RAM 異常時又は設定変更開始時」のアドレスを、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用 RAM 領域の最終アドレスまでの情報を消去 (クリア) する。

【 0 4 5 3 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態であるか否かを判別する (S 4 4)。なお、設定用鍵型スイッチ 5 4 に差し込まれる設定キー (不図示) は、パチスロ 1 の設定 (設定 1 ~ 6) を操作するための操作キーであり、設定キーがオンされていると、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態となる。

【 0 4 5 4 】

S 4 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態でないと判別したとき (S 4 4 が NO 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、設定変更確認処理を終了し、処理を電源投入 (リセット割込) 時処理 (図 6 4 参照) の S 1 6 の処理に移す。一方、S 4 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、設定用鍵型スイッチ 5 4 がオン状態であると判別したとき (S 4 4 が YES 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、メダル受付禁止の処理を行う (S 4 5)。この処理により、セクタ 6 6 (図 7 参照) のソレノイドの駆動が行われず、投入されたメダルがメダル払出口 2 4 (図 2 参照) から排出される。

【 0 4 5 5 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、L レジスタに設定変更開始又は設定確認開始の情報 (0 0 5 H : 第 1 の値) をセットし、設定変更コマンド (設定変更 / 設定確認開始) の生成格納処理を行う (S 4 6)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、設定変更処理又は設定確認処理の開始時に主制御回路 9 0 から副制御回路 2 0 0 に送信される設定変更コマンドデータ (第 1 のコマンドデータ) を生成し、該コマンドデータをメイン RAM 1 0 3 に設けられた通信データ格納領域に保存する。なお、設定変更コマンド生成格納処理の詳細については、後述の図 7 0 を参照しながら後で説明する。また、通信データ格納領域に保存された設定変更コマンド (設定変更 / 設定確認開始) は、後述の図 1 5 8 で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路 9 0 から副制御回路 2 0 0 に送信される。

【 0 4 5 6 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、エラーカウントリレーをオン状態にセットする (S 4 7)。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、設定変更及び設定確認のいずれが行われたかを判別する (S 4 8)。

【 0 4 5 7 】

S 4 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、設定変更が行われていない (設定確認が行われた) と判別したとき (S 4 8 が NO 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 5 5 の処理を行う。

【 0 4 5 8 】

一方、S 4 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、設定変更が行われた (設定確認が行われていない) と判別したとき (S 4 8 が YES 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、設定値の更新処理を行う (S 4 9)。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、設定値の 7 セグ表示

10

20

30

40

50

設定処理を行う（S50）。この処理により、更新後の設定値が情報表示器6内の7セグLEDで表示可能になる。

【0459】

次いで、メインCPU101は、リセットスイッチ76がオン状態であるか否かを判別する（S51）。

【0460】

S51において、メインCPU101が、リセットスイッチ76がオン状態であると判別したとき（S51がYES判定の場合）、メインCPU101は、処理をS49の処理に戻し、S49以降の処理を繰り返す。一方、S51において、メインCPU101が、リセットスイッチ76がオン状態でないと判別したとき（S51がNO判定の場合）、メインCPU101は、スタートスイッチ79がオン状態であるか否かを判別する（S52）。

10

【0461】

S52において、メインCPU101が、スタートスイッチ79がオン状態でないと判別したとき（S52がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS51の処理に戻し、S51以降の処理を繰り返す。一方、S52において、メインCPU101が、スタートスイッチ79がオン状態であると判別したとき（S52がYES判定の場合）、メインCPU101は、メインRAM103に設けられた設定値格納領域（不図示）に設定値を格納する（S53）。

【0462】

次いで、メインCPU101は、設定用鍵型スイッチ54がオフ状態であるか否かを判別する（S54）。

20

【0463】

S54において、メインCPU101が、設定用鍵型スイッチ54がオフ状態でないと判別したとき（S54がNO判定の場合）、メインCPU101は、S54の処理を繰り返す。一方、S54において、メインCPU101が、設定用鍵型スイッチ54がオフ状態であると判別したとき（S54がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS55の処理を行う。

【0464】

S48がNO判定の場合又はS54がYES判定の場合、メインCPU101は、設定変更及び設定確認のいずれが行われたか否かを判別する（S55）。

30

【0465】

S55において、メインCPU101が、設定変更が行われていない（設定確認が行われた）と判別したとき（S55がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS57の処理を行う。一方、S55において、メインCPU101が、設定変更が行われた（設定確認が行われていない）と判別したとき（S55がYES判定の場合）、メインCPU101は、RAM初期化処理を行う（S56）。この処理では、メインCPU101は、図12Cに示すメインRAM103の遊技用RAM領域内の図示しない「設定変更終了時」のアドレス（設定値格納領域の次のアドレス）を、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用RAM領域の最終アドレスまでの情報を消去（クリア）する。

40

【0466】

S56の処理後又はS55がNO判定の場合、メインCPU101は、Lレジスタに設定変更終了又は設定確認終了の情報（004H：第2の値）をセットし、設定変更コマンド（設定変更/設定確認終了）の生成格納処理を行う（S57）。この処理では、メインCPU101は、設定変更処理又は設定確認処理の終了時に主制御回路90から副制御回路200に送信される設定変更コマンドデータ（第2のコマンドデータ）を生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域に保存する。なお、設定変更コマンド生成格納処理の詳細については、後述の図70を参照しながら後で説明する。また、通信データ格納領域に保存された設定変更コマンド（設定変更/設定確認終

50

了)は、後述の図158で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。そして、S57の処理後、メインCPU101は、設定変更確認処理を終了し、処理を電源投入(リセット割込)時処理(図64参照)のS16の処理に移す。

【0467】

本実施形態では、上述のようにして、設定変更確認処理が行われる。上述した設定変更確認処理中のS44～S47の処理は、メインCPU101が、図69Aのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中で、例えば、S44の設定キーの状態判定処理は、図69A中のソースコード「BITQ 7, (.LOW.(WIBUF+4))」により実行され、S47のエラーカウントリレーをオン状態にセットする処理は、図69A中のソースコード「SETQ 1, (.LOW.WECREQ)」により実行される。

10

【0468】

「BITQ」命令及び「SETQ」命令はともに、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いてアドレス指定を行うメインCPU101専用命令コードである。

【0469】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「BITQ b, (k)」が実行されると、Qレジスタの格納データ(上位側アドレス値)と、1バイトの整数値k(直値:下位側アドレス値)とで指定されるアドレスのメモリのビットbがチェックされ、該ビットbに「1」が格納されていれば、フラグ・レジスタFのゼロフラグ(ビット6:図11参照)に「0」がセットされ、該ビットbに「0」が格納されていれば、フラグ・レジスタFのゼロフラグ(所定のビット領域)に「1」がセットされる。それゆえ、図69A中のソースコード「BITQ 7, (.LOW.(WIBUF+4))」が実行されると、Qレジスタの格納データと、整数値「.LOW.(WIBUF+4)」とで指定されるアドレスのメモリのビット7がチェックされ、該ビット7に「1」が格納されていれば、フラグ・レジスタFのゼロフラグに「0」がセットされ、該ビット7に「0」が格納されていれば、フラグ・レジスタFのゼロフラグに「1」がセットされる。

20

【0470】

また、ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「SETQ b, (k)」が実行されると、Qレジスタの格納データ(上位側アドレス値)と、1バイトの整数値k(直値:下位側アドレス値)とで指定されるアドレスのメモリのビットbに「1」がセットされる。それゆえ、図69A中のソースコード「SETQ 1, (.LOW.WECREQ)」が実行されると、Qレジスタの格納データと、整数値「.LOW.WECREQ」とで指定されるアドレスのメモリのビット1に「1」がセットされる。

30

【0471】

すなわち、本実施形態の設定変更確認処理では、上述のようなQレジスタ(拡張レジスタ)を用いた各種メインCPU101専用命令コードが使用されており、これらのメインCPU101専用命令コードの使用により、直値で、メインROM102、メインRAM103やメモリーマップI/Oにアクセスすることができる。この場合、アドレス設定に係る命令コードを省略することができ、その分、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102の空き容量を増やすことが可能となるとともに、処理の高速化も図ることができる。

40

【0472】

また、上述した設定変更確認処理中のS46の設定変更/設定確認開始時に行う設定変更コマンド(初期化コマンド)の生成格納処理は、メインCPU101が図69A中の「CALLF」命令を実行することにより行われ、上述したS57の設定変更/設定確認終了時に行う設定変更コマンド(初期化コマンド)の生成格納処理は、メインCPU101が図69B中の「CALLF」命令を実行することにより行われる。なお、「CALLF」命令もまた、メインCPU101専用命令コードである。

【0473】

50

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「CALLF mn」が実行されると、現在のPCレジスタ（プログラム・カウンタPC：図11参照）の値（格納データ）がスタックポインタ（SP）で指定されているメモリに保存され、スタックポインタが-2更新され、「mn」がPCレジスタに格納されて、「mn」で指定されているアドレスに処理がジャンプする。ただし、「CALLF」命令は、2バイト命令であり、ジャンプできるアドレス範囲は、0000H～11FFHの範囲となる。それゆえ、例えば、図69A中のソースコード「CALLF SB_PCINIT_00」が実行されると、現在のPCレジスタの値がスタックポインタ（SP）で指定されているメモリに保存され、スタックポインタが-2更新され、「SB_PCINIT_00」のアドレスがPCレジスタに格納されて、「SB_PCINIT_00」で指定されているアドレスに処理がジャンプする。

10

【0474】

なお、本実施形態では、「CALLF」命令と同種の命令コードとして、「CALL」命令と呼ばれる命令コードも用意されている。そして、ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「CALL mn」が実行されると、「CALLF」命令と同様に、現在のPCレジスタ（プログラム・カウンタPC：図11参照）の値（格納データ）がスタックポインタ（SP）で指定されているメモリに保存され、スタックポインタが-2更新され、「mn」がPCレジスタに格納されて、「mn」で指定されているアドレスに処理がジャンプする。ただし、「CALL」命令は、3バイト命令であり、ジャンプできるアドレス範囲が、「CALLF」命令のそれと異なり、ジャンプできるアドレス範囲は、

20

【0475】

また、本実施形態の設定変更確認処理では、図69A及び69Bに示すように、S46の「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレス「SB_PCINIT_00」は、S57の「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレスと同じである。すなわち、本実施形態では、設定変更時（遊技機起動時）、設定確認開始時（通常動作中）及び設定確認終了時に副制御回路200に送信する設定変更コマンド（初期化コマンド）の生成格納処理を実行するためのソースプログラムが、互いに同じであり、S46及びS57の両処理において用いられる、設定変更コマンド生成格納処理のソースプログラムが共有化（モジュール化）されている。

30

【0476】

この場合、S46及びS57の両処理において、それぞれ別個に設定変更コマンド生成格納処理のソースプログラムを設ける必要がなくなるので、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【0477】

[設定変更コマンド生成格納処理]

次に、図70及び図71を参照して、設定変更確認処理（図68参照）中のS46及びS57で行う設定変更コマンド生成格納処理について説明する。なお、図70は、設定変更コマンド生成格納処理の手順を示すフローチャートであり、図71は、設定変更コマンド生成格納処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

40

【0478】

まず、メインCPU101は、設定値（1～6）の情報をEレジスタにセットする（S61）。次いで、メインCPU101は、RT状態の情報をCレジスタにセットする（S62）。次いで、メインCPU101は、設定変更コマンドのコマンド種別情報（02H）をAレジスタにセットする（S63）。

50

【 0 4 7 9 】

次いで、メインCPU101は、通信データ格納処理を行う（S64）。この処理では、メインCPU101は、S61～S63で各レジスタにセットされた情報と、S46又はS57（図68参照）でDレジスタにセットされた情報（設定ステータスである設定変更開始/設定変更終了/設定確認開始/設定確認終了）とを用いて、設定変更コマンドデータを生成し、該生成されたコマンドデータを通信データ格納領域に保存する。なお、通信データ格納処理の詳細については、後述の図72を参照しながら後で説明する。

【 0 4 8 0 】

S64の処理後、メインCPU101は、設定変更コマンド生成格納処理を終了する。なお、設定変更確認処理（図68参照）中のS46で行う設定変更コマンド生成格納処理を終了する際には、メインCPU101は、S64の処理後、処理を設定変更確認処理（図68参照）のS47の処理に移す。また、設定変更確認処理（図68参照）中のS57で行う設定変更コマンド生成格納処理を終了する際には、メインCPU101は、S64の処理後、設定変更コマンド生成格納処理を終了するとともに、設定変更確認処理（図68参照）も終了する。

【 0 4 8 1 】

本実施形態では、上述のようにして設定変更コマンド生成格納処理が行われる。なお、上述した設定変更コマンド生成格納処理は、メインCPU101が、図71のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【 0 4 8 2 】

上述のように、設定変更コマンド生成格納処理では、設定変更コマンド生成格納処理が実行される直前に設定ステータスが通信パラメータ4としてDレジスタに格納され、設定変更コマンド生成格納処理の実行中に設定値が通信パラメータ3としてEレジスタに格納され、RT情報が通信パラメータ5としてCレジスタに格納される。すなわち、設定変更コマンド（初期化コマンド）を構成する通信パラメータ1～5のうち、通信パラメータ3～5は副制御回路200側で使用（解析）される通信パラメータ（使用パラメータ）であり、これらの通信パラメータには新たな情報がセットされる。一方、設定変更コマンド（初期化コマンド）を構成するその他の通信パラメータ1及び2は、副制御回路200側で使用（解析）されない通信パラメータ（未使用パラメータ）であり、通信パラメータ1及び2に対しては、現時点でLレジスタ及びHレジスタにそれぞれ格納されている値がセットされる。それゆえ、設定変更コマンド（初期化コマンド）送信時における通信パラメータ1及び2の値は不定値となる。この場合、設定変更コマンドのサム値（BCC）を送信毎に不定値にすることができ、ゴト等の不正行為を抑制することができる。

【 0 4 8 3 】

[通信データ格納処理]

次に、図72及び図73を参照して、例えば、設定変更コマンド生成格納処理（図70参照）中のS64で行う通信データ格納処理について説明する。なお、通信データ格納処理は、設定変更コマンド生成時だけでなく、他のコマンド生成時にも実行される。図72は、通信データ格納処理の手順を示すフローチャートであり、図73は、通信データ格納処理中のS71～S76の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【 0 4 8 4 】

まず、メインCPU101は、Aレジスタにセットされているデータを通信コマンド種別のデータとして、メインRAM103内の通信データ一時格納領域（不図示）に格納する（S71）。次いで、メインCPU101は、Hレジスタ及びLレジスタにセットされているデータを、それぞれ通信コマンドのパラメータ1及び2として、メインRAM103内の通信データ一時格納領域（所定の格納領域）に格納する（S72）。

【 0 4 8 5 】

次いで、メインCPU101は、Dレジスタ及びEレジスタにセットされているデータを、それぞれ通信コマンドのパラメータ3及び4として、メインRAM103内の通信データ一時格納領域に格納する（S73）。次いで、メインCPU101は、Bレジスタ及

10

20

30

40

50

びCレジスタにセットされているデータを、それぞれ通信コマンドのパラメータ5及びRT状態のデータとして、メインRAM103内の通信データ一時格納領域に格納する(S74)。

【0486】

次いで、メインCPU101は、Aレジスタ～Lレジスタにセットされているデータ値から通信コマンドのBCCデータ(サム値)を生成する(S75)。次いで、メインCPU101は、生成したBCCデータをメインRAM103内の通信データ一時格納領域に格納する(S76)。

【0487】

S76の処理後、メインCPU101は、メインRAM103内の通信データ格納領域に空きがあるか否かを判別する(S77)。なお、本実施形態では、通信データ格納領域に最大9個のコマンドデータが格納可能である(後述の図75B参照)。

10

【0488】

S77において、メインCPU101が、通信データ格納領域に空きがないと判別したとき(S77がNO判定の場合)、メインCPU101は、通信データ格納処理を終了するとともに、例えば、設定変更コマンド生成格納処理(図70参照)も終了する。

【0489】

一方、S77において、メインCPU101が、通信データ格納領域に空きがあると判別したとき(S77がYES判定の場合)、メインCPU101は、上述したS71～S76の処理により通信データ一時格納領域に格納された通信データを通信コマンドデータとして、通信データ格納領域に格納する(S78)。

20

【0490】

次いで、メインCPU101は、通信データポインタ更新処理を行う(S79)。この処理では、メインCPU101は、主に、通信データ格納領域内における通信データの格納アドレスを示す通信データポインタの更新処理を行う。なお、通信データポインタ更新処理の詳細については、後述の図74を参照しながら後で説明する。

【0491】

そして、S79の処理後、メインCPU101は、通信データ格納処理を終了するとともに、例えば、設定変更コマンド生成格納処理(図70参照)も終了する。

【0492】

本実施形態では、上述のようにして通信データ格納処理が行われる。なお、上述した通信データ格納処理中のS71～S76の処理は、メインCPU101が、図73のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。そして、この一連の処理において、コマンドデータに含まれる、通信コマンドの種別データ、各種通信パラメータ、遊技状態フラグデータ及びBCCデータの格納処理は、図73に示すように、ソースプログラム上では、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いてアドレス指定を行うメインCPU101専用命令コードである、「LDQ」命令を用いて実行される。

30

【0493】

具体的には、ソースコード「LDQ(.LOW.(WPDT__TMP+0)),A」の実行により、Aレジスタに格納された通信コマンドの種別データが、Qレジスタの格納データ(上位側アドレス値)と1バイトの整数値「.LOW.(WPDT__TMP+0)」(下位側アドレス値)とで指定されたアドレスの通信データ一時格納領域に格納される。また、ソースコード「LDQ(.LOW.(WPDT__TMP+1)),HL」の実行により、Lレジスタに格納された通信パラメータ1が、Qレジスタの格納データと1バイトの整数値「.LOW.(WPDT__TMP+1)」とで指定されたアドレスの通信データ一時格納領域に格納され、Hレジスタに格納された通信パラメータ2が、その次のアドレスの通信データ一時格納領域に格納される。また、ソースコード「LDQ(.LOW.(WPDT__TMP+3)),DE」の実行により、Eレジスタに格納された通信パラメータ3が、Qレジスタの格納データと1バイトの整数値「.LOW.(WPDT__TMP+3)」とで指定されたアドレスの通信データ一時格納領域に格納され、Dレジスタ

40

50

に格納された通信パラメータ4が、その次のアドレスの通信データ一時格納領域に格納される。そして、ソースコード「LDQ (.LOW.(WPDT_TMP+5)), BC」の実行により、Cレジスタに格納された通信パラメータ5が、Qレジスタの格納データと1バイトの整数値「.LOW.(WPDT_TMP+5)」とで指定されたアドレスの通信データ一時格納領域に格納され、Bレジスタに格納された遊技状態フラグデータが、その次のアドレスの通信データ一時格納領域に格納される。

【0494】

さらに、通信データ格納処理でセットされたコマンドデータのサム値となるBCCデータは、一連のソースコード「ADD(加算命令コード) A, H」~「ADD A, B」の実行により算出され、Aレジスタに格納される。そして、ソースコード「LDQ (.LOW.(WPDT_TMP+7)), A」の実行により、Aレジスタに格納されたBCCデータが、Qレジスタの格納データと1バイトの整数値「.LOW.(WPDT_TMP+7)」とで指定されたアドレスの通信データ一時格納領域に格納される。

10

【0495】

上述のように、本実施形態では、1パケット(8バイト)の通信データ(コマンドデータ)を作成する際に、各種パラメータをレジスタから転送して通信データ一時格納領域(通信バッファ)に格納する。このようなコマンドデータの作成手法では、コマンド生成時に各レジスタに格納されているデータがそのままコマンドデータの各種パラメータとして通信データ一時格納領域に格納される。それゆえ、未使用パラメータを含むコマンドデータを作成した時には、作成時毎に、未使用パラメータの値が不定値となる。この場合、同じ種別のコマンドデータあり、かつ、使用パラメータの値が同一であっても、コマンド作成毎に、コマンドデータのサム値(BCCデータ)が可変可能となる。また、本実施形態では、誤り符号の一つであるサム値の計算をADD(加算命令コード)により算出したが、加算命令コードに換えて、SUB(減算命令コード)、XOR(排他的論理和命令コード)により誤り符号を算出しても同様の効果が得られる。さらに、メインCPU101専用命令である、MUL(乗算命令コード)又はDIV(除算命令コード)を使用して誤り符号を算出しても同様の効果が得られる。

20

【0496】

それゆえ、本実施形態では、未使用パラメータを不定値とすることにより、通信データの解析を困難にしてゴト等の不正行為を抑止することができるとともに、不必要なゴト対策処理を加える必要がないため、ゴト対策処理の追加による、主制御回路90のプログラム容量の圧迫を抑制することができる。

30

【0497】

[通信データポインタ更新処理]

次に、図74及び図75を参照して、通信データ格納処理(図72参照)中のS79で行う通信データポインタ更新処理について説明する。なお、図74は、通信データポインタ更新処理の手順を示すフローチャートであり、図75Aは、通信データポインタ更新処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図75Bは、通信データポインタ更新処理のソースプログラム上で実際にセットされる通信データ格納領域の構成を示す図である。

40

【0498】

まず、メインCPU101は、現在、セットされている通信データポインタの値を取得する(S81)。

【0499】

次いで、メインCPU101は、通信データポインタの値を1パケット分(8バイト)加算更新する(S82)。なお、この処理において、更新後の通信データポインタの値が、通信データ格納領域(図75B参照)の上限サイズ以上となる場合には、メインCPU101は、更新後の通信データポインタの値を「0」にセットし、これにより、通信データ格納領域に格納されているコマンドデータを全て無効にする(破棄した状態と同様の状態にする)。

50

【0500】

本実施形態では、1回の送信動作で送信されるデータ量(1パケット)は8バイトである。すなわち、本実施形態では、一つの送信動作で一つのコマンドデータを送信することができる。また、本実施形態では、通信データ格納領域に最大9個のコマンドデータを格納可能であるので(図75B参照)、通信データ格納領域の上限サイズは、72バイト(=8バイト×9)となる。それゆえ、本実施形態では、通信データポインタの範囲を「0」～「71」とし、S82の処理において、更新後(通信データポインタを+8更新した場合)の通信データポインタの値が「71(上限値)」を超えるような値となる場合には、更新後の通信データポインタの値を「0」にセットして(通信データの格納先のアドレスを先頭アドレスに戻して)、通信データ格納領域に格納されているコマンドデータを全て無効にする(破棄した状態と同様の状態にする)。なお、通信データポインタの値を「0」にセットすると、次にコマンドデータを通信データ格納領域に格納する場合には、通信データ格納領域の先頭アドレスから格納されるので、その前に格納されていたコマンドデータは新たなコマンドデータで上書きされることになる。それゆえ、本実施形態では、通信データポインタの値が「71(上限値)」を超えた場合に、通信データ格納領域を初期化(クリア)する必要はない。

10

【0501】

そして、S82の処理後、メインCPU101は、通信データポインタ更新処理を終了するとともに、通信データ格納処理(図72参照)も終了する。

【0502】

本実施形態では、上述のようにして通信データポインタ更新処理が行われる。そして、上述した通信データポインタ更新処理は、メインCPU101が、図75Aのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中で、S82の通信データポインタの更新処理は、図75A中の「ADD」命令及び「ICPLD」命令(所定の更新命令)により実行されるが、この「ICPLD」命令もまた、メインCPU101専用命令コードである。

20

【0503】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「ICPLD A, n」が実行されると、Aレジスタの内容(格納データ)と整数nとが比較され、Aレジスタの内容が整数n未満である場合には、Aレジスタの内容に「1」が加算され、Aレジスタの内容が整数n以上である場合には、Aレジスタに「0」がセットされる。

30

【0504】

それゆえ、S82の通信データポインタの更新処理を実行する場合、図75Aのソースプログラム上では、まず、ソースコード「ADD A, 7」が実行され、Aレジスタの内容(更新前の通信データポインタの値)に「7」が加算され、該加算結果がAレジスタに格納される。次いで、ソースコード「ICPLD A, 71」が実行され、Aレジスタの内容(7加算後の通信データポインタの値)と整数「71」とを比較し、Aレジスタの内容が整数「71」未満である場合には、Aレジスタの内容に「1」を加算し、Aレジスタの内容が整数「71」以上である場合には、Aレジスタに「0」をセットする。すなわち、S82の処理において、通信データポインタの値を+7更新したときに、更新後の通信データポインタの値が上限値「71」を超えるような場合には、通信データポインタをゼロクリアする処理(通信データの格納アドレスを通信データ格納領域の先頭アドレスに戻す処理)が行われる。一方、更新後の通信データポインタの値が上限値「71」を超えない場合には、「ICPLD」命令でさらに通信データポインタに「1」を加算することにより、トータルで通信データポインタの値を+8更新する。

40

【0505】

上述のように、本実施形態では、通信データポインタ更新処理において、一つの「ICPLD」命令コード(送信バッファの上限判定命令と、判断分岐命令とが一体になっている命令コード)により、通信データポインタの更新(+1加算)処理、更新後の通信データポインタの判定チェック処理及び通信データポインタのクリア処理をまとめて実行するこ

50

とができる。この場合、各処理を別個に実行するための命令コードを設ける必要がなくなる。例えば、更新後の通信データポインタの値がその上限値「71」を超えるか否かの判断分岐命令コードを省略することができる。

【0506】

それゆえ、通信データポインタ更新処理等において、メインCPU101専用の「ICPLD」命令コードを用いることにより、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【0507】

[電断時（外部）処理]

次に、メインCPU101の制御により行われるパチスロ1の電断時（外部）処理を、図76を参照して説明する。図76は、電断時（外部）処理の手順を示すフローチャートである。なお、図76に示す電断時（外部）処理は、電源管理回路93が、マイクロプロセッサ91に供給される電源電圧の低下（電断）を検知した際に、電断検知信号をマイクロプロセッサ91の「XINT」端子に出力し、これにより、マイクロプロセッサ91の割込みコントローラ112からメインCPU101に出力される割込要求信号に基づいて、実行される。

【0508】

まず、メインCPU101は、全てのレジスタにセットされているデータを退避させる（S91）。次いで、メインCPU101は、電断検知ポートにセットされているデータを読み込む（S92）。

【0509】

次いで、メインCPU101は、電断検知ポートがオン状態であるか否かを判別する（S93）。

【0510】

S93において、メインCPU101が、電断検知ポートがオン状態でないと判別したとき（S93がNO判定の場合）、メインCPU101は、割込処理許可をセットする（S94）。そして、S94の処理後、メインCPU101は、電断時（外部）処理を終了する。なお、S93がNO判定である場合に行われるこれらの処理は、電源管理回路93が瞬間的に電断を検知した場合等に発生する瞬停対策の処理に対応する。

【0511】

一方、S93において、メインCPU101が、電断検知ポートがオン状態であると判別したとき（S93がYES判定の場合）、メインCPU101は、メダル投入不可を設定し、ホッパー装置51の停止を設定する（S95）。

【0512】

次いで、メインCPU101は、現在セットされているスタックポインタ（SP）の値をメインRAM103内の遊技用RAM領域のスタックエリアに保存する（S96）。

【0513】

次いで、メインCPU101は、メインRAM103のチェックサム生成処理を行う（S97）。なお、この処理は、メインRAM103内の規定外作業領域（図12C参照）で行われる。また、このチェックサム生成処理で用いられるプログラムはメインROM102内の規定外エリアに格納されている（図12B参照）。なお、チェックサム生成処理の詳細については、後述の図77を参照しながら後で説明する。

【0514】

次いで、メインCPU101は、メインRAM103へのアクセス禁止を設定する（S98）。そして、S98の処理後、電源が停止するまで（電源電圧が、メインCPU101が動作できない電圧に達するまで）無限ループ処理が行われる。

【0515】

[チェックサム生成処理（規定外）]

10

20

30

40

50

次に、図 77 及び図 78 を参照して、電断時（外部）処理（図 76 参照）中の S 97 で行うチェックサム生成処理について説明する。なお、図 77 は、チェックサム生成処理の手順を示すフローチャートであり、図 78 A は、チェックサム生成処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図 78 B は、チェックサム生成処理で実行されるスタックポインタの更新動作及びメイン RAM 103 からレジスタへのデータの読み出し動作の様子を示す図である。

【0516】

まず、メイン CPU 101 は、現在のスタックポインタ（SP）の値（遊技用 RAM 領域のスタックエリアの使用アドレス）をメイン RAM 103 の規定外 RAM 領域の規定外スタックエリアに保存する（S 101）。次いで、メイン CPU 101 は、スタックポインタに規定外スタックエリアのアドレスをセットする（S 102）。次いで、メイン CPU 101 は、RAM アドレス（規定外スタックエリアのアドレス）の上位側のアドレス値（F0H）を Q レジスタにセットする（S 103）。次いで、メイン CPU 101 は、電断発生フラグを設定する（S 104）。

10

【0517】

次いで、メイン CPU 101 は、スタックポインタに、遊技用 RAM 領域内のサム値の計算開始アドレスをセットし、サム算出カウンタに、サム値の算出対象格納領域のバイト数を「2」で除算した値をセットする（S 105）。なお、サム算出カウンタは、サム値算出の終了契機を判定するためのカウンタであり、メイン RAM 103 に設けられる。そして、S 105 で設定されたサム算出カウンタが「0」になれば、メイン RAM 103 の遊技用 RAM 領域のサム値算出処理を終了する。

20

【0518】

次いで、メイン CPU 101 は、HL レジスタを 0 クリア（値「0」をセット）する（S 106）。この処理により、サム値の初期値「0」がセットされる。

【0519】

次いで、メイン CPU 101 は、「POP 命令」（特定の命令）と呼ばれる命令コード（図 78 A 中に記載のソースコード「POP DE」）を実行し、スタックポインタ（SP）にセットされたメイン RAM 103 の格納領域のアドレスから 2 バイト分の領域のデータ（保存値）を DE レジスタに読み出す（S 107）。

30

【0520】

なお、「POP」命令が実行されると、スタックポインタで指定されたアドレスの 1 バイト領域に保存されているデータ（メモリ内容）が、ペアレジスタの下位側のレジスタにロードされ、スタックポインタで指定されたアドレスを 1 更新したアドレスの 1 バイト領域に保存されているデータ（メモリ内容）が、ペアレジスタの上位側のレジスタにロードされる。また、「POP」命令が実行されると、スタックポインタ（SP）にセットされたアドレスに対して 2 バイト分のアドレス更新処理（アドレスを「2」加算する処理）が行われる。

【0521】

それゆえ、S 107 の処理では、スタックポインタで指定されたアドレスに保存されているデータ（メモリ内容）が E レジスタにロードされ、スタックポインタで指定されたアドレスに「1」を加算したアドレスに保存されているデータ（メモリ内容）が D レジスタにロードされる。

40

【0522】

図 78 B には、「POP」命令実行時における、DE レジスタへのデータの読み込み動作、及び、スタックポインタにセットされるアドレスの更新動作の様子を示す。サム値の算出開始時に、スタックポインタ（SP）にセットされているアドレスが「F010h」である場合には、アドレス「F010h」に保存されているデータ（メモリ内容）が E レジスタにロードされ、アドレス「F011h」に保存されているデータ（メモリ内容）が D レジスタにロードされる。また、この際、スタックポインタ（SP）にセットされているアドレスに 2 加算する更新処理が行われ、スタックポインタ（SP）にセットされてい

50

るアドレスが「F010h」から「F012h」に変更される。次いで、再度、「POP」命令が実行されると、アドレス「F012h」に保存されているデータ（メモリ内容）がEレジスタにロードされ、アドレス「F013h」に保存されているデータ（メモリ内容）がDレジスタにロードされる。また、この際、スタックポインタ（SP）にセットされているアドレスの更新処理が行われ、スタックポインタ（SP）にセットされているアドレスが「F012h」から「F014h」に変更される。その後、「POP」命令が実行される度に上述した、DEレジスタへのデータの読み込み動作及びスタックポインタにセットされるアドレスの更新動作が繰り返される。

【0523】

S107の処理後、メインCPU101は、サム値の算出処理を行う（S108）。具体的には、メインCPU101は、HLレジスタに格納されている値にDEレジスタに格納されている値を加算し、該加算された値をサム値としてHLレジスタに格納する。

10

【0524】

次いで、メインCPU101は、サム算出カウンタの値を1減算する（S109）。次いで、メインCPU101は、更新後のサム算出カウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S110）。

【0525】

S110において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」でないと判別したとき（S110がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS107の処理に戻し、S107以降の処理を繰り返す。すなわち、メインRAM103の遊技用RAM領域のサム値算出処理が終了するまで、S107～S110の処理が繰り返される。

20

【0526】

一方、S110において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」であると判別したとき（S110がYES判定の場合）、メインCPU101は、DEレジスタに、メインRAM103内の規定外RAM領域のサム値の計算開始アドレスをセットし、サム算出カウンタに、規定外用サムカウンタ値をセットする（S111）。なお、規定外用サムカウンタ値は、規定外用格納領域のバイト数となる。それゆえ、S111で設定されたサム算出カウンタが「0」になれば、メインRAM103の規定外RAM領域のサム値算出処理、すなわち、メインRAM103全体のサム値算出処理が終了する。

【0527】

次いで、メインCPU101は、DEレジスタにセットされた規定外RAM領域のアドレスから1バイト分の領域のデータ（保存値）をAレジスタに読み出す（S112）。

30

【0528】

次いで、メインCPU101は、サム値の算出処理を行う（S113）。具体的には、メインCPU101は、HLレジスタに格納されている値にAレジスタに格納されている値を加算し、該加算された値をサム値としてHLレジスタに格納する。

【0529】

次いで、メインCPU101は、DEレジスタに格納されているアドレスを1加算し、サム算出カウンタの値を1減算する（S114）。次いで、メインCPU101は、更新後のサム算出カウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S115）。

40

【0530】

S115において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」でないと判別したとき（S115がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS112の処理に戻し、S112以降の処理を繰り返す。すなわち、メインRAM103の規定外RAM領域のサム値を遊技用RAM領域のサム値に加算する処理が終了するまで、S112～S115の処理が繰り返される。

【0531】

一方、S115において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」であると判別したとき（S115がYES判定の場合）、メインCPU101は、HLレジスタに格納されている値を電断発生時のサム値として、メインRAM103内のサム値格納

50

領域（不図示）に保存する（S116）。次いで、メインCPU101は、S101で規定外スタックエリアに保存されたスタックポインタ（SP）の値をスタックポインタにセットする（S117）。そして、S117の処理後、メインCPU101は、チェックサム生成処理を終了し、処理を電断時（外部）処理（図76参照）のS98の処理に移す。

【0532】

本実施形態では、上述のようにしてチェックサム生成処理が行われる。そして、上述したチェックサム生成処理は、メインCPU101が、図78Aのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。上述のように、本実施形態では、電断発生時のメインRAM103のチェックサムは、加算式で算出される。この際、遊技用RAM領域のサム値算出では、2バイト単位で加算処理（図78A中のソースコード「ADD HL, DE」参照）が行われ、規定外RAM領域では、1バイト単位で加算処理（図78A中のソースコード「ADDWB HL, A」参照）が行われる。

【0533】

[サムチェック処理（規定外）]

次に、図79～図81を参照して、電源投入時処理（図64参照）中のS9で行うサムチェック処理について説明する。なお、図79及び図80は、サムチェック処理の手順を示すフローチャートであり、図81は、サムチェック処理中のS122～S132の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【0534】

まず、メインCPU101は、現在のスタックポインタ（SP）の値を規定外スタックエリアに保存する（S121）。次いで、メインCPU101は、スタックポインタにサム値格納領域のアドレスをセットし、サム算出カウンタに、サム値の算出対象格納領域のバイト数を「2」で除算した値をセットする（S122）。なお、ここでセットされるサム算出カウンタは、サム値算出（サム値の減算処理）の終了契機を判定するためのカウンタであり、メインRAM103に設けられる。次いで、メインCPU101は、サム値格納領域からサム値（チェックサム）を取得する（S123）。この処理により、電断発生時に生成されたチェックサム（減算前の初期値）がHLレジスタに格納される。

【0535】

次いで、メインCPU101は、「POP」命令を実行し、スタックポインタ（SP）にセットされたメインRAM103の格納領域のアドレスから2バイト分の領域のデータ（保存値）をDEレジスタに読み出す（S124）。なお、この際、「POP」命令の実行により、スタックポインタで指定されたアドレスの1バイト領域に保存されているデータ（メモリ内容）が、Eレジスタにロードされ、スタックポインタで指定されたアドレスを1更新したアドレスの1バイト領域に保存されているデータ（メモリ内容）が、Dレジスタにロードされる（図78B参照）。また、「POP」命令が実行されると、スタックポインタ（SP）にセットされたアドレスに対して2バイト分のアドレス更新処理（アドレスを2加算する処理）が行われる。

【0536】

次いで、メインCPU101は、サム値の算出（減算）処理を行う（S125）。具体的には、メインCPU101は、HLレジスタに格納されている値（サム値の初期値又は前回の減算処理後のサム値）からDEレジスタに格納されている値を減算し、該減算された値をサム値としてHLレジスタに格納する。

【0537】

次いで、メインCPU101は、サム算出カウンタの値を1減算する（S126）。次いで、メインCPU101は、更新後のサム算出カウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S127）。

【0538】

S127において、メインCPU101が、サム算出カウンタの値が「0」でないと判別したとき（S127がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS124の処理に戻し、S124以降の処理を繰り返す。すなわち、メインRAM103の遊技用RA

10

20

30

40

50

M領域の全域に渡ってサム値の減算処理が終了するまで、S 1 2 4 ~ S 1 2 7の処理が繰り返される。

【0 5 3 9】

一方、S 1 2 7において、メインCPU 1 0 1が、サム算出カウンタの値が「0」であると判別したとき（S 1 2 7がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、DEレジスタに、メインRAM 1 0 3内の規定外RAM領域のサム値の計算開始アドレスをセットし、サム算出カウンタに、規定外用サムカウント値をセットする（S 1 2 8）。なお、規定外用サムカウント値は、規定外RAM領域のバイト数となる。

【0 5 4 0】

次いで、メインCPU 1 0 1は、DEレジスタにセットされた規定外RAM領域のアドレスから1バイト分の領域のデータ（保存値）をAレジスタに読み出す（S 1 2 9）。 10

【0 5 4 1】

次いで、メインCPU 1 0 1は、サム値の算出（減算）処理を行う（S 1 3 0）。具体的には、メインCPU 1 0 1は、HLレジスタに格納されている値からAレジスタに格納されている値を減算し、該減算された値をサム値としてHLレジスタに格納する。

【0 5 4 2】

次いで、メインCPU 1 0 1は、DEレジスタに格納されているアドレスを1加算し、サム算出カウンタの値を1減算する（S 1 3 1）。次いで、メインCPU 1 0 1は、更新後のサム算出カウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S 1 3 2）。 20

【0 5 4 3】

S 1 3 2において、メインCPU 1 0 1が、サム算出カウンタの値が「0」でないと判別したとき（S 1 3 2がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、処理をS 1 2 9の処理に戻し、S 1 2 9以降の処理を繰り返す。すなわち、メインRAM 1 0 3の規定外RAM領域の全域に渡ってサム値の減算処理が終了するまで、S 1 2 9 ~ S 1 3 2の処理が繰り返される。

【0 5 4 4】

一方、S 1 3 2において、メインCPU 1 0 1が、サム算出カウンタの値が「0」であると判別したとき（S 1 3 2がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、サムチェック処理の判定結果に「サム異常」をセットする（S 1 3 3）。次いで、メインCPU 1 0 1は、算出されたサム値が「0」であるか否かを判別する（S 1 3 4）。 30

【0 5 4 5】

なお、この処理では、メインCPU 1 0 1は、フラグ・レジスタFのゼロフラグ（ビット6）の状態（1 / 0）を参照して、サム値が「0」であるか否かを判別する。本実施形態では、S 1 2 8でセットされたサム算出カウンタの値が「0」になった時点、すなわち、メインRAM 1 0 3の全域に渡ってサム値の減算処理が終了した時点において、サム値が「0」である場合には、フラグ・レジスタFのゼロフラグには「1」がセットされ、サム値が「0」でない場合には、フラグ・レジスタFのゼロフラグには「0」がセットされている。それゆえ、S 1 3 4の処理の時点において、フラグ・レジスタFのゼロフラグに「1（オン状態）」がセットされていれば、メインCPU 1 0 1はサム値が「0」であると判定する。 40

【0 5 4 6】

S 1 3 4において、メインCPU 1 0 1が、算出されたサム値が「0」でないと判別したとき（S 1 3 4がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 1 3 9の処理を行う。一方、S 1 3 4において、メインCPU 1 0 1が、算出されたサム値が「0」であると判別したとき（S 1 3 4がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、判定結果に「電断異常」をセットする（S 1 3 5）。

【0 5 4 7】

次いで、メインCPU 1 0 1は、電断発生フラグを取得する（S 1 3 6）。次いで、メインCPU 1 0 1は、電断発生フラグが電断なしの状態（オフ状態）であるか否かを判別する（S 1 3 7）。 50

【 0 5 4 8 】

S 1 3 7において、メインCPU 1 0 1が、電断発生フラグが電断なしの状態であると判別したとき（S 1 3 7がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 1 3 9の処理を行う。一方、S 1 3 7において、メインCPU 1 0 1が、電断発生フラグが電断なしの状態でないとは判別したとき（S 1 3 7がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、判定結果に「正常」をセットする（S 1 3 8）。

【 0 5 4 9 】

S 1 3 8の処理後、S 1 3 4がNO判定の場合、又は、S 1 3 7がYES判定の場合、メインCPU 1 0 1は、サムチェック判定結果に判定結果を保存し、電断発生フラグをクリア（オフ）する（S 1 3 9）。次いで、メインCPU 1 0 1は、S 1 2 1で規定外スタックエリアに保存されたスタックポインタ（SP）の値をスタックポインタにセットする（S 1 4 0）。そして、S 1 4 0の処理後、メインCPU 1 0 1は、サムチェック処理を終了し、処理を電源投入時処理（図 6 4 参照）のS 1 0の処理に移す。

10

【 0 5 5 0 】

本実施形態では、上述のようにしてサムチェック処理が行われる。そして、上述したサムチェック処理中のS 1 2 2～S 1 3 2の処理は、メインCPU 1 0 1が、図 8 1のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【 0 5 5 1 】

上述のように、本実施形態における、メインRAM 1 0 3のサムチェックの判定処理では、まず、電断発生時に生成されたチェックサムの値を、電源復帰時のメインRAM 1 0 3に格納されたデータで順次減算する。この際、遊技用RAM領域では、2バイト単位で減算処理（図 8 1中のソースコード「SUB HL, DE」参照）が行われ、規定外RAM領域では、1バイト単位で減算処理（図 8 1中のソースコード「SUBWB HL, A」参照）が行われる。次いで、最終的な減算結果が「0」であるか否か（ゼロフラグがオン状態であるか否か）に基づいて、異常の発生の有無を判定する。そして、減算結果が「0」である場合（ゼロフラグがオン状態である場合）には、正常と判定され、減算結果が「0」でない場合（ゼロフラグがオフ状態である場合）には、異常と判定される。

20

【 0 5 5 2 】

すなわち、本実施形態では、電断発生時のチェックサムの生成処理は加算方式で行われ、電源復帰時のチェックサムの判定処理は減算方式で行われる。そして、チェックサムの最終的な減算結果に基づいて、正常/異常の判定が行われる。このようなチェックサムの生成処理及び判定処理を行った場合、電源復帰時に再度チェックサムを生成して、該チェックサムを電断発生時のチェックサムと照合する処理が不要となる。この場合、ソースプログラム上において、照合命令コードを省略することができ、ソースプログラムの容量を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM 1 0 2において、照合命令コードの省略分に対応する空き容量を確保することができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。なお、上述の電断発生時のチェックサムの生成処理、及び、電源復帰時のチェックサムの判定処理で実行される「POP」命令は、スタックポインタ（SP）操作専用命令であり、ソースコード「POP DE」以外にもソースコード「POP HL」、「POP AF」等が存在する。

30

40

【 0 5 5 3 】

[メインCPUの制御によるパチスロのメイン処理]

次に、図 8 2を参照して、メインCPU 1 0 1の制御により実行されるパチスロ 1のメイン処理（主要動作処理）について説明する。なお、図 8 2は、メイン処理の手順を示すフローチャート（以下、メインフローという）である。

【 0 5 5 4 】

まず、メインCPU 1 0 1は、RAM初期化処理を行う（S 2 0 1）。この処理では、メインCPU 1 0 1は、図 1 2 Cに示すメインRAM 1 0 3の遊技用RAM領域内の「遊技終了時」のアドレスを、初期化開始の先頭アドレスとして設定し、該先頭アドレスから遊技用RAM領域の最終アドレスまでの情報を消去（クリア）する。なお、この範囲の

50

格納領域は、例えば、内部当籤役格納領域や表示役格納領域などの1回の単位遊技（ゲーム）ごとにデータの消去が必要な格納領域である。

【0555】

次いで、メインCPU101は、メダル受付・スタートチェック処理を行う（S202）。この処理では、メインCPU101は、メダルセンサ（不図示）やスタートスイッチ79などの入力チェック処理等を行う。なお、メダル受付・スタートチェック処理の詳細については、後述の図83を参照しながら後で説明する。

【0556】

次いで、メインCPU101は、乱数取得処理を行う（S203）。この処理では、メインCPU101は、内部当籤役抽籤用の乱数値（0～65535：ハードラッチ乱数となる乱数回路110の乱数レジスタ0の値）やART関連の各種抽籤で用いられる演出用乱数値（0～65535：ソフトラッチ乱数となる乱数回路110の乱数レジスタ1～3の各値、0～255：ソフトラッチ乱数となる乱数回路110の乱数レジスタ4～7の各値）などを抽出し、該抽出した各種乱数値をメインRAM103に設けられた乱数値格納領域（不図示）に格納する。なお、乱数取得処理の詳細については、後述の図91を参照しながら後で説明する。

10

【0557】

次いで、メインCPU101は、内部抽籤処理を行う（S204）。この処理では、メインCPU101は、S203で抽出した乱数値（ハードラッチ乱数）に基づいた抽籤により内部当籤役の決定処理を行う。なお、内部抽籤処理の詳細については、後述の図92を参照しながら後で説明する。

20

【0558】

次いで、メインCPU101は、図柄設定処理を行う（S205）。この処理では、メインCPU101は、例えば、当り要求フラグステータス（フラグステータス情報）から内部当籤役を生成する処理、当り要求フラグデータの展開処理、当り要求フラグデータを当り要求フラグ格納領域を格納する処理等を行う。なお、図柄設定処理の詳細については、後述の図97を参照しながら後で説明する。

【0559】

次いで、メインCPU101は、スタートコマンド生成格納処理を行う（S206）。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信するスタートコマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域（図75B参照）に保存する。通信データ格納領域に保存されたスタートコマンドは、後述の図158で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。なお、スタートコマンドは、内部当籤役等を特定するパラメータ（サブフラグ等）を含んで構成される。

30

【0560】

次いで、メインCPU101は、第2インターフェースボード制御処理を行う（S207）。なお、第2インターフェースボード制御処理は、メインRAM103の規定外用作業領域で実行される。第2インターフェースボード制御処理の詳細については、後述の図102を参照しながら後で説明する。

40

【0561】

次いで、メインCPU101は、状態別制御処理を行う（S208）。この処理では、メインCPU101は、主に、遊技状態に応じた遊技開始時処理（スタート処理）を行う。なお、状態別制御処理の詳細については、後述の図104を参照しながら後で説明する。

【0562】

次いで、メインCPU101は、リール停止初期設定処理を行う（S209）。この処理では、メインCPU101は、リール停止初期設定テーブル（図26参照）を参照し、内部当籤役及び遊技状態に基づいて、引込優先順位テーブル選択テーブル番号、引込優先順位テーブル番号、停止テーブル番号を取得する処理や、ストップボタン未作動カウンタに「3」を格納する処理などを行う。

50

【0563】

次いで、メインCPU101は、リール回転開始処理を行う(S210)。この処理では、メインCPU101は、全リールの回転開始を要求する。そして、全リールの回転開始が要求されると、一定の周期(1.1172msec)で実行される後述の割込処理(後述の図158参照)により、3つのステッピングモータ(不図示)の駆動が制御され、左リール3L、中リール3C及び右リール3Rの回転が開始される。次いで、各リールは、その回転速度が定速度に達するまで加速制御され、その後、該定速度が維持されるように制御される。

【0564】

次いで、メインCPU101は、リール回転開始コマンド生成格納処理を行う(S211)。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信するリール回転開始コマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域(図75B参照)に保存する。通信データ格納領域に保存されたリール回転開始コマンドは、後述の図158で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。なお、リール回転開始コマンドは、リールの回転開始動作開始されたことを示すパラメータを含んで構成される。

10

【0565】

次いで、メインCPU101は、引込優先順位格納処理を行う(S212)。この処理では、メインCPU101は、引込優先順位データを取得して、引込優先順位データ格納領域に格納する。なお、引込優先順位格納処理の詳細については、後述の図126を参照しながら後で説明する。

20

【0566】

次いで、メインCPU101は、リール停止制御処理を行う(S213)。この処理では、メインCPU101は、左ストップボタン17L、中ストップボタン17C及び右ストップボタン17Rがそれぞれ押されたタイミングと内部当籤役とに基づいて該当するリールの回転の停止制御を行う。なお、リール停止制御処理の詳細については、後述の図138を参照しながら後で説明する。

【0567】

次いで、メインCPU101は、入賞検索処理を行う(S214)。この処理では、メインCPU101は、図柄コード格納領域(図35参照)のデータを入賞作動フラグ格納領域(図28~図30参照)に格納する。また、この処理では、メインCPU101は、有効ラインに表示役が表示されたか否かを判定し、その判定結果に基づいて、メダルの払出枚数をセットする。なお、入賞検索処理の詳細については、後述の図145を参照しながら後で説明する。

30

【0568】

次いで、メインCPU101は、イリーガルヒットチェック処理を行う(S215)。この処理では、メインCPU101は、当り要求フラグ(内部当籤役)と入賞作動フラグ(表示役)とを合成し、その合成結果に基づいてイリーガルヒットエラーの有無を判定する。なお、イリーガルヒットチェック処理の詳細については、後述の図148を参照しながら後で説明する。

40

【0569】

次いで、メインCPU101は、入賞チェック・メダル払出処理を行う(S216)。この処理では、メインCPU101は、入賞作動コマンドの生成処理を行う。また、この処理では、メインCPU101は、S214において決定された表示役の払出枚数に基づいて、ホッパー装置51の駆動やクレジット枚数の更新を行い、メダルの払い出し処理を行う。なお、入賞チェック・メダル払出処理の詳細については、後述の図150を参照しながら後で説明する。

【0570】

次いで、メインCPU101は、BBチェック処理を行う(S217)。この処理では、メインCPU101は、ボーナス状態の作動及び終了を制御する。なお、BBチェック

50

処理の詳細については、後述の図 1 5 4 を参照しながら後で説明する。

【 0 5 7 1 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、RT チェック処理を行う (S 2 1 8)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、有効ライン上に停止表示された図柄組合せに基づいて RT 状態の移行制御を行う。なお、RT チェック処理の詳細については、後述の図 1 5 5 及び図 1 5 6 を参照しながら後で説明する。

【 0 5 7 2 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、C Z ・ A R T 終了時処理を行う (S 2 1 9)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、主に、C Z の引き戻し抽籤処理を行う。なお、C Z ・ A R T 終了時処理の詳細については、後述の図 1 5 7 を参照しながら後で説明する。そして、S 2 1 9 の処理後 (一遊技終了後)、メイン CPU 1 0 1 は、処理を S 2 0 1 の処理に戻す。

【 0 5 7 3 】

[メダル受付・スタートチェック処理]

次に、図 8 3 及び図 8 4 を参照して、メインフロー (図 8 2 参照) 中の S 2 0 2 で行うメダル受付・スタートチェック処理について説明する。なお、図 8 3 は、メダル受付・スタートチェック処理の手順を示すフローチャートであり、図 8 4 は、メダル受付・スタートチェック処理中の S 2 3 1 ~ S 2 3 3 の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【 0 5 7 4 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、自動投入メダルカウンタの値が「 0 」であるか否か (自動投入要求はあるか否か) を判別する (S 2 2 1)。なお、この処理において、自動投入メダルカウンタが「 1 」以上であるときは、メイン CPU 1 0 1 は、自動投入要求があると判別する。また、自動投入メダルカウンタは、前回の単位遊技において再遊技 (リプレイ) に係る表示役が成立したか否かを識別するためのデータである。再遊技に係る表示役が成立したときには、前回の単位遊技において投入された枚数分のメダルが自動投入メダルカウンタに自動的に投入される。

【 0 5 7 5 】

S 2 2 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、自動投入メダルカウンタの値が「 0 」であると判別したとき (S 2 2 1 が Y E S 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 2 2 5 の処理を行う。

【 0 5 7 6 】

一方、S 2 2 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、自動投入メダルカウンタの値が「 0 」でないと判別したとき (S 2 2 1 が N O 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、メダル投入処理を行う (S 2 2 2)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、メダル投入コマンドの生成格納処理やメダル投入枚数の L E D 点灯制御処理などを行う。なお、メダル投入処理の詳細については、後述の図 8 5 を参照しながら後で説明する。

【 0 5 7 7 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、自動投入メダルカウンタの値を 1 減算する (S 2 2 3)。次いで、減算後の自動投入メダルカウンタの値が「 0 」であるか否かを判別する (S 2 2 4)。

【 0 5 7 8 】

S 2 2 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、自動投入メダルカウンタの値が「 0 」でないと判別したとき (S 2 2 4 が N O 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、処理を S 2 2 2 の処理に戻し、S 2 2 2 以降の処理を繰り返す。

【 0 5 7 9 】

一方、S 2 2 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、自動投入メダルカウンタの値が「 0 」であると判別したとき (S 2 2 4 が Y E S 判定の場合)、又は、S 2 2 1 が Y E S 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、メダル補助収納庫スイッチチェック処理を行う (S 2 2 5)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、メダル補助収納庫スイッチ 7 5 のオン / オ

10

20

30

40

50

フ状態に基づいて、メダル補助収納庫 5 2 がメダルで満杯になっているか否かを検出する。

【 0 5 8 0 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、メダル投入状態チェック処理を行う (S 2 2 6)。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、メダル投入状態チェック処理の結果に基づいて、メダル投入可能な状態であるか否かを判別する (S 2 2 7)。

【 0 5 8 1 】

S 2 2 7 において、メイン CPU 1 0 1 が、メダル投入可能な状態でないと判別したとき (S 2 2 7 が N O 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 2 3 1 の処理を行う。

【 0 5 8 2 】

一方、S 2 2 7 において、メイン CPU 1 0 1 が、メダル投入可能な状態であると判別したとき (S 2 2 7 が Y E S 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、メダル投入チェック処理を行う (S 2 2 8)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、例えば、メダルセンサ入力状態に基づいて、メダルが正常に通過したか否かの判定処理や、規定数を超えてメダル投入が行われた場合に該メダルをクレジットする処理などをを行う。なお、メダル投入チェック処理の詳細については、後述の図 8 7 を参照しながら後で説明する。

10

【 0 5 8 3 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、メダル投入チェック処理の結果に基づいて、メダル投入又はクレジット可能な状態であるか否かを判別する (S 2 2 9)。

【 0 5 8 4 】

S 2 2 9 において、メイン CPU 1 0 1 が、メダル投入又はクレジット可能な状態であると判別したとき (S 2 2 9 が Y E S 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 2 3 1 の処理を行う。一方、S 2 2 9 において、メイン CPU 1 0 1 が、メダル投入又はクレジット可能な状態でないと判別したとき (S 2 2 9 が N O 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、メダル受付禁止の処理を行う (S 2 3 0)。この処理により、セレクト 6 6 (図 4 参照) のソレノイドの駆動が行われず、投入されたメダルがメダル払出口 2 4 から排出される。

20

【 0 5 8 5 】

S 2 3 0 の処理後、S 2 2 7 が N O 判定の場合、又は、S 2 2 9 が Y E S 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、現在のメダルの投入枚数が遊技可能開始枚数であるか否かを判別する (S 2 3 1)。なお、本実施形態では、遊技開始可能枚数は 3 枚である (図 2 8 ~ 図 3 0 参照)。

30

【 0 5 8 6 】

S 2 3 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、現在のメダルの投入枚数が遊技可能開始枚数であると判別したとき (S 2 3 1 が Y E S 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 2 3 4 の処理を行う。一方、S 2 3 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、現在のメダルの投入枚数が遊技可能開始枚数でないと判別したとき (S 2 3 1 が N O 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、メダル投入があるか否かを判別する (S 2 3 2)。

【 0 5 8 7 】

S 2 3 2 において、メイン CPU 1 0 1 が、メダル投入があると判別したとき (S 2 3 2 が Y E S 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、処理を S 2 2 6 に戻し、S 2 2 6 以降の処理を繰り返す。一方、S 2 3 2 において、メイン CPU 1 0 1 が、メダル投入がないと判別したとき (S 2 3 2 が N O 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、図 6 8 で説明した設定変更確認処理を行う (S 2 3 3)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、設定確認開始時の設定変更コマンドの生成格納処理などを行う。

40

【 0 5 8 8 】

S 2 3 3 の処理後又は S 2 3 1 が Y E S 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、スタートスイッチ 7 9 がオン状態であるか否かを判別する (S 2 3 4)。

【 0 5 8 9 】

S 2 3 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、スタートスイッチ 7 9 がオン状態でないと判別したとき (S 2 3 4 が N O 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、処理を S 2 2 6 に

50

戻し、S 2 2 6 以降の処理を繰り返す。

【 0 5 9 0 】

一方、S 2 3 4 において、メインCPU 1 0 1 が、スタートスイッチ 7 9 がオン状態であると判別したとき（S 2 3 4 がYES 判定の場合）、メインCPU 1 0 1 は、メダル受付禁止の処理を行う（S 2 3 5）。この処理により、セクタ 6 6（図 4 参照）のソレノイドの駆動が行われず、投入されたメダルがメダル払出口 2 4 から排出される。そして、S 2 3 5 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、メダル受付・スタートチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）の S 2 0 3 に移す。

【 0 5 9 1 】

本実施形態では、上述のようにしてメダル受付・スタートチェック処理が行われる。そして、上述したメダル受付・スタートチェック処理中の S 2 3 1 ~ S 2 3 3 の処理は、メインCPU 1 0 1 が、図 8 4 のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中でも、S 2 3 3 の処理では、メインCPU 1 0 1 専用命令コードである「CALLF」命令により、処理を設定変更確認処理の実行プログラムのアドレス「SB_WVSC_00」にジャンプさせ、図 6 8 及び図 6 9 で説明した設定変更確認処理を行う。

【 0 5 9 2 】

そして、上述したメダル受付・スタートチェック処理中の S 2 3 3 の処理、すなわち、設定変更確認処理は、遊技状態に関係なく実行される。それゆえ、本実施形態では、遊技状態に関係なく、すなわち、遊技状態がボーナス状態（特賞作動状態）であっても、設定値及びホールメニュー（各種履歴データ（エラー、電断履歴等））を確認することができ、ゴト等の不正行為を抑制することができる。

【 0 5 9 3 】

[メダル投入処理]

次に、図 8 5 及び図 8 6 を参照して、メダル受付・スタートチェック処理（図 8 3 参照）中の S 2 2 2 で行うメダル投入処理について説明する。なお、図 8 5 は、メダル投入処理の手順を示すフローチャートであり、図 8 6 は、メダル投入処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【 0 5 9 4 】

まず、メインCPU 1 0 1 は、メダルカウンタの値に「1」を加算する（S 2 4 1）。なお、メダルカウンタは、メダルの投入枚数をカウント（計数）するためのカウンタであり、メインRAM 1 0 3 に設けられる。

【 0 5 9 5 】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、メダル投入コマンド生成格納処理を行う（S 2 4 2）。この処理では、メインCPU 1 0 1 は、副制御回路 2 0 0 に送信するメダル投入コマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM 1 0 3 に設けられた通信データ格納領域（図 7 5 B 参照）に保存する。通信データ格納領域に保存されたメダル投入コマンドは、後述の図 1 5 8 で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路 9 0 から副制御回路 2 0 0 に送信される。すなわち、メダル投入コマンドは、メダルが 1 枚投入される度に、主制御回路 9 0 から副制御回路 2 0 0 に送信される。なお、メダル投入コマンドは、投入枚数等を特定するためのパラメータを含んで構成される。

【 0 5 9 6 】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、LED 8 2（図 7 参照）に含まれるメダル投入枚数表示用の第 1 ~ 第 3 LED を消灯させる（S 2 4 3）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、メダル投入枚数（メダルカウンタの値）に基づいて、該メダル投入枚数に対応する LED 点灯データ（点灯制御データ）を算出する（S 2 4 4）。この処理において、例えば、メダル投入枚数が 1 枚である場合には、メダル投入枚数表示用の第 1 LED のみを点灯させる LED 点灯データが算出され、また、例えば、メダル投入枚数が 3 枚である場合には、メダル投入枚数表示用の第 1 ~ 第 3 LED の全てを点灯させる LED 点灯データが算出される。なお、この LED 点灯データの算出手法については、後で詳述する。

10

20

30

40

50

【0597】

次いで、メインCPU101は、算出されたLED点灯データを用いて、対応するメダル投入枚数表示用のLEDを点灯させる(S245)。そして、S245の処理後、メインCPU101は、メダル投入処理を終了し、処理をメダル受付・スタートチェック処理(図83参照)のS223に移す。

【0598】

本実施形態では、上述のようにしてメダル投入処理が行われる。なお、上述したメダル投入処理は、メインCPU101が、図86のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中でS244の処理では、メダル投入枚数表示用のLED点灯データがテーブルを参照したループ処理でなく、演算処理により生成される。この演算処理は、メインCPU101が図86に示すソースプログラム中のソースコード「LDA, L」～「OR L」を順次実行することにより行われる。

10

【0599】

この演算処理では、まず、ソースコード「LDA, L」の実行により、Lレジスタに格納されたメダル投入枚数のデータがAレジスタに格納される。例えば、メダル投入枚数が3枚である場合には、「00000011B」(10進数で「3」)がAレジスタに格納される。なお、本実施形態において、1バイトデータを「*****B」と記すが、最後の文字「B」は、文字「B」の前に示された「0」又は「1」がビットデータであることを意味する。

【0600】

次いで、ソースコード「ADD A, A」の実行により、Aレジスタに格納されたデータにAレジスタに格納されたデータが加算され、該加算結果がAレジスタに格納される。例えば、この「ADD」命令の実行前の時点でAレジスタに格納されているデータが「00000011B」である場合(メダル投入枚数が3枚である場合)、この「ADD」命令により、加算結果となる「00000110B」がAレジスタに格納される。

20

【0601】

次いで、ソースコード「DEC A」の実行により、Aレジスタに格納されているデータが1減算され、該減算結果がAレジスタに格納される。例えば、この「DEC」命令の実行前の時点でAレジスタに格納されているデータが「00000110B」である場合、この「DEC」命令により、減算結果となる「00000101B」がAレジスタに格納される。

30

【0602】

次いで、ソースコード「OR L」の実行により、Lレジスタに格納されているデータ(メダル投入枚数)とAレジスタに格納されているデータとの論理和演算が行われ、該演算結果がAレジスタに格納される。例えば、この「OR」命令の実行前の時点でAレジスタに格納されているデータが「00000101B」であり、Lレジスタに格納されているデータが「00000011B」である場合(メダル投入枚数が3枚である場合)、この「OR」命令により、両データの論理和演算の結果となる「00000111B」がAレジスタに格納される。そして、「OR」命令の実行によりAレジスタに格納されたデータが、メダル投入枚数表示用のLED点灯データ(メダル投入LEDの点灯状態を示すデータ)となる。

40

【0603】

例えば、メダル投入枚数が3枚である場合には、上述のように、S244のメダル投入枚数表示用のLED点灯データの算出処理により、最終的な算出結果「00000111B」がメダル投入枚数表示用のLED点灯データとなる。そして、本実施形態では、最終的に算出されたLED点灯データのビット0の「1/0」が1枚目のメダル投入枚数表示用のLED(第1LED)への出力ポートの「オン/オフ」状態に対応し、ビット1の「1/0」が2枚目のメダル投入枚数表示用のLED(第2LED)への出力ポートの「オン/オフ」状態に対応し、ビット2の「1/0」が3枚目のメダル投入枚数表示用のLED(第3LED)への出力ポートの「オン/オフ」状態に対応する。それゆえ、メダル投

50

入枚数が3枚である場合には、上述のように、LED点灯データとして「00000111B」が生成されるので、メダル投入枚数表示用の第1～第3LEDの全ての出力ポートがオン状態にセットされ、メダル投入枚数表示用の第1～第3LEDが全て点灯状態となる。

【0604】

上述のようにしてメダル投入枚数表示用のLED点灯データを演算処理により生成した場合、メダル投入枚数表示用のLED点灯データを生成する際に参照するテーブルデータが不要となるのでメインROM102のテーブル領域の空き容量を増やすことができるとともに、プログラムの容量増を最小限に抑えることができる。すなわち、本実施形態の上記したメダル投入処理では、メダル投入LED表示の処理を効率化することができるとともに、メインROM102の空き容量を確保し（増やし）、該増えた空き領域を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

10

【0605】

[メダル投入チェック処理]

次に、図87及び図88を参照して、メダル受付・スタートチェック処理（図83参照）中のS228で行うメダル投入チェック処理について説明する。なお、図87は、メダル投入チェック処理の手順を示すフローチャートであり、図88は、メダル投入チェック処理中のS255～S258の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【0606】

まず、メインCPU101は、再遊技中であるか否かを判別する（S251）。

20

【0607】

S251において、メインCPU101が、再遊技中であると判別したとき（S251がYES判定の場合）、メインCPU101は、メダル投入チェック処理を終了し、処理をメダル受付・スタートチェック処理（図83参照）のS229に移す。

【0608】

一方、S251において、メインCPU101が、再遊技中でないと判別したとき（S251がNO判定の場合）、メインCPU101は、メダル受付許可を行う（S252）。この処理では、セクタ66（図4参照）のソレノイドの駆動が行われ、メダル投入口14から投入されたメダルが受け入れられる。受け入れられたメダルは計数されてからホッパー装置51へ案内される。

30

【0609】

次いで、メインCPU101は、ベットボタンチェック処理を行う（S253）。この処理では、メインCPU101は、BETスイッチ77のオン/オフ状態に基づいて、ベットボタン（MAXベットボタン15a又は1ベットボタン15b）の操作が行われたか否かを判別する。次いで、メインCPU101は、S253のベットボタンチェック処理の結果に基づいて、ベット動作が完了したか否かを判別する（S254）。

【0610】

S254において、メインCPU101が、ベット動作が完了したと判別したとき（S254がYES判定の場合）、メインCPU101は、メダル投入チェック処理を終了し、処理をメダル受付・スタートチェック処理（図83参照）のS229に移す。

40

【0611】

一方、S254において、メインCPU101が、ベット動作が完了していないと判別したとき（S254がNO判定の場合）、メインCPU101は、現処理時のメダルセンサ入力状態（遊技媒体の受付状態）と、前回処理時のメダルセンサ入力状態とを取得する（S255）。なお、メダルセンサ入力状態は、メダル投入口14に受け入れられたメダルのセクタ66内の通過状況を示す情報であり、セクタ66に入口及び出口に設けられた各メダルセンサ（不図示）の検知結果により生成される。

【0612】

本実施形態では、メダルセンサ入力状態は、1バイト（8ビット）のデータで表され、

50

セクタ 66 の出口にメダルの通過方向に並んで設けられた上流側の第 1 メダルセンサ（不図示）の検知結果がビット 0 の情報（「0」又は「1」）に対応し、下流側の第 2 メダルセンサ（不図示）の検知結果がビット 1 の情報（「0」又は「1」）に対応する。第 1 メダルセンサによりメダルの通過が検知された場合には、ビット 0 に「1」がセットされ、第 2 メダルセンサによりメダルの通過が検知された場合には、ビット 1 に「1」がセットされる。それゆえ、メダルセンサ入力状態「00000000B」は、メダル通過前又は通過後（通過時）の状態を示し、メダルセンサ入力状態「00000001B」は、メダル通過開始時の状態を示し、メダルセンサ入力状態「00000011B」は、メダル通過中の状態を示し、メダルセンサ入力状態「00000010B」は、メダル通過完了直前の状態を示す。

10

【0613】

次いで、メイン CPU 101 は、現処理時のメダルセンサ入力状態が前回処理時のメダルセンサ入力状態から変化したか否かを判別する（S256）。

【0614】

S256 において、メイン CPU 101 が、現処理時のメダルセンサ入力状態が前回処理時のメダルセンサ入力状態から変化していないと判別したとき（S256 が NO 判定の場合）、メイン CPU 101 は、後述の S261 の処理を行う。

【0615】

一方、S256 において、メイン CPU 101 が、現処理時のメダルセンサ入力状態が前回処理時のメダルセンサ入力状態から変化したと判別したとき（S256 が YES 判定の場合）、メイン CPU 101 は、前回処理時のメダルセンサ入力状態に基づいて、演算処理により、現処理時で得られるメダルセンサ入力状態の正常値（正常変化値）を生成する（S257）。

20

【0616】

なお、この処理において、前回処理時のメダルセンサ入力状態が「00000000B」である場合（第 1 及び第 2 メダルセンサがともにメダル未検知である場合）には、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000001B」（第 1 メダルセンサがメダル検知であり、第 2 メダルセンサがメダル未検知である場合）が生成され、前回処理時のメダルセンサ入力状態が「00000001B」である場合には、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000011B」（第 1 及び第 2 メダルセンサがともにメダル検知である場合）が生成される。また、この処理において、前回処理時のメダルセンサ入力状態が「00000011B」である場合には、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000010B」（第 1 メダルセンサがメダル未検知であり、第 2 メダルセンサがメダル検知である場合）が生成され、前回処理時のメダルセンサ入力状態が「00000010B」である場合には、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000000B」（第 1 及び第 2 メダルセンサがともにメダル未検知である場合）が生成される。なお、メダルセンサ入力状態の正常変化値の生成（算出）手法については後で詳述する。

30

【0617】

次いで、メイン CPU 101 は、現処理時のメダルセンサ入力状態が S257 で生成された正常変化値と同じであるか否かを判別する（S258）。なお、この判定処理では、メダル逆行エラーの発生の有無が判定され、S258 の判定条件が満たされない場合には、メイン CPU 101 は、メダル逆行エラーが発生したと判定する。

40

【0618】

S258 において、メイン CPU 101 が、現処理時のメダルセンサ入力状態が S257 で生成された正常変化値と同じでないとして判別したとき（S258 が NO 判定の場合）、メイン CPU 101 は、後述の S262 の処理を行う。

【0619】

一方、S258 において、メイン CPU 101 が、現処理時のメダルセンサ入力状態が S257 で生成された正常変化値と同じであると判別したとき（S258 が YES 判定の場合）、メイン CPU 101 は、現処理時のメダルセンサ入力状態がメダル通過時の状態

50

(「00000000B」)であるか否かを判別する(S259)。S259において、メインCPU101が、現処理時のメダルセンサ入力状態がメダル通過時の状態であると判別したとき(S259がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS263の処理を行う。

【0620】

S259において、メインCPU101が、現処理時のメダルセンサ入力状態がメダル通過時の状態でないと判別したとき(S259がNO判定の場合)、メインCPU101は、メダル通過チェックタイマーをセットする(S260)。この処理でメダル通過チェックタイマーにセットされる時間は、メダルがセクタ66を通過したか否かを判別可能な時間であれば、任意の時間に設定することができる。また、この処理でセットされるタイマー値は、例えば、現処理時のメダルセンサ入力状態に応じて変化させてもよい。

10

【0621】

S260の処理後又はS256がNO判定の場合、メインCPU101は、現処理時のメダルセンサ入力状態がメダル通過中の状態(「00000011B」)であり、かつ、メダル通過チェックタイマーが停止しているか否かを判別する(S261)。この判定処理では、メダル通過エラー(投入メダル通過時間エラー)の発生の有無が判定され、S261の判定条件が満たされた場合、メインCPU101は、メダル通過エラーが発生したと判定する。

【0622】

S261において、メインCPU101が、S261の判定条件が満たされないと判別したとき(S261がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS253の処理に戻し、S253以降の処理を繰り返す。

20

【0623】

一方、S261において、メインCPU101が、S261の判定条件が満たされると判別したとき(S261がYES判定の場合)、又は、S258がNO判定の場合、すなわち、メダル通過エラー又はメダル逆行エラーが発生したと判定された場合、メインCPU101は、エラー処理を行う(S262)。この処理では、メインCPU101は、例えば、エラーコマンド生成格納処理等のエラー発生時の各種処理を行う。なお、エラー処理の詳細については、後述の図89を参照しながら後で説明する。そして、S262の処理後、メインCPU101は、処理をS253の処理に戻し、S253以降の処理を繰り返す。

30

【0624】

ここで再度、S259の処理に戻って、S259がYES判定の場合、メインCPU101は、規定数(本実施形態では3枚)のメダルが投入済みの状態であるか否かを判別する(S263)。

【0625】

S263において、メインCPU101が、規定数のメダルが投入済みの状態でないと判別したとき(S263がNO判定の場合)、メインCPU101は、図85で説明したメダル投入処理を行う(S264)。そして、S264の処理後、メインCPU101は、処理をS253の処理に戻し、S253以降の処理を繰り返す。

40

【0626】

一方、S263において、メインCPU101が、規定数のメダルが投入済みの状態であると判別したとき(S263がYES判定の場合)、メインCPU101は、クレジットカウンタの値に「1」を加算する(S265)。次いで、メインCPU101は、メダル投入コマンド生成格納処理を行う(S266)。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信するメダル投入コマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域(図75B参照)に保存する。通信データ格納領域に保存されたメダル投入コマンドは、後述の図158で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。

【0627】

50

次いで、メインCPU101は、クレジットカウンタの値に基づいて、メダルのクレジット枚数が上限値（本実施形態では50枚）であるか否かを判別する（S267）。

【0628】

S267において、メインCPU101が、メダルのクレジット枚数が上限値でないと判別したとき（S267がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS253の処理に戻し、S253以降の処理を繰り返す。一方、S267において、メインCPU101が、メダルのクレジット枚数が上限値であると判別したとき（S267がYES判定の場合）、メインCPU101は、メダル投入チェック処理を終了し、処理をメダル受付・スタートチェック処理（図83参照）のS229に移す。

【0629】

本実施形態では、上述のようにしてメダル投入チェック処理が行われる。そして、上述したメダル投入チェック処理中のS255～S258の処理は、メインCPU101が、図88のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中で、S257のメダルセンサ入力状態の正常変化値の生成処理は、テーブルを参照して取得する処理ではなく、演算処理により行われる。具体的には、正常変化値の生成処理は、メインCPU101が図88に示すソースプログラム中のソースコード「RLA」及び「AND cBX_MDISW」をこの順で実行することにより行われる。

【0630】

「RLA」命令は、Aレジスタに格納された1バイトのデータを、左（ビット0からビット7に向かう方向）に1回（1ビット分）シフトさせる命令コードである。図88に示す例では、「RLA」命令より前に実行されるソースコード「LD A, B」によりAレジスタに格納された前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが、「RLA」命令により、左に1回シフトされる。この際、ビット0に新たに格納されるビットデータは、「RLA」命令より前に実行されるソースコード「CP cBX_MDISW2」の実行結果に基づいて決定される。

【0631】

「CP」命令は比較動作を実行する命令コードである。また、「cBX_MDISW2」は、1バイトのデータであり、本実施形態では「00000010B」である。ソースコード「CP cBX_MDISW2」が実行されると、Aレジスタに格納された前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが、「cBX_MDISW2（00000010B）」と比較される。

【0632】

そして、ソースコード「CP cBX_MDISW2」を実行した結果、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「cBX_MDISW2（00000010B）」未満であるという結果が得られた場合にはフラグレジスタFのキャリーフラグ（図11参照）に「1」がセットされ、「RLA」命令の実行時に、Aレジスタのビット0にフラグレジスタFのキャリーフラグの「1」が格納される。一方、ソースコード「CP cBX_MDISW2」を実行した結果、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「cBX_MDISW2（00000010B）」以上であるという結果が得られた場合にはフラグレジスタFのキャリーフラグ（図11参照）に「0」がセットされ、「RLA」命令の実行時により、Aレジスタのビット0にフラグレジスタFのキャリーフラグの「0」が格納される。

【0633】

それゆえ、例えば、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「00000000B（メダル通過前又は通過後（通過時）の状態）」（<「cBX_MDISW2」）であれば、「RLA」命令の実行により、「00000001B」が生成され、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「00000001B（メダル通過開始時の状態）」（<「cBX_MDISW2」）であれば、「RLA」命令の実行により、「00000011B」が生成される。一方、例えば、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「00000011B（メダル通過中の状態）」（>「cBX_

10

20

30

40

50

MDISW2」)であれば、「RLA」命令の実行により、「00000110B」が生成され、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「00000010B(メダル通過完了直前の状態)」(=「cBX__MDISW2」)であれば、「RLA」命令の実行により、「00000100B」が生成される。

【0634】

次いで、ソースコード「AND cBX__MDINSW」が実行されると、「RLA」命令の実行により生成された1バイトデータ(Aレジスタの格納データ)が、1バイトのデータ「cBX__MDINSW」と論理積され、メダルセンサ入力状態の正常変化値が算出される。なお、1バイトのデータ「cBX__MDISW」は、本実施形態では「00000011B」である。それゆえ、ソースコード「AND cBX__MDINSW」が実行されれば、Aレジスタの格納データ中のビット0及びビット1のデータだけがマスクされ、その他のビットデータが「0」になる。

10

【0635】

その結果、例えば、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「00000000B(メダル通過前の状態)」であれば、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000001B(メダル通過開始時の状態)」が生成され、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「00000001B(メダル通過開始時の状態)」であれば、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000011B(メダル通過中の状態)」が生成される。一方、例えば、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「00000011B(メダル通過中の状態)」であれば、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000010B(メダル通過完了直前の状態)」が生成され、前回のメダルセンサ入力状態を示す1バイトのデータが「00000010B」(メダル通過完了直前の状態)であれば、メダルセンサ入力状態の正常変化値として「00000000B(メダル通過後(通過時)の状態)」が生成される。

20

【0636】

上述のようにして、メダルセンサ入力状態の変化態様の検知処理をテーブル参照処理から演算処理に変更することにより、メインROM102のテーブル格納領域の空き容量を増やすことができるとともに、プログラムの容量増を最小限に抑えることができる。それゆえ、上述した手法を採用することにより、メダル投入センサ状態の検知処理を効率化することができることとともに、メインROM102において増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能となる。

30

【0637】

[エラー処理]

次に、図89及び図90を参照して、例えば、メダル投入チェック処理(図87参照)中のS262で行うエラー処理について説明する。図89は、エラー処理の手順を示すフローチャートであり、図90は、エラー処理のソースプログラム上で、実際に参照されるエラーテーブルの構成の一例を示す図である。

【0638】

なお、図90に示すエラーテーブルでは、エラー要因の種別を示すポートのオン/オフ状態を表す1バイトデータ(図90中の例えばアドレス「dERR__HE」に格納されている1バイトデータ等)毎に、エラー表示データ(図90中の例えばアドレス「dERR__HE+1」及び「dERR__HE+2」に格納されている1バイトデータ等)が規定される。このエラー表示データは、情報表示器6に含まれる2桁の7セグLED(払出枚数表示用及びエラー表示用兼用)に出力される。

40

【0639】

まず、メインCPU101は、メダルソレノイドのオフ処理を行う(S271)。具体的には、メインCPU101は、セレクト66(図7参照)のソレノイドの駆動を停止する。次いで、メインCPU101は、メダルの払出枚数表示データの退避処理を行う(S272)。

【0640】

50

次いで、メインCPU101は、エラーテーブルのセット処理を行う(S273)。この処理により、図90に示すエラーテーブルの先頭アドレスがソースプログラム上にセットされる。

【0641】

次いで、メインCPU101は、エラー要因を取得する(S274)。なお、この処理で取得されるエラー要因は、現在処理中のエラー処理を読み出した処理に応じて変化する。なお、本実施形態で対象とするエラー要因としては、図90に示すように、「ホッパーエンプティエラー」、「ホッパージャムエラー」、「投入メダル通過カウントエラー」、「投入メダル通過チェックエラー」、「投入メダル通過チェックエラー」、「投入メダル通過時間エラー」、「投入メダル逆行エラー」、「投入メダル補助収納庫満杯エラー」、「イリーガルヒットエラー」が規定される。例えば、メダル投入チェック処理中のS258の処理後にエラー処理が読み出された場合には、この処理において、エラー要因として図90中の「投入メダル逆行エラー(Cr)」が取得される。また、例えば、メダル投入チェック処理中のS261の処理後にエラー処理が読み出された場合には、この処理において、エラー要因として図90中の「投入メダル通過時間エラー(CE)」が取得される。

10

【0642】

次いで、メインCPU101は、エラーテーブルとエラー要因とから、エラー表示データを取得する(S275)。例えば、エラー要因が「投入メダル逆行エラー(Cr)」である場合、この処理において、2桁の7セグLEDのうち、上位桁の7セグLEDに出力するエラー表示データとして、図90に示すエラーテーブル中のアドレス「dERR_CR+1」に格納されている1バイトデータ「01001110B」が取得され、下位桁の7セグLEDに出力するエラー表示データとして、アドレス「dERR_CR+2」に格納されている1バイトデータ「00001001B」が取得される。この場合、2桁の7セグLEDには、「Cr」の2文字がエラー情報として表示される。

20

【0643】

次いで、メインCPU101は、エラーコマンド(発生)生成格納処理を行う(S276)。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信する、エラー発生時のエラーコマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けられた通信データ格納領域(図75B参照)に保存する。通信データ格納領域に保存されたエラー発生時のエラーコマンドは、後述の図158で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。なお、エラー発生時のエラーコマンドには、エラー発生を示すパラメータを含んで構成される。

30

【0644】

次いで、メインCPU101は、1割込時間(1.1172ms)の待機処理を行う(S277)。次いで、メインCPU101は、エラーが解除されたか否かを判別する(S278)。

【0645】

S278において、メインCPU101が、エラーが解除されていないと判別したとき(S278がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS277の処理に戻し、S277以降の処理を繰り返す。

40

【0646】

一方、S278において、メインCPU101が、エラーが解除されたと判別したとき(S278がYES判定の場合)、メインCPU101は、エラー要因のクリア処理を行う(S279)。なお、この処理は、メインRAM103の規定外作業領域で行われる。次いで、メインCPU101は、S272で退避させたメダルの払出枚数表示データの復帰処理を行う(S280)。

【0647】

次いで、メインCPU101は、エラーコマンド(解除)生成格納処理を行う(S281)。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信する、エラー解除時のエラーコマンドのデータを生成し、該コマンドデータをメインRAM103に設けら

50

れた通信データ格納領域（図 7 5 B 参照）に保存する。通信データ格納領域に保存されたエラー解除時のエラーコマンドは、後述の図 1 5 8 で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路 9 0 から副制御回路 2 0 0 に送信される。なお、エラー解除時のエラーコマンドには、エラー解除を示すパラメータを含んで構成される。そして、S 2 8 1 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、エラー処理を終了し、処理を例えばメダル投入チェック処理（図 8 7 参照）中の S 2 5 3 に移す。なお、エラー解除では、発生したエラー要因が解除され、リセットスイッチ 7 6 が押下されることにより、エラー状態が解除される。

【 0 6 4 8 】

[乱数取得処理]

次に、図 9 1 を参照して、メインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 0 3 で行う乱数取得処理について説明する。なお、図 9 1 は、乱数取得処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 6 4 9 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、乱数回路の乱数レジスタ 0 のハードラッチ乱数（0 ~ 6 5 5 3 5）を取得し、取得した乱数値を内部当籤役抽籤用の乱数値として、メイン RAM 1 0 3 内の乱数値格納領域（不図示）に保存する（S 2 9 1）。

【 0 6 5 0 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、乱数回路の乱数レジスタ 1 ~ 7 のソフトラッチ乱数（0 ~ 6 5 5 3 5 : ART 関連の抽籤処理で用いられる演出用乱数値、0 ~ 2 5 5 : 1 バイト抽籤処理で乱数値）を生成するためのソフトラッチ乱数取得レジスタのセット処理を行う（S 2 9 2）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、ソフトラッチ乱数の取得個数（例えば、7）をセットする（S 2 9 3）。

【 0 6 5 1 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、取得個数分のソフトラッチ乱数を一括で取得し、取得個数分のソフトラッチ乱数を乱数値格納領域に保存する（S 2 9 4）。なお、この際、乱数回路 1 1 0 の乱数レジスタ 1 から取得されるソフトラッチ乱数（演出用乱数値、2 バイト乱数値）は、乱数値格納領域内において、乱数回路の乱数レジスタ 0 から取得されるハードラッチ乱数（内部当籤役抽籤用の乱数値）が格納された領域とは異なる領域に保存される。そして、S 2 9 4 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、乱数取得処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）の S 2 0 4 に移す。なお、本実施形態では、4 つの 2 バイト乱数と、4 つの 1 バイト乱数を格納するために、メイン RAM 1 0 3 に 1 2 バイトの格納領域が乱数格納領域として割り当てられている。

【 0 6 5 2 】

[内部抽籤処理]

次に、図 9 2 ~ 図 9 6 を参照して、メインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 0 4 で行う内部抽籤処理について説明する。なお、図 9 2 は、内部抽籤処理の手順を示すフローチャートであり、図 9 3 A は、内部抽籤処理中の S 3 0 2 ~ S 3 0 5 の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図 9 3 B は、内部抽籤処理中の S 3 0 8 ~ S 3 0 9 の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【 0 6 5 3 】

また、図 9 4 は、内部抽籤処理のソースプログラム上で、実際に参照される内部抽籤テーブル（一般遊技中用）の構成の一例を示す図であり、図 9 5 は、内部抽籤処理のソースプログラム上で、実際に参照される RT 状態別抽籤値選択テーブルの構成の一例を示す図である。さらに、図 9 6 は、内部抽籤処理のソースプログラム上で、実際に参照される、内部抽籤値テーブル選択テーブル、1 バイト内部抽籤値テーブル、2 バイト内部抽籤値テーブル、1 バイト設定別内部抽籤値テーブル及び 2 バイト設定別内部抽籤値テーブルの構成の一例を示す図である。なお、本実施形態では、RB (BB) 中用の内部抽籤テーブルも設けられているが、ここでは、内部抽籤処理のソースプログラム上で参照される RB 中用の内部抽籤テーブルの構成の図示は省略する。

【 0 6 5 4 】

10

20

30

40

50

まず、メインCPU101は、設定値・メダル投入枚数チェック処理を行う(S301)。この処理では、メインCPU101は、現遊技の設定値(1~6のいずれか)及びメダル投入枚数(本実施形態では3枚)のチェック処理を行う。

【0655】

次いで、メインCPU101は、一般遊技中用の内部抽籤テーブル及び抽籤回数(本実施形態では53回)をセットする(S302)。この処理では、図94に示す内部抽籤テーブル(一般遊技中用)中の「特賞当籤番号+小役当籤番号」の値(当り要求フラグステータス)がCレジスタにセットされ、「抽籤値選択テーブルor抽籤係数テーブル」の値(判定データ:アドレスに関するデータ)がAレジスタにセットされる。なお、当り要求フラグステータスは、図94に示すように、特賞当籤番号(「00H(はずれ)」、「01H(BB1)」、「02H(BB2)」:10進数で0、1、2)に「25H(16進数:10進数では37(後述の特賞番号))が乗算された値に、小役当籤番号(「00H」~「24H」:10進数で0~36)を加算した値である。

10

【0656】

次いで、メインCPU101は、RB作動中であるか否かを判別する(S303)。S303において、メインCPU101が、RB作動中でないと判別したとき(S303がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS305の処理を行う。

【0657】

一方、S303において、メインCPU101が、RB作動中であると判別したとき(S303がYES判定の場合)、メインCPU101は、RB中用の内部抽籤テーブル及び抽籤回数(本実施形態では5回)をセットする(S304)。この処理では、S302でセットされた一般遊技中用の内部抽籤テーブル及び抽籤回数をRB中用の内部抽籤テーブル及び抽籤回数で上書きする。

20

【0658】

S304の処理後又はS303がNO判定の場合、メインCPU101は、セットされている内部抽籤テーブルから抽籤対象役の判定データ(アドレスに関するデータ)を取得し、抽籤テーブルアドレスを更新する(S305)。

【0659】

次いで、メインCPU101は、判定データがRT状態別データであるか否かを判別する(S306)。この処理では、メインCPU101は、現在取得されている抽籤対象役がRT状態に応じて抽籤値が変化する内部当籤役であるか否かを判別する。具体的には、メインCPU101は、現在取得されている抽籤対象役の判定データに規定されているアドレスが、図95に示すRT状態別抽籤値選択テーブル内のアドレスであるか否かを判別する。

30

【0660】

例えば、図94の内部抽籤テーブルにおいて内部当籤役「F__チリリブ」に対応付けられている判定データ「(dRPPTR01-dRTRB__SEL)*2+001H」では、図95に示すRT状態別抽籤値選択テーブル内の内部当籤役「F__チリリブ」のアドレス「dRPPTR01」が規定されているので、内部当籤役「F__チリリブ」に対応付けられている判定データは、RT状態別データに対応する。それゆえ、現在取得されている抽籤対象役が内部当籤役「F__チリリブ」である場合には、S306の処理において、メインCPU101は、判定データがRT状態別データであると判定する。

40

【0661】

S306において、メインCPU101が、判定データがRT状態別データでないと判別したとき(S306がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS308の処理を行う。一方、S306において、メインCPU101が、判定データがRT状態別データであると判別したとき(S306がYES判定の場合)、メインCPU101は、判定データに基づいて、図95に示すRT状態抽籤値選択テーブルから選択データを取得し、該取得した選択データを判定データにセットする(S307)。

【0662】

50

S 3 0 7 の処理後又は S 3 0 6 が N O 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、抽籤対象役の判定データが設定別データであるか否かを判別する (S 3 0 8)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、現在取得されている抽籤対象役が、設定値に応じて抽籤値が変化する内部当籤役であるか否かを判別する。具体的には、メイン CPU 1 0 1 は、現在取得されている抽籤対象役の判定データに規定されているアドレスが、図 9 6 に示す 1 バイト設定別内部抽籤値テーブル又は 2 バイト設定別内部抽籤値テーブル内のアドレスであるか否かを判別する。

【 0 6 6 3 】

例えば、図 9 4 の内部抽籤テーブルにおいて内部当籤役「 F __ 強チリ 1 」に対応付けられている判定データ「 ((d N M L B 0 0 F 2 8 9 - d P R B __ D B __ W V) / 0 6 H) * 2 + 0 8 0 H 」では、図 9 6 に示す 1 バイト設定別内部抽籤値テーブル内の内部当籤役「 F __ 強チリ 1 」のアドレス「 d N M L B 0 0 F 2 8 9 」が規定されているので、内部当籤役「 F __ 強チリ 1 」に対応付けられている判定データは、設定別データに対応する。それゆえ、現在取得されている抽籤対象役が内部当籤役「 F __ 強チリ 1 」である場合には、S 3 0 8 の処理において、メイン CPU 1 0 1 は、判定データが設定別データであると判定する。

10

【 0 6 6 4 】

S 3 0 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、判定データが設定別データでないと判別したとき (S 3 0 8 が N O 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 3 1 0 の処理を行う。一方、S 3 0 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、判定データが設定別データであると判別したとき (S 3 0 8 が Y E S 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、判定データに設定値データ (0 ~ 5 にいずれか) を加算し、該加算した値を判定データにセットする (S 3 0 9)。なお、この処理で判定データに加算される設定値データは、設定値に対応付けられたデータであるが、設定値そのものの値ではなく、設定値データ「 0 」 ~ 「 5 」は、それぞれ「設定 1 」 ~ 「設定 6 」に対応するデータである。

20

【 0 6 6 5 】

S 3 0 9 の処理後又は S 3 0 8 が N O 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、セットされている判定データ (アドレスデータ) に基づいて、抽籤対象役の抽籤値が格納された領域のアドレスを算出し、該アドレスに格納された抽籤値を取得する (S 3 1 0)。

【 0 6 6 6 】

S 3 1 0 の処理において、例えば、抽籤対象役が、その抽籤値が R T 状態及び設定値の両方に依存しない内部当籤役「 F __ サボ 2 」である場合には、図 9 6 に示す 1 バイト内部抽籤値テーブルからアドレス「 d N M __ B 0 0 F 2 6 」に格納された抽籤値「 1 2 8 」が取得される。また、例えば、抽籤対象役が、その抽籤値が R T 状態により変化する内部当籤役「 F __ R T 3 リプ __ 1 s t 」であり、R T 状態が R T 2 状態である場合には、図 9 6 に示す 2 バイト内部抽籤値テーブルからアドレス「 d R T 2 B 0 0 F 1 3 4 5 6 」に格納された抽籤値「 1 8 0 0 」が取得される。

30

【 0 6 6 7 】

また、S 3 1 0 の処理において、例えば、抽籤対象役が、その抽籤値が設定値により変化する内部当籤役「 F __ 強チリ 1 」である場合には、図 9 6 に示す 1 バイト設定別内部抽籤値テーブルに規定されている 6 種類の抽籤値「 1 5 0 (設定 1) , 1 5 0 (設定 2) , 1 5 0 (設定 3) , 1 5 0 (設定 4) , 1 6 0 (設定 5) , 1 7 0 (設定 6) 」の中から設定値に対応する抽籤値が取得される。この際、設定値に対応する抽籤値の取得は、判定データに設定値データを加算 (S 3 0 9 の処理) して求められたアドレスを指定することにより取得される。それゆえ、例えば、抽籤対象役が「 F __ 強チリ 1 」であり、設定値が「 6 」 (設定値データが「 5 」) である場合には、アドレス「 d N M L B 0 0 F 2 8 9 + 5 」に格納された抽籤値「 1 7 0 」が取得される。

40

【 0 6 6 8 】

なお、本実施形態では、例えば内部当籤役「 F __ 維持リプ A 」のように、その抽籤値が R T 状態及び設定値の両方に依存する役の場合には、内部抽籤値テーブル及び設定別内部

50

抽籤値テーブルの両方を参照して、抽籤値が取得される。

【0669】

次いで、メインCPU101は、乱数格納領域に格納された内部当籤役抽籤用の乱数値(0~65535のいずれか)を取得する(S311)。

【0670】

次いで、メインCPU101は、抽籤実行処理を行う(S312)。この処理では、メインCPU101は、S310で取得された抽籤値に、S311で取得された乱数値を加算し、その加算結果を抽籤結果(抽籤対象役の当籤/非当籤)とする。なお、この抽籤実行処理において、抽籤値と乱数値との和が65535を超えた場合(オーバーフローした場合)、抽籤対象役が当籤した(抽籤対象役が内部当籤役として決定された)と判定される。

10

【0671】

次いで、メインCPU101は、乱数値に抽籤値を加算した値(抽籤実行後の乱数値)を新たな乱数値として、乱数格納領域に保存する(S313)。次いで、メインCPU101は、抽籤実行処理で当籤したか否か(オーバーフローが発生したか否か)を判別する(S314)。

【0672】

S314において、メインCPU101が、抽籤実行処理で当籤したと判別したとき(S314がYES判定の場合)、メインCPU101は、内部抽籤テーブルを参照して当籤した内部当籤役に対応する当り要求フラグステータス(「特賞当籤番号+小役当籤番号」の値)を取得する(S315)。例えば、一般遊技中において、抽籤対象役が「F_確チリリブ」であるときの抽籤実行処理で当籤した場合、S315の処理では、当り要求フラグステータス「(00H*25H)+02H」(特賞当籤番号=0、小役当籤番号=2)が取得される。そして、S315の処理後、メインCPU101は、内部抽籤処理を終了し、処理をメインフロー(図82参照)のS205に移す。

20

【0673】

一方、S314において、メインCPU101が、抽籤実行処理で当籤していないと判別したとき(S314がNO判定の場合)、メインCPU101は、内部抽籤テーブルにおいて抽籤対象役を次の役に更新し、抽籤回数を1減算する(S316)。次いで、メインCPU101は、減算後の抽籤回数が「0」であるか否かを判別する(S317)。

30

【0674】

S317において、メインCPU101が、減算後の抽籤回数が「0」でないと判別したとき(S317がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS305の処理に戻し、S305以降の処理を繰り返す。

【0675】

一方、S317において、メインCPU101が、減算後の抽籤回数が「0」であると判別したとき(S317がYES判定の場合)、すなわち、内部当籤役が「はずれ」である場合、メインCPU101は、ハズレステータスをセットする(S318)。なお、「ハズレステータス」は、特賞当籤番号及び小役当籤番号のいずれもが「0」となる当り要求フラグステータスに対応する。そして、S318の処理後、メインCPU101は、内部抽籤処理を終了し、処理をメインフロー(図82参照)のS205に移す。

40

【0676】

本実施形態では、上述のようにして内部抽籤処理が行われる。なお、上述した内部抽籤処理中のS302~S305の処理は、メインCPU101が、図93Aのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中でも、S305の判定データの取得処理は、図93A中のソースコード「LDIN AC, (HL)」により実行される。

【0677】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「LDIN ss, (HL)」が実行されると、HLレジスタ(ペアレジスタ)にセットされたアドレス及び該アドレスに

50

「1」を加算したアドレスで指定されるメモリの内容（データ）が、 ss （BC、DE、AC、AE又はBD）ペアレジスタにロードされるとともに、HLレジスタにセットされているアドレスが+2更新（2加算）される。それゆえ、図93A中のソースコード「LDIN AC, (HL)」が実行されると、HLレジスタ（ペアレジスタ）にセットされたアドレス及び該アドレスに1加算したアドレスで指定されるメモリの内容（データ）が、ACレジスタにロードされるとともに、HLレジスタにセットされているアドレスが+2更新（2加算）される。なお、S305の判定データの取得処理では、上述のように、この「LDIN」命令（所定の読み出し命令）により、Aレジスタに、判定データ（「抽籤値選択テーブルor抽籤係数テーブル」の値）が格納され、Cレジスタに当り要求フラグステータス（「特賞当籤番号+小役当籤番号」の値）が格納される。

10

【0678】

上述のように、内部抽籤処理中のS305の判定データの取得処理では、一つの命令コード（「LDIN」命令）により、データのロード処理及びアドレスの更新処理の両方を行うことができる。この場合、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令コードを省略することができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【0679】

また、上述した内部抽籤処理中のS308及びS309の処理は、メインCPU101が、図93Bのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中で、S309の設定値データ（0~5のいずれか）の加算処理は、メインCPU101が図93B中のソースコード「MUL A, 6」及び「ADDQ A, (.LOW.wWAVENUM)」をこの順で実行することにより行われる。なお、「MUL」命令及び「ADDQ」命令はともに、メインCPU101専用命令コードであり、「ADDQ」命令は、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行うメインCPU101専用命令コードである。

20

【0680】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「MUL A, n」が実行されると、Aレジスタの格納データと、1バイトの整数nとを乗算し、その乗算結果をAレジスタに格納する。それゆえ、図93B中のソースコード「MUL A, 6」では、Aレジスタの内容（格納データ）に、1バイトの整数6が乗算され、その乗算結果がAレジスタに格納される。なお、この乗算処理は、マイクロプロセッサ91に含まれる演算回路107（図9参照）により実行される。すなわち、本実施形態のパチスロ1では、ソースプログラム上における乗算処理及び除算処理を実行するための演算専用回路（演算回路107）が設けられているので、乗算処理及び除算処理の効率化を図ることができる。

30

【0681】

また、ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「ADDQ r, (k)」が実行されると、Qレジスタの格納データ（上位側アドレス値）及び1バイトの整数k（直値：下位側アドレス値）で指定されたアドレスのメモリの内容（格納データ）に、rレジスタ（A、B、C、D、E、H又はLレジスタ）の格納データが加算され、該加算結果がrレジスタに格納される。それゆえ、図93B中のソースコード「ADDQ A, (.LOW.wWAVENUM)」が実行されると、Qレジスタの格納データ及び1バイトの整数値「.LOW.wWAVENUM」で指定されたアドレスのメモリの内容（設定値データ）にAレジスタの内容（格納データ）が加算され、該加算結果がAレジスタに格納される。

40

【0682】

すなわち、図93Bに示す例では、S309の設定値の加算処理において、抽籤テーブル選択用相対値に係数「6」を乗算して、その乗算値に設定値データを加算することにより、抽籤対象役の抽籤値が格納された抽籤テーブルのアドレスを算出している。

50

【 0 6 8 3 】

上述のように、本実施形態では、内部抽籤処理において、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いたメインCPU101専用命令コード（「ADDQ」命令）が用いられており、この命令コードを用いれば、直値により、メインROM102、メインRAM103やメモリーマップI/Oにアクセスすることができる。それゆえ、内部抽籤処理のソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【 0 6 8 4 】

[図柄設定処理]

次に、図97～図100を参照して、メインフロー（図82参照）中のS205で行う図柄設定処理について説明する。

【 0 6 8 5 】

図97は、図柄設定処理の手順を示すフローチャートである。図98は、特賞（ボーナス）当籤番号及び小役当籤番号と、内部当籤役との対応表である。なお、図98では、「はずれ（00）」に対応する特賞当籤番号及び小役当籤番号の図示は省略している。また、図99は、図柄設定処理中のS324～S330の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図100は、図柄設定処理のソースプログラム上で、実際に参照される当り要求フラグテーブル（フラグデータテーブル、当籤フラグテーブルデータ）の構成の一例を示す図である。

【 0 6 8 6 】

まず、メインCPU101は、内部抽籤処理で取得された当り要求フラグステータスに基づいて、特賞当籤番号及び小役当籤番号を抽出し、該抽出された特賞当籤番号及び小役当籤番号をメインRAM103内の当籤番号格納領域（不図示）に保存する（S321）。

【 0 6 8 7 】

本実施形態では、図98に示すように、特賞（ボーナス）当籤番号「1」及び「2」には、それぞれ、内部当籤役「F__BB1」及び「F__BB2」が対応付けられている。また、小役当籤番号「1」～「36」には、それぞれ、内部当籤役「F__チリリプ」～「F__RB役4」が対応付けられている。そして、図94で説明したように、当り要求フラグステータスの値は、特賞当籤番号に特賞番号（本実施形態では「37（16進数では25H）」）を乗算した値に、小役当籤番号を加算した値である。それゆえ、S321の処理において、当り要求フラグステータスの値から特賞当籤番号及び小役当籤番号を抽出するため、本実施形態では、メインCPU101は、当り要求フラグステータスの値を特賞番号（「37」）で除算する。その結果、除算処理により生成された、商の値が特賞当籤番号（10進数で0～2のいずれか）となり、余りの値が小役当籤番号（10進数で0～36のいずれか）となる。

【 0 6 8 8 】

次いで、メインCPU101は、抽出された小役当籤番号に基づいて、小役が当籤したか否かを判別する（S322）。この処理において、小役当籤番号が1～36のいずれかである場合には、メインCPU101は、小役が当籤したと判定し、小役当籤番号が0である場合には、メインCPU101は、小役が当籤しなかったと判定する。

【 0 6 8 9 】

S322において、メインCPU101が、小役が当籤していないと判別したとき（S322がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS331の処理を行う。一方、S322において、メインCPU101が、小役が当籤したと判別したとき（S322がYES判定の場合）、メインCPU101は、小役当籤番号を減算結果の初期値としてセットする（S323）。

【 0 6 9 0 】

次いで、メインCPU101は、当り要求フラグテーブル（図100参照）をセットす

10

20

30

40

50

る（S324）。次いで、メインCPU101は、減算結果を1減算し、該減算結果を更新する（S325）。次いで、メインCPU101は、減算結果が「0」未満であるか否かを判別する（S326）。

【0691】

S326において、メインCPU101が、減算結果が「0」未満でないと判別したとき（S326がNO判定の場合）、メインCPU101は、ビット数算出処理を行う（S327）。なお、S327のビット数算出処理では、当り要求フラグテーブルに規定されている、小役当籤番号に対応する当り要求フラグデータの格納領域のブロック数を取得する。

【0692】

なお、本実施形態では、当り要求フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）において、当り要求格納領域0～7のブロックと、当り要求格納領域8～11のブロックとが設けられている。それゆえ、S327のビット数算出処理で取得される当り要求フラグデータの格納領域のブロック数の最大値は「2」となる。例えば、内部当籤役が「F__確チリリブ」である場合には、当り要求フラグテーブル（図100参照）に示すように、当り要求格納領域0～7のブロックに含まれる格納領域7と、当り要求格納領域8～11のブロックに含まれる格納領域9にそれぞれ当り要求フラグデータが規定されているので、S327のビット数算出処理で取得される当り要求フラグデータの格納領域のブロック数は「2」となる。

【0693】

次いで、メインCPU101は、ビット数算出処理を行う（S328）。なお、S328のビット数算出処理では、当り要求フラグテーブル（図100参照）において規定されるブロック単位の当り要求フラグデータのバイト数を算出する。例えば、内部当籤役が「F__確チリリブ」である場合には、当り要求フラグテーブル（図100参照）に示すように格納領域7及び格納領域9ではともに1バイトの当り要求フラグデータが格納されるので、S328のビット数算出処理で取得されるブロック単位の当り要求フラグデータのバイト数は1バイトとなる。なお、図100に記載のテーブルにおいて、格納領域7に格納される当り要求フラグデータには「10000000B | 01000000B」と記載されているが、これは、格納領域7に格納される当り要求フラグデータが「1000000000B」又は（「|」は論理和の記号）「0100000000B」であることを意味する。

【0694】

なお、上述したS325～S328の処理は、小役当籤番号の回数だけ繰り返される。例えば、内部当籤役が「F__確チリリブ」（小役当籤番号が「2」）である場合には、上述したS325～S328の処理は、2回繰り返される。また、S325～S328の処理が複数回繰り返される場合には、S327及びS328のビット数算出処理でそれぞれ取得されるブロック数及びブロック単位の当り要求フラグデータのバイト数は、別の格納領域に保存される。また、上述したS325～S328の処理により得られたブロック数及びブロック単位の当り要求フラグデータのバイト数は、当り要求フラグデータの格納先を指定する情報（オンビット情報）となる。

【0695】

ここで再度、S326の処理に戻って、S326において、メインCPU101が、減算結果が「0」未満であると判別したとき（S326がYES判定の場合）、メインCPU101は、当り要求フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）のセット処理を行う（S329）。この際、メインCPU101は、上述したS325～S328の処理により得られたブロック数及びブロック単位の当り要求フラグデータのバイト数（オンビット情報）に基づいて、チェック（更新）対象となる当り要求フラグ格納領域のみをセットする。具体的には、チェック（更新）対象となる当り要求フラグ格納領域のアドレスをDEレジスタに格納する（図99参照）。

【0696】

次いで、メインCPU101は、圧縮データ格納処理を行う（S330）。この処理で

10

20

30

40

50

は、メインCPU101は、主に、当り要求フラグデータをチェック（更新）対象となる当り要求フラグ格納領域内の所定の格納領域に転送（展開）する処理を行う。圧縮データ格納処理の詳細については、後述の図101を参照しながら後で説明する。

【0697】

S330の処理後又はS322がNO判定の場合、メインCPU101は、持越役格納領域（図31参照）を参照して、持越役があるか否かを判別する（S331）。S331において、メインCPU101が、持越役があると判別したとき（S331がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS334の処理を行う。

【0698】

一方、S331において、メインCPU101が、持越役がないと判別したとき（S331がNO判定の場合）、メインCPU101は、S321の処理で抽出された特賞当籤番号に基づいて、ボーナス役（BB1又はBB2）が当籤したか否かを判別する（S332）。

10

【0699】

S332において、メインCPU101が、ボーナス役が当籤していないと判別したとき（S332がNO判定の場合）、メインCPU101は、図柄判定処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS206に移す。

【0700】

一方、S332において、メインCPU101が、ボーナス役が当籤したと判別したとき（S332がYES判定の場合）、メインCPU101は、当籤した特賞当籤番号を持越役格納領域に格納する（S333）。

20

【0701】

S333の処理後又はS331がNO判定の場合、メインCPU101は、特賞当籤番号を当籤番号格納領域（不図示）にセットし、当り要求フラグ格納領域に当り要求フラグデータをセットし、RT状態をRT5状態にセットし、RT遊技数（RT1状態の消化ゲーム数）をクリア（「0」）する（S334）。そして、S334の処理後、メインCPU101は、図柄設定処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS206に移す。

【0702】

本実施形態では、上述のようにして図柄設定処理が行われる。上述した図柄設定処理中のS324～S330の処理（入賞に係るデータの圧縮・展開処理）は、メインCPU101が、図99のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中で、S330の圧縮データ格納処理は、メインCPU101が図99中のソースコード「CALLF SB__BTEP__00」を実行することにより行われる。

30

【0703】

「CALLF」命令は、上述のようにメインCPU101専用の2バイト命令コードであり、図99中のソースコード「CALLF SB__BTEP__00」が実行されると、「SB__BTEP__00」で指定されているアドレスに、処理をジャンプさせ、圧縮データ格納処理が開始される。なお、S330の圧縮データ格納処理では、上述のように、当り要求フラグテーブルに格納された当り要求フラグデータ（圧縮データ）が、対応する当り要求フラグ格納領域に展開（コピー）される。

40

【0704】

また、上述した図柄設定処理中のS329の当り要求フラグ格納領域のアドレスのセット処理は、メインCPU101が図99中のソースコード「LDQ DE, .LOW.W WAVEBIT」を実行することにより行われる。すなわち、図柄設定処理中のS329の処理は、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行うメインCPU101専用の「LDQ」命令により行われる。この場合、図柄設定処理のソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令コードを省略することができ、その分、図柄設定処理のソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。こ

50

の結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【0705】

さらに、本実施形態では、上述した図柄設定処理中のS324～S330で説明した処理手順で入賞に係るデータの圧縮・展開処理を行い、かつ、その処理の中で上述したメインCPU101専用命令コードを用いることにより、入賞に係るデータの圧縮・展開処理の効率化を図ることができるとともに、限られたメインRAM103の容量を有効活用することができる。

【0706】

[圧縮データ格納処理]

次に、図101を参照して、例えば、図柄判定処理（図97参照）中のS330で行う圧縮データ処理について説明する。図101は、圧縮データ格納処理の手順を示すフローチャートである。

【0707】

なお、図101に示す圧縮データ格納処理は、図柄判定処理（図97参照）中のS330だけでなく、後述の図柄コード取得処理（後述の図128参照）中のS649においても実行される。図柄判定処理（図97参照）中のS330で実行される圧縮データ格納処理では、処理対象となるフラグデータは当り要求フラグデータ（当籤役に係るフラグデータ）となるが、後述の図柄コード取得処理（後述の図128参照）中のS649で実行される圧縮データ格納処理では、処理対象となるフラグデータは入賞作動フラグデータ（入賞役に係るフラグデータ）である。そして、処理対象となるフラグデータの種別が異なること以外は、両者の処理は同じ処理になる。

【0708】

それゆえ、図101のフローチャートでは、処理対象とするフラグデータを「処理対象フラグデータ」と記し、処理対象となるフラグテーブルを「処理対象フラグテーブル」と記す。また、この記載に合わせて、以下の圧縮データ格納処理の説明においても、当り要求フラグデータ又は入賞作動フラグデータを「処理対象フラグデータ」と称し、当り要求フラグテーブル（図100参照）又は後述の図柄対応入賞作動テーブル（例えば、後述の図130A等参照）を「処理対象フラグテーブル」と称す。

【0709】

まず、メインCPU101は、格納先チェックビットをセットする（S341）。この処理では、格納先チェックビットはAレジスタ以外のレジスタに格納される。

【0710】

格納先チェックビットは、処理対象フラグデータの格納先（転送先）となるブロックを指定するための1バイトのデータである。本実施形態では、当り要求フラグ格納領域及び入賞作動フラグ格納領域はともに、2つのブロック（格納領域0～7のブロック及び格納領域8～11のブロック）で構成される。そして、例えば、内部当籤役「F__確チリリプ」が決定された場合には、図100の当り要求フラグテーブルに示すように格納領域7及び格納領域9のそれぞれに当り要求フラグデータが格納されるので（格納先のブロック数が「2」になるので）、S341の処理では、格納先チェックビットとして、「00000011B」がセットされる。なお、この1バイトのデータのビット0の値（1/0）が格納領域0～7のブロック内の格納先の有無に対応し、ビット1の値（1/0）が格納領域8～11のブロック内の格納先の有無に対応する。

【0711】

次いで、メインCPU101は、バイト単位の転送カウンタの値を「8」にセットする（S342）。本実施形態では、各ブロックのバイト数が「8」であるので、転送カウンタの初期値には「8」がセットされる。

【0712】

次いで、格納先チェックビットから転送指示ビットの値を抽出する（S343）。なお、転送指示ビットは、格納先チェックビット内のビット0のデータに対応し、S343の

10

20

30

40

50

処理では、1バイトのレジスタに格納されている格納先チェックビットを1回（1ビット分）右シフトすることにより、転送指示ビットが抽出される。具体的には、格納先チェックビットが格納された1バイトのレジスタ（Aレジスタ以外のレジスタ）を1回右シフトすると、ビット7～ビット1に格納されているデータがそれぞれビット6～ビット0に移動するとともに、シフト前のビット0のデータが出力される。そして、このシフト処理により出力されたデータが転送指示ビットの値となる。

【0713】

次いで、メインCPU101は、抽出された転送指示ビットの値に基づいて、転送指示があるか否かを判別する（S344）。この処理では、メインCPU101は、抽出された転送指示ビットの値が「1」である場合に転送指示があると判定する。例えば、格納先チェックビットとして、「00000011B」がセットされた場合、1回目（格納領域の1ブロック目に対応）及び2回目（格納領域の2ブロック目に対応）のS344の判定処理では、転送指示ありの判定となるが、3回目以降のS344の判定処理では、転送指示なしの判定となる。

10

【0714】

S344において、メインCPU101が、転送指示がないと判別したとき（S344がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS354の処理を行う。

【0715】

一方、S344において、メインCPU101が、転送指示があると判別したとき（S344がYES判定の場合）、メインCPU101は、処理対象フラグテーブルからバイト単位格納先指定情報を取得する（S345）。この処理では、バイト単位格納先指定情報として、処理対象フラグテーブル内の処理対象役（当籤役又は入賞役）のフラグデータが格納された領域の先頭アドレスに格納されている、転送先を示す1バイトのデータが取得される。例えば、内部当籤役が「F__確チリリプ」である場合には、図100に示す当り要求フラグテーブル内の「F__確チリリプ」のフラグデータが格納された領域の先頭アドレスに格納されている、格納領域7を転送先として指定する1バイトデータ「10000000B」がバイト単位格納先指定情報として取得される。

20

【0716】

次いで、メインCPU101は、処理対象フラグテーブル内で参照するアドレスの更新処理（アドレスを1加算する処理）を行う（S346）。また、この処理では、メインCPU101は、処理対象フラグデータの格納（転送）先となるブロックの先頭格納領域を指定するアドレスを初期アドレスとしてセットする。例えば、1ブロック目の処理では、S346の処理において、初期アドレスとして格納領域0のアドレスがセットされ、2ブロック目の処理では、S346の処理において、初期アドレスとして格納領域8のアドレスがセットされる。

30

【0717】

次いで、メインCPU101は、バイト単位格納先指定情報から転送指示ビットの値を抽出する（S347）。なお、ここでいう転送指示ビットは、バイト単位格納先指定情報のビット0に対応し、S347の処理では、1バイトのレジスタに格納されているバイト単位格納先指定情報を1回右シフトすることにより、転送指示ビットの値を抽出する（ビット0のデータを出力する）。

40

【0718】

次いで、メインCPU101は、S347の処理で抽出された転送指示ビットの値に基づいて、転送指示があるか否かを判別する（S348）。この処理では、メインCPU101は、抽出された転送指示ビットの値が「1」である場合、転送指示があると判定する。例えば、バイト単位格納先指定情報として、「00000010B」がセットされた場合、2回目（1ブロック目の格納領域1又は2ブロック目の格納領域9）のS347の処理でビット1のデータ「1」が転送指示ビットの値として出力され転送指示ありの判定となるが、1回目及び3～8回目のS347の処理では、転送指示なしの判定となる。

【0719】

50

S 3 4 8において、メインCPU 1 0 1が、転送指示がないと判別したとき（S 3 4 8がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 3 5 1の処理を行う。

【0 7 2 0】

一方、S 3 4 8において、メインCPU 1 0 1が、転送指示があると判別したとき（S 3 4 8がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、現在セットされている処理対象フラグテーブル内のアドレスに格納されている処理対象フラグデータ（当り要求フラグデータ又は入賞作動フラグデータ）を、指定された格納領域に転送（コピー）する（S 3 4 9）。

【0 7 2 1】

例えば、内部当籤役が「F__確チリリブ」であり、現在の処理が1ブロック目の格納領域（格納領域0～7）に対して行われている場合には、バイト単位格納先指定情報が「1 0 0 0 0 0 0 0 B」（格納領域7を格納先として指定するデータ）となるので、8回目のS 3 4 7の処理で転送指示があると判定され、その後のS 3 4 9の処理で、当り要求フラグデータ「1 0 0 0 0 0 0 0 B」、「0 1 0 0 0 0 0 0 B」、「0 0 1 0 0 0 0 0 B」及び「0 0 0 1 0 0 0 0 B」のいずれかが、当り要求フラグ格納領域の格納領域7に転送（コピー）される。

【0 7 2 2】

次いで、メインCPU 1 0 1は、処理対象フラグテーブル内で参照するアドレスの更新処理（アドレスを1加算する処理）を行う（S 3 5 0）。

【0 7 2 3】

S 3 5 0の処理後又はS 3 4 8がNO判定の場合、メインCPU 1 0 1は、処理対象フラグデータの格納先となる格納領域を指定するアドレスの更新処理（アドレスを1加算する処理）を行う（S 3 5 1）。次いで、メインCPU 1 0 1は、転送カウンタの値を1減算する（S 3 5 2）。

【0 7 2 4】

次いで、メインCPU 1 0 1は、転送カウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S 3 5 3）。S 3 5 3において、メインCPU 1 0 1が、転送カウンタの値が「0」でないと判別したとき（S 3 5 3がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、処理をS 3 4 7の処理に戻し、S 3 4 7以降の処理を繰り返す。

【0 7 2 5】

一方、S 3 5 3において、メインCPU 1 0 1が、転送カウンタの値が「0」であると判別したとき（S 3 5 3がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、現在の格納先チェックビットに転送指示対象が残っているか否かを判別する（S 3 5 4）。この処理では、メインCPU 1 0 1は、現処理時点において、格納先チェックビット内に「1」が格納されているビットが残っているか否かを判別する。そして、メインCPU 1 0 1は、格納先チェックビット内に「1」が格納されているビットが残っている場合、すなわち、処理対象となるブロックが存在する場合には、現在の格納先チェックビットに転送指示対象が残っていると判定する。

【0 7 2 6】

S 3 5 4において、メインCPU 1 0 1が、現在の格納先チェックビットに転送指示対象が残っていると判別したとき（S 3 5 4がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、処理をS 3 4 2の処理に戻し、S 3 4 2以降の処理を繰り返す。一方、S 3 5 4において、メインCPU 1 0 1が、現在の格納先チェックビットに転送指示対象が残っていないと判別したとき（S 3 5 4がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、圧縮データ格納処理を終了し、処理を例えば図柄判定処理（図9 7参照）中のS 3 3 1に移す。

【0 7 2 7】

[第2インターフェースボード制御処理（規定外）]

次に、図1 0 2を参照して、メインフロー（図8 2参照）中のS 2 0 7で行う第2インターフェースボード制御処理について説明する。図1 0 2は、第2インターフェースボード制御処理の手順を示すフローチャートである。なお、この処理は、メインRAM 1 0 3

10

20

30

40

50

内の規定外作業領域（図12C参照）で行われる。また、この第2インターフェースボード制御処理で用いられるプログラムはメインROM102内の規定外エリアに格納されている（図12B参照）。

【0728】

まず、メインCPU101は、スタックポインタ（SP）にセットされているメインRAM103内のスタックエリアのアドレスデータを退避させる（S361）。次いで、メインCPU101は、メインRAM103内の規定外スタックエリアのアドレスデータをスタックポインタ（SP）にセットする（S362）。

【0729】

次いで、メインCPU101は、ナビデータを取得する（S363）。次いで、メインCPU101は、ナビ変換テーブルをメインRAM103内の規定外作業領域にセットする（S364）。

10

【0730】

次いで、メインCPU101は、ナビ変換テーブルを参照して第2インターフェース用押し順番号を取得する（S365）。次いで、メインCPU101は、取得した第2インターフェース用押し順番号を、規定外作業領域に設けられた規定外押し順番号格納領域（不図示）に格納する（S366）。次いで、メインCPU101は、規定外作業領域に設けられた押下位置テーブル選択カウンタの値に「0」をセットする（S367）。

【0731】

次いで、メインCPU101は、取得したナビデータが押し順ナビ（押し順小役用のナビデータ）であるか否かを判別する（S368）。S368において、メインCPU101が、取得したナビデータが押し順ナビであると判別したとき（S368がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS372の処理を行う。

20

【0732】

一方、S368において、メインCPU101が、取得したナビデータが押し順ナビでないと判別したとき（S368がNO判定の場合）、メインCPU101は、取得したナビデータがBB1停止操作のナビデータ（10）であるか否かを判別する（S369）。

【0733】

S369において、メインCPU101が、取得したナビデータがBB1停止操作のナビデータであると判別したとき（S369がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS371の処理を行う。一方、S369において、メインCPU101が、取得したナビデータがBB1停止操作のナビデータでないと判別したとき（S369がNO判定の場合）、メインCPU101は、押下位置テーブル選択カウンタの値に「1」を加算する（S370）。S370において、押下位置テーブル選択カウンタの値に「1」を加算する処理は、押下位置テーブル（不図示）からBB2の押下位置を取得するために行われる処理である。

30

【0734】

S370の処理後又はS369がYES判定の場合、メインCPU101は、押下位置テーブル選択カウンタの値に「1」を加算する（S371）。S371において、押下位置テーブル選択カウンタの値に「1」を加算する処理は、押下位置テーブル（不図示）からBB1又はBB2の押下位置を取得するために行われる処理である。

40

【0735】

S371の処理後又はS368がYES判定の場合、メインCPU101は、押下位置テーブル選択カウンタの値に基づいて、押下位置テーブル（不図示）を選択する（S372）。次いで、メインCPU101は、選択した押下位置テーブルを参照して、3リール分（左リール3L、中リール3C及び右リール3R）の押下位置データを取得する（S373）。次いで、メインCPU101は、取得した押下位置データを規定外作業領域に設けられた規定外押下位置格納領域（不図示）に格納する（S374）。S367～S371の処理により、ナビデータが押し順ナビであれば、押下位置テーブル選択カウンタの値は「0」となり、ナビデータがBB1停止操作のナビデータであれば、押下位置テーブ

50

ル選択カウンタの値は「1」となり、ナビデータがBB2停止操作のナビデータであれば、押下位置テーブル選択カウンタの値は「2」となる。すなわち、ナビデータに基づいて、押下位置データが取得される。

【0736】

次いで、メインCPU101は、第2インターフェースボード出力処理を行う(S375)。なお、第2インターフェースボード出力処理の詳細については、後述の図103を参照しながら後で説明する。

【0737】

次いで、メインCPU101は、全レジスタの復帰処理を行う(S376)。次いで、メインCPU101は、S361で退避させたスタックエリアのアドレスデータをスタックポインタ(SP)にセットする(S377)。そして、S377の処理後、メインCPU101は、第2インターフェースボード制御処理を終了し、処理をメインフロー(図82参照)のS208に移す。

【0738】

[第2インターフェースボード出力処理]

次に、図103を参照して、第2インターフェースボード制御処理(図102参照)中のS375で行う第2インターフェースボード出力処理について説明する。図103は、第2インターフェースボード出力処理の手順を示すフローチャートである。なお、この第2インターフェースボード出力処理は、メインRAM103の規定外作業領域で行われる。

【0739】

まず、メインCPU101は、第2インターフェース用シリアル回線(第2シリアル通信回路115:SCU2)を介して送信動作が行われているか否かを判別する(S381)。S381において、メインCPU101が、第2インターフェース用シリアル回線を介して送信動作が行われていると判別したとき(S381がYES判定の場合)、メインCPU101は、第2インターフェースボード出力処理を終了し、処理を第2インターフェースボード制御処理(図102参照)のS376に移す。

【0740】

一方、S381において、メインCPU101が、第2インターフェース用シリアル回線を介して送信動作が行われていないと判別したとき(S381がNO判定の場合)、メインCPU101は、規定外作業領域に設けられたループカウンタの値に「3」(リールの個数)をセットし、シリアル通信用サム値に初期値「1」をセットする(S382)。次いで、メインCPU101は、第2インターフェース用シリアル回線(第2シリアル通信回路115:SCU2)を介して、送信開始データを送信する(S383)。

【0741】

次いで、メインCPU101は、所定のリール(回胴)の規定外押下位置格納領域を参照し、所定のリールの押下位置データを取得する(S384)。次いで、メインCPU101は、参照する規定外押下位置格納領域を次の対象リール(回胴)のそれに更新する(S385)。

【0742】

次いで、メインCPU101は、パルス変換データ(不図示)及び取得した押下位置データに基づいて、押下位置データ(図柄位置)に対応するパルス数データを取得する(S386)。なお、押下位置データ(図柄位置)とパルス数データとの対応関係の詳細については省略するが、例えば、取得した押下位置データ(図柄位置)が「3」(左リール3Lでは図柄「白7」)である場合には、パルス数データとして「38」が取得され、押下位置データ(図柄位置)が「10」(左リール3Lでは図柄「リプレイ」)である場合には、パルス数データとして「155」が取得される。また、例えば、取得した押下位置データ(図柄位置)が「12」(左リール3Lでは図柄「青7」)である場合には、パルス数データとして「189」が取得され、押下位置データ(図柄位置)が「15」(左リール3Lでは図柄「リプレイ」)である場合には、パルス数データとして「239」が取得される。

10

20

30

40

50

【 0 7 4 3 】

次いで、メインCPU101は、取得したパルス数データを第2インターフェース用シリアル回線（第2シリアル通信回路115：SCU2）を介して送信する（S387）。次いで、メインCPU101は、シリアル通信用サム値にパルス数データを加算する（S388）。次いで、メインCPU101は、ループカウンタの値を1減算する（S389）。

【 0 7 4 4 】

次いで、メインCPU101は、ループカウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S390）。S390において、メインCPU101が、ループカウンタの値が「0」でないと判別したとき（S390がNO判定の場合）、メインCPU101は、対象リールを次のリールに変更するとともに、処理をS384に戻し、S384以降の処理を繰り返す。

10

【 0 7 4 5 】

一方、S390において、メインCPU101が、ループカウンタの値が「0」であると判別したとき（S390がYES判定の場合）、メインCPU101は、シリアル通信用サム値を第2インターフェース用シリアル回線（第2シリアル通信回路115：SCU2）を介して送信する（S391）。そして、S391の処理後、メインCPU101は、第2インターフェースボード出力処理を終了し、処理を第2インターフェースボード制御処理（図102参照）のS376に移す。

【 0 7 4 6 】

〔 状態別制御処理 〕

次に、図104を参照して、メインフロー（図82参照）中のS208で行う状態別制御処理について説明する。図104は、状態別制御処理の手順を示すフローチャートである。

20

【 0 7 4 7 】

まず、メインCPU101は、サブフラグ変換処理を行う（S401）。この処理では、メインCPU101は、内部当籤役をサブフラグ（図36及び図37参照）に変換する処理を行う。なお、サブフラグ変換処理の詳細については、後述の図105を参照しながら後で説明する。

【 0 7 4 8 】

次いで、メインCPU101は、ナビセット処理を行う（S402）。この処理では、メインCPU101は、RT状態、遊技状態及び小役当籤番号に基づいてナビデータを取得する。なお、ナビセット処理の詳細については、後述の図108を参照しながら後で説明する。

30

【 0 7 4 9 】

次いで、メインCPU101は、現在のRT状態がRT4状態であるか否かを判別する（S403）。S403において、メインCPU101が、現在のRT状態がRT4状態でないと判別したとき（S403がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS406の処理を行う。

【 0 7 5 0 】

一方、S403において、メインCPU101が、現在のRT状態がRT4状態であると判別したとき（S403がYES判定の場合）、メインCPU101は、フラグ変換処理を行う（S404）。この処理では、メインCPU101は、サブフラグをサブフラグEX（図36参照）に変換するためのフラグ変換抽籤処理（サブフラグデータの圧縮処理）を行う。このフラグ変換処理により、19種類（ハズレも含む）のサブフラグが、9種類（ハズレも含む）のサブフラグEXに変換（圧縮）される。なお、フラグ変換処理の詳細については、後述の図111を参照しながら後で説明する。

40

【 0 7 5 1 】

次いで、メインCPU101は、サブフラグ圧縮処理を行う（S405）。この処理では、メインCPU101は、サブフラグEXをサブフラグD（図36参照）に変換し、サ

50

ブフラグデータのさらなる圧縮処理を行う。このサブフラグ圧縮処理により、9種類（ハズレも含む）のサブフラグEXが、7種類（ハズレも含む）のサブフラグDに変換（圧縮）される。

【0752】

S405の処理後又はS403がNO判定の場合、メインCPU101は、現在の遊技状態が通常遊技状態であるか否かを判別する（S406）。

【0753】

S406において、メインCPU101が、現在の遊技状態が通常遊技状態であると判別したとき（S406がYES判定の場合）、メインCPU101は、通常中スタート時処理を行う（S407）。なお、通常中スタート時処理の詳細については、後述の図112を参照しながら後で説明する。そして、S407の処理後、メインCPU101は、状態別制御処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS209に移す。

10

【0754】

一方、S406において、メインCPU101が、現在の遊技状態が通常遊技状態でないと判別したとき（S406がNO判定の場合）、メインCPU101は、現在の遊技状態がCZであるか否かを判別する（S408）。

【0755】

S408において、メインCPU101が、現在の遊技状態がCZであると判別したとき（S408がYES判定の場合）、メインCPU101は、CZ中スタート時処理を行う（S409）。なお、CZ中スタート時処理の詳細については、後述の図113を参照しながら後で説明する。そして、S409の処理後、メインCPU101は、状態別制御処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS209に移す。

20

【0756】

一方、S408において、メインCPU101が、現在の遊技状態がCZでないと判別したとき（S408がNO判定の場合）、メインCPU101は、現在の遊技状態が通常ARTであるか否かを判別する（S410）。

【0757】

S410において、メインCPU101が、現在の遊技状態が通常ARTであると判別したとき（S410がYES判定の場合）、メインCPU101は、通常ART中スタート時処理を行う（S411）。なお、通常ART中スタート時処理の詳細については、後述の図117を参照しながら後で説明する。そして、S411の処理後、メインCPU101は、状態別制御処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS209に移す。

30

【0758】

一方、S410において、メインCPU101が、現在の遊技状態が通常ARTでないと判別したとき（S410がNO判定の場合）、メインCPU101は、現在の遊技状態がCTであるか否かを判別する（S412）。

【0759】

S412において、メインCPU101が、現在の遊技状態がCTであると判別したとき（S412がYES判定の場合）、メインCPU101は、CT中スタート時処理を行う（S413）。なお、CT中スタート時処理の詳細については、後述の図118を参照しながら後で説明する。そして、S413の処理後、メインCPU101は、状態別制御処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS209に移す。

40

【0760】

一方、S412において、メインCPU101が、現在の遊技状態がCTでないと判別したとき（S412がNO判定の場合）、メインCPU101は、現在の遊技状態がボーナス状態であるか否かを判別する（S414）。

【0761】

S414において、メインCPU101が、現在の遊技状態がボーナス状態であると判別したとき（S414がYES判定の場合）、メインCPU101は、BB中スタート時処理を行う（S415）。なお、BB中スタート時処理の詳細については、後述の図12

50

5を参照しながら後で説明する。そして、S415の処理後、メインCPU101は、状態別制御処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS209に移す。

【0762】

一方、S414において、メインCPU101が、現在の遊技状態がボーナス状態でないと判別したとき（S414がNO判定の場合）、メインCPU101は、その他処理を行う（S416）。この処理では、メインCPU101は、上記各種判定処理で対象となった遊技状態以外の遊技状態に応じた処理を行う。例えば、現在の遊技状態がART準備状態である場合には、ART準備状態に対応した処理を行う。そして、S416の処理後、メインCPU101は、状態別制御処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS209に移す。

10

【0763】

[サブフラグ変換処理]

次に、図105～図107を参照して、状態別制御処理（図104参照）中のS401で行うサブフラグ変換処理について説明する。図105は、サブフラグ変更処理の手順を示すフローチャートである。また、図106は、サブフラグ変更処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図107は、サブフラグ変換処理のソースプログラム上で、実際に参照されるサブフラグ変換テーブル（変換テーブル）の構成の一例を示す図である。

【0764】

まず、メインCPU101は、小役当籤番号（0～36）を取得する（S421）。次いで、メインCPU101は、現在、ボーナス作動中であるか否かを判別する（S422）。

20

【0765】

S422において、メインCPU101が、現在、ボーナス作動中であると判別したとき（S422がYES判定の場合）、メインCPU101は、小役当籤番号をボーナス作動中のサブフラグに変換して保存する（S423）。この小役当籤番号をボーナス作動中のサブフラグに変換する処理は、メインCPU101が図106中のソースコード「SUB（減算命令）cNHT_RBST - c7HT1_FLA」を実行することにより行われる。そして、本実施形態では、この「SUB」命令の実行により、一律、小役当籤番号をサブフラグ「サボテン（14）」に変換する。そして、S423の処理後、メインCPU101は、サブフラグ変換処理を終了し、処理を状態別制御処理（図104参照）のS402に移す。

30

【0766】

一方、S422において、メインCPU101が、現在、ボーナス作動中でないと判別したとき（S422がNO判定の場合）、メインCPU101は、図107に示すサブフラグ変換テーブルをセットする（S424）。この処理では、判定対象とするサブフラグの初期値を「ハズレ（00）」にセットするとともに参照対象とする図107に示すサブフラグ変換テーブル内のブロックの初期アドレスとして、サブフラグ「ハズレ（00）」が格納されているアドレス（「dSBCVTB+1」）をセットする。

【0767】

次いで、メインCPU101は、現在、参照対象となっているサブフラグ変換テーブル内のブロックに規定されている小役当籤番号のデータが、現ゲームで取得された小役当籤番号に対応するデータであるか否かを判別する（S425）。

40

【0768】

S425において、メインCPU101が、参照対象となっているサブフラグ変換テーブル内のブロックに規定されている小役当籤番号のデータが、現ゲームで取得された小役当籤番号に対応するデータでないと判別したとき（S425がNO判定の場合）、メインCPU101は、参照対象とするサブフラグ変換テーブル内のブロックを次のアドレスのブロックに更新する（S426）。次いで、メインCPU101は、サブフラグの値に「1」を加算する（S427）。そして、S427の処理後、メインCPU101は、処理

50

を S 4 2 5 の処理に戻し、S 4 2 5 以降の処理を繰り返す。

【 0 7 6 9 】

一方、S 4 2 5 において、メイン CPU 1 0 1 が、参照対象となっているサブフラグ変換テーブル内のブロックに規定されている小役当籤番号のデータが、現ゲームで取得された小役当籤番号に対応するデータであると判別したとき（S 4 2 5 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、図 1 0 7 に示すサブフラグ変換テーブルを参照して、小役当籤番号に対応付けられたサブフラグ変換制御データ（小役当籤番号のアドレスの次のアドレスに格納された 1 バイトデータ）を取得し、該サブフラグ変換制御データをメイン RAM 1 0 3 に設けられたサブフラグ変換制御データ格納領域（不図示）に格納する（S 4 2 8）。この処理において、例えば、現ゲームで取得された小役当籤番号が「03」（内部当籤役「F_3 連チリリプ」）である場合には、図 1 0 7 に示すサブフラグ変換テーブルを参照して、サブフラグ変換制御データ「00000011B」が取得される。そして、S 4 2 8 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、サブフラグ変換処理を終了し、処理を状態別制御処理（図 1 0 4 参照）の S 4 0 2 に移す。

10

【 0 7 7 0 】

本実施形態では、上述のようにしてサブフラグ変換処理が行われる。なお、上述したサブフラグ変換処理は、メイン CPU 1 0 1 が、図 1 0 6 のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。また、サブフラグ変換処理のソースプログラム上で実際に参照される、図 1 0 7 に示すサブフラグ変換テーブルでは、各サブフラグに対してサブフラグ変換制御データ（制御ステータス）が対応付けられている。この際、同種のサブフラグに対しては、同じサブフラグ変換制御データ（制御ステータス）が対応付けられている。

20

【 0 7 7 1 】

例えば、サブフラグ「3 連チリリプ A」及び「3 連チリリプ B」に対しては、サブフラグ変換制御データ（制御ステータス）「00000011B」が共通して割り付けられている。また、例えば、サブフラグ「リーチ目リプ 1」～「リーチ目リプ 4」に対しては、サブフラグ変換制御データ（制御ステータス）「00000001B」が共通して割り付けられている。そして、上述した内部当籤役（サブフラグ）をサブフラグ EX に変換する際のフラグ変換抽籤処理では、サブフラグ変換制御データ格納領域に格納されたサブフラグ変換制御データ（制御ステータス）に基づいて、抽籤が行われる。

30

【 0 7 7 2 】

メイン側で管理するフラグ（内部当籤役）をサブ側で管理可能なフラグに変換するためのサブフラグ変換テーブルにおいて、同種の内部当籤役（サブフラグ）に対して共通のサブフラグ変換制御データを設けることにより、該変換テーブルの汎用性が高くなり、機種変更に伴う変換プログラムの変更も軽微な変更で対応可能となるので、開発コストの増大を抑制することができる。

【 0 7 7 3 】

[ナビセット処理]

次に、図 1 0 8 ~ 図 1 1 0 を参照して、状態別制御処理（図 1 0 4 参照）中の S 4 0 2 で行うナビセット処理について説明する。図 1 0 8 は、ナビセット処理の手順を示すフローチャートである。また、図 1 0 9 は、ナビセット処理中の後述の S 4 3 4 ~ S 4 3 6 の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図 1 1 0 は、ナビセット処理のソースプログラム上で、実際に参照されるナビデータテーブルの構成の一例を示す図である。

40

【 0 7 7 4 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、サブフラグ変換制御データ格納領域（不図示）にナビセットフラグがセットされているか否かを判別する（S 4 3 1）。具体的には、メイン CPU 1 0 1 は、サブフラグ変換制御データ格納領域を参照し、セットされているサブフラグ変換制御データが、押し順ナビを発生させる小役当籤番号（10 ~ 23）に対応するデータであるか否かを判別する。S 4 3 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、サブフラグ変換

50

制御データ格納領域にナビセットフラグがセットされていないと判別したとき（S 4 3 1 がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、ナビセット処理を終了し、処理を状態別制御処理（図 1 0 4 参照）のS 4 0 3に移す。

【0 7 7 5】

一方、S 4 3 1において、メインCPU 1 0 1が、サブフラグ変換制御データ格納領域にナビセットフラグがセットされていると判別したとき（S 4 3 1がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、RT状態がRT 0又はRT 1状態であるか否かを判別する（S 4 3 2）。S 4 3 2において、メインCPU 1 0 1が、RT状態がRT 0又はRT 1状態でないと判別したとき（S 4 3 2がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、ナビセット処理を終了し、処理を状態別制御処理（図 1 0 4 参照）のS 4 0 3に移す。

10

【0 7 7 6】

一方、S 4 3 2において、メインCPU 1 0 1が、RT状態がRT 0又はRT 1状態であると判別したとき（S 4 3 2がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、遊技状態が一般遊技状態であるか否かを判別する（S 4 3 3）。S 4 3 3において、メインCPU 1 0 1が、遊技状態が一般遊技状態であると判別したとき（S 4 3 3がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、ナビセット処理を終了し、処理を状態別制御処理（図 1 0 4 参照）のS 4 0 3に移す。

【0 7 7 7】

一方、S 4 3 3において、メインCPU 1 0 1が、遊技状態が一般遊技状態でないと判別したとき（S 4 3 3がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、小役当籤番号を取得する（S 4 3 4）。次いで、メインCPU 1 0 1は、図 1 1 0 に示すナビデータテーブルを参照し、小役当籤番号に基づいて、ナビデータ（1～9のいずれか）を取得する（S 4 3 5）。

20

【0 7 7 8】

次いで、メインCPU 1 0 1は、取得したナビデータ（複数の表示列の変動表示の停止操作に関する情報）をメインRAM 1 0 3内の図示しないナビデータ格納領域（停止操作指示情報格納領域）に格納する（S 4 3 6）。そして、S 4 3 6の処理後、メインCPU 1 0 1は、ナビセット処理を終了し、処理を状態別制御処理（図 1 0 4 参照）のS 4 0 3に移す。

【0 7 7 9】

本実施形態では、上述のようにしてナビセット処理が行われる。なお、上述したナビセット処理中のS 4 3 4～S 4 3 6の処理は、メインCPU 1 0 1が、図 1 0 9 のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。この一連の処理では、図 1 0 9 に示すように、ソースプログラム上において、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行うメインCPU 1 0 1専用の「LDQ」命令が用いられる。

30

【0 7 8 0】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「LDQ A, (k)」が実行されると、Qレジスタの格納データ（上位側アドレス値）と、1バイトの整数k（直値：下位側アドレス値）とで指定されたアドレスのメモリの内容（格納データ）がAレジスタにロードされる。それゆえ、例えば、図 1 0 9 中のソースコード「LDQ A, (WHITFR T)」が実行されると、Qレジスタの格納データと、整数値「WHITFR T」とで指定されるアドレスのメモリの内容がAレジスタにロードされる。

40

【0 7 8 1】

また、ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「LDQ (k), A」が実行されると、Aレジスタの格納データが、Qレジスタの格納データ（上位側アドレス値）と、1バイトの整数k（直値：下位側アドレス値）とで指定されたアドレスのメモリにロードされる。それゆえ、例えば、図 1 0 9 中のソースコード「LDQ (wNAVIP TN), A」の実行により、Aレジスタに格納されたデータ（ナビデータ）が、Qレジスタの格納データ（上位側アドレス値）と1バイトの整数値「wNAVIP TN」（下位側

50

アドレス値)とで指定されたアドレスのナビデータ格納領域に格納される。

【0782】

上述のように、本実施形態では、ナビセット処理において、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いたメインCPU101専用命令コードが用いられ、直値により、メインROM102、メインRAM103やメモリーマップI/Oにアクセスすることができる。この場合、ナビセット処理のソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ、その分、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

10

【0783】

[フラグ変換処理]

次に、図111を参照して、状態別制御処理(図104参照)中のS404で行うフラグ変換処理について説明する。なお、図111は、フラグ変換処理の手順を示すフローチャートである。

【0784】

まず、メインCPU101は、CT開始時であるか否かを判別する(S441)。

【0785】

S441において、メインCPU101が、CT開始時でないと判別したとき(S441がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS443の処理を行う。一方、S441において、メインCPU101が、CT開始時であると判別したとき(S441がYES判定の場合)、メインCPU101は、CT中のフラグ変換抽籤に用いるフラグ変換抽籤テーブルのテーブル番号を抽籤で決定し、セットする(S442)。

20

【0786】

S442の処理後又はS441がNO判定の場合、メインCPU101は、現在の状態に応じたフラグ変換抽籤テーブルをセットする(S443)。例えば、現在の状態が非ART中のRT4状態である場合には、非ART中フラグ変換抽籤テーブル(図62参照)がセットされ、現在の状態が通常ART中のRT4状態である場合には、ART中フラグ変換抽籤テーブル(図47A及び47B参照)がセットされ、現在の状態がCT中のRT4状態である場合には、CT中フラグ変換抽籤テーブル(図54参照)がセットされる。

30

【0787】

次いで、メインCPU101は、セットされたフラグ変換抽籤テーブルを参照し、内部当籤役に基づいてフラグ変換抽籤処理を行う(S444)。なお、実際、この処理では、メインCPU101は、内部当籤役に対応するサブフラグに基づいて、図107に示すサブフラグ変換テーブルから取得されるサブフラグ変換制御データを用いてフラグ変換抽籤処理を行う。

【0788】

次いで、メインCPU101は、S444のフラグ変換抽籤に当籤したか否かを判別する(S445)。

【0789】

S445において、メインCPU101が、フラグ変換抽籤に当籤したと判別したとき(S445がYES判定の場合)、メインCPU101は、サブフラグ変換処理を行う(S446)。この処理において、例えば、内部当籤役が「F_1確チリリブ」である場合、すなわち、サブフラグが「3連チリリブB(03)」である場合、フラグ変換抽籤処理に当籤すると、S446のサブフラグ変換処理により、サブフラグ「3連チリリブB(03)」が、サブフラグEX「確定役(06)」又はサブフラグEX「3連チリリブ(07)」に変換される(図36参照)。

40

【0790】

S446の処理後、メインCPU101は、現在の遊技状態が非ART状態であるか否かを判別する(S447)。S447において、メインCPU101が、現在の遊技状態

50

が非ART状態でないと判別したとき（S447がNO判定の場合）、メインCPU101は、フラグ変換処理を終了し、処理を状態別制御処理（図104参照）のS405に移す。

【0791】

一方、S447において、メインCPU101が、現在の遊技状態が非ART状態であると判別したとき（S447がYES判定の場合）、メインCPU101は、ARTセット数に「1」を加算する（S448）。次いで、メインCPU101は、次遊技の遊技状態にART準備状態をセットする（S449）。そして、S449の処理後、メインCPU101は、フラグ変換処理を終了し、処理を状態別制御処理（図104参照）のS405に移す。

10

【0792】

ここで再度、S445の処理に戻って、S445において、メインCPU101が、フラグ変換抽籤に当籤しなかったと判別したとき（S445がNO判定の場合）、メインCPU101は、サブフラグ維持処理を行う（S450）。この処理において、例えば、内部当籤役が「F_1確チリリブ」である場合、すなわち、サブフラグが「3連チリリブB(03)」である場合、フラグ変換抽籤に非当籤であると、S450のサブフラグ維持処理により、サブフラグ「3連チリリブB(03)」が、サブフラグEX「リプレイ(01)」に変換（維持）される。そして、S450の処理後、メインCPU101は、フラグ変換処理を終了し、処理を状態別制御処理（図104参照）のS405に移す。

【0793】

[通常中スタート時処理]

次に、図112を参照して、状態別制御処理（図104参照）中のS407で行う通常中スタート時処理について説明する。なお、図112は、通常中スタート時処理の手順を示すフローチャートである。

20

【0794】

まず、メインCPU101は、CZ抽籤テーブル（図41A参照）を参照し、現在のCZの抽籤状態及び内部当籤役（サブフラグ）に基づいてCZ抽籤処理を行う（S461）。次いで、メインCPU101は、S461のCZ抽籤に当籤したか否かを判別する（S462）。

【0795】

S462において、メインCPU101が、CZ抽籤に当籤しなかったと判別したとき（S462がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS465の処理を行う。

30

【0796】

一方、S462において、メインCPU101が、CZ抽籤に当籤したと判別したとき（S462がYES判定の場合）、メインCPU101は、次遊技の遊技状態に当籤した種別のCZをセットする（S463）。次いで、メインCPU101は、当籤した種別のCZゲーム数をCZゲーム数カウンタにセットする（S464）。なお、CZゲーム数カウンタは、CZの継続期間を計数するカウンタであり、メインRAM103に設けられる。S464の処理において、例えば、CZ1が当籤している場合には、CZゲーム数カウンタ（前半部）に第1の所定ゲーム数（例えば、「12」）がセットされ、CZ2が当籤している場合には、CZゲーム数カウンタ（前半部）に第2の所定ゲーム数（例えば、「15」）がセットされ、CZ3が当籤している場合には、CZゲーム数カウンタに第4の所定ゲーム数（例えば、「17」）がセットされる。

40

【0797】

S464の処理後又はS462がNO判定の場合、メインCPU101は、通常中高確率抽籤テーブル（図40A参照）を参照し、内部当籤役（サブフラグ）に基づいてCZの抽籤状態の移行抽籤を行う（S465）。次いで、メインCPU101は、移行抽籤の結果に基づいて、CZの抽籤状態を更新する（S466）。そして、S466の処理後、メインCPU101は、通常中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図104参照）も終了する。

50

【 0 7 9 8 】

[C Z 中スタート時処理]

次に、図 1 1 3 を参照して、状態別制御処理（図 1 0 4 参照）中の S 4 0 9 で行う C Z 中スタート時処理について説明する。なお、図 1 1 3 は、C Z 中スタート時処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 7 9 9 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、現在の遊技状態が C Z 1 であるか否かを判別する（S 4 7 1）。

【 0 8 0 0 】

S 4 7 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、現在の遊技状態が C Z 1 であると判別したとき（S 4 7 1 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 1（C Z 2）中処理を行う（S 4 7 2）。なお、C Z 1（C Z 2）中処理の詳細については、後述の図 1 1 4 及び図 1 1 5 を参照しながら後で説明する。そして、S 4 7 2 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図 1 0 4 参照）も終了する。

10

【 0 8 0 1 】

一方、S 4 7 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、現在の遊技状態が C Z 1 でないと判別したとき（S 4 7 1 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、現在の遊技状態が C Z 2 であるか否かを判別する（S 4 7 3）。

【 0 8 0 2 】

S 4 7 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、現在の遊技状態が C Z 2 であると判別したとき（S 4 7 3 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 1（C Z 2）中処理を行う（S 4 7 4）。C Z 1（C Z 2）中処理の詳細については、後述の図 1 1 4 及び図 1 1 5 を参照しながら後で説明する。そして、S 4 7 4 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図 1 0 4 参照）も終了する。なお、本実施形態では、C Z 1 中処理と C Z 2 中処理との間では A R T 抽籤に当籤する期待度を示すランク（モード又はポイント）が異なるだけであり、基本的な処理内容は同じである。そこで、本実施形態では、C Z 1 中処理及び C Z 2 中処理を C Z 1（C Z 2）中処理として一つの処理で説明する。

20

【 0 8 0 3 】

一方、S 4 7 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、現在の遊技状態が C Z 2 でないと判別したとき（S 4 7 3 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 3 中処理を行う（S 4 7 5）。なお、C Z 3 中処理の詳細については、後述の図 1 1 6 を参照しながら後で説明する。そして、S 4 7 5 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図 1 0 4 参照）も終了する。

30

【 0 8 0 4 】

[C Z 1（C Z 2）中処理]

次に、図 1 1 4 及び図 1 1 5 を参照して、C Z 中スタート時処理（図 1 1 3 参照）中の S 4 7 2 又は S 4 7 4 で行う C Z 1（C Z 2）中処理について説明する。なお、図 1 1 4 及び図 1 1 5 は、C Z 1（C Z 2）中処理の手順を示すフローチャートである。

40

【 0 8 0 5 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、現遊技が C Z 1（又は C Z 2）の前半部の遊技であるか否かを判別する（S 4 8 1）。S 4 8 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、現遊技が C Z 1（又は C Z 2）の前半部の遊技でないと判別したとき（S 4 8 1 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 4 9 0 の処理を行う。

【 0 8 0 6 】

一方、S 4 8 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、現遊技が C Z 1 の前半部の遊技であると判別したとき（S 4 8 1 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 1 中モードアップ抽籤テーブル（図 4 2 参照）を参照し、内部当籤役（サブフラグ）に基づいてモードアップ抽籤処理を行う（S 4 8 2）。また、S 4 8 1 において、メイン CPU 1 0

50

1が、現遊技がC Z 2の前半部の遊技であると判別したとき（S 4 8 1がY E S判定の場合）、メインC P U 1 0 1は、C Z 2中ポイント抽籤テーブル（図4 3参照）を参照し、内部当籤役（サブフラグ）に基づいてポイントアップ抽籤を行う（S 4 8 2）。

【0 8 0 7】

次いで、メインC P U 1 0 1は、S 4 8 2の抽籤結果に基づいて、ランク（モード又はポイント）を更新する（S 4 8 3）。次いで、メインC P U 1 0 1は、S 4 8 2の抽籤においてフリーズに当籤したか否かを判別する（S 4 8 4）。

【0 8 0 8】

S 4 8 4において、メインC P U 1 0 1が、フリーズに当籤したと判別したとき（S 4 8 4がY E S判定の場合）、メインC P U 1 0 1は、遊技の進行を一時的に停止するフリーズ処理を行うとともに、A R Tセット数及びC Tセット数に「1」を加算する（S 4 8 5）。また、この処理では、メインC P U 1 0 1は、A R Tレベル決定テーブル（図4 8 A参照）を参照してA R Tレベルを決定し、セットする。なお、フリーズ発生時には、A R Tレベルとして「A R Tレベル2」が決定される。

10

【0 8 0 9】

次いで、メインC P U 1 0 1は、次遊技の遊技状態にA R T準備状態をセットする（S 4 8 6）。そして、S 4 8 6の処理後、メインC P U 1 0 1は、C Z 1（C Z 2）中処理を終了するとともに、C Z中スタート時処理（図1 1 3参照）も終了する。

【0 8 1 0】

ここで再度、S 4 8 4の処理に戻って、S 4 8 4において、メインC P U 1 0 1が、フリーズに当籤しなかったと判別したとき（S 4 8 4がN O判定の場合）、メインC P U 1 0 1は、C Zゲーム数カウンタ（前半部）の値を1減算する（S 4 8 7）。次いで、メインC P U 1 0 1は、C Zゲーム数カウンタ（前半部）の値が「0」であるか否かを判別する（S 4 8 8）。

20

【0 8 1 1】

S 4 8 8において、メインC P U 1 0 1が、C Zゲーム数カウンタ（前半部）の値が「0」でないと判別したとき（S 4 8 8がN O判定の場合）、メインC P U 1 0 1は、C Z 1（C Z 2）中処理を終了するとともに、C Z中スタート時処理（図1 1 3参照）も終了する。

【0 8 1 2】

一方、S 4 8 8において、メインC P U 1 0 1が、C Zゲーム数カウンタ（前半部）の値が「0」であると判別したとき（S 4 8 8がY E S判定の場合）、メインC P U 1 0 1は、次遊技の遊技状態にC Z 1又はC Z 2の後半部をセットする（S 4 8 9）。そして、S 4 8 9の処理後、メインC P U 1 0 1は、C Z 1（C Z 2）中処理を終了するとともに、C Z中スタート時処理（図1 1 3参照）も終了する。

30

【0 8 1 3】

ここで再度、S 4 8 1の処理に戻って、S 4 8 1がN O判定の場合、メインC P U 1 0 1は、現ゲームがC Z 1又はC Z 2の後半部の1ゲーム目であるか否かを判別する（S 4 9 0）。S 4 9 0において、メインC P U 1 0 1が、現ゲームがC Z 1又はC Z 2の後半部の1ゲーム目でないと判別したとき（S 4 9 0がN O判定の場合）、メインC P U 1 0 1は、後述のS 4 9 5の処理を行う。

40

【0 8 1 4】

一方、S 4 9 0において、メインC P U 1 0 1が、現ゲームがC Z 1又はC Z 2の後半部の1ゲーム目であると判別したとき（S 4 9 0がY E S判定の場合）、メインC P U 1 0 1は、C Z中A R T抽籤テーブル（図4 4 A及び4 4 B参照）を参照し、前半部のランク（モード又はポイント）に基づいてA R T抽籤処理を行う（S 4 9 1）。

【0 8 1 5】

次いで、メインC P U 1 0 1は、A R T抽籤に当籤したか否かを判別する（S 4 9 2）。S 4 9 2において、メインC P U 1 0 1が、A R T抽籤に当籤しなかったと判別したとき（S 4 9 2がN O判定の場合）、メインC P U 1 0 1は、後述のS 4 9 4の処理を行う。

50

【0816】

一方、S492において、メインCPU101が、ART抽籤に当籤したと判別したとき（S492がYES判定の場合）、メインCPU101は、ARTセット数に「1」を加算し、ARTレベル決定テーブル（図48A参照）を参照してARTレベルの抽籤を行い、その抽籤結果をセットする（S493）。

【0817】

S493の処理後又はS492がNO判定の場合、メインCPU101は、CZゲーム数カウンタ（後半部）に所定値をセットする（S494）。なお、S494の処理において、例えば、ART抽籤に当籤している場合には、CZゲーム数カウンタ（後半部）に「4」がセットされ、ART抽籤に非当籤である場合には、CZゲーム数カウンタ（後半部）に「3」がセットされる。

10

【0818】

S494の処理後又はS490がNO判定の場合、メインCPU101は、CZ中ART抽籤テーブル（図44C参照）を参照して、内部当籤役（サブフラグ）に基づいてART抽籤処理を行う（S495）。

【0819】

次いで、メインCPU101は、ART抽籤に当籤したか否かを判別する（S496）。S496において、メインCPU101が、ART抽籤に当籤しなかったと判別したとき（S496がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS498の処理を行う。

【0820】

一方、S496において、メインCPU101が、ART抽籤に当籤したと判別したとき（S496がYES判定の場合）、メインCPU101は、ARTセット数に「1」を加算し、ARTレベル決定テーブル（図48A参照）を参照してARTレベルの抽籤を行い、その抽籤結果をセットする（S497）。

20

【0821】

S497の処理後又はS496がNO判定の場合、メインCPU101は、CZゲーム数カウンタ（後半部）の値を1減算する（S498）。次いで、メインCPU101は、CZゲーム数カウンタ（後半部）の値が「0」であるか否かを判別する（S499）。

【0822】

S499において、メインCPU101が、CZゲーム数カウンタ（後半部）の値が「0」でないと判別したとき（S499がNO判定の場合）、メインCPU101は、CZ1（CZ2）中処理を終了するとともに、CZ中スタート時処理（図113参照）も終了する。

30

【0823】

一方、S499において、メインCPU101が、CZゲーム数カウンタ（後半部）の値が「0」であると判別したとき（S499がYES判定の場合）、メインCPU101は、ARTセット数が「1」以上であるか否かを判別する（S500）。

【0824】

S500において、メインCPU101が、ARTセット数が「1」以上であると判別したとき（S500がYES判定の場合）、メインCPU101は、次遊技の遊技状態にART準備状態をセットする（S501）。そして、S501の処理後、メインCPU101は、CZ1（CZ2）中処理を終了するとともに、CZ中スタート時処理（図113参照）も終了する。

40

【0825】

一方、S500において、メインCPU101が、ARTセット数が「1」以上でないと判別したとき（S500がNO判定の場合）、メインCPU101は、次遊技の遊技状態にCZ失敗時の状態をセットする（S502）。そして、S502の処理後、メインCPU101は、CZ1（CZ2）中処理を終了するとともに、CZ中スタート時処理（図113参照）も終了する。

【0826】

50

[C Z 3 中処理]

次に、図 1 1 6 を参照して、C Z 中スタート時処理 (図 1 1 3 参照) 中の S 4 7 5 で行う C Z 3 中処理について説明する。なお、図 1 1 6 は、C Z 3 中処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 8 2 7 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 中 ART 抽籤テーブル (図 4 5 参照) を参照し、内部当籤役 (サブフラグ) に基づいて ART 抽籤処理を行う (S 5 1 1) 。

【 0 8 2 8 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、ART 抽籤に当籤したか否かを判別する (S 5 1 2) 。 S 5 1 2 において、メイン CPU 1 0 1 が、ART 抽籤に当籤しなかったと判別したとき (S 5 1 2 が NO 判定の場合) 、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 5 1 8 の処理を行う。

10

【 0 8 2 9 】

一方、S 5 1 2 において、メイン CPU 1 0 1 が、ART 抽籤に当籤したと判別したとき (S 5 1 2 が YES 判定の場合) 、メイン CPU 1 0 1 は、ART セット数に「 1 」を加算し、CT セット数に「 1 」を加算する (S 5 1 3) 。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、S 5 1 2 の ART 抽籤においてフリーズに当籤したか否かを判別する (S 5 1 4) 。

【 0 8 3 0 】

S 5 1 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、フリーズに当籤しなかったと判別したとき (S 5 1 4 が NO 判定の場合) 、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 5 1 6 の処理を行う。一方、S 5 1 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、フリーズに当籤したと判別したとき (S 5 1 4 が YES 判定の場合) 、メイン CPU 1 0 1 は、遊技の進行を一時的に停止するフリーズ処理を行う (S 5 1 5) 。

20

【 0 8 3 1 】

S 5 1 5 の処理後又は S 5 1 4 が NO 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、ART レベル決定テーブル (図 4 8 A 参照) を参照して ART レベルの抽籤処理を行い、その抽籤結果 (ART レベル) をセットする (S 5 1 6) 。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、次遊技の遊技状態に ART 準備状態をセットする (S 5 1 7) 。そして、S 5 1 7 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 3 中処理を終了するとともに、C Z 中スタート時処理 (図 1 1 3 参照) も終了する。

【 0 8 3 2 】

ここで再度、S 5 1 2 の処理に戻って、S 5 1 2 が NO 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、C Z ゲーム数カウンタの値を 1 減算する (S 5 1 8) 。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、C Z ゲーム数カウンタの値が「 0 」であるか否かを判別する (S 5 1 9) 。

30

【 0 8 3 3 】

S 5 1 9 において、メイン CPU 1 0 1 が、C Z ゲーム数カウンタの値が「 0 」でないと判別したとき (S 5 1 9 が NO 判定の場合) 、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 3 中処理を終了するとともに、C Z 中スタート時処理 (図 1 1 3 参照) も終了する。

【 0 8 3 4 】

一方、S 5 1 9 において、メイン CPU 1 0 1 が、C Z ゲーム数カウンタの値が「 0 」であると判別したとき (S 5 1 9 が YES 判定の場合) 、メイン CPU 1 0 1 は、ART セット数に「 1 」を加算し、ART レベル決定テーブル (図 4 8 A 参照) を参照して ART レベルの抽籤を行い、その抽籤結果をセットする (S 5 2 0) 。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、次遊技の遊技状態に ART 準備状態をセットする (S 5 2 1) 。そして、S 5 2 1 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 3 中処理を終了するとともに、C Z 中スタート時処理 (図 1 1 3 参照) も終了する。

40

【 0 8 3 5 】

[通常 ART 中スタート時処理]

次に、図 1 1 7 を参照して、状態別制御処理 (図 1 0 4 参照) 中の S 4 1 1 で行う通常 ART 中スタート時処理について説明する。なお、図 1 1 7 は、通常 ART 中スタート時処理の手順を示すフローチャートである。

50

【0836】

まず、メインCPU101は、ART継続ゲーム数カウンタの値に「1」を加算する（S531）。なお、ART継続ゲーム数カウンタは、通常ARTが継続したゲーム数（消化ゲーム数）を計数するカウンタである。また、本実施形態では、ART継続ゲーム数カウンタの他に、通常ARTが継続可能なゲーム数を計数するART終了ゲーム数カウンタも設ける。そして、本実施形態のパチスロ1では、ART継続ゲーム数カウンタの値とART終了ゲーム数カウンタの値とを比較し、ART継続ゲーム数カウンタの値がART終了ゲーム数カウンタの値に到達すると、ART遊技状態が終了する。

【0837】

次いで、メインCPU101は、ART中CT抽籤テーブル（図50参照）を参照し、現在のCT抽籤状態及び内部当籤役（サブフラグ）に基づいてCT抽籤処理を行う（S532）。次いで、メインCPU101は、CT抽籤に当籤したか否かを判別する（S533）。S533において、メインCPU101が、CT抽籤に当籤しなかったと判別したとき（S533がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS536の処理を行う。

10

【0838】

一方、S533において、メインCPU101が、CT抽籤に当籤したと判別したとき（S533がYES判定の場合）、メインCPU101は、CTセット数に「1」を加算し、CTゲーム数カウンタの値に「8」をセットする（S534）。次いで、メインCPU101は、次遊技の遊技状態に当籤した種別のCTをセットする（S535）。

20

【0839】

S535の処理後又はS533がNO判定の場合、メインCPU101は、ARTレベル決定テーブル（図48B参照）を参照し、ART継続ゲーム数カウンタの値に基づいてARTレベルを抽籤し、その抽籤結果をセットする（S536）。次いで、メインCPU101は、通常ART中高確率抽籤テーブル（図49参照）を参照し、現在のCT抽籤状態及び内部当籤役（サブフラグ）に基づいて、移行先のCT抽籤状態を抽籤し、その抽籤結果をセットする（S537）。

【0840】

次いで、メインCPU101は、通常ART中上乘せ抽籤テーブル（図51参照）を参照し、内部当籤役（サブフラグ）に基づいてARTゲーム数の上乘せ抽籤処理を行う（S538）。次いで、メインCPU101は、上乘せ抽籤に当籤したか否かを判別する（S539）。

30

【0841】

S539において、メインCPU101が、上乘せ抽籤に当籤しなかったと判別したとき（S539がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS541の処理を行う。一方、S539において、メインCPU101が、上乘せ抽籤に当籤したと判別したとき（S539がYES判定の場合）、メインCPU101は、当籤結果をART終了ゲーム数カウンタに加算する（S540）。

【0842】

S540の処理後又はS539がNO判定の場合、メインCPU101は、ART継続ゲーム数カウンタの値が、ART終了ゲーム数カウンタの値に達したか否かを判定する（S541）。S541において、メインCPU101が、ART継続ゲーム数カウンタの値が、ART終了ゲーム数カウンタの値に達していないと判別したとき（S541がNO判定の場合）、メインCPU101は、通常ART中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図104参照）も終了する。

40

【0843】

一方、S541において、メインCPU101が、ART継続ゲーム数カウンタの値が、ART終了ゲーム数カウンタの値に達したと判別したとき（S541がYES判定の場合）、メインCPU101は、ARTセット数を1減算する（S542）。次いで、メインCPU101は、ART終了時の状態をセットする（S543）。そして、S543の

50

処理後、メインCPU101は、通常ART中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図104参照）も終了する。

【0844】

[CT中スタート時処理]

次に、図118を参照して、状態別制御処理（図104参照）中のS413で行うCT中スタート時処理について説明する。なお、図118は、CT中スタート時処理の手順を示すフローチャートである。

【0845】

まず、メインCPU101は、CT中上乘せ抽籤テーブル（図55参照）を参照し、内部当籤役（サブフラグ）に基づいてARTゲーム数の上乘せ抽籤を行う（S551）。次いで、メインCPU101は、上乘せ抽籤に当籤したか否かを判別する（S552）。 10

【0846】

S552において、メインCPU101が、上乘せ抽籤に当籤しなかったと判別したとき（S552がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS556の処理を行う。一方、S552において、メインCPU101が、上乘せ抽籤に当籤したと判別したとき（S552がYES判定の場合）、メインCPU101は、当籤結果をART終了ゲーム数カウンタに加算する（S553）。なお、上述したように、本実施形態のパチスロ1では、同一のCT中にサブフラグ「3連チリリプ（3連チリリプA又は3連チリリプB）」に当籤した回数が増えるほど、1回の抽籤当りの上乘せ量が増える。 20

【0847】

S553の処理後、メインCPU101は、内部当籤役がサブフラグEX「3連チリリプ」（又は「確定役」）に対応する役であるか否か、すなわち、内部当籤役「F__確チリリプ」又は「F__1確チリリプ」であり、かつ、図111中のS444のフラグ変換抽籤処理に当籤したか否かを判別する（S554）。 20

【0848】

S554において、メインCPU101が、内部当籤役がサブフラグEX「3連チリリプ」に対応する役でないと判別したとき（S554がNO判定の場合）、メインCPU101は、CT中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図104参照）も終了する。 30

【0849】

一方、S554において、メインCPU101が、内部当籤役がサブフラグEX「3連チリリプ」に対応する役であると判別したとき（S554がYES判定の場合）、メインCPU101は、CTゲーム数カウンタの値に「1」を加算する（S555）。そして、S555の処理後、メインCPU101は、CT中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図104参照）も終了する。 30

【0850】

ここで再度、S552の処理に戻って、S552がNO判定の場合、メインCPU101は、CT中CT抽籤処理を行う（S556）。この処理では、メインCPU101は、主に、CTセット数の上乘せ抽籤を行う。なお、CT中CT抽籤処理の詳細については、後述の図119を参照しながら後で説明する。 40

【0851】

次いで、メインCPU101は、CTゲーム数カウンタの値を1減算する（S557）。次いで、メインCPU101は、CTゲーム数カウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S558）。 40

【0852】

S558において、メインCPU101が、CTゲーム数カウンタの値が「0」でないと判別したとき（S558がNO判定の場合）、メインCPU101は、CT中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図104参照）も終了する。一方、S558において、メインCPU101が、CTゲーム数カウンタの値が「0」であると判別したとき（S558がYES判定の場合）、メインCPU101は、CTセット数が「1」 50

以上であるか否かを判別する（S559）。

【0853】

S559において、メインCPU101が、CTセット数が「1」以上であると判別したとき（S559がYES判定の場合）、メインCPU101は、CTセット数を1減算する（S560）。次いで、メインCPU101は、CTゲーム数カウンタの値に「8」をセットする（S561）。そして、S561の処理後、メインCPU101は、CT中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図104参照）も終了する。

【0854】

一方、S559において、メインCPU101が、CTセット数が「1」以上でないと判別したとき（S559がNO判定の場合）、メインCPU101は、次遊技の遊技状態に通常ARTをセットする（S562）。そして、S562の処理後、メインCPU101は、CT中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理（図104参照）も終了する。

【0855】

[CT中CT抽籤処理]

次に、図119を参照して、CT中スタート時処理（図118参照）中のS556で行うCT中CT抽籤処理について説明する。なお、図119は、CT中CT抽籤処理の手順を示すフローチャートである。

【0856】

まず、メインCPU101は、CT中CT抽籤テーブルをセットする（S571）。なお、ここで、セットされるCT中CT抽籤テーブルは、上記図56で説明したCT中セット数上乘せ抽籤テーブルであるが、ソースプログラム上で実際にセットされるCT中CT抽籤テーブル（CT中セット数上乘せ抽籤テーブル）の構成については、後述の図122を参照しながら後で説明する。

【0857】

次いで、メインCPU101は、テーブルデータ取得処理を行う（S572）。この処理では、メインCPU101は、CT中CT抽籤処理で参照する抽籤テーブルのアドレスを取得する。なお、テーブルデータ取得処理の詳細については、後述の図120を参照しながら後で説明する。

【0858】

次いで、メインCPU101は、1バイト抽籤処理を行う（S573）。この処理では、メインCPU101は、CTセットの上乗せ抽籤を行う。なお、1バイト抽籤処理の詳細については、後述の図123を参照しながら後で説明する。

【0859】

次いで、メインCPU101は、1バイト抽籤処理に当籤したか否かを判別する（S574）。S574において、メインCPU101が、1バイト抽籤処理に当籤しなかったと判別したとき（S574がNO判定の場合）、メインCPU101は、CT中CT抽籤処理を終了し、処理をCT中スタート時処理（図118参照）のS557に移す。

【0860】

一方、S574において、メインCPU101が、1バイト抽籤処理に当籤したと判別したとき（S574がYES判定の場合）、メインCPU101は、CTセット数に「1」を加算する（S575）。そして、S575の処理後、メインCPU101は、CT中CT抽籤処理を終了し、処理をCT中スタート時処理（図118参照）のS557に移す。

【0861】

[テーブルデータ取得処理]

次に、図120～図122を参照して、CT中CT抽籤処理（図119参照）中のS572で行うテーブルデータ取得処理について説明する。図120は、テーブルデータ取得処理の手順を示すフローチャートである。また、図121は、テーブルデータ取得処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図122は、CT中CT抽籤処理及びテーブルデータ取得処理のソースプログラム上で、実際に参照されるCT中CT抽

10

20

30

40

50

籤テーブル（図 5 6 で説明した C T 中セット数上乘せ抽籤テーブルに対応）の構成の一例を示す図である。なお、図 1 2 2 に示す C T 中 C T 抽籤テーブルに格納されている具体的な各種抽籤値は一例である。

【 0 8 6 2 】

なお、本実施形態において、C T 中 C T 抽籤処理で参照する抽籤値を取得する際、2 段階のアドレス算出処理（1 段階目及び 2 段階目のテーブルデータ取得処理）を経て、抽籤値が格納されているアドレスを算出する。まず、1 段階目のテーブルデータ取得処理（後述の S 5 8 2 及び S 5 8 3 の処理）では、内部当籤役（実際にはサブフラグ D）に対応付けられた「選択値（1 バイト）」が取得される。なお、選択値には、内部当籤役の種別毎に設けられ、内部当籤役が抽籤対象であるか否かが判別可能であり且つ内部当籤役に対応付けられた抽籤テーブルの配置先を指定可能な値（相対値）が規定される。また、本実施形態では、C T 中 C T 抽籤処理の抽籤結果が非当籤となる内部当籤役（実際にはサブフラグ D）に対して予め選択値「0」を規定し、それらの内部当籤役を 1 段階目のテーブルデータ取得処理の時点で「ハズレ」として扱う。そして、2 段階目のテーブルデータ取得処理（後述の S 5 8 5 ~ S 5 8 7 の処理）では、「0」以外の選択値が規定された内部当籤役の抽籤値が格納されたアドレスが算出される（抽籤テーブルの基準アドレス（2 バイト）から相対値（選択値）を加算したアドレスが算出される）。

10

【 0 8 6 3 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、C T 中 C T 抽籤選択テーブル（不図示）を参照して、C T 中 C T 抽籤テーブルのアドレスを算出するための 1 段階目及び 2 段階目の加算選択データのアドレス、並びに、C T 抽籤の抽籤回数（本実施形態では、2 回）を取得する（S 5 8 1）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、1 段階目の加算選択データのアドレスを C T 中 C T 抽籤テーブルのアドレスに加算して、1 段階目の選択アドレスを算出する（S 5 8 2）。

20

【 0 8 6 4 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、算出した 1 段階目の選択アドレスに格納されている選択値を取得する（S 5 8 3）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、選択値が「0」であるか否かを判別する（S 5 8 4）。

【 0 8 6 5 】

S 5 8 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、選択値が「0」であると判別したとき（S 5 8 4 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、テーブルデータ取得処理を終了し、処理を C T 中 C T 抽籤処理（図 1 1 9 参照）の S 5 7 3 に移す。

30

【 0 8 6 6 】

一方、S 5 8 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、選択値が「0」でないと判別したとき（S 5 8 4 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、選択アドレスに選択値を加算して、2 段階目の選択アドレスを算出する（S 5 8 5）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、2 段階目の選択アドレスに 2 段階目の加算選択データのアドレスを加算して、選択アドレスを算出する（S 5 8 6）。

【 0 8 6 7 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、S 5 8 6 で算出した選択アドレスに格納されている選択値を取得し、該選択値を選択アドレスに加算して、C T 中 C T 抽籤テーブル内において参照するアドレスを算出する（S 5 8 7）。そして、S 5 8 7 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、テーブルデータ取得処理を終了し、処理を C T 中 C T 抽籤処理（図 1 1 9 参照）の S 5 7 3 に移す。

40

【 0 8 6 8 】

本実施形態では、上述のようにしてテーブルデータ取得処理が行われる。そして、上述したテーブルデータ取得処理は、メイン CPU 1 0 1 が、図 1 2 1 のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【 0 8 6 9 】

その中で、1 段階目のテーブルデータ取得処理（S 5 8 1 ~ S 5 8 4 の処理）では、図

50

122に示すCT中CT当籤抽籤テーブル中のアドレス「dCTCTSTTB」～「dCTCTSRER-1」までの領域に格納されたテーブル（当籤役別テーブル選択相対テーブル）が参照される。また、当籤役別テーブル選択相対テーブル（抽籤テーブル選択テーブル）内において、CT当籤がハズレとなる各役（サブフラグD「ハズレ」、「サボテン」、「弱チェリー」、「強チェリー」、「確定役」、「3連チリリブ」）の選択テーブルのアドレスには、上述した選択値（相対値）として「0」が格納される。そして、1段階目のテーブルデータ取得処理（アドレス算出処理）では、選択値が「0」である場合には、抽籤結果を「ハズレ」にする（上記S584の判定処理参照）。

【0870】

上記構成のCT中CT当籤抽籤テーブルでは、1段階目のテーブルデータ取得処理で参照する当籤役別テーブル選択相対テーブルにおいて、役の種別だけで「ハズレ」を設定することができるので、抽籤テーブルに「ハズレ」役の抽籤値を規定する必要がなくなる。それゆえ、本実施形態では、CT中CT当籤抽籤テーブルにおいて、「ハズレ」役の抽籤値データ（「0」）を格納する必要がなくなり、メインROM102のテーブル領域の容量を節約することができる。

10

【0871】

また、2段階目（サブフラグD「リーチ目リブ」取得時）のテーブルデータ取得処理（S585～S587の処理）中のS587の処理では、算出された抽籤テーブルアドレスに基づいて、図122に示すCT中CT当籤抽籤テーブル（図56のCT中セット数上乘せ抽籤テーブルに対応）内から、通常CT状態時に用いる抽籤テーブル（先頭アドレス「dNMCTCTSRER」）又は高確率CT状態の抽籤テーブル（先頭アドレス「dSPCTCTSRER」）の一方が選択される。

20

【0872】

高確率CT状態時に用いる抽籤テーブルでは、図122に示すように、先頭アドレス「dSPCTCTSRER」の次のアドレス領域に1バイトデータからなる「判定ビット」（判定データ）が格納される。判定ビットには、抽籤対象の抽籤値が格納されたアドレスの範囲を示すデータが格納される。図122に示す例のように、高確率CT状態の抽籤テーブルの「判定ビット」の格納領域の次のアドレスにのみ抽籤対象（高確CT）の抽籤値が格納されている場合には、判定ビットの格納領域には、ビット0にのみ「1」が格納された1バイトデータ「0000001B」が判定ビットとして格納される。一方、通常CT状態時に用いる抽籤テーブルのように、判定ビットの格納領域の次のアドレス及び次々アドレスに抽籤対象（高確CT及び通常CT）の抽籤値が格納されている場合には、図122に示すように、判定ビットの格納領域には、ビット0及び1にのみ「1」が格納された1バイトデータ「00000011B」が判定ビットとして格納される。このような判定ビットを設けた場合、抽籤テーブルにおいて、判定ビットにおいてビットデータが「0」となるアドレスの領域に抽籤対象外の抽籤値データを格納する必要がなくなる。

30

【0873】

さらに、高確率CT状態時に用いる抽籤テーブルでは、図122に示すように、「判定ビット」の次のアドレス「dSPCTCTSRER+2」に高確率CT当籤の抽籤値が格納され、高確率CT当籤の抽籤値としてアドレス「cABS_HIT」に規定されたデータが格納される。本実施形態では、このアドレス「cABS_HIT」に規定されているデータは、当籤確定（100%当籤）を示すデータ（以下、「確定データ」という）である。また、本実施形態では、CT中CT当籤抽籤テーブルにおいてハズレ用の抽籤値データ（「0」）を設ける必要がないので、図122に示すように、アドレス「cABS_HIT」に規定されている確定データに「0」を規定することができる。すなわち、上記構成のCT中CT当籤抽籤テーブルでは、抽籤値「0」を確定データとして使用することができる。

40

【0874】

なお、図56のCT中セット数上乘せ抽籤テーブルに説明したように、本実施形態では、高確率CT状態時のCT中セット数上乘せ抽籤では、必ず、「高確率CT当籤」が決定

50

される。それゆえ、本実施形態では、ソースプログラム上では、図 1 2 2 に示す C T 中 C T 当籤抽籤テーブルにおいて、高確率 C T 当籤の抽籤値として確定データを格納することができる。

【 0 8 7 5 】

上述した 2 段階目（サブフラグ D 「リーチ目リブ」取得時）の抽籤テーブルのように、判定ビットを構成する各ビットデータの値により、C T 抽籤の抽籤対象役及び抽籤対象外の役（サブフラグ D ）を判別することにより、抽籤対象外の役の抽籤値データ（ハズレデータ）をテーブルに格納する必要がなくなる。また、抽籤対象役の当籤確率が 1 0 0 % である確定データとしては、抽籤値「0」を用いることができる。これらのことから、本実施形態では、C T 中 C T 当籤抽籤テーブル（C T 中セット数上乘せ抽籤テーブル）の容量を圧縮することができ、メイン R O M 1 0 2 において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。また、本実施形態では、この技術を C T 中 C T 当籤処理で使用する例を説明したが、本発明はこれに限定されず、A R T 抽籤（図 1 1 5 参照）、A R T ゲーム数上乘せ抽籤（図 1 1 7 参照）、後述の C T 抽籤（後述の図 1 5 4 参照）及び後述の C Z の引き戻し抽籤（後述の図 1 5 7 参照）等で使用してもよい。

10

【 0 8 7 6 】

[1 バイト抽籤処理]

次に、図 1 2 3 及び図 1 2 4 を参照して、C T 中 C T 抽籤処理（図 1 1 9 参照）中の S 5 7 3 で行う 1 バイト抽籤処理について説明する。図 1 2 3 は、1 バイト抽籤処理の手順を示すフローチャートである。また、図 1 2 4 は、1 バイト抽籤処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

20

【 0 8 7 7 】

まず、メイン C P U 1 0 1 は、メイン R A M 1 0 3 内の乱数格納領域（不図示）に格納されている C T 中 C T 抽籤用の 1 バイト乱数値（0 ~ 2 5 5 : 乱数回路 1 1 0 の乱数レジスタ 4 のソフトラッチ乱数）をセットする（S 5 9 1）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、テーブルデータ取得処理中の S 5 8 7 で算出したアドレスに基づいて、C T 中 C T 抽籤テーブルから抽籤判定データ（図 1 2 2 の 2 段階目に規定されている抽籤テーブル中の判定ビット）を取得する（S 5 9 2）。また、この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、抽籤回数の初期値として、判定ビットのビット数「8」をセットする。

30

【 0 8 7 8 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、抽籤判定データが抽籤対象であるか否かを判別する（S 5 9 3）。この判定処理では、メイン C P U 1 0 1 は、現在の抽籤回数に対応付けられた判定ビット内のビットデータを参照し、該ビットデータが「1」であれば、抽籤対象であると判定する。なお、本実施形態では、判定ビット内のビット 0 ~ ビット 7 が、抽籤回数「8」~ 「1」にそれぞれ対応付けられている。

【 0 8 7 9 】

S 5 9 3 において、メイン C P U 1 0 1 が、抽籤判定データが抽籤対象でないと判別したとき（S 5 9 3 が N O 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、後述の S 5 9 9 の処理を行う。一方、S 5 9 3 において、メイン C P U 1 0 1 が、抽籤判定データが抽籤対象であると判別したとき（S 5 9 3 が Y E S 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、C T 中 C T 抽籤テーブルから抽籤値を取得する（S 5 9 4）。

40

【 0 8 8 0 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、抽籤値が「0」（当籤確定データ）であるか否かを判別する（S 5 9 5）。

【 0 8 8 1 】

S 5 9 5 において、メイン C P U 1 0 1 が、抽籤値が「0」であると判別したとき（S 5 9 5 が Y E S 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、1 バイト抽籤処理を終了し、処理を C T 中 C T 抽籤処理（図 1 1 9 参照）の S 5 7 4 に移す。一方、S 5 9 5 において、メイン C P U 1 0 1 が、抽籤値が「0」でないと判別したとき（S 5 9 5 が N O 判定の場合

50

)、メインCPU101は、CT抽籤(CTセット数の上乘せ抽籤)処理を行う(S596)。具体的には、メインCPU101は、乱数値(1バイト乱数値)から抽籤値を減算し、その減算結果を乱数値とする。

【0882】

次いで、メインCPU101は、S596のCT抽籤に当籤したか否かを判別する(S597)。なお、S596のCT抽籤では、メインCPU101は、S596の減算結果が「0」以下となった場合(いわゆる「桁かり」が生じた場合)に、当籤したと判定する。

【0883】

S597において、メインCPU101が、CT抽籤に当籤したと判別したとき(S597がYES判定の場合)、メインCPU101は、1バイト抽籤処理を終了し、処理をCT中CT抽籤処理(図119参照)のS574に移す。一方、S597において、メインCPU101が、CT抽籤に当籤しなかったと判別したとき(S597がNO判定の場合)、メインCPU101は、CT中CT抽籤テーブル内において参照する抽籤値の格納アドレス(抽籤アドレス)を次の抽籤アドレスに更新する(S598)。

【0884】

S598の処理後又はS593がNO判定の場合、メインCPU101は、抽籤回数を1減算する(S599)。次いで、メインCPU101は、抽籤回数が「0」であるか否かを判別する(S600)。

【0885】

S600において、メインCPU101が、抽籤回数が「0」でないと判別したとき(S600がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS593に戻し、S593以降の処理を繰り返す。一方、S600において、メインCPU101が、抽籤回数が「0」であると判別したとき(S600がYES判定の場合)、メインCPU101は、1バイト抽籤処理を終了し、処理をCT中CT抽籤処理(図119参照)のS574に移す。

【0886】

本実施形態では、上述のようにして1バイト抽籤処理が行われる。なお、上述した1バイト抽籤処理は、メインCPU101が、図124のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【0887】

1バイト抽籤処理中のS591の乱数取得処理では、図124に示すように、ソースプログラム上において、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いてアドレス指定を行うメインCPU101専用命令コードである「LDQ」命令が用いられる。それゆえ、本実施形態では、1バイト抽籤処理においても、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いた命令コードが用いられることにより、直値により、メインROM102、メインRAM103やメモリーマップE/Oにアクセスすることができるので、アドレス設定に係る命令コードを省略することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【0888】

[BB中スタート時処理]

次に、図125を参照して、状態別制御処理(図104参照)中のS415で行うBB中スタート時処理について説明する。なお、図125は、BB中スタート時処理の手順を示すフローチャートである。

【0889】

まず、メインCPU101は、ボーナス中ARTゲーム数上乘せ抽籤テーブル(図59参照)を参照し、内部当籤役に基づいてARTゲーム数の上乗せ抽籤処理を行う(S611)。次いで、メインCPU101は、上乘せ抽籤に当籤したか否かを判別する(S612)。

【0890】

10

20

30

40

50

S 6 1 2において、メインCPU 1 0 1が、上乘せ抽籤に当籤しなかったと判別したとき(S 6 1 2がNO判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、BB中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理(図1 0 4参照)も終了する。一方、S 6 1 2において、メインCPU 1 0 1が、上乘せ抽籤に当籤したと判別したとき(S 6 1 2がYES判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、当籤結果(上乘せゲーム数)をART終了ゲーム数カウンタに加算する(S 6 1 3)。

【0 8 9 1】

次いで、メインCPU 1 0 1は、ARTセット数が「0」であるか否かを判別する(S 6 1 4)。S 6 1 4において、メインCPU 1 0 1が、ARTセット数が「0」でないと判別したとき(S 6 1 4がNO判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、BB中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理(図1 0 4参照)も終了する。

10

【0 8 9 2】

一方、S 6 1 4において、メインCPU 1 0 1が、ARTセット数が「0」であると判別したとき(S 6 1 4がYES判定の場合)、メインCPU 1 0 1は、ARTセット数に「1」を加算する(S 6 1 5)。そして、S 6 1 5の処理後、メインCPU 1 0 1は、BB中スタート時処理を終了するとともに、状態別制御処理(図1 0 4参照)も終了する。

【0 8 9 3】

[引込優先順位格納処理]

次に、図1 2 6及び図1 2 7を参照して、メインフロー(図8 2参照)中のS 2 1 2で行う引込優先順位格納処理について説明する。図1 2 6は、引込優先順位格納処理の手順を示すフローチャートである。また、図1 2 7は、引込優先順位格納処理中の後述のS 6 2 5及びS 6 2 6の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

20

【0 8 9 4】

まず、メインCPU 1 0 1は、検索リール数に「3」をセットする(S 6 2 1)。次いで、メインCPU 1 0 1は、引込優先順位テーブル選択処理を行う(S 6 2 2)。この処理では、内部当籤役及び作動ストップボタンに基づいて、引込優先順位テーブル(図2 7参照)が選択される。

【0 8 9 5】

次いで、メインCPU 1 0 1は、引込優先順位格納領域選択処理を行う(S 6 2 3)。この処理では、検索対象のリールの引込優先順位データ格納領域が選択される。次いで、メインCPU 1 0 1は、図柄チェック数(回数)として「2 0」をセットする(S 6 2 4)。

30

【0 8 9 6】

次いで、メインCPU 1 0 1は、図柄コード取得処理を行う(S 6 2 5)。この処理では、図柄チェック数に対応した入賞作動フラグ格納領域及び図柄コード格納領域を参照して、図柄コードを取得する。なお、図柄コード取得処理の詳細については、後述の図1 2 8を参照しながら後で説明する。

【0 8 9 7】

次いで、メインCPU 1 0 1は、論理積演算処理を行う(S 6 2 6)。この処理では、メインCPU 1 0 1は、入賞作動フラグデータの生成処理を行う。論理積演算処理の詳細については、後述の図1 3 3を参照しながら後で説明する。

40

【0 8 9 8】

次いで、メインCPU 1 0 1は、引込優先順位取得処理を行う(S 6 2 7)。この処理では、メインCPU 1 0 1は、入賞作動フラグ(入賞役)格納領域(図2 8~図3 0参照)内においてビットが「1」にセットされており、かつ、当り要求フラグ格納領域でビットが「1」にされている役について、引込優先順位テーブル(図2 7参照)を参照して、引込優先順位データを取得する。なお、引込優先順位取得処理の詳細については、後述の図1 3 4及び図1 3 5を参照しながら後で説明する。

【0 8 9 9】

次いで、メインCPU 1 0 1は、取得した引込優先順位データをメインRAM 1 0 3内

50

の引込優先順位データ格納領域（不図示）に格納する（S 6 2 8）。この際、引込優先順位データは、各優先順位の値と、格納領域のビットとが対応するように引込優先順位データ格納領域に格納される。

【0 9 0 0】

なお、引込優先順位データ格納領域には、メインリールの種類毎に優先順位データの格納領域が設けられる。各引込優先順位データ格納領域には、対応するメインリールの各図柄位置「0」～「19」に応じて決定された引込優先順位データが格納される。本実施形態では、この引込優先順位データ格納領域を参照することにより、停止テーブルに基づいて決定された滑り駒数の他に、より適切な滑り駒数が存在するか否かを検索する。

【0 9 0 1】

引込優先順位データ格納領域に格納される優先順位引込データの内容は、引込優先順位データを決定する際に参照された引込優先順位テーブル内の引込優先順位テーブル番号の種類によって異なる。また、引込優先順位データは、その値が大きいほど優先順位が高いことを表す。引込優先順位データを参照することにより、メインリールの周面に配された各図柄間における優先順位の相対的な評価が可能となる。すなわち、引込優先順位データとして最も大きい値が決定されている図柄が最も優先順位の高い図柄となる。したがって、引込優先順位データは、メインリールの周面に配された各図柄間の順位を示すものともいえる。なお、引込優先順位データの値が等しい図柄が複数存在する場合には、優先順序テーブルが規定する優先順序に従って1つの図柄が決定される。

【0 9 0 2】

次いで、メインCPU 101は、引込優先順位格納領域の更新処理を行う（S 6 2 9）。この処理では、メインCPU 101は、次のチェック図柄の引込優先順位データ格納領域をセットする。次いで、メインCPU 101は、図柄チェック数を1減算する（S 6 3 0）。次いで、メインCPU 101は、図柄チェック数が「0」であるか否かを判別する（S 6 3 1）。

【0 9 0 3】

S 6 3 1において、メインCPU 101が、図柄チェック数が「0」でないと判別したとき（S 6 3 1がNO判定の場合）、メインCPU 101は、処理をS 6 2 5の処理に戻し、S 6 2 5以降の処理を繰り返す。一方、S 6 3 1において、メインCPU 101が、図柄チェック数が「0」であると判別したとき（S 6 3 1がYES判定の場合）、メインCPU 101は、検索対象リールの変更処理を行う（S 6 3 2）。

【0 9 0 4】

次いで、メインCPU 101は、検索リール数を1減算する（S 6 3 3）。次いで、メインCPU 101は、検索リール数が「0」であるか否か、すなわち、全てのメインリールに対して上述した一連の処理が行われたか否かを判別する（S 6 3 4）。

【0 9 0 5】

S 6 3 4において、メインCPU 101が、検索リール数が「0」でないと判別したとき（S 6 3 4がNO判定の場合）、メインCPU 101は、処理をS 6 2 2の処理に戻し、S 6 2 2以降の処理を繰り返す。一方、S 6 3 4において、メインCPU 101が、検索リール数が「0」であると判別したとき（S 6 3 4がYES判定の場合）、メインCPU 101は、引込優先順位格納処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS 2 1 3に移す。

【0 9 0 6】

本実施形態では、上述のようにして引込優先順位格納処理が行われる。上述した引込優先順位格納処理中のS 6 2 5及びS 6 2 6の処理は、メインCPU 101が、図127のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【0 9 0 7】

その中で、S 6 2 6の論理積演算処理は、メインCPU 101が図127中のソースコード「CALLF SB__DAND__00」を実行することにより行われる。「CALLF」命令は、上述のようにメインCPU 101専用の2バイト命令コードであり、図12

10

20

30

40

50

7中のソースコード「CALLF SB__DAND__00」が実行されると、「SB__DAND__00」で指定されているアドレスに、処理をジャンプさせ、論理積演算処理が開始される。

【0908】

[図柄コード取得処理]

次に、図128～図132を参照して、引込優先順位格納処理（図126参照）中のS625で行う図柄コード取得処理について説明する。図128は、図柄コード取得処理の手順を示すフローチャートであり、図129は、図柄コード取得処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。図130Aは、図柄コード取得処理のソースプログラム上で、実際に参照される第1リール（左リール）図柄配置テーブルの構成の一例を示す図であり、図130Bは、第1リール図柄配置テーブルセット時に参照される図柄対応入賞作動テーブルの構成の一例を示す図である。図131Aは、図柄コード取得処理のソースプログラム上で、実際に参照される第2リール（中リール）図柄配置テーブルの構成の一例を示す図であり、図131Bは、第2リール図柄配置テーブルセット時に参照される図柄対応入賞作動テーブルの構成の一例を示す図である。また、図132Aは、図柄コード取得処理のソースプログラム上で、実際に参照される第3リール（右リール）図柄配置テーブルの構成の一例を示す図であり、図132Bは、第3リール図柄配置テーブルセット時に参照される図柄対応入賞作動テーブルの構成の一例を示す図である。

10

【0909】

まず、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域のクリア処理を行う（S641）。この処理では、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域（図28～図30参照）内の全ての格納領域に「0」をセットする。次いで、メインCPU101は、第1リール図柄配置テーブル（図130A参照）をセットする（S642）。

20

【0910】

次いで、メインCPU101は、第1リール（左リール3L）の停止時であるか否かを判別する（S643）。

【0911】

S643において、メインCPU101が、第1リール（左リール3L）の停止時であると判別したとき（S643がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS647の処理を行う。一方、S643において、メインCPU101が、第1リール（左リール3L）の停止時でないと判別したとき（S643がNO判定の場合）、メインCPU101は、第2リール図柄配置テーブル（図131A参照）をセットする（S644）。この処理では、S642の処理でセットされた第1リール図柄配置テーブルが、第2リール図柄配置テーブルで上書きされる。

30

【0912】

次いで、メインCPU101は、第2リール（中リール3C）の停止時であるか否かを判別する（S645）。

【0913】

S645において、メインCPU101が、第2リール（中リール3C）の停止時であると判別したとき（S645がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS647の処理を行う。一方、S645において、メインCPU101が、第2リール（中リール3C）の停止時でないと判別したとき（S645がNO判定の場合）、メインCPU101は、第3リール図柄配置テーブル（図132A参照）をセットする（S646）。この処理では、S644の処理でセットされた第2リール図柄配置テーブルが、第3リール図柄配置テーブルで上書きされる。

40

【0914】

S646の処理後、又は、S643或いはS645がYES判定の場合、メインCPU101は、停止制御対象のリールに対する停止操作実行時の図柄チェック処理を行い、図柄チェック処理により取得された図柄に対応する図柄対応入賞作動テーブルを取得する（S647）。例えば、第1リール（左リール3L）停止時であり、停止操作時に有効ライ

50

ン上に位置する図柄が「白7」である場合、メインCPU101は、図130B中のアドレス「dR1__SVN1」～アドレス「dR1__SVN2-1」の範囲のブロックに規定された図柄対応入賞作動テーブルの先頭アドレスを取得する。

【0915】

次いで、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域をセットする(S648)。次いで、メインCPU101は、図101で説明した圧縮データ格納処理を行う(S649)。この処理では、メインCPU101は、主に、図柄対応入賞作動テーブルに格納された入賞可能な入賞作動フラグデータを、入賞作動フラグ格納領域内の対応する格納領域に転送(展開)する処理を行う。

【0916】

例えば、第1リール(左リール3L)停止時であり、停止操作時に有効ライン上に位置する図柄が「白7」である場合には、入賞可能な図柄組合せ(コンビネーション)は、図28～図30に示すように、第2格納領域に規定されるコンビネーション名称「C__2nd__A__01」、「C__2nd__A__01」及び「C__SP1__01」、第3格納領域に規定されるコンビネーション名称「C__9枚C__01」～「C__9枚C__03」、「C__9枚C__07」～「C__9枚C__09」及び「C__9枚E__01」、第4格納領域に規定されるコンビネーション名称「C__RB役A__01」、「C__RB役A__02」、「C__RB役B__01」～「C__RB役B__04」、「C__RB役C__01」及び「C__RB役C__02」、第6格納領域に規定されるコンビネーション名称「C__リーチ目リプC__01」～「C__リーチ目リプC__03」、「C__リーチ目リプD__01」、「C__リーチ目リプD__02」及び「C__リーチ目リプE__01」、並びに、第10格納領域に規定されるコンビネーション名称「C__BB1」である。

【0917】

この場合、図柄対応入賞作動テーブルに格納された入賞可能な入賞作動フラグデータの第1ブロック(第0～第7格納領域)の格納先は、図130Bに示すテーブル内のアドレス「dR1__SVN1+1」に格納されている1バイトの指定データ「01011100B」により指定される(図130B中のコメント「格納領域+2,+3,+4,+6」欄参照)。また、図柄対応入賞作動テーブルに格納された入賞可能な入賞作動フラグデータの第2ブロック(第8～第11格納領域)の格納先は、図130Bに示すテーブル内のアドレス「dR1__SVN1+6」に格納されている1バイトの指定データ「10000000B」により指定される(図130B中のコメント「格納領域+10」欄参照)。

【0918】

なお、本実施形態では、第1ブロックの指定データのビット0～ビット7が、格納先として、それぞれ第1ブロックの第0～第7格納領域を指定するビットであり、第2ブロックの指定データのビット0～ビット3が、格納先として、それぞれ第2ブロックの第8～第11格納領域を指定するビットである。そして、各ブロックの1バイトの指定データでは、入賞作動フラグデータの格納先となる入賞作動フラグ格納領域内の格納領域に対応するビットに「1」が格納される。

【0919】

それゆえ、例えば、第1リール(左リール3L)停止時であり、停止操作時に有効ライン上に位置する図柄が「白7」である場合、S649の処理において、図130Bに示すテーブル内のアドレス「dR1__SVN1+2」に格納されている入賞作動フラグデータ「00010000B」又は「00000100B」が、図柄対応入賞作動テーブルから入賞作動フラグ格納領域内の第2格納領域に転送され、アドレス「dR1__SVN1+3」に格納されている入賞作動フラグデータ「00100000B」又は「00000100B」が、図柄対応入賞作動テーブルから入賞作動フラグ格納領域内の第3格納領域に転送される。また、この場合、S649の処理において、図130Bに示すテーブル内のアドレス「dR1__SVN1+4」に格納されている入賞作動フラグデータ「10000000B」、「01000000B」又は「00100000B」が、図柄対応入賞作動テ

10

20

30

40

50

テーブルから入賞作動フラグ格納領域内の第4格納領域に転送され、アドレス「dR1__SVN1+5」に格納されている入賞作動フラグデータ「00100000B」、「00010000B」又は「00001000B」が、図柄対応入賞作動テーブルから入賞作動フラグ格納領域内の第6格納領域に転送される。さらに、この場合、S649の処理において、図130Bに示すテーブル内のアドレス「dR1__SVN1+8」に格納されている入賞作動フラグデータ「10000000B」が、図柄対応入賞作動テーブルから入賞作動フラグ格納領域内の第10格納領域に転送される。

【0920】

S649の処理後、メインCPU101は、圧縮データ格納処理により更新された入賞作動フラグ格納領域をセットし、図柄コード格納領域をセットし、入賞作動フラグ格納領域のデータ長（本実施形態では12バイト）をセットする（S650）。そして、S650の処理後、メインCPU101は、図柄コード取得処理を終了し、処理を引込優先順位格納処理（図126参照）のS626に移す。

【0921】

本実施形態では、上述のようにして図柄コード取得処理が行われる。なお、上述した図柄コード取得処理は、メインCPU101が、図129のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中でも、S649の圧縮データ格納処理は、メインCPU101が図129中のソースコード「CALLF SB__BTEP__00」を実行することにより行われる。

【0922】

「CALLF」命令は、上述のようにメインCPU101専用の2バイト命令コードであり、図129中のソースコード「CALLF SB__BTEP__00」が実行されると、「SB__BTEP__00」で指定されているアドレスに、処理をジャンプさせ、圧縮データ格納処理が開始される。そして、この圧縮データ格納処理では、上述のように、各リールの図柄対応入賞作動フラグテーブルに格納された入賞作動フラグデータ（圧縮データ）が、入賞作動フラグ格納領域に展開（コピー）される。

【0923】

なお、本実施形態では、上述した図柄コード取得処理中のS647～S649で説明した処理手順で入賞に係るデータの圧縮・展開処理を行い、かつ、その処理の中で上述したメインCPU101専用命令コードを用いることにより、入賞に係るデータの圧縮・展開処理の効率化を図ることができるとともに、限られたメインRAM103の容量を有効活用することができる。

【0924】

また、本実施形態では、図柄コード取得処理中のS649の圧縮データ格納処理において、「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレス「SB__BTEP__00」は、図97で説明した図柄設定処理中のS330の圧縮データ格納処理において、「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレスと同じである。すなわち、本実施形態では、図柄コード取得処理で行う圧縮データ格納処理を実行するためのソースプログラムが、図柄設定処理で行う圧縮データ格納処理を実行するためのソースプログラムと同じであり、S649及びS330の両処理において、圧縮データ格納処理のソースプログラムが共有化（モジュール化）されている。この場合、S649及びS330の両処理において、それぞれ別個に圧縮データ格納処理のソースプログラムを設ける必要が無くなるので、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【0925】

[論理積演算処理]

次に、図133を参照して、例えば、引込優先順位格納処理（図126参照）中のS626で行う論理積演算処理について説明する。図133は、論理積演算処理の手順を示すフローチャートである。なお、図133に示す論理積演算処理は、引込優先順位格納処理

10

20

30

40

50

(図126参照)中のS626だけでなく、後述の引込優先順位取得処理(後述の図134及び図135参照)中のS687においても実行される。

【0926】

引込優先順位格納処理(図126参照)中のS626で実行される論理積演算処理において、論理積演算される2つのデータは、上述した図柄コード取得処理中のS650でセットされた入賞作動フラグ格納領域のデータ、及び、図柄コード格納領域のデータである。そして、前者のデータが後述の「論理積先データ」に対応し、後者のデータが後述の「論理積元データ」に対応する。また、この場合、上述した図柄コード取得処理中のS650でセットされたデータ長(12バイト)のバイト数「12」が後述の「論理積回数」に対応する。

10

【0927】

一方、後述の引込優先順位取得処理(後述の図134及び図135参照)中のS687で実行される論理積演算処理において、論理積演算される2つのデータは、当り(引込)要求フラグ格納領域のデータ、及び、入賞作動フラグ格納領域のデータである。そして、前者のデータが後述の「論理積先データ」に対応し、後者のデータが後述の「論理積元データ」に対応する。また、この場合、後述の図136B中に記載のRT作動組み合わせ表示フラグのデータ長(1バイト)のバイト数「1」が後述の「論理積回数」に対応する。

【0928】

まず、メインCPU101は、論理積元データ(例えば、図柄コード格納領域のデータ)を取得する(S661)。次いで、メインCPU101は、論理積元データと論理積先データ(例えば、入賞作動フラグ格納領域のデータ)との論理積演算を行い、その演算結果を論理積先データとして保存する(S662)。

20

【0929】

次いで、メインCPU101は、取得する論理積元データのアドレスを1加算する(S663)。次いで、メインCPU101は、参照する論理積先データのアドレスを1加算する(S664)。

【0930】

次いで、メインCPU101は、論理積回数を1減算する(S665)。次いで、メインCPU101は、論理積回数が「0」であるか否かを判別する(S666)。

【0931】

S666において、メインCPU101が、論理積回数が「0」でないと判別したとき(S666がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS661の処理に戻し、S661以降の処理を繰り返す。一方、S666において、メインCPU101が、論理積回数が「0」であると判別したとき(S666がYES判定の場合)、メインCPU101は、論理積演算処理を終了し、処理を例えば引込優先順位格納処理(図126参照)のS627に移す。

30

【0932】

[引込優先順位取得処理]

次に、図134~図137を参照して、引込優先順位格納処理(図126参照)中のS627で行う引込優先順位取得処理について説明する。なお、図134及び図135は、引込優先順位取得処理の手順を示すフローチャートである。図136Aは、引込優先順位取得処理中の後述のS680~S683の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図136Bは、引込優先順位取得処理中の後述のS686の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図136Cは、引込優先順位取得処理中の後述のS687の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。また、図137は、引込優先順位取得処理のソースプログラム上で、実際に参照される引込優先順位テーブルの構成の一例を示す図である。

40

【0933】

まず、メインCPU101は、右ルール3R(特定の表示列)のチェック時であるか否かを判別する(S671)。

50

【0934】

S671において、メインCPU101が、右リール3Rのチェック時でないとは判断したとき（S671がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS674の処理を行う。一方、S671において、メインCPU101が、右リール3Rのチェック時であると判断したとき（S671がYES判定の場合）、メインCPU101は、内部当籤役に係る図柄組合せ（入賞役）に「ANY役」（所定の図柄の組合せ）が含まれるか否かを判断する（S672）。なお、ここでいう「ANY役」とは、少なくとも右リール3Rの停止図柄に関係なく入賞が確定する役（少なくとも右リール3Rの停止図柄が任意の図柄である入賞役）のことをいう。

【0935】

S672において、メインCPU101が、内部当籤役に係る図柄組合せに「ANY役」が含まれないとは判断したとき（S672がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS674の処理を行う。一方、S672において、メインCPU101が、内部当籤役に係る図柄組合せに「ANY役」が含まれるとは判断したとき（S672がYES判定の場合）、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域内の「ANY役」に対応する格納領域をマスクする（S673）。具体的には、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域内の「ANY役」に対応するビットに「1」をセットする。

【0936】

S673の処理後、又は、S671或いはS672がNO判定の場合、メインCPU101は、入賞作動フラグ格納領域（図28～図30参照）のアドレスとして、その最後尾の格納領域のアドレスに「1」を加算したアドレスをセットし、停止禁止データをセットし、入賞作動フラグデータ長（入賞作動フラグ格納領域のデータ長：本実施形態では、12バイト）をセットする（S674）。次いで、メインCPU101は、ストップボタン作動カウンタの値、及び、ストップボタン作動状態を取得する（S675）。なお、ストップボタン作動カウンタは、停止操作が検出されているストップボタンの数を管理するためのカウンタである。また、ストップボタン作動状態は、作動ストップボタン格納領域（図33参照）を参照することにより取得される。

【0937】

次いで、メインCPU101は、セットされている入賞作動フラグ格納領域のアドレスを1減算（-1更新）する（S676）。次いで、メインCPU101は、セットされている入賞作動フラグ格納領域とそれに対応する当り要求フラグ格納領域（図28～図30参照）とから当り要求フラグデータを生成し、該生成された当り要求フラグデータに基づいて禁止入賞作動位置を生成する（S677）。

【0938】

次いで、メインCPU101は、停止操作位置が禁止入賞作動位置であるか否かを判断する（S678）。

【0939】

S678において、メインCPU101が、停止操作位置が禁止入賞作動位置でないと判断したとき（S678がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS684の処理を行う。一方、S678において、メインCPU101が、停止操作位置が禁止入賞作動位置であると判断したとき（S678がYES判定の場合）、メインCPU101は、ストップボタン作動カウンタの値が第3停止の値であるか否かを判断する（S679）。

【0940】

S679において、メインCPU101が、ストップボタン作動カウンタの値が第3停止の値であると判断したとき（S679がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS705の処理を行う。一方、S679において、メインCPU101が、ストップボタン作動カウンタの値が第3停止の値でないと判断したとき（S679がNO判定の場合）、メインCPU101は、ストップボタン作動カウンタの値が第2停止の値であるか否かを判断する（S680）。

【0941】

10

20

30

40

50

S 6 8 0において、メインCPU101が、ストップボタン作動カウンタの値が第2停止の値でないと判別したとき(S 6 8 0がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS 6 8 4の処理を行う。一方、S 6 8 0において、メインCPU101が、ストップボタン作動カウンタの値が第2停止の値であると判別したとき(S 6 8 0がYES判定の場合)、メインCPU101は、右リール3Rの停止後であるか否かを判別する(S 6 8 1)。

【0942】

S 6 8 1において、メインCPU101が、右リール3Rの停止後であると判別したとき(S 6 8 1がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS 6 8 4の処理を行う。一方、S 6 8 1において、メインCPU101が、右リール3Rの停止後でないと判別したとき(S 6 8 1がNO判定の場合)、メインCPU101は、当り要求フラグが「ANY役」の干渉を受ける可能性があるフラグでないか否か(内部当籤役に係る図柄組合せ(入賞役)に「ANY役」が含まれないか否か)を判別する(S 6 8 2)。

10

【0943】

S 6 8 2において、メインCPU101が、当り要求フラグが「ANY役」の干渉を受ける可能性があるフラグでないと判別したとき(S 6 8 2がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS 6 8 4の処理を行う。一方、S 6 8 2において、メインCPU101が、当り要求フラグが「ANY役」の干渉を受ける可能性があるフラグであると判別したとき(S 6 8 2がNO判定の場合)、メインCPU101は、現チェックが「ANY役」を含む当り要求フラグのチェック時であるか否かを判別する(S 6 8 3)。

20

【0944】

S 6 8 3において、メインCPU101が、現チェックが「ANY役」を含む当り要求フラグのチェック時であると判別したとき(S 6 8 3がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS 7 0 5の処理を行う。

【0945】

一方、S 6 8 3において、メインCPU101が、現チェックが「ANY役」を含む当り要求フラグのチェック時でないと判別したとき(S 6 8 3がNO判定の場合)、S 6 7 8 或いはS 6 8 0がNO判定の場合、又は、S 6 8 1 或いはS 6 8 2がYES判定の場合、メインCPU101は、入賞作動フラグデータ長を1減算する(S 6 8 4)。次いで、メインCPU101は、入賞作動フラグデータ長が「0」であるか否かを判別する(S 6 8 5)。

30

【0946】

S 6 8 5において、メインCPU101が、入賞作動フラグデータ長が「0」でないと判別したとき(S 6 8 5がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS 6 7 6の処理に戻し、S 6 7 6以降の処理を繰り返す。

【0947】

一方、S 6 8 5において、メインCPU101が、入賞作動フラグデータ長が「0」であると判別したとき(S 6 8 5がYES判定の場合)、メインCPU101は、停止制御用引込要求フラグ設定処理を行う(S 6 8 6)。この処理は、メインCPU101により、図136Bのソースプログラムで規定されている各処理が順次実行されることにより行われる。それゆえ、この処理の中では、図133で説明した論理積演算処理が行われる。なお、S 6 8 6の処理内で実行される論理積演算処理では、上述のように、当り(引込)要求フラグ格納領域のデータが「論理積先データ」にセットされ、入賞作動フラグ格納領域のデータが「論理積元データ」にセットされ、「論理積回数」には、RT作動組み合わせ表示フラグのデータ長(1バイト)のバイト数「1」がセットされる。RT作動組み合わせ表示フラグは、入賞作動フラグ格納領域において、RT移行に係る図柄組合せが規定された格納領域のことであり、本実施形態では、図28~図30に示すように格納領域11のみとなる。

40

【0948】

次いで、メインCPU101は、引込優先順位テーブルアドレス格納領域を参照して、

50

引込優先順位テーブルを取得する（S 6 8 7）。この処理は、メインCPU 1 0 1により、図 1 3 6 Cのソースプログラムで規定されている各処理が順次実行されることにより行われる。それゆえ、この処理では、現在セットされているアドレスに、引込優先順位データの初期値「1（0 0 1 H）」が設定されるとともに、図 1 3 7に示す、先頭アドレスが「d P L V L T B 0 0」～「d P L V L T B 0 5」のいずれかとなるブロックに格納された引込優先順位テーブルが取得される。なお、図 1 3 7に示す、先頭アドレスが「d P L V L T B 0 0」～「d P L V L T B 0 5」となるブロックに格納された引込優先順位テーブルは、それぞれ、図 2 7に記載の引込優先順位テーブル番号「0 0」～「0 5」の引込優先順位テーブルに対応する。

【0 9 4 9】

次いで、メインCPU 1 0 1は、現在セットされているアドレスに格納されている引込優先順位テーブルのデータが、エンドコード（0 0 0 H）であるか否かを判別する（S 6 8 8）。

【0 9 5 0】

S 6 8 8において、メインCPU 1 0 1が、現在セットされているアドレスに格納されている引込優先順位テーブルのデータが、エンドコードであると判別したとき（S 6 8 8がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 7 0 5の処理を行う。一方、S 6 8 8において、メインCPU 1 0 1が、現在セットされているアドレスに格納されている引込優先順位テーブルのデータが、エンドコードでないと判別したとき（S 6 8 8がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、入賞作動フラグ格納領域をセットする（S 6 8 9）。

【0 9 5 1】

次いで、メインCPU 1 0 1は、現在セットされているアドレスに基づいて、引込優先順位テーブルから引込優先順位データを取得する（S 6 9 0）。次いで、メインCPU 1 0 1は、引込優先順位テーブルのブロックカウンタをセットする（S 6 9 1）。本実施形態では、この処理において、メインCPU 1 0 1は、引込優先順位テーブルのブロックカウンタの値に「2」をセットする。

【0 9 5 2】

次いで、メインCPU 1 0 1は、引込優先順位テーブルのチェック回数をセットし、参照する引込優先順位テーブルのアドレスを1加算（+ 1更新）する（S 6 9 2）。本実施形態では、この処理において、メインCPU 1 0 1は、引込優先順位テーブルのチェック回数に「8」（図 1 3 7に示す引込優先順位テーブルに規定されているチェックデータのビット数）をセットする。

【0 9 5 3】

次いで、メインCPU 1 0 1は、更新された引込優先順位テーブルのアドレスに基づいて、チェックデータ（図 1 3 7参照）を取得し、チェックデータからチェックビットを抽出する（S 6 9 3）。なお、本実施形態では、ここで抽出するチェックビットは、チェックデータのビット0に対応する。例えば、S 6 9 0の処理において、先頭アドレスが「d P L V L T B 0 0」であるブロックに規定された引込優先順位テーブルから引込優先順位データ「0 3 E H」が取得された場合、S 6 9 3の処理では、チェックデータとして「1 0 0 0 1 0 0 0 B」が取得され、チェックビットの値として「0」が抽出される。

【0 9 5 4】

次いで、メインCPU 1 0 1は、抽出されたチェックビットの値が「1」であるか否かを判別する（S 6 9 4）。

【0 9 5 5】

S 6 9 4において、メインCPU 1 0 1が、抽出されたチェックビットの値が「1」でないと判別したとき（S 6 9 4がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 6 9 9の処理を行う。一方、S 6 9 4において、メインCPU 1 0 1が、抽出されたチェックビットの値が「1」であると判別したとき（S 6 9 4がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、参照する引込優先順位テーブルのアドレスを1加算（+ 1更新）し、更新

10

20

30

40

50

後のアドレスに基づいて、引込優先順位テーブルから判定データ（図 1 3 7 中の「フラグ判定データ」）を取得する（S 6 9 5）。

【 0 9 5 6 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、S 6 9 5 で取得した判定データに基づいて、現在取得されている入賞作動フラグデータが判定対象であるか否かを判別する（S 6 9 6）。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、現在取得されている入賞作動フラグデータと、判定データとを比較し、前者が後者に対応するものであるか否かを判定し、前者が後者に対応するものである場合には、現在取得されている入賞作動フラグデータが判定対象であると判定する。

【 0 9 5 7 】

S 6 9 6 において、メイン CPU 1 0 1 が、入賞作動フラグデータが判定対象でないと判別したとき（S 6 9 6 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 6 9 9 の処理を行う。一方、S 6 9 6 において、メイン CPU 1 0 1 が、入賞作動フラグデータが判定対象であると判別したとき（S 6 9 6 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、引込優先順位データの更新処理を行う（S 6 9 7）。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、S 6 9 7 で取得した判定データに対応付けられた引込優先順位データで、現在セットされている引込優先順位データを更新（上書き）する。

【 0 9 5 8 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、チェックデータの更新処理を行う（S 6 9 8）。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、チェックデータを 1 ビットだけ右方向（ビット 7 からビット 0 に向かう方向）にシフトする。なお、この処理において、シフト後のチェックデータのビット 7 には、「0」がセットされる。

【 0 9 5 9 】

S 6 9 8 の処理後、又は、S 6 9 4 或いは S 6 9 6 が NO 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、チェックデータにチェック対象のビット（「1」がセットされているビット）があるか否かを判別する（S 6 9 9）。

【 0 9 6 0 】

S 6 9 9 において、メイン CPU 1 0 1 が、チェックデータにチェック対象のビットがないと判別したとき（S 6 9 9 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 7 0 2 の処理を行う。一方、S 6 9 9 において、メイン CPU 1 0 1 が、チェックデータにチェック対象のビットがあると判別したとき（S 6 9 9 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、チェックする入賞作動フラグ格納領域のアドレスを 1 加算（+ 1 更新）し、チェック回数を 1 減算する（S 7 0 0）。

【 0 9 6 1 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、チェック回数が「0」であるか否かを判別する（S 7 0 1）。S 7 0 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、チェック回数が「0」でないと判別したとき（S 7 0 1 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、処理を S 6 9 8 の処理に戻し、S 6 9 8 以降の処理を繰り返す。

【 0 9 6 2 】

一方、S 7 0 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、チェック回数が「0」であると判別したとき（S 7 0 1 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、現在参照している入賞作動フラグ格納領域のアドレスにチェック回数の初期値「8」を加算して入賞作動フラグ格納領域のアドレスを更新し、ブロックカウンタの値を 1 減算する（S 7 0 2）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、ブロックカウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S 7 0 3）。

【 0 9 6 3 】

S 7 0 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、ブロックカウンタの値が「0」でないと判別したとき（S 7 0 3 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、処理を S 6 9 2 の処理に戻し、S 6 9 2 以降の処理を繰り返す。

【 0 9 6 4 】

10

20

30

40

50

一方、S 7 0 3において、メインCPU 1 0 1が、ブロックカウンタの値が「0」であると判別したとき（S 7 0 3がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、参照する引込優先順位テーブルのアドレスを1加算（+1更新）する（S 7 0 4）。例えば、現在参照している引込優先順位テーブルが、先頭アドレスが「d P L V L T B 0 0」であるブロックに規定された引込優先順位テーブルである場合、この処理により、参照する引込優先順位テーブルが、先頭アドレスが「d P L V L T B 0 1」であるブロックに規定された引込優先順位テーブルに変更される。そして、S 7 0 4の処理後、メインCPU 1 0 1は、処理をS 6 8 8の処理に戻し、S 6 8 8以降の処理を繰り返す。

【0965】

ここで再度、S 6 7 9、S 6 8 3又はS 6 8 8の処理に戻って、S 6 7 9、S 6 8 3又はS 6 8 8がYES判定の場合、メインCPU 1 0 1は、この時点でセットされている引込順位データを、最終的な引込優先順位データとしてセットする（S 7 0 5）。なお、S 6 7 9又はS 6 8 3がYES判定の場合、メインCPU 1 0 1は、最終的な引込優先順位データとして「0（00H）」をセットする。この場合、引込優先順位データ「0（00H）」にはエンドコードが割り付けられているので、引込データ無し（停止禁止）がセットされる。そして、S 7 0 5の処理後、メインCPU 1 0 1は、引込優先順位取得処理を終了し、処理を引込優先順位格納処理（図126参照）のS 6 2 8に移す。

【0966】

本実施形態では、上述のようにして引込優先順位取得処理が行われる。なお、上述した引込優先順位取得処理中のS 6 8 0～S 6 8 3の「ANY役」の引込優先対応処理は、メインCPU 1 0 1が、図136Aのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中で、例えば、S 6 8 3の判定処理は、ソースプログラム上において、「JCP」命令（所定の判定命令）により実行される。なお、「JCP」命令は、比較命令相当の動作を実行する命令であり、メインCPU 1 0 1専用命令コードである。

【0967】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「JCP cc, A, n, e」が実行されると、Aレジスタの内容（格納データ）と、整数nとを比較し、その比較結果が、ccの条件となれば、処理をeで指定されるアドレスにジャンプさせる。なお、「JCP」命令の「ccの条件」には、フラグ・レジスタF内のキャリーフラグの状態及びゼロフラグの状態の一方が指定される（図11参照）。例えば、ccに「C」が指定されていれば、ccの条件はキャリーフラグが「1」（オン状態）であることを意味し、ccに「NC」が指定されていれば、ccの条件はキャリーフラグが「0」（オフ状態）であることを意味する。また、例えば、ccに「Z」が指定されていれば、ccの条件はゼロフラグが「1」（オン状態）であることを意味し、ccに「NZ」が指定されていれば、ccの条件はゼロフラグが「0」（オフ状態）であることを意味する。

【0968】

「ANY役」の引込優先対応処理のソースプログラム上において、図136Aに示すように、「JCP」命令を用いた場合、アドレス設定に係る命令を省略することができる（アドレス設定に係る命令を別途設ける必要がなくなる）ので、「ANY役」の引込優先対応処理の処理効率を高めることができるとともに、ソースプログラムの容量（メインROM 1 0 2の使用容量）を低減することができる。

【0969】

また、上述した引込優先順位取得処理中のS 6 8 6の停止制御用引込要求フラグ設定処理は、メインCPU 1 0 1が、図136Bのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。S 6 8 6の停止制御用引込要求フラグ設定処理では、図136Bに示すように、メインCPU 1 0 1専用命令コードである、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行う「LDQ」命令、及び、「CALLF」命令が利用される。

【0970】

10

20

30

40

50

それゆえ、S 6 8 6 の停止制御用引込要求フラグ設定処理において、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いた「LDQ」命令を用いることにより、直値により、メインROM 1 0 2、メインRAM 1 0 3やメモリーマップI/Oにアクセスすることができる。この場合、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ、ソースプログラムの容量（メインROM 1 0 2の使用容量）を低減することができる。また、「CALLF」命令は、上述のように、2バイトの命令コードである。それゆえ、停止制御用引込要求フラグ設定処理において、これらのメインCPU 1 0 1専用命令コードを使用することにより、処理の効率化を図ることができ、限られたメインRAM 1 0 3の容量を有効活用することができる。

【0971】

さらに、本実施形態では、優先引込順位取得処理中のS 6 8 6の停止制御用引込要求フラグ設定処理において、「CALLF」命令で指定するジャンプ先の論理積演算処理のアドレス「SB__DAND__00」は、上記図126で説明した引込優先順位格納処理中のS 6 2 6の論理積演算処理において「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレスと同じである（図127参照）。すなわち、本実施形態では、優先引込順位取得処理中のS 6 8 6の停止制御用引込要求フラグ設定処理で行う論理積演算処理を実行するためのソースプログラムが、引込優先順位格納処理中のS 6 2 6で行う論理積演算処理を実行するためのソースプログラムと同じであり、S 6 8 6及びS 6 2 6の両処理において、論理積演算処理のソースプログラムが共有化（モジュール化）されている。この場合、S 6 8 6及びS 6 2 6の両処理において、それぞれ別個に論理積演算処理のソースプログラムを設ける必要がなくなるので、その分、ソースプログラムの容量（メインROM 1 0 2の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM 1 0 2において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【0972】

また、上述した引込優先順位取得処理中のS 6 8 7の引込優先順位テーブル（図137参照）の取得処理は、メインCPU 1 0 1が、図136Cのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。そして、S 6 8 7の引込優先順位テーブルの取得処理では、図136Cに示すように、メインCPU 1 0 1専用命令コードである、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行う「LDQ」命令が利用される。

【0973】

それゆえ、S 6 8 7の引込優先順位テーブルの取得処理においても、「LDQ」命令の使用により、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができる。その結果、引込優先順位テーブルの取得処理の効率化を図ることができるとともに、ソースプログラムの容量（メインROM 1 0 2の使用容量）を低減することができる。

【0974】

上述のように、本実施形態の優先引込順位取得処理中の上記各種処理では、上述したメインCPU 1 0 1専用の各種命令コードが適宜用いられ、対応する処理の効率化及びソースプログラムの容量の削減を実現している。その結果、本実施形態では、主制御回路90のプログラム処理速度の効率化と容量の削減とを図ることができ、削減した容量に対応する空き領域を活用して、遊技性を高めることが可能となる。

【0975】

[リール停止制御処理]

次に、図138～図140を参照して、メインフロー（図82参照）中のS 2 1 3で行うリール停止制御処理について説明する。なお、図138は、リール停止制御処理の手順を示すフローチャートである。図139は、リール停止制御処理中の後述のS 7 1 1～S 7 1 6の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図140は、リール停止制御処理中の後述のS 7 2 6の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

10

20

30

40

50

【0976】

まず、メインCPU101は、リール停止可能信号OFF処理を行う(S711)。この処理では、メインCPU101は、主に、リール停止可能信号OFFデータのポート出力処理を行う。また、この処理は、メインRAM103の規定外作業領域を使用して行われる。なお、リール停止可能信号OFF処理の詳細については、後述の図141を参照しながら後で説明する。

【0977】

次いで、メインCPU101は、全リールの回転速度が所定の一定速度に到達したか否か(「定速」になったか否か)を判別する(S712)。S712において、メインCPU101が、全リールの回転速度が「定速」になっていないと判別したとき(S712がNO判定の場合)、メインCPU101は、S712の処理を繰り返す。

10

【0978】

一方、S712において、メインCPU101が、全リールの回転速度が「定速」になったと判別したとき(S712がYES判定の場合)、メインCPU101は、リール停止可能信号ON処理を行う(S713)。この処理では、メインCPU101は、主に、リール停止可能信号ONデータのポート出力処理を行う。また、この処理は、メインRAM103の規定外作業領域を使用して行われる。なお、リール停止可能信号ON処理の詳細については、後述の図142を参照しながら後で説明する。

【0979】

次いで、メインCPU101は、有効なストップボタンが押されたか否かを判別する(S714)。

20

【0980】

S714において、メインCPU101が、有効なストップボタンが押されていないと判別したとき(S714がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS713の処理に戻し、S713以降の処理を繰り返す。一方、S714において、メインCPU101が、有効なストップボタンが押されたと判別したとき(S714がYES判定の場合)、メインCPU101は、作動ストップボタン格納領域(図33参照)を更新し、ストップボタン未作動カウンタの値を1減算する(S715)。

【0981】

次いで、メインCPU101は、作動ストップボタンから検索対象リールを決定する(S716)。また、この処理では、検索対象リールのリール制御管理情報が格納される回胴制御データ格納領域のアドレス(先頭アドレス)セット処理も行われる(図139中のソースコード「LDQ IX, WR1__CTRL - (WR2__CTRL - WR1__CTRL)」参照)。

30

【0982】

次いで、メインCPU101は、リール停止可能信号OFF処理を行う(S717)。この処理は、上記S711と同様に、メインRAM103の規定外作業領域を使用して行われる。なお、リール停止可能信号OFF処理の詳細については、後述の図141を参照しながら後で説明する。次いで、メインCPU101は、図柄カウンタの値に基づいて停止開始位置をメインRAM103に格納する(S718)。

40

【0983】

次いで、メインCPU101は、リール停止選択処理を行う(S719)。詳細な説明は省略するが、この処理では、メインCPU101は、滑り駒数の選択処理を行う。

【0984】

次いで、メインCPU101は、停止開始位置と、S719で決定された滑り駒数とに基づいて停止予定位置を決定し、該決定した停止予定位置をメインRAM103に格納する(S720)。この処理では、メインCPU101は、停止開始位置に滑り駒数を加算し、その加算結果を停止予定位置とする。

【0985】

次いで、メインCPU101は、図柄コード格納処理を実行する(S721)。この処

50

理では、停止予定位置に対応する図柄コードが図柄コード格納領域に格納される。次いで、メインCPU101は、制御対象のルールが最終停止（第3停止）のルールであるか否かを判別する（S722）。この処理では、メインCPU101は、ストップボタン未作動カウンタの値に基づいて、制御対象のルールが最終停止（第3停止）のルールであるか否かを判別し、ストップボタン未作動カウンタの値が「0」であるときには、制御対象のルールが最終停止のルールであると判定する。

【0986】

S722において、メインCPU101が、制御対象のルールが最終停止のルールでないと判別したとき（S722がNO判定の場合）、メインCPU101は、制御変更処理を行う（S723）。この処理では、特定の停止位置にあった場合に、ルールの停止に用いる停止情報群が更新される。次いで、メインCPU101は、図126で説明した引込優先順位格納処理を行う（S724）。

10

【0987】

次いで、メインCPU101は、停止間隔残時間待機処理を行う（S725）。この処理では、メインCPU101は、予め設定された所定のルール停止間隔時間が経過するまで、待機処理を行う。そして、S725の処理後、メインCPU101は、処理をS711の処理に戻し、S711以降の処理を繰り返す。

【0988】

ここで再度、S722の処理に戻って、S722において、メインCPU101が、制御対象のルールが最終停止のルールであると判別したとき（S722がYES判定の場合）、メインCPU101は、全ルールの励磁が停止状態であるか否かを判別する（S726）。S726において、メインCPU101が、全ルールの励磁が停止状態でないと判別したとき（S726がNO判定の場合）、メインCPU101は、S726の処理を繰り返す。

20

【0989】

一方、S726において、メインCPU101が、全ルールの励磁が停止状態であると判別したとき（S726がYES判定の場合）、メインCPU101は、第3停止操作されたストップボタンがオン状態のままである（ストップボタンが放されていない）か否かを判別する（S727）。S727において、メインCPU101が、第3停止操作されたストップボタンがオン状態のままであると判別したとき（S727がYES判定の場合）、メインCPU101は、S727の処理を繰り返す。一方、S727において、メインCPU101が、第3停止操作されたストップボタンがオン状態のままでないと判別したとき（S727がNO判定の場合）、メインCPU101は、ルール停止制御処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）のS214に移す。

30

【0990】

本実施形態では、上述のようにしてルール停止制御処理が行われる。なお、上述したルール停止制御処理中のS711～S716の処理は、メインCPU101が、図139のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。図139に示すように、本実施形態のルール停止制御処理のソースプログラムでは、メインCPU101専用命令コードである、例えば、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行う「LDQ」命令や、「CALLF」命令が用いられる。

40

【0991】

それゆえ、ルール停止制御処理において、このようなメインCPU101専用命令コードを用いることにより、ルール制御処理のソースプログラムの容量を削減することができるとともに、ルール停止制御処理の処理効率を向上させることができる。すなわち、本実施形態では、主制御回路90におけるプログラム処理速度の効率化と容量の削減とを行うことが可能となり、削減した容量に応じて増加したメインROM102の空き領域を活用して、遊技性を高めることが可能となる。

【0992】

また、上述したルール停止制御処理中のS726の判定処理は、メインCPU101が

50

、図140のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。この処理は、図140に示すように、ソースコード上では、「LDQ」命令、「ORQ」命令（所定の論理和演算命令）を用いて実行される。

【0993】

なお、「ORQ」命令は、論理和演算を行う命令コードであり、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行うメインCPU101専用命令コードである。そして、ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「ORQ（k）」が実行されると、Qレジスタの格納データ（上位側アドレス値）及び1バイトの整数k（直値：下位側アドレス値）で指定されたアドレスのメモリの内容（格納データ）と、Aレジスタの内容（格納データ）との論理和演算が行われ、その演算結果がAレジスタに記憶される。

10

【0994】

それゆえ、リール停止制御処理中のS726の判定処理において、まず、図140中のソースコード「LDQ A, (.LOW.WR1__TIM)」が実行されると、Qレジスタの格納データと、整数値「.LOW.WR1__TIM」とで指定されるアドレスのメモリの内容（第1リールの励磁タイマー値）がAレジスタにロードされる。なお、本実施形態では、メインRAM103内における第1リールの励磁タイマー値が格納された領域のアドレスは、「F032h」である。そして、上述したS726の判定処理では、LDQ命令実行時に予めQレジスタに、アドレス「WR1__TIM(F032h)」の上位側アドレス値「F0h」がセットされ、kの値（直値）には、下位側アドレス値（「.LOW.WR2__TIM」=32h）が代入される。

20

【0995】

次いで、図140中のソースコード「ORQ(.LOW.WR2__TIM)」が実行されると、Qレジスタの格納データ（F0h）と、第2リールの励磁タイマー値が格納された領域のアドレス「WR2__TIM(F03Dh)」の下位側アドレス値（3Dh）で指定されたアドレスのメモリの内容（第2リールの励磁タイマー値）と、Aレジスタの内容（第1リールの励磁タイマー値）との論理和演算が行われ、その演算結果（第1リールの励磁タイマー値と第2リールの励磁タイマー値との合成結果）がAレジスタに記憶される。次いで、図140中のソースコード「ORQ(.LOW.WR3__TIM)」が実行されると、Qレジスタの格納データ（F0h）と、第3リールの励磁タイマー値が格納された領域のアドレス「WR3__TIM(F048h)」の下位側アドレス値（48h）で指定されたアドレスのメモリの内容（第3リールの励磁タイマー値）と、Aレジスタの内容（第1リールの励磁タイマー値と第2リールの励磁タイマー値との合成結果）との論理和演算が行われ、その演算結果（第1～第3リールの励磁タイマー値の合成結果）がAレジスタに記憶される。

30

【0996】

上述のように、本実施形態では、リール（回胴）の停止状態のチェック処理において、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いた各種メインCPU101専用命令コードが用いられる。それゆえ、これらのメインCPU101専用命令コードを用いることにより、直値により、メインROM102、メインRAM103やメモリーマップI/Oにアクセスすることができ、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

40

【0997】

上述のように、本実施形態のリール停止制御処理中の上記各種処理では、上述したメインCPU101専用の各種命令コードが適宜用いられ、対応する処理の効率化及びソースプログラムの容量の削減を実現している。その結果、本実施形態では、主制御回路90のプログラム処理速度の効率化と容量の削減とを図ることができ、削減した容量に対応する空き領域を活用して、遊技性を高めることが可能となる。

50

【 0 9 9 8 】

[リール停止可能信号OFF処理]

次に、図 1 4 1 を参照して、リール停止制御処理（図 1 3 8 参照）中の S 7 1 1 又は S 7 1 7 で行うリール停止可能信号OFF処理について説明する。なお、図 1 4 1 は、リール停止可能信号OFF処理の手順を示すフローチャートである。

【 0 9 9 9 】

まず、メインCPU 1 0 1 は、スタックポインタ（SP）にセットされているメインRAM 1 0 3 のスタックエリア（図 1 2 C 参照）のアドレスを退避させる（S 7 3 1）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、スタックポインタ（SP）に規定外スタックエリアのアドレスをセットする（S 7 3 2）。

10

【 1 0 0 0 】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、全てのレジスタにセットされているデータを退避させる（S 7 3 3）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、リール停止可能信号OFFデータのセット処理を行う（S 7 3 4）。

【 1 0 0 1 】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、規定外ポート出力処理を行う（S 7 3 5）。この処理では、メインCPU 1 0 1 は、リール停止可能信号OFFデータに基づいて、後述のOFF出力データ（出力オフモードデータ）の生成及び出力処理を行う。なお、この処理は、メインRAM 1 0 3 の規定外作業領域を使用して行われる。規定外ポート出力処理の詳細については、後述の図 1 4 3 を参照しながら後で説明する。

20

【 1 0 0 2 】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、S 7 3 3 で退避させた全レジスタのデータを復帰させる（S 7 3 6）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、S 7 3 1 で退避させたスタックエリアのアドレスをスタックポインタ（SP）にセットする（S 7 3 7）。

【 1 0 0 3 】

そして、S 7 3 7 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、リール停止可能信号OFF処理を終了する。この際、実行したリール停止可能信号OFF処理がリール停止制御処理（図 1 3 8 参照）中の S 7 1 1 の処理である場合には、メインCPU 1 0 1 は、処理をリール停止制御処理中の S 7 1 2 の処理に移す。一方、実行したリール停止可能信号OFF処理がリール停止制御処理（図 1 3 8 参照）中の S 7 1 7 の処理である場合には、メインCPU 1 0 1 は、処理をリール停止制御処理中の S 7 1 8 の処理に移す。

30

【 1 0 0 4 】

[リール停止可能信号ON処理]

次に、図 1 4 2 を参照して、リール停止制御処理（図 1 3 8 参照）中の S 7 1 3 で行うリール停止可能信号ON処理について説明する。なお、図 1 4 2 は、リール停止可能信号ON処理の手順を示すフローチャートである。

【 1 0 0 5 】

まず、メインCPU 1 0 1 は、スタックポインタ（SP）にセットされているメインRAM 1 0 3 のスタックエリア（図 1 2 C 参照）のアドレスを退避させる（S 7 4 1）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、スタックポインタ（SP）に規定外スタックエリアのアドレスをセットする（S 7 4 2）。

40

【 1 0 0 6 】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、全てのレジスタにセットされているデータを退避させる（S 7 4 3）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、作動ストップボタン格納領域（図 3 3 参照）を参照し、ストップボタン状態を取得する（S 7 4 4）。次いで、メインCPU 1 0 1 は、リール停止可能信号ONデータのセット処理を行う（S 7 4 5）。

【 1 0 0 7 】

次いで、メインCPU 1 0 1 は、規定外ポート出力処理を行う（S 7 4 6）。この処理では、メインCPU 1 0 1 は、リール停止可能信号ONデータに基づいて、後述のON出力データ（出力オンモードデータ）の生成及び出力処理を行う。なお、この処理は、メイ

50

ンRAM103の規定外作業領域を使用して行われる。規定外ポート出力処理の詳細については、後述の図143を参照しながら後で説明する。

【1008】

次いで、メインCPU101は、S743で退避させた全レジスタのデータを復帰させる(S747)。次いで、メインCPU101は、S741で退避させたスタックエリアのアドレスをスタックポインタ(SP)にセットする(S748)。そして、S748の処理後、メインCPU101は、リール停止可能信号ON処理を終了し、処理をリール停止制御処理(図138参照)中のS714の処理に移す。

【1009】

[規定外ポート出力処理]

次に、図143及び図144を参照して、リール停止可能信号OFF処理(図141参照)中のS735及びリール停止可能信号ON処理(図142参照)中のS746で行う規定外ポート出力処理について説明する。なお、図143は、規定外ポート出力処理の手順を示すフローチャートである。また、図144は、規定外ポート出力処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【1010】

まず、メインCPU101は、ポート出力設定がON出力モードであるか否かを判別する(S751)。この処理において、メインCPU101は、リール停止可能信号ONデータがセットされている場合には、ポート出力設定がON出力モードであると判定し、リール停止可能信号OFFデータがセットされている場合には、ポート出力設定がON出力モードでないと判定する。

【1011】

S751において、メインCPU101が、ポート出力設定がON出力モードであると判別したとき(S751がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS753の処理を行う。一方、S751において、メインCPU101が、ポート出力設定がON出力モードでないと判別したとき(S751がNO判定の場合)、メインCPU101は、OFF出力データ(出力オフモードデータ)の生成処理を行う(S752)。この処理では、現在、出力オン状態となっているポート(ビット)のうち、オフ状態にしたいポート(ビット)をオフ状態にするとともに、現在、出力オフ状態となっているポート(ビット)をオフ状態に維持するためのOFF出力データが生成される。

【1012】

S752の処理後又はS751がNO判定の場合、メインCPU101は、ON出力データ(出力オンモードデータ)の生成処理を行う(S753)。この処理では、現在、出力オフ状態となっているポート(ビット)のうち、オン状態にしたいポート(ビット)をオン状態にするとともに、現在、出力オン状態となっているポート(ビット)をオン状態に維持するためのON出力データが生成される。次いで、メインCPU101は、生成された出力データを指定ポートから出力する(S754)。

【1013】

そして、S754の処理後、メインCPU101は、規定外ポート出力処理を終了する。この際、実行した規定外ポート出力処理がリール停止可能信号OFF処理(図141参照)中のS735の処理である場合には、メインCPU101は、処理をリール停止可能信号OFF処理中のS736の処理に移す。一方、実行した規定外ポート出力処理がリール停止可能信号ON処理(図142参照)中のS746の処理である場合には、メインCPU101は、処理をリール停止可能信号ON処理中のS747の処理に移す。

【1014】

本実施形態では、上述のようにして規定外ポート出力処理が行われる。そして、上述した規定外ポート出力処理は、メインCPU101が、図144のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【1015】

その中で、上述した規定外ポート出力処理中のS752のOFF出力データの生成処理

10

20

30

40

50

は、図144中のソースコード「XOR (HL)」及び「AND (HL)」をこの順で実行することに行われる。また、上述した規定外ポート出力処理中のS753のON出力データの生成処理は、図144中のソースコード「OR (HL)」を実行することに行われる。

【1016】

ソースプログラム上において、このような各出力データの生成処理を行うことにより、S752のOFF出力データの生成処理後に、S753のON出力データの生成処理が行われてもS752で生成されたOFF出力データは変化しない。

【1017】

例えば、ポート出力設定がOFF出力モードであり、今回の処理でオフ状態にしたい規定外ポートを示す出力データが「00010111」（「1」がオフ状態にしたいビット）であり、現在、規定外ポートに出力されている出力データ（バックアップデータ）が「01010011」（「1」が現在、オン状態のビット）である場合、バックアップデータのビット0、ビット1及びビット5のデータを「1」から「0」にするためのOFF出力データが生成される。この場合、まず、図144中のソースコード「XOR (HL)」が実行されると、出力データ「00010111」と、バックアップデータ「01010011」との排他的論理和演算が行われ、演算結果として「01000100」が得られる。次いで、図144中のソースコード「AND (HL)」が実行されると、演算結果「01000100」とバックアップデータ「01010011」との論理積演算が行われ、演算結果「01000000」がOFF出力データとして生成される。

【1018】

その後、S753のON出力データの生成処理が（図144中のソースコード「OR (HL)」）が実行されると、演算結果「01000000」（OFF出力データ）と、今回の処理でオン状態にしたい規定外ポートを示す出力データ「00000000」（ポート出力設定がOFF出力モードであるので、出力データの各ビットには「0」がセットされる）との論理和演算が行われ、演算結果として「01000000」が得られ、OFF出力データは変化しない。定性的には、ポート出力設定がOFF出力モードである場合、S753のON出力データの生成処理では、OFF出力データにおいて出力オン状態となっているポート（ビット）をオン状態に維持するための出力データが生成されるので、S752のOFF出力データの生成処理後に、S753のON出力データの生成処理が行われてもS752で生成されたOFF出力データは変化しない。

【1019】

[入賞検索処理]

次に、図145～図147を参照して、メインフロー（図82参照）中のS214で行う入賞検索処理について説明する。なお、図145は、入賞検索処理の手順を示すフローチャートである。図146は、入賞検索処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。また、図147は、入賞検索処理のソースプログラム上で、実際に参照される払出枚数データテーブルの構成の一例を示す図である。

【1020】

まず、メインCPU101は、図柄コード格納領域（図35参照）に格納された各格納領域のデータを、入賞作動フラグ格納領域（図28～図30参照）の対応する格納領域に転送して保存する（S761）。そして、この処理終了時点では、DEレジスタに入賞作動フラグ格納領域の最後尾のアドレスがセットされる。

【1021】

次いで、メインCPU101は、払出枚数データテーブルのアドレス（図147に示す払出枚数データテーブルの先頭アドレス「dPAYNUMTB」）をHLレジスタにセットする（S762）。次いで、メインCPU101は、払出枚数テーブル数（本実施形態では「5」）を入賞検索カウンタの初期値とし、該初期値をBレジスタにセットする（S763）。

【1022】

10

20

30

40

50

次いで、メインCPU101は、HLレジスタにセットされたアドレスに基づいて、メダルの払出枚数（本実施形態では、1枚、2枚、3枚及び9枚のいずれか）のデータをCレジスタにセットし、判定対象データをAレジスタにセットし、HLレジスタにセットされているアドレスに「2」を加算（+2更新）する（S764）。なお、図147に示す払出枚数データテーブルにおいて、メダルの払出枚数のデータは、「払出枚数（1, 2, 3又は9）*2+0」であり、判定対象データは、払出枚数のデータの次のアドレスに格納されている1バイトのデータ（例えば「11111000B」等）である。また、以下では、Cレジスタにセットされたメダルの払出枚数のデータ「払出枚数（1, 2, 3又は9）*2+0」内のデータ「0」を「判定ビット」という。この判定ビットは入賞検索の判定対象ブロックであるか否かを示す情報である。

10

【1023】

次いで、メインCPU101は、Cレジスタにセットされたメダルの払出枚数のデータから判定ビットの値を抽出する（S765）。次いで、メインCPU101は、抽出した判定ビットの値に基づいて、判定対象ブロックであるか否かを判別する（S766）。この処理において、メインCPU101は、抽出した判定ビットの値が「1」である場合に、判定対象ブロックであると判定する。なお、本実施形態では、図147に示すように、メダルの払出枚数に関係なく、判定ビットの値は、常に「0」であるので、S766の処理は必ずNO判定となる。

【1024】

S766において、メインCPU101が、判定対象ブロックでないと判別したとき（S766がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS768の処理を行う。一方、S766において、メインCPU101が、判定対象ブロックであると判別したとき（S766がYES判定の場合）、メインCPU101は、DEレジスタにセットされている入賞作動フラグ格納領域のアドレスを1減算（-1更新）する（S767）。

20

【1025】

S767の処理後又はS766がNO判定の場合、メインCPU101は、DEレジスタにセットされた入賞作動フラグ格納領域のアドレスで指定される格納領域のデータを判定データとして抽出する（S768）。

【1026】

次いで、メインCPU101は、S764でAレジスタにセットされた判定対象データと、S768で抽出した判定データとに基づいて、判定の結果が入賞であるか否かを判別する（S769）。この処理において、メインCPU101は、S764でAレジスタにセットされた判定対象データが、S768で抽出した判定データと同じであれば、判定の結果が入賞であると判定する。

30

【1027】

S769において、メインCPU101が、判定の結果が入賞でないと判別したとき（S769がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS776の処理を行う。一方、S769において、メインCPU101が、判定の結果が入賞であると判別したとき（S769がYES判定の場合）、メインCPU101は、現遊技が3枚遊技（メダルのベット枚数が3枚である遊技）であるか否かを判別する（S770）。

40

【1028】

S770において、メインCPU101が、現遊技が3枚遊技であると判別したとき（S770がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS772の処理を行う。一方、S770において、メインCPU101が、現遊技が3枚遊技でないと判別したとき（S770がNO判定の場合）、メインCPU101は、2枚遊技（メダルのベット枚数が2枚である遊技）の払出枚数（2枚）をCレジスタにセットする（S771）。

【1029】

S771の処理後又はS770がYES判定の場合、メインCPU101は、払出枚数の更新処理を行う（S772）。具体的には、メインCPU101は、現在の入賞枚数カウンタの値に、Cレジスタにセットされたメダルの払出枚数を加算し、加算後の値を払出

50

枚数にセットする。

【1030】

次いで、メインCPU101は、払出枚数の値が最大払出枚数「10」未満であるか否かを判別する(S773)。

【1031】

S773において、メインCPU101が、払出枚数の値が最大払出枚数「10」未満であると判別したとき(S773がYES判定の場合)、メインCPU101は、後述のS775の処理を行う。一方、S773において、メインCPU101が、払出枚数の値が最大払出枚数「10」未満でないと判別したとき(S773がNO判定の場合)、メインCPU101は、払出枚数に最大払出枚数「10」をセットする(S774)。

10

【1032】

S774の処理後又はS773がYES判定の場合、メインCPU101は、払出枚数を入賞枚数カウンタに保存する(S775)。

【1033】

S775の処理後又はS769がNO判定の場合、メインCPU101は、他の入賞があるか否かを判別する(S776)。S776において、メインCPU101が、他の入賞があると判別したとき(S776がYES判定の場合)、メインCPU101は、処理をS769の処理に戻し、S769以降の処理を繰り返す。

【1034】

一方、S776において、メインCPU101が、他の入賞がないと判別したとき(S776がNO判定の場合)、メインCPU101は、入賞検索カウンタの値を1減算(-1更新)する(S777)。なお、本実施形態のように、有効ラインが1本である場合には、複数の小役が重複して入賞することがないので、S776の判定処理は必ずNO判定となる。

20

【1035】

次いで、メインCPU101は、入賞検索カウンタの値が「0」であるか否かを判別する(S778)。

【1036】

S778において、メインCPU101が、入賞検索カウンタの値が「0」でないと判別したとき(S778がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS764の処理に戻し、S764以降の処理を繰り返す。一方、S778において、メインCPU101が、入賞検索カウンタの値が「0」であると判別したとき(S778がYES判定の場合)、メインCPU101は、入賞検索処理を終了し、処理をメインフロー(図82参照)中のS215の処理に移す。

30

【1037】

本実施形態では、上述のようにして入賞検索処理が行われる。そして、上述した入賞検索処理は、メインCPU101が、図146のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中でも、S764の払出枚数及び判定対象データのセット処理は、メインCPU101がソースコード「LDIN AC, (HL)」を実行することにより行われる。

40

【1038】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「LDIN ss, (HL)」が実行されると、HLレジスタ(ペアレジスタ)にセットされたアドレス及び該アドレスに1加算したアドレスで指定されるメモリの内容(データ)がss(BC、DE、AC、AE又はBD)ペアレジスタにロードされるとともに、HLレジスタにセットされているアドレスが+2更新(2加算)される。それゆえ、図146中のソースコード「LDIN AC, (HL)」が実行されると、HLレジスタ(ペアレジスタ)にセットされたアドレス及び該アドレスに1加算したアドレスで指定されるメモリの内容(払出枚数及び判定対象データ)が、ACレジスタにロードされるとともに、HLレジスタにセットされているアドレスが+2更新(2加算)される。なお、S764の処理では、この「LDIN」命

50

令により、Aレジスタに払出枚数のデータが格納され、Cレジスタに判定対象データが格納され、HLレジスタにセットされているアドレスが+2更新される。

【1039】

上述のように、本実施形態の入賞検索処理では、一つの「LDIN」命令により、データのロード処理及びアドレスの更新処理の両方を行うことができる。この場合、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ、その分、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【1040】

また、上述した入賞検索処理中のS770の判定処理で参照するメダルカウンタの値の取得処理、S772の処理で参照する入賞枚数カウンタの値の取得処理、及び、S775の処理で行う入賞枚数カウンタの保存(更新)処理はいずれも、図146に示すように、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いてアドレス指定を行う「LDQ」命令(メインCPU101専用命令コード)により実行される。それゆえ、本実施形態の入賞検索処理では、「LDQ」命令を用いることにより、直値により、メインROM102、メインRAM103やメモリーマップI/Oにアクセスすることができるので、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ(アドレス設定に係る命令を別途設ける必要がなくなる)、その分、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【1041】

また、上述した入賞検索処理中のS769の判定処理は、図146に示すように、ソースプログラム上において、「JSLAA」命令(所定の判定命令)により実行される。なお、「JSLAA」命令は、左シフト(SLA)命令相当の動作を実行する命令である。

【1042】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「JSLAA cc, e」が実行されると、ccの条件が成立すれば、処理をeで指定されるアドレスにジャンプさせる。なお、「JSLAA」命令で規定される「ccの条件」には、フラグ・レジスタF内のキャリーフラグの状態が指定される。例えば、ccに「C」が指定されていれば、ccの条件はキャリーフラグが「1」(オン状態)であることを意味し、ccに「NC」が指定されていれば、ccの条件はキャリーフラグが「0」(オフ状態)であることを意味する。それゆえ、図146中のソースコード「JSLAA NC, MN_CKLN_06」では、キャリーフラグが「0」(オフ状態)であれば、「MN_CKLN_06」で指定されるアドレスに処理がジャンプする。

【1043】

また、上述した入賞検索処理中のS770及びS773の判定処理は、図146に示すように、ソースプログラム上において、「JCP」命令により実行される。なお、「JCP」命令は、上述のように、比較命令相当の動作を実行する命令であり、メインCPU101専用命令コードである。

【1044】

それゆえ、入賞検索処理のソースプログラム上において、上述した「JSLAA」命令及び「JCP」命令を用いた場合、アドレス設定に係る命令を省略することができ(アドレス設定に係る命令を別途設ける必要がなくなる)、その分、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【1045】

[イリーガルヒットチェック処理]

10

20

30

40

50

次に、図 1 4 8 及び図 1 4 9 を参照して、メインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 5 で行うイリーガルヒットチェック処理について説明する。なお、図 1 4 8 は、イリーガルヒットチェック処理の手順を示すフローチャートである。また、図 1 4 9 は、イリーガルヒットチェック処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。なお、イリーガルヒットとは、内部抽籤処理（図 9 2 参照）で抽籤され、図柄設定処理（図 9 7 参照）で当籤番号格納領域に格納された B B 当籤番号及び小役当籤番号（内部当籤役）に基づいて、左リール 3 L、中リール 3 C 及び右リール 3 R が、成立しえない図柄の組合せで有効ライン上に停止（図柄組合せ不成立）したことを示す用語である。

【 1 0 4 6 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、入賞作動フラグ格納領域（図 2 8 ~ 図 3 0 参照）のアドレスをセットする（S 7 8 1）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、入賞作動フラグ格納領域のサイズ（バイト数、本実施形態では「12」）を、チェックカウンタの値にセットする（S 7 8 2）。

10

【 1 0 4 7 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、現在セットされている入賞作動フラグ格納領域のアドレスに基づいて、該アドレスに対応する当り要求フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）内の格納領域に格納された内部当籤役のデータ（当り要求フラグデータ）を取得する（S 7 8 3）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、現在セットされている入賞作動フラグ格納領域のアドレスに格納された入賞役のデータ（入賞作動フラグデータ）と、内部当籤役のデータ（当り要求フラグデータ）とを合成する（S 7 8 4）。

20

【 1 0 4 8 】

なお、この合成処理では、まず、メイン CPU 1 0 1 は、入賞役のデータ（入賞作動フラグデータ）と内部当籤役のデータ（当り要求フラグデータ）との排他的論理和を求める（図 1 4 9 に示すソースプログラム中のソースコード「XOR（HL）」）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、求められた排他的論理和の算出結果と入賞役のデータ（入賞作動フラグデータ）との論理積を求め（図 1 4 9 に示すソースプログラム中のソースコード「AND（HL）」）、論理積の算出結果を合成結果とする。なお、イリーガルヒットエラーが発生していない場合、この合成結果の値は「0」となる。

【 1 0 4 9 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、S 7 8 4 の合成処理の結果に基づいて、イリーガルヒットエラーが発生しているか否かを判別する（S 7 8 5）。

30

【 1 0 5 0 】

S 7 8 5 において、メイン CPU 1 0 1 が、イリーガルヒットエラーが発生していないと判別したとき（S 7 8 5 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、参照する入賞作動フラグ格納領域のアドレスを + 1 更新する（S 7 8 6）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、チェックカウンタの値を 1 減算する（S 7 8 7）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、チェックカウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S 7 8 8）。

【 1 0 5 1 】

S 7 8 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、チェックカウンタの値が「0」でないと判別したとき（S 7 8 8 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、処理を S 7 8 3 の処理に戻し、S 7 8 3 以降の処理を繰り返す。一方、S 7 8 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、チェックカウンタの値が「0」であると判別したとき（S 7 8 8 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、イリーガルヒットチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 6 の処理に移す。

40

【 1 0 5 2 】

ここで再度、S 7 8 5 の処理に戻って、S 7 8 5 において、メイン CPU 1 0 1 が、イリーガルヒットエラーが発生していると判別したとき（S 7 8 5 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、図 8 9 で説明したエラー処理を行う（S 7 8 9）。この処理により、情報表示器 6 に含まれる 2 桁の 7 セグ LED（払出枚数表示用及びエラー表示用兼用）に、イリーガルヒットエラーの発生を示す 2 文字「EE」をエラー情報として表示する

50

ためのエラー表示データが出力される。なお、イリーガルヒットエラーの発生状態（エラー状態）は、リセットスイッチ76（図7参照）を押下することにより解除される。

【1053】

次いで、メインCPU101は、入賞枚数カウンタの値及び当り要求フラグ格納領域のデータをクリアする（S790）。そして、S790の処理後、メインCPU101は、イリーガルヒットチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）中のS216の処理に移す。

【1054】

本実施形態では、上述のようにしてイリーガルヒットチェック処理が行われる。そして、上述したイリーガルヒットチェック処理は、メインCPU101が、図149のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

10

【1055】

なお、本実施形態では、図28～図30に示すように、入賞作動フラグ格納領域（表示役格納領域）の構成が当り要求フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）のそれと同じであるので、入賞作動フラグ格納領域の役と内部当籤役との合成処理時にメインRAM103に配置される当り要求フラグ格納領域と入賞作動フラグ格納領域とを同一構成にすることができる。それゆえ、本実施形態のイリーガルヒットチェック処理におけるS784の演算結果（入賞役のデータと内部当籤役のデータとを合成結果）は、上述のように、ソースプログラム上において、入賞役のデータと内部当籤役のデータとを単純に論理積（「AND」命令で実行する）することにより求められる。その結果、本実施形態では、イリーガルヒットチェック処理を効率化及び簡略化することができ、主制御プログラムの空き容量を確保する（増やす）ことができ、増えた空き容量を使用して遊技性を高めることが可能になる。

20

【1056】

[入賞チェック・メダル払出処理]

次に、図150及び図151を参照して、メインフロー（図82参照）中のS216で行う入賞チェック・メダル払出処理について説明する。なお、図150は、入賞チェック・メダル払出処理の手順を示すフローチャートである。また、図151は、入賞チェック・メダル払出処理中の後述のS804～S808の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

30

【1057】

まず、メインCPU101は、入賞作動コマンド生成処理を行う（S801）。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信する入賞作動コマンドに含まれる、種別データ及び各種通信パラメータを生成する。なお、入賞作動コマンドは、入賞作動フラグ（表示役）等を特定するパラメータを含んで構成される。

【1058】

次いで、メインCPU101は、図72で説明した通信データ格納処理を行う（S802）。この処理により、入賞作動コマンドデータがメインRAM103に設けられた通信データ格納領域（図75B参照）に保存される。なお、入賞作動コマンドは、後述の図158で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。

40

【1059】

次いで、メインCPU101は、入賞枚数カウンタの値が「0」であるか否かを判別する（S803）。S803において、メインCPU101が、入賞枚数カウンタの値が「0」であると判別したとき（S803がYES判定の場合）、メインCPU101は、入賞チェック・メダル払出処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）中のS217の処理に移す。

【1060】

一方、S803において、メインCPU101が、入賞枚数カウンタの値が「0」でないと判別したとき（S803がNO判定の場合）、メインCPU101は、メダルのクレ

50

ジット枚数（貯留枚数）がその上限枚数（本実施形態では50枚）以上であるか否かを判別する（S804）。

【1061】

S804において、メインCPU101が、メダルのクレジット枚数とその上限枚数以上でないと判別したとき（S804がNO判定の場合）、メインCPU101は、クレジットカウンタの値に「1」を加算（+1更新）する（S805）。加算されたクレジットカウンタの値は、情報表示器6に含まれる貯留枚数表示用の2桁の7セグLED（不図示）により表示される。次いで、メインCPU101は、メダル払出枚数チェック処理を行う（S806）。なお、メダル払出枚数チェック処理の詳細については、後述の図152を参照しながら後で説明する。

10

【1062】

次いで、メインCPU101は、メダルの払い出しが終了したか否かを判別する（S807）。S807において、メインCPU101が、メダルの払い出しが終了したと判別したとき（S807がYES判定の場合）、メインCPU101は、入賞チェック・メダル払出処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）中のS217の処理に移す。

【1063】

一方、S807において、メインCPU101が、メダルの払い出しが終了していないと判別したとき（S807がNO判定の場合）、メインCPU101は、払出間隔待機処理を行う（S808）。この処理では、メインCPU101は、予め設定されたメダル払出間隔時間（本実施形態では60.33ms：後述の図158で説明する割込処理（1.1172ms周期）の54周期分）が経過するまでウェイトする。そして、S808の処理後、メインCPU101は、処理をS803の処理に戻し、S803以降の処理を繰り返す。

20

【1064】

ここで再度、S804の処理に戻って、S804において、メインCPU101が、メダルのクレジット枚数とその上限枚数（50枚）以上であると判別したとき（S804がYES判定の場合）、メインCPU101は、メダルの払出処理を行う（S809）。この処理により、メダルが1枚、払い出される。そして、S809の処理後、メインCPU101は、入賞チェック・メダル払出処理を終了し、処理をメインフロー（図82参照）中のS217の処理に移す。

30

【1065】

本実施形態では、上述のようにして入賞チェック・メダル払出処理が行われる。なお、上述した入賞チェック・メダル払出処理中のS804～S808の処理は、メインCPU101が、図151のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【1066】

なお、本実施形態では、クレジットカウンタの更新（+1）後、払出動作を継続する場合、メインCPU101は、S808の処理で60.33ms間のウェイト（払出間隔待ち）処理を行うが、この処理は、ソースプログラム上では、メインCPU101がソースコード「LD BC, cTM_PAYC」及び「RST SB_W1BC_00」をこの順で実行することにより実現されている。このように、入賞チェック・メダル払出処理において、クレジットカウンタの更新（+1）後、払出動作を継続するときに60.33ms間のウェイト（払出間隔待ち）を行った場合、無駄な待ち時間を減らすことができ、遊技者の精神的負担を軽減することができる。

40

【1067】

[メダル払出枚数チェック処理]

次に、図152及び図153を参照して、入賞チェック・メダル払出処理（図150参照）中のS806で行うメダル払出枚数チェック処理について説明する。なお、図152は、メダル払出枚数チェック処理の手順を示すフローチャートである。また、図153Aは、メダル払出枚数チェック処理中の後述のS811～S814の処理を実行するための

50

ソースプログラムの一例を示す図であり、図153Bは、メダル払出枚数チェック処理中の後述のS816及びS817の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【1068】

まず、メインCPU101は、メダルOUTカウンタの値に「1」を加算(+1更新)する(S811)。なお、メダルOUTカウンタは、メダルの払出回数を計数するためのカウンタである。次いで、メインCPU101は、払出枚数カウンタの値に「1」を加算(+1更新)する(S812)。なお、払出枚数カウンタは、メダルの払出枚数を計数するためのカウンタである。

【1069】

次いで、メインCPU101は、払出枚数7SEG表示処理を行う(S813)。この処理では、メインCPU101は、払出枚数カウンタの値を、情報表示器6に含まれる払出枚数表示用の2桁の7セグLED(不図示)により表示させる制御処理を行う。

【1070】

次いで、メインCPU101は、役連終了枚数カウンタの更新処理を行う(S814)。なお、役連終了枚数カウンタは、入賞役に対応するメダルの払出枚数の残り枚数を計数するためのカウンタである。この処理では、メインCPU101は、役連終了枚数カウンタの値とその下限値「0」とを比較し、役連終了枚数カウンタの値が下限値「0」より大きい場合には、役連終了枚数カウンタの値を1減算(-1更新)し、役連終了枚数カウンタの値が下限値「0」以下である場合には、役連終了枚数カウンタの値を「0」に保持する。

【1071】

次いで、メインCPU101は、入賞枚数カウンタの値を1減算(-1更新)する(S815)。

【1072】

次いで、メインCPU101は、クレジット情報コマンド生成処理を行う(S816)。この処理では、メインCPU101は、副制御回路200に送信するクレジット情報コマンドに含まれる、種別データ及び各種通信パラメータを生成する。なお、クレジット情報コマンドは、メダルのクレジット枚数を特定するパラメータを含んで構成される。

【1073】

次いで、メインCPU101は、図72で説明した通信データ格納処理を行う(S817)。この処理により、クレジット情報コマンドデータがメインRAM103に設けられた通信データ格納領域(図75B参照)に保存される。なお、クレジット情報コマンドは、後述の図158で説明する割込処理内の通信データ送信処理により、主制御回路90から副制御回路200に送信される。そして、S817の処理後、メインCPU101は、メダル払出枚数チェック処理を終了し、処理を入賞チェック・メダル払出処理(図150参照)中のS807の処理に移す。

【1074】

本実施形態では、上述のようにしてメダル払出枚数チェック処理が行われる。なお、上述したメダル払出枚数チェック処理中のS811~S814の処理は、メインCPU101が、図153Aのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。その中で、S814の役連終了枚数カウンタの更新処理は、図153A中の「DCPLD」命令(所定の更新命令)により実行される。なお、「DCPLD」命令は、メインCPU101専用命令コードである。

【1075】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「DCPLD(HL),n」が実行されると、HLレジスタで指定されたアドレスのメモリの内容(格納データ)と整数nとが比較され、メモリの内容が整数nより大きい場合には、メモリの内容が1減算され、メモリの内容が整数n以下である場合には、HLレジスタで指定されたアドレスのメモリに整数nが格納される。それゆえ、図153A中のソースコード「DCPLD(HL

10

20

30

40

50

「0」が実行されると、HLレジスタで指定されたアドレスのメモリの内容（役連終了枚数カウンタの値）と整数0（下限値）とが比較され、メモリの内容（役連終了枚数カウンタの値）が整数0より大きい場合には、メモリの内容が1減算され、メモリの内容が整数0以下である場合には、メモリの内容（役連終了枚数カウンタの値）に「0」がセットされる。すなわち、現時点の役連終了枚数カウンタの値が「0」より大きい場合には、役連終了枚数カウンタの更新処理が行われ、現時点の役連終了枚数カウンタの値が「0」以下であれば、役連終了枚数カウンタの値を「0」に保持する処理が行われる。

【1076】

上述のように、メダル払出枚数チェック処理中のS814の処理では、一つの「DCPLD」命令（枚数管理カウンタの下限判定命令と、判断分岐命令が一体になっている命令）により、役連終了枚数カウンタの更新（減算）処理及び連終了枚数カウンタの値を「0」に保持する処理の両方を実行することができる。この場合、両処理を別個に実行するための命令コードを設ける必要がなくなる。例えば、連終了枚数カウンタの値が「0」であるか否かを判別するための判断分岐命令コードを省略することができる。それゆえ、本実施形態のメダル払出枚数チェック処理では、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができ、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

10

【1077】

また、上述したメダル払出枚数チェック処理中のS816及びS817の処理は、メインCPU101が、図153Bのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

20

【1078】

その中で、S816の処理では、図153Bに示すように、クレジット情報コマンドの通信パラメータ1にはLレジスタを介して払出枚数カウンタの値がセットされ、通信パラメータ5にはCレジスタを介してクレジットカウンタの値がセットされる。しかしながら、クレジット情報コマンドを構成するその他の通信パラメータ2～4には、現時点においてHレジスタ、Eレジスタ及びDレジスタにそれぞれ格納されている値（不定値）がセットされる。それゆえ、クレジット情報コマンド送信時における通信パラメータ2～4の値は不定値となる。その結果、本実施形態では、クレジット情報コマンドのサム値（BCC）を送信毎に不定値にすることができ、ゴト等の不正行為を抑制することができる。

30

【1079】

[BBチェック処理]

次に、図154を参照して、メインフロー（図82参照）中のS217で行うBBチェック処理について説明する。なお、図154は、BBチェック処理の手順を示すフローチャートである。

【1080】

まず、メインCPU101は、現在の遊技状態がボーナス状態であるか否かを判別する（S821）。S821において、メインCPU101が、現在の遊技状態がボーナス状態でないと判別したとき（S821がNO判定の場合）、メインCPU101は、後述のS832の処理を行う。

40

【1081】

一方、S821において、メインCPU101が、現在の遊技状態がボーナス状態であると判別したとき（S821がYES判定の場合）、メインCPU101は、ボーナス状態中に払い出し可能なメダルの枚数を計数するためのBB中払出枚数カウンタの値から、入賞チェック・メダル払出処理において払い出されたメダルの払出枚数を減算する（S822）。

【1082】

次いで、メインCPU101は、BB中払出枚数カウンタの値が「0」未満であるか否かを判別する（S823）。S823において、メインCPU101が、BB中払出枚数

50

カウンタの値が「0」未満でないと判別したとき（S 8 2 3がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、BBチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図8 2参照）中のS 2 1 8の処理に移す。

【1 0 8 3】

一方、S 8 2 3において、メインCPU 1 0 1が、BB中払出枚数カウンタの値が「0」未満であると判別したとき（S 8 2 3がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、ボーナス終了時処理を行う（S 8 2 4）。この処理では、メインCPU 1 0 1は、ボーナス状態中の各種情報をクリアするとともに、RT 1状態フラグをオン状態にセットする。

【1 0 8 4】

次いで、メインCPU 1 0 1は、ボーナス終了時CT抽籤テーブル（図6 0参照）を参照して、ボーナス終了時のCT抽籤を行う（S 8 2 5）。次いで、メインCPU 1 0 1は、ボーナス終了時のCT抽籤に当籤したか否かを判別する（S 8 2 6）。

【1 0 8 5】

S 8 2 6において、メインCPU 1 0 1が、CT抽籤に当籤しなかったと判別したとき（S 8 2 6がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、後述のS 8 2 8の処理を行う。一方、S 8 2 6において、メインCPU 1 0 1が、CT抽籤に当籤したと判別したとき（S 8 2 6がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、CTセット数に「1」を加算する（S 8 2 7）。なお、ARTセット数が「0」であるときにCT抽籤に当籤した場合には、S 8 2 7の処理において、CTセット数に「1」を加算するとともに、ARTセット数にも「1」を加算する。

【1 0 8 6】

S 8 2 7の処理後又はS 8 2 6がNO判定の場合、メインCPU 1 0 1は、ARTセット数又はCTセット数が「1」以上であるか否かを判別する（S 8 2 8）。

【1 0 8 7】

S 8 2 8において、メインCPU 1 0 1が、ARTセット数又はCTセット数が「1」以上であると判別したとき（S 8 2 8がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、次遊技の遊技状態にART準備状態をセットする（S 8 2 9）。そして、S 8 2 9の処理後、メインCPU 1 0 1は、BBチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図8 2参照）中のS 2 1 8の処理に移す。

【1 0 8 8】

一方、S 8 2 8において、メインCPU 1 0 1が、ARTセット数又はCTセット数が「1」以上でないと判別したとき（S 8 2 8がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、次遊技の遊技状態に通常遊技状態をセットする（S 8 3 0）。次いで、メインCPU 1 0 1は、通常中高確率抽籤テーブル（図4 0 B参照）を参照して、C Zの抽籤状態を抽籤し、抽籤結果をセットする（S 8 3 1）。そして、S 8 3 1の処理後、メインCPU 1 0 1は、BBチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図8 2参照）中のS 2 1 8の処理に移す。

【1 0 8 9】

ここで再度、S 8 2 1の処理に戻って、S 8 2 1がNO判定の場合、メインCPU 1 0 1は、BB役に係る図柄組合せ（コンビネーション「C__BB 1」又は「C__BB 2」の図柄組合せ）が表示されたか否かを判定する（S 8 3 2）。S 8 3 2において、メインCPU 1 0 1が、BB役に係る図柄組合せが表示されなかったと判別したとき（S 8 3 2がNO判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、BBチェック処理を終了し、処理をメインフロー（図8 2参照）中のS 2 1 8の処理に移す。

【1 0 9 0】

一方、S 8 3 2において、メインCPU 1 0 1が、BB役に係る図柄組合せが表示されたと判別したとき（S 8 3 2がYES判定の場合）、メインCPU 1 0 1は、ボーナス種別抽籤テーブル（図5 8参照）を参照して、ボーナス種別を抽籤し、抽籤結果をセットする（S 8 3 3）。次いで、メインCPU 1 0 1は、BB中払出枚数カウンタの値に所定値（ボーナス終了契機となる払出枚数：本実施形態では、「2 1 6」）をセットする（S 8

10

20

30

40

50

34)。

【1091】

次いで、メインCPU101は、ボーナス開始時処理を行う(S835)。この処理では、メインCPU101は、例えば、次遊技の遊技状態にボーナス状態をセットするなどのボーナスの作動開始に必要な各種処理を行う。そして、S835の処理後、メインCPU101は、BBチェック処理を終了し、処理をメインフロー(図82参照)中のS218の処理に移す。

【1092】

[RTチェック処理]

次に、図155及び図156を参照して、メインフロー(図82参照)中のS218で行うRTチェック処理について説明する。なお、図155及び図156は、RTチェック処理の手順を示すフローチャートである。

10

【1093】

まず、メインCPU101は、RT状態がRT5状態であるか否かを判別する(S841)。S841において、メインCPU101が、RT状態がRT5状態であると判別したとき(S841がYES判定の場合)、メインCPU101は、RTチェック処理を終了し、処理をメインフロー(図82参照)中のS219の処理に移す。

【1094】

一方、S841において、メインCPU101が、RT状態がRT5状態でないと判別したとき(S841がNO判定の場合)、メインCPU101は、RT状態がRT0状態であるか否かを判別する(S842)。S842において、メインCPU101が、RT状態がRT0状態でないと判別したとき(S842がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS845の処理を行う。

20

【1095】

一方、S842において、メインCPU101が、RT状態がRT0状態であると判別したとき(S842がYES判定の場合)、メインCPU101は、略称「ベルこぼし目」の図柄組合せ(図28参照)が表示されたか否かを判別する(S843)。S843において、メインCPU101が、略称「ベルこぼし目」の図柄組合せが表示されなかったと判別したとき(S843がNO判定の場合)、メインCPU101は、RTチェック処理を終了し、処理をメインフロー(図82参照)中のS219の処理に移す。

30

【1096】

一方、S843において、メインCPU101が、略称「ベルこぼし目」の図柄組合せが表示されたと判別したとき(S843がYES判定の場合)、メインCPU101は、RT2状態フラグをオン状態にセットする(S844)。この処理により、RT状態がRT0状態からRT2状態に移行する。そして、S844の処理後、メインCPU101は、RTチェック処理を終了し、処理をメインフロー(図82参照)中のS219の処理に移す。

【1097】

ここで再度、S842の処理に戻って、S842がNO判定の場合、メインCPU101は、RT状態がRT1状態であるか否かを判別する(S845)。S845において、メインCPU101が、RT状態がRT1状態でないと判別したとき(S845がNO判定の場合)、メインCPU101は、後述のS850の処理を行う。

40

【1098】

一方、S845において、メインCPU101が、RT状態がRT1状態であると判別したとき(S845がYES判定の場合)、メインCPU101は、略称「ベルこぼし目」の図柄組合せが表示されたか否かを判別する(S846)。

【1099】

S846において、メインCPU101が、略称「ベルこぼし目」の図柄組合せが表示されたと判別したとき(S846がYES判定の場合)、メインCPU101は、RT1状態フラグをオフ状態にセットするとともに、RT2状態フラグをオン状態にセットする

50

(S 8 4 7)。この処理により、R T 状態が R T 1 状態から R T 2 状態に移行する。そして、S 8 4 7 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 1 1 0 0 】

一方、S 8 4 6 において、メイン CPU 1 0 1 が、略称「ベルこぼし目」の図柄組合せが表示されなかったと判別したとき（S 8 4 6 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、R T 1 状態の遊技が 2 0 ゲーム経過したか否かを判別する（S 8 4 8）。

【 1 1 0 1 】

S 8 4 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、R T 1 状態の遊技が 2 0 ゲーム経過していないと判別したとき（S 8 4 8 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。一方、S 8 4 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、R T 1 状態の遊技が 2 0 ゲーム経過したと判別したとき（S 8 4 8 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、R T 1 状態フラグをオフ状態にセットする（S 8 4 9）。この処理により、R T 状態が R T 1 状態から R T 0 状態に移行する。そして、S 8 4 9 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 1 1 0 2 】

ここで再度、S 8 4 5 の処理に戻って、S 8 4 5 が N O 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、R T 状態が R T 2 状態であるか否かを判別する（S 8 5 0）。S 8 5 0 において、メイン CPU 1 0 1 が、R T 状態が R T 2 状態でないと判別したとき（S 8 5 0 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 8 5 3 の処理を行う。

【 1 1 0 3 】

一方、S 8 5 0 において、メイン CPU 1 0 1 が、R T 状態が R T 2 状態であると判別したとき（S 8 5 0 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、略称「R T 3 移行リップ」の図柄組合せ（図 2 8 参照）が表示されたか否かを判別する（S 8 5 1）。S 8 5 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、略称「R T 3 移行リップ」の図柄組合せが表示されなかったと判別したとき（S 8 5 1 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 1 1 0 4 】

一方、S 8 5 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、略称「R T 3 移行リップ」の図柄組合せが表示されたと判別したとき（S 8 5 1 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、R T 2 状態フラグをオフ状態にセットするとともに、R T 3 状態フラグをオン状態にセットする（S 8 5 2）。この処理により、R T 状態が R T 2 状態から R T 3 状態に移行する。そして、S 8 5 2 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、R T チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 1 1 0 5 】

ここで再度、S 8 5 0 の処理に戻って、S 8 5 0 が N O 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、R T 状態が R T 3 状態であるか否かを判別する（S 8 5 3）。S 8 5 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、R T 状態が R T 3 状態でないと判別したとき（S 8 5 3 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 8 6 2 の処理を行う。

【 1 1 0 6 】

一方、S 8 5 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、R T 状態が R T 3 状態であると判別したとき（S 8 5 3 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、略称「ベルこぼし目」又は「R T 2 移行リップ」の図柄組合せが表示されたか否かを判別する（S 8 5 4）。

【 1 1 0 7 】

S 8 5 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、略称「ベルこぼし目」又は「R T 2 移行リップ」の図柄組合せが表示されたと判別したとき（S 8 5 4 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、R T 3 状態フラグをオフ状態にセットするとともに、R T 2 状態フラグをオン状態にセットする（S 8 5 5）。この処理により、R T 状態が R T 3 状態から R T 2 状態に移行する。そして、S 8 5 5 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、R T チェック処

10

20

30

40

50

理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 1 1 0 8 】

一方、S 8 5 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、略称「ベルこぼし目」又は「RT 2 移行リップ」の図柄組合せが表示されていないと判別したとき（S 8 5 4 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、略称「RT 4 移行リップ」の図柄組合せ（図 2 8 参照）が表示されたか否かを判別する（S 8 5 6）。

【 1 1 0 9 】

S 8 5 6 において、メイン CPU 1 0 1 が、略称「RT 4 移行リップ」の図柄組合せが表示されていないと判別したとき（S 8 5 6 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。一方、S 8 5 6 において、メイン CPU 1 0 1 が、略称「RT 4 移行リップ」の図柄組合せが表示されたらと判別したとき（S 8 5 6 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、RT 3 状態フラグをオフ状態にセットするとともに、RT 4 状態フラグをオン状態にセットする（S 8 5 7）。この処理により、RT 状態が RT 3 状態から RT 4 状態に移行する。

【 1 1 1 0 】

S 8 5 7 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、遊技状態が ART 準備状態であるか否かを判別する（S 8 5 8）。S 8 5 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、遊技状態が ART 準備状態でないと判別したとき（S 8 5 8 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 1 1 1 1 】

一方、S 8 5 8 において、メイン CPU 1 0 1 が、遊技状態が ART 準備状態であると判別したとき（S 8 5 8 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、CT セット数が「1」以上であるか否かを判別する（S 8 5 9）。

【 1 1 1 2 】

S 8 5 9 において、メイン CPU 1 0 1 が、CT セット数が「1」以上であると判別したとき（S 8 5 9 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、次遊技の遊技状態に CT をセットし、CT ゲーム数カウンタに「8」をセットする（S 8 6 0）。そして、S 8 6 0 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 1 1 1 3 】

一方、S 8 5 9 において、メイン CPU 1 0 1 が、CT セット数が「1」以上でないと判別したとき（S 8 5 9 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、次遊技の遊技状態に通常 ART をセットし、ART 終了ゲーム数カウンタに所定値をセットする（S 8 6 1）。そして、S 8 6 1 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 1 1 1 4 】

ここで再度、S 8 5 3 の処理に戻って、S 8 5 3 が NO 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、略称「ベルこぼし目」又は「RT 2 移行リップ」の図柄組合せが表示されたか否かを判別する（S 8 6 2）。S 8 6 2 において、メイン CPU 1 0 1 が、略称「ベルこぼし目」又は「RT 2 移行リップ」の図柄組合せが表示されていないと判別したとき（S 8 6 2 が NO 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

【 1 1 1 5 】

一方、S 8 6 2 において、メイン CPU 1 0 1 が、略称「ベルこぼし目」又は「RT 2 移行リップ」の図柄組合せが表示されたらと判別したとき（S 8 6 2 が YES 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、RT 4 状態フラグをオフ状態にセットするとともに、RT 2 状態フラグをオン状態にセットする（S 8 6 3）。この処理により、RT 状態が RT 4 状態から RT 2 状態に移行する。そして、S 8 6 3 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、RT チェック処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 の処理に移す。

10

20

30

40

50

【 1 1 1 6 】

[C Z ・ A R T 終了時処理]

次に、図 1 5 7 を参照して、メインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 1 9 で行う C Z ・ A R T 終了時処理について説明する。なお、図 1 5 7 は、C Z ・ A R T 終了時処理の手順を示すフローチャートである。

【 1 1 1 7 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、現在の遊技状態が C Z 失敗時及び A R T 終了時のいずれかであるか否かを判別する（S 8 7 1）。S 8 7 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、現在の遊技状態が C Z 失敗時及び A R T 終了時のいずれかでないと判別したとき（S 8 7 1 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、C Z ・ A R T 終了時処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 0 1 の処理に移す。

10

【 1 1 1 8 】

一方、S 8 7 1 において、メイン CPU 1 0 1 が、現在の遊技状態が C Z 失敗時及び A R T 終了時のいずれかであると判別したとき（S 8 7 1 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、C Z 抽籤テーブル（図 4 1 B 参照）を参照して、C Z の引き戻し抽籤を行う（S 8 7 2）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、C Z の引き戻し抽籤に当籤したか否かを判別す（S 8 7 3）。

【 1 1 1 9 】

S 8 7 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、C Z の引き戻し抽籤に当籤したと判別したとき（S 8 7 3 が Y E S 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、次遊技の遊技状態に当籤した種別の C Z をセットする（S 8 7 4）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、当籤した種別の C Z に応じた値を C Z ゲーム数カウンタにセットする（S 8 7 5）。そして、S 8 7 5 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、C Z ・ A R T 終了時処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 0 1 の処理に移す。

20

【 1 1 2 0 】

一方、S 8 7 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、C Z の引き戻し抽籤に当籤しなかったと判別したとき（S 8 7 3 が N O 判定の場合）、メイン CPU 1 0 1 は、次遊技の遊技状態に通常遊技状態をセットする（S 8 7 6）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、通常中高確率抽籤テーブル（図 4 0 B 参照）を参照して、C Z の抽籤状態を抽籤し、抽籤結果をセットする（S 8 7 7）。そして、S 8 7 7 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、C Z ・ A R T 終了時処理を終了し、処理をメインフロー（図 8 2 参照）中の S 2 0 1 の処理に移す。

30

【 1 1 2 1 】

[メイン CPU の制御による割込処理（1 . 1 1 7 2 m s e c）]

次に、図 1 5 8 を参照して、1 . 1 1 7 2 m s e c 周期で、メイン CPU 1 0 1 が行う割込処理について説明する。なお、図 1 5 8 は、割込処理の手順を示すフローチャートである。1 . 1 1 7 2 m s e c 周期で繰り返し実行される割込処理は、タイマー回路 1 1 3（P T C）の初期化処理（図 6 4 中の S 2 参照）で設定されたタイマー回路 1 1 3 のタイムアウト信号の出力タイミングに基づいて発生する割込みコントローラ 1 1 2 からの割込要求信号がメイン CPU 1 0 1 に入力された際に実行される処理である。

【 1 1 2 2 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、レジスタの退避処理を行う（S 9 0 1）。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、入力ポートチェック処理を行う（S 9 0 2）。この処理では、ストップスイッチ等の各種スイッチから入力される信号がチェックされる。

40

【 1 1 2 3 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、リール制御処理を行う（S 9 0 3）。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、全リールの回転開始が要求されたときに、左リール 3 L、中リール 3 C 及び右リール 3 R の回転を開始し、その後、各リールが一定速度で回転するように、3 つのステップモータを駆動制御する。また、滑り駒数が決定されたときは、メイン CPU 1 0 1 は、該当するリールの図柄カウンタを滑り駒数分だけ更新する。そして、メイン CPU 1 0 1 は、更新された図柄カウンタが停止予定位置に対応する値に一致する

50

(停止予定位置の図柄が表示窓の有効ライン上の領域に到達する)のを待って、該当するリールの回転の減速及び停止が行われるように、対応するステッピングモータを駆動制御する。

【1124】

次いで、メインCPU101は、通信データ送信処理を行う(S904)。この処理では、主に、通信データ格納領域に格納された各種コマンドを主制御回路90の第1シリアル通信回路114(図9参照)を介して副制御回路200に送信する。メインCPU101は、副制御回路200にコマンドを送信した後、通信データポインタを1パケット分減算更新し(不図示)、通信データ格納領域の送信済みのコマンドデータをクリアする。なお、通信データ格納領域に複数のコマンドデータが格納されている場合には、格納された古い順で、コマンドデータを副制御回路200に送信する。また、通信データ格納領域にコマンドデータが格納されていない場合、すなわち、通信データポインタの値が「0」である場合には、無操作コマンドを生成して副制御回路200に送信する。次いで、メインCPU101は、投入メダル通過チェック処理を行う(S905)。この処理では、メインCPU101は、メダルセンサ(不図示)の検出結果(メダルセンサ入力状態)に基づいて、投入メダルがセクタ66を通過したか否かのチェック処理を行う。次いで、メインCPU101は、WDTのリスタート処理を行う(S906)。

10

【1125】

次いで、メインCPU101は、7セグLED駆動処理を行う(S907)。この処理では、メインCPU101は、情報表示器6に含まれる各種7セグLEDを駆動制御して、例えば、メダルの払出枚数やクレジット枚数、ストップボタンの押し順データなどを表示する。なお、7セグLED駆動処理の詳細については、後述の図159を参照しながら後で説明する。

20

【1126】

次いで、メインCPU101は、タイマー更新処理を行う(S908)。この処理では、メインCPU101は、セットされた各種タイマーのカウント(減算)処理を行う。なお、タイマー更新処理の詳細については、後述の図164を参照しながら後で説明する。

【1127】

次いで、メインCPU101は、エラー検知処理を行う(S909)。次いで、メインCPU101は、ドア開閉チェック処理を行う(S910)。ドア開閉チェック処理では、メインCPU101は、ドア開閉監視スイッチ67のオン(ドア閉)/オフ(ドア開)状態をチェックすることにより、フロントドア2b(図2参照)の開閉状態をチェックする。

30

【1128】

次いで、メインCPU101は、試射試験信号制御処理を行う(S911)。この処理では、第2インターフェースポート等を介して試験機に各種試験信号の出力する際の制御処理が行われる。また、この処理は、メインRAM103の規定外作業領域(図12C参照)を用いて実行される。なお、本実施形態では、この処理は、試射試験時以外のとき(パチスロ1が遊技店に設置された後)にも行われるが、この時には、主制御基板71が第2インターフェースポート等を介して試験機に接続されていないので、各種試験信号は生成されても出力はされない。試射試験信号制御処理の詳細については、後述の図166を参照しながら後で説明する。

40

【1129】

次いで、メインCPU101は、レジスタの復帰処理を行う(S912)。そして、S912の処理後、メインCPU101は、割込処理を終了する。

【1130】

[7セグLED駆動処理]

次に、図159及び図160を参照して、割込処理(図158参照)中のS907で行う7セグLED駆動処理について説明する。なお、図159は、7セグLED駆動処理の手順を示すフローチャートである。また、図160Aは、7セグLED駆動処理中の後述

50

の S 9 2 3 ~ S 9 2 5 の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図であり、図 1 6 0 B は、7 セグ L E D 駆動処理中の後述の S 9 3 1 ~ S 9 3 6 の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【 1 1 3 1 】

まず、メイン C P U 1 0 1 は、割込カウンタの値に「 1 」を加算（ + 1 更新）する（ S 9 2 1 ）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、割込カウンタの値が奇数であるか否かを判別する（ S 9 2 2 ）。

【 1 1 3 2 】

S 9 2 2 において、メイン C P U 1 0 1 が、割込カウンタの値が奇数でないと判別したとき（ S 9 2 2 が N O 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、7 セグ L E D 駆動処理を終了し、処理を割込処理（図 1 5 8 参照）中の S 9 0 8 の処理に移す。すなわち、本実施形態では、2 回の割込周期毎に、7 セグ L E D 駆動処理が行われる。なお、本実施形態では、7 セグ L E D 駆動処理を割込みカウンタの値が偶数の場合に実行する例を説明したが、本発明はこれに限定されず、割込みカウンタの値が奇数の場合に 7 セグ L E D 駆動処理を実行してもよいし、また、任意の整数で割込みカウンタの値を除算したときの商又は余りを用いて、7 セグ L E D 駆動処理の実行タイミングを決定してもよい。

10

【 1 1 3 3 】

一方、S 9 2 2 において、メイン C P U 1 0 1 が、割込カウンタの値が奇数であると判別したとき（ S 9 2 2 が Y E S 判定の場合）、メイン C P U 1 0 1 は、ナビデータ格納領域からナビデータを取得する（ S 9 2 3 ）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、7 セグ L E D の各カソードに出力される押し順表示データを格納するための押し順表示データ格納領域のアドレスをセットする（ S 9 2 4 ）。

20

【 1 1 3 4 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、7 セグ表示データ生成処理を行う（ S 9 2 5 ）。この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、ナビデータに基づいて、押し順表示データ（7 セグ表示データ）を作成し、生成された押し順表示データを押し順表示データ格納領域に格納する。なお、7 セグ表示データ生成処理の詳細については、後述の図 1 6 1 を参照しながら後で説明する。

【 1 1 3 5 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、クレジットカウンタの値を取得する（ S 9 2 6 ）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、7 セグ L E D の各カソードに出力されるクレジット表示データを格納するためのクレジット表示データ格納領域のアドレスをセットする（ S 9 2 7 ）。

30

【 1 1 3 6 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、7 セグ表示データ生成処理を行う（ S 9 2 8 ）。この処理では、メイン C P U 1 0 1 は、クレジットカウンタの値に基づいて、クレジット表示データ（7 セグ表示データ）を生成し、生成されたクレジット表示データをクレジット表示データ格納領域に格納する。なお、7 セグ表示データ生成処理の詳細については、後述の図 1 6 1 を参照しながら後で説明する。

【 1 1 3 7 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、後述の 7 セグコモンカウンタの値を格納するための 7 セグコモンカウンタ格納領域のアドレスをセットする（ S 9 2 9 ）。次いで、メイン C P U 1 0 1 は、7 セグコモンカウンタの値に「 1 」を加算（ + 1 更新）する（ S 9 3 0 ）。なお、この処理において、更新後の 7 セグコモンカウンタの値が「 8 」となった場合には、メイン C P U 1 0 1 は、7 セグコモンカウンタの値に「 0 」をセットする。本実施形態では、7 セグ L E D をダイナミック制御するため、8 回周期で 7 セグコモンカウンタの値が更新される。

40

【 1 1 3 8 】

次いで、メイン C P U 1 0 1 は、7 セグコモンカウンタの値に基づいて、コモン選択データを作成し、対象のカソードデータ格納領域（押し順表示データ格納領域又はクレジッ

50

ト表示データ格納領域内の対象格納領域)のアドレスをセットする(S931)。次いで、メインCPU101は、7セグLEDのカソードにクリアデータを出力する(S932)。この処理は、7セグLEDを一旦消灯して、残像の影響を無くすために行われる。

【1139】

次いで、メインCPU101は、対象のカソードデータ格納領域から7セグカソード出力データを取得してセットする(S933)。次いで、メインCPU101は、7セグコモンバックアップデータとコモン選択データとから、7セグコモン出力データを生成する(S934)。

【1140】

次いで、メインCPU101は、7セグコモンバックアップデータ及び7セグカソードバックアップデータにそれぞれ7セグコモン出力データ及び7セグカソード出力データを保存する(S935)。次いで、メインCPU101は、7セグカソード出力データ及び7セグコモン出力データを出力する(S936)。そして、S936の処理後、メインCPU101は、7セグLED駆動処理を終了し、処理を割込処理(図158参照)中のS908の処理に移す。

【1141】

本実施形態では、上述のようにして7セグLED駆動処理が行われる。なお、上述した7セグLED駆動処理中のS923~S925の処理は、メインCPU101が、図160Aのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。また、上述した7セグLED駆動処理中のS931~S936の処理は、メインCPU101が、図160Bのソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【1142】

その中で、S936の各7セグ出力データの出力処理は、図160Bに示すように、一つのソースコード「LD(cPA_SEGCOM),BC」により実行される。それゆえ、本実施形態の7セグLED駆動処理では、2桁の7セグLEDをダイナミック点灯制御する際に、7セグコモン出力(選択)データと、7セグカソード出力データとが同時に出力される。すなわち、指示モニタで押し順ナビを実施する際の7セグLEDをダイナミック点灯制御、及び、2桁の7セグLEDでクレジット情報を表示する際の7セグLEDをダイナミック点灯制御では、7セグコモン出力(選択)データと、7セグカソード出力データとが同時に出力される。

【1143】

この場合、ソースプログラム上において、7セグLEDのダイナミック点灯制御に必要な命令コード数を減らすことができる。それゆえ、本実施形態では、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができ、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。また、本実施形態では、7セグLED駆動処理を行う7セグ駆動回路(不図示)をカソードコモン回路で構成し、カソードで制御する例を説明したが、本発明はこれに限定されず、7セグ駆動回路をアノードコモン回路で構成し、アノードで7セグLEDの制御を行ってもよい。

【1144】

また、上述した7セグLED駆動処理中のS923のナビデータの取得処理及びS924の押し表示データ格納領域のアドレスセット処理はいずれも、図160Aに示すように、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いてアドレス指定を行う「LDQ」命令(メインCPU101専用命令コード)により実行される。それゆえ、本実施形態の7セグLED駆動処理では、「LDQ」命令を用いることにより、直値により、メインROM102、メインRAM103やメモリーマップI/Oにアクセスすることができるので、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ(アドレス設定に係る命令を別途設ける必要がなくなる)、その分、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM10

10

20

30

40

50

2において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【1145】

[7セグ表示データ生成処理]

次に、図161～図163を参照して、7セグLED駆動処理（図159参照）中のS925及びS928で行う7セグ表示データ生成処理について説明する。なお、図161は、7セグ表示データ生成処理の手順を示すフローチャートである。図162は、7セグ表示データ生成処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。また、図163は、7セグ表示データ生成処理のソースプログラム上で、実際に参照される7セグカソードテーブルの構成の一例を示す図である。

10

【1146】

なお、7セグLED駆動処理（図159参照）中のS925で行われる7セグ表示データ生成処理で生成される後述の「表示データ」は押し順表示データに対応し、7セグLED駆動処理（図159参照）中のS928で行われる7セグ表示データ生成処理で生成される後述の「表示データ」はクレジット表示データに対応する。

【1147】

まず、メインCPU101は、カソードデータ格納領域にセットされた表示データを「10」で除算し、その除算結果の商の値を、2桁の7セグLEDの上位桁の表示データとして取得し、除算結果の余の値を下位桁の表示データとして取得する（S941）。次いで、メインCPU101は、取得した上位桁の表示データに基づいて、上位桁表示を行うか否かを判別する（S942）。

20

【1148】

S942において、メインCPU101が、上位桁表示を行うと判別したとき（S942がYES判定の場合）、メインCPU101は、後述のS944の処理を行う。一方、S942において、メインCPU101が、上位桁表示を行わないと判別したとき（S942がNO判定の場合）、メインCPU101は、上位桁の表示無しをセットする（S943）。

【1149】

S943の処理後又はS942がYES判定の場合、メインCPU101は、7セグカソードテーブル（図163参照）を参照して、上位桁の表示データを取得する（S944）。次いで、メインCPU101は、上位桁の表示データ格納領域（不図示）に取得した上位桁の表示データを保存する（S945）。

30

【1150】

次いで、メインCPU101は、7セグカソードテーブル（図163参照）を参照して、下位桁の表示データを取得する（S946）。次いで、メインCPU101は、下位桁の表示データ格納領域（不図示）に取得した下位桁の表示データを保存する（S947）。

【1151】

そして、S947の処理後、メインCPU101は、7セグ表示データ生成処理を終了する。この際、実行した7セグ表示データ生成処理が7セグLED駆動処理（図158参照）中のS925の処理である場合には、メインCPU101は、処理を7セグLED駆動処理中のS926の処理に移す。一方、実行した7セグ表示データ生成処理が7セグLED駆動処理（図158参照）中のS928の処理である場合には、メインCPU101は、処理を7セグLED駆動処理中のS929の処理に移す。

40

【1152】

本実施形態では、上述のようにして7セグ表示データ生成処理が行われる。なお、上述した7セグ表示データ生成処理は、メインCPU101が、図162のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【1153】

[タイマー更新処理]

次に、図164及び図165を参照して、割込処理（図158参照）中のS908で行

50

うタイマー更新処理について説明する。なお、図164は、タイマー更新処理の手順を示すフローチャートである。また、図165は、タイマー更新処理中の後述のS951～S954の処理を実行するためのソースプログラムの一例を示す図である。

【1154】

まず、メインCPU101は、HLレジスタに2バイトタイマー格納領域（不図示）の更新開始アドレスをセットし、Bレジスタに2バイトタイマー数をセットする（S951）。

【1155】

次いで、メインCPU101は、2バイトタイマー数とその下限値「0」とを比較し、2バイトタイマー数が下限値「0」より大きい場合には、2バイトタイマー数を1減算（-1更新）し、2バイトタイマー数が下限値「0」以下である場合には、2バイトタイマー数を「0」に保持する（S952）。さらに、S952の処理では、メインCPU101は、HLレジスタにセットされている2バイトタイマー格納領域の更新開始アドレスを2減算（-2更新）する。

10

【1156】

次いで、メインCPU101は、Bレジスタにセットされた2バイトタイマー数を1減算（-1更新）する（S953）。次いで、メインCPU101は、Bレジスタにセットされた2バイトタイマー数が「0」であるか否かを判別する（S954）。

【1157】

S954において、メインCPU101が、Bレジスタにセットされた2バイトタイマー数が「0」でないと判別したとき（S954がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS952の処理に戻し、S952以降の処理を繰り返す。

20

【1158】

一方、S954において、メインCPU101が、Bレジスタにセットされた2バイトタイマー数が「0」であると判別したとき（S954がYES判定の場合）、メインCPU101は、HLレジスタに1バイトタイマー格納領域の更新開始アドレスをセットし、Bレジスタに1バイトタイマー数をセットする（S955）。

【1159】

次いで、メインCPU101は、1バイトタイマー数とその下限値「0」とを比較し、1バイトタイマー数が下限値「0」より大きい場合には、1バイトタイマー数を1減算（-1更新）し、1バイトタイマー数が下限値「0」以下である場合には、1バイトタイマー数を「0」に保持する（S956）。さらに、S956の処理では、メインCPU101は、HLレジスタにセットされている1バイトタイマー格納領域の更新開始アドレスを1減算（-1更新）する。

30

【1160】

次いで、メインCPU101は、Bレジスタにセットされた1バイトタイマー数を1減算（-1更新）する（S957）。次いで、メインCPU101は、Bレジスタにセットされた1バイトタイマー数が「0」であるか否かを判別する（S958）。

【1161】

S958において、メインCPU101が、Bレジスタにセットされた1バイトタイマー数が「0」でないと判別したとき（S958がNO判定の場合）、メインCPU101は、処理をS956の処理に戻し、S956以降の処理を繰り返す。

40

【1162】

一方、S958において、メインCPU101が、Bレジスタにセットされた1バイトタイマー数が「0」であると判別したとき（S958がYES判定の場合）、メインCPU101は、電磁カウンタ制御処理を行う（S959）。この処理では、メダルのIN/OUTを示す信号を外部集中端子板47に出力する際の出力制御処理が行われる。そして、S959の処理後、メインCPU101は、タイマー更新処理を終了し、処理を割込処理（図158参照）中のS909の処理に移す。

【1163】

50

本実施形態では、上述のようにしてタイマー更新処理が行われる。なお、上述したタイマー更新処理中のS951～S954の処理（2バイトタイマーの更新処理）は、メインCPU101が、図165のソースプログラムで規定されている各ソースコードを順次実行することにより行われる。

【1164】

その中で、S952の処理（2バイトタイマーの更新処理）は、図165中の「DCPWLD」命令（所定の更新命令）により実行される。なお、「DCPWLD」命令は、メインCPU101専用命令コードである。

【1165】

ソースプログラム上において、例えば、ソースコード「DCPWLD（HL），n」が実行されると、HLレジスタで指定されたアドレスから2バイト分のメモリの内容（格納データ）と整数nとが比較され、2バイト分のメモリの内容が整数nより大きい場合には、2バイト分のメモリの内容が1減算され、2バイト分のメモリの内容が整数n以下である場合には、HLレジスタで指定されたアドレスから2バイト分のメモリに整数nが格納される。

10

【1166】

それゆえ、図165中のソースコード「DCPWLD（HL），0」では、HLレジスタで指定されたアドレスから2バイト分のメモリの内容（2バイトタイマー数）と整数「0」（下限値）とが比較され、2バイト分のメモリの内容が整数「0」より大きい場合には、2バイト分のメモリの内容が1減算され、2バイト分のメモリの内容が整数「0」以下である場合には、2バイト分のメモリの内容に「0」がセットされる。すなわち、現時点の2バイトタイマー数が「0」より大きい場合には、2バイトタイマーの更新処理が行われ、現時点の2バイトタイマー数が「0」以下であれば、2バイトタイマー数が「0」に保持される。

20

【1167】

上述のように、本実施形態のタイマー更新処理では、メインCPU101専用命令コードである「DCPWLD」命令により、タイマー数の更新（減算）処理及びタイマー数を「0」に保持する処理の両方を実行することができる。この場合、両処理を別個に実行するための命令コードを設ける必要がなくなる。また、タイマー数が「0」であるか否かを判別するための判断分岐命令コードも省略することができる。それゆえ、本実施形態では、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができ、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。なお、本実施形態では、2バイトタイマーの更新処理においてのみ「DCPWLD」命令を使用する例を説明したが、本発明はこれに限定されず、1バイトタイマーの更新処理においても「DCPWLD」命令を使用してもよい。

30

【1168】

[試射試験信号制御処理（規定外）]

次に、図166を参照して、割込処理（図158参照）中のS911で行う試射試験信号制御処理について説明する。なお、図166は、試射試験信号制御処理の手順を示すフローチャートである。

40

【1169】

まず、メインCPU101は、メインRAM103のスタックエリアのアドレスを退避させる（S961）。次いで、メインCPU101は、スタックポインタ（SP）に規定外スタックエリアのアドレスをセットする（S962）。次いで、メインCPU101は、全レジスタのデータを退避させる（S963）。

【1170】

次いで、メインCPU101は、回胴制動信号生成処理を行う（S964）。この処理では、メインCPU101は、第2インターフェースポート等を介して試験機に出力される、各リールの回転制御信号（駆動信号）の生成及び出力処理を行う。なお、回胴制動信

50

号生成処理の詳細については、後述の図 1 6 7 を参照しながら後で説明する。

【 1 1 7 1 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、特賞信号制御処理を行う (S 9 6 5)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、試験機に出力される、ボーナス (特賞) の ON / OFF 信号 (試験信号) の出力処理を行う。なお、特賞信号制御処理の詳細については、後述の図 1 6 8 を参照しながら後で説明する。

【 1 1 7 2 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、条件装置信号制御処理を行う (S 9 6 6)。この処理では、メイン CPU 1 0 1 は、条件装置信号制御フラグの状態に対応する制御信号の出力処理を行う。なお、条件装置信号制御処理の詳細については、後述の図 1 6 9 及び図 1 7 0 を参照しながら後で説明する。

【 1 1 7 3 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、 S 9 6 3 の処理で退避させた全レジスタのデータの復帰処理を行う (S 9 6 7)。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、 S 9 6 1 の処理で退避させたスタックエリアのアドレスをスタックポインタ (S P) にセットする (S 9 6 8)。そして、 S 9 6 8 の処理後、メイン CPU 1 0 1 は、試射試験信号制御処理を終了し、処理を割込処理 (図 1 5 8 参照) 中の S 9 1 2 の処理に移す。

【 1 1 7 4 】

[回胴制動信号生成処理]

次に、図 1 6 7 を参照して、試射試験信号制御処理 (図 1 6 6 参照) 中の S 9 6 4 で行う回胴制動信号生成処理について説明する。なお、図 1 6 7 は、回胴制動信号生成処理の手順を示すフローチャートである。

【 1 1 7 5 】

まず、メイン CPU 1 0 1 は、規定外作業領域に回胴制御データ格納領域 (不図示) をセットする (S 9 7 1)。次いで、メイン CPU 1 0 1 は、リール数に「 3 」をセットし、回胴制御信号及びその生成状態 (1 バイトデータ) をクリアする (S 9 7 2)。

【 1 1 7 6 】

次いで、メイン CPU 1 0 1 は、回胴制御データが「停止中未満」のデータであるか否かを判別する (S 9 7 3)。なお、ここでいう「停止中未満」の回胴制御データとは、リールを停止するための回胴制御データ以外の回胴制御データ、すなわち、リールを回転駆動するための回胴制御データ (加速準備、加速中、定速待ち、定速中及び停止開始位置待ちのいずれかの状態) のことである。

【 1 1 7 7 】

S 9 7 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、回胴制御データが「停止中未満」のデータであると判別したとき (S 9 7 3 が YES 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 9 7 5 の処理を行う。一方、 S 9 7 3 において、メイン CPU 1 0 1 が、回胴制御データが「停止中未満」のデータでないと判別したとき (S 9 7 3 が NO 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、回胴制御データが「静定ホールド制御終了」のデータであるか否かを判別する (S 9 7 4)。なお、ここでいう「静定ホールド制御終了」の回胴制御データとは、リールの全相全停止状態を示す回胴制御データのことである。

【 1 1 7 8 】

S 9 7 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、回胴制御データが「静定ホールド制御終了」のデータであると判別したとき (S 9 7 4 が YES 判定の場合)、メイン CPU 1 0 1 は、後述の S 9 7 6 の処理を行う。一方、 S 9 7 4 において、メイン CPU 1 0 1 が、回胴制御データが「静定ホールド制御終了」のデータでないと判別したとき (S 9 7 4 が NO 判定の場合)、又は、 S 9 7 3 が YES 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、回胴制御信号の生成状態 (1 バイトデータ) のビット 3 をオン状態 (「 1 」) にする (S 9 7 5)。

【 1 1 7 9 】

S 9 7 5 の処理後又は S 9 7 4 が NO 判定の場合、メイン CPU 1 0 1 は、生成状態の各ビットのデータを 1 ビット分、右 (ビット 7 からビット 0 に向かう方向) にシフトする

10

20

30

40

50

(S 9 7 6)。次いで、メインCPU101は、回胴制御データ格納領域のアドレスを次の制御対象のリールのアドレスに更新する(S 9 7 7)。

【 1 1 8 0 】

次いで、メインCPU101は、リール数を1減算する(S 9 7 8)。次いで、メインCPU101は、リール数が「0」であるか否かを判別する(S 9 7 9)。

【 1 1 8 1 】

S 9 7 9において、メインCPU101が、リール数が「0」でないと判別したとき(S 9 7 9がNO判定の場合)、メインCPU101は、処理をS 9 7 3の処理に戻し、S 9 7 3以降の処理を繰り返す。

【 1 1 8 2 】

一方、S 9 7 9において、メインCPU101が、リール数が「0」であると判別したとき(S 9 7 9がYES判定の場合)、メインCPU101は、生成状態のデータを回胴制動信号出力ポートを介して試験機用第1インターフェースボード301(図7参照)へ出力する(S 9 8 0)。そして、S 9 8 0の処理後、メインCPU101は、回胴制動信号生成処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理(図166参照)中のS 9 6 5の処理に移す。

【 1 1 8 3 】

[特賞信号制御処理]

次に、図168を参照して、試射試験信号制御処理(図166参照)中のS 9 6 5で行う特賞信号制御処理について説明する。なお、図168は、特賞信号制御処理の手順を示すフローチャートである。

【 1 1 8 4 】

まず、メインCPU101は、遊技状態フラグ格納領域(図32参照)を参照して、遊技状態フラグを取得する(S 9 9 1)。次いで、メインCPU101は、遊技状態がRB遊技状態であるか否かを判別する(S 9 9 2)。

【 1 1 8 5 】

S 9 9 2において、メインCPU101が、遊技状態がRB遊技状態であると判別したとき(S 9 9 2がYES判定の場合)、メインCPU101は、試験信号用のRB中信号ポートからON信号を試験機用第1インターフェースボード301(図7参照)へ出力する(S 9 9 3)。一方、S 9 9 2において、メインCPU101が、遊技状態がRB遊技状態でないと判別したとき(S 9 9 2がNO判定の場合)、メインCPU101は、試験信号用のRB中信号ポートからOFF信号を試験機用第1インターフェースボード301(図7参照)へ出力する(S 9 9 4)。

【 1 1 8 6 】

S 9 9 3又はS 9 9 4の処理後、メインCPU101は、遊技状態フラグ格納領域(図32参照)を参照して、遊技状態がBB遊技状態であるか否かを判別する(S 9 9 5)。

【 1 1 8 7 】

S 9 9 5において、メインCPU101が、遊技状態がBB遊技状態であると判別したとき(S 9 9 5がYES判定の場合)、メインCPU101は、試験信号用のBB中信号ポートからON信号を試験機用第1インターフェースボード301(図7参照)へ出力する(S 9 9 6)。一方、S 9 9 5において、メインCPU101が、遊技状態がBB遊技状態でないと判別したとき(S 9 9 5がNO判定の場合)、メインCPU101は、試験信号用のBB中信号ポートからOFF信号を試験機用第1インターフェースボード301(図7参照)へ出力する(S 9 9 7)。

【 1 1 8 8 】

そして、S 9 9 6又はS 9 9 7の処理後、メインCPU101は、特賞信号制御処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理(図166参照)中のS 9 6 6の処理に移す。

【 1 1 8 9 】

[条件装置信号制御処理]

次に、図169及び図170を参照して、試射試験信号制御処理(図166参照)中の

10

20

30

40

50

S 9 6 6で行う条件装置信号制御処理について説明する。なお、図 1 6 9 及び図 1 7 0 は、条件装置信号制御処理の手順を示すフローチャートである。

【 1 1 9 0 】

まず、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御フラグが初期状態であるか否かを判別する (S 1 0 0 1)。S 1 0 0 1 において、メインCPU 1 0 1 が、条件装置信号制御フラグが初期状態であると判別したとき (S 1 0 0 1 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理 (図 1 6 6 参照) 中の S 9 6 7 の処理に移す。

【 1 1 9 1 】

一方、S 1 0 0 1 において、メインCPU 1 0 1 が、条件装置信号制御フラグが初期状態でないとは判別したとき (S 1 0 0 1 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御フラグが再遊技状態識別信号のオン状態を示すものであるか否かを判別する (S 1 0 0 2)。

10

【 1 1 9 2 】

S 1 0 0 2 において、メインCPU 1 0 1 が、条件装置信号制御フラグが再遊技状態識別信号のオン状態を示すものであるとは判別したとき (S 1 0 0 2 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御状態に役物条件装置信号のオン状態をセットする (S 1 0 0 3)。次いで、メインCPU 1 0 1 は、条件装置 1 ~ 6 信号ポートから R T 状態の情報を試験機用第 1 インターフェイスボード 3 0 1 (図 7 参照) へ出力する (S 1 0 0 4)。そして、S 1 0 0 4 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理 (図 1 6 6 参照) 中の S 9 6 7 の処理に移す。

20

【 1 1 9 3 】

一方、S 1 0 0 2 において、メインCPU 1 0 1 が、条件装置信号制御フラグが再遊技状態識別信号のオン状態を示すものでないと判別したとき (S 1 0 0 2 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御フラグが再遊技状態識別信号のオフ状態を示すものであるか否かを判別する (S 1 0 0 5)。

【 1 1 9 4 】

S 1 0 0 5 において、メインCPU 1 0 1 が、条件装置信号制御フラグが再遊技状態識別信号のオフ状態を示すものであるとは判別したとき (S 1 0 0 5 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、条件装置 1 ~ 8 信号ポートから O F F 信号を試験機用第 1 インターフェイスボード 3 0 1 (図 7 参照) へ出力する (S 1 0 0 6)。そして、S 1 0 0 6 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理 (図 1 6 6 参照) 中の S 9 6 7 の処理に移す。

30

【 1 1 9 5 】

一方、S 1 0 0 5 において、メインCPU 1 0 1 が、条件装置信号制御フラグが再遊技状態識別信号のオフ状態を示すものでないと判別したとき (S 1 0 0 5 が N O 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御状態が役物条件装置信号のオン状態であるか否かを判別する (S 1 0 0 7)。

【 1 1 9 6 】

S 1 0 0 7 において、メインCPU 1 0 1 が、条件装置信号制御状態が役物条件装置信号のオン状態であると判別したとき (S 1 0 0 7 が Y E S 判定の場合)、メインCPU 1 0 1 は、条件装置 1 ~ 8 信号ポートから特賞当籤番号の情報を試験機用第 1 インターフェイスボード 3 0 1 (図 7 参照) へ出力し、この際、条件装置 8 信号ポートから O N 信号を試験機用第 1 インターフェイスボード 3 0 1 (図 7 参照) へ出力する (S 1 0 0 8)。次いで、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号出力待ちタイマーに所定の待ち時間 (本実施形態では、2 4 . 5 8 m s) をセットする (S 1 0 0 9)。次いで、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御状態に条件装置信号出力待ちの状態をセットする (S 1 0 1 0)。そして、S 1 0 1 0 の処理後、メインCPU 1 0 1 は、条件装置信号制御処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理 (図 1 6 6 参照) 中の S 9 6 7 の処理に移す。

40

【 1 1 9 7 】

50

一方、S1007において、メインCPU101が、条件装置信号制御状態が役物条件装置信号のオン状態でないと判別したとき（S1007がNO判定の場合）、メインCPU101は、条件装置信号制御状態が条件装置信号出力待ちの状態であるか否かを判別する（S1011）。

【1198】

S1011において、メインCPU101が、条件装置信号制御状態が条件装置信号出力待ちの状態であると判別したとき（S1011がYES判定の場合）、メインCPU101は、条件装置信号出力待ちタイマーの値が「0」であるか否かを判別する（S1012）。

【1199】

S1012において、メインCPU101が、条件装置信号出力待ちタイマーの値が「0」でないと判別したとき（S1012がNO判定の場合）、メインCPU101は、条件装置信号制御処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理（図166参照）中のS967の処理に移す。一方、S1012において、メインCPU101が、条件装置信号出力待ちタイマーの値が「0」であると判別したとき（S1012がYES判定の場合）、メインCPU101は、条件装置信号制御状態に小役条件装置信号のオン状態又は条件装置信号のオフ状態をセットする（S1013）。そして、S1013の処理後、メインCPU101は、条件装置信号制御処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理（図166参照）中のS967の処理に移す。

【1200】

ここで再度、S1011の処理に戻って、S1011において、メインCPU101が、条件装置信号制御状態が条件装置信号出力待ちの状態でないと判別したとき（S1011がNO判定の場合）、メインCPU101は、条件装置信号制御状態が小役条件装置信号のオン状態であるか否かを判別する（S1014）。

【1201】

S1014において、メインCPU101が、条件装置信号制御状態が小役条件装置信号のオン状態であると判別したとき（S1014がYES判定の場合）、メインCPU101は、条件装置1～8信号ポートから小役当籤番号の情報を試験機用第1インターフェースボード301（図7参照）へ出力し、この際、条件装置7信号ポートからON信号を試験機用第1インターフェースボード301（図7参照）へ出力する（S1015）。次いで、条件装置信号出力待ちタイマーに所定の待ち時間（本実施形態では、24.58ms）をセットする（S1016）。次いで、メインCPU101は、条件装置信号制御状態に条件装置信号出力待ちの状態をセットする（S1017）。そして、S1017の処理後、メインCPU101は、条件装置信号制御処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理（図166参照）中のS967の処理に移す。

【1202】

一方、S1014において、メインCPU101が、条件装置信号制御状態が小役条件装置信号のオン状態でないと判別したとき（S1014がNO判定の場合）、メインCPU101は、条件装置1～8信号ポートからOFF信号を試験機用第1インターフェースボード301（図7参照）へ出力する（S1018）。そして、S1018の処理後、メインCPU101は、条件装置信号制御処理を終了し、処理を試射試験信号制御処理（図166参照）中のS967の処理に移す。

【1203】

<副制御回路の動作説明>

次に、図171～図173を参照して、副制御回路200のサブCPU201が、プログラムを用いて実行する各種処理の内容について説明する。

【1204】

[サブ側ナビ制御処理]

最初に、図171を参照して、サブ側ナビ制御処理について説明する。なお、図171は、サブ側ナビ制御処理の手順を示すフローチャートである。

10

20

30

40

50

【 1 2 0 5 】

まず、サブCPU 201は、ナビデータを取得したか否かを判定する（S 1 1 0 1）。サブCPU 201は、主制御基板 71 から受信したスタートコマンドデータの中から主制御基板 71 で決定されたナビデータを取得する。それゆえ、S 1 1 0 1 の処理では、サブCPU 201は、受信したスタートコマンドデータの中にナビデータが含まれていたか否かを判定する。

【 1 2 0 6 】

S 1 1 0 1 において、サブCPU 201が、ナビデータを取得したと判別したとき（S 1 1 0 1 がYES判定の場合）、サブCPU 201は、ナビデータに応じたサブ側ナビデータをセットする（S 1 1 0 2）。例えば、サブCPU 201がナビデータ「4」を取得した場合、図 6 3 に示すように、サブ側ナビデータとして押し順「左、中、右」を報知するためのナビデータが、この処理でセットされる。この結果、メイン側及びサブ側の双方において停止操作の内容を報知することができる。そして、S 1 1 0 2 の処理後、サブCPU 201は、サブ側ナビ制御処理を終了する。

10

【 1 2 0 7 】

一方、S 1 1 0 1 において、サブCPU 201が、ナビデータを取得していないと判別したとき（S 1 1 0 1 がNO判定の場合）、サブCPU 201は、ナビ（停止操作の報知）の必要があるか否かを判定する（S 1 1 0 3）。本実施形態では、サブCPU 201は、例えば、主制御基板 71 においてフラグ変換抽籤が行われた場合や、主制御基板 71 において所定の役が内部当籤役として決定された場合に、ナビの必要があると判定する。なお、フラグ変換抽籤の結果や、内部当籤役の種別は、スタートコマンドデータに含まれている。それゆえ、S 1 1 0 3 の処理では、サブCPU 201は、スタートコマンドデータに含まれるこれらの各種情報に基づいて、ナビの必要があるか否かを判定する。

20

【 1 2 0 8 】

S 1 1 0 3 において、サブCPU 201が、ナビの必要がないと判別したとき（S 1 1 0 3 がNO判定の場合）、サブCPU 201は、サブ側ナビ制御処理を終了する。

【 1 2 0 9 】

一方、S 1 1 0 3 において、サブCPU 201が、ナビの必要があると判別したとき（S 1 1 0 3 がYES判定の場合）、サブCPU 201は、各種抽籤結果に応じたサブ側ナビデータをセットする（S 1 1 0 4）。例えば、内部当籤役「F__確チリリブ」が決定され、かつ、フラグ変換抽籤に当籤している場合、サブCPU 201は、この処理において、略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せを表示するためのナビデータ（例えば、順押しでチリ図柄を狙わせるナビデータ）をセットする。また、例えば、内部当籤役「F__確チリリブ」が決定され、かつ、フラグ変換抽籤に非当籤であった場合、サブCPU 201は、この処理において、略称「リプレイ」に係る図柄組合せを表示するためのナビデータ（例えば、順押し以外の押し順を示すナビデータ）をセットする。これらの処理により、メイン側で停止操作の内容を報知しない場合であっても、サブ側単独で停止操作の内容を報知することができる。そして、S 1 1 0 4 の処理後、サブCPU 201は、サブ側ナビ制御処理を終了する。

30

【 1 2 1 0 】

[遊技者登録処理]

次に、図 1 7 2 を参照して、遊技者登録処理について説明する。なお、図 1 7 2 は、遊技者登録処理の手順を示すフローチャートである。

40

【 1 2 1 1 】

まず、サブCPU 201は、登録操作を受け付けたか否かを判別する（S 1 1 1 1）。例えば、サブ表示装置 1 8 のメニュー画面 2 2 2（図 5 B 参照）において登録ボタン 2 2 2 b の操作を受け付け、その場合に表示される登録画面（不図示）において所定の操作を受け付けると、サブCPU 201は、登録操作を受け付けたと判定する。

【 1 2 1 2 】

S 1 1 1 1 において、サブCPU 201が、登録操作を受け付けたと判別したとき（S

50

1111がYES判定の場合)、サブCPU201は、遊技者登録状態をセットする(S1112)。なお、遊技者登録状態がセットされている状況では、サブCPU201は、サブ表示装置18に遊技情報画面223, 224, 225(図5C~5E参照)が表示可能となるようにサブ表示装置18の表示画面を制御する。そして、S1112の処理後、サブCPU201は、遊技者登録処理を終了する。

【1213】

一方、S1111において、サブCPU201が、登録操作を受け付けていないと判断したとき(S1111がNO判定の場合)、サブCPU201は、登録削除操作を受け付けたか否かを判断する(S1113)。例えば、サブ表示装置18の登録画面において特定の操作を受け付けると、サブCPU201は、登録削除操作を受け付けたと判定する。

10

【1214】

S1113において、サブCPU201が、登録削除操作を受け付けていないと判断したとき(S1113がNO判定の場合)、サブCPU201は、遊技者登録処理を終了する。

【1215】

一方、S1113において、サブCPU201が、登録削除操作を受け付けたと判断したとき(S1113がYES判定の場合)、サブCPU201は、遊技者登録状態をクリアする(S1114)。なお、遊技者登録状態がクリアされている状況では、サブCPU201は、サブ表示装置18に遊技情報画面223, 224, 225(図5C~5E参照)が表示不可能となるようにサブ表示装置18の表示画面を制御する。そして、S1114の処理後、サブCPU201は、遊技者登録処理を終了する。

20

【1216】

[履歴管理処理]

次に、図173を参照して、履歴管理処理について説明する。なお、図173は、履歴管理処理の手順を示すフローチャートである。

【1217】

まず、サブCPU201は、主制御基板71から受信した各種コマンドデータから遊技結果を取得する(S1121)。例えば、サブCPU201は、この処理において、スタートコマンドデータから内部当籤役として決定された役の種類を把握することができる。また、例えば、サブCPU201は、この処理において、入賞作動コマンドデータから表示された図柄組合せ(すなわち、内部当籤役として決定された役の入賞の有無)を把握することができる。さらに、例えば、サブCPU201は、この処理において、スタートコマンドデータなどから現在の遊技状態や遊技状態の移行状況を把握することができる。

30

【1218】

次いで、サブCPU201は、取得した遊技結果に基づいて、遊技履歴の更新処理を行う(S1122)。この処理により、サブCPU201は、各種コマンドデータから取得した遊技結果に基づいて、例えば、ボーナス回数、ART回数、ゲーム数(遊技回数)、CZ回数、CZ成功回数、それぞれの役の当籤回数及び当籤確率などの様々な遊技履歴を管理することができる。そして、S1122の処理後、サブCPU201は、履歴管理処理を終了する。

40

【1219】

<各種効果>

本実施形態のパチスロ1では、その遊技性において、次のような各種効果が得られる。

【1220】

[CT中の継続期間の管理]

本実施形態のパチスロ1では、通常ARTの継続期間を延長可能な上乗せチャンスゾーンとしてCTを設け、このCT中の内部当籤役(サブフラグ)に基づいてARTゲーム数の上乗せを行う。なお、CTでは、1セット8回の遊技が行われるが、CT中にARTゲーム数の上乗せを行うことができた場合には遊技回数の減算を行わずに、上乗せできない場合に限り遊技回数を減算する。それゆえ、遊技者にとってみれば、CTがいつまで続く

50

か分からず、また、上乘せが行われている限りCTが終了することがないため、CT中の遊技の興趣を高めることができる。

【1221】

また、本実施形態において、CT中にサブフラグEX「3連チリリブ」に当籤（サブフラグ変換抽籤に当籤）して上乘せが行われた場合には、1セット8回のCT遊技も再セット（ストック）される。この場合、例えば、CTの遊技期間が終了直前になっても、サブフラグEX「3連チリリブ」当籤時には、上乘せが行われ、CTが初めから再開されることになるので、CT中の遊技に対して強い関心を抱くことになり、退屈することなく遊技を継続できるとともに、CT中の遊技の興趣を高めることができる。

【1222】

また、サブフラグEX「3連チリリブ」当籤時の上乘せは、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」が内部当籤役として決定され、かつ、フラグ変換抽籤に当籤した場合に限り行われる。それゆえ、遊技者に対して過大な利益を与えてしまうことを防止することができ、遊技者と遊技店との間の利益のバランスをとることができる。なお、上記実施形態では、CT中に、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」が決定された際にはフラグ変換抽籤に必ず当籤する例（図54参照）を説明したが、本発明はこれに限定されず、フラグ変換抽籤の当籤確率は、遊技者及び遊技店間の利益のバランスに応じて適宜設定することができる。

【1223】

[CT中の「3連チリリブ」当籤時の上乘せゲーム数]

上記実施形態のパチスロ1では、CT中にサブフラグ「3連チリリブ」に当籤し、該サブフラグ「3連チリリブ」に基づく上乘せが行われた回数が所定回数を超えると、1回の上乗せ抽籤あたりに当籤するARTの上乗せゲーム数が増加する（図55参照）。また、上述のように、ARTゲーム数の上乘せが行われている限り、CTは終了することなく、また、サブフラグEX「3連チリリブ」に当籤するとCTの再セットが行われる。それゆえ、遊技者からすると、CTが継続するほど1回（1ゲーム）当りの上乘せ量が増えることについての期待を持つことができ、CT中の興趣が向上する。さらに、1回（1ゲーム）当りの上乘せ量を増やす契機となる回数は、CTの1セット分の基本遊技回数（8回）よりも多い回数（9回以上）であるため、遊技者に対して過大な利益を与えてしまうことを防止でき、遊技者及び遊技店間の利益のバランスをとる（良好に保つ）ことができる。

【1224】

[メイン側で行うボーナス報知]

上記実施形態のパチスロ1では、情報表示器6の指示モニタ（不図示）に、ボーナス役（BB役）に係る図柄組合せを表示させるための停止操作の情報に一義的に対応付けた数値「10」（又は「11」）を表示することにより、メイン側でボーナス報知を行う（図63参照）。しかしながら、通常、パチスロでは、有効ライン上に引き込む（停止表示する）図柄の優先順位が定められており、ボーナス役とその他の役とが重複して内部当籤役として決定されている場合、優先順位により、ボーナス役に係る図柄組合せを引き込むこともあれば、引き込めないこともある。

【1225】

例えば、本実施形態のパチスロ1において、ボーナス役と、内部当籤役「はずれ」、「F__特殊役1」、「F__特殊役2」及び「F__特殊役3」のいずれかが重複して決定されている場合には、ボーナス役に係る図柄組合せを引き込むことができるが、ボーナス役と、内部当籤役「はずれ」、「F__特殊役1」、「F__特殊役2」及び「F__特殊役3」以外の役とが重複して決定されている場合には、ボーナス役に係る図柄組合せを引き込むことができない。それゆえ、本実施形態において、ボーナス役と、内部当籤役「はずれ」、「F__特殊役1」、「F__特殊役2」及び「F__特殊役3」のいずれかが重複して決定されている場合に限り、指示モニタに数値「10」（又は「11」）を表示する。この場合、メイン側のナビ（ボーナス報知）を、ボーナス役を入賞させることのできる適切なタイミングで行うことができる。

10

20

30

40

50

【 1 2 2 6 】

また、本実施形態のパチスロ 1 において、ボーナス役と、内部当籤役「はずれ」、「F__特殊役 1」、「F__特殊役 2」及び「F__特殊役 3」のいずれかが重複して決定されたとしても、ボーナス役が最初に当籤してから所定回数の遊技が経過するまでは、指示モニタに数値「10」（又は「11」）を表示せず（ナビをせず）、所定回数の遊技が経過したことを条件に、指示モニタに数値「10」（又は「11」）を表示する。

【 1 2 2 7 】

なお、例えば、ボーナス役に当籤したことを契機として複数回の遊技にわたり行われる演出（いわゆる連続演出）が行われた場合、この連続演出の最中に、指示モニタに数値「10」（又は「11」）を表示すると、連続演出の意味が薄れてしまい、興趣を損ねてしまう可能性がある。それゆえ、本実施形態のパチスロ 1 では、所定回数の遊技が経過するまでは、指示モニタによる表示を行わず、所定回数の遊技が経過した後に、指示モニタによる表示を行う。その結果、演出効果を損ねることなく、メイン側でのボーナス報知を行うことができる。

10

【 1 2 2 8 】

[メイン側及びサブ側の両方で行う報知とサブ側単独で行う報知]

本実施形態のパチスロ 1 では、停止操作の態様（押し順）に応じて表示される図柄組合せが異なる役を複数種類設けるとともに（図 2 4 参照）、これら複数種類の役には、表示される図柄組合せによって異なる特典が付与される役と、表示される図柄組合せが異なったとしても同一の特典が付与される役とが含まれる。

20

【 1 2 2 9 】

例えば、略称「ベル」に係る図柄組合せが表示された場合と略称「ベルこぼし目」に係る図柄組合せが表示された場合とでは払い出されるメダルの枚数が異なり、これらの役は、表示される図柄組合せによって異なる特典が付与される役である。また、略称「リプレイ」に係る図柄組合せが表示された場合と略称「RT 2 移行リブ」に係る図柄組合せが表示された場合とでは再遊技の作動に加えて RT 状態の移行が行われるか否かが異なるため、内部当籤役「F__3 択ベル__1 s t」や「F__維持リブ__1 s t」もまた、表示される図柄組合せによって異なる特典が付与される役である。

【 1 2 3 0 】

一方、略称「3 連チリリブ」に係る図柄組合せが表示された場合と略称「リプレイ」に係る図柄組合せが表示された場合とでは、両者ともに再遊技の作動が行われるだけである。それゆえ、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1 確チリリブ」は、表示される図柄組合せが異なったとしても同一の特典が付与される役である。なお、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1 確チリリブ」は、上述のように、フラグ変換抽籤の結果に応じて付与する特典が異なる役であるが、表示される図柄組合せが付与する特典に影響を与える役ではない。

30

【 1 2 3 1 】

本実施形態のパチスロ 1 では、表示される図柄組合せによって異なる特典が付与される役に対して、メイン側及びサブ側の両方で報知を行うが、表示される図柄組合せが異なったとしても同一の特典が付与される役に対しては、メイン側の指示モニタでは報知を行わずに、サブ側の表示装置 1 1 のみで報知を行う。このような報知機能を設けることにより、特典に影響する報知は、特典を管理するメイン側の指示モニタで適切に行いつつ、特典に影響しない報知は、サブ側の表示装置 1 1 で多様性のあるナビで行うことができる。

40

【 1 2 3 2 】

[遊技履歴の表示機能]

本実施形態のパチスロ 1 では、表示装置 1 1（プロジェクタ機構 2 1 1 及び表示ユニット 2 1 2）とは別にサブ表示装置 1 8 を設け、このサブ表示装置 1 8 により遊技者に役立つ様々な情報を表示する。例えば、図 5 A ~ 5 E に示すように、概要遊技履歴を表すトップ画面 2 2 1、パチスロ 1 に対する様々な操作が可能なメニュー画面 2 2 2、詳細遊技履歴を表す遊技情報画面 2 2 3、2 2 4、2 2 5 をサブ表示装置 1 8 に表示することができ

50

る。

【 1 2 3 3 】

また、本実施形態のパチスロ 1 は、サブ表示装置 1 8 を介して、遊技を行う遊技者を登録可能にする機能、及び、登録された遊技者に対して固有のサービスを提供する機能を備える。例えば、本実施形態では、遊技者の登録を受け付けていない場合には、詳細遊技履歴を表す遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 をサブ表示装置 1 8 に表示不可能にするが、遊技者の登録を受け付けている場合には、詳細遊技履歴を表す遊技情報画面 2 2 3 , 2 2 4 , 2 2 5 をサブ表示装置 1 8 に表示可能にする。より詳細な遊技履歴を確認できるようにすることは、遊技者の利便性の向上につながるもので、本実施形態では、遊技者の登録を受け付けている場合に、利便性を向上させることができる。

10

【 1 2 3 4 】

また、本実施形態のパチスロ 1 では、サブ表示装置 1 8 は、演出を行う表示装置 1 1 とは別体に設けられる。サブ表示装置 1 8 は、液晶中継基板 8 7 を介して副制御基板 7 2 (サブ C P U 2 0 1) により制御される。また、表示装置 1 1 を構成する表示ユニット 2 1 2 は、役物中継基板 (不図示) を介して副制御基板 7 2 (サブ C P U 2 0 1) により制御される。それゆえ、本実施形態では、サブ表示装置 1 8 を、表示装置 1 1 とは別個に制御することができる。具体的には、遊技中 (すなわち、表示装置 1 1 による演出の実行中) であっても、サブ表示装置 1 8 の表示画面を切り替えることができる。それゆえ、遊技中であっても、表示装置 1 1 により実行されている演出を邪魔することなく、サブ表示装置 1 8 の表示を切り替えることにより、遊技者は様々な情報を取得することができる。

20

【 1 2 3 5 】

また、本実施形態のパチスロ 1 の表示装置 1 1 では、プロジェクタ機構 2 1 1 からの照射光の照射により映像を出現させる複数のスクリーン機構 (表示ユニット 2 1 2) を切り替えることにより、平面状の映像表示を用いた演出、奥行き感 (立体感) のある映像表示を用いた演出、及び、湾曲した映像表示を用いた演出を実行する場合、演出効果を著しく高めることができる。しかしながら、このような情報の表示形態は、演出中に遊技履歴などの演出とは関係ない情報を表示することには適さない。それゆえ、本実施形態のパチスロ 1 では、表示装置 1 1 とは別個に設けられたサブ表示装置 1 8 に演出とは関係ない情報を表示することができるので、演出効果を損なうことなく、かつ、遊技履歴などの各種情報を適切に表示することができる。

30

【 1 2 3 6 】

ところで、一般的なパチスロでは、遊技者側から見て、台座部 1 3 の右側にメダル投入口 1 4 が設けられ、台座部 1 3 の左側にベットボタン 1 5 a , 1 5 b やスタートレバー 1 6 が設けられる。それゆえ、通常、遊技を進行させる際、遊技者は台座部 1 3 の右側又は左側 (側方) の操作部を操作することになる。

【 1 2 3 7 】

それに対して、本実施形態のパチスロ 1 では、台座部 1 3 から略垂直に立設する面の側方 (左側) にサブ表示装置 1 8 を設け、このサブ表示装置 1 8 の画面上にサブ表示装置 1 8 の表示画面を切り替えるためのタッチセンサ 1 9 が設けられる。それゆえ、本実施形態では、遊技中に遊技者の手が位置する場所にサブ表示装置 1 8 やその表示を制御する入力装置 (タッチセンサ 1 9) が設けられることになるので、遊技者の操作性を向上させることができる。特に、本実施形態のように、タッチセンサ 1 9 付きのサブ表示装置 1 8 を、台座部 1 3 の水平面から立設する面に設けた場合には、遊技者は、台座部 1 3 に自身の手を置きながら、サブ表示装置 1 8 を操作することができる。この場合、遊技者の操作性が向上するだけでなく、操作に伴う遊技者の疲労も軽減することができ、この結果、稼働率の向上も期待することができる。

40

【 1 2 3 8 】

[規定外 R O M 領域及び規定外 R A M 領域]

本実施形態のパチスロ 1 では、図 1 2 B に示すように、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理 (遊技性に影響を与えない各種処理) に使用される各種

50

プログラム及び各種データ（テーブル）を、メインROM102内において、遊技用ROM領域とは異なるアドレスに配置された規定外ROM領域に格納する。

【1239】

このようなメインROM102の構成では、従来の規則上では、プログラム等の配置不可とされていたROM領域（規定外ROM領域）に、遊技者が実際に行う遊技そのものに不要なプログラム及びデータを配置することができる。それゆえ、本実施形態では、主制御基板71のメインROM102内において、遊技用ROM領域の容量の圧迫を回避することができるとともに、メインROM102内におけるプログラム及びテーブルの拡張性を高めることができる。

【1240】

[電源投入（リセット割込）時処理により得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の電源投入（リセット割込）時処理では、図64に示すように、電源復帰直後（サムチェック前）に最初の1.1172ms周期の割込処理を行い（S7及びS8）、主制御回路90から副制御回路200に無操作コマンドが送信される。このように電源復帰直後に割込処理を許可することにより、電源復帰後、最短時間で無操作コマンドが送信され、主制御回路90及び副制御回路200間の通信接続を確立することができ、主制御回路90及び副制御回路200間の通信動作を安定化させることができる。

【1241】

また、電源復帰直後に送信される無操作コマンドを構成する通信パラメータ1～5には、電源復帰時に、それぞれLレジスタ、Hレジスタ、Eレジスタ、Dレジスタ及びCレジスタに格納されているデータがセットされる。それゆえ、本実施形態では、電源復帰直後の割込処理で送信される無操作コマンドのサム値（BCC）を、電源復帰毎に異ならせることができ、ゴト等の不正行為を抑制することができる。

【1242】

さらに、電源投入（リセット割込）時処理中のS13の処理において行われる、エラーコード「rr」を情報表示器6内の2桁の7セグLEDに表示する際の制御は、一つの「LDW」命令（所定の読み出し命令）により実行され、2桁の7セグLEDへの7セグコモン出力（選択）データの出力動作と7セグカソード出力データの出力動作とが同時に行われる（図65C参照）。すなわち、本実施形態のパチスロ1では、電源投入（リセット割込）時処理において、2桁の7セグLEDをダイナミック点灯制御する際に、7セグコモン出力（選択）データと、7セグカソード出力データとが同時に出力される。

【1243】

この場合、ソースプログラム上において、7セグLEDのダイナミック点灯制御に必要な命令コード数を減らすことができる。それゆえ、本実施形態では、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができ、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【1244】

[遊技復帰処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の遊技復帰処理では、図66に示すように、電断発生時の各ポートの入出力状態を電源復帰時に担保するとともに、電断時に回胴回転中の場合には、電源復帰時にリール制御管理情報を取得してリールの再回転開始に必要な処理も行う（S25～S32参照）。それゆえ、本実施形態では、リール回転中の電断から復帰したときであっても、安定して、リールの再回転制御を行うことが可能となり、遊技者に不快感を与えることが無くなる。

【1245】

また、本実施形態のパチスロ1は、上述のように、遊技機用のセキュリティ機能付きマイクロプロセッサ91を備える。そして、このマイクロプロセッサ91には、ソースプログラム上において規定可能な該マイクロプロセッサ91に特有の命令コード（メインCPU101専用命令コード）が各種設けられており、このメインCPU101専用命令コー

10

20

30

40

50

ドを各種処理において用いることにより、処理の効率化やプログラム容量の削減などを可能にしている。

【 1 2 4 6 】

例えば、遊技復帰処理では、図 6 7 に示すように、ソースプログラム上において、メイン CPU 1 0 1 専用命令コードの一つである「LDQ」命令が用いられる。「LDQ」命令は、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行う命令コードであり、上述のように、直値でメイン ROM 1 0 2、メイン RAM 1 0 3 やメモリーマップ I / O にアクセスすることができる。この場合、アドレス設定に係る命令コードを省略することができ、その分、遊技復帰処理のソースプログラムの容量（メイン ROM 1 0 2 の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メイン ROM 1 0 2 において、空

10

【 1 2 4 7 】

[設定変更確認処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ 1 の設定変更確認処理では、図 6 9 A に示すように、ソースプログラム上において、メイン CPU 1 0 1 専用命令コードである、「BITQ」命令及び「SETQ」命令（所定の命令）が用いられる。「BITQ」命令及び「SETQ」命令はいずれも、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行う命令コードであり、これらの命令コードを使用した場合、上述のように、直値でメイン RAM 1 0 3 やメモリーマップ I / O にアクセスすることができる。この場合、アドレス設定に係る命令コードを省略することができ、その分、ソースプログラムの容量（メイン ROM 1 0 2 の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メイン ROM 1 0 2 の空き容量を増やすことが可能となるとともに、処理の高速化も図ることができる。

20

【 1 2 4 8 】

また、設定変更確認処理中の S 4 6 の設定変更 / 設定確認開始時及び S 5 7 の設定変更 / 設定確認終了時で行う設定変更コマンド（初期化コマンド）の生成格納処理は、図 6 9 A 及び 6 9 B に示すように、ソースプログラム上において、メイン CPU 1 0 1 専用命令コードである「CALLF」命令により実行される。そして、S 4 6 の「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレスは、S 5 7 の「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレスと同じである。すなわち、本実施形態では、設定変更時（遊技機起動時）、設定確認開始時（通常動作中）及び設定確認終了時に副制御回路 2 0 0 に送信する設定変更コマンド（初期化コマンド）の生成格納処理を実行するためのソースプログラムが、互いに同じであり、S 4 6 及び S 5 7 の両処理において、そのソースプログラムが共有化（モジュール化）されている。

30

【 1 2 4 9 】

この場合、S 4 6 及び S 5 7 の両処理において、それぞれ別個に設定変更コマンドの生成格納処理のソースプログラムを設ける必要が無くなるので、その分、ソースプログラムの容量（メイン ROM 1 0 2 の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メイン ROM 1 0 2 において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

40

【 1 2 5 0 】

[設定変更コマンド生成格納処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ 1 の設定変更コマンド生成格納処理では、図 7 0 に示すように、設定値が通信パラメータ 3 として E レジスタに格納され、RT 情報が通信パラメータ 5 として C レジスタに格納される。すなわち、設定変更コマンド（初期化コマンド）を構成する通信パラメータ 1 ~ 5 のうち、通信パラメータ 3 及び 5 は副制御回路 2 0 0 側で使用（解析）される通信パラメータ（使用パラメータ）であり、これらの通信パラメータには新たな情報がセットされる。一方、設定変更コマンド（初期化コマンド）を構成するその他の通信パラメータ 1 , 2 及び 4 は、副制御回路 2 0 0 側で使用（解析）されない通信パラメータ（未使用パラメータ）であり、通信パラメータ 1 , 2 及び 4 に対しては、現時点で

50

Lレジスタ、Hレジスタ及びDレジスタにそれぞれ格納されている値がセットされる。それゆえ、設定変更コマンド（初期化コマンド）送信時における通信パラメータ1, 2及び4の値は不定値となる。この場合、設定変更コマンドのサム値（BCC）を送信毎に不定値にすることができ、ゴト等の不正行為を抑制することができる。

【1251】

[通信データ格納処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の通信データ格納処理では、図72に示すように、Aレジスタに格納されたデータが通信コマンドの種別データとしてセットされ、Lレジスタ、Hレジスタ、Eレジスタ、Dレジスタ及びCレジスタに格納されたデータがそれぞれ通信コマンドの通信パラメータ1～5としてセットされ、Bレジスタに格納されたデータが通信コマンドの遊技状態フラグデータとしてセットされる。すなわち、本実施形態では、1パケット（8バイト）の通信データ（コマンドデータ）を作成する際に、各種パラメータをレジスタから転送して通信データ一時格納領域（通信バッファ）に格納する。

10

【1252】

この場合、未使用パラメータを含むコマンドデータを作成した時には、作成時毎に、未使用パラメータの値が不定値となる。すなわち、未使用パラメータを含むコマンドデータでは、同じ種別のコマンドデータあり、かつ、使用パラメータの値が同一であっても、コマンド作成毎に、コマンドデータのサム値（BCCデータ）が可変可能となる。それゆえ、本実施形態では、未使用パラメータを不定値とすることにより、通信データの解析を困難にしてゴト等の不正行為を抑止することができるとともに、不必要なゴト対策処理を加える必要がないため、ゴト対策処理の追加による、主制御回路90のプログラム容量の圧迫を抑制することができる。

20

【1253】

[通信データポインタ更新処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の通信データポインタ更新処理では、図75Aに示すように、ソースプログラム上において、メインCPU101専用命令コードである、「ICPLD」命令が用いられる。

【1254】

通信データポインタ更新処理において、「ICPLD」命令は、送信バッファの上限判定命令と、判断分岐命令とが一体になっている命令コードであるので、各命令処理を別個に実行するための命令コードを設ける必要がなくなる。それゆえ、「ICPLD」命令を用いることにより、通信データポインタ更新処理のソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

30

【1255】

[チェックサム生成処理及びサムチェック処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1において、電断時に行われるチェックサム生成処理（規定外）では、図77に示すように、メインRAM103のデータを順次加算することにより、チェックサムが算出される。一方、電源投入時（電源復帰時）に行われるサムチェック処理（規定外）では、図79に示すように、電断発生時に生成されたチェックサムの値を、電源復帰時のメインRAM103に格納されたデータで順次減算し、最終的な減算結果が「0」であるか否かに基づいて、異常の発生の有無を判定する。すなわち、本実施形態では、電断発生時のチェックサムの生成処理は加算方式で行われ、電源復帰時のチェックサムの判定処理は減算方式で行われる。

40

【1256】

このようなチェックサムの生成処理及び判定処理を採用した場合、電源復帰時に再度チェックサムを生成して、該チェックサムを電断発生時のチェックサムと照合する処理が不要となる。この場合、ソースプログラム上において、照合命令コードを省略することができ、ソースプログラムの容量を低減することができる。この結果、本実施形態では、メイ

50

ンROM102において、照合命令コードの省略分に対応する空き容量を確保する（増やす）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることが可能になる。

【1257】

[メダル受付・スタートチェック処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1のメダル受付・スタートチェック処理では、図83に示すように、設定変更確認処理（S233の処理）が行われるが、この処理は、遊技状態に関係なく実行される。それゆえ、本実施形態では、遊技状態がボーナス状態（特賞作動状態）であっても、設定値及びホールメニュー（各種履歴データ（エラー、電断履歴等））を確認することができ、ゴト等の不正行為を抑制することができる。

【1258】

[メダル投入処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1のメダル投入処理では、図85に示すように、S244の処理において、メダル投入枚数表示用のLED点灯データが、テーブルを参照したループ処理でなく、演算処理により生成される。具体的には、図86に示すソースプログラム中の一連のソースコード「LD A, L」～「OR L」が順次実行されるにより、メダル投入枚数表示用のLED点灯データが生成される。

【1259】

メダル投入枚数表示用のLED点灯データを演算処理により生成した場合、メインROM102のテーブル領域の空き容量を増やすことができるとともに、プログラムの容量増を最小限に抑えることができる。すなわち、本実施形態のメダル投入処理では、メダル投入LED表示の処理を効率化することができるとともに、メインROM102の空き容量を確保し（増やし）、増えた空き領域を活用して、遊技性を高めることができる。

【1260】

[メダル投入チェック処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1のメダル投入チェック処理（図87参照）において、S257のメダルセンサ入力状態の正常変化値の生成処理は、テーブルを参照して取得する処理ではなく、演算処理により行われる。具体的には、図88に示すソースプログラム中のソースコード「RLA」及び「AND cBX_MDISW」が順次実行されることにより、メダルセンサ入力状態正常変化値が算出される。

【1261】

メダルセンサ入力状態の変化態様の検知処理をテーブル参照処理から演算処理に変更することにより、メインROM102のテーブル格納領域の空き容量を増やすことができるとともに、プログラムの容量増を最小限に抑えることができる。それゆえ、上述した処理手法を採用することにより、メダル投入センサ状態の変化態様の検知処理を効率化することができるとともに、メインROM102において増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【1262】

[内部抽籤処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の内部抽籤処理（図92参照）において、S305の判定データの取得処理は、図93A中のソースコード「LDIN AC, (HL)」により実行される。この「LDIN」命令の実行により、S305の処理では、Aレジスタに、判定データ（「抽籤値選択テーブルor抽籤計数テーブル」の値）が格納され、Cレジスタに当り要求フラグステータス（「特賞当籤番号+小役当籤番号」の値）が格納される。また、「LDIN」命令の実行により、HLレジスタにセットされているアドレスが+2更新（2加算）される。

【1263】

すなわち、内部抽籤処理中のS305の判定データの取得処理では、一つの命令コード（「LDIN」命令）により、データのロード処理及びアドレスの更新処理の両方を行うことができる。この場合、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令コードを省略することができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容

10

20

30

40

50

量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【1264】

また、内部抽籤処理のS309の設定値データ(0~5のいずれか)の加算処理は、メインCPU101が図93B中のソースコード「MUL A, 6」及び「ADDQ A, (.LOW.wWAVENUM)」をこの順で実行することにより行われる。

【1265】

「MUL」命令は、メインCPU101専用の乗算処理の命令コードであり、この命令の実行は、マイクロプロセッサ91に含まれる演算回路107(図9参照)により実行される。すなわち、本実施形態のパチスロ1では、ソースプログラム上における乗算処理及び除算処理を実行するための演算専用回路(演算回路107)が設けられているので、乗算処理及び除算処理の効率化を図ることができる。

10

【1266】

また、「ADDQ」命令(所定の加算命令)は、メインCPU101専用命令コードであり、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いてアドレス指定を行う命令コードである。そして、この「ADDQ」命令を用いれば、直値により、メインROM102、メインRAM103やメモリーマップI/Oにアクセスすることができる。それゆえ、「ADDQ」命令の使用により、内部抽籤処理のソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ、その分、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

20

【1267】

[図柄設定処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の図柄設定処理(図97参照)において、S330の圧縮データ格納処理は、メインCPU101が図99中のソースコード「CALLF SB__BTEP__00」を実行することにより行われる。「CALLF」命令は、上述のようにメインCPU101専用の2バイト命令コードであり、図99中のソースコード「CALLF SB__BTEP__00」が実行されると、「SB__BTEP__00」で指定されているアドレスに、処理をジャンプさせ、圧縮データ格納処理が開始される。

30

【1268】

また、図柄設定処理中のS329の当り要求フラグ格納領域のアドレスのセット処理は、メインCPU101が図99中のソースコード「LDQ DE, .LOW.wWAVEBIT」を実行することにより行われる。すなわち、S329の処理は、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いたメインCPU101専用の「LDQ」命令により行われる。この場合、図柄設定処理のソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令コードを省略することができ、その分、図柄設定処理のソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

40

【1269】

また、本実施形態では、上述した図柄設定処理中のS324~S330で説明した処理手順で入賞に係るデータの圧縮・展開処理を行い、かつ、その処理の中で上述したメインCPU101専用命令コードを用いることにより、入賞に係るデータの圧縮・展開処理の効率化を図ることができるとともに、限られたメインRAM103の容量を有効活用することができる。

【1270】

[サブフラグ変換処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1において、サブフラグ変換処理のソースプログラム上で実際に

50

参照される、図 107 に示すサブフラグ変換テーブルでは、各サブフラグに対してサブフラグ変換制御データ（制御ステータス）が対応付けられている。この際、同種のサブフラグに対しては、同じサブフラグ変換制御データ（制御ステータス）が対応付けられている。

【1271】

例えば、サブフラグ「3連チリリブA」及び「3連チリリブB」に対しては、サブフラグ変換制御データ（制御ステータス）「00000011B」が共通して割り付けられている。そして、内部当籤役（サブフラグ）をサブフラグEXに変換する際のフラグ変換抽籤処理では、サブフラグに対応付けられたサブフラグ変換制御データ（制御ステータス）に基づいて、抽籤が行われる。

【1272】

このように、メイン側で管理するサブフラグ変換テーブルにおいて、同種の内部当籤役（サブフラグ）に対して共通のサブフラグ変換制御データを設けることにより、該変換テーブルの汎用性が高くなり、機種変更に伴う変換プログラムの変更も軽微な変更で対応可能となるので、開発コストの増大を抑制することができる。

【1273】

[ナビセット処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1のナビセット処理では、図109に示すように、ソースプログラム上において、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行う「LDQ」命令（メインCPU101専用命令コード）が用いられる。

【1274】

それゆえ、本実施形態のナビセット処理では、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【1275】

[テーブルデータ取得処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1のテーブルデータ取得処理（図120参照）において、S581～S584の1段階目のテーブルデータ取得処理では、CT中CT当籤抽籤テーブル（図122参照）中の当籤役別テーブル選択相対テーブルが参照される。そして、この1段階目のテーブルデータ取得処理で参照する当籤役別テーブル選択相対テーブルでは、内部当籤役（サブフラグD）の種別毎に設けられた選択値によりCT抽籤の「ハズレ」が設定されているので、抽籤テーブルに「ハズレ」役の抽籤値を規定する必要がなくなる。それゆえ、本実施形態では、CT中CT当籤抽籤テーブルにおいて、「ハズレ」役の抽籤値データを格納する必要がなくなり、メインROM102のテーブル領域の容量を節約することができる。

【1276】

また、CT中CT当籤抽籤テーブル内の2段階目（サブフラグD「リーチ目リブ」取得時）の抽籤テーブルでは、判定ビットを構成する各ビットの値により抽籤対象役又は抽籤対象外の役を判別することことができ、抽籤対象外の役に対して抽籤値データ（ハズレデータ）をテーブルに格納する必要がなくなる。さらに、CT中CT当籤抽籤テーブル内では、抽籤対象役の当籤確率が100%である確定データとしては、抽籤値「0」を用いることができる。これらのことから、本実施形態では、CT中CT当籤抽籤テーブル（CT中セット数上乘せ抽籤テーブル）の容量を圧縮することができ、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【1277】

[図柄コード取得処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の図柄コード取得処理（図128参照）では、S647～S649で説明した処理手順で入賞に係るデータの圧縮・展開処理を行い、かつ、その処理の

10

20

30

40

50

中のメインCPU101専用命令コード(「CALLF」命令等)を用いることにより、入賞に係るデータの圧縮・展開処理の効率化を図ることができるとともに、限られたメインRAM103の容量を有効活用することができる。

【1278】

また、本実施形態では、図柄コード取得処理中のS649の圧縮データ格納処理において、「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレスは、図柄設定処理(図97参照)中のS330の圧縮データ格納処理において、「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレスと同じである。すなわち、本実施形態では、図柄コード取得処理及び図柄設定処理の両処理において、圧縮データ格納処理を実行するためのソースプログラムが共有化(モジュール化)されている。この場合、各処理において、それぞれ別個に圧縮データ格納処理のソースプログラムを設ける必要が無くなるので、その分、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する(増大させる)ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

10

【1279】

[引込優先順位取得処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の引込優先順位取得処理(図134及び図135参照)において、「ANY役」の引込優先対応処理中のS683の判定処理は、ソースプログラム上において、メインCPU101専用命令コードである「JCP」命令(比較命令)により実行される(図136A参照)。

20

【1280】

「ANY役」の引込優先対応処理のソースプログラム上において、「JCP」命令を用いた場合、上述のように、アドレス設定に係る命令を省略することができるので、「ANY役」の引込優先対応処理の処理効率を高めることができるとともに、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。

【1281】

また、引込優先順位取得処理中のS686の停止制御用引込要求フラグ設定処理では、ソースプログラム上において、図136Bに示すように、メインCPU101専用命令コードである、Qレジスタ(拡張レジスタ)を用いてアドレス指定を行う「LDQ」命令、及び、「CALLF」命令が利用される。

30

【1282】

それゆえ、S686の停止制御用引込要求フラグ設定処理では、「LDQ」命令を用いることにより、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができる。また、「CALLF」命令は、上述のように、2バイトの命令コードである。それゆえ、停止制御用引込要求フラグ設定処理において、これらのメインCPU101専用命令コードを使用することにより、処理の効率化を図ることができ、限られたメインRAM103の容量を有効活用することができる。

【1283】

さらに、本実施形態では、優先引込順位取得処理中のS686の停止制御用引込要求フラグ設定処理において、「CALLF」命令で指定するジャンプ先の論理積演算処理のアドレスは、引込優先順位格納処理(図126参照)中のS626の論理積演算処理において「CALLF」命令で指定するジャンプ先のアドレスと同じである(図127参照)。すなわち、本実施形態では、優先引込順位取得処理及び引込優先順位格納処理の両処理において、論理積演算処理を実行するためのソースプログラムが共有化(モジュール化)されている。

40

【1284】

この場合、優先引込順位取得処理及び引込優先順位格納処理の両処理において、それぞれ別個に論理積演算処理のソースプログラムを設ける必要が無くなるので、その分、ソースプログラムの容量(メインROM102の使用容量)を低減することができる。この結

50

果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【1285】

また、引込優先順位取得処理中のS687の引込優先順位テーブル（図137参照）の取得処理では、図136Cに示すように、「LDQ」命令（メインCPU101専用命令コード）が利用される。それゆえ、S687の引込優先順位テーブルの取得処理においても、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができる。その結果、引込優先順位テーブルの取得処理の効率化を図ることができるとともに、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。

【1286】

[リール停止制御処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1のリール停止制御処理（図138参照）において、S711～S715の処理では、図139に示すように、ソースプログラム上において、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行う「LDQ」命令、及び、「CALLF」命令が利用される。

【1287】

それゆえ、本実施形態では、これらのメインCPU101専用命令コードを用いることにより、リール制御処理のソースプログラムの容量を削減することができるとともに、リール停止制御処理の処理効率を向上させることができる。すなわち、本実施形態では、主制御回路90におけるプログラム処理速度の効率化と容量の削減を行うことが可能となり、削減した容量に応じて増加したメインROM102の空き領域を活用して、遊技性を高めることができる。

【1288】

また、リール停止制御処理中のS726の判定処理（リール（回胴）の停止状態のチェック処理）では、図140に示すように、ソースプログラム上において、「LDQ」命令及び「ORQ」命令（Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行うメインCPU101専用命令コード）が用いられる。

【1289】

それゆえ、本実施形態では、リール停止制御処理のソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略ことができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【1290】

[入賞検索処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の入賞検索処理（図145参照）において、S764の払出枚数及び判定対象データのセット処理では、図146に示すように、ソースプログラム上において、「LDIN」命令が用いられる。

【1291】

それゆえ、本実施形態の入賞検索処理では、一つの「LDIN」命令により、データのロード処理及びアドレスの更新処理の両方を行うことができる。この場合、入賞検索処理のソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略ことができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【1292】

また、入賞検索処理中のS770の判定処理で参照するメダルカウンタの値の取得処理、S772の処理で参照する入賞枚数カウンタの値の取得処理、及び、S775の処理で行う入賞枚数カウンタの保存（更新）処理では、いずれも、図146に示すように、Qレジスタ（拡張レジスタ）を用いてアドレス指定を行う「LDQ」命令が用いられる。それ

10

20

30

40

50

ゆえ、本実施形態の入賞検索処理では、ソースプログラム上において、アドレス設定に係る命令を省略することができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

【1293】

さらに、入賞検索処理中のS769の判定処理では、図146に示すように、ソースプログラム上において、「JSLAA」命令が用いられ、S770及びS773の判定処理では、「JCP」命令が用いられる。入賞検索処理のソースプログラム上において、「JSLAA」命令及び「JCP」命令を用いた場合、上述のように、アドレス設定に係る命令を省略することができ、その分、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができる。この結果、本実施形態では、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

10

【1294】

[イリーガルヒットチェック処理で得られる効果]

本実施形態では、図28～図30に示すように、入賞作動フラグ格納領域（表示役格納領域）の構成が当り要求フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）のそれと同じである。それゆえ、本実施形態のイリーガルヒットチェック処理におけるS784の演算処理では、ソースプログラム（図149参照）上において、入賞役のデータと内部当籤役のデータとを単純に論理積（「AND」命令で実行する）するだけで、入賞役のデータと内部当籤役のデータとの合成結果を得ることができる。

20

【1295】

それゆえ、本実施形態では、イリーガルヒットチェック処理を効率化及び簡略化することができ、その結果、主制御プログラムの空き容量を確保することができ、該空き容量を使用して遊技性を高めることができる。

【1296】

[入賞チェック・メダル払出処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1の入賞チェック・メダル払出処理（図150参照）では、クレジットカウンタの更新（+1）後、払出動作を継続する場合、S808の処理において、60.33ms間のウェイト（払出間隔待ち）処理が行われる。この場合、無駄な待ち時間を減らすことができ、遊技者の精神的負担を軽減することができる。

30

【1297】

[メダル払出枚数チェック処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ1のメダル払出枚数チェック処理（図152参照）中のS814の役連終了枚数カウンタの更新処理では、図153Aに示すように、ソースプログラム上において、メインCPU101専用命令コードである「DCPLD」命令が用いられる。

【1298】

S814の処理において、「DCPLD」命令は、枚数管理カウンタの下限判定命令と、判断分岐命令とが一体になった命令コードでなるので、役連終了枚数カウンタの更新（減算）処理及び連終了枚数カウンタの値を「0」に保持する処理の両方を実行することができる。この場合、両処理を別個に実行するための命令コードを設ける必要がなくなる。それゆえ、本実施形態のメダル払出枚数チェック処理では、ソースプログラムの容量（メインROM102の使用容量）を低減することができ、メインROM102において、空き容量を確保する（増大させる）ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

40

【1299】

また、メダル払出枚数チェック処理中のS816の処理では、図153Bに示すように、クレジット情報コマンドの通信パラメータ1には払出枚数カウンタの値がセットされ、通信パラメータ5にはクレジットカウンタの値がセットされる。しかしながら、クレジット

50

ト情報コマンドを構成するその他の通信パラメータ 2 ~ 4 (未使用パラメータ) には、現時点において H レジスタ、E レジスタ及び D レジスタにそれぞれ格納されている値がセットされる。それゆえ、クレジット情報コマンド送信時における通信パラメータ 2 ~ 4 の値は不定値となる。その結果、本実施形態では、クレジット情報コマンドのサム値 (B C C) を送信毎に不定値にすることができ、ゴト等の不正行為を抑制することができる。

【 1 3 0 0 】

[7 セグ L E D 駆動処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ 1 の 7 セグ L E D 駆動処理 (図 1 5 9 参照) 中の S 9 3 6 で行われる 7 セグコモン出力 (選択) データ及び 7 セグカソード出力データの出力処理は、図 1 6 0 B に示すように、一つのソースコード「 L D (c P A _ S E G C O M) , B C 」により実行される。すなわち、本実施形態では、7 セグ L E D 駆動処理において、2 桁の 7 セグ L E D をダイナミック点灯制御する際に、7 セグコモン出力データと、7 セグカソード出力データとが同時に出力される。この出力制御は、情報表示器 6 内の指示モニタに押し順表示データを表示する際にも行われる。

10

【 1 3 0 1 】

この場合、7 セグ L E D 駆動処理のソースプログラム上において、7 セグ L E D のダイナミック点灯制御に必要な命令コード数を減らすことができる。それゆえ、本実施形態では、ソースプログラムの容量 (メイン R O M 1 0 2 の使用容量) を低減することができ、メイン R O M 1 0 2 において、空き容量を確保する (増大させる) ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

20

【 1 3 0 2 】

[タイマー更新処理で得られる効果]

本実施形態のパチスロ 1 のタイマー更新処理 (図 1 6 4 参照) 中の S 9 5 2 の処理 (2 バイトタイマーの更新処理) では、図 1 6 5 に示すように、ソースプログラム上において、メイン C P U 1 0 1 専用命令コードである「 D C P W L D 」命令が用いられる。

【 1 3 0 3 】

タイマー更新処理において、「 D C P W L D 」命令を実行した場合、上述のように、タイマー数 (2 バイトタイマー数) の更新 (減算) 処理及びタイマー数を「 0 」に保持する処理の両方を実行することができる。この場合、両処理を別個に実行するための命令コードを設ける必要がなくなる。それゆえ、本実施形態では、ソースプログラムの容量 (メイン R O M 1 0 2 の使用容量) を低減することができ、メイン R O M 1 0 2 において、空き容量を確保する (増大させる) ことができ、増えた空き容量を活用して、遊技性を高めることができる。

30

【 1 3 0 4 】

< 各種変形例 >

以上、本発明に係る遊技機の構成及び動作について、その作用効果も含めて説明した。しかしながら、本発明は、上述した実施形態に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載した本発明の要旨を逸脱しない限り、その他の種々の実施形態及び変形例が含まれる。

【 1 3 0 5 】

[変形例 1 : 通常 A R T 中の C T 前兆遊技と報知抽籤]

上記実施形態のパチスロ 1 では、理解を容易にするために、遊技者にとって有利な状態 (例えば、C T) に当籤した場合に、遊技状態を次遊技 (次ゲーム) から有利な状態に移行させる例を説明したが、本発明はこれに限定されない。例えば、遊技者に対して有利な状態の遊技制御を行う場合に、いわゆる「前兆遊技」などと呼ばれている、所定回数の遊技を行った後に当該有利な状態の遊技制御を行ってもよい。

40

【 1 3 0 6 】

ここでは、図 1 7 4 A 及び 1 7 4 B を参照して、その一例として、遊技状態が、通常 A R T から所定回数の前兆遊技を介して C T に移行する例を説明する。なお、図 1 7 4 A は、変形例 1 における C T 抽籤当籤時の遊技フローを示す図であり、図 1 7 4 B は、前兆遊

50

技中に行われるフラグ変換抽籤で用いられるフラグ変換抽籤テーブルの構成図である。

【1307】

この例の通常ART中の遊技では、まず、図174Aに示すように、上記実施形態と同様に、ART中CT抽籤テーブル(図50参照)を用い、内部当籤役(サブフラグ)に基づいてCT抽籤を行う。このCT抽籤に当籤すると、遊技状態が、CT(上乘せチャンスゾーン)という遊技者にとって有利な状態に移行することが決定されるので、CTに当籤するまでの期間において、CT抽籤のための各種抽籤は、メイン側(主制御基板71)で行われる。例えば、主制御基板71(メインCPU101)は、内部当籤役を決めるための内部抽籤を行うとともに、内部当籤役として内部当籤役「F__確チリリブ」、「F__1確チリリブ」及び「F__リーチ目リブA」~「F__リーチ目リブD」のいずれかが決定された場合には、ART中フラグ変換抽籤テーブル(図47A及び47B参照)を用いてフラグ変換抽籤を行う。

10

【1308】

次いで、通常ART中の遊技においてCT抽籤に当籤すると、この例では、CT移行前に所定期間の前兆遊技(CT前兆遊技)が行われる。なお、この例では、CT前兆遊技において、例えば、フラグ変換抽籤により決定されたサブフラグEX(「3連チリリブ」、「リーチ目リブ」、「リプレイ」等)に基づくCT抽籤などの遊技者にとって特典を付与するような抽籤を行わないこととする。しかしながら、この例では、CT前兆遊技において、例えば、図174Bに示すフラグ変換抽籤テーブルを用いたフラグ変換抽籤をサブ側(副制御基板72側)で行い、このサブ側で行ったフラグ変換抽籤の結果に基づいて、サブ側で行う報知内容が制御(決定)される。例えば、サブ側で行ったフラグ変換抽籤に当籤した場合には、略称「リーチ目リブ」に係る図柄組合せを表示するための情報を表示装置11(プロジェクト機構211及び表示ユニット212)で報知し、フラグ変換抽籤に非当籤であった場合には、略称「リプレイ」に係る図柄組合せを表示するための情報を表示装置11で報知する。

20

【1309】

上述のように近年のパチスロでは、遊技者の利益(出玉)に影響を与える抽籤をメイン側で行うことが求められているが、この例のパチスロ1では、フラグ変換抽籤の抽籤結果が遊技者の利益に何ら影響を与えない期間(CT前兆遊技の期間)を設け、この期間に限り、サブ側でフラグ変換抽籤を行う。それゆえ、この例では、例えば、CT前兆中という特典の付与が決まっている状況において、例えば、略称「リーチ目リブ」に係る図柄組合せ等の特別な図柄組合せを表示する機会を増やすことができるとともに、図柄組合せの見せ方のバリエーションも増加させることができる。その結果、この例の構成によれば、遊技性をより向上させることが可能になる。

30

【1310】

なお、図174Bに示す抽籤テーブルは、サブ側で行うフラグ変換抽籤に用いられるCT前兆中のフラグ変換抽籤テーブルであり、ロムカートリッジ基板86に記憶されている。CT前兆中のフラグ変換抽籤テーブルは、内部当籤役「F__リーチ目リブA」~「F__リーチ目リブD」と、サブ側で行うフラグ変換抽籤の抽籤結果(非当籤/当籤)と、各抽籤結果に対応付けられた抽籤値の情報との対応関係を規定する。

40

【1311】

図174Bに示すフラグ変換抽籤テーブルから明らかなように、この例では、CT前兆遊技において、内部当籤役「F__リーチ目リブA」~「F__リーチ目リブD」が非常に高い確率でサブフラグEX「リーチ目リブ」に変換される(フラグ変換抽籤に当籤する)。すなわち、CT前兆遊技において、内部当籤役「F__リーチ目リブA」~「F__リーチ目リブD」のいずれかが決定されると、高い確率で略称「リーチ目リブ」の図柄組合せが停止表示されることになり、遊技者に対して、現在の遊技がCT前兆遊技中であることを示唆することができる。この際、上述のように、CT前兆遊技においてサブ側で行うフラグ変換抽籤に当籤した場合、略称「リーチ目リブ」に係る図柄組合せを表示するための報知は行われるものの、特典を付与することはない。

50

【 1 3 1 2 】

なお、この例において、CT前兆遊技中のフラグ変換抽籤をメイン側で行ってもよい。しかしながら、図174A及び174Bで説明した例のように、遊技者の利益に何ら影響を与えない期間における抽籤をサブ側で行うことにより、メイン側のデータ容量や処理負荷を軽減することができる。

【 1 3 1 3 】

[変形例2：3連チリリブ表示用の押し順の別例]

上記実施形態のパチスロ1では、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」が決定された場合、ストップボタンの押し順が正解であると、略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せが表示され、押し順が不正解であると、略称「リブレイ」に係る図柄組合せが表示される例を説明した(図24参照)。また、上記実施形態では、内部当籤役「F__確チリリブ」及び「F__1確チリリブ」に対応付けられた正解の押し順が「順押し」である例を説明した。しかしながら、本発明はこれに限定されない。

10

【 1 3 1 4 】

例えば、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」が決定された場合における、押し順が不正解である場合に表示される図柄組合せの種類を増やすとともに、内部当籤役「F__確チリリブ」が決定された際の正解の押し順を、内部当籤役「F__1確チリリブ」が決定された場合のそれと異ならせてもよい。その一例(変形例2)を、図175A及び175Bを参照して説明する。なお、図175Aは、変形例2における、内部当籤役と停止表示される図柄組合せ(停止図柄(略称))との対応関係を示す図であり、図175Bは、変形例2における、通常ART中のフラグ変換抽籤の結果とサブ側で行われるナビ種別との対応関係を示す図である。

20

【 1 3 1 5 】

この例では、図175Aに示すように、内部当籤役「F__確チリリブ」が決定された場合における、正解の押し順は「順押し(左リール3Lを第1停止)」とし、不正解の押し順は「中リール3Cを第1停止(以下「中押し」という)又は右リール3Rを第1停止(以下、「逆押し」という)」、すなわち、「変則押し」とする。そして、この例では、内部当籤役「F__確チリリブ」が決定された場合に、順押しされると、略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せが表示され、中押しされると、略称「リブレイ」に係る図柄組合せが表示され、逆押しされると、略称「2連チリリブ」に係る図柄組合せが表示される。

30

【 1 3 1 6 】

また、この例では、内部当籤役「F__1確チリリブ」が決定された場合における、正解の押し順は逆押しとし、不正解の押し順は順押し及び中押しとする。そして、この例では、内部当籤役「F__1確チリリブ」が決定された場合に、逆押しされると、略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せが表示され、中押しされると、略称「リブレイ」に係る図柄組合せが表示され、順押しされると、略称「2連チリリブ」に係る図柄組合せが表示される。

【 1 3 1 7 】

この例のパチスロ1では、内部当籤役「F__確チリリブ」及び「F__1確チリリブ」のいずれかが決定された場合、順押しすると、内部当籤役の種類に応じて、略称「3連チリリブ」又は「2連チリリブ」に係る図柄組合せが表示される。また、内部当籤役「F__確チリリブ」及び「F__1確チリリブ」のいずれかが決定された場合に、逆押しすると、内部当籤役の種類に応じて、略称「3連チリリブ」又は「2連チリリブ」に係る図柄組合せが表示される。さらに、この例では、内部当籤役「F__確チリリブ」及び「F__1確チリリブ」のいずれかが決定された場合に、中押しすると、内部当籤役の種類に関係なく、略称「リブレイ」に係る図柄組合せが表示される。

40

【 1 3 1 8 】

内部当籤役と停止表示される図柄組合せ(停止図柄(略称))との対応関係を図175Aに示す関係に設定すると、例えば、内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」が決定された場合に、遊技者にチリ図柄を狙わせるための様々なナビ(報知)を実施することが可能になる。

50

【 1 3 1 9 】

例えば、「順押しでチリ図柄を狙わせるナビ」と「逆押しでチリ図柄を狙わせるナビ」との双方を行うことができる。なお、内部当籤役「F__確チリリブ」が決定されている場合には、「順押しでチリ図柄を狙わせるナビ」は略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せを表示させるためのナビとなり、「逆押しでチリ図柄を狙わせるナビ」は略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せを表示させないためのナビ（略称「2連チリリブ」に係る図柄組合せが表示されるナビ）となる。一方、内部当籤役「F__1確チリリブ」が決定されている場合には、「順押しでチリ図柄を狙わせるナビ」は略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せを表示させないためのナビ（略称「2連チリリブ」に係る図柄組合せが表示されるナビ）となり、「逆押しでチリ図柄を狙わせるナビ」は略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せを表示させるためのナビとなる。

10

【 1 3 2 0 】

この例において、上述したナビを行うか否かの決定は、メイン側で行うフラグ変換抽籤により管理され、このメイン側のフラグ変換抽籤の結果に基づいて、サブ側の制御によりナビが実行される。この際、通常ART中にメイン側で行われるフラグ変換抽籤の抽籤結果と、サブ側で制御されるナビ種別との対応関係は、図175Bに示す対応関係となる。

【 1 3 2 1 】

この例においても、通常ART中の遊技において内部当籤役「F__確チリリブ」又は「F__1確チリリブ」が決定されると、主制御基板71（メインCPU101）は、2段階のフラグ変換抽籤を行う（図47参照）。一方、サブ側では、この2段階のフラグ変換抽籤の結果を、スタートコマンドデータから取得し、2段階のフラグ変換抽籤の結果に基づいて、表示装置11で行うナビを決定する。

20

【 1 3 2 2 】

そこで、この例において、1段階目のフラグ変換抽籤の時点で抽籤結果が非当籤であった場合には、副制御基板72（サブCPU201）は、図175Bに示すように、「リプレイナビ」と称するナビを行う。なお、「リプレイナビ」では、遊技者に対して中押しするように指示する情報が報知される。この例では、図174Aに示すように、内部当籤役が「F__確チリリブ」及び「F__1確チリリブ」のいずれであっても、中押し時には略称「リプレイ」に係る図柄組合せが表示されることになる。

【 1 3 2 3 】

また、この例において、1段階目のフラグ変換抽籤に当籤し、かつ、2段階目のフラグ変換抽籤の抽籤結果が非当籤である場合には、副制御基板72（サブCPU201）は、図175Bに示すように、「チリリブ煽りナビ」と称するナビを行う。なお、「チリリブ煽りナビ」では、内部当籤役「F__確チリリブ」が決定されている場合、遊技者に対して逆押しでチリ図柄を狙わせるような指示情報が報知される。一方、「チリリブ煽りナビ」では、内部当籤役「F__1確チリリブ」が決定されている場合、遊技者に対して順押しでチリ図柄を狙わせるような指示情報が報知される。そして、このような「チリリブ煽りナビ」では、図174Aに示すように、内部当籤が「F__確チリリブ」である場合には、逆押し時に略称「2連チリリブ」に係る図柄組合せが表示され、内部当籤役が「F__1確チリリブ」である場合には、順押し時に略称「2連チリリブ」に係る図柄組合せが表示されることになる。

30

40

【 1 3 2 4 】

また、この例において、1段階目及び2段階目のフラグ変換抽籤の両方に当籤した場合には、副制御基板72（サブCPU201）は、図175Bに示すように、「チリリブ揃いナビ」と称するナビを行う。なお、「チリリブ揃いナビ」では、内部当籤役「F__確チリリブ」が決定されている場合、遊技者に対して順押しでチリ図柄を狙わせるような指示情報が報知される。一方、「チリリブ揃いナビ」では、内部当籤役「F__1確チリリブ」が決定されている場合、遊技者に対して逆押しでチリ図柄を狙わせるような指示情報が報知される。そして、このような「チリリブ揃いナビ」では、図174Aに示すように、内部当籤が「F__確チリリブ」である場合には、順押し時に略称「3連チリリブ」に係る図

50

柄組合せが表示され、内部当籤役が「F__1確チリリブ」である場合には、逆押し時に略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せが表示されることになる。

【1325】

この例における、上述したフラグ変換抽籤の抽籤結果に基づく報知は、利益に影響を与えるものではない（フラグ変換抽籤自体は利益に影響を与えるものの、結果として表示される図柄組合せは利益に影響を与えない）ので、この例の上記報知動作は、メイン側（指示モニタ）では行わず、サブ側（表示装置11）でのみ行う。また、この例では、上述のように、「チリリブ揃いナビ」だけでなく、「チリリブ煽りナビ」も併せて行うことで、利益に影響しないナビを多様な態様でサブ側により制御することができる。その結果、遊技の興趣を向上させることができる。

10

【1326】

[変形例3：フラグ間中及び非フラグ間中のベルナビ態様の別例]

上記実施形態のパチスロ1では、上述のように、リールの停止操作の情報と一義的に対応する数値を、指示モニタ（不図示）に表示することにより、メイン側での報知を行う。この際、図63A～63Dで説明したナビデータの対応関係が参照される。そして、上記実施形態では、BBフラグ間状態（RT5状態）中に「白7ナビ」や「青7ナビ」を行うが、「ベルナビ」などを行わない例を説明したが、本発明はこれに限定されない。BBフラグ間状態（RT5）中に、「白7ナビ」や「青7ナビ」以外に「ベルナビ」などを行う構成にしてもよい。

【1327】

この場合、指示モニタに表示する数値は、BBフラグ間状態中と非BBフラグ間状態中とで互いに異ならせることとしてもよい。ここで、図176A及び176Bに、変形例3における、BBフラグ間状態中にメイン側で行う報知（ナビ）とサブ側で行う報知（ナビ）との対応関係を示す。なお、図176Aは、RT5状態中（BB1フラグ間）における、メイン側で行う報知（ナビ）とサブ側で行う報知（ナビ）との対応関係を示す図であり、図176Bは、RT5状態中（BB2フラグ間）における、メイン側で行う報知（ナビ）とサブ側で行う報知（ナビ）との対応関係を示す図である。

20

【1328】

また、この例において、非BBフラグ間状態中にメイン側で行う報知（ナビ）とサブ側で行う報知（ナビ）との対応関係は、上記実施形態と同様である（図63A及び63B参照）。それゆえ、非BBフラグ間状態において「ベルナビ」が行われる場合、指示モニタには「1」～「3」の数値（押し順役第2指示情報）が表示される。

30

【1329】

この例では、図176A及び176Bに示すように、BBフラグ間状態において「ベルナビ」が行われる場合、指示モニタに「12」～「14」の数値（押し順役第1指示情報）が表示される。なお、本発明はこれに限定されず、BBフラグ間状態において「ベルナビ」が行われる場合に、指示モニタに表示される数値は適宜変更することができる。なお、この例において、表示装置11を用いて行うサブ側のナビは、BBフラグ間状態及び非BBフラグ間状態の両方において共通のものが設けられていてもよい。

【1330】

[変形例4：特典付与の別例]

上記実施形態のパチスロ1では、メイン側で行われるフラグ変換抽籤の結果に基づいて報知内容が制御されるので、報知に従い停止操作を行った場合には表示される図柄組合せが異なる。すなわち、上記実施形態では、メイン側で行われるフラグ変換抽籤の結果に基づいて特典を付与するか否かが決定される例を説明したが、本発明はこれに限定されない。例えば、メイン側（主制御基板71）において、実際に表示された図柄組合せに基づいて特典を付与する構成にしてもよい。

40

【1331】

この場合、主制御基板71（メインCPU101）は、フラグ変換抽籤の結果に応じて行われる報知に従って所定の図柄組合せが表示された場合には、特典を付与し、報知に従

50

わなかった場合には、所定の図柄組合せが表示されても特典を付与しない構成にしてもよい。上記実施形態のパチスロ1では、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なるが、遊技者が報知を無視して停止操作を行ってしまった場合にも、略称「3連チリリブ」に係る図柄組合せ等の特別な図柄組合せが表示されてしまう可能性がある。それゆえ、この例では、報知を無視して特別な図柄組合せが表示されたとしても、特典を付与することなく、報知に従って特別な図柄組合せが表示された場合に限り、特典を付与するようにしてもよい。

【1332】

[変形例5：利益（特典）に影響を与えない報知制御の別例]

上記変形例1（図174A及び174B参照）のパチスロ1では、利益に影響を与える報知を行うか否かは、メイン側での報知抽籤（フラグ変換抽籤）により決定され、利益に影響を与えない報知を行うか否かは、サブ側での報知抽籤で決定される例を説明した。そして、この利益に影響を与えない報知の一例として、前兆遊技中に略称「リーチ目リブ」に係る図柄組合せを表示するための報知を行う例を説明したが、利益に影響を与えない報知は、この例に限定されるものではない。

10

【1333】

近年のパチスロでは、停止操作の順序に応じて遊技ロックを行い易い（難しい）状態に遷移させることがある。例えば、「左、中、右」の押し順である場合に遊技ロックを行い易い状態に遷移し、「右、中、左」の押し順である場合に遊技ロックを行い難い状態に遷移することがある。このようなパチスロでは、押し順を報知することで、遊技ロックを行い易い（難しい）状態に遷移させることができる。しかしながら、遊技ロックを行うか否かが利益に対して影響を与える場合には、この報知をメイン側で制御する必要がある。なお、遊技ロックを行うか否かが利益に対して影響を与えない場合には、この報知をサブ側で制御してもよい。

20

【1334】

また、遊技ロックを行うか否かが利益に対して影響を与える場合としては、例えば、遊技ロックが行われることで、ART抽籤に当籤するといった場合が考えられる。一方、遊技ロックを行うか否かが利益に対して影響を与えない場合は、遊技ロックを演出として行う場合である。例えば、利益（特典）を付与することが決まっている前兆遊技中に遊技ロックを頻繁に行うようにすることにより、この後の遊技において利益が付与されることを演出で示すことが可能になる。

30

【1335】

ここで、図177A及び177Bを参照して、変形例5における、押し順とロック状態とを対応付ける構成例を説明する。なお、図177Aは、押し順とロック状態との対応関係を示す図であり、図177Bは、遊技ロックによる利益への影響の有無と、報知態様との関係を示す図である。

【1336】

図177Aに示す例では、内部当籤役「F__維持リブA」が決定された時に「左、中、右」の押し順で停止操作が行われると、ロック状態が「0」（ロックし難い状態）から「1」（ロックし易い状態）に遷移し、「左、右、中」、「中、左、右」又は「中、右、左」の押し順で停止操作が行われると、現在のロック状態が維持され、「右、左、中」又は「右、中、左」の押し順で停止操作が行われると、ロック状態が「1」から「0」に遷移する。また、内部当籤役「F__維持リブB」が決定された時には、「中、左、右」の押し順で停止操作が行われると、ロック状態が「0」（ロックし難い状態）から「1」（ロックし易い状態）に遷移し、それ以外の押し順で停止操作が行われると、現在のロック状態が維持される。

40

【1337】

なお、図177Aに示す例では、説明を単純にするために、ロック状態を「0（ロックし難い状態）」及び「1（ロックし易い状態）」の2段階にする例を説明するが、本発明はこれに限定されない。例えば、3段階以上のロック状態を設けてもよい。また、この場

50

合には、ロック状態が1段階ずつ遷移するのではなく、多段階を1回で遷移する構成にしてもよい。

【1338】

そして、この例では、図117Bに示すように、遊技ロックが利益に影響を与える場合には、報知を行うか否かの報知抽籤をメイン（主制御基板71）側で行うとともに、その抽籤結果に基づいてメイン側及びサブ側の両方で所定の押し順を報知する。一方、遊技ロックが利益に影響を与えない場合には、報知を行うか否かの報知抽籤をサブ（副制御基板72）側で行うとともに、その抽籤結果に基づいてサブ側で所定の押し順を報知する。

【1339】

なお、パチスロとしては、遊技の全期間にわたり遊技ロックが利益に影響を与えるパチスロもあれば、遊技の全期間にわたり遊技ロックが利益に影響を与えないパチスロもある。また、パチスロとしては、遊技の所定期間では遊技ロックが利益に影響を与えるが、遊技の特定期間では遊技ロックが利益に影響を与えないパチスロもある。それゆえ、遊技ロックが利益に影響を与える期間では、報知を行うか否かの報知抽籤をメイン側で行い、その抽籤結果に基づいてメイン側及びサブ側の両方で所定の押し順を報知し、一方、遊技ロックが利益に影響を与えない期間では、報知を行うか否かの報知抽籤をサブ側で行い、その抽籤結果に基づいてサブ側で所定の押し順を報知するようにしてもよい。

10

【1340】

なお、遊技ロックの制御は、通常、メイン側（主制御基板71）で行われるので、図117Aに示す押し順に応じてロック状態を遷移する機能は、主制御基板71に設けられる。すなわち、主制御基板71は、検出した停止操作の順序に基づいてロック状態を設定するロック状態設定手段、ロック状態設定手段が設定したロック状態に応じた確率で遊技ロックを行うか否かを抽籤により決定する遊技ロック判定手段、及び、遊技ロック判定手段が遊技ロックを行うと判定すると、遊技の進行を一時的に停止するロック実行手段、としても機能する。また、主制御基板71及び/又は副制御基板72は、遊技ロックし易い（し難い）ロック状態をロック状態設定手段が設定する際に、押し順を報知するか否かの報知抽籤を行う報知抽籤手段、及び、報知抽籤手段の抽籤結果に基づいて所定の押し順を報知する報知手段としても機能する。

20

【1341】

[変形例6：通常ARTやCTの終了条件の別例]

30

通常ARTやCTの終了条件は、上記実施形態で説明した例に限定されず、任意の終了条件を採用することができる。例えば、通常ART中やCT中に付与されたメダルの枚数、通常ART中やCT中の単位遊技の消化回数、通常ART中やCT中に行われた遊技者にとって有利な情報の報知の回数、所定ゲーム数（例えば50ゲーム）を1セットとする場合のセット数、1セット終了時の継続率等の終了条件を採用することができる。

【1342】

また、通常ART中やCT中に付与されたメダルの枚数の計数手法としては、例えば、単位遊技において払い出されたメダルの枚数を計数する手法を採用してもよいし、単位遊技において払い出されたメダルの枚数から当該単位遊技に用いられたメダルのベット（掛け）枚数を減算した差枚数（純増枚数）を計数する手法を採用してもよい。また、通常ART中やCT中に付与されたメダルの枚数の計数手法としては、実際に増加したメダルに基づき算出する手法（実値による算出）を採用してもよいし、実際に増加したか否かに関わらず、報知に従った場合に増加する予定のメダルの枚数に基づき算出する手法（理想値による算出）を採用してもよい。

40

【1343】

また、内部当籤役の種別によって、付与されたメダルの枚数を増加しない構成、すなわち、付与されたメダルの枚数の終了条件となるメダルの枚数又は差枚数にはカウントしない構成を採用してもよい。例えば、内部当籤役として決定される確率が低い一部の役（レア役）や、停止操作のタイミングに応じて図柄組合せの表示/非表示が切り替わる役などが内部当籤役として決定されたとしても、付与されたメダルの枚数の増減（カウント）を

50

行わないようにしてもよい。

【 1 3 4 4 】

< 第 2 実施形態 >

続いて、本発明に係るパチスロ 1 の別実施形態について説明する。なお、以下に示す第 2 実施形態のパチスロ 1 は、第 1 実施形態や各種変形例のパチスロ 1 と遊技性が異なるものであり、第 1 実施形態や各種変形例で説明したデータの圧縮・展開などデータの持ち方に関する制御や、各種処理については、同様に適用することができる。また、第 2 実施形態では、第 1 実施形態と同様の構成については、詳細な説明を省略する。

【 1 3 4 5 】

第 2 実施形態のパチスロ 1 では、リール表示窓 4 の枠内に表示される 3 行 × 3 列の図柄を結ぶ擬似的なラインのうち、クロスダウンラインを有効ラインとして用い、その他のラインを疑似ラインとして用いる。すなわち、パチスロ 1 は、リール表示窓 4 において各リールの一つの図柄を表示する 3 行 × 3 列の単位図柄表示領域のうちの、左のリール 3 L の上段の単位図柄表示領域、中のリール 3 C の中段の単位図柄表示領域、及び右のリール 3 R の下段の単位図柄表示領域を夫々結ぶことにより形成されるクロスダウンラインを有効ラインとして用い、それ以外の単位図柄表示領域を結ぶことにより形成されるラインを疑似ラインとして用いる。なお、疑似ラインとしては、例えば、各リールの上段の単位図柄表示領域を結ぶトップライン、各リールの中段の単位図柄表示領域を結ぶセンターライン、各リールの下段の単位図柄表示領域を結ぶボトムライン、及びリール 3 L の下段、リール 3 C の中段及びリール 3 R の上段の単位図柄表示領域を結ぶクロスアップラインがある。

【 1 3 4 6 】

< 遊技状態の遷移フロー >

初めに、図 1 7 8 を参照しながら、第 2 実施形態のパチスロ 1 の主制御回路 9 0 (メイン CPU 1 0 1) により管理される各種遊技状態及びその遷移フローについて説明する。

【 1 3 4 7 】

[基本的な遊技状態の遷移フロー]

本実施形態のパチスロ 1 では、ボーナスゲームの種類として、ビッグボーナス (以下、「BB」と記す) が設けられる。BB は、第 1 種特別役物と呼ばれるレギュラーボーナス (以下、「RB」と記す) に係る役物連続作動装置であり、RB を連続して作動させる。

【 1 3 4 8 】

それゆえ、本実施形態では、主制御回路 9 0 は、ボーナス役の当籤 / 作動 (入賞) の有無に基づいて遊技状態を管理する。具体的には、図 1 7 8 に示すように、主制御回路 9 0 は、ボーナス役 (後述の名称「F__クラウン BB」「F__赤 BB」「F__青 BB」の内部当籤役) の当籤 / 作動 (入賞) の有無に基づいて、「ボーナス非当籤状態」、「フラグ間状態」及び「ボーナス状態」と称する 3 種類の遊技状態を管理する。

【 1 3 4 9 】

なお、ボーナス非当籤状態は、ボーナスに非当籤であり、かつ、ボーナスが作動 (入賞) していない状態であり、ボーナス状態は、ボーナスが作動している状態である。また、本実施形態では、ボーナス役が内部当籤役として決定されると、ボーナスが入賞するまで複数回の遊技に渡りボーナス役が内部当籤役として持ち越された状態が発生する。フラグ間状態は、ボーナス役が内部当籤役として持ち越されている状態、すなわち、ボーナス役が当籤し、かつ、ボーナスが作動していない状態である。

【 1 3 5 0 】

また、本実施形態では、リプレイに係る内部当籤役の種別及びその当籤確率が互いに異なる、RT 0 遊技状態 ~ RT 7 遊技状態の 8 種類の状態 (以下、それぞれ「RT 0 状態」~ 「RT 7 状態」という) が設けられる。本実施形態では、ボーナス非当籤状態の RT 状態は、RT 0 状態 ~ RT 5 状態のいずれかとなり、フラグ間状態の RT 状態は、RT 6 状態又は RT 7 状態となる。

【 1 3 5 1 】

なお、RT 0 状態及び RT 1 状態は、リプレイに係る内部当籤役の当籤確率が低い RT

状態であり、また、R T 2 状態、R T 3 状態、R T 6 状態及びR T 7 状態は、リプレイに係る内部当籤役の当籤確率が（R T 0 状態及びR T 1 状態よりは高い）中程度のR T 状態であり、R T 4 状態及びR T 5 状態は、リプレイに係る内部当籤役の当籤確率が高いR T 状態である。以下では、R T 4 状態及びR T 5 状態を「高R T 状態」と呼ぶことがあり、また、R T 0 状態～R T 3 状態を「低R T 状態」と呼ぶことがある。なお、後述するようにR T 3 状態は、特別なR T 状態であるため、「低R T 状態」と呼ぶ場合、R T 0 状態～R T 2 状態を示し、R T 3 状態を含まないこととしてもよい。

【1352】

また、R T 0 状態～R T 7 状態は、リプレイに係る内部当籤役の当籤確率だけでなく、自身から他のR T 状態に移行することになる移行契機に応じて、無限R T 状態又は有限R T 状態に区別される。無限R T 状態は、他のR T 状態への移行契機として遊技回数を用いることのないR T 状態であり、本実施形態では、R T 0 状態、R T 2 状態、R T 4 状態～R T 7 状態が該当する。有限R T 状態は、他のR T 状態への移行契機として遊技回数を用いるR T 状態であり、本実施形態では、R T 1 状態及びR T 2 状態が該当する。

10

【1353】

図178に示すように、R T 1 状態又はR T 3 状態において、規定回数の遊技が行われると（移行条件（1）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態をR T 1 状態又はR T 3 状態からR T 0 状態に移行させる。なお、R T 1 状態の規定回数は、10回であり、また、R T 3 状態の規定回数は、20回である。

【1354】

また、R T 2 状態、R T 4 状態又はR T 5 状態において、略称「R T 0 移行図柄」に係る図柄組合せ（後述の図197～図204参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（2）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態をR T 2 状態、R T 4 状態又はR T 5 状態からR T 0 状態に移行させる。

20

【1355】

また、R T 0 状態、R T 2 状態又はR T 4 状態において、略称「R T 1 移行図柄」に係る図柄組合せ（後述の図197～図204参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（3）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態をR T 0 状態、R T 2 状態又はR T 4 状態からR T 1 状態に移行させる。

【1356】

また、R T 0 状態、R T 4 状態又はR T 5 状態において、略称「R T 2 移行図柄」に係る図柄組合せ（後述の図197～図204参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（4）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態をR T 0 状態、R T 4 状態又はR T 5 状態からR T 2 状態に移行させる。

30

【1357】

また、R T 2 状態において、略称「R T 3 移行図柄」に係る図柄組合せ（後述の図197～図204参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（5）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態をR T 2 状態からR T 3 状態に移行させる。

【1358】

また、R T 2 状態又はR T 5 状態において、略称「R T 4 移行図柄」に係る図柄組合せ（後述の図197～図204参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（6）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態をR T 2 状態又はR T 5 状態からR T 4 状態に移行させる。

40

【1359】

また、R T 4 状態において、略称「R T 5 移行図柄」に係る図柄組合せ（後述の図197～図204参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（7）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態をR T 4 状態からR T 5 状態に移行させる。

【1360】

ここで、パチスロ1では、他のR T 状態への移行条件として、有効ライン上に表示される図柄組合せを用いる場合、無限R T 状態中は、当該図柄組合せが有効ライン上に表示さ

50

れると、対応する R T 状態に移行させなければならない。略称「R T 0 移行図柄」～「R T 5 移行図柄」は、無限 R T 状態中に有効ライン上に表示されると、対応する R T 状態に移行することになる図柄組合せである。

【 1 3 6 1 】

一方、有限 R T 状態では、略称「R T 0 移行図柄」～「R T 5 移行図柄」が有効ライン上に表示されても、対応する R T 状態に移行させない制御が可能である。そのため、本実施形態のパチスロ 1 では、有限 R T 状態である R T 1 状態又は R T 3 状態では、略称「R T 0 移行図柄」～「R T 5 移行図柄」が有効ライン上に表示されても R T 状態を移行させることなく、規定回数の遊技が行われることを契機に R T 状態を移行させることで、図 1 7 8 に示す遊技状態の遷移フローを実現している。

10

【 1 3 6 2 】

一方で、無限 R T 状態では、対応する図柄組合せが有効ライン上に表示されると他の R T 状態に移行しなければならないため、遊技性の観点から移行させたくない R T 状態が存在する場合には、対応する R T 状態中に、当該移行させたくない R T 状態への移行契機となっている図柄組合せが有効ライン上に表示されないように制御することで、図 1 7 8 に示す遊技状態の遷移フローを実現している。例えば、本実施形態では、R T 4 状態及び R T 5 状態（より詳細には、更に R T 0 状態も含む）では、R T 3 状態に移行することになる略称「R T 3 移行図柄」が有効ライン上に表示されないように制御することで、R T 3 状態への移行が R T 2 状態からしか行われなくしている。

【 1 3 6 3 】

また、ボーナス非当籤状態においてボーナス役が内部当籤役として決定されると、主制御回路 9 0 は、遊技状態をボーナス非当籤状態からフラグ間状態に移行させる。具体的には、ボーナス役として名称「F__クラウン B B」又は「F__青 B B」に係る内部当籤役が決定されると（移行条件（8）が成立すると）、主制御回路 9 0 は、遊技状態をボーナス非当籤状態からフラグ間状態の R T 6 状態に移行させる。また、ボーナス役として名称「F__赤 B B」に係る内部当籤役が決定されると（移行条件（9）が成立すると）、主制御回路 9 0 は、遊技状態をボーナス非当籤状態からフラグ間状態の R T 7 状態に移行させる。

20

【 1 3 6 4 】

また、フラグ間状態においてボーナス役が入賞すると、主制御回路 9 0 は、遊技状態をフラグ間状態からボーナス状態に移行させる。本実施形態のパチスロ 1 では、ボーナス状態として C B B と N B B とを有しており、名称「F__クラウン B B」が入賞する（略称「クラウン B B」に係る図柄組合せ（後述の図 1 9 7 ～図 2 0 4 参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（10）が成立すると）、主制御回路 9 0 は、遊技状態をフラグ間状態から C B B に移行させる。また、名称「F__赤 B B」又は「F__青 B B」が入賞する（略称「B B」に係る図柄組合せ（後述の図 1 9 7 ～図 2 0 4 参照）が有効ライン上に表示されると（移行条件（11）が成立すると）、主制御回路 9 0 は、遊技状態をフラグ間状態から N B B に移行させる。

30

【 1 3 6 5 】

また、ボーナス状態において規定枚数を超えるメダルが払い出され、ボーナス状態が終了すると（移行条件（12）が成立すると）、主制御回路 9 0 は、遊技状態をボーナス状態からボーナス非当籤状態の R T 0 状態に移行させる。ここで、本実施形態では、ボーナス状態の終了契機となる規定枚数は、C B B においては「3 9 6 枚」であり、N B B においては「2 3 2 枚」である。

40

【 1 3 6 6 】

<メイン R O M に記憶されているデータテーブルの構成>

次に、メイン R O M 1 0 2 に記憶されている各種データテーブルの構成について説明する。

【 1 3 6 7 】

[図柄配置テーブル]

まず、図 1 7 9 を参照して、図柄配置テーブルについて説明する。図柄配置テーブルは

50

、左リール 3 L、中リール 3 C 及び右リール 3 R のそれぞれの回転方向における各図柄の位置と、各位置に配置された図柄の種類を特定するデータ（以下、図柄コード（図 1 7 9 中の図柄コード表を参照）という）との対応関係を規定する。

【 1 3 6 8 】

なお、第 2 実施形態のパチスロ 1 では、図柄コード表に示すように、各リールには、図柄「赤 7」「青 7」「BAR」「リプレイ」「ベル 1」「ベル 2」「ベル 3」「スイカ 1」「スイカ 2」及び「チェリー」の 1 0 種類の図柄が表示されている。

【 1 3 6 9 】

[内部抽籤テーブル]

次に、図 1 8 0 ~ 図 1 8 2 を参照して、内部当籤役を決定する際に参照される内部抽籤テーブルについて説明する。内部抽籤テーブルは、遊技状態毎に設けられ、各種内部当籤役と、各内部当籤役が決定されときの抽籤値との対応関係を規定する。なお、ボーナス非当籤状態の R T 0 状態中は、R T 0 用の内部抽籤テーブルが参照され、ボーナス非当籤状態の R T 1 状態中は、R T 1 用の内部抽籤テーブルが参照され、ボーナス非当籤状態の R T 2 状態中は、R T 2 用の内部抽籤テーブルが参照され、ボーナス非当籤状態の R T 3 状態中は、R T 3 用の内部抽籤テーブルが参照され、ボーナス非当籤状態の R T 4 状態中は、R T 4 用の内部抽籤テーブルが参照され、ボーナス非当籤状態の R T 5 状態中は、R T 5 用の内部抽籤テーブルが参照される。

10

【 1 3 7 0 】

また、内部当籤役「F__クラウン B B」を持ち越しているフラグ間状態の R T 6 状態中は、クラウン B B フラグ間用（R T 6）の内部抽籤テーブルが参照され、内部当籤役「F__赤 B B」を持ち越しているフラグ間状態の R T 7 状態中は、赤 B B フラグ間用（R T 7）の内部抽籤テーブルが参照され、内部当籤役「F__青 B B」を持ち越しているフラグ間状態の R T 6 状態中は、青 B B フラグ間用（R T 6）の内部抽籤テーブルが参照される。また、C B B のボーナス状態中は、C B B 用の内部抽籤テーブルが参照され、N B B のボーナス状態中は、N B B 用の内部抽籤テーブルが参照される。

20

【 1 3 7 1 】

[内部当籤役と図柄組合せとの対応表（図柄組合せ決定テーブル）]

次に、図 1 8 3 ~ 図 1 9 6 を参照して、内部当籤役と図柄組合せとの対応表（図柄組合せ決定テーブル）について説明する。図柄組合せ決定テーブルは、各種内部当籤役と、各内部当籤役に対応付けられた、有効ライン上に表示可能な図柄組合せ（コンビネーション）との対応関係を規定する。すなわち、内部当籤役が決定されると、有効ライン上に表示可能な図柄組合せの種別（入賞可能な表示役の種別）が一義的に決定される。

30

【 1 3 7 2 】

各図柄組合せ決定テーブル中の図柄組合せ欄に記載の各種データは、左リール 3 L、中リール 3 C 及び右リール 3 R に渡って設定された有効ラインに沿って表示を許可する図柄組合せを識別するためのデータである。なお、図柄組合せ（表示役）欄に記載の各名称と、具体的な図柄組合せとの関係は、図 1 9 7 ~ 図 2 0 4 において後述する。

【 1 3 7 3 】

また、図柄組合せ決定テーブル中に記載の「」印は、決定された内部当籤役において、有効ライン上に表示可能な図柄組合せ（コンビネーション）、すなわち、入賞可能となる表示役を示す。なお、図柄組合せ決定テーブルには、「内部当籤役」が「はずれ」となる場合が規定されていないが、これは、図 1 8 3 ~ 図 1 9 6 に示した図柄組合せテーブルにより規定されている全ての図柄組合せの表示が許可されないことを示す。

40

【 1 3 7 4 】

本実施形態のパチスロ 1 では、主制御回路 9 0（メイン C P U 1 0 1）は、内部当籤役及び遊技状態に応じて停止制御を異ならせ、所定の役が内部当籤役として決定された場合に、図 1 8 3 ~ 図 1 9 6 に示す対応関係の図柄組合せ（コンビネーション）を表示可能とするように左リール 3 L、中リール 3 C 及び右リール 3 R の回転停止制御を行う。なお、図 1 8 3 ~ 図 1 9 6 に示す対応表では、決定された内部当籤役に対して表示可能な全ての

50

図柄組合せを「 」印で列挙しているが、優先して引き込む図柄の関係上、「 」印が付された図柄組合せであっても表示されないことがある。

【 1 3 7 5 】

[図柄組合せの内容]

次に、図 1 9 7 ~ 図 2 0 4 を参照して、図柄組合せの具体的な内容について説明する。図 1 9 7 ~ 図 2 0 4 において、コンビネーション欄は、各リール 3 L、3 C、3 R が停止した場合に、有効ラインに沿って表示される各リール 3 L、3 C、3 R の図柄を示し、名称欄は、コンビネーション欄が示す図柄の組合せの名称を意味する。また、払出欄は、対応する図柄の組合せ（コンビネーション）が表示された際に払い出されるメダルの枚数を規定する。また、略称欄は、それぞれの図柄の組合せの役割や、それぞれの図柄の組合せの特徴からつけられた略称を示す。

10

【 1 3 7 6 】

コンビネーション名「 R _ 3 r d 移行 _ 0 1 」 ~ 「 R _ 1 s t 移行 _ 1 8 」は、略称「 R T 2 移行図柄」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、0 枚のメダルが払い出される。また、上述したように、略称「 R T 2 移行図柄」に係る図柄組合せは、無限 R T 状態中に有効ラインに沿って表示されると、遊技状態が R T 2 状態に移行する（図 1 7 8 参照）。

【 1 3 7 7 】

また、コンビネーション名「 T _ 停止制御 A 」 ~ 「 T _ 停止制御 L _ 0 2 」は、略称「制御用出目」であり、有効ラインに沿って表示されると、0 枚のメダルが払い出される。

20

【 1 3 7 8 】

また、コンビネーション名「 C _ 7 R B R _ 0 1 」 「 C _ 7 R B R _ 0 2 」は、第一種特別役物の連続作動装置（ B B ）に係る図柄組合せであり、略称を「クラウン B B」とする。略称「クラウン B B」の図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、遊技状態がボーナス状態（ C B B ）に移行する（図 1 7 8 参照）。

【 1 3 7 9 】

また、コンビネーション名「 C _ 7 R R R 」 ~ 「 C _ 7 B B B _ 0 2 」は、第一種特別役物の連続作動装置（ B B ）に係る図柄組合せであり、略称を「 B B」とする。略称「 B B」の図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、遊技状態がボーナス状態（ N B B ）に移行する（図 1 7 8 参照）。

30

【 1 3 8 0 】

また、コンビネーション名「 C _ C D リプ 」 ~ 「 C _ C U リプ _ 0 9 」は、略称「斜めリプレイ」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。なお、略称「斜めリプレイ」に係る図柄組合せは、3 行 × 3 列の図柄を結び擬似的なラインのうちの斜めのライン（クロスダウンライン又はクロスアップライン）に図柄「リプレイ」が表示される図柄組合せである。

【 1 3 8 1 】

また、コンビネーション名「 C _ R T 4 リプ _ 0 1 」 ~ 「 C _ R T 4 リプ _ 0 3 」は、略称「小山リプレイ」（別名を略称「 R T 4 移行図柄」という）に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。また、上述したように、略称「小山リプレイ（ = R T 4 移行図柄）」に係る図柄組合せは、無限 R T 状態中に有効ラインに沿って表示されると、遊技状態が R T 4 状態に移行する（図 1 7 8 参照）。なお、略称「小山リプレイ」に係る図柄組合せは、左のリール 3 L の下段の単位図柄表示領域、中のリール 3 C の中段の単位図柄表示領域、及び右のリール 3 R の下段の単位図柄表示領域に図柄「リプレイ」が表示される図柄組合せである。

40

【 1 3 8 2 】

また、コンビネーション名「 C _ R T 3 リプ A _ 0 1 」 ~ 「 C _ R T 3 リプ D _ 0 4 」は、略称「弱チェリプ」（別名を略称「 R T 3 移行図柄」という）に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。また、上述したように、略称「弱チェリプ（ = R T 3 移行図柄）」に係る図柄組合せは、無限 R T 状態中に有効

50

ラインに沿って表示されると、遊技状態がRT3状態に移行する(図178参照)。なお、略称「弱チェリプ」に係る図柄組合せは、停止操作のタイミングが適切である場合に、左のルール3Lの上段又は下段の単位図柄表示領域に図柄「チェリー」が表示される図柄組合せである。

【1383】

また、コンビネーション名「C__BBリプ__01」～「C__BBリプ__18」は、略称「BB中リプレイ」に係る図柄組合せである。略称「BB中リプレイ」の図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。

【1384】

また、コンビネーション名「C__BTリプ__01」～「C__TPリプ__03」は、略称「平行リプレイ」(別名を略称「RT1移行図柄」という)に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。また、上述したように、略称「平行リプレイ(=RT1移行図柄)」に係る図柄組合せは、無限RT状態中に有効ラインに沿って表示されると、遊技状態がRT1状態に移行する(図178参照)。なお、略称「平行リプレイ」に係る図柄組合せは、3行×3列の図柄を結ぶ擬似的なラインのうちの平行なライン(ボトムライン、センターライン又はトップライン)に図柄「リプレイ」が表示される図柄組合せである。

10

【1385】

また、コンビネーション名「C__RT5__01」～「C__RT5リプ__09」は、略称「強チャンスリプ」(別名を略称「RT5移行図柄」という)に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。また、上述したように、略称「強チャンスリプ(=RT5移行図柄)」に係る図柄組合せは、無限RT状態中に有効ラインに沿って表示されると、遊技状態がRT5状態に移行する(図178参照)。なお、略称「強チャンスリプ」に係る図柄組合せは、左のルール3Lの中段の単位図柄表示領域、中のルール3Cの中段の単位図柄表示領域、及び右のルール3Rの上段の単位図柄表示領域に図柄「リプレイ」が表示される図柄組合せである。

20

【1386】

また、コンビネーション名「C__CD7リプA__01」～「C__CU7リプC__04」は、略称「7揃いリプ」(別名を略称「RT5移行図柄」という)に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。また、上述したように、略称「7揃いリプ(=RT5移行図柄)」に係る図柄組合せは、無限RT状態中に有効ラインに沿って表示されると、遊技状態がRT5状態に移行する(図178参照)。なお、略称「7揃いリプ」に係る図柄組合せは、停止操作のタイミングが適切である場合に、3行×3列の図柄を結ぶ擬似的なラインのうちの何れかに図柄「赤7」又は図柄「青7」が表示される図柄組合せである。

30

【1387】

また、コンビネーション名「C__CUBARリプA」～「C__BTBARリプC__02」は、略称「BAR揃いリプ」(別名を略称「RT5移行図柄」という)に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。また、上述したように、略称「BAR揃いリプ(=RT5移行図柄)」に係る図柄組合せは、無限RT状態中に有効ラインに沿って表示されると、遊技状態がRT5状態に移行する(図178参照)。なお、略称「BAR揃いリプ」に係る図柄組合せは、停止操作のタイミングが適切である場合に、3行×3列の図柄を結ぶ擬似的なラインのうちの何れかに図柄「BAR」が表示される図柄組合せである。

40

【1388】

また、コンビネーション名「C__フェイクA__01」～「C__フェイクG__04」は、略称「フェイクリプ」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。また、コンビネーション名「C__特殊リプA__01」～「C__特殊リプD__02」は、略称「リーチ目リプ」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。

50

【 1 3 8 9 】

また、コンビネーション名「C__CDベルAAA__01」～「C__BTベル__09」は、略称「ベル」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、8枚のメダルが払い出される。なお、略称「ベル」に係る図柄組合せのうち、「C__CDベルAAA__01」～「C__CDベルBBB」に係る図柄組合せは、3行×3列の図柄を結ぶ擬似的なラインのうちのクロスダウン(CD)ラインに図柄「ベル」が表示される図柄組合せであり、以下では、「CDベル」と呼ぶことがある。同様に、略称「ベル」に係る図柄組合せのうち、「C__TPベル__01」～「C__TPベル__18」に係る図柄組合せは、トップ(TP)ラインに図柄「ベル」が表示される図柄組合せであり、以下では、「TPベル」と呼ぶことがあり、「C__CTベル__01」～「C__CTベル__06」に係る図柄組合せは、センター(CT)ラインに図柄「ベル」が表示される図柄組合せであり、以下では、「CTベル」と呼ぶことがあり、「C__CUベル__01」～「C__CUベル__18」に係る図柄組合せは、クロスアップ(CU)ラインに図柄「ベル」が表示される図柄組合せであり、以下では、「CUベル」と呼ぶことがあり、「C__BTベル__01」～「C__BTベル__09」に係る図柄組合せは、ボトム(BT)ラインに図柄「ベル」が表示される図柄組合せであり、以下では、「BTベル」と呼ぶことがある。

10

【 1 3 9 0 】

また、コンビネーション名「C__左1枚役A__01」～「C__右1枚役B__06」は、略称「1枚出目」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、1枚のメダルが払い出される。

20

【 1 3 9 1 】

また、コンビネーション名「C__左移行役__01」～「C__右移行役__06」は、略称「RT0移行図柄」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、1枚のメダルが払い出されるとともに、遊技状態がRT0状態に移行する(図178参照)。

【 1 3 9 2 】

また、コンビネーション名「C__スイカA__01」～「C__スイカF__02」は、略称「スイカ」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、3枚のメダルが払い出される。また、コンビネーション名「C__チェリーA__01」～「C__チェリーE__02」は、略称「チェリー」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、3枚のメダルが払い出される。

30

【 1 3 9 3 】

また、コンビネーション名「C__SP役A__01」～「C__SP役G」は、略称「確定出目」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、1枚のメダルが払い出される。また、コンビネーション名「C__Vベル__01」～「C__Vベル__18」は、略称「CBB中ベル」に係る図柄組合せであり、有効ラインに沿って表示されると、12枚のメダルが払い出される。

【 1 3 9 4 】

[当籤役と停止表示される図柄組合せとの対応関係]

続いて、図205を参照して、内部当籤役と停止表示される図柄組合せとの対応関係について説明する。なお、図205は、決定され得る各種内部当籤役と、各内部当籤役決定時に停止表示される図柄組合せ(略称)との対応関係を示す図である。

40

【 1 3 9 5 】

本実施形態のパチスロ1では、遊技者の停止操作の順序(押し順)に応じて表示される図柄組合せが異なる役、いわゆる「押し順役」を設ける。本実施形態のパチスロ1では、「F__6択維持リプ123」～「F__6択維持リプ321」、「F__6択突入リプ123」～「F__6択突入リプ321」、「F__6択転落リプ123」～「F__6択転落リプ321」、「F__3択昇格リプ1xx」～「F__3択昇格リプ3xx」、及び「F__123ベルA」～「F__321ベルB」が押し順役である。なお、以下では、「F__6択維持リプ123」～「F__6択維持リプ321」を「6択維持リプ」と呼ぶことがあり、「F__6択突入リプ123」～「F__6択突入リプ321」を「6択突入リプ」と呼ぶことがあり

50

、「F__6 択転落リブ1 2 3」～「F 6 択転落リブ3 2 1」を「6 択転落リブ」と呼ぶ
 ことがあり、「F__3 択昇格リブ1 x x」～「F__3 択昇格リブ3 x x」を「3 択昇格リブ
 」と呼ぶことがあり、「F__1 2 3 ベルA」～「F__3 2 1 ベルB」を「押し順ベル」と
 呼ぶことがある。

【1 3 9 6】

上述した通り、押し順役には、その名称の一部に、正解となる押し順を示す。例えば、
 名称の一部に「1 x x」とある内部当籤役は、正解となる押し順が、第1停止操作が左リ
 ール3 Lに対するものであることを意味し、名称の一部に「2 x x」とある内部当籤役は
 、正解となる押し順が、第1停止操作が中リール3 Cに対するものであることを意味し、
 名称の一部に「3 x x」とある内部当籤役は、正解となる押し順が、第1停止操作が右リ
 ール3 Rに対するものであることを意味する。また、内部当籤役の名称の一部に「1 2 3
 」とある内部当籤役は、正解となる押し順が「左、中、右」の順であることを意味し、内
 部当籤役の名称の一部に「1 3 2」とある内部当籤役は、正解となる押し順が「左、右、
 中」の順であることを意味し、内部当籤役の名称の一部に「2 1 3」とある内部当籤役は
 、正解となる押し順が「中、左、右」の順であることを意味し、内部当籤役の名称の一部
 に「2 3 1」とある内部当籤役は、正解となる押し順が「左、右、中」の順であることを
 意味し、内部当籤役の名称の一部に「3 1 2」とある内部当籤役は、正解となる押し順が
 「右、左、中」の順であることを意味し、内部当籤役の名称の一部に「3 2 1」とある内
 部当籤役は、正解となる押し順が「右、中、左」の順であることを意味する。

10

【1 3 9 7】

図205(A)は、表示される図柄組合せが押し順に関係のない役(非押し順役)にお
 ける内部当籤役と停止表示される図柄組合せとの対応関係である。パチスロ1では、非押
 し順役が内部当籤役として決定されると、図205(A)において対応付けられた図柄組
 合せの略称のうち、図183～図196に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効
 ラインに沿って表示される。なお、非押し順役のうち内部当籤役「F__クラウンBB」「
 F__赤BB」及び「F__青BB」は、所謂取りこぼしが生じる当籤役であり、停止操作の
 タイミングが正確である場合(所謂、目押しが正確である場合)に、図205(A)に示
 す図柄組合せの略称のうちの、図183～図196に示した表示可能な図柄組合せのい
 ずれかが有効ラインに沿って表示される。

20

【1 3 9 8】

図205(B)は、表示される図柄組合せが押し順に関係のある役(押し順役)にお
 ける内部当籤役と停止表示される図柄組合せとの対応関係である。なお、図205(B)で
 は、「押し順ベル」の対応関係は省略しているが、「押し順ベル」が内部当籤役として決
 定された場合の表示される図柄組合せについては、後に後述する。

30

【1 3 9 9】

図205(B)に示すように、内部当籤役「6 択維持リブ」は、押し順に応じて表示さ
 れる図柄組合せが異なり、押し順が正解である場合には、コンビネーション名「C__CU
 リブ」に係る図柄組合せのうちの図183～図196に示した表示可能な図柄組合せのい
 ずれかが有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、コンビ
 ネーション名「C__BTリブ」又は「C__CTリブ」に係る図柄組合せのうちの図183～
 図196に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

40

【1 4 0 0】

なお、コンビネーション名「C__CUリブ」とは、略称「斜めリプレイ」のうちのコン
 ビネーション名「C__CDリブ」以外の「C__CUリブ__01」～「C__CUリブ__09
 」をいう(図197～図204参照)。また、コンビネーション名「C__BTリブ」とは
 、略称「平行リプレイ(RT1移行図柄)」のうちのコンビネーション名「C__BTリブ
 __01」～「C__BTリブ__09」をいい、また、コンビネーション名「C__CTリブ」
 とは、略称「平行リプレイ(RT1移行図柄)」のうちのコンビネーション名「C__CT
 リブ__01」～「C__BTリブ__06」をいう。

【1 4 0 1】

50

内部当籤役「6 択維持リブ」において押し順が正解の場合に有効ラインに沿って表示されるコンビネーション名「C__CUリブ」に係る図柄組合せは、RT状態の移行契機とはならない図柄組合せであるため、「6 択維持リブ」が内部当籤役として決定され、かつ、押し順が正解の場合には、RT状態が移行することなく維持される。反対に、押し順が正解でない場合に有効ラインに沿って表示されるコンビネーション名「C__BTリブ」又は「C__CTリブ」に係る図柄組合せは、RT1移行図柄であるため、無限RT中に「6 択維持リブ」が内部当籤役として決定され、かつ、押し順が不正解の場合には、RT状態がRT1状態に移行することになる。

【1402】

また、内部当籤役「6 択突入リブ」は、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なり、押し順が正解である場合には、略称「小山リプレイ」に係る図柄組合せのうち図183～図196に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、コンビネーション名「C__BTリブ」又は「C__CTリブ」に係る図柄組合せのうち図183～図196に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

10

【1403】

内部当籤役「6 択突入リブ」において押し順が正解の場合に有効ラインに沿って表示される略称「小山リプレイ」に係る図柄組合せは、RT4移行図柄であり、また、押し順が正解でない場合に有効ラインに沿って表示されるコンビネーション名「C__BTリブ」又は「C__CTリブ」に係る図柄組合せは、RT1移行図柄である。そのため、無限RT中に「6 択突入リブ」が内部当籤役として決定され、かつ、押し順が正解の場合には、RT状態がRT4状態に移行することになり、反対に、押し順が不正解の場合には、RT状態がRT1状態に移行することになる。

20

【1404】

また、内部当籤役「6 択転落リブ」は、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なり、押し順が正解である場合には、略称「C__CUリブ」に係る図柄組合せのうち図183～図196に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、コンビネーション名「小山リプレイ」に係る図柄組合せのうち図183～図196に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

30

【1405】

内部当籤役「6 択転落リブ」において押し順が正解の場合に有効ラインに沿って表示されるコンビネーション名「C__CUリブ」に係る図柄組合せは、RT状態の移行契機とはならない図柄組合せであり、押し順が正解でない場合に有効ラインに沿って表示されるコンビネーション名「小山リプレイ」に係る図柄組合せは、RT4移行図柄である。そのため、無限RT中に「6 択転落リブ」が内部当籤役として決定され、かつ、押し順が正解の場合には、RT状態が移行することなく維持されることになり、反対に、押し順が不正解の場合には、RT状態がRT4状態に移行することになる。

【1406】

また、内部当籤役「3 択昇格リブ」は、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なり、押し順が正解である場合には、略称「強チャンスリブ」に係る図柄組合せのうち図183～図196に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。一方、押し順が正解でない場合には、コンビネーション名「C__CUリブ」又は「C__BTリブ」に係る図柄組合せのうち図183～図196に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

40

【1407】

内部当籤役「3 択昇格リブ」において押し順が正解の場合に有効ラインに沿って表示される略称「強チャンスリブ」に係る図柄組合せは、RT5移行図柄であるため、無限RT中に「3 択昇格リブ」が内部当籤役として決定され、かつ、押し順が正解の場合には、RT状態がRT5状態に移行する。一方、押し順が正解でない場合に有効ラインに沿って表

50

示される図柄組合せのうち、コンビネーション名「C__CUリブ」に係る図柄組合せは、RT状態の移行契機とはならない図柄組合せであり、また、コンビネーション名「C__BTリブ」又は「C__CTリブ」に係る図柄組合せは、RT1移行図柄である。そのため、無限RT中に「3 択昇格リブ」が内部当籤役として決定され、かつ、押し順が不正解の場合には、RT状態が維持されることもあり、また、RT状態がRT1状態に移行することもある。

【1408】

[報知(A RT)機能の作動の有無を考慮した遊技状態の遷移フロー]

続いて、図206及び図207を参照して、報知(A RT)機能の作動の有無を考慮した遊技状態の遷移フローについて説明する。本実施形態では、主制御回路90(メインCPU101)により、遊技者にとって有利な停止操作を報知する機能(A RT機能)の作動の有無が決定される。それゆえ、本実施形態では、ボーナス非作動状態においてA RT機能の作動/非作動状態も遊技状態として管理する。

10

【1409】

本実施形態のパチスロ1では、主制御回路90は、非ボーナス作動状態において、報知(A RT)の有無に基づいて「通常状態」「CZ(チャンスゾーン)」及び「A RT状態」を別個の遊技状態として管理する(より詳細には、図206に示すように、それぞれの遊技状態への前兆期間や準備期間も別個の遊技状態として管理する)。

【1410】

通常状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しない遊技状態(非ナビ区間)であり、遊技者にとって不利な遊技状態である。通常状態は、RT0~RT5状態のいずれかの状態である。

20

【1411】

CZ(チャンスゾーン)は、通常状態に比べてA RT抽籤に当籤する確率が高い遊技状態であり、通常状態に比べると遊技者にとって有利な遊技状態である。本実施形態のパチスロ1において、CZは、「初当りCZ」と「継続CZ」とからなり、また、継続CZは、更に「CZ(A RT後)」と「特殊CZ」とからなる。

【1412】

CZは、1セット10ゲームの遊技期間であるが、CZからA RT状態に移行すると、残りの遊技期間が最低5ゲーム延長される。後述するようにパチスロ1では、CZ中にA RT抽籤に当籤すると、CZを一時中断してA RT状態に移行する。そして、その後A RT状態が終了すると、中断していたCZを再開する。また、この再開したCZにおいてA RT抽籤に当籤すると、CZを一時中断してA RT状態に移行し、A RT状態の終了後に中断していたCZを再開する。

30

【1413】

このときCZからA RT状態に移行するたびに、CZの残り遊技期間が延長されるため、パチスロ1では、CZ中のA RT抽籤に当籤する限り、CZとA RT状態とがループする。初当りCZは、このようなCZとA RT状態とのループにおける最初のCZであり、継続CZは、CZとA RT状態とのループ中に用いられるCZである。すなわち、CZとA RT状態とのループは、初当りCZから始まり、初当りCZ中にA RT抽籤に当籤すると、A RT状態に移行し、このA RT状態が終了すると、その後、継続CZとA RT状態とがループすることになる。

40

【1414】

初当りCZは、通常状態から(CZ前兆を介して)移行するCZであり、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知しない遊技状態(非ナビ区間)である。初当りCZは、RT0~RT5状態のいずれかの状態である。

【1415】

継続CZは、A RT状態から(前兆を介さずに)移行するCZであり、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する遊技状態(ナビ区間)である。継続CZは、基本的には、RT4状態又はRT5状態のいずれかの状態である。継続CZのうち、CZ(A RT後

50

)と特殊CZとは、ART抽籤に当籤する確率がそれぞれ異なる状態であり、後述するように、特殊CZの方がCZ(ART後)よりもART抽籤に当籤する確率が高い。

【1416】

また、ART状態は、遊技者にとって有利な停止操作の情報を報知する遊技状態(ナビ区間)であり、遊技者にとって有利な遊技状態である。また、ART状態は、基本的には、RT4状態又はRT5状態のいずれかの状態である。なお、本実施形態では、ARTに当籤している状態で前兆遊技が終了し、RT状態がRT4状態又はRT4状態まで移行すると、ART状態が開始される。

【1417】

図206に示すように、ART状態は、「通常ART」と「EP(エピソード)」と「ランク決めART」とからなる。通常ARTは、1セットを30ゲームとするART状態であり、1セット終了後は必ずCZ(継続CZ)に再突入する。EPは、所謂上乘せ特化ゾーンであり、ART状態の継続期間の延長が通常ARTよりも高確率で行われる状態である。なお、本実施形態のパチスロ1では、基本的には、セット数によりART状態の継続期間を管理しているため、EP中は、高確率でART状態の権利が付与されることになる(なお、ART状態の権利は、メインRAM103に記憶されており、ART状態の権利が付与されると、付与された数の権利がメインRAM103に記憶され、また、遊技状態がCZや通常状態からART状態に移行すると、メインRAM103に記憶されているART状態の権利が1つ消去される)。

【1418】

ランク決めARTは、CZからART状態に移行した後の最初の1ゲームで完結する遊技状態であり、その後に行われる通常ART中のランクを決定する。なお、詳細は後述するが、通常ART中のランクは、通常ART中における各種上乘せ(例えば、ART状態のセット数の上乘せやCZのゲーム数の上乘せ)に影響を与える情報であり、高ランクであるほど各種上乘せが優遇されている。

【1419】

図206及び図207に示すように、通常状態において後述するCZ抽籤に当籤し、かつ、1ゲーム以上のCZ前兆ゲーム数が決定されると(移行条件(A1)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を通常状態からCZ前兆に移行させる。CZ前兆は、CZに移行する前に行われる前兆期間であり、CZ前兆においてCZ前兆ゲーム数が消化されると(移行条件(A2)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をCZ前兆から初当りCZに移行させる。

【1420】

また、初当りCZにおいて後述するART抽籤に当籤すると、当籤した遊技におけるRT状態が低RT状態(RT0~RT3状態)である場合には(移行条件(B1)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を初当りCZからART準備中に移行させる。ART準備中は、ART抽籤に当籤した後に遊技状態をART状態に移行させるための準備期間であり、RT状態を高RT状態(RT4又はRT5状態)に移行させるために必要な停止操作の情報が報知される。この報知の結果、RT状態が高RT状態まで移行すると(移行条件(B2)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をART準備中からランク

【1421】

一方、初当りCZにおいて、ART抽籤に当籤した遊技におけるRT状態が高RT状態である場合には(移行条件(B3)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を初当りCZからランク決めARTに移行させる。また、初当りCZがART抽籤に当籤することなく終了すると(移行条件(B4)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を初当りCZから通常状態に移行させる。

【1422】

また、通常状態中もART抽籤を行っており、通常状態においてART抽籤に当籤し、かつ、1ゲーム以上のART前兆ゲーム数が決定されると(移行条件(C1)が成立する

10

20

30

40

50

と)、主制御回路90は、遊技状態を通常状態からART前兆に移行させる。ART前兆は、ART状態に移行する前に行われる前兆期間である。ART前兆においてART前兆ゲーム数が消化されると、ART前兆ゲーム数が消化された遊技におけるRT状態が低RT状態である場合には(移行条件(C2)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をART前兆からART準備中に移行させ、ART前兆ゲーム数が消化された遊技におけるRT状態が高RT状態である場合には(移行条件(C3)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をART前兆からランク決めARTに移行させる。

【1423】

なお、図206及び図207に示すように、本実施形態のパチスロ1では、CZ前兆及びART前兆は、通常状態からCZ又はART状態に移行する際に經由することがある一方で、CZからART状態、又はART状態からCZに移行する場合には經由することがない。

10

【1424】

続いて、ランク決めARTは、1ゲームで完結し、1ゲームが行われるとランク決めART中に決定した通常ART中のランクに基づいて他の遊技状態に移行する。具体的には、ランク決めART中に決定したランクが3以下である場合には(移行条件(D)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をランク決めARTから通常ARTに移行させる。

【1425】

また、ランク決めART中に決定したランクが4であり、かつ、ランク決めART終了時のRT状態がRT4状態である場合には(移行条件(E1)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をランク決めARTからEP準備中に移行させる。EP準備中は、ランク決めARTからEPに移行させる際にRT状態をRT5状態に移行させるための準備期間(なお、EPは、RT5状態中に行われる遊技状態である)であり、EP準備中にRT状態がRT5状態まで移行すると(移行条件(E2)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をEP準備中からEPに移行させる。一方、ランク決めART中に決定したランクが4であり、かつ、ランク決めART終了時のRT状態がRT5状態である場合には(移行条件(E3)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をランク決めARTからEPに移行させる。

20

【1426】

また、通常ARTにおいて、ナビ高確中に「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定され、かつ、当該遊技においてRT5状態に移行すると(移行条件(F)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を通常ARTからEPに移行させる。なお、「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定された遊技では、押し順正解時に略称「強チャンスリブ(RT5移行図柄)」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示され、RT状態がRT5状態に移行する一方で、押し順不正解時には、RT状態がRT5状態に移行しない。後述するように、通常ART中は、ナビ高確中は、「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定された場合に正解の押し順を報知する一方で、非ナビ高確中は、「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定された場合には不正解の押し順(コンビネーション名「C_CUリブ」に係る図柄組合せが表示される押し順)を報知する。そのため、ART状態中の押し順の報知に従う限り、非ナビ高確中にRT状態がRT5状態に移行することがなく、また、非ナビ高確中に押し順の報知に従わずにRT5状態に移行してしまった場合には、ナビ高確中ではないため移行条件(F)が成立することないため、非ナビ高確中に遊技状態がEPに移行することがない。

30

40

【1427】

また、EPにおいて、保証なし時の「6択転落リブ」が内部当籤役として決定され、かつ、当該遊技においてRT4状態に移行すると(移行条件(G)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をEPから通常ARTに移行させる。なお、「6択転落リブ」が内部当籤役として決定された遊技では、押し順不正解時に略称「小山リプレイ(RT4移行図柄)」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示され、RT状態がRT4状態に移行する一方で、押し順正解時には、RT状態がRT4状態に移行しない。後述するように、

50

EP中は、RT4状態への転落回避の保証がある場合には、「6択転落リブ」の当籤時に正解の押し順を報知する一方で、保証がない場合には、「6択転落リブ」の当籤時に正解及び不正解の何れの押し順も報知しない(すなわち、押し順自体を報知しない)。そのため、保証なし時のEP中は、「6択転落リブ」の当籤時に自力で正解の押し順を当てることでEPを継続することができ、反対に押し順が不正解になってしまうと、EPから通常ARTに遊技状態が移行してしまう。

【1428】

また、通常ARTのゲーム数が消化され、1セットの通常ARTが終了すると(移行条件(H)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を通常ARTから継続CZに移行させる。

【1429】

また、継続CZにおいて移行条件(I)が成立すると、主制御回路90は、遊技状態を継続CZから通常ARTに移行させる。ここで、継続CZ中はART抽籤を行っており、このART抽籤に当籤した場合に移行条件(I)が成立することになる。また、後述するように、本実施形態のパチスロ1では、ART状態のセット数を上乘せ(ストック)することがあり、継続CZの終了時にセット数のストックが残っている場合には、ストックの放出を行い、遊技状態が継続CZから通常ARTに移行する。そのため、継続CZから通常ARTに移行することになる移行条件(I)は、継続CZ中のART抽籤に当籤すること、又は、ART状態のセット数のストックが放出されること、の何れかが満たされた場合に成立する。

【1430】

一方で、移行条件(I)が成立することなく継続CZのゲーム数が消化してしまった場合には(移行条件(J)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を継続CZから通常状態に移行させる。なお、本実施形態のパチスロ1では、継続CZ(初当りCZも同様)から通常状態に移行する際に特殊な遊技性を有しており、この点の詳細は、図210で後述する。

【1431】

また、特定状態中にボーナスに係る役(「F__クラウンBB」「F__赤BB」又は「F__青BB」)が内部当籤役として決定されると(移行条件(K1)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を特定状態から通常フラグ間に移行させる。なお、特定状態とは、通常状態、CZ前兆状態又はART前兆状態の何れかである。また、通常フラグ間において、ボーナスに係る役が入賞しボーナスが作動すると(移行条件(K2)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を通常フラグ間から通常BBに移行させる。そして、通常BBにおいて規定枚数のメダルが払い出されボーナスの作動が終了すると(移行条件(K3)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を通常BBから特定状態に移行させる。なお、通常BBから移行する特定状態は、移行条件(K1)が満たされたときに滞在していた遊技状態である。

【1432】

また、通常フラグ間において後述するART抽籤に当籤すると(移行条件(L)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を通常フラグ間からART中フラグ間に移行させる。同様に、通常BBにおいて後述するART抽籤に当籤すると(移行条件(M)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を通常BBからART中BBに移行させる。

【1433】

また、所定状態中にボーナスに係る役が内部当籤役として決定されると(移行条件(N1)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態を所定状態からART中フラグ間に移行させる。なお、所定状態とは、CZ(初当りCZ及び継続CZ)、ART準備中、ランク決めART、通常ART、EP前兆及びEPの何れかである。また、ART中フラグ間において、ボーナスに係る役が入賞しボーナスが作動すると(移行条件(N2)が成立すると)、主制御回路90は、遊技状態をART中フラグ間からART中BBに移行させる。そして、ART中BBにおいて規定枚数のメダルが払い出されボーナスの作動が終了す

10

20

30

40

50

ると（移行条件（N3）が成立すると）、主制御回路90は、遊技状態をART中BBからART準備中に移行させる。

【1434】

なお、図206に示すように、複数の遊技状態のうちの、通常状態、CZ前兆、ART前兆及び初当りCZは、遊技者に対して停止操作の情報を報知しない遊技状態（非ナビ区間）であり、また、ART準備中、ランク決めART、通常ART、EP前兆及び継続CZは、遊技者に対して停止操作の情報を報知する遊技状態（ナビ区間）である。また、EP中は、基本的にはナビ区間であるが、保証がない場合の「6択転落リブ」の当籤時に限り、非ナビ区間として扱われる。

【1435】

ここで、図205（B）を参照して、ナビ区間では、「6択維持リブ」又は「6択突入りリブ」が内部当籤役として決定されると、遊技者に対して正解の押し順が報知される。一方、ナビ区間であっても「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定された場合は、ナビ高確中であるか非ナビ高確中であるかに応じて報知する停止操作の情報が異なる。具体的には、ナビ区間中のナビ高確中は、「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定されると、正解の押し順を報知し略称「強チャンスリブ」に係る図柄組合せの表示を促し、ナビ区間中の非ナビ高確中は、「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定されると、不正解の押し順のうちのコンビネーション名「C__CUリブ」に係る図柄組合せが表示される押し順を報知する。

【1436】

また、「6択転落リブ」当籤時に報知する押し順は、EP中の転落回避の保証の有無に応じて異なり、保証あり時（ナビ区間）では、正解の押し順を報知しコンビネーション名「C__CUリブ」に係る図柄組合せの表示を促し、保証なし時（非ナビ区間）では、何らの押し順も報知しない。なお、EP中の転落回避の保証の有無は、後述する転落モードに基づき管理される。

【1437】

[内部当籤役と抽籤用フラグとの対応関係]

続いて、本実施形態のパチスロ1における遊技の流れの詳細について説明する。ここで、パチスロ1では、内部当籤役などに基づき各種の抽籤を行うが、以下では、内部当籤役を抽籤用フラグに変換した上で各種の抽籤を行う。図208は、内部当籤役と抽籤用フラグとの対応関係を示す図である。なお、本実施形態のパチスロ1では、各種抽籤をリール回転開始時（スタート時）又はリール停止時に行うことがある。図208（A）は、スタート時に行う各種抽籤に用いる抽籤用フラグと内部当籤役との対応関係を示し、図208（B）は、スタート時又はリール停止時に行う各種抽籤に用いる抽籤用フラグと内部当籤役との対応関係を示す。

【1438】

図208（A）に示すように、スタート時に行う各種抽籤に用いる抽籤用フラグは、内部当籤役から決定される。例えば、内部当籤役「押し順ベル」及び「F__共通ベル」は、抽籤用フラグ「ベル」に対応する。また、「BB（CBB又はNBB）中のはずれ」は、抽籤用フラグ「ベルはずれA」に対応し、内部当籤役「F__BB中弱チェリリブ」は、抽籤用フラグ「ベルはずれB」に対応する。

【1439】

続いて、図209（B）に示すように、リール停止時に行う各種抽籤に用いる抽籤用フラグは、リール停止時に有効ラインに沿って表示された図柄組合せから決定される。上述したように、本実施形態のパチスロ1では、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なる押し順役を設けており、このような押し順役では、遊技者が実際に停止操作を行うまで、パチスロ1側において表示される図柄組合せを把握することができない。そこで、パチスロ1では、押し順役の一部については、表示された図柄組合せ（言い換えると、押し順の正解の有無）に応じて抽籤用フラグを異ならせている。

【1440】

10

20

30

40

50

なお、ART状態などのナビ区間中は、遊技者に対して停止操作の情報（押し順）が報知されるため、押し順役の当籤時に表示されるべき図柄組合せを、パチスロ1側において予め把握することができる。そこで、図209（B）に示すように、パチスロ1では、押し順役の一部と対応する抽籤用フラグとを、ナビ区間と非ナビ区間とで異ならせている。なお、パチスロ1では、表示される（表示されるべき）図柄組合せをパチスロ1側で予め把握できない非ナビ区間中は、各種抽籤をリール停止時に行い、パチスロ1側で予め把握できるナビ区間中は、各種抽籤をスタート時に行う。

【1441】

図209（B）に示すように、内部当籤役「6択突入りブ」は、非ナビ区間では、押し順正解時に抽籤用フラグ「弱チャンスリブ」が対応し、また、押し順不正解時に抽籤用フラグ「通常リブ」が対応する。また、内部当籤役「6択突入りブ」は、ナビ区間では、抽籤用フラグ「弱チャンスリブ」が対応する。なお、後述するように、各種抽籤では、抽籤用フラグ「通常リブ」よりも抽籤用フラグ「弱チャンスリブ」の方が抽籤結果が優遇されている。

10

【1442】

ここで、内部当籤役「6択突入りブ」は、押し順正解時にRT2状態からRT4状態に移行する契機となる当籤役であるが、各種抽籤に用いる抽籤用フラグは、押し順正解時（RT4状態に移行）には「弱チャンスリブ」、押し順不正解時（RT2状態のまま維持）には「通常リブ」が対応するため、対応する抽籤用フラグもRT状態も押し順正解時の方が優遇されている。

20

【1443】

また、内部当籤役「6択転落リブ」は、非ナビ区間では、押し順正解時に抽籤用フラグ「通常リブ」が対応し、また、押し順不正解時に抽籤用フラグ「弱チャンスリブ」が対応する。また、内部当籤役「6択転落リブ」は、ナビ区間では、抽籤用フラグ「弱チャンスリブ」が対応する。

【1444】

ここで、内部当籤役「6択転落リブ」は、押し順不正解時にRT5状態からRT4状態に移行（転落）する契機となる当籤役であるが、各種抽籤に用いる抽籤用フラグは、押し順正解時（RT5状態のまま維持）には「通常リブ」、押し順不正解時（RT4状態に転落）には「弱チャンスリブ」が対応するため、対応する抽籤用フラグとしては、押し順不正解時の方が押し順正解時よりも優遇されている。一方で、RT状態がRT5状態からRT4状態に転落してしまうため、RT状態の観点からは、押し順正解時の方が押し順不正解時よりも優遇されている。

30

【1445】

続いて、内部当籤役「3択昇格リブ」は、非ナビ区間では、押し順正解時に抽籤用フラグ「強チャンスリブ」が対応し、また、押し順不正解時に抽籤用フラグ「通常リブ」が対応する。また、内部当籤役「3択昇格リブ」は、ナビ区間中は、ナビ高確又は非ナビ高確に応じて対応する抽籤用フラグが異なり、ナビ区間中のナビ高確時は、抽籤用フラグ「強チャンスリブ」が対応し、また、ナビ区間中の非ナビ高確時は、抽籤用フラグ「通常リブ」が対応する。なお、後述するように、各種抽籤では、抽籤用フラグ「通常リブ」よりも抽籤用フラグ「強チャンスリブ」の方が抽籤結果が優遇されている。

40

【1446】

ここで、内部当籤役「3択昇格リブ」は、押し順正解時にRT4状態からRT5状態に移行（昇格）する契機となる当籤役であるが、各種抽籤に用いる抽籤用フラグは、押し順正解時（RT5状態に昇格）には「強チャンスリブ」、押し順不正解時（RT4状態のまま維持）には「通常リブ」が対応するため、対応する抽籤用フラグもRT状態も押し順正解時の方が優遇されている。

【1447】

[各遊技状態中の遊技性]

続いて、図209～図214を参照して、パチスロ1における代表的な遊技状態中の遊

50

技の流れについて説明する。

【1448】

< 通常状態中の遊技性 >

初めに、図209を参照して、通常状態中の遊技の流れについて説明する。本実施形態のパチスロ1では、通常状態中はART状態を目指して遊技を行うことになる。通常状態からART状態への移行は、通常状態からCZを経由してART状態に移行するパターン（図209（A）参照）と、通常状態から直接ART状態に移行するパターン（図209（B）参照）との2パターンがある。

【1449】

図209（A）を参照して、通常状態からCZを経由してART状態に移行するパターンでは、主制御回路90は、通常状態中にCZ抽籤を行い、CZ抽籤に当籤すると遊技状態を通常状態から（CZ前兆を介して）CZに移行させ、CZ抽籤に当籤しないと遊技状態を通常状態のまま維持する。パチスロ1では、主制御回路90は通常状態中に、抽籤用フラグ「ベル」に基づくCZ抽籤（図209（A-1）参照）、及びベル以外の抽籤用フラグに基づくCZ抽籤（図209（A-2）参照）を行う。

10

【1450】

図209（A-1）に示すように、パチスロ1では、通常状態中のモードとして、モード1、モード2、モード3及びモード4の4段階のモードを有しており、主制御回路90は、抽籤用フラグが「ベル」である場合に、現在のモードに基づいてCZ抽籤を行う。なお、4段階のモードのうち、抽籤用フラグ「ベル」に基づくCZ抽籤に当籤する確率は、モード1が最も低く、モード2が次に低く、モード3が次に低く、モード4が最も高い。

20

【1451】

また、図209（A-2）に示すように、パチスロ1では、通常状態中の抽籤状態として低確、高確及び超高確の3段階の抽籤状態を有しており、主制御回路90は、抽籤用フラグがベル以外である場合に、抽籤用フラグ及び現在の抽籤状態に基づいてCZ抽籤を行う。なお、3段階の抽籤状態のうち、ベル以外の抽籤用フラグに基づくCZ抽籤に当籤する確率は、低確が最も低く、高確が次に低く、超高確が最も高い。

【1452】

主制御回路90は、通常状態中にモード及び抽籤状態を様々な契機で移行させつつ、抽籤用フラグとモード又は抽籤状態とに基づきCZ抽籤を行う。その結果、通常状態中にCZ抽籤に当籤すると遊技状態を通常状態から（CZ前兆を介して）CZに移行させ、CZ抽籤に当籤しないと遊技状態を通常状態のまま維持する。

30

【1453】

また、通常状態から直接ART状態に移行するパターンも、図209（B-1）（B-2）に示すように、2つのパターンが設けられている。直接ART状態に移行する一つのパターンは、図209（B-1）に示すように、主制御回路90は、通常状態中に抽籤用フラグと抽籤状態等とに基づきART抽籤を行い、その結果、ART抽籤に当籤すると、遊技状態を通常状態から（ART前兆及びART準備中を介して）ART状態に移行させ、ART抽籤に当籤しないと遊技状態を通常状態のまま維持する。

【1454】

一方、直接ART状態に移行する二つ目のパターンでは、主制御回路90は、ART抽籤を行うことなく、RT状態がRT3状態に移行するとART状態のストックを付与して、その後、遊技状態を通常状態から（ART前兆及びART準備中を介して）ART状態に移行させる。

40

【1455】

ここで、上述のようにRT3状態へは、無限RT状態中にRT3移行図柄である略称「チェリプ」に係る図柄組合せが表示されると、移行する。図205を参照すると、略称「チェリプ」に係る図柄組合せは、内部当籤役として「F_弱チェリプ」が遊技において表示され、その他の役が内部当籤役として決定された場合には表示されない。また、図180を参照すると、無限RT状態では、「F_弱チェリプ」はRT2状態中に低い確率（3

50

2 / 6 5 5 3 6) で内部当籤役として決定され、その他の無限 R T 状態 (R T 0 状態、 R T 4 状態及び R T 5 状態) 中は、内部当籤役として決定されることがないため、 R T 3 状態へは、 R T 2 状態からのみ移行することがあり、その他の R T 状態から移行することがない (図 1 7 8 参照) 。

【 1 4 5 6 】

そのため、直接 A R T 状態に移行する二つ目のパターンでは、主制御回路 9 0 は、 R T 状態が R T 2 状態から R T 3 状態に移行すると、遊技状態を通常状態から A R T 状態に移行させることになる。なお、有限 R T 状態である R T 1 状態中は、「 F __ 弱チェリブ 」が中程度の確率 (8 7 4 / 6 5 5 3 6) で内部当籤役として決定されるが (図 1 8 0 参照) 、 R T 1 状態中に略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せが表示されても、 R T 1 状態は有限 R T 状態であるため、 R T 3 状態に移行することはない。

10

【 1 4 5 7 】

また、 R T 3 状態中は、「 F __ 弱チェリブ 」が高確率 (1 8 7 5 2 / 6 5 5 3 6) で内部当籤役として決定される (図 1 8 0 参照) 。そのため、 R T 3 状態に移行できた場合には略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せが頻繁に表示されることになる。遊技者にとってみれば、略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せが頻繁に表示されることで、 R T 3 状態中であること、すなわち、 A R T 状態のストックが付与されていることについて期待感を抱くことになる。このように本実施形態のパチスロ 1 では、特定の図柄組合せが頻繁に表示されると、 A R T 状態のストックという特典が付与されている期待感を抱くことができる。

20

【 1 4 5 8 】

なお、 R T 3 状態に移行したことに伴い A R T 状態に移行する場合の、 A R T 前兆の開始タイミングは任意である。すなわち、 R T 3 状態に移行した時点で遊技状態を通常状態から A R T 前兆に移行することとしてもよく、また、 R T 3 状態中に任意のゲーム数が経過した時点で遊技状態を通常状態から A R T 前兆に移行することとしてもよく、また、 R T 3 状態から R T 0 状態に移行した時点で遊技状態を通常状態から A R T 前兆に移行することとしてもよい。

【 1 4 5 9 】

< C Z 中の遊技性 >

続いて、図 2 1 0 及び図 2 1 1 を参照して、 C Z 中の遊技の流れについて説明する。

【 1 4 6 0 】

図 2 1 0 (A) に示すように、本実施形態のパチスロ 1 では、 C Z 中に A R T 抽籤を行っており、この A R T 抽籤に当籤すると、 C Z を一時中断して A R T 状態に移行する。そして、その後 A R T 状態が終了すると、中断していた C Z を再開し、再び A R T 抽籤を行う。このようにパチスロ 1 では、 C Z 中は、 C Z ゲーム数が残っている限り C Z と A R T 状態とがループする。

30

【 1 4 6 1 】

また、 C Z の最終ゲームにおいて A R T 抽籤に非当籤の場合には、 C Z は終了することになるが、 A R T 状態のセット数のストック状況によっては、 C Z の最終ゲーム終了時にストックが残っていることがある。パチスロ 1 では、 C Z の最終ゲームにおいて A R T 抽籤に非当籤の場合であっても、 A R T 状態のセット数のストックが有るときは、ストックを 1 つ放出し、 A R T 状態に遊技状態を移行する。このとき、 C Z から A R T 状態への移行に伴い、 C Z の残りゲーム数が最低 5 ゲーム延長される結果、その後、 C Z と A R T 状態とがループすることになり、また、 A R T 状態のセット数のストックが残っている限り、 C Z の最終ゲーム終了時にストックの放出が行われる結果、 C Z と A R T 状態とがループすることになる。

40

【 1 4 6 2 】

一方で、 C Z の最終ゲームにおいて A R T 抽籤に非当籤であり、かつ、 A R T 状態のセット数のストックがない場合には、 C Z が終了し、遊技状態が通常状態に移行する。このとき、本実施形態のパチスロ 1 では、 C Z 終了後の通常状態の 1 ゲーム目に限り、 2 ゲーム目以降よりも高い確率で当籤する A R T 抽籤 (泣きの 1 回) を行う。この C Z 終了後の

50

1 ゲーム目に行うART抽籤に当籤すると、ART状態に遊技状態を移行し、非当籤すると、通常状態のまま遊技状態を維持する。また、このCZ終了後の1ゲーム目に行うART抽籤に当籤することによりART状態に移行した場合にも、CZの残りゲーム数が最低5ゲーム延長され、結果、その後、CZとART状態とがループすることになり、また、その後のCZの最終ゲームのストック放出や、泣きの1回のART抽籤が行われる結果、CZとART状態とがループすることになる。

【1463】

ここで、上述したように、本実施形態では、通常状態から移行したCZを初当りCZと呼び、CZとART状態とのループ中にART状態から戻った後のCZを継続CZと呼ぶ。続いて、初当りCZの概要と継続CZの概要とについて説明する。

10

【1464】

図210(B)に示すように、初当りCZ中は、CZの残りゲーム数に応じてART状態への移行契機が異なり、初当りCZは、CZの残りゲーム数が1以上の場合の抽籤フェーズAと、CZの残りゲーム数が0である場合の抽籤フェーズBと、から構成される。また、図210(C)に示すように、継続CZは、ART抽籤によるART状態への移行とストックの放出によるART状態への移行という移行契機を有しており、継続CZは、継続CZ中に行う抽籤フェーズAと、CZの残りゲーム数が0である場合の放出フェーズDと、から構成される。

【1465】

なお、CZ終了後の1ゲーム目には泣きの1回のART抽籤が行われるが、この泣きの1回のART抽籤を便宜上、抽籤フェーズCと呼ぶ(抽籤フェーズCは、通常状態中のART抽籤であり、CZを構成するものではない)。

20

【1466】

続いて、図211(D)を参照して、これら各フェーズの概要について説明する。抽籤フェーズA, B, Cは、それぞれ抽籤用フラグなどに基づいてART抽籤を行うフェーズであり、このART抽籤に当籤した場合には、遊技状態がART状態に移行するとともに、CZの残りゲーム数を最低5ゲーム延長(加算)する。一方で、このART抽籤に非当籤の場合には、CZゲーム数が残っている限りCZが継続し、CZゲーム数が残っていない場合には通常状態に移行する。なお、本実施形態のパチスロ1では、抽籤フェーズC(CZ終了後の泣きの1回)においてART抽籤に当籤した場合にも、CZの残りゲーム数を最低5ゲーム延長(加算)する。その結果、抽籤フェーズCでART抽籤に当籤した場合には、その後、CZとART状態とのループが継続することになる。

30

【1467】

また、放出フェーズDは、継続CZの最終ゲームにおいてART抽籤に非当籤であり、かつ、ART状態のセット数のストックがある場合に、保有するストックを1つ放出するフェーズである。放出フェーズDでは、ART状態のセット数のストックが残っている場合には、ART状態に遊技状態を移行するとともに、CZの残りゲーム数を最低5ゲーム延長(加算)する。一方で、放出フェーズDにおいて、ART状態のセット数のストックが残っていない場合には(CZの残りゲーム数が0であるため)、次遊技に、泣きの1回の抽籤フェーズCに基づくART抽籤が行われる。

40

【1468】

なお、本実施形態のパチスロ1では、抽籤フェーズA, B, Cにおいて一度の当籤でART状態のセット数を複数ストックすることがある。この場合、一つ目のストックのみがART抽籤の当籤に応じて放出され、残りのストックは、放出フェーズDで放出されることになる。

【1469】

続いて、図211(E)を参照して、継続CZの種別の決定方法について説明する。上述したようにパチスロ1では、継続CZとして、CZ(ART後)と特殊CZとを有する。主制御回路90は、CZからART状態に移行した際に(より詳細には、ランク決めART中に(図254参照))、当該ART状態から戻った後の継続CZの種別を抽籤する

50

。その結果、特殊CZに非当籤すると、ART状態から戻った後の継続CZがCZ(ART後)となり、特殊CZに当籤すると、ART状態から戻った後の継続CZが特殊CZとなる。

【1470】

ここで、CZは、CZゲーム数分継続することになるが、特殊CZに当籤し、継続CZが特殊CZになった場合、主制御回路90は、それまでの残りCZゲーム数を特殊CZの残りCZゲーム数としてセットする。特殊CZ中は、CZ(ART後)よりも高い確率でART抽籤に当籤するため、パチスロ1では、継続CZの種別の抽籤において特殊CZに当籤すると、残りCZゲーム数の価値が上がることになる。

【1471】

なお、特殊CZに当籤した場合の「それまでの残りCZゲーム数を特殊CZの残りCZゲーム数としてセットする」とは、それまでの残りCZゲーム数を特殊CZの残りCZゲーム数としてセットした場合に、それまでの残りCZゲーム数をクリア(0にする)することであってもよく、それまでの残りCZゲーム数を維持しつつ、当該CZゲーム数を特殊CZの残りCZゲーム数としてセットすることであってもよい。前者の場合には、それまでの残りCZゲーム数をクリアされるため、特殊CZ当籤時のCZ全体の残りゲーム数は、特殊CZのCZゲーム数だけになり、後者の場合には、それまでの残りCZゲーム数も維持されるため、特殊CZ当籤時のCZ全体の残りゲーム数は、通常(CZ(ART後))のCZゲーム数と、特殊CZのCZゲーム数との和になる。

【1472】

続いて、図211(F)は、特殊CZ中の流れを示す図である。上述したように、継続CZは、抽籤フェーズAと放出フェーズDとから構成される。CZとART状態とのループ中に一度、特殊CZに移行すると、図211(F)に示すように、その後の特殊CZにおいて抽籤フェーズAのART抽籤に伴いART状態に移行している限りは、継続CZが特殊CZのまま維持される。なお、特殊CZ中に抽籤フェーズAのART抽籤に伴いART状態に移行している場合、CZゲーム数の上乗せ(最低5ゲーム)は、特殊CZの残りゲーム数に対して行われる。

【1473】

一方で、特殊CZにおいて放出フェーズDのストック放出に伴いART状態に移行した場合には、特殊CZが終了し、継続CZがCZ(ART後)に書き換わる。このように特殊CZ中に放出フェーズDのストック放出に伴いART状態に移行した場合、CZゲーム数の上乗せ(最低5ゲーム)は、通常(CZ(ART後))の残りCZゲーム数に対して行われる。

【1474】

<ART中の遊技性>

続いて、図212及び図213を参照して、ART状態中の遊技の流れについて説明する。

【1475】

図212(A)に示すように、ART状態は、ランク決めARTと通常ARTとEPとから構成される。ランク決めARTは、1ゲームで完結する遊技状態であり、通常ARTは、30ゲームを1セットとする遊技状態であり、EPは、所謂上乗せ特化ゾーンであり、RT4状態に転落するまで継続する遊技状態である。ART状態中は、ARTゲーム数が残っている間、通常ARTからEPへの移行を目指して遊技を行うことになる。一方で、ARTゲーム数を消化してしまうと、遊技状態は、ART状態(通常ART)から継続CZに移行することになる。

【1476】

通常ART中は、ART中の抽籤状態として「低確」「高確」「超高確」が設けられており、これらART中の抽籤状態に応じてEPへの移行し易さが制御される。図212(B)に示すように、ART中の抽籤状態は、ランク決めARTにおいて決めるランクに応じて一義的に定まる。ここで、図212(B)を参照して、ART中の抽籤状態、すなわ

10

20

30

40

50

ち、ARTのランクの決定方法について説明する。

【1477】

図212(B)に示すように、主制御回路90は、ART抽籤の当籤時にARTのランクを仮決めする。ART当籤時のランクの仮決めは、ART抽籤に当籤した際の抽籤用フラグ(内部当籤役)に基づいて行われ、例えば、内部当籤役として決定される確率の低い抽籤用フラグ(所謂、強レア役)に基づいてART抽籤に当籤した場合には、高いランクが決定され易くなっている。

【1478】

上述のように、本実施形態のパチスロ1では、一度の当籤でART状態のセット数を複数ストックすることがある。主制御回路90は、一度の当籤でART状態のセット数を複数のストックした場合、それぞれのストックに対してランクを決定する。なお、後述するように、主制御回路90は、一つ目のストックについては、ART当籤時の抽籤用フラグに基づいてランクを決定し、二つ目以降のストックについては、抽籤用フラグを用いることなくランクを決定するが、これに限られるものではなく、二つ目以降のストックについても、ART当籤時の抽籤用フラグに基づいてランクを決定することとしてもよい。

【1479】

ART当籤時にそれぞれのストックに対してランクを決定(仮決め)すると、主制御回路90は、当該ストックの放出時に移行するランク決めARTにおいて、当籤時に仮決めしたランクの昇格抽籤を行い、ARTのランクを確定する。このランクの昇格抽籤は、1ゲームで完結するランク決めART中の抽籤用フラグに基づいて行われ、例えば、内部当籤役として決定される確率の低い抽籤用フラグ(所謂、強レア役)に基づいてART抽籤に当籤した場合には、ランクの昇格が行われ易くなっている。

【1480】

ランク決めART中の昇格抽籤は、「ランク維持」「ランク+1」「ランク+2」「ランク+3」の何れかが決定され、主制御回路90は、ART当籤時に仮決めしていたランクを昇格抽籤の抽籤結果に応じて更新する。なお、本実施形態では、ランクの最大は「ランク4」であるため、昇格抽籤の結果が「ランク4」以上である場合は「ランク4」とする。

【1481】

このように本実施形態のパチスロ1では、ART当籤時にARTのランクを仮決めしておき、ART状態の開始1ゲーム目(ランク決めART)に、仮決めしたランクからART中のランク(ART中の抽籤状態)を確定させる。言い換えると、本実施形態のパチスロ1では、ART当籤時は、ART中のランクとして幅を持たせたランクを決めておき、その後、ART状態の開始1ゲーム目に幅を持ったランクから具体的なランクを決定する。なお、ランク決めART中の昇格抽籤では、最低でも「ランク維持」が決定されるため、ART当籤時に仮決めされるランクは、本実施形態では、上方向のみの幅を持つことになる。もちろん、昇格抽籤においてランクを下げる抽籤結果(例えば、「ランク-1」など)を採用すれば、ART当籤時に仮決めされるランクに、下方向の幅も持たせることができる。

【1482】

ランク決めART中の昇格抽籤の結果、ART中のランクが確定すると、確定したランクからART中の抽籤状態が一義的に定まる。具体的には、確定したランクが「ランク1」である場合はART中の抽籤状態が「低確」となり、確定したランクが「ランク2」である場合はART中の抽籤状態が「高確」となり、確定したランクが「ランク3」である場合はART中の抽籤状態が「超高確」となり、確定したランクが「ランク4」である場合はART中の抽籤状態が「超高確」、かつ、EPのストックが1つ付与される。なお、確定したランクが「ランク4」である場合には、ランク決めARTの後にEPに移行することになる(図206の移行条件(E1)(E2)又は(E3)参照)。

【1483】

なお、本実施形態のパチスロ1では、ARTのランクや抽籤状態を示唆し、遊技者に対

10

20

30

40

50

して、その後の遊技（１セットの通常ART）に興味を抱かせることとしている。この点、図212（C）を参照して、ARTのランクや抽籤状態を示唆する演出の概要について説明する。

【1484】

パチスロ1では、副制御回路200は、ART状態への移行時に武器ランクに応じた武器を表示することで、ART当籤時の幅を持ったランクを示唆する。具体的には、本実施形態では、武器ランクに応じた武器として、武器ランクが高い順に「武器S」「武器A」「武器B」「武器C」「武器D」に応じた映像データを有しており、ART当籤時のランクから武器ランクを決定し、当該武器ランクに応じた画像を表示する。なお、ART当籤時のランクと武器ランクとの対応関係の詳細は省略するが、副制御回路200は、ART当籤時のランクに応じた確率で、武器ランクを抽籤し、当籤した武器ランクに応じた映像を表示することで、ART当籤時ランクをART状態への移行時に示唆する。

10

【1485】

例えば、副制御回路200は、ART当籤時に「ランク1」が仮決定されている場合には、武器ランクの低い「武器C」又は「武器D」を高い確率で抽籤し、また、ART当籤時に「ランク4」が仮決定されている場合には、反対に武器ランクの高い「武器S」を高い確率で抽籤する。

【1486】

また、図212（C）に示すように、示唆するランクが不明な武器ランク「武器？」及び「武器？」に応じた映像データを設け、ART当籤時のランクを「武器？」で表示する（すなわち、ART当籤時のランクを示唆しない）こととしてもよい。

20

【1487】

この点、本実施形態のパチスロ1では、副制御回路200は、ART抽籤に当籤することを契機にART状態に移行（抽籤フェーズA、B、CからART状態に移行）する場合、「武器S」～「武器D」に応じた画像を表示することで、ART当籤時のランクを示唆し、ストックの放出を契機にART状態に移行（放出フェーズDからART状態に移行）する場合は、「武器？」に応じた画像を表示することで、ART当籤時のランクを示唆しない。なお、放出フェーズDで放出されるART状態のストックは、CZ中に一度の当籤で複数ストックがなされた場合の2つ目以降のストックやART状態中のストック抽籤において当籤した分のストック等である。

30

【1488】

また、副制御回路200は、ART中の抽籤状態を通常ART中の演出ステージに基づいて示唆する。具体的には、副制御回路200は、抽籤状態が「低確（ランク1）」である場合には、通常ART中の演出ステージとしてステージ1（昼間ステージ）を採用し、抽籤状態が「高確（ランク2）」である場合には、通常ART中の演出ステージとしてステージ2（夕方ステージ）を採用し、抽籤状態が「超高確（ランク3、4）」である場合には、通常ART中の演出ステージとしてステージ3（夜間ステージ）を採用する。

【1489】

続いて、図212（D）を参照して、通常ARTからEPへの移行方法について説明する。上述したように、通常ART中は、「3択昇グリブ」が内部当籤役として決定された場合に、正解の押し順（略称「強チャンスリップ（RT5移行図柄）」に係る図柄組合せが表示される押し順）を報知するナビ高確中と、不正解の押し順（コンビネーション名「C__CURIブ」に係る図柄組合せが表示される押し順）を報知する非ナビ高確中があり、通常ARTのナビ高確中に「3択昇グリブ」が内部当籤役として決定され、かつ、報知される押し順に従い略称「強チャンスリップ」に係る図柄組合せが表示されると、通常ARTからEPに遊技状態が移行する（図206の移行条件（F）参照）。

40

【1490】

ここで、ナビ高確中と非ナビ高確中とは、ナビ高確ゲーム数に基づき制御される。具体的には、主制御回路90は、通常ART中にART中の抽籤状態及び抽籤用フラグに応じてナビ高確ゲーム数の付与抽籤（獲得抽籤）を行っており（後述の図241参照）、この

50

抽籤でナビ高確ゲーム数が付与されると、付与されたゲーム数の間、ナビ高確中になる。なお、ナビ高確ゲーム数は、ナビ高確中の遊技毎に1減算され、ナビ高確ゲーム数が0になると、非ナビ高確中になる。

【1491】

ここで、通常ARTの期間もナビ高確中の期間もともにゲーム数により管理されるため、通常ARTの終了時にナビ高確ゲーム数が残っている場合がある。例えば、通常ARTの残りゲーム数が3ゲームのときに、ナビ高確ゲーム数として5ゲームが付与されると、通常ARTの終了後にナビ高確ゲーム数が2ゲーム残っている。パチスロ1では、このような場合に、ナビ高確ゲーム数を、通常ARTから継続CZに持ち越すことがある。すなわち、継続CZ中もナビ高確中になることがある。このようなナビ高確中の持ち越しや、ナビ高確ゲーム数の管理方法の詳細は、後述する。

10

【1492】

続いて、図213(E)を参照して、EP中の遊技の流れについて説明する。図213(E)に示すように、EP中は、抽籤用フラグが「7揃い」又は「BAR揃い」である場合に、ART状態のセット数が付与(ストック)され、また、抽籤用フラグが「フェイク7」である場合は、ART状態のセット数が付与されない(なお、他の抽籤フラグの場合、ART抽籤を行い、その結果に基づきART状態のセット数を付与する(後述の図231参照))。ここで、EPは、RT5状態であり、RT5状態では、他のRT状態に比べて高い確率で抽籤用フラグが「7揃い」又は「BAR揃い」となるため(言い換えると「F__7リブA」「F__7リブB」「F__BARリブ」が内部当籤役として決定される確率が高いため(図180参照))、EP中は、ART状態のセット数がストックされ易い状態である。

20

【1493】

また、EP中は、転落モードによりEPから通常ARTへの転落が管理され、転落モード「保証なし」時は、「6択転落リブ」の当籤時に自力で正解の押し順を当てなければ、(RT状態がRT4状態に転落してしまう結果)EPから通常ARTに遊技状態が移行してしまう。一方で、転落モード「ショート」又は「ロング」時は、「6択転落リブ」の当籤時に正解の押し順が報知されるため、通常ARTに転落することなくEPが継続する。

【1494】

後述するように、転落モード「ショート」又は「ロング」は、抽籤用フラグが「7揃い」「BAR揃い」又は「フェイク7」である場合に、転落モード「保証なし」に移行することがあり、その他の抽籤用フラグである場合には、転落モード「保証なし」に移行することはない(後述の図245参照)。ただし、EP中に抽籤用フラグが一度「7揃い」又は「BAR揃い」となるまでは、転落モード「保証なし」に移行することはない(すなわち、EPに移行すると、抽籤用フラグ「7揃い」又は「BAR揃い」に基づくART状態のストックの付与が少なくとも一度は行われる)。また、後述するように、転落モードは、所謂レア役や転落モード「保証なし」時の自力の押し順正解時に昇格することもある(後述の図245参照)。

30

【1495】

<BB中の遊技性>

40

続いて、図214を参照して、BB中の遊技の流れについて説明する。図214に示すように、BB中において主制御回路90は、抽籤用フラグが「7揃い」又は「BAR揃い」である場合に、各種ストックを付与し、また、抽籤用フラグが「ベルはずれA」又は「ベルはずれB」である場合に各種抽籤を行い、当籤すると各種ストックを付与し、非当籤するとストックを付与しない。なお、抽籤用フラグ「7揃い」又は「BAR揃い」に基づく各種ストックの付与は、CBB中に行い、また、抽籤用フラグ「ベルはずれA」又は「ベルはずれB」に基づく各種抽籤は、NBB中に行う。また、主制御回路90は、BB中に規定枚数のメダルが払い出されると、BBを終了する。

【1496】

ここで、抽籤用フラグ「ベルはずれA」又は「ベルはずれB」に基づく各種抽籤の種別

50

、及び、抽籤用フラグ「7揃い」又は「BAR揃い」に基づき付与するストックの種別は、状態に応じて異なる。具体的には、主制御回路90は、通常BB（図206参照）中は、抽籤用フラグ「ベルはずれA」又は「ベルはずれB」に基づきCZ抽籤及びART抽籤を行い、また、抽籤用フラグ「7揃い」又は「BAR揃い」に基づきART状態のセット数を付与（ストック）する。また、主制御回路90は、ART中BB（図206参照）中は、抽籤用フラグ「ベルはずれA」又は「ベルはずれB」に基づきART抽籤及びEPの付与抽籤を行い、また、抽籤用フラグ「7揃い」又は「BAR揃い」に基づきART状態のセット数及びEPを付与（ストック）する（後述の図247参照）。なお、ART中BBにおいて、EPが付与された場合には、BB終了後にART準備中（及び必要に応じてランク決めART）を経由して、EP準備中に移行する。

10

【1497】

<各種データテーブル>

続いて、図215～図247を参照して、メインROM102に記憶される各種のデータテーブルについて説明する。なお、主制御回路90は、0～255の範囲の乱数値（すなわち、確率分母256）を用いて以下に示すデータテーブルを用いた抽籤を行う。

【1498】

[モード移行抽籤テーブル]

図215は、通常状態中のモードを決定するために用いるモード移行抽籤テーブルである。上述したように通常状態中は、抽籤用フラグが「ベル」である場合に現在のモードに基づきCZ抽籤を行う（図209（A-1）参照）。モード移行抽籤テーブルは、CZ抽籤に用いる通常状態中のモードを決定するためのテーブルであり、図215（A）は、NBBの終了時にモードを決定するためのモード移行抽籤テーブルであり、図215（B）は、CBBの終了時にモードを決定するためのモード移行抽籤テーブルであり、図215（C）は、ART状態に移行することなく終了した初当りCZの終了（初当りCZから通常状態に移行）時にモードを決定するためのモード移行抽籤テーブルであり、図215（D）は、継続CZの終了（継続CZから通常状態に移行）時にモードを決定するためのモード移行抽籤テーブルであり、図215（E）は、設定変更時にモードを決定するためのモード移行抽籤テーブルである。

20

【1499】

モード移行抽籤テーブルは、移行先のモード（抽籤結果）を決定するための抽籤値の情報を規定する。主制御回路90は、モード移行抽籤テーブルを参照して、移行先のモードを決定する。なお、NBB、CBB又は初当りCZの終了時は、移行前のモードに応じて移行先のモードを決定し、継続CZの終了時又は設定変更時は、移行前のモードに関係なく移行先のモードを決定する。

30

【1500】

[状態移行抽籤テーブル]

図216及び図217は、通常状態中の抽籤状態を決定するために用いる状態移行抽籤テーブルである。通常状態中は、抽籤用フラグが「ベル」以外である場合に現在の抽籤状態及び抽籤用フラグに基づきCZ抽籤を行う（図209（A-2）参照）。状態移行抽籤テーブルは、CZ抽籤に用いる通常状態中の抽籤状態を決定するためのテーブルであり、図216（A）は、現在の抽籤状態が「低確」である場合に移行先の抽籤状態を決定するための状態移行抽籤テーブルであり、図216（B）は、現在の抽籤状態が「高確」であり、かつ、後述する高確保証ゲーム数が10未満である場合に移行先の抽籤状態を決定するための状態移行抽籤テーブルであり、図216（C）は、現在の抽籤状態が「高確」であり、かつ、後述する高確保証ゲーム数が10以上である場合に移行先の抽籤状態を決定するための状態移行抽籤テーブルであり、図217（D）は、現在の抽籤状態が「超高確」である場合に移行先の抽籤状態を決定するための状態移行抽籤テーブルである。また、図217（E）は、BB終了時に移行先の抽籤状態を決定するための状態移行抽籤テーブルであり、図217（F）は、設定変更時に移行先の抽籤状態を決定するための状態移行抽籤テーブルであり、図217（G）は、CZ終了時に移行先の抽籤状態を決定するため

40

50

の状態移行抽籤テーブルである。

【1501】

状態移行抽籤テーブルは、移行先の抽籤状態（抽籤結果）を決定するための抽籤値の情報を規定する。主制御回路90は、状態移行抽籤テーブルを参照して、移行先の抽籤状態を決定する。なお、移行先の抽籤状態として「高確A」又は「高確B」が決定された場合、後述する高確保証ゲーム数抽籤テーブル（後述の図218）を参照して、高確保証ゲーム数が付与される。この高確保証ゲーム数が「1」以上である場合、図216（B）に示す状態移行抽籤テーブルにおいて、移行先の抽籤状態として「低確」が決定されても、抽籤状態は移行せずに「高確」のまま維持される。一方で、移行先の抽籤状態として「高確保証なし」が決定された場合には、移行先の抽籤状態は「高確」になるものの、高確保証ゲーム数は付与されない。

10

【1502】

また、高確保証ゲーム数が残っている状態で移行先の抽籤状態として「超高確」が決定された場合、高確保証ゲーム数は、クリア（0にする）こととしてもよく、また、保持することとしてもよい。なお、図217（D）に示す「超高確」時用の状態移行抽籤テーブルによると、移行先の抽籤状態として「低確」が決定されることがあるが、高確保証ゲーム数を保持する場合には、移行前の「超高確」から移行先の抽籤状態として「低確」が決定されても、「低確」に移行させることなく「超高確」のまま維持することとしてもよく、また、「低確」の代わりに「高確」に移行させることとしてもよい。

【1503】

図216（A）～図217（D）を参照すると、通常状態中に毎ゲーム参照される状態移行抽籤テーブルでは、移行前の抽籤状態と抽籤用フラグとに基づいて移行先の抽籤状態が決定され、また、他の遊技状態から通常状態に移行した時などに参照される状態移行抽籤テーブル（図217（E）～（G））では、抽籤用フラグを用いることなく移行先の抽籤状態が決定される。

20

【1504】

[高確保証ゲーム数抽籤テーブル]

図218は、移行先の抽籤状態として「高確A」又は「高確B」が決定された場合に、高確保証ゲーム数を決定するために用いる高確保証ゲーム数抽籤テーブルである。高確保証ゲーム数抽籤テーブルは、移行先の抽籤状態として決定された高確の種別毎に、付与する高確保証ゲーム数の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路90は、移行先の抽籤状態として「高確A」又は「高確B」を決定すると、高確保証ゲーム数抽籤テーブルを参照して、高確保証ゲーム数を決定し、付与する。

30

【1505】

[モード別CZ抽籤テーブル]

図219は、通常状態中にモードに基づき行うCZ抽籤に用いるモード別CZ抽籤テーブルである。モード別CZ抽籤テーブルは、現在のモード毎に、CZ抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路90は、通常状態において抽籤用フラグが「ベル」である場合、モード別CZ抽籤テーブルを参照して、現在のモードに基づきCZ抽籤を行い、このCZ抽籤に当籤した場合には、遊技状態を（CZ前兆を介して）CZに移行させる。なお、同遊技において行う通常状態中のART抽籤に当籤している場合には、CZ抽籤は行わない。

40

【1506】

[BB当籤時状態別CZ抽籤テーブル及び状態別CZ抽籤テーブル]

続いて、図220及び図221は、通常状態中に抽籤状態に基づき行うCZ抽籤に用いる状態別CZ抽籤テーブルであり、図220は、通常状態中のBB当籤時にBBと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグを参照してCZ抽籤を行うためのBB当籤時状態別CZ抽籤テーブルであり、図221は、通常状態中のBB非当籤時に抽籤用フラグを参照してCZ抽籤を行うための状態別CZ抽籤テーブルである。

【1507】

50

ＢＢ当籤時状態別ＣＺ抽籤テーブル及び状態別ＣＺ抽籤テーブルは、現在の抽籤状態毎に設けられ、抽籤用フラグ毎にＣＺ抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路９０は、通常状態中に現在の抽籤状態及び抽籤用フラグに基づいてＣＺ抽籤を行い、このＣＺ抽籤に当籤した場合には、遊技状態を（ＣＺ前兆を介して）ＣＺに移行させる。なお、同遊技において行う通常状態中のＡＲＴ抽籤に当籤している場合には、ＣＺ抽籤は行わない。

【１５０８】

[ＣＺ前兆ゲーム数抽籤テーブル]

続いて、図２２２は、通常状態中のＣＺ抽籤に当籤した際に、通常状態からＣＺに移行するまでの期間（ＣＺ前兆ゲーム数）を抽籤するために用いるＣＺ前兆ゲーム数抽籤テーブルである。ＣＺ前兆ゲーム数抽籤テーブルは、ＣＺ抽籤に当籤した際のＢＢ当籤の有無に応じてＣＺ前兆ゲーム数の範囲（抽籤結果）についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路９０は、通常状態中にＣＺ抽籤に当籤すると、ＣＺ前兆ゲーム数の抽籤を行い、当籤したＣＺ前兆ゲーム数をセットし、遊技状態をＣＺ前兆に移行する。

10

【１５０９】

なお、ＣＺ前兆ゲーム数抽籤テーブルでは、ＣＺ前兆ゲーム数の抽籤結果として一定の範囲を持たせているが、主制御回路９０は、当籤した範囲の中から均等にＣＺ前兆ゲーム数を決定する。また、ＢＢ当籤時にＣＺ抽籤に当籤していた場合には、主制御回路９０は、ＢＢの終了後に当籤したＣＺ前兆ゲーム数をセットする。すなわち、通常状態中にＣＺ抽籤に当籤し、かつ、ＣＺ前兆ゲーム数として「１」以上が決定された場合、ＢＢ非当籤時のＣＺ当籤時は、その後、通常状態からＣＺ前兆に遊技状態を移行し、また、ＢＢ当籤時のＣＺ当籤時は、その後、ＢＢが終了した後にＣＺ前兆に遊技状態を移行する。

20

【１５１０】

[ＢＢ当籤時ＡＲＴ抽籤テーブル及び通常時ＡＲＴ抽籤テーブル]

続いて、図２２３及び図２２４は、通常状態中に抽籤用フラグ等に基づき行うＡＲＴ抽籤に用いるＡＲＴ抽籤テーブルであり、図２２３は、通常状態中のＢＢ当籤時にＢＢと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグを参照してＡＲＴ抽籤を行うためのＢＢ当籤時ＡＲＴ抽籤テーブルであり、図２２４は、通常状態中のＢＢ非当籤時に抽籤用フラグを参照してＡＲＴ抽籤を行うための通常時ＡＲＴ抽籤テーブルである。

【１５１１】

なお、ＢＢ当籤時は、ＮＢＢ当籤、かつ、抽籤状態が「通常」又は「高確」である場合に、図２２３（Ａ）に示すＢＢ当籤時ＡＲＴ抽籤テーブルが参照され、また、ＣＢＢ当籤、かつ、抽籤状態が「通常」又は「高確」である場合に、図２２３（Ｂ）に示すＢＢ当籤時ＡＲＴ抽籤テーブルが参照され、また、抽籤状態が「超高確率」又は遊技状態が「ＣＺ前兆」「ＡＲＴ前兆中」の何れかである場合に、ＢＢ（ＣＢＢ又はＮＢＢ）の種別に関わらず、図２２３（Ｃ）に示すＢＢ当籤時ＡＲＴ抽籤テーブルが参照される。

30

【１５１２】

また、ＢＢ非当籤時は、抽籤状態が「通常」又は「高確」である場合に、図２２４（Ａ）に示す通常時ＡＲＴ抽籤テーブルが参照され、また、抽籤状態が「超高確率」又は遊技状態が「ＣＺ前兆」「ＡＲＴ前兆中」の何れかである場合には、図２２４（Ｂ）に示す通常時ＡＲＴ抽籤テーブルが参照され、また、通常フラグ間中は、図２２４（Ｃ）に示す通常時ＡＲＴ抽籤テーブルが参照される。

40

【１５１３】

ＢＢ当籤時状態別ＣＺ抽籤テーブル及び状態別ＣＺ抽籤テーブルは、現在の抽籤状態や遊技状態毎に設けられ、抽籤用フラグ毎にＡＲＴ抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路９０は、通常状態中に抽籤用フラグ等に基づいてＡＲＴ抽籤を行い、このＡＲＴ抽籤に当籤した場合には、遊技状態を（ＡＲＴ前兆を介して）ＡＲＴ状態に移行させる。

【１５１４】

[ＡＲＴ前兆ゲーム数抽籤テーブル]

50

続いて、図 2 2 5 は、通常状態中の A R T 抽籤に当籤した際に、通常状態から A R T 状態に移行するまでの期間（A R T 前兆ゲーム数）を抽籤するために用いる A R T 前兆ゲーム数抽籤テーブルである。A R T 前兆ゲーム数抽籤テーブルは、A R T 前兆ゲーム数の範囲（抽籤結果）についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 9 0 は、通常状態中に A R T 抽籤に当籤すると、A R T 前兆ゲーム数の抽籤を行い、当籤した A R T 前兆ゲーム数をセットし、遊技状態を A R T 前兆に移行する。

【 1 5 1 5 】

なお、A R T 前兆ゲーム数抽籤テーブルでは、A R T 前兆ゲーム数の抽籤結果として一定の範囲を持たせているが、主制御回路 9 0 は、当籤した範囲の中から均等に A R T 前兆ゲーム数を決定する。なお、B B 当籤時や通常フラグ間中に A R T 抽籤に当籤した場合には、遊技状態が A R T 中フラグ間に移行し、A R T 中 B B 終了後に A R T 準備中に移行することから（図 2 0 6 参照）、この場合、主制御回路 9 0 は、A R T 前兆ゲーム数を抽籤しない。すなわち、主制御回路 9 0 は、図 2 2 4（A）（B）に示す通常時 A R T 抽籤テーブルを用いた A R T 抽籤に当籤した場合に、A R T 前兆ゲーム数を抽籤し、図 2 2 3（A）～（C）に示す B B 当籤時 A R T 抽籤テーブル、及び図 2 2 4（C）に示す通常時 A R T 抽籤テーブルを用いた A R T 抽籤に当籤した場合には、A R T 前兆ゲーム数を抽籤しない。

【 1 5 1 6 】

[C Z 中 A R T 抽籤テーブル]

続いて、図 2 2 6 及び図 2 2 7 は、C Z 中の A R T 抽籤に用いる C Z 中 A R T 抽籤テーブルである。図 2 2 6（A）は、初当り C Z、かつ、C Z の残りゲーム数が 1 以上である場合に参照される C Z 中 A R T 抽籤テーブルであり、図 2 2 6（B）は、初当り C Z、かつ、C Z の残りゲーム数が 0 である場合に参照される C Z 中 A R T 抽籤テーブルであり、図 2 2 6（C）は、初当り C Z の終了の次遊技（泣きの 1 回）に参照される C Z 中 A R T 抽籤テーブル（なお、初当り C Z の終了の次遊技は、詳細には通常状態中である）である。また、図 2 2 6（D）は、C Z（A R T 後）、かつ、非ナビ高確時に参照される C Z 中 A R T 抽籤テーブルであり、図 2 2 7（E）は、C Z（A R T 後）、かつ、ナビ高確時に参照される C Z 中 A R T 抽籤テーブルであり、図 2 2 7（F）は、C Z（A R T 後）の終了の次遊技（泣きの 1 回）に参照される C Z 中 A R T 抽籤テーブル（なお、C Z（A R T 後）の終了の次遊技は、詳細には通常状態中である）であり、図 2 2 7（G）は、特殊 C Z、かつ、非ナビ高確時に参照される C Z 中 A R T 抽籤テーブルであり、図 2 2 7（H）は、特殊 C Z、かつ、ナビ高確時に参照される C Z 中 A R T 抽籤テーブルである。

【 1 5 1 7 】

C Z 中 A R T 抽籤テーブルは、C Z の種別など毎に設けられ、抽籤用フラグ毎に A R T 抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 9 0 は、C Z 中に抽籤用フラグ等に基づいて A R T 抽籤を行い、この A R T 抽籤に当籤した場合には、遊技状態を（必要に応じて A R T 準備中を介して）A R T 状態に移行させる。なお、C Z 中の B B 当籤時は、図 2 2 6 及び図 2 2 7 に示す C Z 中 A R T 抽籤テーブルではなく、後述の A R T 中 B B 当籤時ストック抽籤テーブル（図 2 3 1（D））を参照して、A R T 抽籤（必ず当籤）を行う。

【 1 5 1 8 】

[A R T 中ストック抽籤テーブル]

続いて、図 2 2 8 ～ 図 2 3 0 は、A R T 状態中に行う A R T 状態のセット数の上乘せ抽籤に用いる A R T 中ストック抽籤テーブルである。図 2 2 8（A）は、通常 A R T、かつ、A R T 中の抽籤状態「低確」又は「高確」、かつ、非ナビ高確中に参照される A R T 中ストック抽籤テーブルであり、図 2 2 8（B）は、通常 A R T、かつ、A R T 中の抽籤状態「低確」又は「高確」、かつ、ナビ高確中に参照される A R T 中ストック抽籤テーブルであり、図 2 2 8（C）は、通常 A R T、かつ、A R T 中の抽籤状態「超高確」、かつ、非ナビ高確中に参照される A R T 中ストック抽籤テーブルであり、図 2 2 8（D）は、通常 A R T、かつ、A R T 中の抽籤状態「超高確」、かつ、ナビ高確中に参照される A R T

10

20

30

40

50

中ストック抽籤テーブルである。また、図 229 (E) は、EP 中、かつ、転落モード「保証なし」時に参照される ART 中ストック抽籤テーブルであり、図 229 (F) は、EP 中、かつ、転落モード「ショート」時に参照される ART 中ストック抽籤テーブルであり、図 229 (G) は、EP 中、かつ、転落モード「ロング」時に参照される ART 中ストック抽籤テーブルである。また、図 230 (H) は、ランク決め ART 又は EP 準備中、かつ、非ナビ高確中に参照される ART 中ストック抽籤テーブルであり、図 230 (I) は、ランク決め ART 又は EP 準備中、かつ、ナビ高確中に参照される ART 中ストック抽籤テーブルである。また、図 230 (J) は、ART 準備中に参照される ART 中ストック抽籤テーブルであり、図 230 (K) は、ART 中フラグ間に参照される ART 中ストック抽籤テーブルである。

10

【1519】

ART 中ストック抽籤テーブルは、現在の遊技状態など毎に設けられ、抽籤用フラグ毎に ART 状態のセット数の上乗せ抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 90 は、対応する遊技状態中に抽籤用フラグ等に基づいて上乗せ抽籤を行い、この ART 抽籤に当籤した場合には、ART 状態のセット数を所定数だけ上乗せする。

【1520】

[ART 中 BB 当籤時ストック抽籤テーブル]

続いて、図 231 は、ART 状態中の BB 当籤時に行う ART 状態のセット数の上乗せ抽籤に用いる ART 中 BB 当籤時ストック抽籤テーブルである。図 231 (A) は、通常 ART 中の抽籤状態「低確」若しくは「高確」時、又は、EP 中の転落モード「保証なし」時に参照される ART 中 BB 当籤時ストック抽籤テーブルであり、図 231 (B) は、通常 ART 中の抽籤状態「超高確」時、又は、EP 中の転落モード「ショート」時に参照される ART 中 BB 当籤時ストック抽籤テーブルであり、図 231 (C) は、ランク決め ART 中、又は、EP 準備中に参照される ART 中 BB 当籤時ストック抽籤テーブルであり、図 231 (D) は、CZ 若しくは CZ 終了の次遊技、又は、EP 中の転落モード「ロング」時に参照される ART 中 BB 当籤時ストック抽籤テーブルであり、図 231 (E) は、ART 準備中に参照される ART 中 BB 当籤時ストック抽籤テーブルである。

20

【1521】

ART 中 BB 当籤時ストック抽籤テーブルは、現在の遊技状態など毎に設けられ、抽籤用フラグ毎に ART 状態のセット数の上乗せ抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 90 は、対応する遊技状態中に抽籤用フラグ等に基づいて上乗せ抽籤を行い、この ART 抽籤に当籤した場合には、ART 状態のセット数を所定数だけ上乗せする。

30

【1522】

[ART 当籤時ストック数抽籤テーブル]

続いて、図 232 は、ART 抽籤や、ART 状態のセット数の上乗せ抽籤に当籤した場合（すなわち、ART 当籤時）に、付与する ART 状態のセット数を抽籤するために用いる ART 当籤時ストック数抽籤テーブルである。ART 当籤時ストック数抽籤テーブルは、ART 当籤時の当籤契機毎に、付与する ART 状態のセット数についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 90 は、ART 当籤時に対応する当籤契機に基づいて ART 状態のセット数を抽籤し、当籤したセット数を付与する。

40

【1523】

なお、当籤契機「初当り」とは、通常状態中に ART 抽籤に当籤した場合（通常状態中に RT3 状態への移行に伴う ART 状態のストック付与を含む）、ART 前兆中に ART 抽籤に当籤した場合、初当り CZ 中に ART 抽籤に当籤した場合、通常 BB フラグ間中に ART 抽籤に当籤した場合、又は通常 BB 中に ART 抽籤に当籤した場合の何れかをいい、また、当籤契機「上乗せ A」とは、EP 中に ART 状態のセット数の上乗せ抽籤に当籤した場合をいい、また、当籤契機「上乗せ B」とは、継続 CZ 中に ART 抽籤に当籤した場合をいい、また、当籤契機「上乗せ C」とは、当籤契機「初当り」「上乗せ A」「上乗せ B」以外の状況で ART 抽籤や、ART 状態のセット数の上乗せ抽籤に当籤した場合を

50

いう。

【 1 5 2 4 】

[特殊 C Z 移行抽籤テーブル]

続いて、図 2 3 3 は、継続 C Z として特殊 C Z を用いるか否かを抽籤するために用いる特殊 C Z 移行抽籤テーブルである。特殊 C Z 移行抽籤テーブルは、ART 状態のセット数のストックの有無毎に、抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 9 0 は、ランク決め ART の開始時に ART 状態のセット数のストックの有無に応じて特殊 C Z を用いるか否かを抽籤し、当籤した場合には、次の継続 C Z を特殊 C Z とする一方で、非当籤した場合には、次の継続 C Z を C Z (ART 後) とする。

【 1 5 2 5 】

なお、主制御回路 9 0 は、次の継続 C Z を特殊 C Z とした後は、特殊 C Z が終了するまで特殊 C Z 移行抽籤テーブルを用いた抽籤を行わない。また、ART 状態のセット数のストックがない状態で、本抽籤に当籤した場合には、主制御回路 9 0 は、ART 状態のセット数を 1 つ付与する。

【 1 5 2 6 】

[ART 当籤時ランク抽籤テーブル]

続いて、図 2 3 4 ~ 図 2 3 8 は、ART 当籤時に当籤した ART 状態のランクを決定するために用いる ART 当籤時ランク抽籤テーブルである。なお、ART 当籤時には、ART 状態のセット数が複数付与されることがあるが、2 つ目以降の ART 状態のランクは、図 2 3 8 (O) に示す ART 当籤時ランク抽籤テーブルにより決定され、図 2 3 4 (A) ~ 図 2 3 8 (N) に示す ART 当籤時ランク抽籤テーブルは、1 つ目の ART 状態のランクを決定するために用いられる。

【 1 5 2 7 】

図 2 3 4 (A) は、ART 当籤の当籤タイミングが通常状態、C Z 前兆、ART 前兆、又は E P 以外の ART 状態中であり、かつ、B B 非当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 4 (B) は、ART 当籤の当籤タイミングが通常状態、C Z 前兆、ART 前兆、又は E P 以外の ART 状態中であり、かつ、N B B の当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 4 (C) は、ART 当籤の当籤タイミングが通常状態、C Z 前兆、ART 前兆、又は E P 以外の ART 状態中であり、かつ、C B B の当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルである。

【 1 5 2 8 】

また、図 2 3 5 (D) は、ART 当籤の当籤タイミングが ART 準備中であり、かつ、B B 非当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 5 (E) は、ART 当籤の当籤タイミングが ART 準備中であり、かつ、N B B 当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 5 (F) は、ART 当籤の当籤タイミングが ART 準備中であり、かつ、C B B 当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルである。

【 1 5 2 9 】

また、図 2 3 6 (G) は、ART 当籤の当籤タイミングが E P 中であり、かつ、B B 非当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 6 (H) は、ART 当籤の当籤タイミングが E P 中であり、かつ、N B B 当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 6 (I) は、ART 当籤の当籤タイミングが E P 中であり、かつ、C B B 当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルである。

【 1 5 3 0 】

また、図 2 3 7 (J) は、ART 当籤の当籤タイミングが C Z 中であり、かつ、B B 非当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 7 (K) は、ART 当籤の当籤タイミングが C Z 中であり、かつ、N B B 当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 7 (L) は、ART 当籤の当籤タイミングが C Z 中であり、かつ、C B B 当籤時に用いられる ART 当籤時ランク抽籤テーブルである。

【 1 5 3 1 】

10

20

30

40

50

また、図 2 3 8 (M) は、A R T 当籤の当籤タイミングがフラグ間状態（通常フラグ間又は A R T 中フラグ間）である場合に用いられる A R T 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 8 (N) は、A R T 当籤の当籤タイミングが B B 中である場合に用いられる A R T 当籤時ランク抽籤テーブルであり、図 2 3 8 (O) は、複数ストック時の 2 つ目以降の A R T 状態のランクを決定するために用いられる A R T 当籤時ランク抽籤テーブルである。

【 1 5 3 2 】

A R T 当籤時ランク抽籤テーブルは、A R T 当籤時の遊技状態毎に設けられ、A R T 当籤時の抽籤用フラグ毎に、抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 9 0 は、A R T 抽籤や、A R T 状態のセット数の上乘せ抽籤に当籤した場合、当籤契機となった抽籤用フラグを用いて、当籤した A R T 状態のランクを決定する。A R T 当籤時ランク抽籤テーブルを用いて決定されたランクは、ランク決め A R T 中の昇格抽籤に基づき昇格し、通常 A R T 中のランク（抽籤状態）となる（図 2 1 2 (B) 参照）。

10

【 1 5 3 3 】

[ストック放出順序抽籤テーブル]

続いて、図 2 3 9 は、上述の放出フェーズ D において放出する A R T 状態のストックの順序を抽籤するために用いるストック放出順序抽籤テーブルである。ストック放出順序抽籤テーブルは、放出する A R T 状態のランクの順序（抽籤結果）についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 9 0 は、放出フェーズ D では、ストック放出順序抽籤テーブルを参照して決定した順序に応じて、保有する A R T 状態のストックの中から 1 つのストックを放出する。例えば、放出順序「 4 , 3 , 2 , 1 」である場合、主制御回路 9 0 は、放出フェーズ D になると、保有するストックの中のランク 4 のストックを最も優先して放出し、ランク 3 のストックを次に優先して放出し、ランク 2 のストックを次に優先して放出し、ランク 1 のストックを次に優先して放出する。

20

【 1 5 3 4 】

なお、放出順序の抽籤は、C Z と A R T 状態とのループ中に一度のみ行うこととしてもよく、また、放出フェーズ D になるたびに行うこととしてもよい。また、放出順序の抽籤を、C Z と A R T 状態とのループ中に一度のみ行う場合の抽籤タイミングは任意であり、例えば、ループ中に初めて放出フェーズ D になったタイミングでもよく、また、C Z から初めて A R T 状態に移行したタイミングであってもよい。

【 1 5 3 5 】

[ランク決め A R T 中ランク昇格抽籤テーブル]

続いて、図 2 4 0 は、ランク決め A R T 中の昇格抽籤に用いるランク決め A R T 中ランク昇格抽籤テーブルであり、図 2 4 0 (A) は、非ナビ高確時のランク決め A R T 中に参照されるランク決め A R T 中ランク昇格抽籤テーブルであり、図 2 4 0 (B) は、ナビ高確時のランク決め A R T 中に参照されるランク決め A R T 中ランク昇格抽籤テーブルであり、図 2 4 0 (C) は、1 ゲームで完結するランク決め A R T 中に B B に当籤した場合に参照されるランク決め A R T 中ランク昇格抽籤テーブルである。

30

【 1 5 3 6 】

ランク決め A R T 中ランク昇格抽籤テーブルは、ランク決め A R T 中の状況毎に設けられ、抽籤用フラグ毎に昇格抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路 9 0 は、A R T 当籤時に決定していたランクを、昇格抽籤の抽籤結果に基づいて更新する。なお、昇格抽籤の結果ランク 4 以上になる場合には、主制御回路 9 0 は、更新後のランクをランク 4 とする。

40

【 1 5 3 7 】

[ナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブル]

続いて、図 2 4 1 は、通常 A R T 中のナビ高確ゲーム数の獲得抽籤に用いるナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブルであり、図 2 4 1 (A) は、A R T 状態中の抽籤状態が「低確（ランク 1）」時の通常 A R T 中に参照されるナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブルであり、図 2 4 1 (B) は、A R T 状態中の抽籤状態が「高確（ランク 2）」時の通常 A R T 中に参照されるナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブルであり、図 2 4 1 (C) は、A R T 状態中

50

の抽籤状態が「超高確（ランク3、4）」時の通常ART中に参照されるナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブルである。

【1538】

ナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブルは、ART状態中の抽籤状態毎に設けられ、抽籤用フラグ毎にナビ高確ゲーム数の獲得抽籤の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路90は、通常ART中に抽籤状態及び抽籤用フラグに基づいてナビ高確ゲーム数を付与する。その結果、ナビ高確ゲーム数が1以上になるとナビ高確中となる。ナビ高確ゲーム数は、通常ART中の1回の遊技毎に更新（1減算）されることになるが、この点は後述する。

【1539】

[CZゲーム数獲得抽籤テーブル]

続いて、図242は、CZゲーム数の上乘せ抽籤に用いるCZゲーム数獲得抽籤テーブルであり、図242(A)は、ART準備中に参照されるCZゲーム数獲得抽籤テーブルであり、図242(B)は、通常ART、かつ、非ナビ高確時に参照されるCZゲーム数獲得抽籤テーブルであり、図242(C)は、通常ART、かつ、ナビ高確時に参照されるCZゲーム数獲得抽籤テーブルである。また、図242(D)は、CZ中の抽籤フェーズA～CにおいてART抽籤に当籤した場合、又は、CZ中の放出フェーズDにおいてART状態のストックの放出が行われた場合に参照されるCZゲーム数獲得抽籤テーブルである。

【1540】

図242(A)～(C)に示すCZゲーム数獲得抽籤テーブルは、遊技状態や抽籤用フラグ毎に上乘せするCZゲーム数の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。また、図242(D)に示すCZゲーム数獲得抽籤テーブルは、（抽籤用フラグに関わらず）上乘せするCZゲーム数の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路90は、通常ART中に、抽籤用フラグに基づいてCZゲーム数の上乘せを行うとともに、CZからART状態への移行時にCZゲーム数の上乘せを行う。なお、図242(D)に示すように、CZからART状態への移行時には、最低でも5ゲームの上乘せが行われる。

【1541】

[ARTゲーム数獲得抽籤テーブル]

続いて、図243は、ARTゲーム数の上乘せ抽籤に用いるARTゲーム数獲得抽籤テーブルである。ARTゲーム数獲得抽籤テーブルは、ART状態（ランク決めART、通常ART、EP準備又はEP）、ART準備中又は継続CZ中に抽籤用フラグとして「NBB」又は「CBB」が決定された場合に参照され、抽籤用フラグ毎に上乘せするARTゲーム数の抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。なお、図242に示すCZゲーム数獲得抽籤テーブルと図243に示すARTゲーム数獲得抽籤テーブルとを比較すると分かるように、本実施形態のパチスロ1では、通常ART中等は、BB以外の抽籤用フラグに基づいてCZゲーム数の上乘せを行い、BBの抽籤用フラグに基づいてARTゲーム数の上乘せを行う。

【1542】

主制御回路90は、ART状態、ART準備中又は継続CZ中にBBが当籤すると、ARTゲーム数の上乘せを行う。その結果、BB終了後に移行することになる通常ARTの遊技期間が延長されることになる。

【1543】

[転落モード抽籤テーブル]

続いて、図244は、EP当籤時に転落モードを抽籤するための転落モード抽籤テーブルである。転落モード抽籤テーブルは、EPの当籤タイミング毎に設けられ、転落モードの抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。なお、EPは、ランク決めARTにおいてランク4が決定されたタイミング、ナビ高確中の通常ART中に「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定されたタイミング、ART中BB中のEPストック抽籤に当籤したタイミングにおいてストックが付与され、ランク決めARTにおいてランク4が決定された

10

20

30

40

50

場合は「ランク決めART中」欄の抽籤値を用いて転落モードを抽籤し、それ以外の場合は「ランク決めART中以外」欄の抽籤値を用いて転落モードを抽籤する。

【1544】

主制御回路90は、EPのストックが付与されると、そのタイミングに応じて転落モードを抽籤し、セットする。なお、セットした転落モードは、続く図245に示すように、EP中に移行することになる。

【1545】

[転落モード移行抽籤テーブル]

続いて、図245は、EP中に転落モードを移行させるために用いる転落モード移行抽籤テーブルであり、図245(A)は、移行前の転落モードが「保証なし」である場合に参照される転落モード移行抽籤テーブルであり、図245(B)は、移行前の転落モードが「ショート」である場合に参照される転落モード移行抽籤テーブルであり、図245(C)は、移行前の転落モードが「ロング」である場合に参照される転落モード移行抽籤テーブルである。

10

【1546】

転落モード移行抽籤テーブルは、現在の転落モード毎に設けられ、抽籤用フラグ毎に移行先の転落モードについての抽籤値の情報を規定する。主制御回路90は、EP中は現在の転落モード及び抽籤用フラグに基づいて、転落モードを移行させる。なお、図245(A)に示す「保証なし」時の転落モード移行抽籤テーブルでは、「EP継続時」という欄がある。この「EP継続時」は、「6択転落リブ」当籤時に自力で押し順に正解したときに参照される。

20

【1547】

また、転落モード「ショート」又は「ロング」時に抽籤用フラグが「フェイク7」である場合、所定の確率で転落モード「保証なし」に移行することがある。しかしながら、上述したように、EP中は、少なくとも抽籤用フラグが1回「7揃い」又は「BAR揃い」になるまでは継続するため、EP中に抽籤用フラグ「7揃い」又は「BAR揃い」が一度も当籤していない場合には、抽籤用フラグ「フェイク7」が当籤しても転落モードの移行を行わない。

【1548】

[EP中BB当籤時転落モード移行抽籤テーブル]

続いて、図246は、EP中のBB当籤時に転落モードの移行を行うために用いるEP中BB当籤時転落モード移行抽籤テーブルである。EP中BB当籤時転落モード移行抽籤テーブルは、EP中に当籤したBBの種別、及び、移行前の転落モード毎に、移行先の転落モードについての抽籤値の情報を規定する。主制御回路90は、EP中にBBが当籤すると、当籤したBBの種別、及び、現在の転落モード及び抽籤用フラグに基づいて移行先の転落モードを決定する。EP中にBBに当籤すると、BBの終了後にEPに復帰するが、決定した転落モードは、BBの終了後に復帰したEPにおいて用いられる。

30

【1549】

[BB中の各種抽籤テーブル]

続いて、図247は、BB中の各種抽籤に用いる抽籤テーブルであり、図247(A)は、通常BB又はART中BB中に抽籤用フラグに基づいてART抽籤を行うためのBB中ART抽籤テーブルであり、図247(B)は、通常BB中に抽籤用フラグに基づいてCZ抽籤を行うためのBB中CZ抽籤テーブルであり、図247(C)は、ART中BB中に抽籤用フラグに基づいてEPストック抽籤を行うためのBB中EPストック抽籤テーブルである。

40

【1550】

図247に示すように、これら各種の抽籤テーブルは、抽籤用フラグ毎に抽籤結果についての抽籤値の情報を規定する。主制御回路90は、BB中のART抽籤に当籤した場合、ART状態のセット数のストックを所定数付与し、BB終了後に遊技状態をART準備中に移行する。また、主制御回路90は、BB中のCZ抽籤に当籤した場合、CZのスト

50

ックを1つ付与し、BB終了後に遊技状態をCZ前兆又はCZに移行する。また、主制御回路90は、BB中のEPストック抽籤に当籤した場合、EPのストックを1つ付与し、BB終了後に遊技状態を(ART準備及びEP準備中を介して)EPに移行する。

【1551】

<主制御回路の動作説明>

次に、図248～図262を参照して、主制御回路90のメインCPU101が、プログラムを用いて実行する各種処理の内容について説明する。なお、第1実施形態のパチスロ1と同様の処理については説明を省略又は簡略に説明する。例えば、図64～図80の電源投入(リセット割込み)時処理からサムチェック処理(規定外)については、第1実施形態のパチスロ1と変わらないため説明を省略する。

10

【1552】

[メインCPUの制御によるパチスロのメイン処理]

初めに、図248を参照して、メインCPU101の制御により実行されるパチスロ1のメイン処理(主要動作処理)について説明する。

【1553】

まず、メインCPU101は、RAM初期化処理を行う(S2001)。次いで、メインCPU101は、メダル受付・スタートチェック処理を行う(S2002)。次いで、メインCPU101は、乱数取得処理を行う(S2003)。これらの処理は、基本的に第1実施形態のパチスロ1と同様である。

【1554】

次いで、メインCPU101は、内部抽籤処理を行う(S2004)。次いで、メインCPU101は、図柄設定処理を行う(S2005)。これらの処理は、基本的に第1実施形態のパチスロ1と同様であるが、内部当籤役として決定される役の種類や、ボーナスに係る役が内部当籤役として決定された場合に移行するRT状態の種類などは、第2実施形態のパチスロ1の仕様に合わせたものとなる。

20

【1555】

次いで、メインCPU101は、ゲーム数更新処理を行う(S2006)。この処理では、メインCPU101は、今回の遊技のスタートに伴い各種のゲーム数を更新する。一例として、メインCPU101は、RT1状態やRT3状態中のゲーム数、CZ前兆やART前兆中の前兆ゲーム数、CZ中のゲーム数、又は通常ART中のゲーム数を更新(1減算)する。

30

【1556】

次いで、メインCPU101は、スタートコマンド生成格納処理を行う(S2007)。次いで、メインCPU101は、第2インターフェースボード制御処理を行う(S2008)。これらの処理は、基本的に第1実施形態のパチスロ1と同様である。

【1557】

次いで、メインCPU101は、スタート時状態別遊技制御処理を行う(S2009)。この処理では、メインCPU101は、主に、遊技状態に応じてスタート時の各種抽籤を行う。なお、遊技状態に応じて行う各種抽籤の詳細は、図249～図262において遊技状態毎に説明する。

40

【1558】

次いで、メインCPU101は、リール停止初期設定処理を行う(S2010)。次いで、メインCPU101は、リール回転開始処理を行う(S2011)。次いで、メインCPU101は、リール回転開始コマンド生成格納処理を行う(S2012)。次いで、メインCPU101は、引込優先順位格納処理を行う(S2013)。次いで、メインCPU101は、リール停止制御処理を行う(S2014)。次いで、メインCPU101は、入賞検索処理を行う(S2015)。これらの処理は、基本的に第1実施形態のパチスロ1と同様である。

【1559】

次いで、メインCPU101は、イリーガルヒットチェック処理を行う(S2016)

50

。次いで、メインCPU101は、入賞チェック・メダル払出処理を行う（S2017）。これらの処理は、基本的に第1実施形態のパチスロ1と同様である。

【1560】

次いで、メインCPU101は、停止時状態別遊技制御処理を行う（S2018）。この処理では、メインCPU101は、主に、遊技状態に応じてリール停止時の各種抽籤を行う。なお、遊技状態に応じて行う各種抽籤の詳細は、図249～図262において遊技状態毎に説明する。

【1561】

次いで、メインCPU101は、BBチェック処理を行う（S2019）。この処理では、メインCPU101は、ボーナス状態の作動及び終了を制御する。具体的には、メインCPU101は、略称「クラウンBB」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、BB（CBB）を作動し、また、略称「BB」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、BB（NBB）を作動する。また、メインCPU101は、BB（CBB又はNBB）の作動中に払い出されたメダルの枚数が規定枚数に達すると、BBの作動を終了する。

【1562】

次いで、メインCPU101は、RTチェック処理を行う（S2020）。この処理では、メインCPU101は、図178に示す移行条件に応じて、RT状態の移行制御を行う。なお、メインCPU101は、通常状態中にRT状態をRT3状態に移行した場合には、ART状態のセット数を付与する（図209（B-2）参照）。

【1563】

次いで、メインCPU101は、報知状態移行処理を行う（S2021）。この処理では、メインCPU101は、図206及び図207に示す移行条件に応じて、報知（ART）機能の作動の有無を考慮した遊技状態の移行制御を行う。

【1564】

<遊技状態毎の抽籤内容>

続いて、図249～図262を参照して、主制御回路90のメインCPU101が、スタート時状態別遊技制御処理及び停止時状態別遊技制御処理において行う各種抽籤の詳細について説明する。なお、上述したようにパチスロ1において主制御回路90は、内部当籤役（抽籤用フラグ）に応じて、リール回転開始時（スタート時）又はリール停止時に各種抽籤を行うことがあるが、各種抽籤を行うタイミングは既に説明しているため（図208参照）、以下では、抽籤を行うタイミングについての詳細は省略する。

【1565】

[通常状態中に行う抽籤内容]

初めに、図249を参照して、主制御回路90のメインCPU101が通常状態中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1566】

通常状態中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると（図208参照）、メインCPU101は、（A）のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には図223に示すBB当籤時ART抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグ、及び現在の抽籤状態に基づきART抽籤を行う。また、BB非当籤時には、メインCPU101は、通常状態中の抽籤状態が「低確」又は「高確」である場合には、図224（A）に示す通常時ART抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきART抽籤を行い、また、通常状態中の抽籤状態が「超高確」である場合には、図224（B）に示す通常時ART抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。

【1567】

ここで、通常時ART抽籤テーブルを参照すると、抽籤用フラグが「7揃い」又は「BAR揃い」である場合、通常状態中のART抽籤に必ず当籤することが分かり、また、図180の内部抽籤テーブル及び図208の内部当籤役と抽籤用フラグとの対応関係を参照

10

20

30

40

50

すると、R T 5 状態中は、通常状態中の A R T 抽籤に必ず当籤する抽籤用フラグ「7 揃い」又は「B A R 揃い」に対応する「F _ 7 リブ A」「F _ 7 リブ B」又は「F _ B A R リブ」が内部当籤役として決定される確率が、他の R T 状態に比べて非常に高いことが分かる。

【1568】

そのため、本実施形態のパチスロ 1 では、非ナビ区間である通常状態中に R T 状態が R T 5 状態に移行すると、その後の R T 5 状態中の遊技において A R T 抽籤に当籤する期待を持つことができる。

【1569】

また、通常時 A R T 抽籤テーブルを参照すると、抽籤用フラグが「強チャンスリブ」である場合、通常状態中の A R T 抽籤に所定の確率で当籤することが分かり、また、図 208 を参照すると、通常状態（非ナビ区間）では、内部当籤役として「強チェリブ」が決定された場合の他、内部当籤役として「3 折昇格リブ」が決定され、かつ、押し順が正解である場合に、抽籤用フラグが「強チャンスリブ」となることが分かる。そして、内部当籤役として「強チェリブ」が決定された場合、又は、「3 折昇格リブ」当籤時の押し順に正解した場合は、略称「強チェリブ（R T 5 移行図柄）」に係る図柄組合せが表示され、R T 状態が R T 5 状態に移行するが分かる（図 205 参照）。

【1570】

そのため、本実施形態のパチスロ 1 では、非ナビ区間である通常状態中に R T 状態を自力で R T 5 状態まで移行できた場合には、R T 5 状態に移行した遊技でも A R T 抽籤の当籤に期待を持てることになる。すなわち、本実施形態のパチスロ 1 では、通常状態中は、抽籤用フラグとして「7 揃い」又は「B A R 揃い」が決定される確率が高い R T 5 状態中だけでなく、R T 5 状態に移行したタイミング、言い換えると、抽籤用フラグ「7 揃い」又は「B A R 揃い」のチャンス期間である R T 5 状態中だけでなく、そのチャンス期間の入り口でも、A R T 抽籤の当籤に期待を持てることになる。

【1571】

また、上述のように通常状態中に R T 状態が R T 3 状態に移行した場合には、A R T 状態のセット数が付与される（図 209（B - 2）参照）。ここで、通常状態中に R T 3 状態へ移行した場合には、メイン CPU 101 は、（A）の A R T 抽籤に当籤したものとして続く抽籤を行う。

【1572】

図 249 に戻り、（A）の A R T 抽籤が非当籤の場合、メイン CPU 101 は、続いて、（B）の C Z 抽籤を行う。この抽籤では、メイン CPU 101 は、B B 当籤時には図 220 に示す B B 当籤時状態別 C Z 抽籤テーブルを参照して、B B と重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグ、及び現在の抽籤状態に基づき C Z 抽籤を行う。一方で、B B 非当籤時には、メイン CPU 101 は、抽籤用フラグが「ベル」である場合には、図 219 に示すモード別 C Z 抽籤テーブルを参照して、現在のモードに基づき C Z 抽籤を行う。また、B B 非当籤時、かつ、抽籤用フラグが「ベル」以外の場合は、メイン CPU 101 は、図 221 に示す状態別 C Z 抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグ及び現在の抽籤状態に基づき C Z 抽籤を行う。

【1573】

なお、B B 当籤時、かつ、抽籤用フラグが「ベル」である場合、本実施形態では、図 219 に示すモード別 C Z 抽籤テーブルを参照した C Z 抽籤のみを行うが、これに限られるものではなく、メイン CPU 101 は、B B 当籤時、かつ、抽籤用フラグが「ベル」である場合に、図 219 に示すモード別 C Z 抽籤テーブルを参照した C Z 抽籤と、図 219 に示すモード別 C Z 抽籤テーブルを参照した C Z 抽籤の双方を行うこととしてもよい。

【1574】

続いて、（B）の C Z 抽籤が非当籤の場合、メイン CPU 101 は、続いて、（C）の状態移行抽籤を行う。この抽籤では、メイン CPU 101 は、図 216（A）～図 217（D）に示す状態移行抽籤テーブルを参照して、現在（移行前）の抽籤状態及び抽籤用フ

10

20

30

40

50

ラグに基づいて移行先の抽籤状態を決定し、次遊技の抽籤状態としてセットする。

【1575】

続いて、(C)の状態移行抽籤において移行先の抽籤状態として「高確A」又は「高確B」を決定すると、メインCPU101は、続いて、(D)の高確保証ゲーム数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図218に示す高確保証ゲーム数抽籤テーブルを参照して、移行先として決定した抽籤状態に基づき高確保証ゲーム数を決定し、付与する。

【1576】

(A)のART抽籤及び(B)のCZ抽籤の双方が非当籤の場合には、(C)の状態移行抽籤及び(D)の高確保証ゲーム数抽籤を行うと、今回の遊技において行うべき抽籤が終了する。なお、次遊技の遊技状態(報知の有無を考慮した遊技状態)は、それぞれの抽籤結果に応じて異なるが、詳しくは後述する。

【1577】

また、(B)のCZ抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(E)の前兆ゲーム数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図222に示すCZ前兆ゲーム数抽籤テーブルを参照して、BB当籤の有無に基づきCZの前兆ゲーム数を決定、かつ、セットし、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1578】

また、(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(F)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。なお、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照すると、通常状態中のART抽籤に当籤した場合には、ART状態のセット数として2つ以上が決定されることが分かる。

【1579】

メインCPU101は、続いて、(G)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234~図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定する。具体的には、メインCPU101は、1つ目のART状態のストックについては、図234(A)~(C)に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、ART当籤時の抽籤用フラグに基づいてART状態のランクを決定し、2つ目以降のART状態のストックについては、図238(O)に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、ART状態のランクを決定する。

【1580】

メインCPU101は、続いて、(H)の前兆ゲーム数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図225に示すART前兆ゲーム数抽籤テーブルを参照して、ART状態の前兆ゲーム数を決定、かつ、セットし、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1581】

[通常状態から移行する遊技状態]

メインCPU101は、通常状態中にこれらの抽籤を行うと、その抽籤結果に応じて次遊技の遊技状態(報知の有無を考慮した遊技状態)をセットする。なお、報知の有無を考慮した遊技状態の移行は、図206及び図207において既に説明しているが、通常状態から移行可能な遊技状態の種別、及びその条件を図249にも示している。

【1582】

具体的には、通常状態中に(A)のART抽籤に当籤し、かつ、今回の遊技においてBBが作動した場合(すなわち、今回の遊技においてBBに当籤し、かつ、BB当籤時のART抽籤に当籤し、かつ、BBに応じた図柄組合せが有効ラインに沿って表示された場合)、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。なお、この場合、メインCPU101は、通常状態中に用いるモード及び抽籤状態をクリアする。

【1583】

10

20

30

40

50

また、通常状態中に(A)のART抽籤に非当籤し、かつ、今回の遊技においてBBが作動した場合(すなわち、今回の遊技においてBBに当籤し、かつ、BB当籤時のART抽籤に非当籤し、かつ、BBに応じた図柄組合せが有効ラインに沿って表示された場合)、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常BBをセットする。

【1584】

また、通常状態中にBBに当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常フラグ間をセットする。また、通常状態中に(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART前兆をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、通常状態中に用いるモード及び抽籤状態をクリアする。また、通常状態中に(B)のCZ抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてCZ前兆をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、通常状態中に用いる抽籤状態をクリアする。

10

【1585】

[CZ前兆中に行う抽籤内容]

続いて、図250を参照して、主制御回路90のメインCPU101がCZ前兆中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1586】

CZ前兆中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には図223(C)に示すBB当籤時ART抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。また、BB非当籤時には、メインCPU101は、図224(B)に示す通常時ART抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。

20

【1587】

(A)のART抽籤が非当籤の場合、メインCPU101は、BB当籤の有無に基づいて処理を異ならせ、BB(「F__クラウンBB」「F__赤BB」又は「F__青BB」)が内部当籤役として決定されていない場合には、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。一方で、BBが内部当籤役として決定されている場合には、メインCPU101は、続いて、(B)のCZの前兆ゲーム数の抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図222に示すCZ前兆ゲーム数抽籤テーブルの「BB当籤時」欄を参照して、CZの前兆ゲーム数を決定し、現在セットされているCZの前兆ゲーム数を決定したCZの前兆ゲーム数に書き換え、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

30

【1588】

また、(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(C)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(D)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234~図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定する。続いて、メインCPU101は、CZの前兆ゲーム数をARTの前兆ゲーム数に書き換えて、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

40

【1589】

[CZ前兆から移行する遊技状態]

CZ前兆中に(A)のART抽籤に当籤し、かつ、今回の遊技においてBBが作動した場合(すなわち、今回の遊技においてBBに当籤し、かつ、BB当籤時のART抽籤に当籤し、かつ、BBに応じた図柄組合せが有効ラインに沿って表示された場合)、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モードをクリアするとともに、CZの前兆ゲーム数をARTの前兆ゲーム数に書き換える。

【1590】

50

また、C Z前兆中に(A)のART抽籤に非当籤し、かつ、今回の遊技においてBBが作動した場合(すなわち、今回の遊技においてBBに当籤し、かつ、BB当籤時のART抽籤に非当籤し、かつ、BBに応じた図柄組合せが有効ラインに沿って表示された場合)、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常BBをセットする。

【1591】

また、C Z前兆中にBBに当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常フラグ間をセットする。また、C Z前兆中に、(A)のART抽籤に当籤し、かつ、前兆ゲーム数が今回の遊技で0に更新され、かつ、RT状態が高RT状態(RT4状態又はRT5状態)である場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてランク決めARTをセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モードをクリアする。

10

【1592】

また、C Z前兆中に(A)のART抽籤に当籤し、かつ、前兆ゲーム数が今回の遊技で0に更新され、かつ、RT状態が低RT状態(RT0状態~RT3状態)である場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART準備中をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モードをクリアする。

【1593】

また、C Z前兆中に(A)のART抽籤に当籤し、かつ、前兆ゲーム数が今回の遊技の更新後においても1以上である場合には、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART前兆をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モードをクリアする。

20

【1594】

また、C Z前兆中に(A)のART抽籤に当籤することなく、C Zの前兆ゲーム数が0に更新された場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として初当りC Zをセットする。

【1595】

[ART前兆中に行う抽籤内容]

続いて、図251を参照して、主制御回路90のメインCPU101がART前兆中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1596】

ART前兆中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には図223(C)に示すBB当籤時ART抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。また、BB非当籤時には、メインCPU101は、図224(B)に示す通常時ART抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。

30

【1597】

(A)のART抽籤が非当籤の場合、メインCPU101は、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。一方で、(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(B)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(C)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234~図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

40

【1598】

[ART前兆から移行する遊技状態]

ART前兆中にBBが作動した場合(すなわち、今回の遊技においてBBに当籤し、かつ、BBに応じた図柄組合せが有効ラインに沿って表示された場合)、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。また、ART前兆中にBBに

50

当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常フラグ間をセットする。

【1599】

また、ART前兆中にARTの前兆ゲーム数が0に更新され、かつ、RT状態が高RT状態（RT4状態又はRT5状態）である場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてランク決めARTをセットし、また、ART前兆中にARTの前兆ゲーム数が0に更新され、かつ、RT状態が低RT状態（RT0状態～RT3状態）である場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART準備中をセットする。なお、これらの場合、メインCPU101は、CZゲーム数に10をセットする。

【1600】

通常、ART状態とCZとのループは、初当りCZから始まるため、ART状態に移行した時点でCZゲーム数が既にセットされているが、ART前兆からART状態に移行（すなわち、通常状態からART前兆を介してART状態に移行）した場合、CZを経由していないためCZゲーム数がセットされていない。そこで、ART前兆中にARTの前兆ゲーム数が0に更新された場合には、CZゲーム数として10をセットし、その後のART状態とCZとのループを可能にしている。

【1601】

[初当りCZ、及び、初当りCZ終了の次遊技に行う抽籤内容]

続いて、図252を参照して、主制御回路90のメインCPU101が初当りCZ、及び、初当りCZ終了の次遊技に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1602】

初当りCZ、及び、初当りCZ終了の次遊技では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると（図208参照）、メインCPU101は、（A）のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には、図231（D）に示すART中BB当籤時ストック抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグに基づきART抽籤を行い、また、BB非当籤時には、図226（A）～（C）に示すCZ中ART抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。

【1603】

（A）のART抽籤が非当籤の場合、メインCPU101は、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。一方で、（A）のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、（B）のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、（C）のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234～図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定する。

【1604】

続いて、メインCPU101は、（D）のCZゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図242（D）に示すCZゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、上乘せするCZゲーム数を決定し、当該上乘せするゲーム数を現在のCZゲーム数に加算し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1605】

[初当りCZ、及び、初当りCZ終了の次遊技から移行する遊技状態]

初当りCZ、及び、初当りCZ終了の次遊技にBBが作動した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。また、ART前兆中にBBに当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中フラグ間をセットする。なお、これらの場合、メインCPU101は、モードをクリアする。

【1606】

10

20

30

40

50

また、初当りCZ、及び、初当りCZ終了の次遊技において、ART抽籤に当籤し、かつ、RT状態が高RT状態（RT4状態又はRT5状態）である場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてランク決めARTをセットし、また、ART抽籤に当籤し、かつ、RT状態が低RT状態（RT4状態又はRT5状態）である場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART準備中をセットする。なお、これらの場合、メインCPU101は、モードをクリアする。

【1607】

また、初当りCZ終了の次遊技において、ART抽籤に非当籤し、かつ、CZのストックがある場合には、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてCZ前兆をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モード及びCZの前兆ゲーム数を抽籤し、

10

【1608】

また、初当りCZ終了の次遊技において、ART抽籤に非当籤し、かつ、CZのストックがない場合には、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常状態をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モード、通常状態中の抽籤状態、及び高確保証ゲーム数を抽籤し、セットする。

【1609】

[ART準備中に行う抽籤内容]

続いて、図253を参照して、主制御回路90のメインCPU101がART準備中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

20

【1610】

ART準備中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると（図208参照）、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には、図231(E)に示すART中BB当籤時ストック抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグに基づきART抽籤を行い、また、BB非当籤時には、図230(J)に示すART中ストック抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。

【1611】

(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(B)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(C)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234～図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定する。

30

【1612】

(A)のART抽籤が非当籤の場合、又は、(C)のランク抽籤に続いて、メインCPU101は、(D)のCZゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図242(A)に示すCZゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づき上乗せするCZゲーム数を決定し、当該上乗せするゲーム数を現在のCZゲーム数に加算する。

40

【1613】

続いて、メインCPU101は、(E)のARTゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図243に示すARTゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、当籤したBBの種別に応じて上乗せするARTゲーム数を決定し、当該上乗せするゲーム数を現在のARTゲーム数に加算し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1614】

[ART準備から移行する遊技状態]

ART準備中にBBが作動した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。また、ART前兆中にBBに当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中フラグ間をセットする。

50

【 1 6 1 5 】

また、ART準備中にRT状態がRT4状態に移行すると、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として以下の遊技状態をセットする。具体的には、通常ART又はランク決めART中に当籤したBBの終了後のART準備中にRT状態がRT4状態に移行した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常ARTをセットする。また、EP中に当籤したBBの終了後のART準備中にRT状態がRT4状態に移行した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてEPをセットする。また、EPのストックが有るART準備中にRT状態がRT4状態に移行した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてEPをセットする（なお、この場合、メインCPU101は、初回EP処理も行う）。また、メインCPU101は、これ以外の状況でART準備中にRT

10

【 1 6 1 6 】

なお、以下において、初回EP処理とは、EP中の転落モードを抽籤し、セットすること、及び、ナビ高確ゲーム数をクリア（0にする）すること、のうちの未だ終了していない処理を行うことをいう。すなわち、メインCPU101は、いずれの処理も未だ終了していない場合には、初回EP処理において両処理を行い、いずれか一方の処理が終了している場合には、初回EP処理において終了していない処理を行い、いずれの処理も終了している場合には、初回EP処理においていずれの処理も行わない。

【 1 6 1 7 】

[ランク決めART中に行う抽籤内容]

続いて、図254を参照して、主制御回路90のメインCPU101がランク決めART中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【 1 6 1 8 】

ランク決めART中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると（図208参照）、メインCPU101は、（A）のランク昇格抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図240に示すランク決めART中ランク昇格抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグやナビ高確中か否か等に基づきART状態のランクの昇格抽籤を行い、その抽籤結果に基づきART当籤時に仮決めしておいたランクを更新する。

【 1 6 1 9 】

このランク昇格抽籤の結果、ART状態のランクがランク4まで昇格した場合、メインCPU101は、続いて、（B）の転落モード抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図244に示す転落モード抽籤テーブルを参照して、転落モードの初期値を決定し、セットする。

【 1 6 2 0 】

続いて、メインCPU101は、（C）のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には、図231（C）に示すART中BB当籤時ストック抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグに基づきART抽籤を行い、また、BB非当籤時には、図230（H）（I）に示すART中ストック抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグ及びナビ高確中か否かに基づきART抽籤

40

【 1 6 2 1 】

（C）のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、（D）のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、（E）のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234～図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定する。

【 1 6 2 2 】

（C）のART抽籤が非当籤の場合、又は、（E）のランク抽籤に続いて、メインCP

50

U101は、(F)ARTゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図243に示すARTゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、当籤したBBの種別に応じて上乗せするARTゲーム数を決定し、当該上乗せするゲーム数を現在のARTゲーム数に加算する。

【1623】

続いて、メインCPU101は、(G)の特殊CZの発動抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図233に示す特殊CZ移行抽籤テーブルを参照して、通常ARTの終了後に移行する継続CZとして特殊CZを用いるか否かを抽籤し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1624】

[ランク決めARTから移行する遊技状態]

ランク決めART中にBBが作動した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。また、ランク決めART中にBBに当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中フラグ間をセットする。

【1625】

また、ランク決めART中の(A)のランク昇格抽籤でランク4まで昇格し、かつ、RT状態がRT5状態である場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてEPをセットする。また、ランク決めART中の(A)のランク昇格抽籤でランク4まで昇格し、かつ、RT5状態以外のRT状態である場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてEP準備中をセットする。なお、これらの場合、メインCPU101は、初回EP処理を行う。

【1626】

また、上述した状況以外の場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常ARTをセットする。

【1627】

[通常ART中に行う抽籤内容]

続いて、図255を参照して、主制御回路90のメインCPU101が通常ART中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1628】

通常ART中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には、図231(A)(B)に示すART中BB当籤時ストック抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグ及びART状態中の抽籤状態に基づきART抽籤を行い、また、BB非当籤時には、図228に示すART中ストック抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグ、ART状態中の抽籤状態及びナビ高確中か否かに基づきART抽籤を行う。

【1629】

(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(B)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(C)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234~図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定する。

【1630】

(A)のART抽籤が非当籤の場合、又は、(C)のランク抽籤に続いて、メインCPU101は、(D)CZゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図242(B)(C)に示すCZゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグ及びナビ高確中か否かに基づき上乗せするCZゲーム数を決定し、当該上乗せするゲーム数を現在のCZゲーム数に加算する。

10

20

30

40

50

【 1 6 3 1 】

続いて、メインCPU101は、(E)のARTゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図243に示すARTゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、当籤したBBの種別に応じて上乘せするARTゲーム数を決定する。メインCPU101は、ARTゲーム数の獲得抽籤に当籤した場合(通常ART中のBB当籤時には、必ずARTゲーム数の獲得抽籤に当籤するため、通常ART中のBB当籤時と同じである)、当該上乘せするゲーム数を現在のARTゲーム数に加算し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【 1 6 3 2 】

一方で、(E)のARTゲーム数の獲得抽籤に非当籤した場合(BB当籤時以外は必ず非当籤であるため、通常ART中のBB非当籤時と同じである)、メインCPU101は、続いて、(F)のナビ高確ゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図241に示すナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグ及び(A RT状態のランクから一義的に定まる)ART状態中の抽籤状態に基づき、上乘せするナビ高確ゲーム数を決定し、当該上乘せするゲーム数を現在のナビ高確ゲーム数に加算する。

10

【 1 6 3 3 】

続いて、今回の遊技がナビ高確中であり、かつ、今回の遊技において「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定された場合には、メインCPU101は、続いて、(G)の転落モード抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図244に示す転落モード抽籤テーブルを参照して、転落モードの初期値を決定し、セットし、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。一方で、上述の何れかの条件を満たさない場合には、メインCPU101は、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

20

【 1 6 3 4 】

[通常ARTから移行する遊技状態]

通常ART中にBBが作動した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。また、通常ART中にBBに当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中フラグ間をセットする。

【 1 6 3 5 】

また、通常ART中のナビ高確中にRT状態がRT5状態に移行すると、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてEPをセットする。なお、この場合、メインCPU101は、初回EP処理を行う。

30

【 1 6 3 6 】

また、通常ART中にART状態の残りゲーム数が0に更新され、かつ、特殊CZに非当籤の場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてCZ(A RT後)をセットする。また、通常ART中にART状態の残りゲーム数が0に更新され、かつ、特殊CZに当籤している場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として特殊CZをセットする。

【 1 6 3 7 】

[EP準備中に行う抽籤内容]

続いて、図256を参照して、主制御回路90のメインCPU101がEP準備中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

40

【 1 6 3 8 】

EP準備中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には、図231(C)に示すART中BB当籤時ストック抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグに基づきART抽籤を行い、また、BB非当籤時には、図230(H)(I)に示すART中ストック抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグ及びナビ高確中か否かに基づきART抽籤を行う。

50

【1639】

(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(B)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(C)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234～図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定する。

【1640】

(A)のART抽籤が非当籤の場合、又は、(C)のランク抽籤に続いて、メインCPU101は、(D)のARTゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図243に示すARTゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、当籤したBBの種類に応じて上乗せするARTゲーム数を決定する。この抽籤に当籤した場合には、メインCPU101は、上乗せするゲーム数を現在のARTゲーム数に加算し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する一方で、この抽籤に非当籤した場合には、メインCPU101は、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

10

【1641】

[EP準備から移行する遊技状態]

EP準備中にBBが作動した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。また、EP準備中にBBに当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中フラグ間をセットする。

20

【1642】

また、EP準備中にRT状態がRT5状態に移行すると、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてEPをセットする。なお、この場合、メインCPU101は、初回EP処理を行う。

【1643】

[EP中に行う抽籤内容]

続いて、図257を参照して、主制御回路90のメインCPU101がEP中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1644】

EP中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には、図231(A)(B)(D)に示すART中BB当籤時ストック抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグ、及びEP中の転落モードに基づきART抽籤を行い、また、BB非当籤時には、図229に示すART中ストック抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグ及びEP中の転落モードに基づきART抽籤を行う。

30

【1645】

(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(B)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(C)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234～図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定する。

40

【1646】

(A)のART抽籤が非当籤の場合、又は、(C)のランク抽籤に続いて、メインCPU101は、(D)のARTゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図243に示すARTゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、当籤したBBの種類に応じて上乗せするARTゲーム数を決定する。

【1647】

(C)のARTゲーム数の獲得抽籤に非当籤した場合、メインCPU101は、(E)

50

の転落モード移行抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図245に示す転落モード移行抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグ及び現在の転落モードに基づき移行先の転落モードを決定し、セットする。続いて、メインCPU101は、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1648】

一方で、(C)のARTゲーム数の獲得抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、上乘せするゲーム数を現在のARTゲーム数に加算し、続いて、(F)の転落モード移行抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図246に示すEP中BB当籤時転落モード移行抽籤テーブルを参照して、EP中に当籤したBBの種別、及び、移行前の転落モードに基づき、移行先の転落モードを決定し、セットする。続いて、メインCPU101は、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

10

【1649】

[EPから移行する遊技状態]

EP中にBBが作動した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。また、EP中にBBに当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中フラグ間をセットする。

【1650】

また、EP中にRT5状態以外のRT状態に移行し、かつ、EPのストックがある場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてEP準備中をセットする。また、EP中にRT5状態以外のRT状態に移行し、かつ、EPのストックがない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常ARTをセットする。

20

【1651】

[CZ(ART後)、CZ(ART後)終了の次遊技、及び特殊CZ中に行う抽籤内容]

続いて、図252を参照して、主制御回路90のメインCPU101がCZ(ART後)、CZ(ART後)終了の次遊技、及び特殊CZ中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1652】

CZ(ART後)、CZ(ART後)終了の次遊技、及び特殊CZ中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う(上述の抽籤フェーズA~C)。この抽籤では、メインCPU101は、BB当籤時には、図231(D)に示すART中BB当籤時ストック抽籤テーブルを参照して、BBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグに基づきART抽籤を行い、また、BB非当籤時には、図226(D)~図227(H)に示すCZ中ART抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグ、CZの種別(CZ(ART後)、CZ(ART後)終了の次遊技、又は特殊CZ)、及びナビ高確中か否かに基づきART抽籤を行う。

30

【1653】

(A)のART抽籤が非当籤の場合、メインCPU101は、ART状態のストックの放出があるか否かに応じてその後の処理を異ならせる。上述のように、ART状態のストックの放出は、継続CZ中のCZの残りゲーム数が0になったタイミングで行われるため(上述の放出フェーズD)、今回の遊技がCZ(ART後)終了の次遊技、又はCZの残りゲーム数が1以上のCZ(ART後)若しくは特殊CZ中は、ART状態のストックの放出は行わず、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。また、ART状態のストックがない場合にはストックを放出することができないため、CZの残りゲーム数が0のCZ(ART後)中であっても、ART状態のストックがない場合には、ART状態のストックの放出は行わず、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する(なお、特殊CZは、放出フェーズDのストックが放出されると終了するため、特殊CZ中は常にART状態のセット数が1つ以上ストックされている)。

40

【1654】

一方で、CZの残りゲーム数が0のCZ(ART後)又は特殊CZにおいてART状態

50

のストックがある場合、メインCPU101は、続いて、(B)の放出順序抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図239に示すストック放出順序抽籤テーブルを参照して、ストックしているART状態に対して設定されたランクに基づいて、ストックしているART状態の中から、放出フェーズDで放出するストック分のART状態を決定する。この抽籤の後、メインCPU101は、決定したART状態を、ART状態のストックの中から消し去るとともに、決定したART状態に対して設定されたランクに基づいて、次遊技のランク決めART中に昇格抽籤を行う。

【1655】

一方で、(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(C)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(D)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234～図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定する。

10

【1656】

(B)の放出順序抽籤、又は(D)のランク抽籤に続いて、メインCPU101は、(E)のCZゲーム数の獲得抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図242(D)に示すCZゲーム数獲得抽籤テーブルを参照して、上乘せするCZゲーム数を決定し、当該上乘せするゲーム数を現在のCZゲーム数に加算し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

20

【1657】

[CZ(ART後)、CZ(ART後)終了の次遊技、及び特殊CZから移行する遊技状態]

CZ(ART後)、CZ(ART後)終了の次遊技、及び特殊CZ中にBBが作動した場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。また、ART前兆中にBBに当籤したもののBBが作動しない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中フラグ間をセットする。

【1658】

また、CZ(ART後)、CZ(ART後)終了の次遊技、及び特殊CZ中に、ART抽籤に当籤、又はART状態のストックの放出が行われると、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてランク決めARTをセットする。

30

【1659】

また、CZ(ART後)の次遊技において、ART抽籤に非当籤し、かつ、CZのストックがある場合には、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてCZ前兆をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モード及びCZの前兆ゲーム数を抽籤し、セットする。

【1660】

また、CZ(ART後)の次遊技において、ART抽籤に非当籤し、かつ、CZのストックがない場合には、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常状態をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モード、通常状態中の抽籤状態、及び高確保証ゲーム数を抽籤し、セットする。

40

【1661】

[通常フラグ間中に行う抽籤内容]

続いて、図259を参照して、主制御回路90のメインCPU101が通常フラグ間中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1662】

通常フラグ間中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図224(C)に示す通常時ART抽籤テーブルを参照して、持ち越しているBBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグに基づきART抽籤を行

50

う。(A)のART抽籤に非当籤した場合、メインCPU101は、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1663】

一方で、(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(B)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(C)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234～図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

10

【1664】

[通常フラグ間から移行する遊技状態]

通常フラグ間中にBBが作動し、かつ、BBの作動時にART状態のセット数のストックがない場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常BBをセットする。また、通常フラグ間中にBBが作動し、かつ、BBの作動時にART状態のセット数のストックがある場合、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。

【1665】

[通常BB中に行う抽籤内容]

続いて、図260を参照して、主制御回路90のメインCPU101が通常BB中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

20

【1666】

通常BB中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図247(A)に示すBB中ART抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。

【1667】

(A)のART抽籤に非当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(B)のCZ抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図247(B)に示すBB中CZ抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきCZ抽籤を行い、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。なお、このCZ抽籤に当籤した場合には、メインCPU101は、CZの権利を1つ付与(ストック)する。

30

【1668】

一方で、(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(C)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(D)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234～図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

40

【1669】

[通常BBから移行する遊技状態]

通常BB中に(A)のART抽籤に当籤すると、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。また、通常BB中に払い出されたメダルの枚数が規定枚数に達し、BBの作動が終了すると、メインCPU101は、各種のストックの有無に応じて次遊技の遊技状態をセットする。具体的には、ART状態のセット数のストックがあり、かつ、ART状態の前兆ゲーム数がない場合には、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART準備をセットする。

【1670】

また、CZのストックがあり、かつ、CZの前兆ゲーム数がない場合には、メインCP

50

U101は、次遊技の遊技状態として初当りCZをセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モード、及び通常状態中の抽籤状態をセットする。また、CZのストックがあり、かつ、CZの前兆ゲーム数がある場合には、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてCZ前兆をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モード、及び通常状態中の抽籤状態をセットする。また、ART状態及びCZのいずれのストックもない場合には、メインCPU101は、次遊技の遊技状態として通常状態をセットする。なお、この場合、メインCPU101は、モード、及び通常状態中の抽籤状態をセットする。

【1671】

[ART中フラグ間中に行う抽籤内容]

続いて、図261を参照して、主制御回路90のメインCPU101がART中フラグ間中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1672】

ART中フラグ間中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図230(K)に示すART中ストック抽籤テーブルを参照して、持ち越しているBBと重複して当籤した内部当籤役に対応する抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。(A)のART抽籤に非当籤した場合、メインCPU101は、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1673】

一方で、(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(B)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(C)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234~図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1674】

[ART中フラグ間から移行する遊技状態]

ART中フラグ間中にBBが作動すると、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART中BBをセットする。

【1675】

[ART中BB中に行う抽籤内容]

続いて、図262を参照して、主制御回路90のメインCPU101がART中BB中に行う各種の抽籤の詳細について説明する。

【1676】

ART中BB中では、内部当籤役や押し順に基づいて抽籤用フラグが決まると(図208参照)、メインCPU101は、(A)のART抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図247(A)に示すBB中ART抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきART抽籤を行う。

【1677】

(A)のART抽籤に当籤した場合、メインCPU101は、続いて、(B)のARTストック数抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図232に示すART当籤時ストック数抽籤テーブルを参照して、ART抽籤の当籤契機に基づきART状態のセット数を決定し、付与する。続いて、メインCPU101は、(C)のランク抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図234~図238に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、当籤したART状態のランクを決定し、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1678】

また、(A)のART抽籤に非当籤した場合、又は(C)のランク抽籤に続いて、メイ

10

20

30

40

50

メインCPU101は、(D)のEPストック抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図247(C)に示すBB中EPストック抽籤テーブルを参照して、抽籤用フラグに基づきEPのストック抽籤を行う。(D)のEPストック抽籤に非当籤した場合には、メインCPU101は、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1679】

一方、(D)のEPストック抽籤に当籤した場合には、メインCPU101は、続いて、(E)の転落モード抽籤を行う。この抽籤では、メインCPU101は、図244に示す転落モード抽籤テーブルを参照して、EP中の転落モードを抽籤し、セットし、今回の遊技において行うべき抽籤を終了する。

【1680】

[ART中BBから移行する遊技状態]

ART中BB中に払い出されたメダルの枚数が規定枚数に達し、BBの作動が終了すると、メインCPU101は、次遊技の遊技状態としてART準備をセットする。

【1681】

<パチスロ1に特有な制御>

以上、本実施形態のパチスロ1の遊技性に関して説明した。続いて、本実施形態のパチスロ1に特有の制御に関して個別に説明する。

【1682】

[ART抽籤及びランク抽籤]

本実施形態のパチスロ1では、図226(A)(B)のCZ中ART抽籤テーブルに示すように、CZ中のART抽籤は、CZの残りゲーム数に応じて当籤する確率が異なるものの、図237のART当籤時ランク抽籤テーブルに示すように、CZ中のランク抽籤は、決定されるランクの傾向は、CZの残りゲーム数に関わらず同一であるが、これに限られるものではない。すなわち、CZ(初当りCZ及び継続CZ)中に行うART抽籤及びランク抽籤の双方ともに、CZの残りゲーム数に応じて異ならせることとしてもよい。

【1683】

ここで、図263及び図264は、CZ中に行うART抽籤とランク抽籤との概念図であり、図263(A)(B)は、CZの残りゲーム数とCZ中に行う各抽籤との関係例を示している。また、図263及び図264に概念的に示すテーブルのうち、ART抽籤に用いるテーブルは、図226等に示すCZ中ART抽籤テーブルに相当するテーブルであり、また、ランク抽籤に用いるテーブルは、図234等に示すART当籤時ランク抽籤テーブルに相当するテーブルである。

【1684】

パチスロ1において主制御回路90は、CZの残りゲーム数に応じて異なる確率で当籤するART抽籤を行うこととしてもよい。具体的には、図263(A)に示すように、ART抽籤に用いる抽籤テーブルを、CZの残りゲーム数毎に有することで、CZの残りゲーム数に応じて異なる確率で当籤するART抽籤を行うことができる。

【1685】

なお、図263(A)に示す例では、CZの残りゲーム数が「7, 8ゲーム」である場合には、テーブルAを用いてART抽籤を行い、CZの残りゲーム数が「5, 6ゲーム」である場合には、テーブルBを用いてART抽籤を行い、CZの残りゲーム数が「3, 4ゲーム」である場合には、テーブルCを用いてART抽籤を行い、CZの残りゲーム数が「1, 2ゲーム」である場合には、テーブルDを用いてART抽籤を行い、CZの残りゲーム数が「0ゲーム」である場合には、テーブルEを用いてART抽籤を行うこととしている。

【1686】

この場合において、CZの残りゲーム数とART抽籤に当籤する確率との関係は、参照するテーブルに応じて任意に設定することができ、例えば、CZの残りゲーム数が長いほどART抽籤に当籤する確率を高くしてもよく、また、反対にCZの残りゲーム数が短いほどART抽籤に当籤する確率を高くしてもよい。このようにすることで、CZ中は、C

10

20

30

40

50

Zの消化に伴い残りゲーム数が減ることで、ART抽籤に当籤する確率が徐々に低く又は高くなっていくことになる。なお、262(A)に示す例の場合、テーブルA, B, C, D, Eの順で、ART抽籤に当籤する確率を高く又は低くすることで実現することができる。

【1687】

また、特定の残りゲーム数において、ART抽籤に当籤する確率を高く又は低くしてもよい。図263(A)に示す例の場合、例えば、テーブルBをART抽籤に当籤する確率が最も高く設定し、テーブルDをART抽籤に当籤する確率が次に高く設定し、テーブルEをART抽籤に当籤する確率が次に高く設定し、テーブルAをART抽籤に当籤する確率が次に高く設定し、テーブルBをART抽籤に当籤する確率が次に高く設定することで、ART抽籤に当籤する確率が高いゲーム数と低いゲーム数とを混在させることができる。

10

【1688】

また、パチスロ1において主制御回路90は、CZの残りゲーム数に応じてランク抽籤の抽籤結果を異ならせることとしてもよい。具体的には、図263(A)に示すように、ランク抽籤に用いる抽籤テーブルを、CZの残りゲーム数毎に有することで、CZの残りゲーム数に応じてランク抽籤の抽籤結果を異ならせることができる。

【1689】

なお、図263(A)に示す例では、CZの残りゲーム数が「7, 8ゲーム」である場合には、テーブルVを用いてランク抽籤を行い、CZの残りゲーム数が「5, 6ゲーム」である場合には、テーブルWを用いてランク抽籤を行い、CZの残りゲーム数が「3, 4ゲーム」である場合には、テーブルXを用いてランク抽籤を行い、CZの残りゲーム数が「1, 2ゲーム」である場合には、テーブルYを用いてランク抽籤を行い、CZの残りゲーム数が「0ゲーム」である場合には、テーブルZを用いてランク抽籤を行うこととしている。

20

【1690】

この場合において、CZの残りゲーム数とランク抽籤の抽籤結果との関係は、参照するテーブルに応じて任意に設定することができ、例えば、CZの残りゲーム数が長いほどART当籤時のART状態のランクとして高ランクが決定され易くしてもよく、また、反対にCZの残りゲーム数が短いほどART当籤時のART状態のランクとして高ランクが決定され易くしてもよい。このようにすることで、CZ中は、CZの消化に伴い残りゲーム数が減ることで、ART当籤時のART状態のランクが徐々に低く又は高くなっていくことになる。なお、262(A)に示す例の場合、テーブルV, W, X, Y, Zの順で、ART状態のランクとして高ランクが決定され易く又は決定され難くすることで実現することができる。

30

【1691】

また、特定の残りゲーム数では、ART状態のランクとして高ランクが決定され易く又は決定され難くしてもよい。図263(A)に示す例の場合、例えば、テーブルX, W, Z, V, Yの順で、ART状態のランクとして高ランクが決定され易く又は決定され難くすることで、ART当籤時にART状態のランクとして高ランクが決定され易いゲーム数と決定され難いゲーム数とを混在させることができる。

40

【1692】

なお、図263(A)では、CZ中に行うART抽籤とランク抽籤との間で、CZの残りゲーム数を揃えているが、これに限られるものではない。例えば、図263(B)に示すように、CZ中のART抽籤は、CZの残りゲーム数「7, 8ゲーム」「5, 6ゲーム」「3, 4ゲーム」「1, 2ゲーム」「0ゲーム」に応じて異ならせる一方で、CZ中のランク抽籤は、CZの残りゲーム数「6, 7, 8ゲーム」「4, 5ゲーム」「0, 1, 2, 3ゲーム」に応じて異ならせている。このようにすることで、CZ中の各種抽籤をより多様化することができ、遊技性に富んだものにする事ができる。

【1693】

また、パチスロ1において主制御回路90は、ART状態のセット数のストックの有無

50

に応じて、C Z中のART抽籤及びランク抽籤を行うこととしてもよい。具体的には、図264(A)に示すように、ART抽籤に用いる抽籤テーブル及びランク抽籤に用いる抽籤テーブルを、ART状態のセット数のストックの有無毎に有することで、C Z中に主制御回路90は、ART状態のセット数のストックの有無に応じて抽籤結果が異なるART抽籤及びランク抽籤を行うことができる。

【1694】

なお、図264(A)に示す例では、ART状態のセット数のストックがある場合には、テーブルAを用いてART抽籤を行い、また、テーブルZを用いてランク抽籤を行い、ART状態のセット数のストックがない場合には、テーブルBを用いてART抽籤を行い、また、テーブルYを用いてランク抽籤を行うこととしている。

10

【1695】

この場合において、ART状態のセット数のストックの有無と、ART抽籤及びランク抽籤の抽籤結果との関係は、参照するテーブルに応じて任意に設定することができ、例えば、ART状態のセット数のストックがある場合にはストックがない場合に比べて、ART抽籤に当籤する確率が低く、ART状態のランクとして低いランクが決定され易くしてもよく、また反対に、ART抽籤に当籤する確率が高く、ART状態のランクとして高いランクが決定され易くしてもよい。また、例えば、ART状態のセット数のストックがある場合にはストックがない場合に比べて、ART抽籤に当籤する確率は低いものの、ART状態のランクとしては高いランクが決定され易くしてもよく、また反対に、ART抽籤に当籤する確率は高いものの、ART状態のランクとしては低いランクが決定され易くしてもよい。

20

【1696】

なお、ART状態のセット数のストックの有無に応じてART抽籤及びランク抽籤の抽籤結果を異ならせる制御は、C Z中に限るものではなく、通常状態、ART状態又はBB中のいずれの状態であっても適用することができる。

【1697】

また、パチスロ1において主制御回路90は、C Zの残りゲーム数と、ART状態のセット数のストックの有無との双方を考慮して、C Z中のART抽籤及びランク抽籤を行うこととしてもよい。具体的には、図264(B)に示すように、ART抽籤に用いる抽籤テーブル及びランク抽籤に用いる抽籤テーブルを、C Zの残りゲーム数及びART状態のセット数のストックの有無毎に有することで、C Z中に主制御回路90は、C Zの残りゲーム数及びART状態のセット数のストックの有無に応じて抽籤結果が異なるART抽籤及びランク抽籤を行うことができる。

30

【1698】

なお、図264(B)に示す例では、ART状態のセット数のストックがあるときは、C Zの残りゲーム数が「7, 8ゲーム」である場合に、テーブルAを用いてART抽籤を行うとともにテーブルVを用いてランク抽籤を行い、C Zの残りゲーム数が「5, 6ゲーム」である場合に、テーブルBを用いてART抽籤を行うとともにテーブルWを用いてランク抽籤を行い、C Zの残りゲーム数が「3, 4ゲーム」である場合には、テーブルCを用いてART抽籤を行うとともにテーブルXを用いてランク抽籤を行い、C Zの残りゲーム数が「1, 2ゲーム」である場合には、テーブルDを用いてART抽籤を行うとともにテーブルYを用いてランク抽籤を行い、C Zの残りゲーム数が「0ゲーム」である場合には、テーブルEを用いてART抽籤を行うとともにテーブルZを用いてランク抽籤を行うこととしている。

40

【1699】

一方で、ART状態のセット数のストックがないときは、C Zの残りゲーム数が「7, 8ゲーム」である場合に、テーブルFを用いてART抽籤を行うとともにテーブルQを用いてランク抽籤を行い、C Zの残りゲーム数が「5, 6ゲーム」である場合に、テーブルGを用いてART抽籤を行うとともにテーブルRを用いてランク抽籤を行い、C Zの残りゲーム数が「3, 4ゲーム」である場合には、テーブルHを用いてART抽籤を行うとと

50

もにテーブルSを用いてランク抽籤を行い、C Zの残りゲーム数が「1, 2ゲーム」である場合には、テーブルIを用いてART抽籤を行うとともにテーブルTを用いてランク抽籤を行い、C Zの残りゲーム数が「0ゲーム」である場合には、テーブルJを用いてART抽籤を行うとともにテーブルUを用いてランク抽籤を行うこととしている。

【1700】

この場合においても、C Zの残りゲーム数及びART状態のセット数のストックの有無と、ART抽籤に当籤する確率との関係、並びに、C Zの残りゲーム数及びART状態のセット数のストックの有無と、ランク抽籤の抽籤結果との関係を参照するテーブルに応じて任意に設定できる点は、上述の通りである。なお、図263の例に比べて図264の例では、ART状態のセット数のストックの有無を更に考慮することとしているため、ART状態のセット数のストックがある場合とストックがない場合とで、ART抽籤及びランク抽籤の傾向も異ならせることができる。

10

【1701】

例えば、ART状態のセット数のストックがある場合は、C Zの消化に伴い残りゲーム数が減るにつれて、ART抽籤に当籤する確率が低く（又は高く）なる一方で、ART状態のセット数のストックがない場合は、C Zの消化に伴い残りゲーム数が減るにつれて、ART抽籤に当籤する確率が高く（又は低く）なるように設定することもできる。また、例えば、ART状態のセット数のストックがある場合とない場合とで、ART抽籤に当籤し易いゲーム数を異ならせることもできる。

【1702】

もちろん、ART状態のランク抽籤も同様であり、例えば、ART状態のセット数のストックがある場合は、C Zの消化に伴い残りゲーム数が減るにつれて、ART状態のランクとして低い（又は高い）ランクが決定され易くなる一方で、ART状態のセット数のストックがない場合は、C Zの消化に伴い残りゲーム数が減るにつれて、ART状態のランクとして高い（又は低い）ランクが決定され易くなるように設定することもできる。また、例えば、ART状態のセット数のストックがある場合とない場合とで、ART状態のランクとして高いランクが決定され易いゲーム数を異ならせることもできる。

20

【1703】

また、図264(A)(B)では、C Z中に行うART抽籤とランク抽籤との間で、C Zの残りゲーム数を揃えているが、これに限られるものではなく、図263(B)に例示するように、C Z中に行うART抽籤とランク抽籤との間で、C Zの残りゲーム数を異ならせることとしてもよい。

30

【1704】

同様に、図264(A)(B)では、ART状態のストックがある場合に行うART抽籤と、ART状態のストックがない場合に行うART抽籤との間でC Zの残りゲーム数を揃え、同様に、ART状態のストックがある場合に行うランク抽籤と、ART状態のストックがない場合に行うランク抽籤との間でC Zの残りゲーム数を揃えているが、これに限られるものではない。

【1705】

例えば、図264(C)に示すように、ART状態のストックがない場合には、C Z中のART抽籤は、C Zの残りゲーム数「7, 8ゲーム」「5, 6ゲーム」「3, 4ゲーム」「1, 2ゲーム」「0ゲーム」に応じて異ならせる一方で、C Z中のランク抽籤は、C Zの残りゲーム数「6, 7, 8ゲーム」「4, 5ゲーム」「0, 1, 2, 3ゲーム」に応じて異ならせ、また、ART状態のストックがある場合には、C Z中のART抽籤は、C Zの残りゲーム数「5, 6, 7, 8ゲーム」「2, 3, 4ゲーム」「0, 1ゲーム」に応じて異ならせる一方で、C Z中のランク抽籤は、C Zの残りゲーム数「6, 7, 8ゲーム」「3, 4, 5ゲーム」「0, 1, 2ゲーム」に応じて異ならせることとしてもよい。このようにすることで、C Z中の各種抽籤をより多様化することができ、遊技性に富んだものにすることができる。

40

【1706】

50

以上説明したように本実施形態のパチスロ1では、ART抽籤に当籤するとランク抽籤を行い、ART状態中のランクを決定する。なお、ART状態中は、このランク（より詳細には、ランクから定まる抽籤状態）に基づき、CZゲーム数の上乘せやEPへの移行（より詳細には、ナビ高確ゲーム数の付与）といった特典が付与されることになるため、低いランクは小さな特典しか付与されず、反対に高いランクは大きな特典が付与されることになる。そのため、ART状態のランクは、遊技者に対して付与する特典の大きさといふことができる。

【1707】

このとき、パチスロ1では、ART状態のセット数のストックの有無に応じてランク抽籤の抽籤結果を異ならせる。例えば、ART状態のセット数のストックがある場合には、ランク抽籤において低いランクを決定し易く、反対に、ART状態のセット数のストックがない場合には、ランク抽籤において高いランクを決定し易くすることができる。これにより、ART状態のセット数のストックがある状態で更にART抽籤に当籤した場合には、ART状態のセット数のストックがない状態でART抽籤に当籤した場合よりも、低いランクが期待できることになり、その後のART状態における特典への期待が抑制される。

10

【1708】

このようにパチスロ1では、ART状態のセット数のストックがある場合には、ART状態のランクを相対的に低く決定するため、ストックがある状態での更なるART当籤時に遊技者に対して過度な利益を付与してしまうことを抑制することができる。

【1709】

なお、ART状態のセット数のストックがある場合には、ランク抽籤において高いランクを決定し易く、反対に、ART状態のセット数のストックがない場合には、ランク抽籤において低いランクを決定し易くすることもできる。このような場合であっても、2つ目以降のストック分のランクは高くなってしまふものの、1つ目のストック分のランクは低く抑えることができるため、遊技者に対して過度な利益を付与してしまうことを抑制することができる。

20

【1710】

また、パチスロ1では、ART状態のセット数のストックの有無に応じてART抽籤の抽籤結果も異ならせる。例えば、ART状態のセット数のストックがある場合にART抽籤に当籤し易くすることで、ストックがある場合には、ART抽籤に当籤し易いものの低いランクが決定され易くすることができ、また、ART状態のセット数のストックがある場合にART抽籤に当籤し難くすることで、ストックがある場合には、ART抽籤に当籤し難く、かつ、当籤しても低いランクが決定され易くすることができる。これにより、CZ中の各種抽籤をより多様化することができ、遊技性に富んだものにすることができる。

30

【1711】

また、パチスロ1では、CZ中の残りゲーム数に応じてART抽籤及びランク抽籤の抽籤結果を異ならせる。これにより、CZ中の各種抽籤をより多様化することができ、遊技性に富んだものにすることができる。

【1712】

なお、パチスロ1において、ART状態のランクは、CZゲーム数の上乘せに影響を与える情報であるため、高いランクが決定された場合には、CZゲーム数の上乘せに期待でき、結果、CZとART状態とのループが継続することが期待でき、遊技性が向上する。

40

【1713】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上のようなパチスロ1に特有の制御を実現するために、パチスロ1の主制御基板（主制御回路90，メインCPU101）及び副制御基板（副制御回路200，サブCPU201）は、次のような機能を有する。

【1714】

主制御基板71は、スタートスイッチ79やストップスイッチ基板80と接続され、図1に示す遊技の進行を制御する。それゆえ、主制御基板71は、開始操作検出手段、図柄

50

変動手段、内部当籤役決定手段、停止操作検出手段、リール停止制御手段（停止制御手段）及び入賞判定手段として機能する。

【1715】

また、主制御基板71は、ART抽籤を行いART状態に移行するか否か、及びART状態に移行する場合にART状態中の有利度合い（すなわち、ART状態中のランク）を決定するため、特典決定手段、移行決定手段及びモード決定手段として機能する。

なお、上述のようにART状態中のランクは、ART状態中に付与する特典（例えば、CZゲーム数の上乘せなど）に影響を与える情報であるため、ART状態という特典を付与する遊技機においては、ART状態のランクを決定することは、ART状態という特典の大きさを決定することと同じである（すなわち、ランクが高いほど、有利なART状態になるため、付与する特典も大きくなる）。

10

【1716】

また、主制御基板71は、ART抽籤に当籤すると、遊技状態をART状態に移行させるとともに、このART状態中の遊技を、ランク抽籤で決定したランクに基づき制御（すなわち、ランクに基づいてCZゲーム数の上乘せなどの特典を付与）するため、特典付与手段及び有利状態制御手段として機能する。

【1717】

また、主制御基板71は、ART抽籤に当籤すると、付与するART状態の権利数を決定して、メインRAM103に記憶するとともに、遊技状態をART状態に移行させると、メインRAM103に記憶されているART状態の権利を1つ消し去るため、権利管理手段として機能する。

20

【1718】

また、主制御基板71は、CZ中の遊技を制御するため、状態制御手段及び高確率状態制御手段として機能する。なお、主制御基板71は、CZ中にART抽籤に当籤すると、CZを中断して遊技状態をART状態に移行させ、その後、このART状態が終了すると、中断していたCZを再開することで、CZとART状態とのループを実現する。

【1719】

【CZ終了後の泣きの1回のART抽籤】

本実施形態のパチスロ1では、通常状態中であっても、CZが終了した次の1ゲームでは、当籤する確率が高いART抽籤を行う（図226、図227参照）。遊技者にとってみると、CZが終了した後にもART状態への移行の期待度を持つことができるため、遊技の興趣の低下を抑制することができる。

30

【1720】

特に、本実施形態のパチスロ1では、CZからART状態に移行すると、CZの残りゲーム数が上乘せされるが、CZが終了した次の1ゲームにおいてART抽籤に当籤した場合にも、CZの残りゲーム数が上乘せされ、結果、CZの終了に伴い終了したCZとART状態とのループが再開することになるため、遊技の興趣が向上する。なお、CZの最終ゲーム（残りゲーム数「0」）に遊技状態がART状態に移行し、かつ、CZゲーム数に「5ゲーム」が上乘せされた場合、ART状態終了時のCZゲーム数の残りは「5ゲーム」である。また、CZが終了した次の1ゲームにおいてART抽籤に当籤し、遊技状態がART状態に移行し、かつ、CZゲーム数に「5ゲーム」が上乘せされた場合も、ART状態終了時のCZゲーム数の残りは「5ゲーム」である。

40

【1721】

また、CZが終了した次の1ゲームにおける演出内容は、任意である。例えば、CZが終了した次の1ゲームでは、CZとART状態とのループによる有利区間の結果を表示する終了画面を表示しておき、CZが終了した次の1ゲームにおけるART抽籤に当籤した場合には、この終了画面から逆転させる形で演出画面を切り替えることとしてもよい。また、CZとART状態とのループによる有利区間の結果は、CZの最終ゲームにおいて表示しておき、次のゲーム（CZが終了した次の1ゲーム）のスタート時には、通常状態中の通常の演出画面を表示しておくこととしてもよい。この場合、CZが終了した次の1ゲ

50

ームにおいてART抽籤に当籤すると、例えば、第1停止操作～第3停止操作等の任意のタイミングで、通常の演出画面が確定画面に演出画面を切り替えることとしてもよい。

【1722】

また、上記実施形態のパチスロ1では、CZが終了した次の1ゲームにおいて当籤確率の高いART抽籤を行うこととしているが、これに限られるものではない。継続CZ及びART状態は、高RT状態中に行われるため、例えば、CZが終了した後の低RT状態に移行したタイミングの1ゲームに限り、当籤確率の高いART抽籤を行うこととしてもよい。すなわち、主制御回路90は、継続CZの終了時は、RT状態がRT0～RT2状態の何れかに移行した次の1ゲームに限り、当籤確率の高いART抽籤を行い、また、初当りCZの終了時には、初当りCZの終了時のRT状態が既にRT0～RT2状態である場合は初当りCZが終了した次の1ゲームにおいて当籤確率の高いART抽籤を行い、また、初当りCZの終了時のRT状態がRT4状態又はRT5状態である場合は、初当りCZが終了した後にRT状態がRT0～RT2状態の何れかに移行した次の1ゲームに限り、当籤確率の高いART抽籤を行うこととしてもよい。

10

【1723】

また、ART抽籤は、抽籤フラグに基づいて行われるところ、抽籤用フラグは、内部当籤役とナビ区間の有無とに応じて決定されるため(図208(B)参照)、CZが終了した次の1ゲームをナビ区間とするか否かに応じて、CZが終了した次の1ゲームにおけるART抽籤の抽籤結果が異なることになる。この点、CZが終了した次の1ゲームをナビ区間としてもよく、また、非ナビ区間としてもよく、更には、ナビ高確中のナビ区間としてもよく、また非ナビ高確中のナビ区間としてもよい。

20

【1724】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上のようなパチスロ1に特有の制御を実現するために、パチスロ1の主制御基板(主制御回路90,メインCPU101)及び副制御基板(副制御回路200,サブCPU201)は、次のような機能を有する。

【1725】

主制御基板71は、スタートスイッチ79やストップスイッチ基板80と接続され、図1に示す遊技の進行を制御する。それゆえ、主制御基板71は、開始操作検出手段、図柄変動手段、内部当籤役決定手段、停止操作検出手段、リール停止制御手段(停止制御手段)及び入賞判定手段として機能する。

30

【1726】

また、主制御基板71は、ART抽籤を行い、ART抽籤に当籤すると、遊技状態をART状態に移行させるため、付与決定手段及び特典付与手段として機能する。

また、主制御基板71は、ART抽籤に当籤すると、付与するART状態の権利数を決定して、メインRAM103に記憶するとともに、遊技状態をART状態に移行させると、メインRAM103に記憶されているART状態の権利を1つ消し去るため、特典管理手段として機能する。

【1727】

また、主制御基板71は、CZ中の遊技を制御するため、状態制御手段として機能する。なお、主制御基板71は、CZ中にART抽籤に当籤すると、CZを中断して遊技状態をART状態に移行させ、その後、このART状態が終了すると、中断していたCZを再開することで、CZとART状態とのループを実現するが、この際、CZからART状態への移行に伴いCZゲーム数の上乗せを行うため、高確率状態加算手段として機能する。

40

【1728】

[ART当籤時のランク抽籤]

本実施形態のパチスロ1では、ART抽籤に当籤した場合に、ランク抽籤を行う。例えば、主制御回路90は、ART抽籤において当籤したART状態の1つ目のストックについては、図234(A)～図238(N)に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照して、ART当籤時の内部当籤役(より詳細には、抽籤用フラグ)に基づいてART当籤

50

時のランクを決定し、また、2つ目以降のストックについては、図238(O)に示すART当籤時ランク抽籤テーブルを参照してART当籤時のランクを決定する。

【1729】

ART当籤時のランクは、ART状態の抽籤状態を決定するために参照されることから、ART当籤時に高ランクが決定されている場合には、その後のART状態においてCZゲーム数の上乘せ等が行われ易く、反対にART当籤時に低ランクが決定されている場合には、その後のART状態においてCZゲーム数の上乘せ等が行われ難くなる可能性があり、ART状態中の遊技が画一化してしまうことを防止できる。また、ART当籤時のランクは、ART当籤時の内部当籤役に基づいて決定されることから、CZ中に強い役を契機にART抽籤に当籤した場合には、その後のART状態に期待を持つことができ、遊技の興趣が向上する。

10

【1730】

また、このART当籤時のランクは、副制御回路200の制御により表示装置11を介して示唆される(図212(C)参照)。具体的には、副制御回路200は、1つ目のストック(すなわち、内部当籤役に基づいてART当籤時のランクが決定されるストック)については、「武器S」「武器A」「武器B」「武器C」「武器D」に応じた映像を表示することで、当該1つ目のストック分のART当籤時のランクを示唆する演出を行う。一方で、2つ目以降のストック分については、副制御回路200は、「武器?」に応じた映像を表示することで、ART当籤時のランクを示唆しない。

【1731】

なお、副制御回路200がART当籤時のランクを示唆する又は示唆しない演出を行うタイミングは、主制御回路90がART状態のストックを放出するタイミング(すなわち、付与したART状態のストックに基づき、遊技状態をART状態に移行させるタイミング)である。ここで、CZ中のART抽籤において一度に複数のART状態のストックが付与された場合、主制御回路90は、ART当籤後に遊技状態を一度CZからART状態に移行させることで、1つ目のストックの放出を行い、また、その後、CZの残りゲーム数がなくなったタイミングで、遊技状態をCZからART状態に移行させることで、2つ目のストックを放出する。そのため、副制御回路200は、1つ目のストック分は、ART当籤時に武器ランクに応じた映像を表示することで、ランクを示唆し、2つ目以降のストック分は、CZの残りゲーム数がなくなった時(放出フェーズD)に「武器?」に応じた映像を表示することで、ART当籤時のランクを示唆しない。

20

30

【1732】

また、ART状態のランク(抽籤状態)は、ART当籤時のランク抽籤と、ランク決めART中の昇格抽籤という2段階の抽籤を経て決定される。副制御回路200は、ART当籤時の(仮の)ランクを、武器ランクに応じた映像を表示して示唆する一方で、ART状態中に抽籤状態に応じた演出ステージを用いて演出を行うことで、昇格抽籤後の確定したランク(抽籤状態)を報知する(図212(C)参照)。遊技者にとってみれば、ART状態中の演出ステージから、今回のART状態の有利度合いを把握できるため、その後の遊技に対して様々期待を持つことができ、興趣が向上する。

【1733】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上のようなパチスロ1に特有の制御を実現するために、パチスロ1の主制御基板(主制御回路90,メインCPU101)及び副制御基板(副制御回路200,サブCPU201)は、次のような機能を有する。

【1734】

主制御基板71は、スタートスイッチ79やストップスイッチ基板80と接続され、図1に示す遊技の進行を制御する。それゆえ、主制御基板71は、開始操作検出手段、図柄変動手段、内部当籤役決定手段、停止操作検出手段、リール停止制御手段(停止制御手段)及び入賞判定手段として機能する。

【1735】

40

50

また、主制御基板 7 1 は、A R T 抽籤を行い A R T 状態に移行するか否かを決定し、A R T 抽籤に当籤した場合に遊技状態を A R T 状態に移行するため、移行決定手段、有利状態制御手段、特典決定手段及び特典付与手段として機能する。また、主制御基板 7 1 は、A R T 抽籤に当籤した場合にランク抽籤を行い、A R T 当籤時の内部当籤役から定まる抽籤用フラグに基づき A R T 当籤時のランクを決定するとともに、ランク決め A R T 中に昇格抽籤を行うことで A R T 当籤時のランクから A R T 状態の抽籤状態を決定するため、モード決定手段、モード決定情報決定手段及び特典決定手段（なお、この場合における特典は、A R T 状態への移行という特典を意味する）として機能する。

【 1 7 3 6 】

また、主制御基板 7 1 は、A R T 状態中に、A R T 当籤時のランク（より詳細には、当該ランクから決定される抽籤状態）に基づき、A R T 状態中に C Z ゲーム数の上乘せなどの特典を付与するため、特典付与手段として機能する。

10

【 1 7 3 7 】

また、主制御基板 7 1 は、A R T 抽籤に当籤すると、付与する A R T 状態の権利数を決定して、メイン R A M 1 0 3 に記憶するとともに、遊技状態を A R T 状態に移行させると、メイン R A M 1 0 3 に記憶されている A R T 状態の権利を 1 つ消し去るため、権利管理手段として機能する。

【 1 7 3 8 】

また、主制御基板 7 1 は、C Z 中の遊技を管理して C Z の残りゲーム数が 0 になると C Z を終了することから、高確率状態制御手段及び状態制御手段として機能する。

20

【 1 7 3 9 】

また、副制御基板 2 0 0 及び表示装置 1 1 は、A R T 当籤時のランクを示唆する演出を行うとともに、一度の A R T 当籤時に複数ストックした場合に、1 つ目のストック分の A R T 当籤時のランクは示唆する一方で、2 つ目以降のストック分の A R T 当籤時のランクは示唆しないため、演出手段として機能する。

【 1 7 4 0 】

[ランク決め A R T 中のランク昇格抽籤]

本実施形態のパチスロ 1 では、A R T 状態に移行した最初の遊技（ランク決め A R T ）において、A R T 当籤時に決定していたランクを昇格して、A R T 状態中の抽籤状態を決定する。そして、パチスロ 1 では、A R T 状態中に、この抽籤状態に応じて C Z ゲーム数の上乘せやナビ高確ゲーム数を付与するため、抽籤状態に応じて A R T 状態中の遊技性が異なることになる。

30

【 1 7 4 1 】

ここで、パチスロ 1 では、抽籤状態を、A R T 当籤時のランク抽籤と、ランク決め A R T 中の昇格抽籤という二段階の抽籤を経て決定するため、例えば、ランク抽籤の抽籤結果が好ましくない場合であっても、昇格抽籤の抽籤結果により好ましい結果となることがあり、A R T 状態中の遊技性を多様化することができる。また、A R T 当籤時のランク抽籤は、A R T 当籤時の内部当籤役（より詳細には、内部当籤役から定まる抽籤用フラグ）に基づき行われ、昇格抽籤は、ランク決め A R T 中の内部当籤役（より詳細には、内部当籤役から定まる抽籤用フラグ）に基づき行われるため、例えば、強い役を契機に A R T 抽籤に当籤した場合には、その後の A R T 状態に期待を持てるだけでなく、弱い役を契機に A R T 抽籤に当籤した場合であっても、ランク決め A R T 中に強い役が当籤することでその後の A R T 状態に期待を持てることができ、遊技の興趣が向上する。

40

【 1 7 4 2 】

また、A R T 状態中に抽籤状態に基づいて C Z ゲーム数の上乘せといった特典が付与された場合には、その後、C Z と A R T 状態とのループが期待でき、遊技の興趣が更に向上する。

【 1 7 4 3 】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上のようなパチスロ 1 に特有の制御を実現するために、パチスロ 1 の主制御基板（主

50

制御回路 90 , メイン CPU 101) 及び副制御基板 (副制御回路 200 , サブ CPU 201) は、次のような機能を有する。

【 1744 】

主制御基板 71 は、スタートスイッチ 79 やストップスイッチ基板 80 と接続され、図 1 に示す遊技の進行を制御する。それゆえ、主制御基板 71 は、開始操作検出手段、図柄変動手段、内部当籤役決定手段、停止操作検出手段、リール停止制御手段 (停止制御手段) 及び入賞判定手段として機能する。

【 1745 】

また、主制御基板 71 は、ART 抽籤を行い ART 状態に移行するか否かを決定し、ART 抽籤に当籤した場合に遊技状態を ART 状態に移行するため、移行決定手段及び有利状態制御手段として機能する。また、主制御基板 71 は、ART 抽籤に当籤した場合にランク抽籤を行い、ART 当籤時の内部当籤役から定まる抽籤用フラグに基づき ART 当籤時のランクを決定するため、モード決定情報決定手段として機能する。

【 1746 】

また、主制御基板 71 は、ランク決め ART 中に内部当籤役から定まる抽籤用フラグに基づき昇格抽籤を行い、ART 当籤時のランクを昇格させて ART 状態中の抽籤状態を決定するため、モード決定手段として機能する。なお、本実施形態のパチスロ 1 では、ART 状態の最初の 1 ゲームをランク決め ART として昇格抽籤を行っているが、これに限られるものではなく、ART 抽籤に当籤した遊技よりも後の遊技において昇格抽籤を行うこととしてもよい。

【 1747 】

また、主制御基板 71 は、ART 状態中に、昇格抽籤において決定された抽籤状態に基づき、CZ ゲーム数の上乘せなどの特典を付与するため、特典付与手段として機能する。

【 1748 】

[通常状態中の自力 RT 5 移行時の ART 抽籤]

本実施形態のパチスロ 1 では、RT 移行図柄に基づき RT 状態を移行しており、通常状態中に押し順に正解した場合、通常状態中であっても高 RT 状態である RT 4 状態や RT 5 状態に移行することがある。例えば、図 265 (A) に示すように RT 4 状態において「3 択昇格リブ」が内部当籤役として決定された場合に、当籤した「3 択昇格リブ」の押し順に正解すると、略称「強チャンスリブ (RT 5 移行図柄) 」に係る図柄組合せが停止表示され (図 205 参照) 、RT 状態が RT 4 状態から RT 5 状態に移行する。

【 1749 】

ここで、図 224 に示す通常時 ART 抽籤テーブルを参照すると、略称「強チャンスリブ (RT 5 移行図柄) 」に係る図柄組合せが停止表示されたときの抽籤用フラグ「強チャンスリブ」は、通常時の ART 抽籤に当籤し易い抽籤用フラグであることが分かる。

【 1750 】

また、RT 5 状態では、通常時の ART 抽籤に必ず当籤する抽籤用フラグ「7 揃い」「BAR 揃い」に対応する「F__7 リブ A」「F__7 リブ B」「F__BAR リブ」が内部当籤役として決定される確率が高い (図 180 参照) 。そのため、通常状態中の RT 5 状態は、通常状態中の RT 4 状態に比べて ART 抽籤に当籤する確率が高い状態であるといえる。

【 1751 】

また、図 265 (A) に示すように RT 5 状態において「6 択転落リブ」が内部当籤役として決定された場合に、当籤した「6 択転落リブ」の押し順に不正解すると、略称「小山リプレイ (RT 4 移行図柄) 」に係る図柄組合せが停止表示され、RT 状態が RT 5 状態から RT 4 状態に移行 (転落) してしまうが、当籤した「6 択転落リブ」の押し順に正解するとコンビネーション名「C__CU リブ」に係る図柄組合せが停止表示され (図 205 参照) 、結果、RT 状態が RT 5 状態のまま維持される。

【 1752 】

RT 状態を RT 5 状態のまま維持できた場合には、RT 5 状態中の高確率で当籤する A

10

20

30

40

50

R T抽籤をその後も受けることができ好適であるが、R T状態がR T 4状態に転落してしまった場合であっても、図2 2 1の状態別C Z抽籤テーブルを参照すると、転落時に表示される略称「小山リプレイ」に係る図柄組合せに対応する抽籤用フラグ「弱チャンスリップ」は、R T状態の維持時に表示されるコンビネーション名「C__C Uリップ」に係る図柄組合せに対応する「通常リップ」よりも通常時のC Z抽籤に当籤し易い。

【1 7 5 3】

このように本実施形態のパチスロ1では、R T 4状態からR T 5状態に移行したタイミング（すなわち、R T 5状態の入り口）でA R T抽籤の当籤に期待を持つことができ、また、R T 5状態からR T 4状態に転落したタイミング（すなわち、R T 5状態の出口）でC Z抽籤の当籤に期待を持つことができる。言い換えると、パチスロ1では、A R T抽籤に高確率で当籤するR T 5状態への入り口と出口との双方において、特典（A R T状態やC Z）の付与が期待できる。

10

【1 7 5 4】

なお、上記実施形態のパチスロ1では、通常状態中は何らの報知（ナビ）を行わない例を示しているが、通常状態中も所定の報知を行うこととしてもよい。図2 6 5（B）は、通常状態中のナビ制御の一例を示す図である。図2 6 5（B）に示すように、パチスロ1は、通常状態中のナビ状態として、通常ナビ状態と非ナビ状態とを備えることができる。

【1 7 5 5】

通常ナビ状態とは、一定の範囲で遊技者に対して押し順を報知する状態であり、非ナビ状態とは、何らの報知も行わない状態である。一定の範囲は任意であるが、パチスロ1では、例えば、R T 5状態に移行するための「3 択昇格リップ」の当籤時に正解の押し順を報知することができる。このようにすることで、通常ナビ状態中は、A R T抽籤に高確率で当籤するR T 5状態への移行が容易になる。

20

【1 7 5 6】

また、通常ナビ状態中は、「3 択昇格リップ」の当籤時の報知に代えて又は加えて、R T 4状態への転落を回避するための「6 択転落リップ」の当籤時に正解の押し順を報知することとしてもよい。このようにすることで、通常ナビ状態中は、一度R T 5状態に移行できると、その後、R T 4状態への転落を回避しつつ、R T 5状態のA R T抽籤を受けることができる。

【1 7 5 7】

なお、通常状態中に非ナビ状態から通常ナビ状態に移行させるための方法は任意であり、例えば、抽籤用フラグに基づいて抽籤により決定することとしてもよく、また、R T 5状態へ唯一移行することができるR T 4状態に移行したタイミングで所定の確率で通常ナビ状態にすることとしてもよい。ここで、図1 7 8を参照すると、R T 4状態へは、R T 2状態中の「6 択突入りリップ」の当籤時に押し順に正解することで（略称「小山リプレイ」に係る図柄組合せが停止表示され）移行する。そのため、例えば、パチスロ1の主制御回路9 0は、R T 2状態からR T 4状態に移行したタイミングで通常ナビ状態に移行するかどうかを決定することとしてもよい。

30

【1 7 5 8】

また、通常ナビ状態から非ナビ状態に移行させるための方法も任意であり、例えば、抽籤用フラグに基づいて抽籤により決定することとしてもよく、また、通常ナビ状態中の遊技が所定回数行われることを条件に通常ナビ状態から非ナビ状態に移行させることとしてもよく、また、通常ナビ状態中に行った報知の回数が特定回数に達することを条件に通常ナビ状態から非ナビ状態に移行させることとしてもよい。

40

【1 7 5 9】

また、上記実施形態のパチスロ1では、「F__7リップA」「F__7リップB」「F__B A Rリップ」が内部当籤役として決定されると、停止操作の態様に関わらず略称「7 揃いリップ」「B A R揃いリップ」に係る図柄組合せが停止表示される（図2 0 5参照）が、これに限られるものではない。すなわち、「F__7リップA」「F__7リップB」「F__B A Rリップ」が内部当籤役として決定された場合に、停止操作の態様が予め定められた態様である場合

50

(例えば、押し順に正解すると)略称「7揃いリブ」「BAR揃いリブ」に係る図柄組合せが停止表示され、停止操作の態様が予め定められた態様ではない場合(例えば、押し順に不正解すると)略称「7揃いリブ」「BAR揃いリブ」に係る図柄組合せが停止表示されない(例えば、略称「フェイクリブ」に係る図柄組合せが停止表示される)こととしてもよい。

【1760】

この場合、RT5状態中に「F__7リブA」「F__7リブB」「F__BARリブ」が内部当籤役として決定されると、リール停止時に抽籤用フラグを決定し、当該抽籤用フラグによりART抽籤を行うことになる。すなわち、主制御回路90は、RT5状態中に「F__7リブA」「F__7リブB」「F__BARリブ」が内部当籤役として決定された場合、

10

略称「7揃いリブ」「BAR揃いリブ」に係る図柄組合せが停止表示されると、抽籤用フラグ「7揃い」「BAR揃い」に基づいてART抽籤を行う。

【1761】

また、このように「F__7リブA」「F__7リブB」「F__BARリブ」を押し順役として用いる場合、上述の通常ナビ状態中に正解の押し順を報知することとしてもよい。これにより、通常ナビ状態中は、RT5状態中に高確率でART抽籤に当籤することになるが、非ナビ状態中は、RT5状態中に押し順に正解しないとART抽籤に当籤しなくなり、遊技性が多様化する。

【1762】

なお、本実施形態のパチスロ1では、通常状態中にART抽籤に当籤すると、遊技状態をART前兆に移行し、その後、ART準備中を経て遊技状態をART状態に移行することとしている。この点、RT5状態は、ART状態が行われる高RT状態であるため、RT5状態の入り口である、抽籤用フラグ「強チャンスリブ」に基づく通常時のART抽籤に当籤した場合、又はRT5状態中に抽籤用フラグ「7揃い」「BAR揃い」に基づく通常所のART抽籤に当籤した場合には、ART前兆に移行することなく、ART状態に移行させることとしてもよい。

20

【1763】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上のようなパチスロ1に特有の制御を実現するために、パチスロ1の主制御基板(主制御回路90,メインCPU101)及び副制御基板(副制御回路200,サブCPU201)は、次のような機能を有する。

30

【1764】

主制御基板71は、スタートスイッチ79やストップスイッチ基板80と接続され、図1に示す遊技の進行を制御する。それゆえ、主制御基板71は、開始操作検出手段、図柄変動手段、内部当籤役決定手段、停止操作検出手段、リール停止制御手段(停止制御手段)及び入賞判定手段として機能する。

【1765】

また、主制御基板71は、RT4状態中に略称「強チャンスリブ(RT5移行図柄)」に係る図柄組合せが停止表示されると、RT状態をRT5状態に移行させ、RT5状態中に略称「小山リプレイ(RT4移行図柄)」に係る図柄組合せが停止表示されると、RT状態をRT4状態に移行させるため、RT移行手段として機能する。

40

【1766】

また、主制御基板71は、抽籤用フラグに基づきART抽籤やCZ抽籤を行っており、この抽籤に当籤すると、遊技状態をART状態やCZ状態に移行するため、付与決定手段及び特典付与手段として機能する。なお、主制御基板71が行うART抽籤は、「3択昇格リブ」の当籤時に略称「強チャンスリブ」に係る図柄組合せが停止表示されると、所定の確率で当籤し、また、「F__7リブA」「F__7リブB」「F__BARリブ」の当籤時(押し順役として用いる場合には、略称「7揃いリブ」「BAR揃いリブ」に係る図柄組合せの停止表示時)には、必ず当籤する。また、主制御基板71が行うCZ抽籤は、「6択転落リブ」当籤時に略称「小山リブ」に係る図柄組合せが停止表示されると、コンビネ

50

ーション名「C__C Uリブ」に係る図柄組合せが停止表示された場合よりも高い確率で当籤する。

【1767】

また、主制御基板71は、通常状態中に通常ナビ状態に移行するか否かを決定し、通常ナビ状態中は、一定の範囲で押し順を報知するため、報知決定手段、通常時報知制御手段及び報知手段として機能する。なお、押し順の報知は、液晶などのサブ側で制御する装置により行うこともでき、この場合には、副制御基板72も報知手段として機能する。

【1768】

[RT3状態への移行を契機としたART状態への移行]

本実施形態のパチスロ1では、RT移行図柄に基づきRT状態を移行しており、RT2状態に略称「弱チェリブ(RT3移行図柄)」に係る図柄組合せが停止表示されると、RT状態がRT3状態に移行し、また、ART状態のセット数のストックという特典が付与される(図209(B-2)参照)。なお、略称「弱チェリブ(RT3移行図柄)」に係る図柄組合せは、「F__弱チェリブ」が内部当籤役として決定された場合に停止表示されるため、RT状態がRT3状態に移行することと、RT2状態中に略称「弱チェリブ(RT3移行図柄)」に係る図柄組合せが停止表示されることと、RT2状態中に「F__弱チェリブ」が内部当籤役として決定されることとは、同じことを意味する。

10

【1769】

また、上記実施形態では、RT状態がRT3状態に移行することを契機に、必ずART状態のセット数を付与することとしているが、これに限られるものではなく、RT状態がRT3状態に移行した場合に、所定の確率でART状態のセット数を付与することとしてもよい。

20

【1770】

ここで、RT3状態中は、「F__弱チェリブ」が高確率(18752/65536)で内部当籤役として決定されるため(図180参照)、RT3状態に移行できた場合には略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せが頻繁に表示されることになる。遊技者にとってみれば、略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せが頻繁に表示されることで、RT3状態中であること、すなわち、ART状態のストックが付与されていることについて期待感を抱くことになる。このように本実施形態のパチスロ1では、「F__弱チェリブ」が連続して内部当籤役として決定されている場合に、ART状態のストックという特典が付与されている期待感を抱くことができる。

30

【1771】

また、パチスロ1では、「F__弱チェリブ」を所定の確率で内部当籤役として決定するものの、略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せが停止表示されても、他のRT状態に移行しないRT状態として、RT1状態を有する。ここで、このようなRT1状態を有しない場合、略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せが停止表示されると、RT3状態に移行してしまうことになるため、「F__弱チェリブ」が連続して当籤するか否かに関わらず、一度の略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せの停止表示から、ART状態のストックという特典が付与されている期待感を抱くことができず、これに対して、略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せが停止表示されてもRT3状態に移行しないRT状態を設けることで、「F__弱チェリブ」の連続当籤から初めてRT3状態に滞在中であることを期待できるようになり、結果、「F__弱チェリブ」の連続当籤から初めてART状態のストックという特典が付与されている期待感を抱くことができる。

40

【1772】

また、RT3状態への移行を契機に付与される特典は、高RT状態中に行うART状態であるところ、高RT状態中は、略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せが停止表示されることになる「F__弱チェリブ」を内部当籤役として決定することがなく(図180参照)、パチスロ1では、高RT状態からRT3状態に移行することがない。これにより、それぞれのRT状態の役割を明確にすることができる。

【1773】

50

なお、R T 3 状態中は、「F__弱チェリブ」が内部当籤役として決定される確率が高いが、R T 3 状態中の「F__弱チェリブ」当籤に伴う各種の抽籤は、任意に設定することができる。すなわち、R T 3 状態中の「F__弱チェリブ」の当籤時には、A R T 抽籤及びC Z 抽籤に必ず非当籤（又は抽籤自体を行わない）することとしてもよく、また、R T 3 状態中であっても「F__弱チェリブ」の当籤時にA R T 抽籤及びC Z 抽籤に所定の確率で当籤することとしてもよい。なお、R T 3 状態中の「F__弱チェリブ」の当籤時におけるA R T 抽籤及びC Z 抽籤の当籤確率は、図2 2 1 に示す状態別C Z 抽籤テーブル又は図2 2 4 に示す通常時A R T 抽籤テーブルにおける抽籤用フラグ「弱チェリー」に対応する抽籤値を規定することで、任意に設定することができる。

【1 7 7 4】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上のようなパチスロ1に特有の制御を実現するために、パチスロ1の主制御基板（主制御回路90，メインCPU101）及び副制御基板（副制御回路200，サブCPU201）は、次のような機能を有する。

【1 7 7 5】

主制御基板71は、スタートスイッチ79やストップスイッチ基板80と接続され、図1に示す遊技の進行を制御する。それゆえ、主制御基板71は、開始操作検出手段、図柄変動手段、内部当籤役決定手段、停止操作検出手段、リール停止制御手段（停止制御手段）及び入賞判定手段として機能する。

【1 7 7 6】

また、主制御基板71は、無限R T 状態中に略称「弱チェリブ（R T 3 移行図柄）」に係る図柄組合せが停止表示されると、R T 状態をR T 3 状態に移行させる一方で、有限R T 状態中に略称「弱チェリブ（R T 3 移行図柄）」に係る図柄組合せが停止表示されても、R T 状態を移行させずに維持し、また、R T 3 状態中に20回の遊技が行われると、R T 状態をR T 3 状態からR T 0 状態に移行させるため、R T 移行手段として機能する。

【1 7 7 7】

また、主制御基板71は、R T 状態がR T 3 状態に移行すると、A R T 状態のセット数を付与するとともに、その後、R T 状態がR T 3 状態から高R T 状態に移行すると遊技状態をA R T 状態に移行することから、付与決定手段及び特典付与手段として機能する。

【1 7 7 8】

[押し順ベル当籤時の制御]

本実施形態のパチスロ1では、押し順ベルの当籤時に停止操作の順序（押し順）に応じて有効ライン上に停止表示する図柄組合せを異ならせる。通常のA R T 機では、押し順ベル当籤時の押し順が不正解である場合、何らかの不利益（例えば、R T 状態の移行）を受けることになるが、本実施形態のパチスロ1では、押し順が不正解の場合であっても、何らの不利益も受けないことがある。以下、図2 6 6 ~ 図2 6 8 を参照して、本実施形態のパチスロ1における押し順ベル当籤時の制御について説明する。

【1 7 7 9】

なお、以下において「1 停ミス」とは、第1 停止操作で操作すべきストップボタンの種別を間違えること（言い換えると、1 番目の押し順を間違えること）をいい、同様に「2 停ミス」は、第2 停止操作で操作すべきストップボタンの種別を間違えること（言い換えると、2 番目の押し順を間違えること）をいい、また、「3 停ミス」は、第3 停止操作で操作すべきストップボタンの種別を間違えること（言い換えると、3 番目の押し順を間違えること）をいう。また、反対に、第1 停止操作で操作すべきストップボタンの種別が正しいこと（言い換えると、1 番目の押し順が正しいこと）を、「1 停正解」といい、第2 停止操作で操作すべきストップボタンの種別が正しいこと（言い換えると、2 番目の押し順が正しいこと）を、「2 停正解」といい、第3 停止操作で操作すべきストップボタンの種別が正しいこと（言い換えると、3 番目の押し順が正しいこと）を、「3 停正解」という。

【1 7 8 0】

10

20

30

40

50

また、図 2 6 6 において、コンビネーション名「C__TPベル」とは、略称「ベル」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「C__TPベル__01」～「C__TPベル__18」をいい、コンビネーション名「C__CTベル」とは、略称「ベル」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「C__CTベル__01」～「C__CTベル__06」をいい、コンビネーション名「C__CUベル」とは、略称「ベル」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「C__CUベル__01」～「C__CUベル__18」をいい、コンビネーション名「C__BTベル」とは、略称「ベル」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「C__BTベル__01」～「C__BTベル__09」をいい、コンビネーション名「C__CDベル」とは、略称「ベル」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「C__CDベルAAA__01」～「C__CDベルBBB」をいう。

10

【1781】

また、コンビネーション名「C__左移行役」とは、略称「RT0移行図柄」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「C__左移行役__01」～「C__左移行役__03」をいい、コンビネーション名「C__中移行役」とは、略称「RT0移行図柄」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「C__中移行役A__01」～「C__中移行役B__06」をいい、コンビネーション名「C__右移行役」とは、略称「RT0移行図柄」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「C__右移行役__01」～「C__右移行役__06」をいう。

【1782】

また、コンビネーション名「R__3rd移行」とは、略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「R__3rd移行__01」～「R__3rd移行__18」をいい、コンビネーション名「R__2nd移行」とは、略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「R__2nd移行__01」～「R__2nd移行__09」をいい、コンビネーション名「R__1st移行」とは、略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せのうちのコンビネーション名「R__1st移行__01」～「R__1st移行__18」をいう（図 1 9 7 ~ 図 2 0 4 参照）。

20

【1783】

図 2 6 6 は、押し順ベル当籤時の押し順と停止表示される図柄組合せとの対応関係を示す図である。図 2 6 6 に示すように、内部当籤役「押し順ベル（「F__123ベルA」～「F__321ベルB」）」は、押し順に応じて表示される図柄組合せが異なり、押し順が正解である場合には、コンビネーション名「C__TPベル」に係る図柄組合せのうちの図 1 8 3 ~ 図 1 9 6 に示した表示可能な図柄組合せのいずれかが有効ラインに沿って表示される。

30

【1784】

一方、押し順が正解でない場合には、押し順を間違えた順番に応じて停止表示される図柄組合せが異なり、1 停ミス時には、コンビネーション名「C__CDベル」又は略称「RT2移行図柄（「R__3rd移行」「R__2nd移行」「R__1st移行」）」に係る図柄組合せのうちの、図 2 6 6 に示す図柄組合せが停止表示される。例えば、内部当籤役が「F__123ベルA」～「F__132ベルB」である場合、1 番目の正解の押し順は、左であるため、押し順が「123」「132」であるときは1 停正解となり、押し順が「213」「231」「312」「321」であるときは1 停ミスとなる。

40

【1785】

また、2 停ミス時には、略称「RT0移行図柄（「C__左移行役」「C__中移行役」「C__右移行役」）」に係る図柄組合せのうちの、図 2 6 6 に示す図柄組合せが停止表示される。例えば、内部当籤役が「F__123ベルA」「F__123ベルB」である場合、2 番目の正解の押し順は、中であるため、押し順が「123」であるときは2 停正解となり、押し順が「132」であるときは2 停ミスとなり、押し順が「213」「231」「312」「321」であるときは1 停ミスとなる。

【1786】

このように本実施形態のパチスロ 1 では、押し順ベル当籤時の押し順に不正解の場合、

50

1 停ミス時には、コンビネーション名「C__CDベル」又は略称「RT2 移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示され、また、2 停ミス時には、略称「RT0 移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示される。なお、コンビネーション名「C__CDベル」は、RT 移行図柄ではないため、本実施形態のパチスロ1では、押し順不正解時であってもRT状態が移行しないことがある。また、略称「RT2 移行図柄」と略称「RT0 移行図柄」とでは、移行先のRT状態が異なるため、本実施形態のパチスロ1では、押し順不正解時の移行先のRT状態が異なることになる。一方で、略称「ベル」は、RT 移行図柄ではないため、略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されてもRT状態は移行しない(すなわち、主制御回路90は、RT状態を現在のRT状態のまま維持する)。

【1787】

また、1 停ミス時には、コンビネーション名「C__CDベル」又は略称「RT2 移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されることになるが、本実施形態のパチスロ1では、停止操作のタイミングに応じて停止表示する図柄組合せを異ならせている。ここで、図266を参照すると、パチスロ1では、4つの押し順ベルを1つのグループにしていることが分かる。具体的には、パチスロ1では、「F__123ベルA」「F__123ベルB」「F__132ベルA」「F__132ベルB」を1番目の正解の押し順が左である押し順ベルのグループとし、同様に、「F__213ベルA」「F__213ベルB」「F__231ベルA」「F__231ベルB」を1番目の正解の押し順が中である押し順ベルのグループとし、「F__312ベルA」「F__312ベルB」「F__321ベルA」「F__321ベルB」を1番目の正解の押し順が右である押し順ベルのグループとしている。

【1788】

パチスロ1では、これら4つの押し順ベルのそれぞれにおいて、1 停ミス時にコンビネーション名「C__CDベル」に係る図柄組合せが停止表示されることになる停止操作のタイミングを異ならせている。一例として、「F__123ベルA」～「F__132ベルB」のグループにおける1 停ミス時の停止制御について説明すると、内部当籤役が「F__123ベルA」である場合、有効ライン上に図柄位置「0」～「4」の図柄が位置しているタイミングで停止操作が行われるとコンビネーション名「C__CDベル」に係る図柄組合せが停止表示され、有効ライン上に図柄位置「5」～「20」の図柄が位置しているタイミングで停止操作が行われると略称「RT2 移行図柄」が停止表示される。また、内部当籤役が「F__123ベルB」である場合、有効ライン上に図柄位置「5」～「9」の図柄が位置しているタイミングで停止操作が行われるとコンビネーション名「C__CDベル」に係る図柄組合せが停止表示され、有効ライン上に図柄位置「0」～「4」「10」～「20」の図柄が位置しているタイミングで停止操作が行われると略称「RT2 移行図柄」が停止表示される。

【1789】

また、内部当籤役が「F__132ベルA」である場合、有効ライン上に図柄位置「10」～「14」の図柄が位置しているタイミングで停止操作が行われるとコンビネーション名「C__CDベル」に係る図柄組合せが停止表示され、有効ライン上に図柄位置「0」～「9」「15」～「20」の図柄が位置しているタイミングで停止操作が行われると略称「RT2 移行図柄」が停止表示される。また、内部当籤役が「F__132ベルB」である場合、有効ライン上に図柄位置「15」～「20」の図柄が位置しているタイミングで停止操作が行われるとコンビネーション名「C__CDベル」に係る図柄組合せが停止表示され、有効ライン上に図柄位置「0」～「14」の図柄が位置しているタイミングで停止操作が行われると略称「RT2 移行図柄」が停止表示される。

【1790】

このようにすることで、本実施形態のパチスロ1では、1 停ミス時であって4分の1の確率でRT状態が移行しないコンビネーション名「C__CDベル」に係る図柄組合せを停止表示することができる。

【1791】

ここで、押し順ベル当籤時に表示される図柄組合せとRT制御の概念図を図267及び

10

20

30

40

50

図 2 6 8 に示す。図 2 6 7 (A) は、本実施形態のパチスロ 1 における押し順ベル当籤時に表示される図柄組合せと R T 制御を示し、図 2 6 7 (B) ~ 図 2 6 8 (D) は、変形例に係るパチスロ 1 における押し順ベル当籤時に表示される図柄組合せと R T 制御を示す。

【 1 7 9 2 】

図 2 6 7 (A) に示すように、本実施形態のパチスロ 1 において、主制御回路 9 0 は、押し順正解時には、略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8 枚のメダルを払い出す。また、主制御回路 9 0 は、1 停ミス時は、停止操作のタイミングに応じて図柄組合せを異ならせ、4 分の 1 の確率でコンビネーション名「C _ C D ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8 枚のメダルを払い出し、4 分の 3 の確率で略称「R T 2 移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、R T 状態を R T 2 状態に移行する。また、主制御回路 9 0 は、2 停ミス時は、停止操作のタイミングに関わらず略称「R T 0 移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように製紙制御を行い、結果、R T 状態を R T 0 状態に移行する。

10

【 1 7 9 3 】

なお、本実施形態のパチスロ 1 (以下に説明する別例のパチスロ 1 も同様) では、押し順不正解時に停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせる場合に、4 分の 1 の確率を採用しているが、4 分の 1 に限られるものではなく、グループ化する押し順ベルの数を任意に設定することで、2 分の 1、3 分の 1 又は 5 分の 1 等の任意の確率を採用することができる。

20

【 1 7 9 4 】

また、本実施形態のパチスロ 1 (以下に説明する別例のパチスロ 1 も同様) では、1 停ミス時と 2 停ミス時とを比較した停止制御の例について説明しているが、これに限られるものではなく、1 停ミス時と 3 停ミス時とを比較することとしてもよく、また、2 停ミス時と 3 停ミス時とを比較することとしてもよく、また、停止対象のリールの数が 4 つ以上である場合には、更に任意の順序を比較することとしてもよい。また、比較する順序も 2 つに限るものではなく、3 つ以上の順序を比較して停止制御を行うこととしてもよい。すなわち、パチスロ 1 では、所定番目の押し順の正否と所定番目よりも後の特定番目の押し順の正否とを比較して停止制御を行うものである。

【 1 7 9 5 】

また、本実施形態のパチスロ 1 (以下に説明する別例のパチスロ 1 も同様) では、1 停ミス時は R T 2 状態に移行し、2 停ミス時は R T 0 状態に移行するというように、1 停ミス時と 2 停ミス時とで移行する R T 状態を異ならせているが、移行先の R T 状態は任意に設定することができる。また、移行先の R T 状態は、必ずしも異なる R T 状態である必要もなく、同じ R T 状態であってもよい。

30

【 1 7 9 6 】

また、本実施形態のパチスロ 1 (以下に説明する別例のパチスロ 1 も同様) では、押し順不正解時に停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせている。ここで、上述の例では、停止操作のタイミングを参照する対象となる停止操作の種別を省略しているが、パチスロ 1 では、任意の順序の停止操作のタイミングを参照して、上述の停止制御を行うことができる。

40

【 1 7 9 7 】

例えば、本実施形態のパチスロ 1 のように、1 停ミス時に停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせる場合、押し順をミスした第 1 停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせることとしてもよく、また、押し順をミスした第 1 停止操作よりも後の第 2 停止操作 (又は第 3 停止操作) のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせることとしてもよい。また、後述するように、2 停ミス時に停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせる場合には、押し順をミスした第 2 停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせることとしてもよく、また、押し順をミスした第 2 停止操作よりも後の第 3 停止操

50

作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせることとしてもよい。

【1798】

続いて、押し順ベル当籤時の制御の別例について説明する。本実施形態のパチスロ1では、上述のように1停ミス時に停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせ、2停ミス時には停止操作のタイミングに関わらず同じ図柄組合せを停止表示させている。この点、図267(B)に示す別例1のように、1停ミス時には停止操作のタイミングに関わらず同じ図柄組合せを停止表示させ、2停ミス時に停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせることとしてもよい。

【1799】

図266と考え方は同じであるため図示は省略するが、この別例1では、押し順正解時には、略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示され、また、1停ミス時には、略称「RT0移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示され、また、2停ミス時には停止操作のタイミングに応じて略称「ベル」又は略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示される。

10

【1800】

ここで、図267(B)に示すように、この別例1では、2停ミス時に停止表示される図柄組合せを異ならせるために、押し順ベルとして「F__123ベルC」「F__123ベルD」等を新たに追加して、それぞれの押し順毎に対応する押し順ベルを4つ設ける。そして、この4つの押し順ベル「F__123ベルA」「F__123ベルB」「F__123ベルC」「F__123ベルD」を1つのグループにしている。

20

【1801】

押し順ベル「F__123ベルA」～「F__123ベルD」では、押し順「132」の場合に2停ミスとなり、押し順「213」「231」「312」「321」の場合に1停ミスとなるため、上述のように押し順「132」の場合の停止制御を押し順ベル「F__123ベルA」～「F__123ベルD」において異ならせることで、2停ミス時に4分の1の確率で略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示され、4分の3の確率で略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように制御することができる。

【1802】

図267(B)に示すように、別例1の停止制御によると、主制御回路90は、押し順正解時には、略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8枚のメダルを払い出す。また、主制御回路90は、1停ミス時は、停止操作のタイミングに関わらず略称「RT0移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、RT状態をRT0状態に移行する。また、主制御回路90は、2停ミス時は、停止操作のタイミングに応じて図柄組合せを異ならせ、4分の1の確率で略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8枚のメダルを払い出し、4分の3の確率で略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、RT状態をRT2状態に移行する。

30

【1803】

続いて、押し順ベル当籤時の制御の別例2について説明する。本実施形態のパチスロ1及び別例1のパチスロ1では、1停ミス時又は2停ミス時の何れか一方に限り、停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせ、もう一方は、停止操作のタイミングに関わらず同じ図柄組合せを停止表示させている。この点、図268(C)に示す別例2では、1停ミス時も2停ミス時も停止操作のタイミングに応じて停止表示される図柄組合せを異ならせる。

40

【1804】

基本的な考え方は本実施形態のパチスロ1及び別例のパチスロ1と同じであるため詳細な説明は説明する。

図268(C)に示すように、別例2の停止制御によると、主制御回路90は、押し順正解時には、略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8枚のメダルを払い出す。また、主制御回路90は、1停ミス時は停止操作のタイミ

50

ングに応じて図柄組合せを異ならせ、4分の1の確率で略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8枚のメダルを払い出し、4分の3の確率で略称「RT0移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、RT状態をRT0状態に移行する。また、主制御回路90は、2停ミス時も停止操作のタイミングに応じて図柄組合せを異ならせ、4分の1の確率で略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8枚のメダルを払い出し、4分の3の確率で略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、RT状態をRT2状態に移行する。

【1805】

なお、別例2では、1停ミス時と2停ミス時の双方において、4分の1の確率で略称「ベル」に係る図柄組合せを停止表示させることとしているが、1停ミス時に略称「ベル」に係る図柄組合せを停止表示可能な確率（すなわち、1停ミス時に略称「ベル」に係る図柄組合せを停止表示するために要求される停止操作のタイミング）と、2停ミス時に略称「ベル」に係る図柄組合せを停止表示可能な確率（すなわち、2停ミス時に略称「ベル」に係る図柄組合せを停止表示するために要求される停止操作のタイミング）とを異ならせることとしてもよい。

【1806】

続いて、押し順ベル当籤時の制御の別例3について説明する。第2停止操作で操作すべきストップボタンの種別を間違えた場合（2停ミス）や、第3停止操作で操作すべきストップボタンの種別を間違えた場合（3停ミス）、それ以前の停止操作の順序は正しいこともあれば、それ以前の停止操作の順序も間違っていることもある。例えば、正解の押し順が「123」である場合、第2停止操作で操作すべきストップボタンの種別が中のストップボタン17C以外のストップボタンである場合に2停ミスとなるため、押し順「132」「213」「231」「312」の何れも2停ミスとなる。このうち押し順「132」は、第1停止操作で操作すべきストップボタンの種別は正しく、また、それ以外の押し順「213」「231」「312」は、第1停止操作及び第2停止操作のいずれも操作すべきストップボタンの種別が正しくない。

【1807】

別例3では、2停ミス時の第1停止操作の種別に応じて停止制御を異ならせる制御について説明する。なお、別例3では、2停ミス時に着目して例示しているが、これに限られるものではなく、所定番目の押し順よりも後の特定番目の押し順不正解時における、所定番目の押し順の正否に応じて停止制御を異ならせることを含むものである。

【1808】

基本的な考え方は本実施形態のパチスロ1及び別例のパチスロ1と同じであるため詳細な説明は説明する。

図268(D)に示すように、別例3の停止制御によると、主制御回路90は、押し順正解時には、略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8枚のメダルを払い出す。また、主制御回路90は、1停ミス、かつ、2停ミス時（すなわち、正解の押し順「123」に対する押し順「213」「231」「312」）は停止操作のタイミングに応じて図柄組合せを異ならせ、4分の1の確率で略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8枚のメダルを払い出し、4分の3の確率で略称「RT0移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、RT状態をRT0状態に移行する。また、主制御回路90は、1停正解、かつ、2停ミス時（すなわち、正解の押し順「123」に対する押し順「132」）も停止操作のタイミングに応じて図柄組合せを異ならせ、2分の1の確率で略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、8枚のメダルを払い出し、2分の1の確率で略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、結果、RT状態をRT2状態に移行する。また、主制御回路90は、1停ミス、かつ、2停正解時（すなわち、正解の押し順「123」に対する押し順「321」）は、停止操作のタイミングに関わらず略称「1枚出目」に係る図柄組合せが停止表

10

20

30

40

50

示されるように停止制御を行い、結果、1枚のメダルを払い出す。

【1809】

なお、別例3では、1停ミス、かつ、2停ミス時と、1停正解、かつ、2停ミス時とで、略称「ベル」に係る図柄組合せを停止表示するために要求される停止操作のタイミングを異ならせているが、これに限られるものではなく、両ケースにおいて略称「ベル」に係る図柄組合せを停止表示するために要求される停止操作のタイミングを同じにしてもよい。また、別例3では、1停正解、かつ、2停ミス時よりも、1停ミス、かつ、2停ミス時の方が、略称「ベル」に係る図柄組合せを停止表示するために要求される停止操作のタイミングが厳しい(2分の1と4分の1)が、これに限られるものではない。主制御回路90は、1停正解、かつ、2停ミス時に4分の1の確率で略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、4分の3の確率で略称「RT0移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、また、1停ミス、かつ、2停ミス時に2分の1の確率で略称「ベル」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行い、2分の1の確率で略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されるように停止制御を行うこととしてもよい。

10

【1810】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上のようなパチスロ1に特有の制御を実現するために、パチスロ1の主制御基板(主制御回路90,メインCPU101)及び副制御基板(副制御回路200,サブCPU201)は、次のような機能を有する。

20

【1811】

主制御基板71は、スタートスイッチ79やストップスイッチ基板80と接続され、図1に示す遊技の進行を制御する。それゆえ、主制御基板71は、開始操作検出手段、図柄変動手段、内部当籤役決定手段、停止操作検出手段、リール停止制御手段(停止制御手段)及び入賞判定手段として機能する。

【1812】

また、主制御基板71は、無限RT状態中にRT移行図柄が停止表示されると、RT状態を移行させるため、RT移行手段として機能する。

【1813】

[ART状態中のナビ高確]

また、本実施形態のパチスロ1では、通常ART中にナビ高確ゲーム数が付与されるとナビ高確中の通常ARTになり、「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定された場合に、略称「強チャンスリブ(RT5移行図柄)」に係る図柄組合せを停止表示するための報知を行う。その結果、ナビ高確中の通常ARTでは、「3択昇格リブ」の当籤時にRT5状態に移行し、遊技状態が通常ARTからEPに移行する。なお、非ナビ高確中の通常ARTでは、「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定された場合に、略称「斜めリプレイ(C__CURIブ)」に係る図柄組合せを停止表示するための報知を行うため、RT5状態に移行することがない。

30

【1814】

ここで、図269を参照して、ナビ高確ゲーム数の管理方法について説明する。ナビ高ゲーム数は、メインRAM103の所定領域に記憶されており、通常ART中のみ行われる獲得抽籤(図241参照)に当籤すると、当籤したナビ高確ゲーム数が加算される。図269(A)に示すように、ナビ高確ゲーム数は、通常ART中に毎ゲーム1ずつ減算される。図269(A)に示す例では、2ゲーム目の抽籤用フラグ「強チェリー」に基づきナビ高確ゲーム数「5ゲーム」が付与され、続く3~5ゲーム目において、1ずつ減算されている。また、ナビ高確ゲーム数は、上乘せが可能であり、図269(A)に示す例では、6ゲーム目の抽籤用フラグ「強チェリー」に基づき「5ゲーム」上乘せされている。

40

【1815】

主制御回路90は、ナビ高確ゲーム数が0である場合、非ナビ高確中として遊技を制御し、ナビ高確ゲーム数が1以上である場合、ナビ高確中として遊技を制御する。そのため

50

、ナビ高確ゲーム数が0である状況でナビ高確ゲーム数が付与されると、主制御回路90は、次遊技をナビ高確中として管理し、また、ナビ高確ゲーム数が0になると、主制御回路90は、次遊技を非ナビ高確中として管理する。

【1816】

続いて、図269(B)に示すように、主制御回路90は、ナビ高確中に遊技状態が通常ARTからEPに移行すると、ナビ高確ゲーム数をクリア(0にする)する。図269(B)に示す例では、4ゲーム目(ナビ高確中)に「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定されている。ナビ高確中は、「3択昇格リブ」当籤時に正解の押し順を報知するため、図269(B)に示す例では、4ゲーム目に略称「強チャンスリブ」に係る図柄組合せが表示され、結果、遊技状態が通常ARTからEPに移行している。図269(B)に示す例では、4ゲーム目の時点でナビ高確ゲーム数の残りが「4ゲーム」であったのが、遊技状態がEPに移行したことから、ナビ高確ゲーム数がクリアされている。

10

【1817】

また、上述のように、パチスロ1では、ナビ高確ゲーム数の付与は通常ART中しか行わないものの、ナビ高確ゲーム数を継続CZやランク決めARTに持ち越すことがある。図269(C)に示す例では、2ゲーム目に付与されたナビ高確ゲーム数が、4ゲーム目の継続CZに持ち越されている。主制御回路90は、ナビ高確ゲーム数を継続CZに持ち越した場合、継続CZ中もナビ高確ゲーム数を毎ゲーム1ずつ減算する。一方で、遊技状態が継続CZからランク決めARTに移行した場合、主制御回路90は、ランク決めARTの終了後(すなわち、ランク決めART中はナビ高確中)にナビ高確ゲーム数をクリア(0にする)する。

20

【1818】

なお、主制御回路90は、RT5状態中は、ナビ高確ゲーム数を減算しないこととしてもよい。RT5状態中は、ナビ高確中に特有のRT5状態に移行するための押し順報知を行う機会がないため、せっかく付与されたナビ高確ゲーム数を無駄にせずに済む。ここで、RT5状態へは、基本的には「3択昇格リブ」の押し順正解時に移行し、この場合、遊技状態がEPに移行する結果、ナビ高確ゲーム数がクリアされるが、ナビ高確中の通常ART(RT4状態)において「F__強チェリー」「F__7リブA」「F__7リブB」「F__BARリブ」が内部当籤役として決定されたことに基づきRT5状態に移行することもあり、また、ナビ高確ゲーム数を持ち越した継続CZ中にRT5状態に移行し、その後の非ナビ高確中の通常ART(RT5状態)中に、ナビ高確ゲーム数が付与されることもある。このような場合には、ナビ高確中の通常ART(RT5状態)になるため、主制御回路90は、RT5状態中にナビ高確ゲーム数を減算しない。

30

【1819】

続いて、図270を参照して、ナビ高確ゲーム数を継続CZやランク決めARTに持ち越した場合の各種抽籤について説明する。図270(A)は、継続CZにおいて「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定された場合の継続CZ中のART抽籤の概要を示す図である。非ナビ高確中の継続CZでは「3択昇格リブ」に対応する抽籤用フラグが「通常リブ」であるため(図208参照)、継続CZ中のART抽籤に当籤する確率は低い(図226(D)参照)。一方で、ナビ高確中の継続CZでは「3択昇格リブ」に対応する抽籤用フラグが「強チャンスリブ」であるため(図208参照)、継続CZ中のART抽籤に必ず当籤する(図227(E)参照)。なお、ナビ高確中の「3択昇格リブ」当籤時には、正解の押し順が報知されるため、ナビ高確中の継続CZにおいて「3択昇格リブ」が内部当籤役として決定された場合、ART抽籤に必ず当籤するとともに、次遊技(ランク決めART)のRT状態がRT5状態になる。

40

【1820】

また、図270(B)(C)は、ランク決めARTにおける昇格抽籤の概要を示す図である。図270(B)に示すように、ランク決めART中も「3択昇格リブ」が内部当籤役として場合、非ナビ高確中の抽籤用フラグ「通常リブ」に基づく昇格抽籤よりも、ナビ高確中の抽籤用フラグ「強チャンスリブ」に基づく昇格抽籤の方がランクが昇格し易い(

50

図 2 4 0 参照)。また、図 2 7 0 (B) に示すように、内部当籤役が「はずれ」である場合も、非ナビ高確中の昇格抽籤よりも、ナビ高確中の昇格抽籤の方がランクが昇格し易い (図 2 4 0 参照)。

【 1 8 2 1 】

また、継続 C Z にナビ高確ゲーム数を持ち越した場合、ランク決め A R T 中の R T 状態が R T 5 状態になることがある。図 2 7 0 (D) は、R T 4 状態のランク決め A R T 中の昇格抽籤と、R T 5 状態のランク決め A R T 中の昇格抽籤とを比較した図である。図 2 4 0 に示すランク決め A R T 中ランク昇格抽籤テーブルを参照すると抽籤用フラグ「フェイク 7」「7 揃い」「B A R 揃い」では、A R T 当籤時のランクが昇格し易いことが分かる。また、図 1 8 0 の内部抽籤テーブルを参照すると、R T 4 状態と R T 5 状態とでは、この抽籤用フラグ「フェイク 7」「7 揃い」「B A R 揃い」に対応する「F__フェイクリブ」「F__7リブ A」「F__7リブ B」「F__B A Rリブ」が内部当籤役として決定される確率は、R T 4 状態よりも R T 5 状態の方が高いことが分かる。そのため、R T 5 状態のランク決め A R T 中は、R T 4 状態のランク決め A R T よりも A R T 当籤時のランクが昇格し易くなる。

10

【 1 8 2 2 】

図 2 7 0 (A) ~ (D) に例示するように、ナビ高確ゲーム数を継続 C Z やランク決め A R T に持ち越した場合、継続 C Z 中の A R T 抽籤、及びランク決め A R T 中の昇格抽籤のいずれも遊技者にとって好ましい結果になり易い。特に、「3 択昇格リブ」という 1 つの役に基づく A R T 抽籤及び昇格抽籤の抽籤結果がナビ高確中であるか否かに応じて異なることから、遊技性が多様になる。また、ナビ高確中の通常 A R T において「3 択昇格リブ」が内部当籤役として決定されなかった場合であっても、ナビ高確ゲーム数が残っている場合には、その後の継続 C Z やランク決め A R T が有利になることから、遊技者が不満を感じることがない。

20

【 1 8 2 3 】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上のようなパチスロ 1 に特有の制御を実現するために、パチスロ 1 の主制御基板 (主制御回路 9 0 , メイン C P U 1 0 1) 及び副制御基板 (副制御回路 2 0 0 , サブ C P U 2 0 1) は、次のような機能を有する。

【 1 8 2 4 】

主制御基板 7 1 は、スタートスイッチ 7 9 やストップスイッチ基板 8 0 と接続され、図 1 に示す遊技の進行を制御する。それゆえ、主制御基板 7 1 は、開始操作検出手段、図柄変動手段、内部当籤役決定手段、停止操作検出手段、リール停止制御手段 (停止制御手段) 及び入賞判定手段として機能する。

30

【 1 8 2 5 】

また、主制御基板 7 1 は、A R T 抽籤を行い A R T 状態に移行するか否かを決定し、A R T 抽籤に当籤した場合に遊技状態を A R T 状態に移行するため、移行決定手段及び有利状態制御手段として機能する。また、主制御基板 7 1 は、C Z 中の遊技を管理して C Z の残りゲーム数が 0 になると C Z を終了することから、高確率状態制御手段として機能する。

【 1 8 2 6 】

また、主制御基板 7 1 は、ナビ高確中の A R T 状態中に「3 択昇格リブ」が内部当籤役として決定され、かつ、ナビ高確中の報知に従い略称「強チャンスリブ」に係る図柄組合せが表示されると、遊技状態を通常 A R T から E P に移行させるため、特典付与手段として機能する。

40

【 1 8 2 7 】

また、主制御基板 7 1 は、ナビ高確ゲーム数に基づいてナビ高確又は非ナビ高確を制御し、また、ナビ高確中に遊技状態が E P に移行するとナビ高確から非ナビ高確に切り替えるため、報知モード制御手段として機能する。

【 1 8 2 8 】

[継続 C Z の昇格制御]

50

また、本実施形態のパチスロ1では、CZ中のART抽籤に当籤し、CZからART状態に移行する際に（より詳細には、ランク決めART中に）、継続CZとして特殊CZを用いるか否か抽籤し、この抽籤に当籤した場合には、その後の継続CZとして特殊CZを用いる（図233参照）。これにより、CZとART状態とのループ中にCZの種別が切り替わることがあるため、CZ中の遊技が単調になることを防止できる。

【1829】

また、本実施形態のパチスロ1では、特殊CZへの移行に当籤したときのART状態のセット数のストックがない場合、ART状態のセット数が1つ付与される。これにより、特殊CZに移行した場合には、必ずART状態に移行することになるため、安心して遊技を行うことができる。なお、特殊CZ移行時に付与するART状態のストック数は任意であり、主制御回路90は、2つ以上のストックを付与することとしてもよい。また、特殊CZへの移行時に固定数のストックを付与するのではなく、ART状態のセット数のストックが所定数に達するまでに必要な数のストックを付与することとしてもよい。例えば、特殊CZへの移行時にART状態のセット数のストックが3つになるまでART状態のセット数のストックを付与する場合、特殊CZへの移行時に保有しているストック数が0である場合には3つのストックを付与し、特殊CZへの移行時に保有しているストック数が1である場合には2つのストックを付与し、特殊CZへの移行時に保有しているストック数が2である場合には1つのストックを付与し、特殊CZへの移行時に保有しているストック数が3以上である場合にはストックを付与しないこととしてもよい。

【1830】

また、継続CZの遊技期間は、CZゲーム数により管理されるが、このCZゲーム数として、特殊CZ用のCZゲーム数とCZ（ART後）用のCZゲーム数とを別々に設けることとしてもよく、また、共通のCZゲーム数を用いることとしてもよい。別々のCZゲーム数を用いる場合、特殊CZに移行すると、主制御回路90は、CZ（ART後）用のCZゲーム数を、特殊CZ用のCZゲーム数としてセットする。このとき、主制御回路90は、CZ（ART後）用のCZゲーム数を維持したままとしてもよく、また、クリア（0にする）することとしてもよい。

【1831】

また、別々のCZゲーム数を用いる場合、主制御回路90は、CZ（ART後）からART状態に移行すると、CZ（ART後）用のCZゲーム数を上乗せし、また、特殊CZ中にART抽籤に当籤したことに応じてART状態に移行すると、特殊CZ用のCZゲーム数を上乗せする。一方で、特殊CZ中に放出フェーズDに基づきART状態に移行した場合には、CZ（ART後）用のCZゲーム数を上乗せする。

【1832】

一方で、共通のCZゲーム数を用いる場合には、主制御回路90は、CZの種別を考慮することなく、ART状態への移行時にCZゲーム数の上乗せを行えばよい。なお、別々のCZゲーム数を用いる場合であっても、共通のCZゲーム数を用いる場合であっても、CZゲーム数は、メインRAM103において管理される。

【1833】

[主制御基板及び副制御基板が有する各種機能]

以上のようなパチスロ1に特有の制御を実現するために、パチスロ1の主制御基板（主制御回路90，メインCPU101）及び副制御基板（副制御回路200，サブCPU201）は、次のような機能を有する。

【1834】

主制御基板71は、スタートスイッチ79やストップスイッチ基板80と接続され、図1に示す遊技の進行を制御する。それゆえ、主制御基板71は、開始操作検出手段、図柄変動手段、内部当籤役決定手段、停止操作検出手段、リール停止制御手段（停止制御手段）及び入賞判定手段として機能する。

【1835】

また、主制御基板71は、ART抽籤を行いART状態に移行するか否かを決定し、A

R T抽籤に当籤した場合に遊技状態をA R T状態に移行するため、付与決定手段及び特典付与手段として機能する。

【1836】

また、主制御基板71は、A R T抽籤に当籤すると、付与するA R T状態の権利数を決定して、メインR A M 1 0 3に記憶するとともに、遊技状態をA R T状態に移行させると、メインR A M 1 0 3に記憶されているA R T状態の権利を1つ消し去るため、権利管理手段として機能する。

【1837】

また、主制御基板71は、C Z中の遊技を管理してC Zの残りゲーム数が0になるとC Zを終了することから、第1高確率状態制御手段及び第2高確率状態制御手段として機能する。

10

【1838】

また、主制御基板71は、C Z(A R T後)と特殊C Zとで共通のC Zゲーム数を用いる場合には、期間管理手段として機能し、別々のC Zゲーム数を用いる場合には、特殊C Zの移行時にC Z(A R T後)用のC Zゲーム数を特殊C Z用のC Zゲーム数としてセットすることから、期間設定手段として機能する。

また、主制御基板71は、C Z中にA R T状態に移行すると、C Zゲーム数の上乗せを行うため、高確率状態加算手段として機能する。

【1839】

[変形例]

上記第2実施形態では、A R T状態に移行すると、A R T状態の1ゲーム目にランク決めA R Tを行い、A R T当籤時のランクを昇格させることとしているが、これに限るものではなく、ランク決めA R T(昇格抽籤)は行わないこととしてもよい。この場合には、A R T状態中は、A R T当籤時のランクから定まる抽籤状態に基づき、各種の抽籤を行うことになる。

20

【1840】

また、上記第2実施形態では、各種の抽籤を抽籤用フラグに応じて行うこととしているが、抽籤用フラグは、内部当籤役から決定されるため、各種の抽籤は内部当籤役に依拠して行っているということができる。すなわち、主制御回路90は、内部当籤役に依拠して各種の抽籤を行うことができる。

30

【1841】

また、上記第2実施形態では、B B終了時にA R T状態のストックがある場合には(すなわち、A R T中B B終了時には)、遊技状態がA R T準備中に移行し、その後、A R T準備中においてR T状態がR T 4状態に移行すると、遊技状態がA R T状態に移行する。ここで、B B終了時はR T状態がR T 0状態に移行するため、A R T準備中は、R T 0状態からR T 4状態までR T状態を移行させることになる。このとき、R T 0状態からR T 2状態への移行は、押し順ベル当籤時の、押し順ミスに伴い略称「R T 2移行図柄」に係る図柄組合せが停止表示されることで行われるため、主制御回路90は、A R T準備中に押し順ベルに当籤すると、R T 0状態に滞在中は、正解の押し順を報知しない(なお、他のR T状態に滞在中は、正解の押し順を報知することとしてもよく、また、報知しないこととしてもよい)。

40

【1842】

また、上記第2実施形態では、A R T準備中にR T状態がR T 1状態やR T 3状態に移行することがあり、主制御回路90は、A R T準備中にR T状態がR T 1状態やR T 3状態に移行した場合に、後述する特典を付与することとしてもよい。なお、A R T準備中(すなわち、R T 4状態に移行する前)にR T状態がR T 1状態に移行する場合としては、R T 0状態からR T 1状態に移行する場合と、R T 2状態からR T 1状態に移行する場合とがあるが(図178参照)、R T 2状態からR T 1状態に移行する場合とは、報知された押し順を無視して押し順ミスした場合であるため、主制御回路90は、A R T準備中にR T 2状態からR T 1状態に移行した場合には特典を付与することなく、A R T準備中に

50

R T 0 状態から R T 1 状態に移行した場合には特典を付与することとしてもよい（なお、図 1 8 0 に示す内部抽籤テーブルでは、R T 0 状態では、「F__通常リブ」が単独で内部当籤役として決定されることがないが、「F__通常リブ」に対して所定の抽籤値を割り振ることで、R T 0 状態から R T 1 状態に移行可能にすることができる）。

また、特典の付与は、A R T 準備中に R T 状態が R T 1 状態又は R T 3 状態に移行したことを契機として行うだけでなく、当該契機に加えて（又は代えて）、R T 1 状態又は R T 3 状態中の内部当籤役（抽籤用フラグ）に応じて特典を付与することとしてもよい。例えば、R T 1 状態又は R T 3 状態中は、「F__弱チェリブ」が内部当籤役として決定される確率が高く、また、R T 1 状態や R T 3 状態は、固定ゲーム数が消化されるまで継続するため、A R T 準備中が長引くほど特典付与の期待度を上げることができる。

10

【 1 8 4 3 】

また、上記第 2 実施形態では、C Z から A R T 状態に移行する場合に、C Z の残りゲーム数を保持したままとし、A R T 状態の終了後に保持した残りゲーム数に対して、A R T 状態への移行に伴い上乗せされたゲーム数を加算したゲーム数分だけ C Z を行うこととしているが、これに限られるものではない。主制御回路 9 0 は、例えば、C Z から A R T 状態に移行する場合に C Z の残りゲーム数を破棄するとともに、A R T 状態の終了後には、所定ゲーム数分の C Z を行うこととしてもよい。この所定ゲーム数は任意であるが、例えば、終了した A R T 状態に用いたランク（当籤時のランクであってもよく、昇格抽籤後のランクであってもよい）に応じて決定することとしてもよい。また、所定ゲーム数を決定するタイミングは、C Z から A R T 状態へ移行したタイミング（C Z の中断時）であってもよく、また、ランク決め A R T から通常 A R T へ移行したタイミング（ランク決め A R T の終了時）であってもよく、また、A R T 状態から C Z へ移行したタイミング（通常 A R T の終了時）であってもよい。

20

【 1 8 4 4 】

また、上記実施形態のパチスロ 1 では、様々な特典を付与することとしているが、遊技者に付与する特典は任意である。例えば、遊技者に付与される出玉に関する特典（例えば、A R T 状態への移行、A R T 状態の継続期間の上乗せ、C Z への移行、C Z の継続期間の上乗せ）だけでなく、出玉以外の特典（例えば、特典映像の開放や、パチスロ 1 のカスタム開放など）であってもよい。

【 1 8 4 5 】

また、A R T 状態中に行われる報知の内容は上述した例に限定されず、任意である。例えば、遊技者にとって有利な状態となる特別な図柄組合せが表示される停止操作の順序（押し順）を報知してもよいし、当該図柄組合せが表示されるために必要な停止操作のタイミング（狙うべき図柄）を報知するようにしてもよい。

30

【 1 8 4 6 】

遊技者にとって有利な状態としては、再遊技に係る内部当籤役の当籤確率は変化しない（又は遊技性に影響を与えない程度の範囲で変化する）が、遊技者にとって有利な停止操作の態様を報知する機能、すなわち、A T 機能が作動する遊技状態であってもよい。また、遊技者にとって有利な状態としては、再遊技に係る内部当籤役の当籤確率が高くなる再遊技高確率状態（リプレイタイム）が作動するとともに、遊技者にとって有利な停止操作の態様を報知する機能が作動する、すなわち、A R T 機能が作動する遊技状態であってもよい。

40

【 1 8 4 7 】

また、A R T 状態の継続期間の管理方法も任意である。例えば、ゲーム数により継続期間を管理することとしてもよく、また、セット数により継続期間を管理することとしてもよく、また、A R T 状態中に払い出されるメダルの枚数や差枚数により継続期間を管理することとしてもよく、また、A R T 状態中にメダルの払い出しに影響を与える報知を行った回数（ナビ回数）により継続期間を管理することとしてもよく、また、A R T 状態中の任意のタイミングで行う継続判定により継続期間を管理することとしてもよく、また、A R T 状態中に特定の図柄組合せが表示されると A R T 状態を終了させることとしてもよい。

50

この場合、上乘せの対象は、ゲーム数、セット数、ナビ回数、差枚数などのようにART状態の継続期間の管理方法によって適宜調整される。

【1848】

また、CZの継続期間の管理も任意である。ゲーム数により継続期間を管理することとしてもよく、また、セット数により継続期間を管理することとしてもよく、また、CZ中の任意のタイミングで行う継続判定により継続期間を管理することとしてもよく、また、CZ中に特定の図柄組合せが表示されるとCZを終了させることとしてもよく、また、CZ中に行ったART抽籤の回数により継続期間を管理することとしてもよく、また、CZ中にART状態に移行した回数により継続期間を管理することとしてもよい。

この場合、上乘せの対象は、ゲーム数、セット数、抽籤回数などのようにCZの継続期間の管理方法によって適宜調整される。

10

【1849】

また、上記実施形態のパチスロ1では、遊技者側から見て、リール表示窓4の左側に設けたサブ表示装置18において各種表示画面を表示する例を説明したが、本発明はこれに限定されない。例えば、遊技者側から見て、リール表示窓4の右側にも別のサブ表示装置を設け、このサブ表示装置においても各種表示画面を表示する構成にしてもよい。この場合、リール表示窓4の右側に設けられたサブ表示装置の表示面上にタッチセンサを設け、このタッチセンサから出力されるタッチ入力情報に基づいて、当該サブ表示装置の表示画面を切り替える構成にしてもよい。

【1850】

また、上記実施形態のパチスロ1では、報知(ART)機能の作動を、メイン(主制御基板71)側の制御の下に行うこととしているが、これに限られるものではなく、サブ(副制御基板72)側の制御により報知(ART)機能の作動を行うこととしてもよい。

20

【1851】

また、上記実施形態のパチスロ1では、CZやART状態へは、通常状態中に行う移行抽籤に当籤することで移行する。ここで、上記実施形態のパチスロ1では、この移行抽籤に対して設定差を持たせることもあり得るが、この移行抽籤を「設定値に差のない情報」に基づいて行うこととしてもよい。なお、「設定値に差のない情報」とは、内部抽籤処理において全ての設定値において同一の確率で内部当籤役として決定される役(設定不問役)や、全リールの停止時に全ての設定値において同一の確率で表示されることになる図柄組合せ(設定差のない図柄組合せ)を少なくとも含むものである。

30

【1852】

すなわち、変形例のパチスロ1では、設定不問役が内部当籤役として決定された場合に、CZやART状態への移行抽籤を行い、設定差のある役(設定差役)が内部当籤役として決定された場合には、CZやART状態への移行抽籤を行わない。また、パチスロ1では、全リールの停止時に設定差のない図柄組合せが表示された場合に、CZやART状態への移行抽籤を行い、設定差のある図柄組合せが表示された場合には、CZやART状態への移行抽籤を行わない。

なお、本明細書において、抽籤を行わないとは、抽籤自体を行わないことだけでなく、抽籤はするものの必ず非当籤となることを含むものである。

40

【1853】

また、CZやART状態への移行抽籤は、予め定められており一切変動しない完全確率に基づき行われることとしてもよい。「予め定められており一切変動しない完全確率」とは、少なくとも設定値に基づいて変動することのない確率(すなわち、設定値に関わらず当籤する確率が同一の確率)を意味する。

なお、「予め定められており一切変動しない完全確率」として、更に、「設定値に差のない情報」に対して一義的に定められた確率であることを含めることとしてもよい。近年の遊技機では、移行抽籤に当籤し易い状態と当籤し難い状態とを設けることがある。このような場合に、「設定値に差のない情報に対して一義的に定められた確率」で移行抽籤を行う場合には、例えば、設定不問役の当籤時には、いかなる遊技状態であっても同一の確

50

率で当籤する移行抽籤を行うことになる。反対に、「設定値に差のない情報に対して一義的に定められた確率ではない確率（すなわち、変動する確率）」で移行抽籤を行う場合には、例えば、設定不問役の当籤時に、現在の遊技状態に応じた確率で当籤する移行抽籤、すなわち、現在の遊技状態が高確率状態である場合には、高い確率で当籤する移行抽籤を行い、現在の遊技状態が低確率状態である場合には、低い確率で当籤する移行抽籤、を行うことになる。

【1854】

このように「設定値に差のない情報」に基づいて行う移行抽籤を、設定値に関わらず当籤する確率が同一の確率で行うことで、変形例のパチスロ1では、CZやART状態への移行に関する期待度を各設定値に対して同一にすることができ、出玉性能の差を、設定差のある設定差役の当籤確率に抑えることができる。

10

【1855】

また、CZやART状態へ移行するための抽籤としては、(1)内部当籤役を決定するための内部抽籤、(2)移行を行うか否かの移行抽籤、(3)移行する場合の移行先を決定するための有利区間種別抽籤の3つの抽籤が考えられる。パチスロ1では、これら3つの抽籤を、それぞれ個別の乱数値を用いて行うこととしてもよく、また、全ての抽籤を共通の乱数値を用いて行うこととしてもよく、また、2つの抽籤を共通の乱数値を用いて行い、残り1つの抽籤を個別の乱数値を用いて行うこととしてもよい。なお、共通の乱数値を用いるとは、例えば、(1)内部抽籤において「0~128」の乱数範囲において所定の設定不問役が決定される場合に、(2)「0~64」を移行抽籤に非当籤の乱数範囲、「65~128」を移行抽籤に当籤の乱数範囲とし、また、(3)「65~83」を移行先がCZ1である乱数範囲、「83~99」を移行先がCZ2である乱数範囲、「99~115」を移行先がCZ3である乱数範囲、「115~128」を移行先がART状態である乱数範囲とすることである。言い換えると、一つの抽籤において当籤する乱数範囲の一部に、他の抽籤の抽籤結果を割り当てることである。

20

【1856】

また、上記実施形態及び各種変形例では、遊技機としてパチスロを例に挙げて説明したが、本発明はこれに限定されない。本発明のリール制御に係る特徴や設定変更及び確認に係る特徴などのパチスロ1に特有の特徴以外の特徴は、「パチンコ」と呼ばれる遊技機にも適用可能であり、同様の効果が得られる。例えば、チェックサムの生成及び判定処理、メインCPU101専用命令コードを使用した各種処理(Qレジスタを用いたアドレスの指定処理、ソフトタイマーの更新処理、7セグLED駆動処理、通信データの生成格納処理等)、規定外ROM領域及び規定外RAM領域を使用した各種処理などの特徴は、「パチンコ」にも適用可能である。

30

【1857】

<付記(本発明のまとめ)>

[第1の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、電断時にRAMに記憶されているデータのチェックサムを求め、電源復帰時に、電断時に求めたチェックサムの判定処理を行う遊技機が知られている(例えば、特開2009-011375号公報参照)。特開2009-011375号公報の遊技機では、電源復帰時のチェックサムの判定処理において、電源復帰時に求めたチェックサムが電断時に求めたチェックサムが一致しない場合にエラー報知が行われる。

40

【1858】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性の複雑化により主制御回路のROMの容量が圧迫されており、主制御回路で管理する遊技性以外の処理プログラムやテーブルなどの容量削減が求められている。

【1859】

本発明は、上記第1の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第1の目的

50

は、主制御回路で管理する遊技性以外の処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROMの空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

【1860】

上記第1の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第1の遊技機を提供する。

【1861】

遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、電源電圧を供給する電源供給手段（例えば、電源基板53b及びスイッチングレギュレータ94）と、前記電源電圧が予め定められた起動電圧値（例えば、10V）を上回った場合に、前記演算処理手段に起動信号を出力する起動手段（例えば、電源管理回路93のリセット信号の出力処理）と、前記電源電圧が予め定められた停電電圧値（例えば、10.5V）を下回った場合に、前記演算処理手段に停電信号を出力する停電手段（例えば、電源管理回路93の電断検知信号の出力処理）と、を備え、前記演算処理手段は、演算処理の結果に対応するデータを格納するフラグレジスタ（例えば、フラグ・レジスタF）と、前記停電手段が前記停電信号を出力したことを契機として、前記第2記憶手段内の所定格納領域（例えば、遊技用RAM領域）に記憶された全ての情報を累積加算してサム値を算出するサム値算出手段（例えば、チェックサム生成処理）と、前記起動手段が前記起動信号を出力したことを契機として、直近の電断発生時に前記サム値算出手段により生成された前記サム値から、前記所定格納領域に記憶された情報を順次減算するサム値減算手段（例えば、サムチェック処理中のS122～S131）と、前記所定格納領域に記憶された全ての情報に対して、前記サム値減算手段による減算処理が終了したときに、前記フラグレジスタ内の所定のビット領域（例えば、ゼロフラグ）にセットされた減算結果に対応するデータに基づいて、異常の発生の有無を判定するサム値判定手段（例えば、サムチェック処理中のS134）と、を有することを特徴とする遊技機。

【1862】

また、前記本発明の第1の遊技機では、前記サム値算出手段は、前記所定格納領域に記憶された情報を加算するときに、特定の命令（例えば、POP命令）を実行することにより、連続して記憶された2バイト分の情報を取得して加算するとともに、前記情報の読み出し開始アドレスの情報を2バイト分更新し、前記サム値減算手段は、電断発生時に生成された前記サム値から前記所定格納領域に記憶された情報を減算するときに、前記特定の命令を実行することにより、連続して記憶された2バイト分の情報を取得して減算するとともに、前記情報の読み出し開始アドレスの情報を2バイト分更新するようにしてもよい。

【1863】

さらに、前記本発明の第1の遊技機では、前記演算処理手段は、前記第2記憶手段の前記所定格納領域のアドレスを設定可能なスタックポインタを有し、前記サム値算出手段が前記所定格納領域に記憶された情報を加算するときに実行する前記特定の命令は、前記スタックポインタを操作するための専用命令（例えば、POP命令）であるようにしてもよい。

【1864】

上記構成の本発明の第1の遊技機によれば、遊技性以外の処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROM（第1記憶手段）の空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることができる。

【1865】

[第2～第5の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、スタックポインタを操作命令で使用して、数値データを処理する主制御装置が搭載された遊技機が提案されている（例えば、特開200

10

20

30

40

50

5 - 2 3 7 7 3 7 号公報参照)。

【1866】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性の複雑化により主制御回路のROMの容量が圧迫されており、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量削減が求められている。

【1867】

本発明は、上記第2の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第2の目的は、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROMの空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

10

【1868】

上記第2の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第2の遊技機を提供する。

【1869】

遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段(例えば、メインCPU101)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段(例えば、メインROM102)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段(例えば、メインRAM103)と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される専用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第1記憶手段又は前記第2記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ(例えば、Qレジスタ)と、を有し、前記演算処理手段は、前記拡張レジスタを用いて前記第2記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の命令(例えば、「BITQ」命令、「SETQ」命令、「LDQ」命令等)を実行可能であることを特徴とする遊技機。

20

【1870】

また、前記本発明の第2の遊技機では、前記拡張レジスタで指定可能な前記アドレスの一部が、前記アドレスを構成する上位側のアドレス値であるようにしてもよい。

30

【1871】

また、上記第2の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第3の遊技機を提供する。

【1872】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段(例えば、BETスイッチ77)と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段(例えば、スタートスイッチ79)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、内部抽籤処理)と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段(例えば、3つのリール3L, 3C, 3R)と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段(例えば、ストップスイッチ基板80)と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段(例えば、リール停止制御処理)と、前記停止制御手段による前記表示列の停止動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段(例えば、メインCPU101)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段(例えば、メインROM102)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段(例えば、メインRAM103)と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される専用レジ

40

50

スタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第1記憶手段又は前記第2記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ（例えば、Qレジスタ）と、を有し、前記演算処理手段は、前記表示列の停止状態をチェックする処理において、前記拡張レジスタを用いて前記第2記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の読み出し命令（例えば、「LDQ」命令）を実行して、前記第2記憶手段に記憶されている所定の前記表示列の変動表示の状態を示す情報を読み出し、次いで、前記拡張レジスタを用いて前記第2記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の論理和演算命令（例えば、「ORQ」命令）を実行して、前記第2記憶手段に記憶されている他の一つの表示列の変動表示の状態を示す情報を読み出すとともに、当該情報と、前記所定の前記表示列の変動表示の状態を示す情報との論理和演算を行い、その後、前記所定の論理和演算命令の実行を繰り返して、論理和演算の結果と、残りの各表示列の変動表示の状態を示す情報との論理和演算を繰り返し、全ての表示列に対する論理和演算が終了した際に得られる演算和演算の結果に基づいて、全ての表示列が停止状態にあるか否かを判定することを特徴とする遊技機。

10

【1873】

また、前記本発明の第3の遊技機では、前記拡張レジスタで指定可能な前記アドレスの一部が、前記アドレスを構成する上位側のアドレス値であるようにしてもよい。

【1874】

また、上記第2の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第4の遊技機を提供する。

20

【1875】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BETスイッチ77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記内部当籤役決定手段による前記内部当籤役の決定動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される専用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第1記憶手段又は前記第2記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ（例えば、Qレジスタ）と、を有し、前記内部当籤役決定手段により決定される前記内部当籤役には、特典付与に係る内部当籤役が決定される期待値を調整するための設定値に応じて当籤確率が変化する設定別内部当籤役が設けられ、前記演算処理手段は、前記内部当籤役を決定する処理において、前記拡張レジスタを用いて前記第2記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の加算命令（例えば、「ADDQ」命令）を実行することにより、抽籤対象となる前記設定別内部当籤役の設定値毎の抽籤値が格納された領域の先頭アドレスに現在の設定値を加算して、現在の設定値に対応付けられた前記設定別内部当籤役の抽籤値が格納されたアドレスを指定し、当該抽籤値を取得することを特徴とする遊技機。

30

40

【1876】

また、前記本発明の第4の遊技機では、前記拡張レジスタで指定可能な前記アドレスの

50

一部が、前記アドレスを構成する上位側のアドレス値であるようにしてもよい。

【1877】

また、上記第2の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第5の遊技機を提供する。

【1878】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BETスイッチ77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記停止制御手段により前記複数の表示列の変動表示が停止された場合に、前記複数の表示列に跨って設定された判定ライン上に、前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せが停止表示されたか否かを判定する特典付与判定手段（例えば、入賞検索処理）と、前記特典付与判定手段による判定動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタを有し、前記演算処理手段は、前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せが前記判定ライン上に停止表示されたか否かを判定する処理において、所定の読み出し命令（例えば、「LDIN」命令）を実行して、前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せが前記判定ライン上に停止表示された場合に付与され得る前記遊技媒体の払出数のデータと、該払出数のデータに対応付けられた、前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せの種別を示す判定データとを同時に取得することを特徴とする遊技機。

【1879】

また、前記本発明の第5の遊技機では、前記演算処理手段は、前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せが前記判定ライン上に停止表示されたか否かを判定する処理において、判定命令、処理のジャンプ先アドレスの指定命令及び処理のジャンプ動作命令を一つの命令で実行可能な所定の判定命令（例えば、「JSLAA」命令）を実行して、前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せが停止表示されたか否かを判定するようにしてもよい。

【1880】

上記構成の本発明の第2～第5の遊技機によれば、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROM（第1記憶手段）の空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることができる。

【1881】

[第6及び第7の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、メイン制御部のRAMに記憶されているデータに異常が生じた場合に、RAM異常エラー状態に制御され、ゲームの進行が不能化されるとともに、設定変更モードに移行し、設定変更操作に基づいて設定値が新たに選択・設定されたときには、ゲームの進行の不能化状態を解除し、ゲームの進行が可能な状態にする遊技機が提案されている（例えば、特開2007-209810号公報参照）。

【1882】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、

10

20

30

40

50

規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性の複雑化により主制御回路のROMの容量が圧迫されており、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量削減が求められている。

【1883】

本発明は、上記第3の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第3の目的は、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROMの空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

【1884】

上記第3の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第6の遊技機を提供する。

10

【1885】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BETスイッチ77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記遊技動作に関するコマンドデータを送信するデータ送信手段（例えば、割込処理中のS904（通信データ送信処理））と、特典付与に係る内部当籤役が決定される期待値を調整するための設定値の変更処理及び設定値の確認処理を実行可能な設定変更確認手段（例えば、設定変更確認処理）と、前記設定変更確認手段による設定値の変更動作又は確認動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記設定値の変更処理又は設定値の確認処理の開始時において、第1のコマンドデータを生成する開始時コマンド生成手段（例えば、設定変更確認処理中のS43）と、前記設定値の変更処理又は設定値の確認処理の終了時において、第2のコマンドデータを生成する終了時コマンド生成手段（例えば、設定変更確認処理中のS57）と、を有し、前記開始時コマンド生成手段により実行される前記第1のコマンドデータの生成処理と、前記終了時コマンド生成手段により実行される前記第2のコマンドデータの生成処理とは、共有化されていることを特徴とする遊技機。

20

30

【1886】

また、前記本発明の第6の遊技機では、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタを有し、前記演算処理手段は、前記第1のコマンドデータを生成する場合には、前記汎用レジスタの所定のレジスタ（例えば、Lレジスタ）に第1の値（例えば、「005H」）を設定して、前記生成処理を実行し、前記第2のコマンドデータを生成する場合には、前記汎用レジスタの所定のレジスタに第2の値（例えば、「004H」）を設定して、前記生成処理を実行するようにしてもよい。

40

【1887】

また、上記第3の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第7の遊技機を提供する。

【1888】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BETスイッチ77）と、

50

前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記遊技動作に関するコマンドデータを送信するデータ送信手段（例えば、割込処理中のS904（通信データ送信処理））と、前記コマンドデータを作成する通信データ生成手段（例えば、設定変更コマンド生成格納処理及び通信データ格納処理）と、特典付与に係る内部当籤役が決定される期待値を調整するための設定値の変更処理及び設定値の確認処理を実行可能な設定変更確認手段（例えば、設定変更確認処理）と、前記通信データ生成手段によるコマンドデータの生成動作、及び、前記設定変更確認手段による設定値の変更動作又は確認動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記設定値の変更処理又は設定値の確認処理の開始時において、開始時コマンドデータを生成する開始時コマンド生成手段（例えば、設定変更確認処理中のS43）と、前記設定値の変更処理又は設定値の確認処理の終了時において、終了時コマンドデータを生成する終了時コマンド生成手段（例えば、設定変更確認処理中のS57）と、を有し、前記開始時コマンド生成手段により実行される前記開始時コマンドデータの生成処理と、前記終了時コマンド生成手段により実行される前記終了時コマンドデータの生成処理とは、共有化されており、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時に複数種のデータがそれぞれ格納される複数の汎用レジスタを有し、前記演算処理手段は、前記コマンドデータの生成処理において、前記コマンドデータを構成する複数種の通信パラメータのうち、使用される通信パラメータを、前記複数の汎用レジスタのうちの対応する汎用レジスタにセットし、前記汎用レジスタにセットされた使用される通信パラメータを、前記第2記憶手段内の所定の格納領域（例えば、通信データ一時格納領域）に格納し、前記複数種の通信パラメータのうち、使用されない通信パラメータがある場合には、前記コマンドデータの生成時に当該未使用の通信パラメータに対応付けられた汎用レジスタに格納されているデータを通信パラメータとして前記所定の格納領域に格納し、通信パラメータに対応付けられた前記汎用レジスタに格納されたデータに基づいて、前記コマンドデータのサム値を生成することを特徴とする遊技機。

【1889】

また、前記本発明の第7の遊技機において、前記コマンドデータの生成処理では、前記汎用レジスタのアクュームレータに格納された値に、通信パラメータに対応付けられた前記汎用レジスタに格納された値を加算することにより、前記コマンドデータのサム値を生成し、該生成したサム値を前記所定の格納領域に格納するようにしてもよい。

【1890】

上記構成の本発明の第6及び第7の遊技機によれば、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROMの空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることができる。

【1891】

[第8及び第9の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、遊技制御基板（主制御回路）から演出制御基板（副制御回路）にコマンドを送信する遊技機が知られている（例えば、特開2002-360766号公報参照）。

10

20

30

40

50

【 1 8 9 2 】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性の複雑化により主制御回路のROMの容量が圧迫されており、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量削減が求められている。

【 1 8 9 3 】

本発明は、上記第4の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第4の目的は、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROMの空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

10

【 1 8 9 4 】

上記第4の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第8の遊技機を提供する。

【 1 8 9 5 】

遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、遊技動作に関する通信データを送信するデータ送信手段（例えば、割込処理中のS904（通信データ送信処理））と、前記通信データを作成して、該生成した通信データを前記第2記憶手段内の所定のアドレス範囲に設けられた通信データ格納領域に格納する通信データ生成格納手段（例えば、通信データ格納処理及び通信データポインタ更新処理）と、を備え、前記通信データ生成格納手段は、前記所定のアドレス範囲の先頭アドレスの格納領域から最後尾アドレスの格納領域に向かって順次、前記通信データを前記通信データ格納領域に格納する際に、更新命令、上限判定命令及び判断分岐命令を一つの命令で実行可能な所定の更新命令（例えば、「ICPLD」命令）を実行することにより、前記通信データ格納領域内のアドレス指定に関するパラメータである通信データポインタの現在の値と、前記最後尾アドレスに対応する前記通信データポインタの上限値とを比較するとともに、現在の前記通信データポインタが前記上限値未満であれば、前記通信データポインタを加算更新し、現在の前記通信データポインタが前記上限値以上であれば、前記通信データポインタを前記先頭アドレスに対応する前記通信データポインタの下限値に変更することを特徴とする遊技機。

20

30

【 1 8 9 6 】

また、前記本発明の第8の遊技機では、前記通信データ生成格納手段は、前記通信データポインタを前記先頭アドレスに対応する前記通信データポインタの下限値に変更した場合に、前記通信データ格納領域に格納された前記通信データを無効にするようにしてもよい。

【 1 8 9 7 】

また、上記第4の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第9の遊技機を提供する。

40

【 1 8 9 8 】

遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、遊技動作の進行に関連する所定のデータの値の計数処理（例えば、メダル払出枚数チェック処理）において、前記所定のデータの値を更新する際に、更新命令、下限判定命令及び判断分岐命令を一つの命令で実行可能な所定の更新命令（例えば、「DCPLD」命令）を実行することにより、現在の前記所定のデータの値と前記所定のデータの値の下限値とを比較するとともに、現在の前記所定のデータの値が前記所定のデータの

50

値の下限値より大きければ、前記所定のデータの値を減算更新し、現在の前記所定のデータの値が前記所定のデータの値の下限値以下であれば、前記所定のデータの値を前記下限値に保持することを特徴とする遊技機。

【1899】

また、前記本発明の第9の遊技機では、前記所定のデータが、前記遊技媒体の払出数であるようにしてもよい。

【1900】

上記構成の本発明の第8及び第9の遊技機によれば、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROM（第1記憶手段）の空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることができる。

10

【1901】

[第10の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、ソフトウェアによるタイマー減算処理で制御される遊技機が知られている（例えば、特開2004-041261号公報参照）。

【1902】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性の複雑化により主制御回路のROMの容量が圧迫されており、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量削減が求められている。

【1903】

20

本発明は、上記第5の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第5の目的は、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROMの空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

【1904】

上記第5の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第10の遊技機を提供する。

【1905】

遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、ソフトタイマーのタイマー数の計数処理（例えば、タイマー更新処理）において、更新命令、下限判定命令及び判断分岐命令を一つの命令で実行可能な所定の更新命令（例えば、「DCPWL D」命令）を実行することにより、現在の前記ソフトタイマーのタイマー数と前記タイマー数の下限値とを比較するとともに、現在の前記ソフトタイマーのタイマー数が前記下限値より大きければ、前記ソフトタイマーのタイマー数を減算更新し、現在の前記ソフトタイマーのタイマー数が前記下限値以下であれば、前記ソフトタイマーのタイマー数を前記下限値に保持することを特徴とする遊技機。

30

【1906】

40

前記本発明の第10の遊技機では、前記ソフトタイマーが、2バイトのソフトタイマーであるようにしてもよい。

【1907】

また、前記本発明の第10の遊技機では、前記演算処理手段は、一定の周期で処理を行う定周期処理手段（例えば、1.1172 msec周期で繰り返し実行される割込処理）を有し、前記ソフトタイマーによる前記タイマー数の計数処理は、前記定周期処理手段により実行され、前記定周期処理手段が処理を行う周期と前記タイマー数とに基づいて、前記ソフトタイマーの経過時間が決定されるようにしてもよい。

【1908】

さらに、前記本発明の第10の遊技機では、前記定周期処理手段による処理は、前記演

50

算処理手段に内蔵されたタイマー機能（例えば、タイマー回路 1 1 3）が発生する割込信号に基づいて実行されるようにしてもよい。

【 1 9 0 9 】

上記構成の本発明の第 1 0 の遊技機によれば、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路の ROM（第 1 記憶手段）の空き容量を増やし、該増えた容量分の ROM の空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することができる。

【 1 9 1 0 】

[第 1 1 及び第 1 2 の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、主制御回路の制御により内部抽籤結果を 7 セグメント LED で表示する遊技機が知られている（例えば、特開 2 0 0 8 - 2 3 7 3 3 7 号公報参照）。

【 1 9 1 1 】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性の複雑化により主制御回路の ROM の容量が圧迫されており、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量削減が求められている。

【 1 9 1 2 】

本発明は、上記第 6 の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第 6 の目的は、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路の ROM の空き容量を増やし、該増えた容量分の ROM の空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

【 1 9 1 3 】

上記第 6 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 1 1 の遊技機を提供する。

【 1 9 1 4 】

遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メイン CPU 1 0 1）と、遊技に関する特定の情報を報知する複数の 7 セグ LED と、前記複数の 7 セグ LED を駆動する 7 セグ LED 駆動手段（例えば、7 セグ LED 駆動処理）と、前記 7 セグ LED 駆動手段による前記複数の 7 セグ LED の駆動動作の制御を行う LED 駆動制御手段と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第 1 記憶手段（例えば、メイン ROM 1 0 2）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第 2 記憶手段（例えば、メイン RAM 1 0 3）と、を備え、前記 LED 駆動制御手段は、前記複数の 7 セグ LED に対してダイナミック駆動制御を行い、所定の読み出し命令（例えば、「LDW」命令）を実行して、前記複数の 7 セグ LED に対してコモン選択データ及びカソードデータを同時に出力することを特徴とする遊技機。

【 1 9 1 5 】

また、前記本発明の第 1 1 の遊技機では、前記演算処理手段は、一定の周期で処理を行う定周期処理手段（例えば、1 . 1 1 7 2 m s e c 周期で繰り返し実行される割込処理）を有し、前記定周期処理手段は、前記定周期処理手段による処理の実行回数をカウントし、前記カウントされた値が偶数である場合に、前記 LED 駆動制御手段による制御処理が実行されるようにしてもよい。

【 1 9 1 6 】

また、上記第 6 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 1 2 の遊技機を提供する。

【 1 9 1 7 】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BET スイッチ 7 7）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ 7 9）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段

10

20

30

40

50

(例えば、内部抽籤処理)と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段(例えば、3つのリール3L, 3C, 3R)と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段(例えば、ストップスイッチ基板80)と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段(例えば、リール停止制御処理)と、前記複数の表示列の変動表示の停止操作に関する情報を報知する複数の7セグLEDを含む指示表示器(例えば、指示モニタ)と、前記複数の7セグLEDを駆動する7セグLED駆動手段(例えば、7セグLED駆動処理)と、前記7セグLED駆動手段による前記複数の7セグLEDの駆動動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段(例えば、メインCPU101)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段(例えば、メインROM102)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段(例えば、メインRAM103)と、を備え、前記演算処理手段は、前記複数の7セグLEDに対してダイナミック駆動制御を行い、所定の読み出し命令(例えば、「LDW」命令)を実行して、前記複数の7セグLEDに対してコモン選択データ及びカソードデータを同時に出力することを特徴とする遊技機。

10

【1918】

また、前記本発明の第12の遊技機では、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第2記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ(例えば、Qレジスタ)と、有し、前記演算処理手段は、前記拡張レジスタを用いて前記第2記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の読み出し命令(例えば、「LDQ」命令)を実行することにより、前記第2記憶手段内に配置され且つ前記複数の表示列の変動表示の停止操作に関する情報を格納する停止操作指示情報格納領域(例えば、ナビデータ格納領域)のアドレスを指定するとともに、前記複数の表示列の変動表示の停止操作に関する情報を前記停止操作指示情報格納領域に格納するようにしてもよい。

20

【1919】

上記構成の本発明の第11及び第12の遊技機によれば、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROM(第1記憶手段)の空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることができる。

30

【1920】

[第13の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、遊技制御基板(主制御基板)が、リールユニットを制御する遊技機が知られている(例えば、特開2012-034914号公報参照)。

【1921】

ところで、リール(回胴)の回転制御において、リールの回転動作の安定感の欠如は、遊技者(特に熟練者)にとって不快感を与えることとなり、不快感から遊技の興味が削がれる可能性がある。この場合、遊技店の不利益となるとともに、遊技機自体の販売にも影響を及ぼすおそれがある。

40

【1922】

本発明は、上記第7の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第7の目的は、リールの回転動作の安定感の欠如を抑制し、遊技者に不快感を与えないようにすることが可能な遊技機を提供することである。

【1923】

上記第7の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第13の遊技機を提供する。

【1924】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段(例えば、BETスイッチ77)と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する

50

開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、前記第2記憶手段の所定の領域を初期化するための設定スイッチ（例えば、設定用鍵型スイッチ54）と、を備え、前記演算処理手段は、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、電源復帰時に電断発生時の入力ポートの入力状態及び出力ポートの出力状態をセットするとともに、電断発生時に前記表示列が変動中であった場合には、前記第2記憶手段に格納された電断発生時の前記表示列の変動制御管理情報（例えば、リール制御管理情報）をクリアするとともに、前記表示列の変動制御管理情報に前記表示列の変動開始を指示する情報をセットする遊技復帰手段（例えば、遊技復帰処理）と、を有することを特徴とする遊技機。

10

【1925】

また、前記本発明の第13の遊技機では、前記演算処理手段は、前記設定スイッチがオフ状態である場合には、前記遊技復帰手段による処理を実行し、前記設定スイッチがオン状態である場合には、前記遊技復帰手段による処理を実行することなく、前記第2記憶手段の所定の領域を初期化するようにしてもよい。

20

【1926】

上記構成の本発明の第13の遊技機によれば、リールの回転動作（表示列の変動表示動作）の安定感の欠如を抑制し、遊技者に不快感を与えないようにすることができる。

【1927】

[第14の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、設定変更スイッチを操作することにより、設定値（1～6）を表示可能な遊技機が知られている（例えば、特開2008-245704号公報及び特開2013-042870号公報参照）。

30

【1928】

ところで、従来、例えばボーナス遊技中、ART遊技中等の、遊技者に有利な遊技状態で遊技が行われている最中では、設定値の確認が行えない遊技機が主流である。このような遊技機では、「ゴト」と呼ばれる不正行為直後にボーナス遊技やART遊技が開始された場合、その不正行為を確認することができず、遊技店に不利益を与えてしまう可能性がある。

【1929】

本発明は、上記第8の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第8の目的は、遊技者に有利な遊技状態で遊技が行われている最中であっても、設定値等の情報を確認することができ、ゴト等の不正行為を抑止することが可能な遊技機を提供することである。

40

【1930】

上記第8の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第14の遊技機を提供する。

【1931】

遊技機本体内部の所定の位置に配置された設定スイッチと、遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記

50

憶手段（例えば、メインRAM103）と、遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BETスイッチ77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役に基づいて、遊技者にとって有利な遊技状態を実行する有利遊技手段（例えば、後述のボーナスゲーム）と、前記設定スイッチの操作に応じて、内部当籤役が決定される確率に係る設定値を変更又は確認可能な設定変更確認手段（例えば、メダル受付・スタートチェック処理中のS233）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、遊技が開始可能であるか否かを判定する遊技開始判定手段（例えば、メダル受付・スタートチェック処理）と、を備え、前記設定変更確認手段は、電源投入時に前記設定スイッチの操作に応じて、内部当籤役が決定される確率に係る設定値を変更可能であり、前記遊技開始判定手段により遊技が開始可能であると判定され且つ前記設定スイッチを操作された場合には、遊技状態に関係なく、内部当籤役が決定される確率に係る設定値を前記設定変更確認手段による処理により確認可能にすることを特徴とする遊技機。

10

20

【1932】

また、前記本発明の第14の遊技機では、前記設定変更確認手段は、前記設定スイッチが操作された状態で遊技機に電源投入された場合には、前記第2記憶手段の所定の記憶領域を初期化するとともに、前記設定値を変更し、該変更した前記設定値を前記第2記憶手段に格納するようにしてもよい。

【1933】

上記構成の本発明の第14の遊技機によれば、例えばボーナス遊技中、ART遊技中等の、遊技者に有利な遊技状態で遊技が行われている最中であっても、設定値等の情報を確認することができ、ゴト等の不正行為を抑止することができる。

【1934】

[第15及び第16の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、メダルの投入枚数を表示するための表示装置を備えた遊技機が知られている（例えば、特開1999-178983号公報参照）。

【1935】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性の複雑化により主制御回路のROMの容量が圧迫されており、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量削減が求められている。

【1936】

本発明は、上記第9の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第9の目的は、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROMの空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

40

【1937】

上記第9の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第15の遊技機を提供する。

【1938】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BETスイッチ77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開

50

始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L、3C、3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記遊技媒体の受付状態（例えば、メダルセンサ入力状態）を検出する遊技媒体検出手段（例えば、メダルセンサ）と、前記遊技媒体検出手段により検出されている現在の前記遊技媒体の受付状態の変化態様が正常であるか否かを、前回処理で検出された前記遊技媒体の受付状態に基づいて、演算処理により判別する遊技媒体受付状態判別手段（例えば、メダル投入チェック処理中のS255～S258）と、を備える遊技機。

10

【1939】

前記本発明の第15の遊技機では、前記遊技媒体受付状態判別手段は、前回処理で検出された前記遊技媒体の受付状態に基づいて今回処理で検出され得る前記遊技媒体の受付状態の正常値を論理演算で算出し、前記正常値と、現在の前記遊技媒体の受付状態とを比較して、前記遊技媒体の受付状態の変化態様が正常であるか否かを判別するようにしてもよい。

【1940】

また、前記本発明の第15の遊技機では、前記遊技媒体受付状態判別手段は、1バイトの情報内の2ビットにより、前記遊技媒体の受付状態の変化態様が正常である否かを判別するようにしてもよい。

20

【1941】

上記第9の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第16の遊技機を提供する。

【1942】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BETスイッチ77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L、3C、3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記遊技媒体の投入数を示す情報を、前記遊技媒体の投入数に対応する表示態様で報知する表示手段（例えば、第1LED～第3LED）と、前記表示手段による報知動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101、メダル投入処理）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記遊技媒体の投入数を示す情報を前記遊技媒体の投入数に対応する表示態様で報知するための点灯制御データを、前記遊技媒体の投入数に基づいて論理演算処理により生成することを特徴とする遊技機。

30

40

【1943】

また、前記本発明の第16の遊技機において、前記論理演算処理では、前記遊技媒体の点灯制御データは、1バイト内の情報の3ビットのデータから生成されるようにしてもよい。

【1944】

50

上記構成の本発明の第 15 及び第 16 の遊技機によれば、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路の ROM の空き容量を増やし、該増えた容量分の ROM の空き領域を利用して遊技性を高めることができる。

【 1945 】

[第 17 及び第 18 の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、メイン基板（主制御基板）とサブ基板（副制御基板）とが通信により接続され、メイン基板からサブ基板へコマンドが送信される遊技機が知られている（例えば、特許第 5725590 号公報参照）。

【 1946 】

ところで、従来、遊技に係る制御を行う主制御基板と演出に係る制御を行う副制御基板との間における通信は、主制御基板から副制御基板への一方向通信であり、また、電源投入時における主制御基板の起動時間と副制御基板のそれとの間には大きな隔りがある。それゆえ、電源投入時における主制御基板及び副制御基板間の通信接続が不安定になるおそれがある。

10

【 1947 】

本発明は、上記第 10 の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第 10 の目的は、電源投入時における主制御基板（主制御手段）及び副制御基板（副制御手段）間の通信を安定動作させることが可能な遊技機を提供することである。

【 1948 】

上記第 10 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 17 の遊技機を提供する。

20

【 1949 】

遊技動作に関する通信データを送信する主制御手段（例えば、主制御回路 90）を備え、前記主制御手段は、前記主制御手段による制御処理中に、所定周期で割込処理を実行し、割込処理実行時に、遊技動作に関する通信データが無い場合には、無操作コマンドを送信する割込処理実行手段（例えば、割込処理）と、電源復帰時に所定の電源復帰処理を実行する電源復帰処理実行手段（例えば、電源投入時処理）と、を有し、前記電源復帰処理実行手段は、前記電源復帰処理開始後、前記割込処理実行手段による前記割込処理の実行が可能になるまで待機する処理（例えば、電源投入時処理中の S7 及び S8）を行い、前記割込処理実行手段は、前記電源復帰処理実行手段による前記待機の終了時に、前記割込処理を実行して前記無操作コマンドを前記副制御手段に送信することを特徴とする遊技機。

30

【 1950 】

また、前記本発明の第 17 の遊技機では、前記主制御手段は、前記所定周期を計測するタイマー回路（例えば、タイマー回路 113）と、前記タイマー回路のタイムアウト信号に基づいて前記割込処理を実行させるための割込信号を発生させる割込回路（例えば、割込みコントローラ 112）と、を有し、前記電源復帰処理実行手段は、前記所定周期で前記タイムアウト信号を発生させるための初期設定を前記タイマー回路に設定した後、前記割込処理実行手段による前記割込処理の実行が可能になるまで待機する処理を行い、前記待機の終了を、前記タイマー回路の前記タイムアウト信号の発生の有無に基づいて判断するようにしてもよい。

40

【 1951 】

また、上記第 10 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 18 の遊技機を提供する。

【 1952 】

遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メイン CPU 101）と、遊技動作に関するコマンドデータを作成する通信データ生成手段（例えば、設定変更コマンド生成格納処理及び通信データ格納処理）と、前記演算処理手段による制御処理中に、所定周期で割込処理を実行し、割込処理実行時に、遊技動作に関するコマンドデータが無い場合には、無操作コマンドを送信する割込処理実行手段（例えば、割込処理）と、電源復帰時に所定の電源復帰処理を実行する電源復帰処理実行手段（例えば、電源投入

50

時処理)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段(例えば、メインROM102)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段(例えば、メインRAM103)と、を備え、前記電源復帰処理実行手段は、前記電源復帰処理開始後、前記割込処理実行手段による前記割込処理の実行が可能になるまで待機する処理(例えば、電源投入時処理中のS7及びS8)を行い、前記割込処理実行手段は、前記電源復帰処理実行手段による前記待機の終了時に、前記割込処理を実行して前記無操作コマンドを送信し、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時に複数種のデータがそれぞれ格納される複数の汎用レジスタを有し、前記コマンドデータは、コマンド種別と複数の通信パラメータとサム値とにより構成され、複数の前記通信パラメータは、それぞれ複数の前記汎用レジスタに割り当てられ、前記通信データ生成手段は、前記コマンドデータの前記コマンド種別に応じて、前記通信パラメータに割り当てられた前記汎用レジスタに通信パラメータをセットした後、前記汎用レジスタにセットされた通信パラメータを、前記第2記憶手段内の所定の格納領域(例えば、通信データ一時格納領域)に格納し、前記複数の通信パラメータのうち、前記コマンドデータの前記コマンド種別に基づいて使用されない通信パラメータがある場合にも、当該未使用の通信パラメータに対応付けられた汎用レジスタに格納されているデータを通信パラメータとして前記所定の格納領域に格納し、前記コマンド種別と、通信パラメータに割り当てられた前記汎用レジスタに格納されているデータとに基づいて、前記コマンドデータのサム値を生成することを特徴とする遊技機。

10

【1953】

20

また、前記本発明の第18の遊技機では、電源電圧の状態を監視する電源監視手段(例えば、電源監視ポート)を備え、前記演算処理手段は、前記電源電圧の状態が安定していない場合には、前記電源電圧の状態が安定するまで待機し、前記電源電圧の状態が安定していることを条件に、前記演算処理手段のタイマー回路、シリアル通信回路及び乱数回路を初期化した後、前記第2記憶手段の所定の領域を使用して前記第2記憶手段が正常であるか否かを確認し、前記第2記憶手段が正常であることを条件に、前記無操作コマンドを送信するようにしてもよい。

【1954】

上記構成の本発明の第17及び第18の遊技機によれば、電源投入時における主制御基板及び副制御基板間の通信を安定動作させることができる。

30

【1955】

[第19及び第20の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、抽籤結果に基づいて、例えば、リールの入賞図柄の引き込み制御と呼ばれる制御や、リールの入賞図柄の蹴飛ばし制御と呼ばれる制御を実行する遊技機が知られている(例えば、特開2002-219213号公報参照)。

【1956】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性が複雑になるとともに、成立役(入賞役)の図柄組合せパターンが増大したため、主制御回路のRAM容量が圧迫されており、主制御回路で実行する処理の効率化を図り、主制御回路の限られたRAM容量を有効活用可能な技術の開発が求められている。

40

【1957】

本発明は、上記第11の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第11の目的は、主制御回路で実行する処理の効率化を図り、主制御回路のRAM容量を有効活用することが可能な遊技機を提供することである。

【1958】

上記第11の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第19の遊技機を提供する。

【1959】

遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段(例えば、メインCPU101

50

)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段(例えば、メインROM102)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段(例えば、メインRAM103)と、を備え、前記演算処理手段は、予め定められた確率で、内部当籤役に関するフラグステータス情報(例えば、当り要求フラグステータス)を決定する内部抽籤手段(例えば、内部抽籤処理)と、前記内部抽籤手段により取得された前記フラグステータス情報から内部当籤役を生成する内部当籤役生成手段(例えば、図柄設定処理中のS321)と、前記内部当籤役と、それに対応するフラグデータと、前記第2記憶手段内の前記フラグデータの格納先を指定する格納先データとの対応関係を規定し且つ前記第1記憶手段に記憶されたフラグデータテーブル(例えば、当り要求フラグテーブル)を前記第2記憶手段内に展開するフラグテーブル展開手段(例えば、図柄設定処理中のS324)と、前記第2記憶手段内に配置され且つ前記フラグデータを格納するフラグデータ格納領域(例えば、当り要求フラグ格納領域)のアドレスを指定するフラグ格納領域指定手段(例えば、図柄設定処理中のS329)と、前記内部当籤役生成手段により生成された前記内部当籤役に対応する前記フラグデータを、対応する前記格納先データに基づいて、前記フラグテーブルから前記フラグデータ格納領域内に転送して格納するフラグデータ格納手段(例えば、図柄設定処理中のS330)と、を有することを特徴とする遊技機。

10

【1960】

また、前記本発明の第19の遊技機では、前記演算処理手段は、前記フラグデータテーブルの前記格納先データを示すオンビット情報を算出して、転送対象となる前記オンビット情報に設定されている前記フラグデータを前記フラグデータ格納領域に転送するようにしてもよい。

20

【1961】

また、上記第11の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第20の遊技機を提供する。

【1962】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段(例えば、BETスイッチ77)と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段(例えば、スタートスイッチ79)と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段(例えば、3つのリール3L, 3C, 3R)と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段(例えば、ストップスイッチ基板80)と、遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段(例えば、メインCPU101)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段(例えば、メインROM102)と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段(例えば、メインRAM103)と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第1記憶手段又は前記第2記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ(例えば、Qレジスタ)と、予め定められた確率で、内部当籤役に関するフラグステータス情報(例えば、当り要求フラグステータス)を決定する内部抽籤手段(例えば、内部抽籤処理)と、前記内部抽籤手段により取得された前記フラグステータス情報から内部当籤役を生成する内部当籤役生成手段(例えば、図柄設定処理中のS321)と、前記内部当籤役と、それに対応する当籤フラグデータと、前記第2記憶手段内の前記当籤フラグデータの格納先を指定する格納先データとの対応関係を規定した当籤フラグデータテーブル(例えば、当り要求フラグテーブル)を前記第2記憶手段内に展開する当籤フラグテーブル展開手段(例えば、図柄設定処理中のS324)と、前記拡張レジスタを用いて前記第2記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の読み出し命令(例えば、「LDQ」命令)を実行することにより、前記第2記憶手段内に配置され且つ前記当籤フラグデータを格納する当籤フラグデータ格納領域(例えば、当り要求フラグ格納領域)のアドレスを

30

40

50

指定する当籤フラグ格納領域指定手段（例えば、図柄設定処理中の S 3 2 9）と、前記内部当籤役生成手段により生成された前記内部当籤役に対応する前記当籤フラグデータを、対応する前記格納先データに基づいて、前記当籤フラグテーブルから前記当籤フラグデータ格納領域内に転送して格納する当籤フラグデータ格納手段（例えば、図柄設定処理中の S 3 3 0）と、前記内部抽籤手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記停止制御手段により前記複数の表示列の変動表示が停止された場合に、前記複数の表示列に跨って設定された判定ライン上に、前記内部当籤役に対応する図柄の組合せが停止表示されたか否かを判定する入賞役決定手段（例えば、入賞検索処理）と、前記所定の読み出し命令を実行することにより、前記第 2 記憶手段内に配置され且つ前記判定ライン上に停止表示された図柄の組合せに対応する入賞フラグデータを格納する入賞フラグデータ格納領域（例えば、入賞作動フラグ格納領域）のアドレスを指定する入賞フラグ格納領域指定手段（例えば、図柄コード取得処理中の S 6 4 8）と、前記所定の読み出し命令を実行することにより、前記第 2 記憶手段内に配置され且つ前記判定ライン上に停止表示された図柄の組合せに対応する図柄コードデータを格納する図柄コード格納領域のアドレスを指定する図柄コード格納領域設定手段（例えば、図柄コード取得処理中の S 6 5 0）と、を有することを特徴とする遊技機。

【 1 9 6 3 】

また、前記本発明の第 2 0 の遊技機では、前記拡張レジスタで指定可能な前記アドレスの一部が、前記アドレスを構成する上位側のアドレス値であるようにしてもよい。

【 1 9 6 4 】

上記構成の本発明の第 1 9 及び第 2 0 の遊技機によれば、主制御回路で実行する処理の効率化を図り、主制御回路の R A M（第 2 記憶手段）容量を有効活用することができる。

【 1 9 6 5 】

[第 2 1 及び第 2 2 の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、内部当籤役と遊技者の停止操作とに基づきリール図柄の可変表示の停止制御を行い、図柄の組合せにより入賞判定を行い、入賞判定の結果に基づいてホッパー（メダル払出装置）を制御して、メダルの払出制御を行う遊技機が知られている（例えば、特開 2 0 0 8 - 1 1 9 4 9 8 号公報参照）。

【 1 9 6 6 】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性の複雑化により主制御回路の R O M の容量が圧迫されており、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量削減が求められている。

【 1 9 6 7 】

本発明は、上記第 1 2 の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第 1 2 の目的は、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路の R O M の空き容量を増やし、該増えた容量分の R O M の空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

【 1 9 6 8 】

上記第 1 2 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 2 1 の遊技機を提供する。

【 1 9 6 9 】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、B E T スイッチ 7 7）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ 7 9）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3 つのリール 3 L , 3 C , 3 R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手

10

20

30

40

50

段（例えば、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記停止制御手段による前記表示列の停止動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メイン CPU 101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第 1 記憶手段（例えば、メイン ROM 102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第 2 記憶手段（例えば、メイン RAM 103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第 2 記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ（例えば、Q レジスタ）と、前記拡張レジスタを用いて前記第 2 記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の読み出し命令（例えば、「LDQ」命令）を実行することにより、前記停止操作検出手段による停止操作の検出結果を取得する停止操作検出結果取得手段（例えば、リール停止制御処理中の S 714）と、前記停止操作検出手段により所定の表示列に対する遊技者の停止操作が検出された場合に、前記所定の読み出し命令を実行することにより、前記第 2 記憶手段内に配置され且つ前記所定の表示列の変動表示の停止制御データを格納する停止制御データ格納領域のアドレスを指定する停止制御データ格納領域設定手段（例えば、図 139 中のソースコード「LDQ IX, WR1__CTRL - (WR2__CTRL - WR1__CTRL)」）と、を有することを特徴とする遊技機。

【1970】

また、前記本発明の第 21 の遊技機では、前記拡張レジスタで指定可能な前記アドレスの一部が、前記アドレスを構成する上位側のアドレス値であるようにしてもよい。

【1971】

また、上記第 12 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 22 の遊技機を提供する。

【1972】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BET スwitch 77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3 つのリール 3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記内部当籤役決定手段により複数種の内部当籤役が決定された場合に、前記複数種の内部当籤役にそれぞれ対応する複数種の図柄の組合せの中なら、前記複数の表示列に跨って設定された判定ライン上に、優先して停止表示させる図柄の組合せを決定する優先停止図柄決定手段（例えば、引込優先順位取得処理）と、前記停止制御手段による前記表示列の停止動作、及び、前記優先停止図柄決定手段による停止表示させる図柄の組合せの決定動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メイン CPU 101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第 1 記憶手段（例えば、メイン ROM 102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第 2 記憶手段（例えば、メイン RAM 103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第 2 記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ（例えば、Q レジスタ）と、前記拡張レジスタを用いて前記第 2 記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の読み出し命令（例えば、「LDQ」命令）を実行することにより、前記停止操作検出手段による停止操作の検出

10

20

30

40

50

結果を取得する停止操作検出結果取得手段（例えば、リール停止制御処理中の S 7 1 4）と、前記停止操作検出手段により所定の表示列に対する遊技者の停止操作が検出された場合に、前記所定の読み出し命令を実行することにより、前記第 2 記憶手段内に配置され且前記所定の表示列の変動表示の停止制御データを格納する停止制御データ格納領域のアドレスを指定する停止制御データ格納領域設定手段（例えば、図 1 3 9 中のソースコード「LDQ IX, WR1__CTRL - (WR2__CTRL - WR1__CTRL)」）と、前記優先停止図柄決定手段により、優先して、前記判定ライン上に停止表示させる図柄の組合せを決定する処理において、比較判定命令、処理のジャンプ先アドレスの指定命令及び処理のジャンプ動作命令を一つの命令で実行可能な所定の判定命令（例えば、「JCP」命令）を実行することにより、判定対象となる前記内部当籤役に対応する図柄の組合せに、現在判定対象中の特定の表示列（例えば、右リール 3 R）における前記判定ライン上の停止図柄が任意となる所定の図柄の組合せ（例えば、「ANY」役）が含まれるか否かを判定するとともに、判定対象となる前記内部当籤役に対応する図柄の組合せに前記所定の図柄の組合せが含まれると判定された場合に、判定対象となる前記内部当籤役に対応する図柄の組合せの停止表示を禁止する任意役対応処理手段（例えば、引込優先順位取得処理中の S 6 8 3）と、を有することを特徴とする遊技機。

10

【1973】

また、前記本発明の第 2 2 の遊技機では、前記拡張レジスタで指定可能な前記アドレスの一部が、前記アドレスを構成する上位側のアドレス値であるようにしてもよい。

【1974】

20

上記構成の本発明の第 2 1 及び第 2 2 の遊技機によれば、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路の ROM の空き容量を増やし、該増えた容量分の ROM の空き領域を利用して遊技性を高めることができる。

【1975】

[第 2 3 ~ 第 2 5 の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、図柄の停止制御時に引込優先順位テーブルを使用して図柄の停止制御を行う遊技機が知られている（例えば、特開 2 0 0 7 - 1 7 5 4 5 0 号公報参照）。

【1976】

ところで、従来、上述した遊技機特有の制限として、主制御回路のプログラム容量が、規則により小容量に制限されている。さらに、近年、遊技性の複雑化により主制御回路の ROM の容量が圧迫されており、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量削減が求められている。

30

【1977】

本発明は、上記第 1 3 の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第 1 3 の目的は、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路の ROM の空き容量を増やし、該増えた容量分の ROM の空き領域を利用して遊技性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

【1978】

上記第 1 3 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 2 3 の遊技機を提供する。

40

【1979】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BET スイッチ 7 7）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ 7 9）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3 つのリール 3 L, 3 C, 3 R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板 8 0）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記

50

停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記内部当籤役決定手段により複数種の内部当籤役が決定された場合に、前記複数種の内部当籤役にそれぞれ対応する複数種の図柄の組合せの中なら、前記複数の表示列に跨って設定された判定ライン上に、優先して停止表示させる図柄の組合せを決定する優先停止図柄決定手段（例えば、引込優先順位取得処理）と、前記優先停止図柄決定手段による優先して停止表示させる図柄の組合せの決定動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第2記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ（例えば、Qレジスタ）と、を有し、前記優先停止図柄決定手段により、優先して停止表示させる図柄の組合せを決定する処理において、前記演算処理手段は、前記拡張レジスタを用いて前記第2記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の読み出し命令（例えば、「LDQ」命令）を実行することにより、前記第2記憶手段内に配置され且つ前記内部当籤役に対応する当籤フラグデータを格納する当籤フラグデータ格納領域（例えば、当り要求フラグ格納領域）のアドレスを指定する当籤フラグ格納領域指定手段（例えば、引込優先順位取得処理中のS686）と、前記所定の読み出し命令を実行することにより、前記第2記憶手段内に配置され且つ前記判定ライン上に停止表示された図柄の組合せに対応する入賞フラグデータを格納する入賞フラグデータ格納領域（例えば、入賞作動フラグ格納領域）のアドレスを指定する入賞フラグ格納領域指定手段（例えば、引込優先順位取得処理中のS686）と、前記当籤フラグデータとそれに対応する前記入賞フラグデータとの論理積演算を行う論理積演算手段（例えば、引込優先順位取得処理中のS686）と、を有することを特徴とする遊技機。

【1980】

また、前記本発明の第23の遊技機では、前記優先停止図柄決定手段により、優先して停止表示させる図柄の組合せを決定する処理において、判定対象となる前記内部当籤役に対応する図柄の組合せに、現在判定対象中の特定の表示列（例えば、右リール3R）における前記判定ライン上の停止図柄が任意となる所定の図柄の組合せ（例えば、「ANY」役）が含まれる場合には、前記演算処理手段は、前記当籤フラグ格納領域指定手段による前記当籤フラグデータ格納領域のアドレス指定処理、前記入賞フラグ格納領域指定手段による前記入賞フラグデータ格納領域のアドレス指定処理、及び、前記論理積演算手段による論理積演算処理が実行されないようにしてもよい。

【1981】

また、上記第13の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第24の遊技機を提供する。

【1982】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BETスイッチ77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記内部当籤役決定手段により複数種の内部当籤役が決定された場合に、前記複数種の内部当籤役にそれぞれ対応する複数種の

10

20

30

40

50

図柄の組合せの中なら、前記複数の表示列に跨って設定された判定ライン上に、優先して停止表示させる図柄の組合せを決定する優先停止図柄決定手段（例えば、引込優先順位取得処理）と、前記優先停止図柄決定手段による優先して停止表示させる図柄の組合せの決定動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第1記憶手段又は前記第2記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ（例えば、Qレジスタ）と、を有し、前記優先停止図柄決定手段により、優先して停止表示させる図柄の組合せを決定する処理において、前記演算処理手段は、前記拡張レジスタを用いて前記第2記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の読み出し命令（例えば、「LDQ」命令）を実行することにより、前記第2記憶手段内に配置され且つ前記内部当籤役に対応する当籤フラグデータを格納する当籤フラグデータ格納領域（例えば、当り要求フラグ格納領域）のアドレスを指定する当籤フラグデータ格納領域指定手段（例えば、引込優先順位取得処理中のS686）と、前記所定の読み出し命令を実行することにより、前記第2記憶手段内に配置され且つ前記判定ライン上に停止表示された図柄の組合せに対応する入賞フラグデータを格納する入賞フラグデータ格納領域（例えば、入賞作動フラグ格納領域）のアドレスを指定する入賞フラグデータ格納領域指定手段（例えば、引込優先順位取得処理中のS686）と、前記当籤フラグデータとそれに対応する前記入賞フラグデータとの論理積演算を行う論理積演算手段（例えば、引込優先順位取得処理中のS686）と、前記所定の読み出し命令を実行することにより、前記複数種の図柄の組合せ間における、停止表示させる図柄の組合せの優先順位を規定したデータテーブルを取得する優先順位データテーブル取得手段（例えば、引込優先順位取得処理中のS687）と、を有することを特徴とする遊技機。

【1983】

また、前記本発明の第24の遊技機では、前記優先停止図柄決定手段により、優先して停止表示させる図柄の組合せを決定する処理において、判定対象となる前記内部当籤役に対応する図柄の組合せに、現在判定対象中の特定の表示列（例えば、右リール3R）における前記判定ライン上の停止図柄が任意となる所定の図柄の組合せ（例えば、「ANY」役）が含まれる場合には、前記演算処理手段は、前記当籤フラグデータ格納領域指定手段による前記当籤フラグデータ格納領域のアドレス指定処理、前記入賞フラグデータ格納領域指定手段による前記入賞フラグデータ格納領域のアドレス指定処理、及び、前記論理積演算手段による論理積演算処理が実行されないようにしてもよい。

【1984】

また、上記第13の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第25の遊技機を提供する。

【1985】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、BETスイッチ77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、イリーガルヒットエラーの発生の有無を判定するエラー検出手段（例えば、イリーガルヒットチェック処理）と、前記エラー検

10

20

30

40

50

出手段による判定動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納される汎用レジスタと、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時にデータが格納され、該格納されたデータにより前記第2記憶手段内のアドレスの一部を指定可能な拡張レジスタ（例えば、Qレジスタ）と、を有し、前記エラー検出手段により、イリーガルヒットエラーの発生の有無を判定処理において、前記演算処理手段は、前記拡張レジスタを用いて前記第2記憶手段内のアドレス指定を行うことができる所定の読み出し命令（例えば、「LDQ」命令）を実行することにより、前記第2記憶手段内に配置され且つ前記複数の表示列に跨って設定された判定ライン上に停止表示された図柄の組合せに対応する入賞フラグデータを格納する入賞フラグデータ格納領域（例えば、入賞作動フラグ格納領域）のアドレスを指定する入賞フラグ格納領域指定手段（例えば、イリーガルヒットチェック処理中のS781）と、前記入賞フラグデータ格納領域に格納された前記入賞フラグデータと、それに対応する前記内部当籤役を示す当籤フラグデータとの論理積演算を行う論理積演算手段（例えば、イリーガルヒットチェック処理中のS784）と、前記論理積演算手段による演算結果に基づいて、イリーガルヒットエラーの発生の有無を判定するエラー判定手段（例えば、イリーガルヒットチェック処理中のS785）と、を有し、前記当籤フラグデータが格納される当籤フラグデータ格納領域（例えば、当り要求フラグ格納領域）の構成が、前記入賞フラグデータ格納領域の構成と同一であることを特徴とする遊技機。

10

【1986】

また、前記本発明の第25の遊技機では、前記拡張レジスタで指定可能な前記アドレスの一部が、前記アドレスを構成する上位側のアドレス値であるようにしてもよい。

【1987】

さらに、前記本発明の第25の遊技機では、前記演算処理手段は、前記エラー検出手段により、イリーガルヒットエラーが有ると判定された場合には、エラー処理を行うエラー処理手段を有し、前記エラー処理手段は、前記イリーガルヒットエラーを視認可能に報知するとともに、前記イリーガルヒットエラーが解除されるまで、遊技を停止するようにしてもよい。

30

【1988】

上記構成の本発明の第23～第25の遊技機によれば、主制御回路で管理する処理プログラムやテーブルなどの容量を削減して主制御回路のROMの空き容量を増やし、該増えた容量分のROMの空き領域を利用して遊技性を高めることができる。

【1989】

[第26の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、遊技制御基板（主制御基板）から演出制御基板（副制御基板）にコマンドデータを送信する遊技機が知られている（例えば、特開2013-027655号公報及び特開2014-033751号公報参照）。

【1990】

ところで、近年、遊技性の多様化に伴い、副制御回路による演出制御において遊技性に係る処理が増える傾向がある。そのため、主制御回路から副制御回路に送信される通信データを改ざんする、「ゴト」と呼ばれる不正行為が発生しており、遊技店に損害を与えている。それに対して、従来、例えば上記特開2014-033751号公報等で提案されているように、主制御回路において送信データにゴト防止処理を施す対策も実施されている。しかしながら、このようなゴト防止処理の追加により、主制御回路のプログラム容量が圧迫されるという課題が発生している。

40

【1991】

本発明は、上記第14の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第14の目的は、送信データに不正（ゴト）防止処理を施すことなく、不正行為を抑止するととも

50

に、不正防止処理による主制御回路のプログラム容量の圧迫を無くすことが可能な遊技機を提供することである。

【1992】

上記第14の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第26の遊技機を提供する。

【1993】

前記遊技動作に関する通信データを送信するデータ送信手段（例えば、主制御回路90）と、前記通信データを作成する通信データ生成手段（例えば、通信データ格納処理）と、前記通信データ生成手段による通信データの生成動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記演算処理手段は、前記演算処理手段による前記演算処理の実行時に複数種のデータがそれぞれ格納される複数の汎用レジスタを有し、前記演算処理手段は、前記通信データ生成手段による通信データの生成処理において、前記通信データを構成する複数種の通信パラメータをそれぞれ前記複数の汎用レジスタに割り当て、前記通信データを構成する複数種の通信パラメータのうち、前記通信データの種別に基づいて通信パラメータを、前記複数の汎用レジスタのうちの対応する汎用レジスタにセットし、前記汎用レジスタにセットされた通信パラメータを、前記第2記憶手段内の所定の格納領域（通信データ一時格納領域）に格納し、前記複数種の通信パラメータのうち、通信データの生成時に未使用の通信パラメータに対応付けられた汎用レジスタに格納されているデータを通信パラメータとして前記所定の格納領域に格納し、前記複数種の通信パラメータに応じて前記複数の汎用レジスタにセットされたデータに基づいて、前記通信データのサム値を生成することを特徴とする遊技機。

【1994】

また、前記本発明の第26の遊技機では、前記通信データ生成手段は、前記第2記憶手段内の所定の格納領域に空きが無い場合には、前記複数の汎用レジスタにセットされた前記通信パラメータを前記第2記憶手段内の所定の格納領域に格納することなく通信データの生成処理を終了するようにしてもよい。

【1995】

上記構成の本発明の第26の遊技機によれば、送信データ（通信データ）に不正防止処理を施すことなく、不正行為を抑止することができるとともに、不正防止処理による主制御回路のプログラム容量の圧迫も無くすることができる。

【1996】

[第27の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、主制御回路の制御により払い出されたメダルの枚数に応じて、クレジット数を更新する機能を備えた遊技機が知られている（例えば、特開2009-077977号公報参照）。

【1997】

ところで、従来、ART中やボーナス中の遊技では、メダルの払い出しが発生する頻度が高くなるが、この際、メダル1枚単位の払出間隔は一律（一定）で制御されることが多い。この場合、メダル払出期間において無駄な待ち時間が発生する。それゆえ、例えば、ARTのように長時間の遊技では、遊技期間が無駄に長くなり、遊技者にとって精神的負担となる可能性がある。

【1998】

本発明は、上記第15の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第15の目的は、メダル払出期間において、無駄な待ち時間を減らし、遊技者の精神的負担を軽減することが可能な遊技機を提供することである。

【1999】

上記第15の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第27の遊技機

10

20

30

40

50

を提供する。

【 2 0 0 0 】

遊技媒体の投入操作を検出する投入操作検出手段（例えば、B E Tスイッチ77）と、前記投入操作検出手段による投入操作の検出された後、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、複数の表示列を含み、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段（例えば、3つのリール3L, 3C, 3R）と、遊技者による停止操作の検出を行う停止操作検出手段（例えば、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段の決定結果と前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール停止制御処理）と、前記停止制御手段により前記複数の表示列の変動表示が停止された場合に、前記複数の表示列に跨って設定された判定ライン上に、前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せが停止表示されたか否かを判定する特典付与判定手段（例えば、入賞検索処理）と、前記特典付与判定手段により前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せが前記判定ライン上に停止表示されたと判定された場合に、前記遊技媒体を払い出す遊技媒体払出手段（例えば、入賞チェック・メダル払出処理）と、前記遊技媒体を貯留する遊技媒体貯留手段（例えば、クレジット機能）と、前記遊技媒体払出手段による前記遊技媒体の払出動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、を備え、前記演算処理手段は、前記特典付与判定手段により前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せが前記判定ライン上に停止表示されたと判定され、且つ、前記遊技媒体貯留手段に貯留されている前記遊技媒体の貯留数がある上限値未満である場合には、前記遊技媒体の貯留数に1を加算する遊技媒体加算手段（例えば、入賞チェック・メダル払出処理中のS805）と、前記遊技媒体加算手段により前記遊技媒体の貯留数に前記遊技媒体が1加算された後、前記遊技媒体の払い出しに係る内部当籤役に対応する図柄の組合せが停止表示された際に付与される前記遊技媒体の全払出数の払い出しが終了したか否かを判定する払出終了判定手段（例えば、入賞チェック・メダル払出処理中のS807）と、前記払出終了判定手段により前記遊技媒体の全払出数の払い出しが終了していないと判定された場合に、所定期間、遊技に関する操作が無効になるウェイトを発生させるウェイト発生手段（例えば、入賞チェック・メダル払出処理中のS808）と、を有することを特徴とする遊技機。

【 2 0 0 1 】

また、前記本発明の第27の遊技機では、前記演算処理手段は、所定期間で割込処理を実行する割込処理実行手段を有し、前記ウェイト発生手段による遊技に関する操作が無効となる前記ウェイトでは、前記割込処理実行手段による割込処理が予め定められた回数実行されるようにしてもよい。

【 2 0 0 2 】

上記構成の本発明の第27の遊技機によれば、メダル（遊技媒体）払出期間において、無駄な待ち時間を減らし、遊技者の精神的負担を軽減することができる。

【 2 0 0 3 】

[第 2 8 及び第 2 9 の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、内部当籤役やA T遊技を決定するための抽籤テーブルがROMに記憶された遊技機が知られている（例えば、特開2009-125459号公報参照）。

【 2 0 0 4 】

ところで、上記特開2009-125459号公報に記載の遊技機では、A T遊技の抽籤テーブルや抽籤処理プログラムは、記憶容量に余裕のある、副制御基板に設けられたROMに保存されている。しかしながら、近年の遊技機業界に特有の理由から、A T遊技の抽籤に係るテーブル及びプログラムも主制御基板に設けられたROMに記憶する必要があ

10

20

30

40

50

る。このため、小容量に制限されている主制御基板のROM容量が圧迫されることになる。

【2005】

本発明は、上記第16の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第16の目的は、主制御回路の処理で用いるデータの容量を削減し、主制御回路のROMの空き容量を増やすことが可能な遊技機を提供することである。

【2006】

上記第16の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第28の遊技機を提供する。

【2007】

遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役に基づいて、遊技者にとって有利な遊技状態を特典として付与するか否かを抽籤により決定する特典付与決定手段（例えば、CT中CT抽籤処理）と、前記特典付与決定手段により参照される抽籤テーブル（例えば、CT中CT当籤抽籤テーブル）と、を備え、前記抽籤テーブルでは、抽籤対象となる前記内部当籤役の種別を指定する判定データ（例えば、判定ビット）と、前記判定データで指定される抽籤対象の前記内部当籤役の抽籤値とが規定され、抽籤対象外となる前記内部当籤役の抽籤値は規定されず、当籤確率が100%未満である抽籤対象の前記内部当籤役の抽籤値には0以外の値が規定され、当籤確率が100%である抽籤対象の前記内部当籤役の抽籤値には0が規定されていることを特徴とする遊技機。

10

20

【2008】

また、前記本発明の第28の遊技機では、前記特典付与決定手段は、ソフトラッチ乱数から1バイトの乱数値を取得し、取得した前記乱数値と前記抽籤値とを用いて抽籤することにより、前記遊技者にとって有利な遊技状態を特典として付与するか否かを決定するようにしてもよい。

【2009】

上記第16の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第29の遊技機を提供する。

【2010】

遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役に基づいて、遊技者にとって有利な遊技状態を特典として付与するか否かを抽籤により決定する特典付与決定手段（例えば、CT中CT抽籤処理）と、前記特典付与決定手段により参照され、前記内部当籤役の種別毎に設けられた抽籤テーブル（例えば、CT中CT当籤抽籤テーブル）と、現在決定されている内部当籤役に対応付けられた前記抽籤テーブルを選択するための抽籤テーブル選択テーブル（例えば、当籤役別テーブル選択相対テーブル）と、を備え、前記抽籤テーブル選択テーブルでは、前記内部当籤役の種別毎に、該種別の内部当籤役が抽籤対象であるか否かを判別可能であり且つ該種別の内部当籤役に対応付けられた前記抽籤テーブルの配置先を指定可能な選択値が規定され、抽籤対象外となる前記内部当籤役の前記選択値には、前記特典付与決定手段による抽籤結果をハズレ扱いとする0が規定され、抽籤対象となる前記内部当籤役の前記選択値には、0以外のデータが規定されていることを特徴とする遊技機。

30

40

【2011】

また、前記本発明の第29の遊技機では、前記抽籤テーブル選択テーブルの前記選択値は、選択する前記抽籤テーブルまでの相対値であり、該相対値が1バイトの値であるようにしてもよい。

【2012】

上記構成の本発明の第28及び第29の遊技機によれば、主制御回路の処理で用いるデ

50

ータの容量を削減し、主制御回路のROMの空き容量を増やすことができる。

【2013】

[第30の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機では、主制御基板に搭載されたROM内の決まった領域にプログラム及びテーブルがそれぞれ配置されている（例えば、特開2012-110635号公報参照）。

【2014】

ところで、上記特開2012-110635号公報に記載の遊技機のように、主制御基板のROMに配置可能なプログラム及びテーブルは、遊技機業界の規則上、制限されており、主制御基板のROM内におけるプログラム及びテーブルの拡張性は著しく乏しい。

10

【2015】

本発明は、上記第17の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第17の目的は、主制御基板のROM内におけるプログラム及びテーブルの拡張性を高めることが可能な遊技機を提供することである。

【2016】

上記第17の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第30の遊技機を提供する。

【2017】

遊技動作を制御するための演算処理を行う演算処理手段（例えば、メインCPU101）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶された第1記憶手段（例えば、メインROM102）と、前記演算処理手段による前記演算処理の実行に必要な情報が記憶される第2記憶手段（例えば、メインRAM103）と、を備え、前記第1記憶手段には、遊技者により実施される遊技の遊技性に関与する処理の実行に必要な情報が記憶された遊技用記憶領域（例えば、遊技用ROM領域）と、前記遊技用記憶領域とは異なる領域に配置され且つ遊技者により実施される遊技の遊技性に関与しない処理の実行に必要な情報が記憶された規定外記憶領域（例えば、規定外ROM領域）とが設けられていることを特徴とする遊技機。

20

【2018】

また、前記本発明の第30の遊技機では、前記第2記憶手段には、遊技者により実施される遊技の遊技性に関与する処理の実行に必要な情報が一時的に記憶される遊技用作業領域及び遊技用スタック領域を含む遊技用一時記憶領域（例えば、遊技用RAM領域）と、前記遊技用一時記憶領域とは異なる領域に配置され、且つ、遊技者により実施される遊技の遊技性に関与しない処理の実行に必要な情報が一時的に記憶される規定外作業領域及び規定外スタック領域を含む規定外一時記憶領域（例えば、規定外RAM領域）とが設けられているようにしてもよい。

30

【2019】

さらに、前記本発明の第30の遊技機では、前記演算処理手段は、専用レジスタとしてスタックポインタを有し、前記演算処理手段は、前記第1記憶手段の前記規定外記憶領域に記憶されたプログラムを実行する場合には、前記スタックポインタに前記第2記憶手段の規定外スタック領域のアドレスを設定し、前記第1記憶手段の前記規定外記憶領域に記憶されたプログラムを終了する場合には、前記規定外記憶領域に記憶されたプログラムを実行するときに退避させた前記第2記憶手段の前記遊技用スタック領域のアドレスを前記スタックポインタに設定して、前記第1記憶領域の前記遊技用記憶領域に記憶されたプログラムに戻すようにしてもよい。

40

【2020】

上記構成の本発明の第30の遊技機によれば、主制御基板のROM内におけるプログラム及びテーブルの拡張性を高めることができる。

【2021】

[第31の遊技機]

従来、上述した構成の遊技機において、主制御回路で決定された内部当籤役の情報を副

50

制御回路の演出制御で用いるために、内部当籤役を、その種別をグループ単位でまとめるサブフラグに変換する機能を備えた遊技機が知られている（例えば、特開 2010-051471 号公報参照）。

【2022】

上記特開 2010-051471 号公報に記載の遊技機では、内部当籤役をサブフラグに変換するための変換テーブルや変換処理プログラムは、記憶容量に余裕のある、副制御基板に設けられた ROM に保存されている。しかしながら、近年の遊技機業界に特有の理由から、主制御回路で決定された内部当籤役の情報を副制御回路に送信できなくなり、サブフラグに係る変換テーブルや変換処理プログラムも主制御基板に設けられた ROM に記憶する必要がある。この場合、これらのテーブルやプログラムにより、小容量に制限されている主制御基板の ROM 容量が圧迫されることになる。そこで、サブフラグに係る変換テーブルや変換処理プログラムによる主制御基板の ROM 容量への圧迫を抑制するとともに、遊技機の機種、企画、仕様等の変更への対応を効率良く行える技術の開発が求められている。

10

【2023】

本発明は、上記第 18 の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第 18 の目的は、主制御基板の ROM 容量の圧迫を抑制するとともに、遊技機の機種、企画、仕様等の変更への対応を効率良く行えることが可能な遊技機を提供することである。

【2024】

上記第 18 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 31 の遊技機を提供する。

20

【2025】

遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、内部抽籤処理）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役を、変換テーブルを参照して、第 1 のサブフラグ（例えば、サブフラグ）に変換する第 1 サブフラグ変換手段（例えば、サブフラグ変換処理）と、前記第 1 サブフラグ変換手段による変換処理で得られた前記第 1 のサブフラグを、抽籤テーブル（例えば、各種フラグ変換抽籤テーブル）を参照して、抽籤により第 2 のサブフラグ（例えば、サブフラグ EX）に変換する第 2 サブフラグ変換手段（例えば、フラグ変換処理）と、を備え、前記変換テーブルでは、前記内部当籤役と、前記内部当籤役に対応付けられた制御ステータスデータと、前記第 1 のサブフラグとの対応関係が規定され、同じ種別の前記第 1 のサブフラグに対して、同じ値の前記制御ステータスデータが割り付けられ、前記第 2 サブフラグ変換手段による抽籤は、前記制御ステータスデータに基づいて行われることを特徴とする遊技機。

30

【2026】

また、前記本発明の遊技機では、前記遊技動作に関するコマンドデータを送信するデータ送信手段を備え、前記データ送信手段は、前記開始操作検出手段が開始操作を検出したことを契機として、前記第 1 のサブフラグをコマンドデータの通信パラメータとして送信するようにしてもよい。

40

【2027】

上記構成の本発明の第 31 の遊技機によれば、主制御基板の ROM 容量の圧迫を抑制するとともに、遊技機の機種、企画、仕様等の変更への対応を効率良く行えることができる。

【2028】

[第 32 ~ 第 35 の遊技機]

また、近年、内部当籤役に決定された役を取りこぼすことがないように、内部当籤役を成立させるための情報など、遊技者にとって有利な情報を、遊技者に対して報知する遊技機が知られている。なお、このように遊技者が有利となるような情報を報知することを、一般にナビする（ナビを行う）などといい、ナビが行われる期間を AT (assist time) といい、AT 機能を備える遊技機を AT 機や ART 機と呼ぶ。

50

【 2 0 2 9 】

このような A T (A R T) 機として、特開 2 0 1 4 - 0 3 6 7 2 5 号公報には、A T に当籤する期待度が高い A T の高確率当籤ゾーン（以下、「チャンスゾーン」と呼ぶ）を設けた遊技機が記載されている。このような遊技機によれば、非チャンスゾーン中の遊技とチャンスゾーン中の遊技との間で A T の当籤確率に差を設けることができ、A T の当籤確率が画一的にならず遊技の興趣を高めることができた。

【 2 0 3 0 】

しかしながら、上述の遊技機では、A T の当籤が既に確定しているか否かに関わらず、同一の抽籤テーブルを用いて A T の抽籤を行っているため、その結果、A T の当籤が既に確定している状況においても、A T の当籤が確定していない状態と同じ当籤確率での A T の抽籤を行ってしまい、過度な利益を遊技者に対して与えてしまうおそれがあった。

10

【 2 0 3 1 】

本発明は、上記第 1 9 の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第 1 9 の目的は、遊技者に対して過度な利益を付与してしまうことを抑制可能な遊技機を提供することである。

【 2 0 3 2 】

上記第 1 9 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 3 2 の遊技機を提供する。

【 2 0 3 3 】

複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R ）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓 4 ）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 9 0 、スタートスイッチ 7 9 ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 9 0 、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 9 0 、ストップスイッチ基板 8 0 ）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 9 0 、ステッピングモータ）と、遊技者に対して特典（例えば、A R T 状態のセット数のストック）を付与するか否か、及び付与する場合の前記特典の大きさ（例えば、A R T 状態のランク）を決定する特典決定手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定すると、決定した大きさの前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典の付与を受ける権利を記憶するとともに、前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記権利を一つ消し去る権利管理手段（例えば、主制御回路 9 0 、メイン R A M 1 0 3 ）と、所定の条件を満たすと、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定する確率が高い高確率状態（例えば、C Z ）に遊技状態を移行し、前記高確率状態中に終了条件を満たすと、前記高確率状態を終了する状態制御手段（例えば、主制御回路 9 0 ）と、を備え、前記特典決定手段は、前記権利管理手段に前記権利が記憶されている前記高確率状態中に前記特典を付与すると決定した場合よりも、前記権利管理手段に前記権利が記憶されていない前記高確率状態中に前記特典を付与すると決定した場合の方が、付与する前記特典の大きさを相対的に大きく決定することを特徴とする遊技機。

20

30

40

【 2 0 3 4 】

また、前記特典決定手段は、一度の決定で一又は複数の前記特典を付与すると決定可能であり、前記状態制御手段は、前記高確率状態中に前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典の付与が行われるまで（例えば、A R T 状態が終了するまで）前記高確率状態を中断するとともに、前記特典の付与が行われた後（例えば、A R T 状態

50

の終了後)に前記高確率状態を再開し、前記特典付与手段は、前記高確率状態中の前記終了条件を満たしたときに前記権利管理手段に前記権利が記憶されている場合、前記権利に応じて前記特典を付与することとしてもよい。

【2035】

上記第19の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第33の遊技機を提供する。

【2036】

複数の図柄が表示された複数のリール(例えば、リール3L, 3C, 3R)と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段(例えば、リール表示窓4)と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段(例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段(例えば、主制御回路90、ステッピングモータ)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、主制御回路90)と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段(例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80)と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段(例えば、主制御回路90、ステッピングモータ)と、遊技者に対して特典(例えば、ART状態のセット数のストック)を付与するか否か、及び付与する場合の前記特典の大きさ(例えば、ART状態のランク)を決定する特典決定手段(例えば、主制御回路90)と、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定すると、決定した大きさの前記特典を付与する特典付与手段(例えば、主制御回路90)と、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典の付与を受ける権利を記憶するとともに、前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記権利を一つ消し去る権利管理手段(例えば、主制御回路90、メインRAM103)と、を備え、前記特典決定手段は、前記権利管理手段に前記権利が記憶されている場合と、前記権利管理手段に前記権利が記憶されていない場合とで異なる確率で前記特典を付与すると決定し、また、前記権利管理手段に前記権利が記憶されている場合よりも、前記権利管理手段に前記権利が記憶されていない場合の方が、付与する前記特典の大きさを相対的に大きく決定することを特徴とする遊技機。

【2037】

また、前記特典決定手段は、前記権利管理手段に前記権利が記憶されている場合よりも、前記権利管理手段に前記権利が記憶されていない場合の方が、相対的に高い確率で前記特典を付与すると決定することとしてもよく、

また、前記特典決定手段は、前記権利管理手段に前記権利が記憶されていない場合よりも、前記権利管理手段に前記権利が記憶されている場合の方が、相対的に高い確率で前記特典を付与すると決定することとしてもよい。

【2038】

上記第19の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第34の遊技機を提供する。

【2039】

複数の図柄が表示された複数のリール(例えば、リール3L, 3C, 3R)と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段(例えば、リール表示窓4)と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段(例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段(例えば、主制御回路90、ステッピングモータ)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、主制御回路90)と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作

を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、遊技者に対して特典（例えば、ART 状態のセット数のストック）を付与するか否か、及び付与する場合の前記特典の大きさ（例えば、ART 状態のランク）を決定する特典決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定すると、決定した大きさの前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典の付与を受ける権利を記憶するとともに、前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記権利を一つ消し去る権利管理手段（例えば、主制御回路 90、メイン RAM 103）と、所定の条件を満たすと、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定する確率が高い高確率状態（例えば、CZ）に遊技状態を移行し、前記高確率状態の残り遊技期間が閾値に達すると、前記高確率状態を終了する状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、を備え、前記特典決定手段は、前記高確率状態の残り遊技期間に応じて異なる確率で前記特典を付与すると決定し、また、前記権利管理手段に前記権利が記憶されている前記高確率状態中に前記特典を付与すると決定した場合と、前記権利管理手段に前記権利が記憶されていない前記高確率状態中に前記特典を付与すると決定した場合とで、付与すると決定する前記特典の大きさの傾向が異なることを特徴とする遊技機。

10

【2040】

20

また、前記特典決定手段は、前記高確率状態の残り遊技期間が所定期間よりも長い場合よりも、前記高確率状態の残り遊技期間が前記所定期間よりも短い場合の方が、相対的に高い確率で前記特典を付与すると決定することとしてもよく、

また、前記特典決定手段は、前記高確率状態の残り遊技期間が所定期間よりも短い場合よりも、前記高確率状態の残り遊技期間が前記所定期間よりも長い場合の方が、相対的に高い確率で前記特典を付与すると決定することとしてもよい。

【2041】

上記第 19 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 35 の遊技機を提供する。

【2042】

30

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態に比べて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、ART 状態）と、前記通常状態に比べて前記有利状態に移行する確率が高い高確率状態（例えば、CZ）とを有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール 3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓 4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 90、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記有利状態に移行するか否かを決定する移行決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、特典を付与する確率が異なる複数のモード（例えば、ART 状態のランクや当該ランクから決まる抽籤状態）の中から一のモードを決定するモード決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記有利状態に移行し、

40

50

前記有利状態中に第1終了条件を満たすと、前記有利状態を終了する有利状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記モード決定手段が決定した前記一のモードに応じて、前記有利状態中に特典（例えば、CZのゲーム数の上乘せやナビ高確ゲーム数の付与）を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、前記有利状態に移行する権利を記憶するとともに、前記有利状態制御手段が前記有利状態に遊技状態を移行すると、前記権利を一つ消し去る権利管理手段（例えば、主制御回路90、メインRAM103）と、所定の条件を満たすと遊技状態を前記高確率状態に移行し、前記高確率状態中に第2終了条件を満たすと、前記高確率状態を終了する高確率状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、を備え、前記モード決定手段は、前記権利管理手段に前記権利が記憶されている前記高確率状態中に前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定した場合よりも、前記権利管理手段に前記権利が記憶されていない前記高確率状態中に前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定した場合の方が、相対的に特典を付与する確率が高いモードを前記一のモードとして決定することを特徴とする遊技機。

10

【2043】

また、前記有利状態制御手段は、前記高確率状態中に前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記高確率状態から前記有利状態に移行し、前記高確率状態制御手段は、前記高確率状態中に遊技状態が前記有利状態に移行すると、前記有利状態が終了するまで前記高確率状態を中断するとともに、前記有利状態の終了に伴い前記高確率状態を再開し、前記高確率状態が終了する条件である前記第2終了条件は、前記高確率状態の残り遊技期間が閾値に達することであり、前記特典付与手段は、前記有利状態中に前記一のモードに応じて、前記高確率状態の残り遊技期間を所定期間延長するという特典を付与することとしてもよい。

20

【2044】

上記構成の本発明の第32～第35の遊技機によれば、遊技者に対して過度な特典を付与してしまうことを抑制することができる。

【2045】

[第36～第37の遊技機]

AT(ART)機として、特開2014-036725号公報には、ATに当籤する期待度が高いATの高確率当籤ゾーン（以下、「チャンスゾーン」と呼ぶ）を設けた遊技機が記載されている。このような遊技機によれば、非チャンスゾーン中の遊技とチャンスゾーン中の遊技との間でATの当籤確率に差を設けることができ、ATの当籤確率が画一的にならず遊技の興趣を高めることができた。

30

【2046】

しかしながら、上述の遊技機では、ATに当籤した場合、その後、高RT状態に移行しAT遊技が開始されるため、チャンスゾーンゲーム数が残っている状態でATに当籤すると残りのチャンスゾーンがなかったものとして扱われ、残りのチャンスゾーンのゲーム数分の有利な抽籤を受けることができず、遊技者に損失感を与えてしまい、遊技の興趣を低下させるおそれがあった。

【2047】

本発明は、上記第20の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第20の目的は、遊技の興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することである。

40

【2048】

上記第20の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第36の遊技機を提供する。

【2049】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態よりも遊技者に対して特典を付与すると決定する確率が高い高確率状態（例えば、CZ）と、を有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技

50

者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 90、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、遊技者に対して前記特典（例えば、ART 状態のセット数のストック）を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典の付与を受ける権利を記憶するとともに、前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記権利を一つ消し去る特典管理手段（例えば、主制御回路 90、メイン RAM 103）と、所定の条件を満たすと遊技状態を前記高確率状態に移行し、前記高確率状態中に終了条件を満たすと、前記高確率状態を終了する状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、を備え、前記状態制御手段は、前記高確率状態中に前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典の付与が行われるまで（例えば、ART 状態が終了するまで）前記高確率状態を中断するとともに、前記特典の付与が行われた後（例えば、ART 状態の終了後）に前記高確率状態を再開し、前記付与決定手段は、前記高確率状態中に前記終了条件を満たしたときに前記特典管理手段に前記権利が記憶されていない場合、前記高確率状態が終了した遊技の次の遊技において前記通常状態よりも高い確率で前記特典を付与すると決定することを特徴とする遊技機。

【2050】

上記第 20 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 37 の遊技機を提供する。

【2051】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態よりも遊技者に対して特典を付与すると決定する確率が高い高確率状態（例えば、CZ）と、を有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール 3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓 4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 90、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、遊技者に対して前記特典（例えば、ART 状態のセット数のストック）を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、所定の条件を満たすと遊技状態を前記高確率状態に移行し、前記高確率状態の残り遊技期間が閾値に達すると前記高確率状態を終了する状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記高確率状態の残り遊技期間として所定期間を加算する高確率状態加算手段（例えば、主

10

20

30

40

50

制御回路 90)と、を備え、前記付与決定手段は、前記高確率状態が終了した遊技の次の遊技において前記通常状態よりも高い確率で前記特典を付与すると決定し、前記状態制御手段は、前記高確率状態中に前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典の付与が行われるまで(例えば、ART状態が終了するまで)前記高確率状態を中断するとともに、前記特典の付与が行われた後(例えば、ART状態の終了後)に前記高確率状態を再開し、また、前記高確率状態が終了した遊技の次の遊技において前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定したことに伴い前記特典が付与された場合、当該特典の付与が行われた後に、前記高確率状態加算手段が加算した前記所定期間を残り遊技期間とする前記高確率状態を開始することを特徴とする遊技機。

【2052】

上記構成の本発明の第36、第37の遊技機によれば、遊技の興趣の低下を抑制することができる。

【2053】

[第38～第40の遊技機]

AT(ART)機として、ATに当籤する期待度が高いATの高確率当籤ゾーン(以下、「チャンスゾーン」と呼ぶ)を設けた遊技機が知られており、例えば、特開2015-000141号公報には、チャンスゾーン中は、弱いレア役(弱スイカや弱チェリー)が内部当籤役として決定された場合に比べて、強いレア役(強スイカや強チェリー)が内部当籤役として決定された場合の方がATに当籤する確率が高くなる遊技機が記載されている。このような遊技機によれば、チャンスゾーン中に強いレア役が当籤することで、AT抽籤に当籤する期待を持つことができるため、遊技の興趣を高めることができた。

【2054】

しかしながら、上述の遊技機では、当籤役の強弱によりAT抽籤の当籤確率に差が設けられているものの、AT自体の性能は、AT当籤時の当籤役に関わらず同一であることから、AT当籤後の遊技が画一化してしまい、遊技の興趣の低下をもたらすおそれがあった。

【2055】

本発明は、上記第21の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第21の目的は、遊技の興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することである。

【2056】

上記第21の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第38の遊技機を提供する。

【2057】

通常状態(例えば、通常状態)と、前記通常状態に比べて遊技者にとって有利な有利状態(例えば、ART状態)と、前記通常状態に比べて前記有利状態に移行する確率が高い高確率状態(例えば、CZ)とを有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール(例えば、リール3L, 3C, 3R)と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段(例えば、リール表示窓4)と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段(例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段(例えば、主制御回路90、ステッピングモータ)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、主制御回路90)と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段(例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80)と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段(例えば、主制御回路90、ステッピングモータ)と、前記有利状態に移行するか否かを決定する移行決定手段(例えば、主制御回路90)と、前記有利状態に移行するか否かを決定する移行決定手段(例えば、主制御回路90)と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、特典を付与する確

10

20

30

40

50

率が異なる複数のモード（例えば、ART状態の抽籤状態やランク）の中から一のモードを決定するモード決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記有利状態に移行し、前記有利状態中に第1終了条件を満たすと、前記有利状態を終了する有利状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記モード決定手段が決定した前記一のモードに応じて、前記有利状態中に特典（例えば、CZのゲーム数の上乘せやナビ高確ゲーム数の付与）を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、所定の条件を満たすと遊技状態を前記高確率状態に移行し、前記高確率状態中に第2終了条件を満たすと、前記高確率状態を終了する高確率状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、を備え、前記移行決定手段は、前記高確率状態中に、前記内部当籤役決定手段が決定した前記内部当籤役に依りて、前記有利状態に移行するか否かを決定し、前記モード決定手段は、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定した遊技における前記内部当籤役に依りて、前記一のモードを決定することを特徴とする遊技機。

10

【2058】

また、前記有利状態制御手段は、前記高確率状態中に前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記高確率状態から前記有利状態に移行し、前記高確率状態制御手段は、前記高確率状態中に遊技状態が前記有利状態に移行すると、前記有利状態が終了するまで前記高確率状態を中断するとともに、前記有利状態の終了に伴い前記高確率状態を再開し、前記高確率状態が終了する条件である前記第2終了条件は、前記高確率状態の残り遊技期間が閾値に達することであり、前記特典付与手段は、前記有利状態中に前記一のモードに応じて、前記高確率状態の残り遊技期間を所定期間延長するという特典を付与することを特徴とすることとしてもよい。

20

【2059】

上記第21の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第39の遊技機を提供する。

【2060】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態に比べて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、ART状態）と、前記通常状態に比べて前記有利状態に移行する確率が高い高確率状態（例えば、CZ）とを有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記有利状態に移行するか否かを決定する移行決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、前記有利状態中のモード（例えば、ART状態中の抽籤状態）を決定するための複数のモード決定情報（例えば、ART当籤時のランク）の中から一のモード決定情報を決定するモード決定情報決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記有利状態に移行し、前記有利状態中に第1終了条件を満たすと、前記有利状態を終了する有利状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、遊技状態が前記有利状態に移行した最初の遊技において、前記モード決定情報決定手段が決定した前記一のモード決定情報に応じて、特典を付与する確率が異なる複数のモードの中から一の

30

40

50

モードを決定するモード決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記モード決定手段が決定した前記一のモードに応じて、前記有利状態中に特典（例えば、CZのゲーム数の上乘せやナビ高確ゲーム数の付与）を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、所定の条件を満たすと遊技状態を前記高確率状態に移行し、前記高確率状態中に第 2 終了条件を満たすと、前記高確率状態を終了する高確率状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、モード決定情報決定手段が前記一のモード決定情報を決定すると、当該遊技において決定した前記一のモード決定情報を示唆する演出を行う演出手段（例えば、表示装置 11、副制御回路 200）と、を備え、前記移行決定手段は、前記高確率状態中に、前記内部当籤役決定手段が決定した前記内部当籤役に依りて、前記有利状態に移行するか否かを決定し、前記モード決定情報決定手段は、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定した遊技における前記内部当籤役に依りて、前記一のモード決定情報を決定することを特徴とする遊技機。

10

【2061】

上記第 21 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 40 の遊技機を提供する。

【2062】

複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール 3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓 4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 90、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、遊技者に対して特典（例えば、ART状態）を付与するか否か、及び付与する場合の前記特典の大きさ（例えば、ART状態中の抽籤状態やランク）を決定する特典決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定すると、決定した大きさの前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典の付与を受ける権利を記憶するとともに、前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記権利を一つ消し去る権利管理手段（例えば、主制御回路 90、メインRAM 103）と、所定の条件を満たすと、前記特典決定手段が前記特典を付与すると決定する確率が高い高確率状態（例えば、CZ）に遊技状態を移行し、前記高確率状態中に終了条件を満たすと、前記高確率状態を終了する状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、所定の演出を行う演出手段（例えば、表示装置 11、副制御回路 200）と、を備え、前記特典決定手段は、前記高確率状態中に、前記内部当籤役決定手段が決定した前記内部当籤役に依りて、前記特典を付与するか否かを決定するとともに、一度の決定で一又は複数の前記特典を付与すると決定可能であり、前記特典決定手段は、複数の前記特典を付与すると決定した場合に、当該複数の前記特典のそれぞれに対して付与する前記特典の大きさを決定するとともに、少なくとも一の前記特典については、前記特典を付与すると決定した遊技における前記内部当籤役に依りて、前記特典の大きさを決定し、前記演出手段は、前記特典決定手段が複数の前記特典を付与すると決定した場合に、当該遊技における前記内部当籤役に依りて前記特典の大きさを決定した前記一の前記特典については、当該特典の大きさを示唆する演出を行い、他の前記特典については、当該他の前記特典の大きさを示唆する演出を行わないことを特徴とする遊技機。

20

30

40

【2063】

50

また、前記状態制御手段は、前記高確率状態中に前記特典決定手段が複数の前記特典を付与すると決定すると、前記一の前記特典の付与が行われるまで（例えば、ART状態が終了するまで）前記高確率状態を中断するとともに、当該一の前記特典の付与が行われた後（例えば、ART状態の終了後）に前記高確率状態を再開し、前記特典付与手段は、前記高確率状態の前記終了条件を満たしたときに未だ付与していない前記特典がある場合、当該付与していない前記特典を付与することとしてもよい。

【2064】

上記構成の本発明の第38～第40の遊技機によれば、遊技の興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することができる。

【2065】

[第41～第42の遊技機]

AT（ART）機として、ATに当籤する期待度が高いATの高確率当籤ゾーン（以下、「チャンスゾーン」と呼ぶ）を設けた遊技機が知られており、例えば、特開2015-000141号公報には、チャンスゾーン中は、弱いレア役（弱スイカや弱チェリー）が内部当籤役として決定された場合に比べて、強いレア役（強スイカや強チェリー）が内部当籤役として決定された場合の方がATに当籤する確率が高くなる遊技機が記載されている。このような遊技機によれば、チャンスゾーン中に強いレア役が当籤することで、AT抽籤に当籤する期待を持つことができるため、遊技の興趣を高めることができた。

【2066】

しかしながら、上述の遊技機では、当籤役の強弱によりAT抽籤の当籤確率に差が設けられているものの、AT自体の性能は、AT当籤時の当籤役に関わらず同一であることから、AT当籤後の遊技が画一化してしまい、遊技の興趣の低下をもたらすおそれがあった。

【2067】

本発明は、上記第22の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第22の目的は、遊技の興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供するである。

【2068】

上記第22の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第41の遊技機を提供する。

【2069】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態に比べて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、ART状態）とを有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L、3C、3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記有利状態に移行するか否かを決定する移行決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、前記有利状態中のモード（例えば、ART状態中の抽籤状態）を決定するための複数のモード決定情報の中から一のモード決定情報（例えば、ART当籤時のランク）を決定するモード決定情報決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記有利状態に移行し、前記有利状態中に終了条件を満たすと、前記有利状態を終了する有利状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、遊技状態が前記有

10

20

30

40

50

利状態に移行した最初の遊技（例えば、ランク決めART中）において、前記モード決定情報決定手段が決定した前記一のモード決定情報に応じて、特典（例えば、CZのゲーム数の上乘せやナビ高確ゲーム数の付与）を付与する確率が異なる複数のモードの中から一のモードを決定するモード決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記モード決定手段が決定した前記一のモードに応じて、前記有利状態中に特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、を備えることを特徴とする遊技機。

【2070】

また、前記モード決定情報決定手段は、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定した遊技において、前記内部当籤役決定手段が決定した前記内部当籤役に応じて、前記一のモード決定情報を決定し、前記モード決定手段は、遊技状態が前記有利状態に移行した最初の遊技において、前記内部当籤役決定手段が決定した前記内部当籤役に応じて、前記一のモードを決定することとしてもよい。

10

【2071】

上記第22の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第42の遊技機を提供する。

【2072】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態に比べて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、ART状態）と、前記通常状態に比べて前記有利状態に移行する確率が高い高確率状態（例えば、CZ）とを有する遊技機であって、通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態に比べて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、ART状態）とを有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記有利状態に移行するか否かを決定する移行決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、前記有利状態中のモード（例えば、ART状態中の抽籤状態）を決定するための複数のモード決定情報の中から一のモード決定情報（例えば、ART当籤時のランク）を決定するモード決定情報決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記有利状態に移行し、前記有利状態中に終了条件を満たすと、前記有利状態を終了する有利状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記モード決定情報決定手段が前記一のモード決定情報を決定した遊技よりも後の遊技（例えば、ランク決めART中）において、特典（例えば、CZのゲーム数の上乘せやナビ高確ゲーム数の付与）を付与する確率が異なる複数のモードの中から一のモードを、前記一のモード決定情報に応じて決定するモード決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記モード決定手段が決定した前記一のモードに応じて、前記有利状態中に特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、所定の条件を満たすと遊技状態を前記高確率状態に移行し、前記高確率状態の残り遊技期間が閾値に達すると、前記高確率状態を終了する高確率状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、を備え、前記有利状態制御手段は、前記高確率状態中に前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記高確率状態から前記有利状態に移行し、前記高確率状態制御手段は、前記高確率状態中に遊技状態が前記有利状態に移行すると

20

30

40

50

、前記有利状態が終了するまで前記高確率状態を中断するとともに、前記有利状態の終了に伴い前記高確率状態を再開し、前記特典付与手段は、前記有利状態中に前記一のモードに応じて、前記有利状態中に前記高確率状態の残り遊技期間を所定期間延長するという特典（例えば、C Zのゲーム数の上乘せ）を付与することを特徴とする遊技機。

【2073】

また、前記モード決定情報決定手段は、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定した遊技において、前記内部当籤役決定手段が決定した前記内部当籤役に応じて、前記一のモード決定情報を決定し、前記モード決定手段は、前記モード決定情報決定手段が前記一のモード決定情報を決定した遊技よりも後の遊技において、前記内部当籤役決定手段が決定した前記内部当籤役に応じて、前記一のモードを決定することとしてもよい。

10

【2074】

上記構成の本発明の第41～第42の遊技機によれば、遊技の興趣の低下を抑制することができる。

【2075】

[第43～第44の遊技機]

また、近年、リプレイが低確率で成立する低RT状態と高確率で成立する高RT状態とを有し、高RT状態において遊技者にとって有利な情報を報知する、所謂ART機能を備える遊技機が知られている。このようなART機能を備える遊技機として、特開2012-176104号公報には、昇格リプレイの入賞によってRT状態を高RT状態へと移行させ、高RT状態において低RT状態へ転落してしまう不利益図柄の入賞を回避するための情報を報知することで、高RT状態を維持しつつ、メダルの払い出しを受けることが可能な遊技機が記載されている。このような遊技機によれば、ART遊技と非ART遊技とでメダルの払い出しに差を設けることで、遊技の興趣を高めることができる。

20

【2076】

このような遊技機では、ARTに当籤していない状況であっても自力で昇格リプレイを入賞できた場合には、高RT状態に移行するものの、非ART遊技では、不利益図柄の入賞を回避することが困難であるため、すぐに低RT状態に転落してしまうため、自力でRT状態を移行できた場合に興趣を高めることができなかつた。

【2077】

本発明は、上記第23の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第23の目的は、RT状態の移行に伴い遊技の興趣を高めることができる遊技機を提供することである。

30

【2078】

上記第23の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第43の遊技機を提供する。

【2079】

再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なるRT状態として、第1RT状態（例えば、RT4状態）と第2RT状態（例えば、RT5状態）とを少なくともも有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L、3C、3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール

40

50

停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記第 1 R T 状態において、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に第 1 の図柄組合せ（例えば、略称「強チャンスリップ（R T 5 移行図柄）」）が停止表示されると、前記 R T 状態を前記第 2 R T 状態に移行させる R T 移行手段（例えば、主制御回路 90）と、遊技者に対して特典（例えば、A R T 状態）を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、遊技者に対して前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、を備え、前記複数の役には、内部当籤役として決定された際に停止操作検出手段が検出した停止操作の態様に依りて前記第 1 の図柄組合せ又は第 2 の図柄組合せ（例えば、「C__C Uリプ」）を停止表示可能な第 1 役（例えば、「F__3 折昇格リプ」）、及び内部当籤役として決定された際に第 3 の図柄組合せ（例えば、略称「7 揃いリプ」）を停止表示可能な第 2 役（例えば、「F__7 リプ」）が含まれ、前記内部当籤役決定手段は、前記第 2 R T 状態では前記第 1 R T 状態よりも高い確率で前記第 2 役を内部当籤役として決定可能であり、前記付与決定手段は、前記第 2 役が内部当籤役として決定された際に前記第 3 の図柄組合せが停止表示されると、遊技者に対して前記特典を付与すると決定するとともに、前記第 1 役が内部当籤役として決定された際に前記第 1 の図柄組合せが停止表示されると、所定の確率で遊技者に対して前記特典を付与すると決定することを特徴とする遊技機。

10

【2080】

また、前記第 2 役は、内部当籤役として決定された際に停止操作検出手段が検出した停止操作の態様に依りて前記第 3 の図柄組合せ又は第 4 の図柄組合せ（例えば、略称「フェイクリプ」）を停止表示可能であり、遊技者に対して停止操作の態様を報知する報知状態を開始するか否かを決定する報知決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記報知決定手段が前記報知状態を開始すると決定すると、前記報知状態を開始する通常時報知制御手段（例えば、主制御回路 90）と、前記報知状態中に、前記第 1 役が内部当籤役として決定されると、前記第 1 の図柄組合せが停止表示されるために必要な停止操作の態様を報知し、また、前記報知状態中に前記第 2 役が内部当籤役として決定されると、前記第 3 の図柄組合せが停止表示されるために必要な停止操作の態様を報知する報知手段（例えば、主制御回路 90、副制御回路 200）とを更に備えることとしてもよい。

20

【2081】

また、再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なる R T 状態として、第 1 R T 状態（例えば、R T 4 状態）と第 2 R T 状態（例えば、R T 5 状態）とを少なくとも有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R ）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓 4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 90、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに依りて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記第 1 R T 状態において、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に第 1 の図柄組合せ（例えば、略称「強チャンスリップ（R T 5 移行図柄）」）が停止表示されると、前記 R T 状態を前記第 2 R T 状態に移行させる R T 移行手段（例えば、主制御回路 90）と、遊技者に対して特典（例えば、A R T 状態）を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、遊技者に対して前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、を備え、前記複数の

30

40

50

役には、内部当籤役として決定された際に前記停止操作検出手段が検出した停止操作の態様に依りて前記第1の図柄組合せ又は第2の図柄組合せ（例えば、「C__CUリブ」）を停止表示可能な第1役（例えば、「F__3 折昇格リブ」）、及び内部当籤役として決定された際に前記停止操作の態様に関わらず必ず第3の図柄組合せ（例えば、略称「7 揃いリブ」）が停止表示される第2役（例えば、「F__7リブ」）が含まれ、前記内部当籤役決定手段は、前記第2RT状態では前記第1RT状態よりも高い確率で前記第2役を内部当籤役として決定可能であり、前記付与決定手段は、前記第2役が内部当籤役として決定されると、遊技者に対して前記特典を付与すると決定するとともに、前記第1役が内部当籤役として決定された際に前記第1の図柄組合せが停止表示されると、所定の確率で遊技者に対して前記特典を付与すると決定することを特徴とする遊技機であってもよい。

10

【2082】

また、遊技者に対して停止操作の態様を報知する報知状態を開始するか否かを決定する報知決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記報知決定手段が前記報知状態を開始すると決定すると、前記報知状態を開始する通常時報知制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記報知状態中に、前記第1役が内部当籤役として決定されると、前記第1の図柄組合せが停止表示されるために必要な停止操作の態様を報知する報知手段（例えば、主制御回路90、副制御回路200）とを更に備えることとしてもよい。

【2083】

上記第23の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第43の遊技機を提供する。

20

【2084】

再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なるRT状態として、第1RT状態（例えば、RT4状態）と第2RT状態（例えば、RT5状態）とを少なくとも有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに依りて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記第1RT状態において、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に第1の図柄組合せ（例えば、略称「強チャンスリブ（RT5移行図柄）」）が停止表示されると、前記RT状態を前記第2RT状態に移行させ、前記第2RT状態において前記図柄表示手段に第3の図柄組合せ（例えば、略称「小山リプレイ（RT4移行図柄）」）が停止表示されると、RT状態を前記第1RT状態に移行させるRT移行手段（例えば、主制御回路90）と、遊技者に対して特典（例えば、ART状態又はCZ）を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、遊技者に対して前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、を備え、前記複数の役には、内部当籤役として決定された際に停止操作検出手段が検出した停止操作の態様に依りて前記第1の図柄組合せ又は第2の図柄組合せ（例えば、「C__CUリブ」）を停止表示可能な第1役（例えば、「F__3 折昇格リブ」）、及び、内部当籤役として決定された際に停止操作検出手段が検出した停止操作の態様に依りて前記第3の図柄組合せ又は第4の図柄組合せ（例えば、「C__CUリブ」）を停止表示可能な第2役（例えば、「F__6 折転落リブ」）が含まれ、前記付与決定手段は、前記第2RT状態中は、前記

30

40

50

第1 R T状態に比べて高い確率で遊技者に対して前記特典を付与すると決定し、また、前記第1役が内部当籤役として決定された際に前記第1の図柄組合せが停止表示されると、所定の確率で遊技者に対して前記特典を付与すると決定し、また、前記第2役が内部当籤役として決定された際に前記第3の図柄組合せが停止表示されると前記第4の図柄組合せが停止表示される場合よりも高い確率で遊技者に対して前記特典を付与すると決定することを特徴とする遊技機。

【2085】

また、遊技者に対して停止操作の態様を報知する報知状態を開始するか否かを決定する報知決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記報知決定手段が前記報知状態を開始すると決定すると、前記報知状態を開始する通常時報知制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記報知状態中に、前記第1役が内部当籤役として決定されると、前記第1の図柄組合せが停止表示されるために必要な停止操作の態様を報知し、また、前記報知状態中に前記第2役が内部当籤役として決定されると、前記第4の図柄組合せが停止表示されるために必要な停止操作の態様を報知する報知手段（例えば、主制御回路90、副制御回路200）とを更に備えることとしてもよい。

10

【2086】

上記構成の本発明の第43～第44の遊技機によれば、R T状態の移行に伴い遊技の興趣を高めることができる。

【2087】

[第45～第47の遊技機]

A T (ART)機として、特開2014-036725号公報には、A Tに当籤する期待度が高いA Tの高確率当籤ゾーン（以下、「チャンスゾーン」と呼ぶ）を設けた遊技機が記載されている。この遊技機では、非チャンスゾーン中は、特定役（スイカやチェリー等のレア役）の当籤時に低確率でA R T抽籤に当籤し、チャンスゾーン中は、特定役の当籤時に高確率でA R T抽籤に当籤するため、特定役の成立時にA R T抽籤に当籤することについての期待を持つことができる。

20

【2088】

しかしながら、上述の遊技機では、特定役が短期間のうちに頻繁に当籤しても、特定役の当籤毎に単にA R T抽籤を行うだけであり、特定役が頻繁に当籤すること自体には何らの期待感を持つこともできなかつた。

30

【2089】

本発明は、上記第24の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第24の目的は、特定役が連続したときに期待感を持つことができる遊技機を提供することである。

【2090】

上記第24の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第45の遊技機を提供する。

【2091】

再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なるR T状態として、第1 R T状態（例えば、R T2状態）と第2 R T状態（例えば、R T3状態）とを少なくとも有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3 L, 3 C, 3 R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を

40

50

停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記第 1 R T 状態において前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に特定の図柄組合せ（例えば、略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せ）が停止表示されると、前記 R T 状態を前記第 2 R T 状態に移行させ、また、前記第 2 R T 状態では、前記図柄表示手段に停止表示された図柄組合せでは他の R T 状態に移行させることなく、所定回数の遊技が行われると他の R T 状態に移行させる R T 移行手段（例えば、主制御回路 90）と、遊技者に対して特典（例えば、A R T 状態）を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、遊技者に対して前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、を備え、前記複数の役には、内部当籤役として決定された際に前記特定の図柄組合せを停止表示可能な特定役（例えば、「F 弱チェリブ」）が含まれ、前記付与決定手段は、前記第 1 R T 状態中に前記特定役が内部当籤役として決定されると、遊技者に対して特典を付与すると決定し、前記特典付与手段は、前記第 1 R T 状態中の前記特定役に応じて前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記 R T 移行手段が前記第 2 R T 状態から他の R T 状態に R T 状態を移行させた後に、遊技者に対して前記特典を付与し、前記内部当籤役決定手段は、前記第 2 R T 状態では、前記第 1 R T 状態中に前記特定役を内部当籤役として決定する確率よりも高い確率で、前記特定役を内部当籤役として決定可能であることを特徴とする遊技機。

10

【2092】

また、前記付与決定手段は、前記第 2 R T 状態中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合、遊技者に対して特典を付与しないと決定することとしてもよく、

20

また、前記第 2 R T 状態中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合、特定の確率で遊技者に対して特典を付与すると決定することとしてもよい。

【2093】

上記第 24 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 46 の遊技機を提供する。

【2094】

再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なる R T 状態として、第 1 R T 状態（例えば、R T 1 状態）と第 2 R T 状態（例えば、R T 2 状態）と第 3 R T 状態（例えば、R T 3 状態）とを少なくとも有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール 3 L, 3 C, 3 R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓 4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 90、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記第 2 R T 状態において、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に特定の図柄組合せ（例えば、略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せ）が停止表示されると、前記 R T 状態を前記第 3 R T 状態に移行させる一方で、前記第 1 R T 状態において、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記特定の図柄組合せが停止表示されても前記 R T 状態を前記第 1 R T 状態のまま維持し、また、前記第 3 R T 状態では、前記図柄表示手段に停止表示された図柄組合せでは他の R T 状態に移行させることなく、所定回数の遊技が行われると他の R T 状態に移行させる R T 移行手段（例えば、主制御回路 90）と、前記 R T 移行手段が前記第 2 R T 状態から前記第 3 R T 状態に R T 状態を移

30

40

50

行させたことに応じて、遊技者に対して特典（例えば、ART状態）を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、遊技者に対して前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、を備え、前記複数の役には、内部当籤役として決定された際に前記特定の図柄組合せを停止表示可能な特定役（例えば、「F_弱チェリブ」）が含まれ、前記内部当籤役決定手段は、前記第3RT状態では、前記第1RT状態中に前記特定役を内部当籤役として決定する確率、及び前記第2RT状態中に前記特定役を内部当籤役として決定する確率の何れよりも高い確率で、前記特定役を内部当籤役として決定可能であることを特徴とする遊技機。

【2095】

また、前記付与決定手段は、前記第3RT状態中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合、遊技者に対して特典を付与しないと決定することとしてもよく、

また、前記付与決定手段は、前記第3RT状態中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合、特定の確率で遊技者に対して特典を付与すると決定することとしてもよい。

【2096】

上記第24の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第47の遊技機を提供する。

【2097】

再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なるRT状態として、第1RT状態（例えば、RT2状態）と第2RT状態（例えば、RT3状態）と第3RT状態（例えば、RT4状態）とを少なくとも有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、を備え、前記第3RT状態は、第1RT状態及び前記第2RT状態に比べて前記リプレイが内部当籤役として決定される確率が高い高RT状態であり、前記第1RT状態及び前記第3RT状態は、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に停止表示された図柄組合せに応じて他のRT状態に移行する図柄移行RT状態であり、前記第2RT状態は、前記図柄表示手段に停止表示された図柄組合せでは他のRT状態に移行することなく、所定回数の遊技が行われると他のRT状態に移行する遊技数移行RT状態であり、前記図柄移行RT状態において、前記図柄表示手段に特定の図柄組合せ（例えば、略称「弱チェリブ」に係る図柄組合せ）が停止表示されると、前記RT状態を前記第2RT状態に移行させ、また、前記図柄移行RT状態において、前記図柄表示手段に所定の図柄組合せ（例えば、略称「小山リプレイ」に係る図柄組合せ）が停止表示されると、前記RT状態を前記第3RT状態に移行させ、また、遊技数移行RT状態において、所定回数の遊技が行われると前記RT状態を他のRT状態に移行させるRT移行手段（例えば、主制御回路90）と、前記RT移行手段が前記第2RT状態にRT状態を移行させたことに応じて、遊技者に対して特典（例えば、ART状態）を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記RT移行手段が前記高RT状態である前記第3RT状態にRT状態を移行させたことに応じて、遊技者に対して前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回

10

20

30

40

50

路 90) と、を更に備え、前記複数の役には、内部当籤役として決定された際に前記特定の図柄組合せを停止表示可能な特定役(例えば、「F_弱チェリブ」)が含まれ、前記内部当籤役決定手段は、前記第2RT状態では、前記第1RT状態中に前記特定役を内部当籤役として決定する確率よりも高い確率で、前記特定役を内部当籤役として決定可能であり、また、前記第3RT状態では、前記特定役を内部当籤役として決定不可能であることを特徴とする遊技機。

【2098】

また、前記付与決定手段は、前記第2RT状態中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合、遊技者に対して特典を付与しないと決定することとしてもよく、

また、前記付与決定手段は、前記第2RT状態中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合、特定の確率で遊技者に対して特典を付与すると決定することとしてもよい。

10

【2099】

上記構成の本発明の第45~第47の遊技機によれば、特定役が連続したときに期待感を持つことができる。

【2100】

[第48~第51の遊技機]

また、近年、リプレイが低確率で成立する低RT状態と高確率で成立する高RT状態とを有し、高RT状態において遊技者にとって有利な情報を報知する、所謂ART機能を備える遊技機が知られている。このようなART機能を備える遊技機として、特開2012-176104号公報には、昇格リプレイの入賞によってRT状態を高RT状態へと移行させ、高RT状態において低RT状態へ転落してしまう不利益図柄の入賞を回避するための情報を報知することで、高RT状態を維持しつつ、メダルの払い出しを受けることが可能な遊技機が記載されている。このような遊技機によれば、ART遊技と非ART遊技とでメダルの払い出しに差を設けることで、遊技の興趣を高めることができる。

20

【2101】

ところで、このような遊技機では、非AT期間中の高RT状態は、押し順に不正解すると不利益図柄が表示されて、RT状態が低RT状態へ移行してしまう。ここで、押し順は、6択や3択等のように基本的には正解する可能性が低いいため、非AT期間中に高RT状態に移行できた場合であっても、その後すぐに低RT状態に転落してしまい、押し順不正解時の遊技が単調になってしまっていた。

30

【2102】

本発明は、上記第25の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第25の目的は、押し順不正解時に多様な制御が可能な遊技機を提供することである。

【2103】

上記第25の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第48の遊技機を提供する。

【2104】

再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なる複数のRT状態を有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール(例えば、リール3L, 3C, 3R)と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段(例えば、リール表示窓4)と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段(例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段(例えば、主制御回路90、ステッピングモータ)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、主制御回路90)と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段(例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80)と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止

40

50

制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、所定の条件に応じて、複数の前記 R T 状態を移行させる R T 移行手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数の役の中には、前記リール停止制御手段が複数の前記リールを停止させる順序である停止操作の順序に応じて第 1 の図柄組合せ（例えば、略称「R T 2 移行図柄」に係る図柄組合せ）、第 2 の図柄組合せ（例えば、略称「R T 0 移行図柄」に係る図柄組合せ）、及び第 3 の図柄組合せ（例えば、略称「ベル」に係る図柄組合せ）を含む複数の図柄組合せを停止表示可能な複数の押し順役（例えば、押し順ベル）が含まれ、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が検出した前記停止操作の順序が当該押し順役に対して予め定められた順序である場合に（例えば、押し順正解）、第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記停止操作検出手段が所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合（例えば、1 停ミス）、前記停止操作検出手段により前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 1 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記停止操作検出手段が前記所定番目よりも後の特定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合に（例えば、2 停ミス）、前記第 2 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記 R T 移行手段は、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 1 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を第 1 R T 状態（例えば、R T 2 状態）に移行させ、また、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 2 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を第 2 R T 状態（例えば、R T 0 状態）に移行させ、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 3 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を維持することを特徴とする遊技機。

【2105】

また、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が前記所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合、前記所定番目の前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 1 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させることとしてもよい。

【2106】

また、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が前記所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合、前記所定番目よりも後に停止する前記リールに対する前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 1 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させることとしてもよい。

【2107】

上記第 25 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 49 の遊技機を提供する。

【2108】

再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なる複数の R T 状態を有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール 3 L, 3 C, 3 R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓 4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 90、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例え

10

20

30

40

50

ば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、所定の条件に応じて、複数の前記 R T 状態を移行させる R T 移行手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数の役の中には、前記リール停止制御手段が複数の前記リールを停止させる順序である停止操作の順序に応じて第 1 の図柄組合せ（例えば、略称「R T 0 移行図柄」に係る図柄組合せ）、第 2 の図柄組合せ（例えば、略称「R T 2 移行図柄」に係る図柄組合せ）、及び第 3 の図柄組合せ（例えば、略称「ベル」に係る図柄組合せ）を含む複数の図柄組合せを停止表示可能な複数の押し順役（例えば、押し順ベル）が含まれ、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が検出した前記停止操作の順序が当該押し順役に対して予め定められた順序である場合に（例えば、押し順正解）、第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記停止操作検出手段が所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合に（例えば、1 停ミス）、前記第 1 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記停止操作検出手段が前記所定番目よりも後の特定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合（例えば、2 停ミス）、前記停止操作検出手段により前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 2 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記 R T 移行手段は、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 1 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を第 1 R T 状態（例えば、R T 0 状態）に移行させ、また、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 2 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を第 2 R T 状態（例えば、R T 2 状態）に移行させ、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 3 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を維持することを特徴とする遊技機。

【 2 1 0 9 】

また、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が前記特定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合、前記特定番目の前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 2 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させることとしてもよい。

【 2 1 1 0 】

また、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が前記特定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合、前記特定番目よりも後に停止する前記リールに対する前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 2 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させることとしてもよい。

【 2 1 1 1 】

上記第 25 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 50 の遊技機を提供する。

10

20

30

40

50

【 2 1 1 2 】

再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なる複数の R T 状態を有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール 3 L , 3 C , 3 R ）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓 4 ）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 9 0、スタートスイッチ 7 9 ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 9 0、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 9 0）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 9 0、ストップスイッチ基板 8 0）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 9 0、ステッピングモータ）と、所定の条件に応じて、複数の前記 R T 状態を移行させる R T 移行手段（例えば、主制御回路 9 0）と、前記複数の役の中には、前記リール停止制御手段が複数の前記リールを停止させる順序である停止操作の順序に応じて第 1 の図柄組合せ（例えば、略称「R T 0 移行図柄」に係る図柄組合せ）、第 2 の図柄組合せ（例えば、略称「R T 2 移行図柄」に係る図柄組合せ）、及び第 3 の図柄組合せ（例えば、略称「ベル」に係る図柄組合せ）を含む複数の図柄組合せを停止表示可能な複数の押し順役（例えば、押し順ベル）が含まれ、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が検出した前記停止操作の順序が当該押し順役に対して予め定められた順序である場合に（例えば、押し順正解）、第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記停止操作検出手段が所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合に（例えば、1 停ミス）、前記停止操作検出手段により前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 1 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記停止操作検出手段が前記所定番目よりも後の特定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合（例えば、2 停ミス）、前記停止操作検出手段により前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 2 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記 R T 移行手段は、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 1 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を第 1 R T 状態（例えば、R T 0 状態）に移行させ、また、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 2 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を第 2 R T 状態（例えば、R T 2 状態）に移行させ、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 3 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を維持することを特徴とする遊技機。

【 2 1 1 3 】

また、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が前記所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合、前記所定番目の前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 1 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させることとしてもよい。

【 2 1 1 4 】

また、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が前記特定番目に検出した前記停止操

10

20

30

40

50

作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合、前記特定番目の前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第2の図柄組合せ又は前記第3の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させることとしてもよい。

【2115】

また、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が前記所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合、前記所定番目よりも後に停止する前記リールに対する前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第1の図柄組合せ又は前記第3の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させることとしてもよい。

10

【2116】

また、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が前記特定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合、前記特定番目よりも後に停止する前記リールに対する前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第2の図柄組合せ又は前記第3の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させることとしてもよい。

20

【2117】

上記第25の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第51の遊技機を提供する。

【2118】

再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なる複数のRT状態を有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L、3C、3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、所定の条件に応じて、複数の前記RT状態を移行させるRT移行手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数の役の中には、前記リール停止制御手段が複数の前記リールを停止させる順序である停止操作の順序に応じて第1の図柄組合せ（例えば、略称「RT2移行図柄」に係る図柄組合せ）、第2の図柄組合せ（例えば、略称「RT1移行図柄」に係る図柄組合せ）、及び第3の図柄組合せ（例えば、略称「ベル」に係る図柄組合せ）を含む複数の図柄組合せを停止表示可能な複数の押し順役（例えば、押し順ベル）が含まれ、前記リール停止制御手段は、前記内部当籤役決定手段により前記押し順役が内部当籤役として決定されると、前記停止操作検出手段が検出した前記停止操作の順序が当該押し順役に対して予め定められた順序である場合に（例えば、押し順正解）、第3の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記停止操作検出手段が所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別であり、かつ、前記所定番目よりも後の特定番

30

40

50

目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合に（例えば、1 停止解、かつ、2 停ミス）、前記停止操作検出手段により前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 1 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記停止操作検出手段が前記所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別ではなく、かつ、前記特定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合に（例えば、1 停ミス、かつ、2 停ミス）、前記停止操作検出手段により前記停止操作が検出されたタイミングに応じて、前記第 2 の図柄組合せ又は前記第 3 の図柄組合せが前記図柄表示手段に停止表示されるように図柄の変動を停止させ、前記 R T 移行手段は、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に第 1 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を第 1 R T 状態（例えば、R T 2 状態）に移行させ、また、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に第 2 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を第 2 R T 状態（例えば、R T 0 状態）に移行させ、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に第 3 の図柄組合せが停止表示されると、前記 R T 状態を維持することを特徴とする遊技機。

10

【 2 1 1 9 】

また、前記特定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が前記予め定められた順序において前記特定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合に、前記リール停止制御手段が前記第 3 の図柄組合せを停止表示可能な前記停止操作が検出されるタイミングは、前記所定番目に検出した前記停止操作が停止対象とする前記リールの種別が、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別である場合と、前記予め定められた順序において前記所定番目に停止する対象の前記リールの種別ではない場合と、で異なることとしてもよい。

20

【 2 1 2 0 】

上記構成の本発明の第 4 8 ~ 第 5 1 の遊技機によれば、押し順不正解時に多様な制御が可能な遊技機を提供することができる。

【 2 1 2 1 】

[第 5 2 ~ 第 5 4 の遊技機]

30

A T (A R T) 機として、特開 2 0 1 4 - 0 3 6 7 2 5 号公報には、A T に当籤する期待度が高い A T の高確率当籤ゾーン（以下、「チャンスゾーン」と呼ぶ）を設けた遊技機が記載されている。この遊技機では、非チャンスゾーン中は、特定役（スイカやチェリー等のレア役）の当籤時に低確率で A R T 抽籤に当籤し、チャンスゾーン中は、特定役の当籤時に高確率で A R T 抽籤に当籤するため、特定役の成立時に A R T 抽籤に当籤することについての期待を持つことができる。

【 2 1 2 2 】

しかしながら、上述の遊技機では、チャンスゾーン中の A R T 抽籤が当籤役に応じた確率で行われるため、A R T 抽籤に当籤する確率が高い役が当籤しない限り、A R T 抽籤に当籤することについての期待を持つことができず、A R T 抽籤の結果が画一的になり易く、遊技の興趣の低下をもたらすおそれがあった。

40

【 2 1 2 3 】

本発明は、上記第 2 5 の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第 2 5 の目的は、遊技の興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することである。

【 2 1 2 4 】

上記第 2 5 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 5 2 の遊技機を提供する。

【 2 1 2 5 】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態に比べて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、A R T 状態）と、前記通常状態に比べて前記有利状態に移行する確率が高い

50

高確率状態（例えば、C Z）とを有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3 L, 3 C, 3 R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役に応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記有利状態に移行するか否かを決定する移行決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記有利状態に移行し、前記有利状態中に第1終了条件を満たすと、前記有利状態を終了する有利状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、第1の条件を満たすと、遊技状態を前記高確率状態に移行し、前記高確率状態中に第2終了条件を満たすと、前記高確率状態を終了する高確率状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、遊技者に特典（例えば、EPへの移行）を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、を備え、前記複数の役の中には、前記停止操作検出手段が検出する前記停止操作の態様に応じて、第1の図柄組合せ（例えば、略称「強チャンスリブ」に係る図柄組合せ）又は第2の図柄組合せ（例えば、略称「斜めリプレイ」に係る図柄組合せ）を停止表示可能な特定役（例えば、「3折昇格リブ」）が含まれ、前記有利状態及び前記高確率状態中に、遊技者に対して停止操作の態様を報知する報知モードとして、前記特定役が内部当籤役として決定された場合に前記第1の図柄組合せを停止表示させるために必要な停止操作の態様を報知する第1報知モード（例えば、ナビ高確中）と、前記特定役が内部当籤役として決定された場合に前記第2の図柄組合せを停止表示させるために必要な停止操作の態様を報知する第2報知モード（例えば、非ナビ高確中）とを有し、前記第2報知モード中に第2の条件を満たすと（例えば、ナビ高確ゲーム数が付与されると）、前記第2報知モードから前記第1報知モードに報知モードを切り替えるとともに、前記第1報知モード中に第3の条件を満たすと（例えば、ナビ高確ゲーム数が0になると）、前記第1報知モードから前記第2報知モードに報知モードを切り替える報知モード制御手段（例えば、主制御回路90）、を更に備え、前記報知モード制御手段は、前記第1報知モード中の前記有利状態が前記第3の条件を満たすことなく終了した場合、当該有利状態の終了後に再開する前記高確率状態においても前記第1報知モードを維持可能（例えば、ナビ高確を継続C Zに持越可能）であり、前記特典付与手段は、前記有利状態中に前記第1の図柄組合せが停止表示されることに応じて、遊技者に前記特典を付与し、前記移行決定手段は、前記高確率状態において、前記第1報知モード中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合には、前記第2報知モード中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合よりも高い確率で、前記有利状態に移行すると決定することを特徴とする遊技機。

【2126】

上記第25の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第53の遊技機を提供する。

【2127】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態に比べて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、ART状態）と、前記通常状態に比べて前記有利状態に移行する確率が高い高確率状態（例えば、C Z）とを有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3 L, 3 C, 3 R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始

10

20

30

40

50

操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役に応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記有利状態に移行するか否かを決定する移行決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記有利状態に移行し、前記有利状態中に第 1 終了条件を満たすと、前記有利状態を終了する有利状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、第 1 の条件を満たすと、遊技状態を前記高確率状態に移行し、前記高確率状態中に第 2 終了条件を満たすと、前記高確率状態を終了する高確率状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、遊技者に特典（例えば、EP への移行）を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、を備え、前記複数の役の中には、前記停止操作検出手段が検出する前記停止操作の態様に応じて、第 1 の図柄組合せ（例えば、略称「強チャンスリブ」に係る図柄組合せ）又は第 2 の図柄組合せ（例えば、略称「斜めリプレイ」に係る図柄組合せ）を停止表示可能な特定役（例えば、「3 折昇格リブ」）が含まれ、前記有利状態及び前記高確率状態中に、遊技者に対して停止操作の態様を報知する報知モードとして、前記特定役が内部当籤役として決定された場合に前記第 1 の図柄組合せを停止表示させるために必要な停止操作の態様を報知する第 1 報知モード（例えば、ナビ高確中）と、前記特定役が内部当籤役として決定された場合に前記第 2 の図柄組合せを停止表示させるために必要な停止操作の態様を報知する第 2 報知モード（例えば、非ナビ高確中）とを有し、前記第 2 報知モード中に第 2 の条件を満たすと（例えば、ナビ高確ゲーム数が付与されると）、前記第 2 報知モードから前記第 1 報知モードに報知モードを切り替えるとともに、前記第 1 報知モード中に第 3 の条件を満たすと（例えば、ナビ高確ゲーム数が 0 になると）、前記第 1 報知モードから前記第 2 報知モードに報知モードを切り替える報知モード制御手段（例えば、主制御回路 90）、を更に備え、前記報知モード制御手段は、前記第 1 報知モード中の前記有利状態が前記第 3 の条件を満たすことなく終了した場合、当該有利状態の終了後に再開する前記高確率状態においても前記第 1 報知モードを維持可能（例えば、ナビ高確を継続 CZ に持越可能）であり、前記特典付与手段は、前記有利状態中に前記第 1 の図柄組合せが停止表示されることに応じて、遊技者に前記特典を付与し、前記移行決定手段は、前記高確率状態において、前記第 1 報知モード中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合には、前記第 2 報知モード中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合よりも高い確率で、前記有利状態に移行すると決定し、前記報知モード制御手段が前記第 2 報知モードから前記第 1 報知モードに報知モードを切り替える前記第 2 の条件は、前記高確率状態中は成立することなく、前記有利状態中にのみ成立し、前記報知モード制御手段が前記第 1 報知モードから前記第 2 報知モードに報知モードを切り替える前記第 3 の条件は、前記特典付与手段により前記特典が付与されること、又は、前記第 1 報知モードの残り遊技期間が閾値に達することに応じて成立することを特徴とする遊技機。

【 2 1 2 8 】

上記第 2 5 の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第 5 4 の遊技機を提供する。

【 2 1 2 9 】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態に比べて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、ART 状態）と、前記通常状態に比べて前記有利状態に移行する確率が高い高確率状態（例えば、CZ）とを有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール 3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓 4）と、遊技者による開始操作を検出

10

20

30

40

50

する開始操作検出手段（例えば、主制御回路 90、スタートスイッチ 79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路 90、ストップスイッチ基板 80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役に応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路 90、ステッピングモータ）と、前記有利状態に移行するか否かを決定する移行決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記移行決定手段が前記有利状態に移行すると決定すると、遊技状態を前記有利状態に移行し、前記有利状態中に第 1 終了条件を満たすと、前記有利状態を終了する有利状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、第 1 の条件を満たすと、遊技状態を前記高確率状態に移行し、前記高確率状態中に第 2 終了条件を満たすと、前記高確率状態を終了する高確率状態制御手段（例えば、主制御回路 90）と、遊技者に特典（例えば、EP への移行）を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路 90）と、を備え、前記複数の役の中には、前記停止操作検出手段が検出する前記停止操作の態様に応じて、第 1 の図柄組合せ（例えば、略称「強チャンスリプ」に係る図柄組合せ）又は第 2 の図柄組合せ（例えば、略称「斜めリプレイ」に係る図柄組合せ）を停止表示可能な特定役（例えば、「3 択昇格リプ」）が含まれ、前記有利状態及び前記高確率状態中に、遊技者に対して停止操作の態様を報知する報知モードとして、前記特定役が内部当籤役として決定された場合に前記第 1 の図柄組合せを停止表示させるために必要な停止操作の態様を報知する第 1 報知モード（例えば、ナビ高確中）と、前記特定役が内部当籤役として決定された場合に前記第 2 の図柄組合せを停止表示させるために必要な停止操作の態様を報知する第 2 報知モード（例えば、非ナビ高確中）とを有し、再遊技に係るリプレイが内部当籤役として決定される確率が異なる複数の RT 状態として、特殊リプレイ（例えば、「F__7リプA」「F__7リプB」「F__BARリプ」）が内部当籤役として決定される確率が他の RT 状態よりも高い特殊 RT 状態（例えば、RT5 状態）を少なくとも有し、前記第 2 報知モード中に第 2 の条件を満たすと（例えば、ナビ高確ゲーム数が付与されると）、前記第 2 報知モードから前記第 1 報知モードに報知モードを切り替えるとともに、前記第 1 報知モード中に第 3 の条件を満たすと（例えば、ナビ高確ゲーム数が 0 になると）、前記第 1 報知モードから前記第 2 報知モードに報知モードを切り替える報知モード制御手段と、遊技状態が前記有利状態に移行した最初の遊技において、前記第 2 の条件を満たす確率が異なる複数の有利状態モード（例えば、ART 状態中のランクや抽籤状態）の中から今回の前記有利状態に用いる一の有利状態モードを決定する有利状態モード決定手段（例えば、主制御回路 90）と、前記リールの回転停止に伴い前記図柄表示手段に前記第 1 の図柄組合せが停止表示されると、前記 RT 状態を特殊 RT 状態に移行させる RT 移行手段（例えば、主制御回路 90）と、を更に備え、前記報知モード制御手段は、前記第 1 報知モード中の前記有利状態が前記第 3 の条件を満たすことなく終了した場合、当該有利状態の終了後に再開する前記高確率状態においても前記第 1 報知モードを維持可能（例えば、ナビ高確を継続 CZ に持越可能）であり、前記特典付与手段は、前記有利状態中に前記第 1 の図柄組合せが停止表示されることに応じて、遊技者に前記特典を付与し、前記移行決定手段は、前記高確率状態において、前記第 1 報知モード中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合には、前記第 2 報知モード中に前記特定役が内部当籤役として決定された場合よりも高い確率で、前記有利状態に移行すると決定し、前記有利状態モード決定手段は、遊技状態が前記有利状態に移行した最初の遊技において、前記特殊リプレイが内部当籤役として決定されると、前記一の有利状態モードとして前記第 2 の条件を満たす確率が高い有利状態モードを決定する（例えば、ランク決め ART 中の昇格抽籤でランクを大きく昇格させる）、ことを特徴とする遊技機。

【 2 1 3 0 】

10

20

30

40

50

上記構成の本発明の第52～第54の遊技機によれば、遊技の興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することことができる。

【2131】

[第55～第57の遊技機]

A T (ART)機として、A Tに当籤する期待度が高いA Tの高確率当籤ゾーン(以下、「チャンスゾーン」と呼ぶ)を設けた遊技機が知られており、例えば、特開2017-051798号公報には、チャンスゾーンとしてA Tに当籤する期待度が異なる複数のチャンスゾーンを設け、チャンスゾーン中に黒BARが揃うとA T(疑似ボーナス)を付与する遊技機が記載されている。このような遊技機によれば、期待度が異なるチャンスゾーンを設けることで多様な遊技性を実現することができる。

10

【2132】

しかしながら、上述の遊技機では、チャンスゾーンの種別が一度決まると、当該チャンスゾーンが終了するまでチャンスゾーンの種別が変わらないため、チャンスゾーン中の遊技が単調になってしまうおそれがあった。

【2133】

本発明は、上記第26の課題を解決するためになされたものであり、本発明の第26の目的は、特典付与の期待が高い状態中の遊技の興趣の低下を抑制可能な遊技機を提供することである。

【2134】

上記第26の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第55の遊技機を提供する。

20

【2135】

通常状態(例えば、通常状態)と、前記通常状態よりも遊技者に対して特典(例えば、ART状態)を付与すると決定する確率が高い第1高確率状態(例えば、CZ(ART後))と、前記第1高確率状態よりも遊技者に対して特典を付与すると決定する確率が高い第2高確率状態(例えば、特殊CZ)と、を有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール(例えば、リール3L, 3C, 3R)と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段(例えば、リール表示窓4)と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段(例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段(例えば、主制御回路90、ステッピングモータ)と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段(例えば、主制御回路90)と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段(例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80)と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段(例えば、主制御回路90、ステッピングモータ)と、遊技者に対して前記特典を付与するか否かを決定する付与決定手段(例えば、主制御回路90)と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典を付与する特典付与手段(例えば、主制御回路90)と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典の付与を受ける権利を記憶するとともに、前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記権利を一つ消し去る権利管理手段(例えば、主制御回路90、メインRAM103)と、第1の条件を満たすと(例えば、ART状態が終了すると)、前記第1高確率状態に遊技状態を移行し、前記第1高確率状態の残り遊技期間が閾値に達すると、前記第1高確率状態を終了する第1高確率状態制御手段(例えば、主制御回路90)と、第2の条件を満たすと(例えば、ランク決めART中の抽籤に当籤すると)、前記第1高確率状態から前記第2高確率状態に遊技状態を移行し、前記第2高確率状態の残り遊技期間が閾値に達すると、前記第2高確率状態を終了する第2高確率状態制御手段(例えば、主制御回路90)と、前記第2高確率状態制御手段が前記第2

30

40

50

高確率状態に遊技状態を移行させると、移行前の前記第1高確率状態の残り遊技期間を前記第2高確率状態の残り遊技期間としてセットする期間設定手段（例えば、主制御回路90）と、を備え、前記権利管理手段は、前記第2の条件が満たされた際に記憶している前記権利が所定数未満である場合、記憶する前記権利が前記所定数になるように、前記権利の記憶数を加算することを特徴とする遊技機。

【2136】

また、前記期間設定手段は、移行前の前記第1高確率状態の残り遊技期間を前記第2高確率状態の残り遊技期間の残り遊技期間としてセットすると、移行前の前記第1高確率状態の残り遊技期間をクリアすることとしてもよい。

【2137】

上記第26の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第56の遊技機を提供する。

【2138】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態よりも遊技者に対して特典（例えば、ART状態）を付与すると決定する確率が高い第1高確率状態（例えば、CZ（ART後））と、前記第1高確率状態よりも遊技者に対して特典を付与すると決定する確率が高い第2高確率状態（例えば、特殊CZ）と、を有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、遊技者に対して前記特典を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、前記第1高確率状態又は前記第2高確率状態の残り遊技期間を管理する期間管理手段（例えば、主制御回路90）と、第1の条件を満たすと（例えば、ART状態が終了すると）、前記第1高確率状態に遊技状態を移行し、前記第1高確率状態中に前記期間管理手段が管理する前記残り遊技期間が閾値に達すると、前記第1高確率状態を終了する第1高確率状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、第2の条件を満たすと（例えば、ランク決めART中の抽籤に当籤すると）、前記第1高確率状態から前記第2高確率状態に遊技状態を移行し、前記第2高確率状態中に前記期間管理手段が管理する前記残り遊技期間が閾値に達すると、前記第2高確率状態を終了する第2高確率状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記第1高確率状態又は前記第2高確率状態中に前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記期間管理手段が管理する前記遊技期間を所定期間を加算する高確率状態加算手段（例えば、主制御回路90）と、を備えることを特徴とする遊技機。

【2139】

上記第26の課題を解決するために、本発明では、以下のような構成の第57の遊技機を提供する。

【2140】

通常状態（例えば、通常状態）と、前記通常状態よりも遊技者に対して特典（例えば、ART状態）を付与すると決定する確率が高い第1高確率状態（例えば、CZ（ART後））と、前記第1高確率状態よりも遊技者に対して特典を付与すると決定する確率が高い

10

20

30

40

50

第2高確率状態（例えば、特殊CZ）と、を有する遊技機であって、複数の図柄が表示された複数のリール（例えば、リール3L, 3C, 3R）と、前記リールに表示された複数の図柄の一部を表示する図柄表示手段（例えば、リール表示窓4）と、遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、主制御回路90、スタートスイッチ79）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて、前記リールを回転させることにより前記図柄を変動させる図柄変動手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、前記開始操作検出手段による開始操作の検出に応じて複数の役の中から所定の確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記複数のリールに対応して設けられ、各リールを停止させるための停止操作を検出する停止操作検出手段（例えば、主制御回路90、ストップスイッチ基板80）と、前記内部当籤役決定手段により決定された内部当籤役と前記停止操作検出手段により停止操作が検出されたタイミングとに応じて、前記リールの回転を停止させることにより前記図柄表示手段に表示されている図柄の変動を停止させるリール停止制御手段（例えば、主制御回路90、ステッピングモータ）と、遊技者に対して前記特典を付与するか否かを決定する付与決定手段（例えば、主制御回路90）と、前記付与決定手段が前記特典を付与すると決定すると、前記特典を付与する特典付与手段（例えば、主制御回路90）と、第1の条件を満たすと（例えば、ART状態が終了すると）、前記第1高確率状態に遊技状態を移行し、前記第1高確率状態の残り遊技期間が閾値に達すると、前記第1高確率状態を終了する第1高確率状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、第2の条件を満たすと（例えば、ランク決めART中の抽籤に当籤すると）、前記第1高確率状態から前記第2高確率状態に遊技状態を移行し、前記第2高確率状態の残り遊技期間が閾値に達すると、前記第2高確率状態を終了する第2高確率状態制御手段（例えば、主制御回路90）と、前記第2高確率状態制御手段が前記第2高確率状態に遊技状態を移行させると、移行前の前記第1高確率状態の残り遊技期間を前記第2高確率状態の残り遊技期間としてセットする期間設定手段（例えば、主制御回路90）と、前記第1高確率状態中に前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記第1高確率状態の残り遊技期間として所定期間を加算するとともに、前記第2高確率状態中に前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記第2高確率状態の残り遊技期間として前記所定期間を加算する高確率状態加算手段（例えば、主制御回路90）と、を備え、前記特典付与手段は、前記第2高確率状態の残り遊技期間が前記閾値に達すると、前記特典を付与し、前記高確率状態加算手段は、前記第2高確率状態の残り遊技期間が前記閾値に達したことに伴って前記特典付与手段が前記特典を付与すると、前記第1高確率状態の残り遊技期間として所定期間を加算し、前記第1高確率状態制御手段は、前記第2高確率状態の残り遊技期間が前記閾値に達したことに伴って前記特典付与手段が前記特典を付与すると、当該特典の付与が行われた後に、前記第1高確率状態に遊技状態を移行することを特徴とする遊技機。

10

20

30

【2141】

前記期間設定手段は、移行前の前記第1高確率状態の残り遊技期間を前記第2高確率状態の残り遊技期間の残り遊技期間としてセットすると、移行前の前記第1高確率状態の残り遊技期間をクリアすることとしてもよい。

【2142】

上記構成の本発明の第55～第57の遊技機によれば、特典付与の期待が高い状態中の遊技の興趣の低下を抑制することができる。

40

【符号の説明】

【2143】

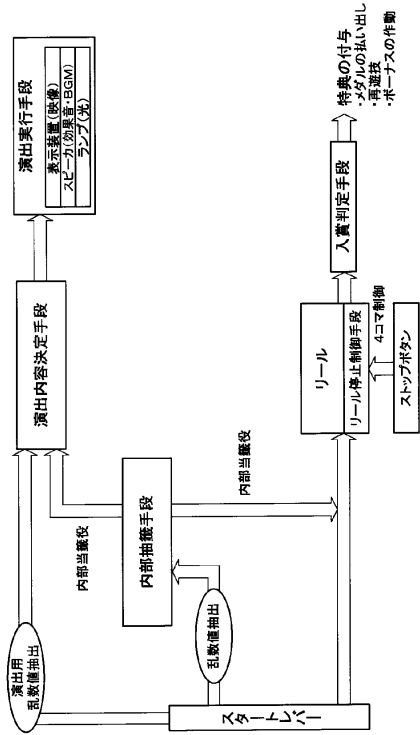
1...パチスロ、3L, 3C, 3R...リール、4...リール表示窓、6...情報表示器、11...表示装置、17L, 17C, 17R...ストップボタン、18...サブ表示装置、71...主制御基板、72...副制御基板、90...主制御回路、91...マイクロプロセッサ、101...メインCPU、102...メインROM、103...メインRAM、107...演算回路、114...第1シリアル通信回路、115...第2シリアル通信回路、200...副制御回路、201...サブCPU 201、301...第1インターフェースボード、302...第2インターフ

50

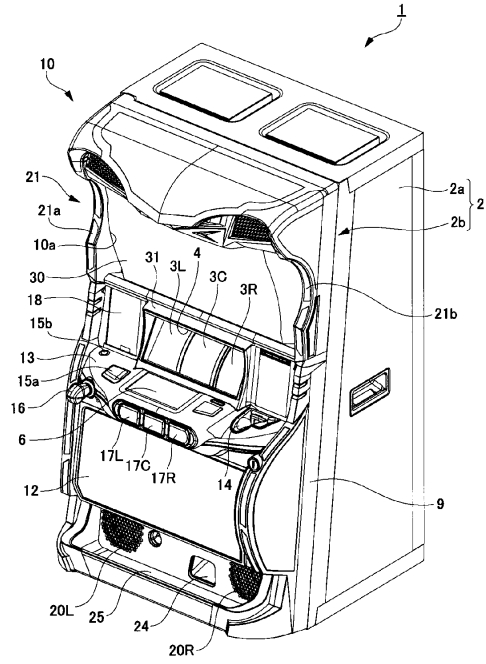
エースボード

【図面】

【図1】



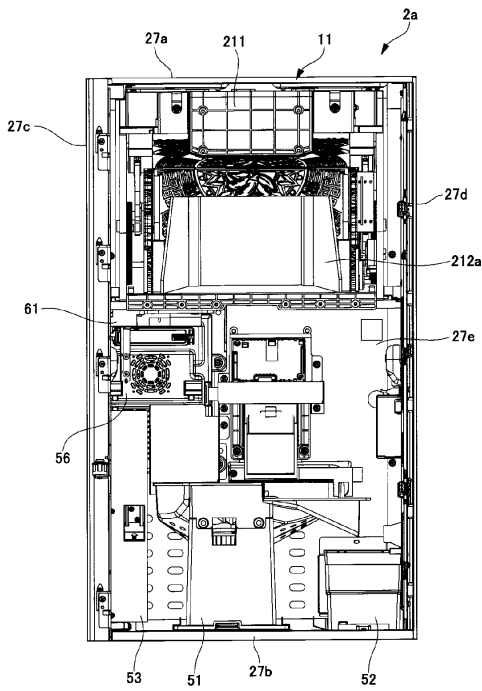
【図2】



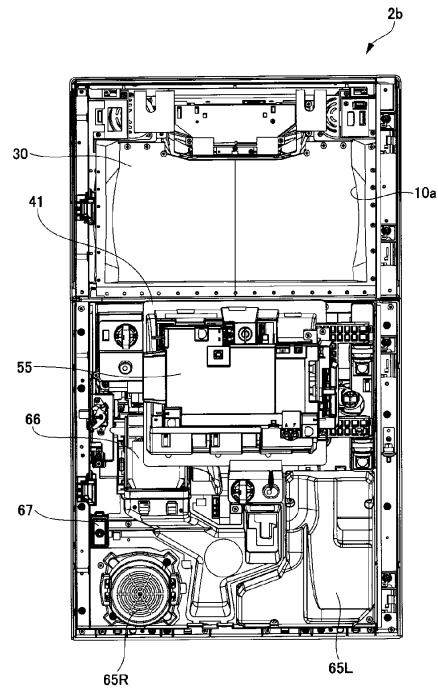
10

20

【図3】



【図4】



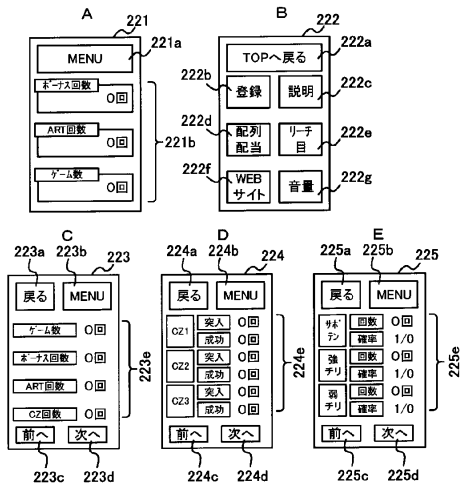
30

40

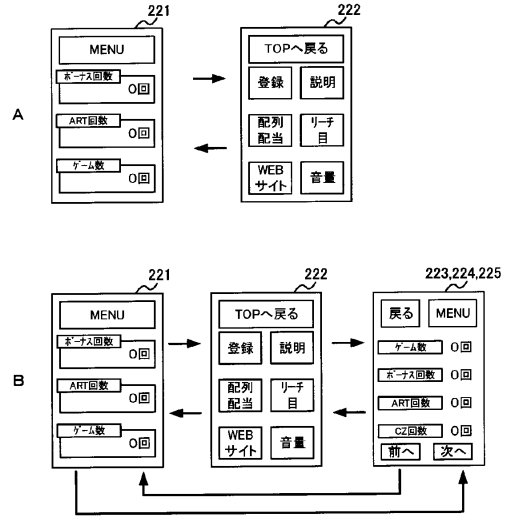
50

【図5】

サブ表示装置の表示画面



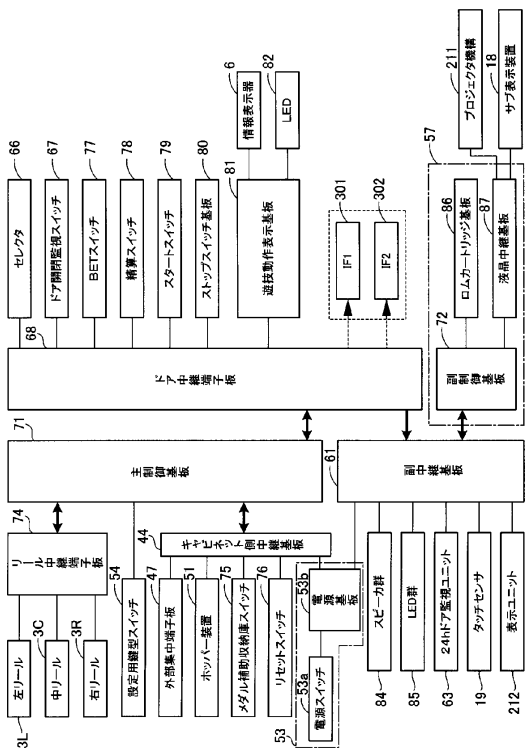
【図6】



10

20

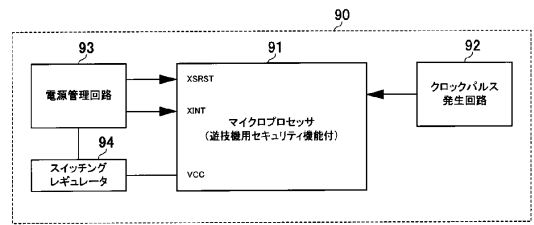
【図7】



30

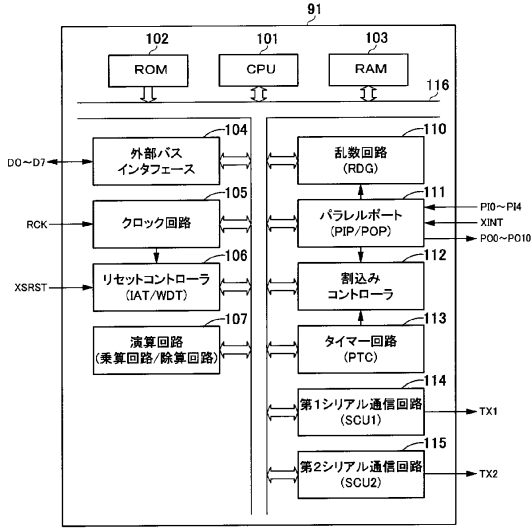
40

【図8】

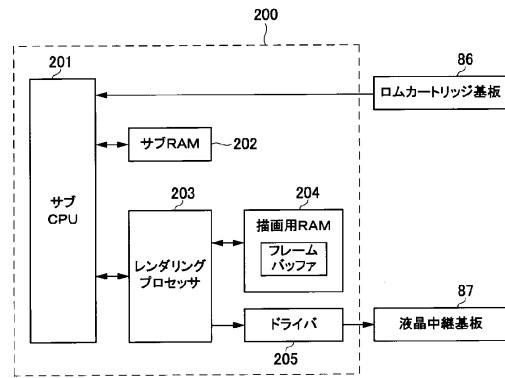


50

【図 9】



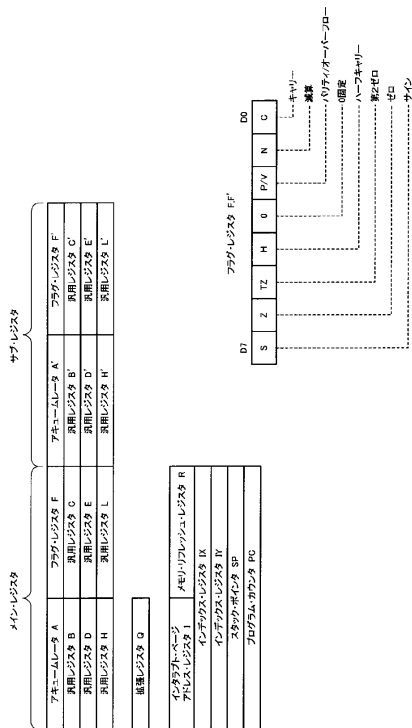
【図 10】



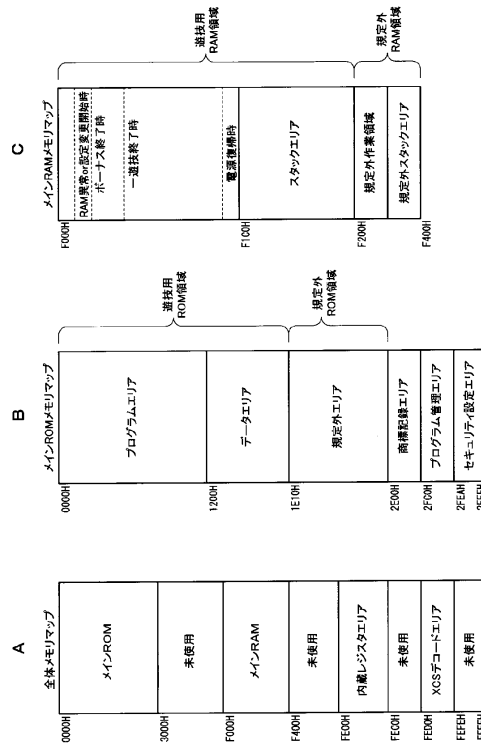
10

20

【図 11】



【図 12】

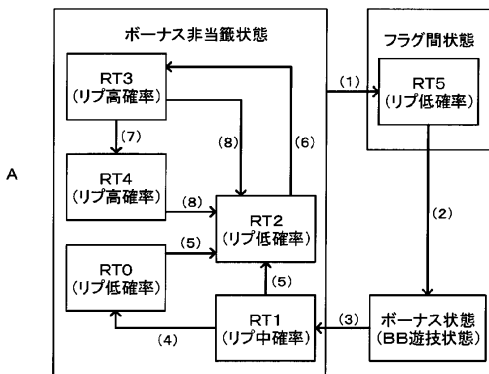


30

40

50

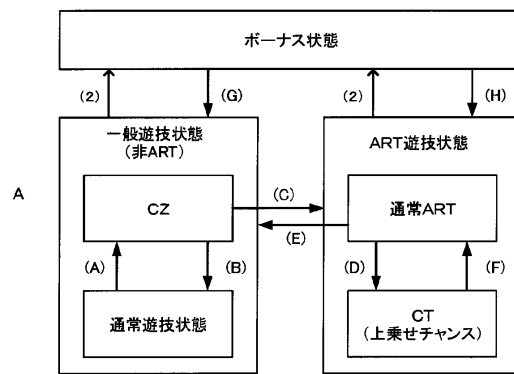
【図13】



B

移行条件	内容
(1)	F.BB1.2に内部当籤
(2)	F.BB1.2入賞(C.BB1.2が表示)
(3)	ボーナス終了(216枚を超える払出)
(4)	20ゲーム経過
(5)	ベルこぼし目表示
(6)	RT3移行リプレイ表示
(7)	RT4移行リプレイ表示
(8)	ベルこぼし目又はRT2移行リプレイ表示

【図14】



B

移行条件	内容
(A)	通常遊技状態中のCZ抽籤に当籤
(B)	CZ中のART抽籤に非当籤
(C)	CZ中のART抽籤に当籤
(D)	通常ART中のCT抽籤に当籤
(E)	通常ART終了
(F)	CT終了
(G)	ボーナス状態中のART抽籤に非当籤
(H)	ボーナス状態中のART抽籤に当籤

10

20

【図15】

図柄配置テーブル

左リール		中リール		右リール	
図柄位置	図柄	図柄位置	図柄	図柄位置	図柄
19	サポテン3	19	サポテン3	19	サポテン1
18	リプレイ	18	リプレイ	18	チリ上2
17	サポテン3	17	帽子	17	青7
16	帽子	16	チリ上1	16	帽子
15	リプレイ	15	チリ下	15	リプレイ
14	チリ上1	14	サポテン3	14	サポテン3
13	チリ下	13	リプレイ	13	チリ上1
12	青7	12	帽子	12	チリ下
11	帽子	11	白7	11	帽子
10	リプレイ	10	リプレイ	10	リプレイ
9	サポテン1	9	チリ上2	9	サポテン3
8	帽子	8	帽子	8	チリ上1
7	サポテン2	7	チリ上1	7	青7
6	帽子	6	リプレイ	6	帽子
5	リプレイ	5	帽子	5	リプレイ
4	サポテン3	4	青7	4	サポテン1
3	白7	3	チリ上1	3	チリ上2
2	白7	2	白7	2	白7
1	帽子	1	リプレイ	1	帽子
0	リプレイ	0	帽子	0	リプレイ

図柄コード表

図柄コード	内容	
	図柄	データ
1	白7	00000001
2	青7	00000010
3	チリ上1	00000011
4	チリ上2	00000100
5	チリ下	00000101
6	リプレイ	00000110
7	帽子	00000111
8	サポテン1	00001000
9	サポテン2	00001001
10	サポテン3	00001010

【図16】

内部抽籤テーブル(設定1)

No.	略称	RT0	RT1	RT2	RT3	RT4
1	はずれ	37779	8549	37849	1789	1299
2	F.BB1	20	20	20	20	20
3	F.BB1+F.リーチ目リガA	5	5	5	5	5
4	F.BB1+F.リーチ目リガB	1	1	1	1	1
5	F.BB1+F.リーチ目リガC	5	5	5	5	5
6	F.BB1+F.リーチ目リガD	1	1	1	1	1
7	F.BB1+F.サポ1	15	15	15	15	15
8	F.BB1+F.サポ2	10	10	10	10	10
9	F.BB1+F.強リ1	5	5	5	5	5
10	F.BB1+F.強リ1	15	15	15	15	15
11	F.BB1+F.強リ2	15	15	15	15	15
12	F.BB1+F.特殊1	5	5	5	5	5
13	F.BB1+F.特殊3	5	5	5	5	5
14	F.BB2	20	20	20	20	20
15	F.BB2+F.リーチ目リガA	5	5	5	5	5
16	F.BB2+F.リーチ目リガB	1	1	1	1	1
17	F.BB2+F.リーチ目リガC	5	5	5	5	5
18	F.BB2+F.リーチ目リガD	1	1	1	1	1
19	F.BB2+F.サポ1	15	15	15	15	15
20	F.BB2+F.サポ2	10	10	10	10	10
21	F.BB2+F.強リ1	5	5	5	5	5
22	F.BB2+F.強リ1	15	15	15	15	15
23	F.BB2+F.強リ2	15	15	15	15	15
24	F.BB2+F.特殊2	5	5	5	5	5
25	F.リガ	0	0	0	0	5500
26	F.強リリガ	0	0	0	0	13400
27	F.1種リガ	0	0	0	0	3300
28	F.リーチ目リガA	0	0	0	0	1200
29	F.リーチ目リガB	0	0	0	0	500
30	F.リーチ目リガC	0	0	0	0	800
31	F.リーチ目リガD	0	0	0	0	500
32	F.維持リガA	8900	37800	1300	0	11800
33	F.維持リガB	0	330	330	0	330
34	F.維持リガ1st	0	0	0	11230	2750
35	F.維持リガ2nd	0	0	0	11230	2750
36	F.維持リガ3rd	0	0	0	11230	2750
37	F.RT3リガ1st	0	0	1800	0	0
38	F.RT3リガ213	0	0	1800	0	0
39	F.RT3リガ231	0	0	1800	0	0
40	F.RT3リガ3rd	0	0	1800	0	0
41	F.RT4リガ123	0	0	0	2800	0
42	F.RT4リガ132	0	0	0	2800	0
43	F.RT4リガ2nd	0	0	0	2800	0
44	F.RT4リガ3rd	0	0	0	2800	0
45	F.3択ヘル1st	5250	5250	5250	5250	5250
46	F.3択ヘル2nd	5250	5250	5250	5250	5250
47	F.3択ヘル3rd	5250	5250	5250	5250	5250
48	F.共通ヘル	1000	1000	1000	1000	1000
49	F.リ本1	610	610	610	610	610
50	F.リ本2	128	128	128	128	128
51	F.強リ	870	870	870	870	870
52	F.強リ1	150	150	150	150	150
53	F.強リ2	150	150	150	150	150

30

40

50

【 図 2 1 】

当業役	図柄組合せ																			
	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
F.BB1																				
F.BB2																				
F.チリフ																				
F.強チリフ																				
F.チリ目フA																				
F.チリ目フB																				
F.チリ目フC																				
F.チリ目フD																				
F.維持フA																				
F.維持フB																				
F.維持フ_1st																				
F.維持フ_2nd																				
F.維持フ_3rd																				
F.RT3フ_1st																				
F.RT3フ_213																				
F.RT3フ_231																				
F.RT3フ_3rd																				
F.RT4フ_123																				
F.RT4フ_132																				
F.RT4フ_2nd																				
F.RT4フ_3rd																				
F.3択へル_1st																				
F.3択へル_2nd																				
F.3択へル_3rd																				
F.共通へル																				
F.サ本1																				
F.サ本2																				
F.強チリ																				
F.強チリ1																				
F.強チリ2																				
F.特殊1																				
F.特殊2																				
F.特殊3																				
F.RB役1																				
F.RB役2																				
F.RB役3																				
F.RB役4																				

【 図 2 2 】

当業役	図柄組合せ																			
	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
F.BB1																				
F.BB2																				
F.チリフ																				
F.強チリフ																				
F.チリ目フA																				
F.チリ目フB																				
F.チリ目フC																				
F.チリ目フD																				
F.維持フA																				
F.維持フB																				
F.維持フ_1st																				
F.維持フ_2nd																				
F.維持フ_3rd																				
F.RT3フ_1st																				
F.RT3フ_213																				
F.RT3フ_231																				
F.RT3フ_3rd																				
F.RT4フ_123																				
F.RT4フ_132																				
F.RT4フ_2nd																				
F.RT4フ_3rd																				
F.3択へル_1st																				
F.3択へル_2nd																				
F.3択へル_3rd																				
F.共通へル																				
F.サ本1																				
F.サ本2																				
F.強チリ																				
F.強チリ1																				
F.強チリ2																				
F.特殊1																				
F.特殊2																				
F.特殊3																				
F.RB役1																				
F.RB役2																				
F.RB役3																				
F.RB役4																				

10

20

【 図 2 3 】

当業役	図柄組合せ									
	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
F.BB1										
F.BB2										
F.チリフ										
F.強チリフ										
F.チリ目フA										
F.チリ目フB										
F.チリ目フC										
F.チリ目フD										
F.維持フA										
F.維持フB										
F.維持フ_1st										
F.維持フ_2nd										
F.維持フ_3rd										
F.RT3フ_1st										
F.RT3フ_213										
F.RT3フ_231										
F.RT3フ_3rd										
F.RT4フ_123										
F.RT4フ_132										
F.RT4フ_2nd										
F.RT4フ_3rd										
F.3択へル_1st										
F.3択へル_2nd										
F.3択へル_3rd										
F.共通へル										
F.サ本1										
F.サ本2										
F.強チリ										
F.強チリ1										
F.強チリ2										
F.特殊1										
F.特殊2										
F.特殊3										
F.RB役1										
F.RB役2										
F.RB役3										
F.RB役4										

【 図 2 4 】

内部当業役と停止図柄組合せ(略称)との対応関係

当業役	停止操作	
	押し順 正解	押し順 不正解
F.チリフ	チリフ(否3連)	リプレイ
F.強チリフ	チリフ(3連)	リプレイ
F.1強チリフ	チリフ(3連)	リプレイ
F.チリ目フA	リーチ目リフ	リプレイ
F.チリ目フB	リーチ目リフ	リプレイ
F.チリ目フC	リーチ目リフ	リプレイ
F.チリ目フD	リーチ目リフ	リプレイ
F.維持フA	リプレイ	
F.維持フB	リプレイ	
F.維持フ_1st	リプレイ	RT2移行リフ
F.維持フ_2nd	リプレイ	RT2移行リフ
F.維持フ_3rd	リプレイ	RT2移行リフ
F.RT3フ_1st	RT3移行リフ	リプレイ
F.RT3フ_213	RT3移行リフ	リプレイ
F.RT3フ_231	RT3移行リフ	リプレイ
F.RT3フ_3rd	RT3移行リフ	リプレイ
F.RT4フ_123	RT4移行リフ	リプレイ
F.RT4フ_132	RT4移行リフ	リプレイ
F.RT4フ_2nd	RT4移行リフ	リプレイ
F.RT4フ_3rd	RT4移行リフ	リプレイ
F.3択へル_1st	ベル	ベルこぼし目 or 1枚出目
F.3択へル_2nd	ベル	ベルこぼし目 or 1枚出目
F.3択へル_3rd	ベル	ベルこぼし目 or 1枚出目
F.共通へル	ベル	
F.サ本1	サボテン	
F.サ本2	サボテン	
F.強チリ	強チリ	
F.強チリ1	強チリ	
F.強チリ2	強チリ	

30

40

50

【 図 2 5 】

内部当籤役と停止図柄組合せとの対応関係

Table with 4 columns: 当籤役, BB(C,BB1)の成立可否, 当籤役, BB(C,BB2)の成立可否. Rows list various combinations like F.BB1+F.リゾ目A, F.BB1+F.リゾ目B, etc.

【 図 2 6 】

リール停止初期設定テーブル

Table with 6 columns: 内部当籤役(小役当籤番号), 引込優先順位テーブル選択テーブル, 引込優先順位テーブル番号, 停止テーブル番号, 遊技状態, 備考. Rows 0-36 show settings for different game states.

【 図 2 7 】

Large table with multiple columns and rows, likely a detailed mapping or configuration table for game components.

【 図 2 8 】

Table with columns: 当り要求格納領域, データ, コンビネーション(左-中-右), 名称, 格納領域, 内容(略称). Rows 0-99 list various combinations and their corresponding names.

10

20

30

40

50

【図33】

作動ストップボタン格納領域

データ	内容
ビット7	0 未使用
ビット6	0 or 1 右ストップボタン操作有効
ビット5	0 or 1 中ストップボタン操作有効
ビット4	0 or 1 左ストップボタン操作有効
ビット3	0 未使用
ビット2	0 or 1 右ストップボタン操作
ビット1	0 or 1 中ストップボタン操作
ビット0	0 or 1 左ストップボタン操作

※ビット0～2は、「0」で操作なし「1」で操作あり
 ※ビット4～6は、「0」で無効「1」で有効

【図34】

押下順序格納領域

データ	内容
ビット7	0 未使用
ビット6	0 未使用
ビット5	0 or 1 右→中→左
ビット4	0 or 1 右→左→中
ビット3	0 or 1 中→右→左
ビット2	0 or 1 中→左→右
ビット1	0 or 1 左→右→中
ビット0	0 or 1 左→中→右

※ビット0～5は、「0」で無効「1」で有効

【図35】

図柄コード格納領域

格納領域種別	データ	内容
図柄コード格納領域 11	ビット7	0 or 1 R.RT移行目A.01 R.RT移行目A.02 R.RT移行目A.03 R.RT移行目A.04 R.RT移行目B.01 R.RT移行目B.02
	ビット6	0 or 1
	ビット5	0 未使用
	ビット4	0 未使用
	ビット3	0 未使用
	ビット2	0 未使用
	ビット1	0 未使用
	ビット0	0 未使用
図柄コード格納領域 0	ビット7	0 or 1 C.弱2枚A.01 0 or 1 C.弱2枚B.01 0 or 1 C.弱2枚B.02 0 or 1 C.弱2枚B.03
	ビット6	0 or 1 C.強2枚A.01 0 or 1 C.強2枚A.02 0 or 1 C.強2枚A.03 0 or 1 C.強2枚B.01 0 or 1 C.強2枚B.02 0 or 1 C.強2枚C.01 0 or 1 C.強2枚C.02 0 or 1 C.強2枚C.03 0 or 1 C.強2枚C.04 0 or 1 C.強2枚C.05 0 or 1 C.強2枚C.06 0 or 1 C.強2枚C.07 0 or 1 C.強2枚C.08 0 or 1 C.強2枚C.09
	ビット5	0 or 1
	ビット4	0 or 1
	ビット3	0 or 1
	ビット2	0 未使用
	ビット1	0 未使用
	ビット0	0 未使用

【図36】

内部当籤役とサブフラグとの対応表(その1)

内部当籤役 (小役当籤番号)	サブフラグ (フラグデータ)	サブフラグEX (フラグデータ)	サブフラグD (フラグデータ)
はずれ(00)	ハズレ(00)	ハズレ(00)	ハズレ(00)
F.チリリブ(01)	2連チリリブ(01)	リプレイ(01)	
F.確チリリブ(02)	3連チリリブA(02)	リプレイ(01), 確定役(06)	ハズレ(00), 確定役(04), 3連チリリブ(05)
F.1確チリリブ(03)	3連チリリブB(03)		
F.リーチ目リブA(04)	リーチ目リブ1(04)	リプレイ(01), 確定役(06), リーチ目リブ(08)	ハズレ(00), 確定役(04), リーチ目リブ(06)
F.リーチ目リブB(05)	リーチ目リブ2(05)		
F.リーチ目リブC(06)	リーチ目リブ3(06)		
F.リーチ目リブD(07)	リーチ目リブ4(07)		
F.維持リブA(08)	リプレイ(08)		
F.維持リブB(09)			
F.維持リブ_1st(10)			
F.維持リブ_2nd(11)	押し順リブ1(09)		
F.維持リブ_3rd(12)			
F.RT3リブ_1st(13)		リプレイ(01)	
F.RT3リブ_213(14)	押し順リブ2(10)		
F.RT3リブ_231(15)			
F.RT3リブ_3rd(16)			
F.RT4リブ_123(17)			ハズレ(00)
F.RT4リブ_132(18)			
F.RT4リブ_2nd(19)	押し順リブ3(11)		
F.RT4リブ_3rd(20)			
F.3択ベル_1st(21)			
F.3択ベル_2nd(22)	押し順ベル(12)	ベル(02)	
F.3択ベル_3rd(23)			
F.共通ベル(24)	共通ベル(13)		
F.サボ1(25)			
F.サボ2(26)	サボテン(14)	サボテン(03)	サボテン(01)
F.弱チリ(27)	弱チェリー(15)	弱チェリー(04)	弱チェリー(02)
F.強チリ1(28)	強チェリー(16)	強チェリー(05)	強チェリー(03)
F.強チリ2(29)			
F.特殊1(30)	リーチ目1(17)		
F.特殊2(31)		ハズレ(00)	ハズレ(00)
F.特殊3(32)	リーチ目2(18)		

10

20

30

40

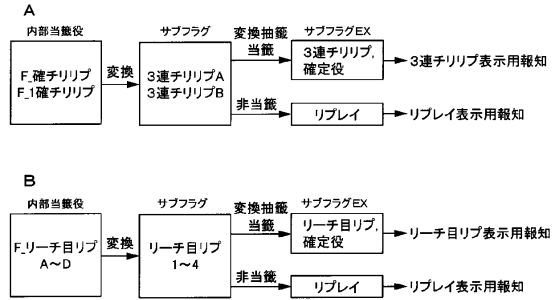
50

【 図 3 7 】

内部当籤役とサブフラグとの対応表(その2)

内部当籤役 (特賞当籤番号)	サブフラグ
F.BB1(01)	BB
F.BB2(02)	

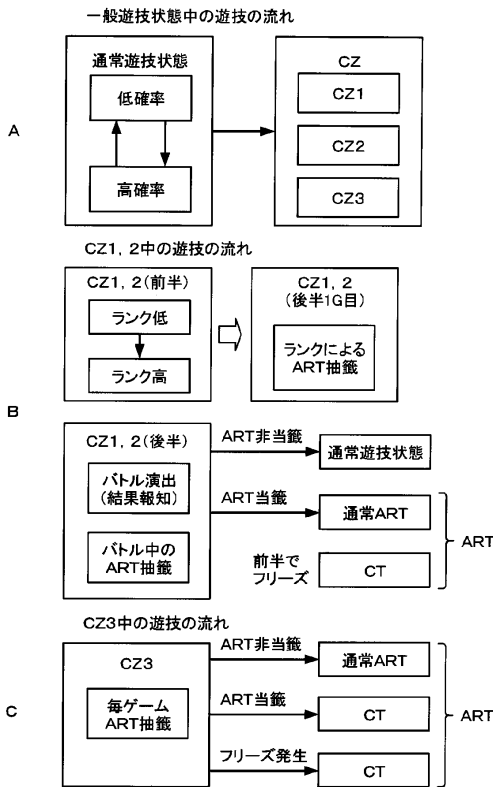
【 図 3 8 】



※ 変換抽籤はRT4中のみ行う

10

【 図 3 9 】



【 図 4 0 】

通常中高確率抽籤テーブル(毎ゲーム参照)

現在の状態	移行後の状態	当籤役				
		共通ベル	サポテン	弱チェリー	強チェリー	それ以外
低確率中	低確率	極高	極高	高	極高	確定
	高確率	極低	低	中	低	0
高確率中	低確率	0	0	0	0	低
	高確率	確定	確定	確定	確定	極高

通常中高確率抽籤テーブル(状況によって参照)

移行後の状態	状況		
	設定変更時	ボーナス終了時	CZ, ART終了時
低確率	極高	0	極高
高確率	低	確定	低

確率分母256
※ 0<極々低<極低<低<中<高<極高<極々高<確定(=100%)

20

30

40

50

【 図 4 1 】

CZ抽籤テーブル(初当たり用)

現在の状態	内容	当籤役			
		サブポテン	弱チェリー	強チェリー	BB
A 低確率中	非当籤	極高	確定	高	高
	CZ1当籤	極低	0	低	低
	CZ2当籤	極低	0	極低	極低
B 高確率中	非当籤	高	極高	中	中
	CZ1当籤	中	0	中	中
	CZ2当籤	低	0	低	低
	CZ3当籤	極低	極低	極低	極低

CZ抽籤テーブル(引き戻し用)

状況	内容	抽籤値
B CZ失敗時 ART終了時	非当籤	極高
	CZ1当籤	低
	CZ2当籤	極低
	CZ3当籤	0

※ 確率分母256

【 図 4 2 】

CZ1中モードアップ抽籤テーブル

現在のモード	内容	当籤役			
		リプレイ	共通ベル	弱チェリー サブポテン	強チェリー
モード1 モード2	非当籤	極高	0	0	0
	モード1UP	低	確定	極高	0
	モード2UP	0	0	極低	0
	モード3UP	0	0	極低	極高
	モード4UP	0	0	0	0
	モード5UP	0	0	0	0
	モード6UP	0	0	極低	低
	モード6UPフリーズ発生	0	0	0	0
モード3	非当籤	極高	0	0	0
	モード1UP	低	確定	極高	0
	モード2UP	0	0	極低	0
	モード3UP	0	0	極低	極高
	モード4UP	0	0	0	0
	モード5UP	0	0	0	0
	モード6UP	0	0	極低	低
	モード6UPフリーズ発生	0	0	0	0
モード4	非当籤	極高	0	0	0
	モード1UP	低	確定	極高	0
	モード2UP	0	0	極低	0
	モード3UP	0	0	極低	極高
	モード4UP	0	0	0	0
	モード5UP	0	0	0	0
	モード6UP	0	0	極低	低
	モード6UPフリーズ発生	0	0	0	0
モード5 モード6	非当籤	極高	0	0	0
	モード1UP	低	確定	極高	0
	モード2UP	0	0	極低	0
	モード3UP	0	0	極低	極高
	モード4UP	0	0	0	0
	モード5UP	0	0	0	0
	モード6UP	0	0	極低	低
	モード6UPフリーズ発生	0	0	0	0
CZ2開始 2G以内	非当籤	極高	0	0	0
	モード1UP	低	確定	極高	0
	モード2UP	0	0	低	0
	モード3UP	0	0	0	0
	モード4UP	0	0	0	0
	モード5UP	0	0	0	0
	モード6UP	0	0	0	0
	モード6UPフリーズ発生	0	0	0	確定

※ 確率分母256

10

20

【 図 4 3 】

CZ2中ポイント抽籤テーブル

現在のポイント	内容	当籤役			
		リプレイ	共通ベル	弱チェリー サブポテン	強チェリー
ポイント 0~9	非当籤	0	0	0	0
	ポイント1UP	極高	中	高	0
	ポイント2UP	0	中	高	0
	ポイント3UP	極低	極低	低	0
	ポイント4UP	極低	極低	極低	高
	ポイント5UP	極低	極低	極低	中
	ポイント10UP	0	0	極低	0
	ポイント10UPフリーズ発生	0	0	0	0
CZ2開始 2G以内	非当籤	0	0	0	0
	ポイント1UP	極高	中	高	0
	ポイント2UP	0	中	高	0
	ポイント3UP	極低	極低	低	0
	ポイント4UP	極低	極低	極低	0
	ポイント5UP	0	0	0	0
	ポイント10UP	0	0	0	0
	ポイント10UPフリーズ発生	0	0	0	確定

※ 確率分母256

30

40

【 図 4 4 】

CZ中ART抽籤テーブル(GZ1用)		現在のモード											
内容	モード1	モード2	モード3	モード4	モード5	モード6	モード1	モード2	モード3	モード4	モード5	モード6	モード10
非当籤	極高	極高	極高	極高	中	0	極高	極高	極高	極高	極高	極高	0
ART当籤	極低	極低	極低	極低	中	確定	極低	極低	極低	極低	極低	極低	確定

CZ中ART抽籤テーブル(GZ2用)		現在のモード											
内容	モード1	モード2	モード3	モード4	モード5	モード6	モード1	モード2	モード3	モード4	モード5	モード6	モード10
非当籤	0	極高	極高	極高	極高	極高	極高	極高	極高	極高	極高	極高	0
ART当籤	確定	極低	極低	極低	極低	極低	極低	極低	極低	極低	極低	極低	確定

CZ中ART抽籤テーブル(GZ1, 2共通 後半ハハル中用)		当籤役		
内容	弱チェリー サブポテン	強チェリー	BB	中
非当籤	0	中	中	中
ART当籤	極低	極低	極低	極低

※ 確率分母256

50

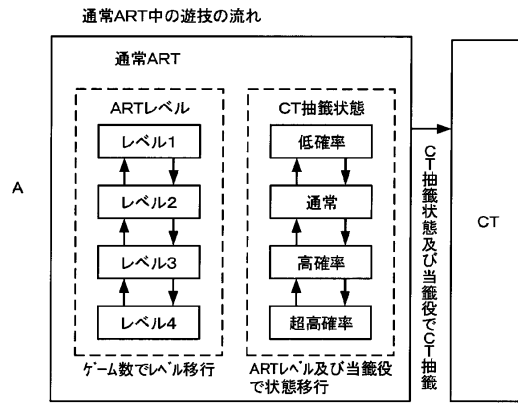
【図 4 5】

CZ中ART抽籤テーブル(CZ3用)

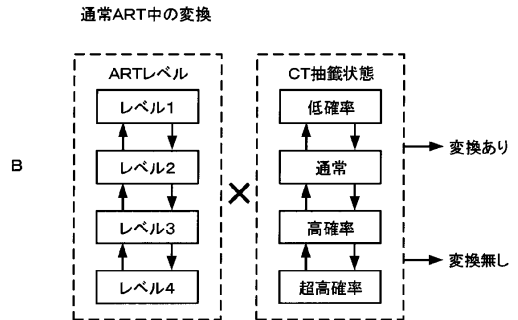
状態	内容	当籤役				
		リプレイ	共通ベル	弱チャエリー サポテン	強チャエリー	それ以外
CZ3開始 2G以内	非当籤	極高	確定	中	0	確定
	ART当籤+通常CT	0	0	0	0	0
	ART当籤+高確CT	0	0	0	0	0
	フリーズ+通常CT	低	0	中	確定	0
CZ3開始 3G~17 G	非当籤	極高	極高	中	0	極高
	ART当籤+通常CT	極低	低	中	中	極低
	ART当籤+高確CT	0	0	0	0	0
	フリーズ+通常CT	極低	0	極低	中	0
	フリーズ+高確CT	0	0	0	0	0

※ 確率分母256

【図 4 6】



10



20

【図 4 7】

ART中フラグ変換抽籤テーブル(第1段階用)

内容	当籤役	
	F. 確リプレイ or F. 1 確リプレイ	種々高
変換無し	種々高	
変換あり(仮)	種々低	

※ 確率分母256

ART中フラグ変換抽籤テーブル(第2段階用(第1段階で変換あり(仮)に当籤))

ARTレベル	CT抽籤状態	内容	当籤役	
			F. 確リプレイ or F. 1 確リプレイ	F. リーチ目リプレイA~D
初回 (一度CTに当籤 するまで)	低確率	変換無し	0	極高
		変換有り	確定	低
	通常	変換無し	0	極高
		変換有り	確定	低
高確率	変換無し	0	0	
	変換有り	確定	確定	
ARTレベル1	低確率	変換無し	種々高	種々高
		変換有り	種々低	種々低
	通常	変換無し	種々高	種々高
		変換有り	種々低	種々低
高確率	変換無し	種々高	高	
	変換有り	種々低	中	
超確率	変換無し	種々高	0	
	変換有り	種々低	確定	
ARTレベル 2~4	低確率	変換無し	種々高	種々高
		変換有り	低	種々低
	通常	変換無し	種々高	種々高
		変換有り	低	種々低
高確率	変換無し	0	高	
	変換有り	確定	中	
超確率	変換無し	0	0	
	変換有り	確定	確定	

※ 確率分母256

【図 4 8】

ARTレベル決定テーブル(ART当籤時用)

ARTレベル	抽籤値
ARTレベル1	低
ARTレベル2	高
ARTレベル3	極低
ARTレベル4	極高

※ ART当籤時にフリーズ発生している場合は、ARTレベル2が決定
※ 確率分母256

ARTレベル決定テーブル(通常ART中用)

経過ゲーム数	移行先のARTレベル	現在のARTレベル		
		ARTレベル1	ARTレベル2	ARTレベル3
50ゲーム経過	ARTレベル1	確定	0	0
	ARTレベル2	0	確定	0
	ARTレベル3	0	0	確定
100ゲーム経過	ARTレベル1	確定	低	0
	ARTレベル2	0	高	0
	ARTレベル3	0	0	確定
200ゲーム経過	ARTレベル1	確定	極高	0
	ARTレベル2	0	低	0
	ARTレベル3	0	0	確定
300ゲーム経過	ARTレベル1	確定	種々高	中
	ARTレベル2	0	種々低	中
	ARTレベル3	0	0	中
500ゲーム経過	ARTレベル1	確定	種々高	0
	ARTレベル2	0	種々低	種々高
	ARTレベル3	0	0	低
1000ゲーム経過	ARTレベル1	確定	種々高	種々高
	ARTレベル2	0	種々低	種々高
	ARTレベル3	0	0	種々低
CT突入時 (0~100ゲーム)	ARTレベル1	中	低	0
	ARTレベル2	中	高	0
	ARTレベル3	0	0	確定
CT突入時 (101~500ゲーム)	ARTレベル1	種々高	中	0
	ARTレベル2	種々低	中	0
	ARTレベル3	0	0	確定
CT突入時 (501ゲーム以上)	ARTレベル1	種々高	種々高	0
	ARTレベル2	種々低	種々低	中
	ARTレベル3	0	0	中

※ 確率分母256

30

40

50

【図 4 9】

通常ART中高確率抽籤テーブル

現在の状態	移行後の状態	当籤役					
		押し順ベル共通ベル	サボテン	弱チェリー	強チェリー	3連チリリブリー目リブ	それ以外
低確率 (ARTレベル1)	低確率	極高	中	中	極高	極高	確定
	通常	極低	中	中	0	0	0
	高確率	0	極低	極低	低	0	0
	超高確率	0	0	0	0	極低	0
低確率 (ARTレベル2~4)	低確率	極高	中	中	極高	極高	確定
	通常	極低	中	中	0	0	0
	高確率	0	極低	極低	低	0	0
	超高確率	0	0	0	0	極低	0
通常 (ARTレベル1)	低確率	0	0	0	0	極高	中
	通常	極高	中	中	高	0	中
	高確率	0	中	中	中	0	0
	超高確率	0	0	0	極低	極低	0
通常 (ARTレベル2~4)	低確率	0	0	0	0	極高	低
	通常	極高	中	中	高	0	高
	高確率	低	中	中	中	0	0
	超高確率	0	0	0	極低	極低	0
高確率	低確率	0	0	0	0	極高	中
	通常	0	0	0	0	0	0
	高確率	確定	極高	極高	極高	0	中
	超高確率	0	極低	極低	極低	極低	0
超高確率	低確率	0	0	0	0	0	0
	通常	0	0	0	0	0	0
	高確率	0	0	0	0	低	0
	超高確率	確定	確定	確定	高	確定	確定

※ 確率分母256

【図 5 0】

ART中CT抽籤テーブル

現在の状態	内容	当籤役					
		サボテン	弱チェリー	強チェリー	3連チリリブリー目リブ	BB	それ以外
低確率	非当籤	極高	極高	極高	0	確定	極々高
	通常CT	極低	極低	極低	確定	0	0
	高確率CT	0	0	0	0	0	極々低
通常	非当籤	極高	極高	極高	0	確定	極々高
	通常CT	極低	極低	低	確定	0	0
	高確率CT	0	0	0	0	0	極々低
高確率	非当籤	極高	極高	中	0	確定	極々高
	通常CT	低	極低	中	確定	0	極々低
	高確率CT	0	0	0	0	0	極々低
超高確率	非当籤	極高	極高	0	0	確定	極高
	通常CT	低	極低	確定	確定	0	極低
	高確率CT	0	0	0	0	0	極々低

※ サボテン、弱チェリー、強チェリー、3連チリリブ、リーチ目リブ、BBは、確率分母256
 それ以外は、確率分母65536
 ※ BBは内部当籤時にはCTの抽籤を行わず(必ず非当籤)、ボーナス状態終了時に抽籤する。
 ※ 確率分母256

10

20

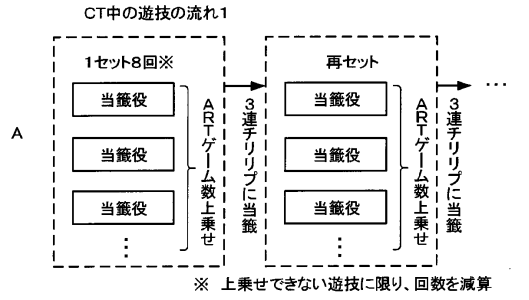
【図 5 1】

通常ART中上乗せ抽籤テーブル

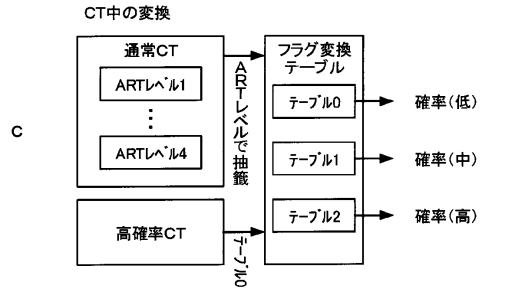
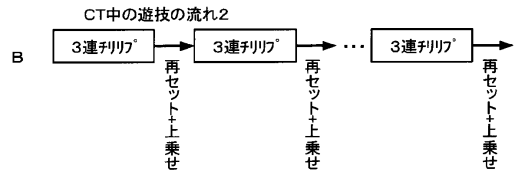
内容	当籤役		
	サボテン	弱チェリー	強チェリー
非当籤	極高	極々高	0
上乗せ 10G	0	0	中
上乗せ 20G	0	0	中
上乗せ 30G	低	0	低
上乗せ 50G	極低	0	極低
上乗せ 100G	極低	極々低	極低
上乗せ 300G	極々低	極々低	極々低

※ 確率分母65536

【図 5 2】



30



40

50

【 図 5 3 】

CT中テーブル抽籤テーブル

内容	状態				高確率CT
	ARTレベル1 (通常CT)	ARTレベル2 (通常CT)	ARTレベル3,4 (通常CT)	初回CT	
テーブル0	極高	高	高	高	確定
テーブル1	極低	低	低	低	0
テーブル2	極々低	極々低	極々低	極々低	0

※ 確率分母256

【 図 5 4 】

CT中フラグ変換抽籤テーブル

フラグ 変換テーブル	内容	当籤役	
		F. 確チリブ or F. 1確チリブ	F. リーチ目リブA~D
テーブル0	変換無し	0	高
	変換有り	確定	低
テーブル1	変換無し	0	低
	変換有り	確定	高
テーブル2	変換無し	0	0
	変換有り	確定	確定

※ 確率分母256

10

【 図 5 5 】

CT中上乗せ抽籤テーブル

状態	内容	当籤役			
		サボテン	弱チエリー	強チエリー	3連チリブ
通常CT	非当籤	0	0	0	0
	上乗せ 10G	極高	極高	0	極高 ※1
	上乗せ 20G	極低	極低	0	極低 ※2
	上乗せ 30G	0	0	極高	0
	上乗せ 50G	極々低	極々低	極々低	極々低
	上乗せ 100G	極々低	極々低	極々低	極々低
	上乗せ 300G	極々低	極々低	極々低	極々低
高確率CT	非当籤	0	0	0	0
	上乗せ 10G	0	0	0	0
	上乗せ 20G	0	0	0	0
	上乗せ 30G	0	0	0	0
	上乗せ 50G	極高	極高	高	極高
	上乗せ 100G	極低	極低	低	極低
	上乗せ 300G	極々低	極々低	極々低	極々低

※ 同一のCT中に3連チリブが当籤した回数に応じて、上乗せゲーム数が変わる。
 1~8回: ※1は10ゲーム、※2は20ゲーム
 9~16回: ※1, 2ともに20ゲーム
 17~24回: ※1, 2ともに30ゲーム
 25回以上: ※1, 2ともに50ゲーム
 ※ 確率分母65536
 ※ その他の役については非当籤

【 図 5 6 】

CT中セット数上乗せ抽籤テーブル

状態	内容	当籤役
		リーチ目リブ
通常CT	非当籤	0
	通常CT当籤	極々高
	高確率CT当籤	極々低
高確率CT	非当籤	0
	通常CT当籤	0
	高確率CT当籤	確定

※ 確率分母256

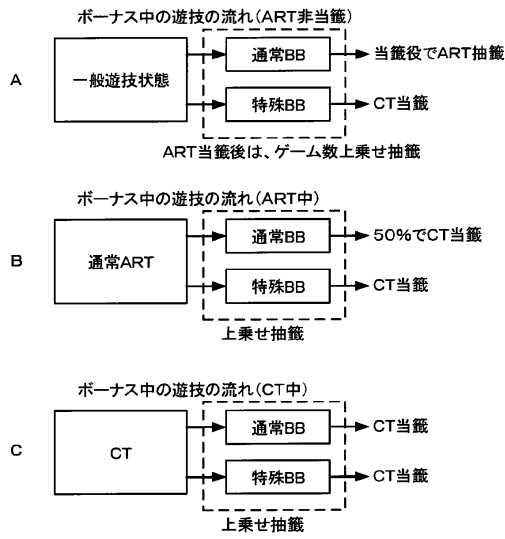
20

30

40

50

【図 57】



【図 58】

ボーナス種別抽籤テーブル

状態	内容	抽籤値
CT中	通常BB	極々高
	特殊BB	極々低
それ以外	通常BB	極々高
	特殊BB	極々低

※ 確率分母256

10

20

【図 59】

ボーナス中ARTゲーム数上乘せ抽籤テーブル

ボーナス種別	内容	当籤役		
		F.RB役1,2	F.RB役3	F.RB役4
通常BB	非当籤	0	確定	確定
	5G	0	0	0
	10G	0	0	0
	20G	0	0	0
	30G	0	0	0
	50G	極高	極高	0
	100G	極低	極低	0
300G	極々低	極々低	0	
特殊BB	非当籤	0	0	0
	5G	0	高	0
	10G	0	極高	低
	20G	0	極低	極低
	30G	0	極低	極低
	50G	0	0	極々低
	100G	極高	0	極々低
300G	低	0	極々低	

※ 確率分母256

【図 60】

内容	ボーナス種別など			高確率CT当籤	※ 確率分母256
	通常BB (一般遊技状態)	特殊BB (一般CT通常ART)	通常CT中 (通常or特殊BB)		
非当籤	確定	0	0	0	確定
通常CT当籤	0	0	50%	0	0
高確率CT当籤	0	0	50%	50%	0

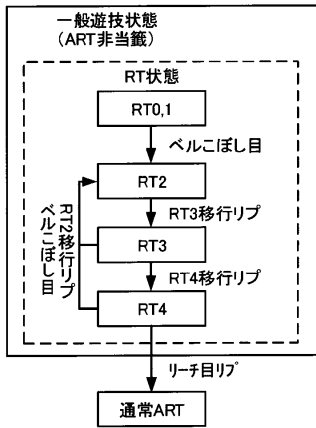
30

40

50

【 図 6 1 】

一般遊技状態中の遊技の流れ(その他)



【 図 6 2 】

非ART中フラグ変換抽籤テーブル

内容	当籤役
	F.リーチ目リブA~D
変換無し	極高
変換あり	極低

※ 確率分母256

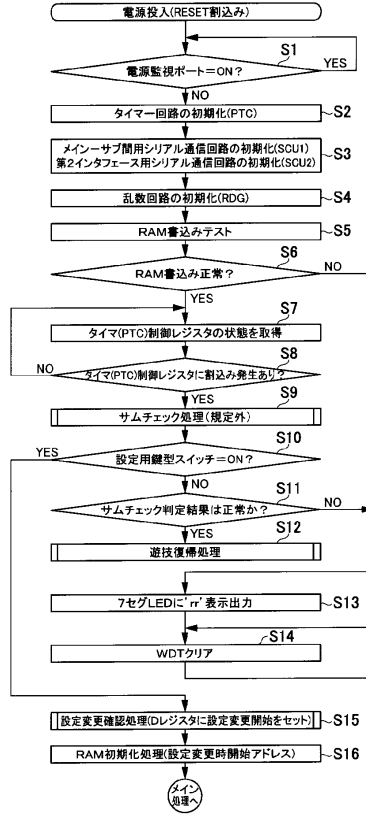
10

【 図 6 3 】

ナビ子-タの対応関係

内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ART通常中	左	中	右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	白7
ART中(通常ART+CT)	左	中	右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	白7
ART中(BB1フラグ)	左	中	右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	白7
ART中(BB2フラグ)	左	中	右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	左-中-右	白7

【 図 6 4 】



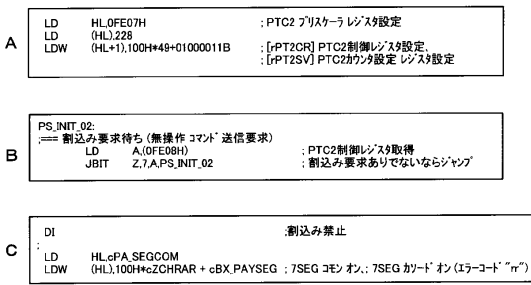
20

30

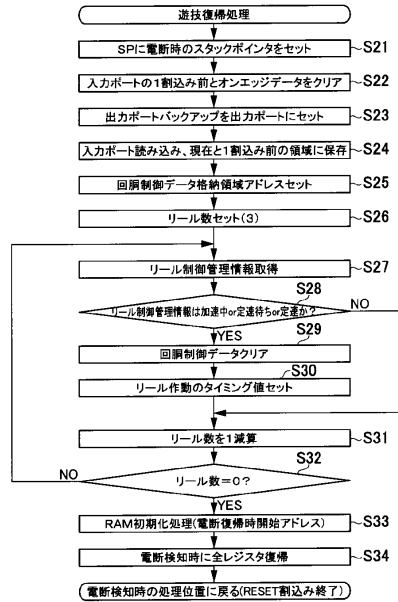
40

50

【図 6 5】



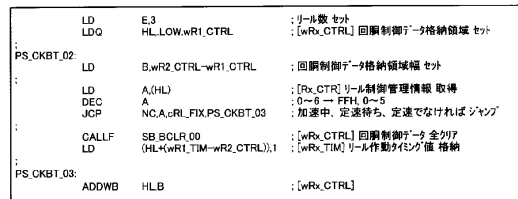
【図 6 6】



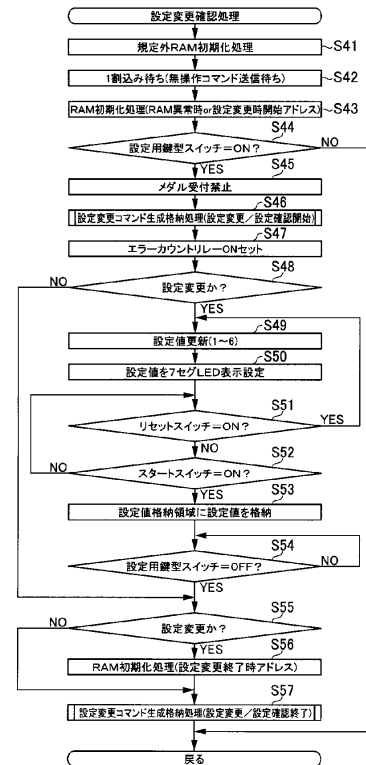
10

20

【図 6 7】



【図 6 8】



30

40

50

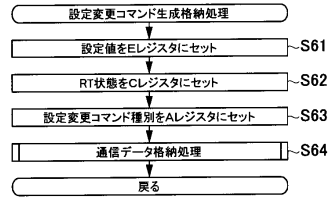
【 図 69 】

```

SB_WVSC_00:
  BITQ 7,(LOW.wBUF+4) ; キースイチオンか?
  RET 2 ; 違うならリターン
:
SB_WVSC_10:
  CALLF SB_MOFF_00 ; 9%受信禁止処理
:
;== エラーカウンtrルー出力要求
  SETO 1,(LOW.wECRREQ) ; エラーカウンtrルー要求セット
:
;== 初期化コマンド送信(設定変更又は設定確認)
  LD L005H ; ハラマー91セット(設定確認、キーオン)
  CALLF SB_PCINIT_00 ; 初期化コマンド送信処理
:
;== 設定確認終了コマンド送信
  LD L004H ; ハラマー91セット(設定確認終了、キーオフ)
  CALLF SB_PCINIT_00 ; 初期化コマンド送信処理
  RET

```

【 図 70 】



10

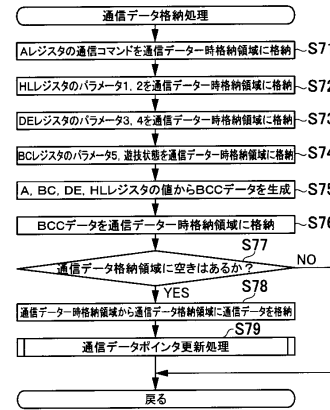
【 図 71 】

```

SB_PCINIT_00:
  CALLF SB_WVCK_00 ; 設定値チェック処理
  LD EA ; パラメータ93セット(設定値)
  LDG C,(LOW.wRTGMSTS) ; ハラマー95セット(RT遊技状態)
  LD A02H ; 初期化コマンドセット
  RST SB_OUTP_00 ; 通信データ格納処理

```

【 図 72 】



20

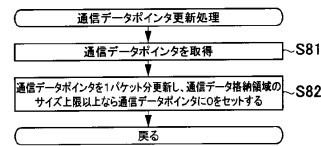
【 図 73 】

```

SB_OUTP_00:
  DI ; レジスタ遊選
  PUSH GPR ; 遊技状態フラグ取得
  LDQ B,(LOW.wGAMEST) ; 遊技状態フラグ取得
  LDQ (LOW.wPDT_TMP+0)A ; 通信コマンド格納
  LDQ (LOW.wPDT_TMP+1)HL ; ハラマー91, 2格納
  LDQ (LOW.wPDT_TMP+3)DE ; ハラマー93, 4格納
  LDQ (LOW.wPDT_TMP+5)BC ; ハラマー95, 遊技状態フラグ格納
:
  ADD AH ; BCCデータ生成
  ADD AL
  ADD AD
  ADD AE
  ADD AC
  ADD AB
  LDQ (LOW.wPDT_TMP+7)A ; BCCデータ格納

```

【 図 74 】

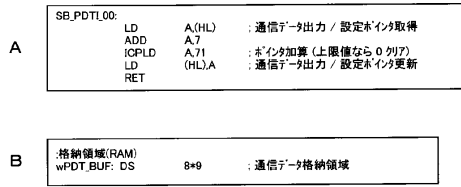


30

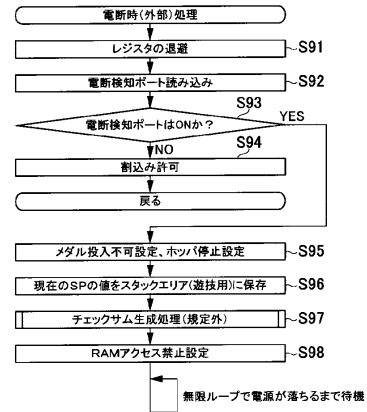
40

50

【 図 7 5 】



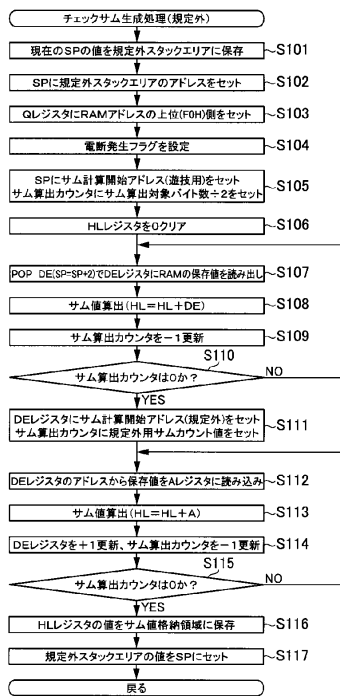
【 図 7 6 】



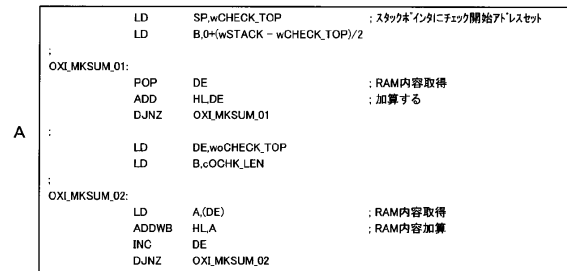
10

20

【 図 7 7 】

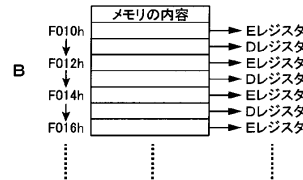


【 図 7 8 】



30

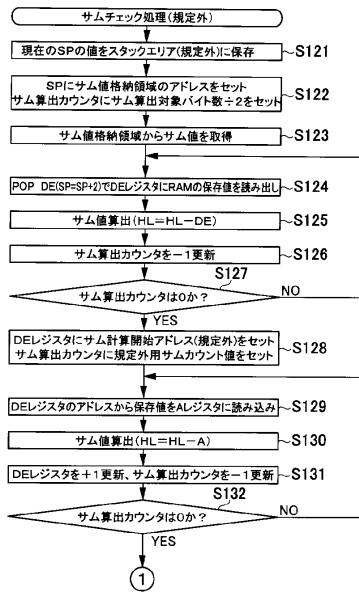
POP DE命令実行時のスタックポインタ及びRAM間のデータの流れ



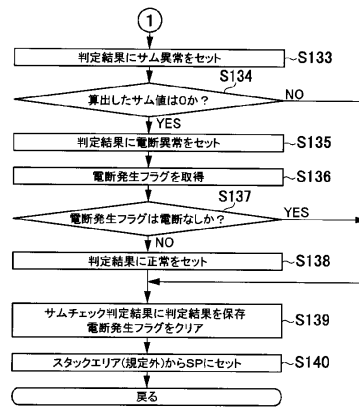
40

50

【 図 7 9 】



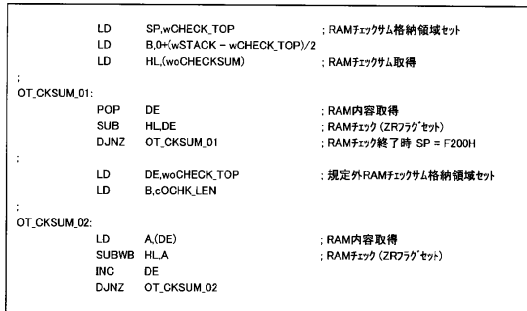
【 図 8 0 】



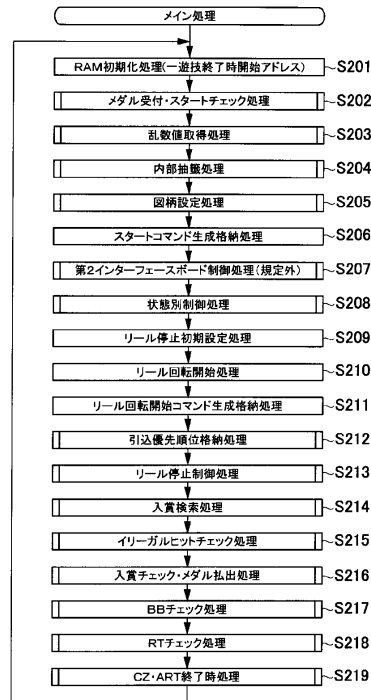
10

20

【 図 8 1 】



【 図 8 2 】

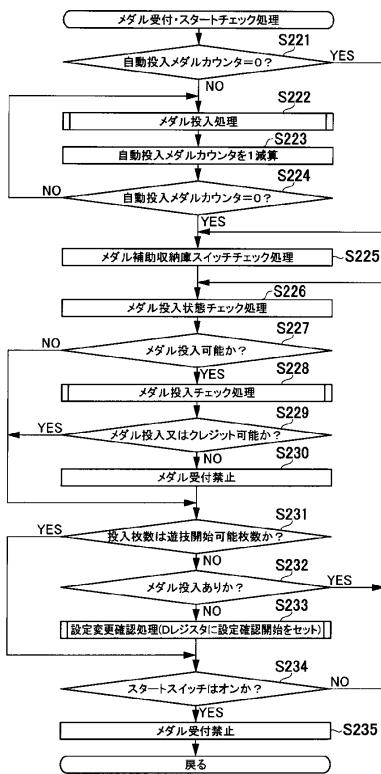


30

40

50

【 図 8 3 】



【 図 8 4 】

```

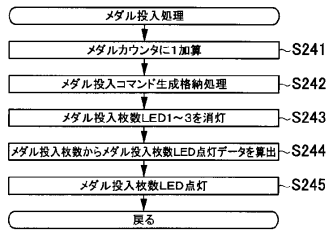
CALLF SB_MDCK_00 ;メダル投入枚数チェック処理
JR     NC,MN_GMST_08 ;遊技可能確定数ならジャンプ
JR     NZ,MN_GMST_03 ;メダルが投入されているならジャンプ
LD     D,cBX_INT_WCK |cBX_INT_KEY ;設定確認入りフラグセット
CALLF SB_WVSC_00 ;設定変更確認処理

```

10

20

【 図 8 5 】



【 図 8 6 】

```

;メダル投入処理
_GMSB_MDIN_00 INQO (wMEDLCTR) ;メダルカウンタ加算更新
;
;== 投入枚数 (1~3) コマンド 送信
;
CALLF SB_PCMDIN_00 ;遊技メダル投入コマンド送信処理
;
;== メダル投入枚数 LED 点灯
;
CALLF SB_MDLLCF_00 ;メダル投入枚数LED消灯処理
;
LD     AL ;メダル投入枚数セット
ADD   AA @0 1:010, 2:100, 3:110
DEC   A @0 1:001, 2:011, 3:101
OR    L @0 1:001, 2:011, 3:111 ;メダル投入枚数LED点灯データセット
LD     BA ;メダル投入枚数LED点灯データセット
RST   C,cI0SET+ePR_MDLLCF*2
RST   SB_OUTX_00 ;メダル投入枚数LED点灯
RET

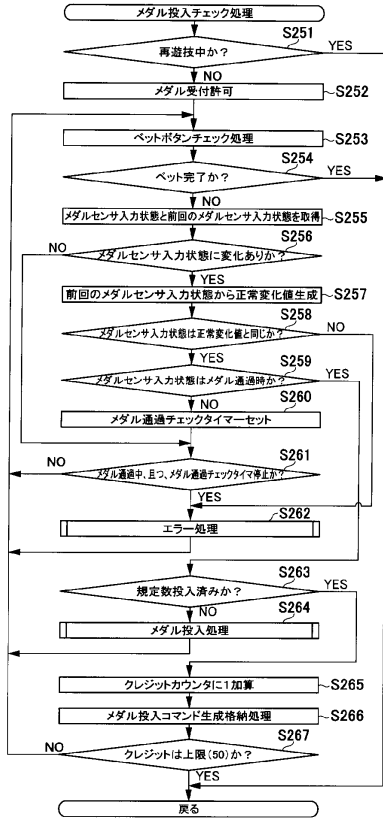
```

30

40

50

【 図 8 7 】



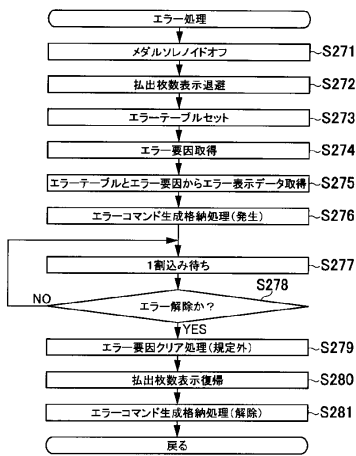
【 図 8 8 】

_GMST_MDIC_01:			
LD	E_cERR_CR	: 投入メダル逆行エラーコードセット (cERR_CR)	
LDQ	HL_wMINLVST	: メダル受付状態ステータス格納領域セット	
LDQ	A_wIBUF+cI_NOW+cPL_MDINSW	: 投入メダル入力情報取得	
AND	cBX_MDINSW	: 投入メダル状態抽出	
CP	(HL)	: 前回と同じ状態か?	
JR	Z_GMST_MDIC_02	: そうならシフト	
:== 状態変化時のチェック			
LD	B,(HL)	: メダル受付状態ステータス取得	
LD	(HL),A	: 新しい状態格納	
:			
LD	A,B	: 古い状態セーブ	
CP	cBX_MDINSW2	: 正常変化値生成	
HLA	AND	cBX_MDINSW	: @@ 1: 00B → 01B
			: @@ 2: 01B → 11B
			: @@ 3: 11B → 10B
			: @@ 4: 10B → 00B
CP	(HL)	: 正常な変化の仕方か?	
JR	NZ_GMST_MDIC_03	: 違うならシフト	

10

20

【 図 8 9 】



【 図 9 0 】

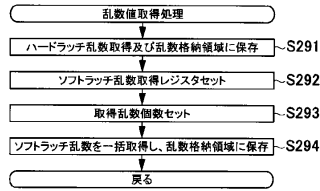
dERRTB	EQU	\$: 本ソフトチェックなし
dERR.HE	DB	00000000B	: 本ソフトチェックなし
DB	00110111B,01001111B	: ホットエンブレムエラー "HE"	
dERR.HJ	DB	01000000B	: ホットカウントスイッチ
DB	00110111B,00111000B	: ホットジムエラー "HJ"	
dERR.CC	DB	00100000B	: メダル通過チェックスイッチ2
DB	01001110B,01001110B	: 投入メダル通過カウントエラー "CC"	
dERR.CJ	DB	00000100B	: メダル通過チェックスイッチ1
DB	01001110B,00111000B	: 投入メダル通過チェックエラー "CJ"	
dERR.CE	DB	00000011B	: 投入メダル1, 2
DB	01001110B,01001111B	: 投入メダル通過時間エラー "CE"	
dERR.CR	DB	00000011B	: 投入メダル逆行エラー "Cr"
DB	01001110B,00001001B	: 投入メダル逆行エラー "Cr"	
dERR.CO	DB	10000000B	: 補助収納庫スイッチ
DB	01001110B,00011101B	: 遊技メダル補助収納庫満杯エラー "Co"	
dERR.EE	DB	00000000B	: 本ソフトチェックなし
DB	01001111B,01001111B	: イレガリティエラー "EE"	

30

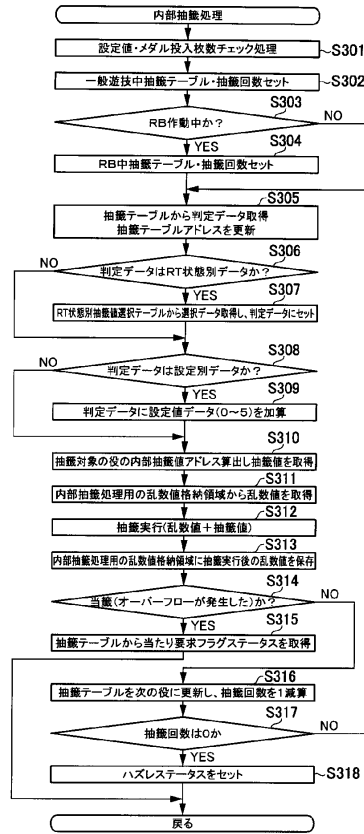
40

50

【図 9 1】



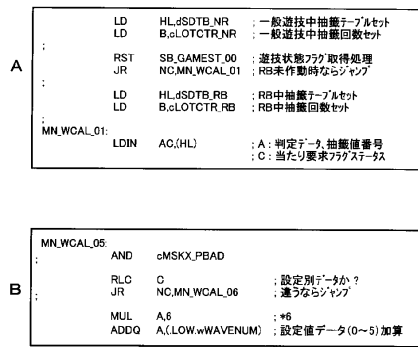
【図 9 2】



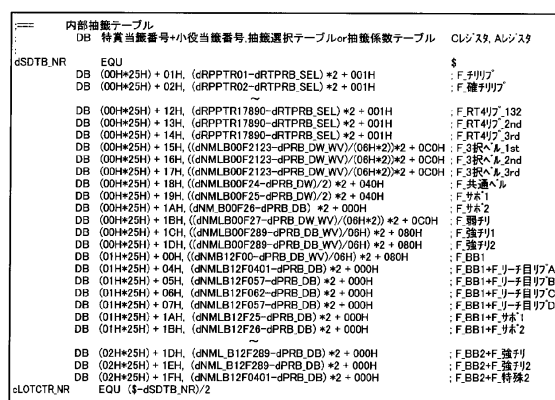
10

20

【図 9 3】



【図 9 4】



30

40

50

【図 9 5】

```

==== RT状態別抽籤値選択テーブル
dRTPRE_SEL EQU $
;
dRPPTR01: ; F.リリブ
DB 00010000B
DB ((dRT4B00F01-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT4 作動中
;
dRPPTR02: ; F.維持リブ
DB 00010000B
DB ((dRT4B00F02-dPRB_DW_WV)/(06H*2))*2 +0C0H ; RT4 作動中
;
dRPPTR03: ; F.1確りリブ
DB 00010000B
DB ((dRT4B00F03-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT4 作動中
;
;
dRPPTR08: ; F.維持リブA
DB 00110111B
DB ((dRT0B00F06-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT未作動時
DB ((dRT1B00F06-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT1 作動中
DB ((dRT2B00F06-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT2 作動中
DB ((dRT4B00F08-dPRB_DW_WV)/(06H*2))*2 +0C0H ; RT4 作動中
DB ((dRT5B00F08-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT5 作動中
;
;
dRPPTR09: ; F.維持リブB
DB 00010110B
DB ((dRT124B00F09-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT1 作動中
DB ((dRT124B00F08-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT2 作動中
DB ((dRT124B00F09-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT4 作動中
;
dRPPTR1012: ; F.維持リブ1st.F.維持リブ2nd.F.維持リブ3rd
DB 00111000B
DB ((dRT3B00F1012-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT3 作動中
DB ((dRT4B00F1012-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT4 作動中
DB ((dRT5B00F1012-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT5 作動中
;
;
dRPPTR17890: ; F.RT4リブ123.F.RT4リブ132.F.RT4リブ2nd.F.RT4リブ3rd
DB 00001000B
DB ((dRT3B00F17890-dPRB_DW)/2)*2 +040H ; RT3 作動中

```

【図 9 6】

```

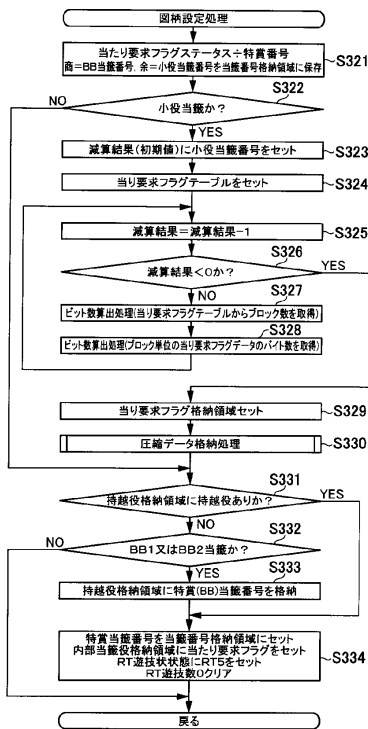
==== 内部抽籤値テーブル 選択テーブル
dPRB_SEL DB dPRB_DB - dPRB_SEL ; [0] 1バイト内部抽籤値テーブル
DB dPRB_DW - dPRB_SEL ; [1] 2バイト内部抽籤値テーブル
DB dPRB_DB_WV - dPRB_SEL ; [2] 1バイト設定別内部抽籤値テーブル
DB dPRB_DW_WV - dPRB_SEL ; [3] 2バイト設定別内部抽籤値テーブル
;
==== 内部抽籤値テーブル
;==== 1バイト 内部抽籤値テーブル
dPRB_DB:
dNMLB12F0401: DB 5 ; F.BB1+F.リブ目リブA.F.BB2+F.リブ目リブA.F.BB1+F.特殊1.F.BB2+F.特殊2
;
dNMLB00F28: DB 128 ; F.リブ2
dNMLB00F34: DB 100 ; F.リブ役2
;
;==== 2バイト 内部抽籤値テーブル
dPRB_DW:
dRT0B00F08: DW 8900 ; [RT0] F.維持リブA
dRT1B00F08: DW 37800 ; [RT1] F.維持リブA
dRT124B00F08: DW 330 ; [RT1,RT2,RT4] F.維持リブB
;
;==== [RT2]
dRT2B00F08: DW 1300 ; F.維持リブA
dRT2B00F13456: DW 1800 ; F.RT3リブ1st.F.RT3リブ213.F.RT3リブ231.F.RT3リブ3rd
;
;==== [RT5]
dRT5B00F1012: DW 1640 ; F.維持リブ1st.F.維持リブ2nd.F.維持リブ3rd
dRT5B00F13456: DW 410 ; F.RT3リブ1st.F.RT3リブ213.F.RT3リブ231.F.RT3リブ3rd
dRT5B00F04: DW 4100 ; F.リブ目リブA
dRT5B00F05: DW 1650 ; F.リブ目リブB
;
dNMLB00F33: DW 300 ; F.RB役1
dNMLB00F35: DW 7300 ; F.RB役3
dNMLB00F36: DW 57836 ; F.RB役4
;
;==== 1バイト 設定別内部抽籤値テーブル
dPRB_DB_WV:
dNMLB00F289: DB 150,150,150,150,160,170 ; F.強リ1.F.強リ2
dNMLB1F00: DB 20,21,22,23,24,26 ; F.BB1.F.BB2
dNMLB12F27: DB 5,7,9,11,13,15 ; F.BB1+F.弱リ.F.BB2+F.弱リ
;
;==== 2バイト 設定別内部抽籤値テーブル
dPRB_DW_WV:
dRT4B00F02: DW 13400,11000,13400,11000,13400,11000 ; [RT4] F.維持リブ
dRT4B00F08: DW 11800,14100,11680,13870,11530,13720 ; [RT4] F.維持リブA
dNMLB00F2123: DW 5250,5260,5230,5260,5190,5210 ; F.3択へリ1st.F.3択へリ2nd.F.3択へリ3rd
dNMLB00F27: DW 970,900,930,960,990,1020 ; F.弱リ

```

10

20

【図 9 7】



【図 9 8】

当籤番号一覧(定義)			
特賞番号(ボーナス番号)			
cNHT_BB01	EQU	01	@@ 01_F_BB1
cNHT_BB02	EQU	02	@@ 02_F_BB2
小役当籤番号			
cNHT_FC01	EQU	01	@@ 01_F_リリブ
cNHT_FC02	EQU	02	@@ 02_F_維持リブ
cNHT_FC03	EQU	03	@@ 03_F_1確りリブ
cNHT_FC04	EQU	04	@@ 04_F_リブ目リブ A
cNHT_FC05	EQU	05	@@ 05_F_リブ目リブ B
cNHT_FC06	EQU	06	@@ 06_F_リブ目リブ C
cNHT_FC07	EQU	07	@@ 07_F_リブ目リブ D
cNHT_FC08	EQU	08	@@ 08_F_維持リブ A
cNHT_FC09	EQU	09	@@ 09_F_維持リブ B
cNHT_FC10	EQU	10	@@ 10_F_維持リブ_1st
cNHT_FC11	EQU	11	@@ 11_F_維持リブ_2nd
cNHT_FC12	EQU	12	@@ 12_F_維持リブ_3rd
cNHT_FC13	EQU	13	@@ 13_F_RT3リブ_1st
cNHT_FC14	EQU	14	@@ 14_F_RT3リブ_213
cNHT_FC15	EQU	15	@@ 15_F_RT3リブ_231
cNHT_FC16	EQU	16	@@ 16_F_RT3リブ_3rd
cNHT_FC17	EQU	17	@@ 17_F_RT4リブ_123
cNHT_FC18	EQU	18	@@ 18_F_RT4リブ_132
cNHT_FC19	EQU	19	@@ 19_F_RT4リブ_2nd
cNHT_FC20	EQU	20	@@ 20_F_RT4リブ_3rd
cNHT_FC21	EQU	21	@@ 21_F_3択へリ_1st
cNHT_FC22	EQU	22	@@ 22_F_3択へリ_2nd
cNHT_FC23	EQU	23	@@ 23_F_3択へリ_3rd
cNHT_FC24	EQU	24	@@ 24_F_共通へリ
cNHT_FC25	EQU	25	@@ 25_F_リブA
cNHT_FC26	EQU	26	@@ 26_F_リブB
cNHT_FC27	EQU	27	@@ 27_F_弱リ
cNHT_FC28	EQU	28	@@ 28_F_強リ1
cNHT_FC29	EQU	29	@@ 29_F_強リ2
cNHT_FC30	EQU	30	@@ 30_F_特殊1
cNHT_FC31	EQU	31	@@ 31_F_特殊2
cNHT_FC32	EQU	32	@@ 32_F_特殊3
cNHT_FC33	EQU	33	@@ 33_F_RB役1
cNHT_FC34	EQU	34	@@ 34_F_RB役2
cNHT_FC35	EQU	35	@@ 35_F_RB役3
cNHT_FC36	EQU	36	@@ 36_F_RB役4

30

40

50

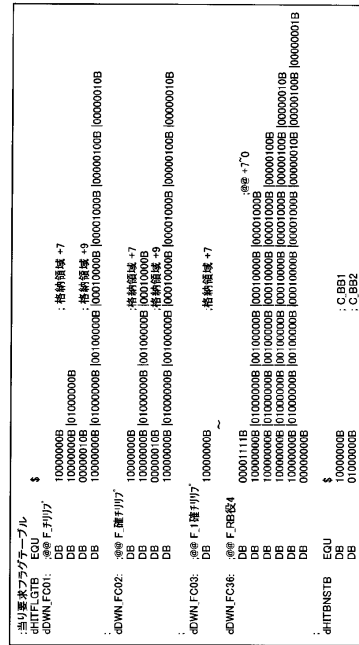
【 9 9 】

```

== 小役当り要求 フラグテーブル 検索処理
LD HL,dHTFLGTB ; 小役当り要求フラグテーブル セット
MN,FGST_03;
DEC D
JR Z,MN,FGST_05
CALLF SB,BTNM_00 ; ビット数算出処理
CALLF SB,BTNM_00 ; ビット数算出処理
JR MN,FGST_03
== 小役当り要求 フラグテーブル 展開処理
MN,FGST_05;
LDG DE,LOW,wWAVEBIT ; 当り要求フラグ格納領域 セット
CALLF SB,BTEP_00 ; 圧縮テーブル格納処理

```

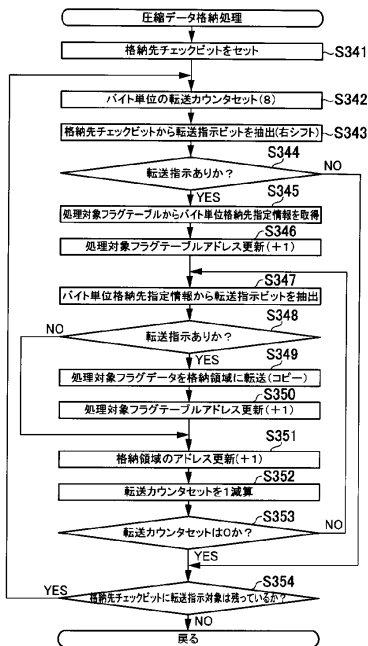
【 1 0 0 】



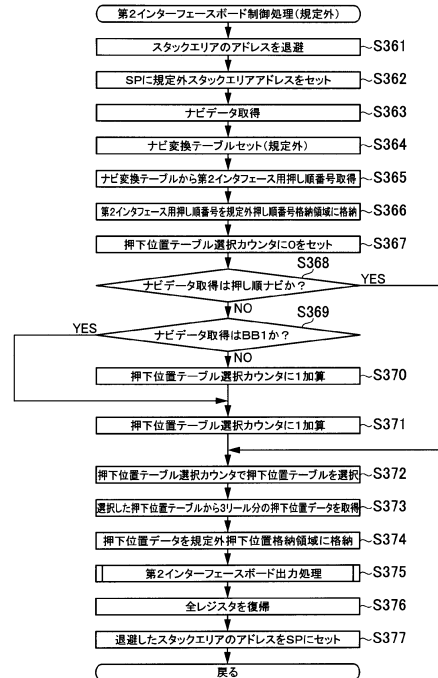
10

20

【 1 0 1 】



【 1 0 2 】

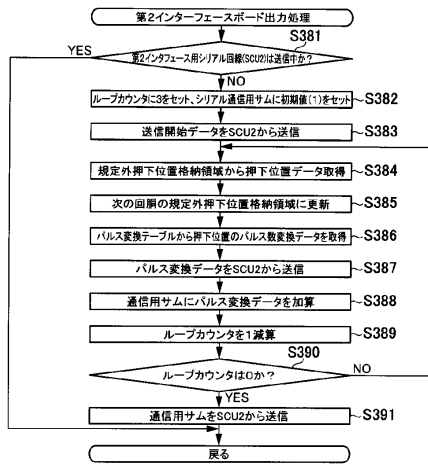


30

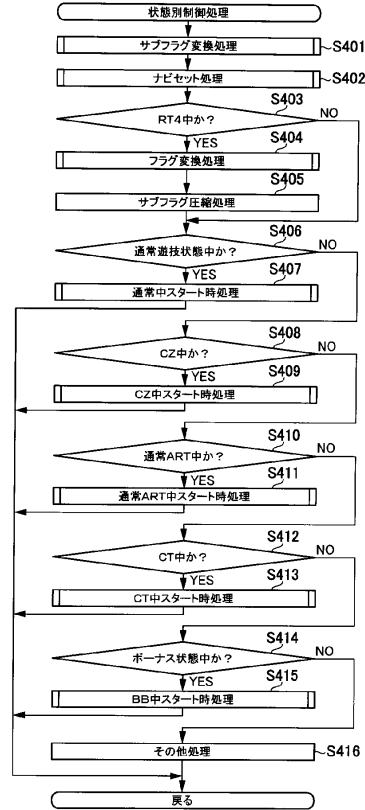
40

50

【図103】



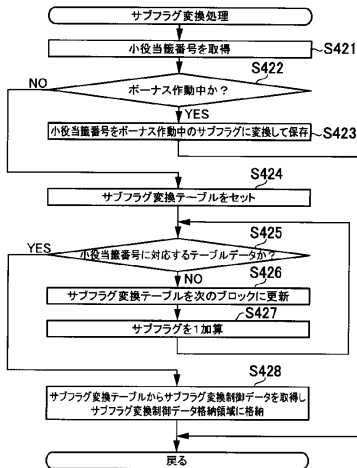
【図104】



10

20

【図105】



【図106】

```

EF.SFCV.00 サブフラグ変換処理
EF.SFCV.00:
RST SB_GAMEST_00      ; 遊技状態フラグ取得処理
LDQ  A(wHITFRIT)      ; 小役番号取得
LDQ  DE.wSUBFLG       ; サブフラグ格納領域
JR   NC.EF.SFCV_01    ; 特賞作動中でないならジャンプ
SUB  cNHT_RBST-c7HT1_FLG ; (RB中フラグ判定番号(33) - 7番い1(19)=サブフラグ(14)
LD   (DE)A            ; サブフラグ格納
JR   EF.SFCV_04

EF.SFCV_01:
LD   HL.dSBCVTB       ; サブフラグ変換テーブルセット
EF.SFCV_02:
CP   (HL)              ; 対応フラグか?
INC  HL                ;
JR   C.EF.SFCV_03     ; そうならジャンプ
INC  HL                ;
INC  (DE)              ; [wSUBFLG] サブフラグ+1
JR   EF.SFCV_02

EF.SFCV_03:
LDQ  (wSFCONDA),(HL)  ; サブフラグ制御データ格納
EF.SFCV_04:
RET
  
```

30

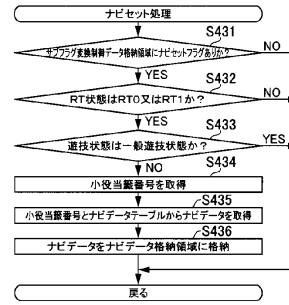
40

50

【 107 】

サブフラグ変換テーブル			
dSBCVTB	EQU	\$	
DB	00+1	00010000B	:00:ハズレ
DB	01+1	00000000B	:01:2連チリフ
DB	02+1	00000011B	:02:3連チリフA
DB	03+1	00000010B	:03:3連チリフB
DB	04+1	00000001B	:04:1子目リフ1
DB	05+1	00000000B	:05:1子目リフ2
DB	06+1	00000001B	:06:1子目リフ3
DB	07+1	00000000B	:07:1子目リフ4
DB	08+1	00000000B	:08:グレイ
DB	12+1	01000000B	:09:押し順リフ1
DB	16+1	01000000B	:10:押し順リフ2
DB	20+1	01000000B	:11:押し順リフ3
DB	23+1	01000100B	:12:押し順ヘル
DB	24+1	00000000B	:13:共通ヘル
DB	26+1	00000000B	:14:サボテン
DB	27+1	00000000B	:15:弱チリフ
DB	29+1	00000000B	:16:強チリフ
DB	31+1	00011000B	:17:1子目1
DB	32+1	00011000B	:18:1子目2

【 108 】



10

【 109 】

LDQ	A,(WHITRT)	:小役番号格納領域(0 ~ 36)
LD	HL,dNAVIPTNB-10	:ナビデータテーブル(小役番号10 ~ 23)
RST	SB,ADRA_00	
LDQ	(wNAVIPTNB),A	:ナビセット

【 110 】

dNAVIPTNB	EQU	\$	
DB	7		:10:F 維持リフ_1st
DB	8		:11:F 維持リフ_2nd
DB	9		:12:F 維持リフ_3rd
DB	1		:13:F RT3リフ_1st
DB	3		:14:F RT3リフ_213
DB	4		:15:F RT3リフ_231
DB	6		:16:F RT3リフ_3rd
DB	1		:17:F RT4リフ_123
DB	2		:18:F RT4リフ_132
DB	3		:19:F RT4リフ_2nd
DB	6		:20:F RT4リフ_3rd
DB	7		:21:F 3択ヘル_1st
DB	8		:22:F 3択ヘル_2nd
DB	9		:23:F 3択ヘル_3rd

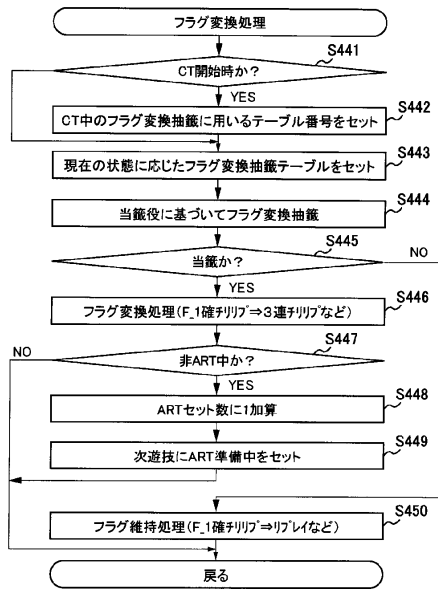
20

30

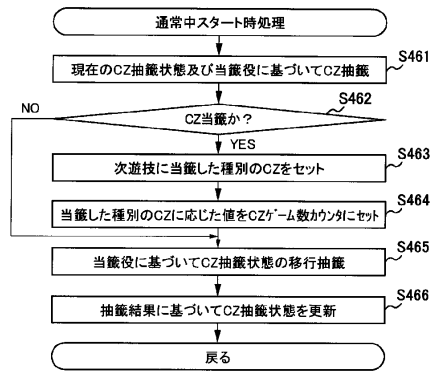
40

50

【図 1 1 1】



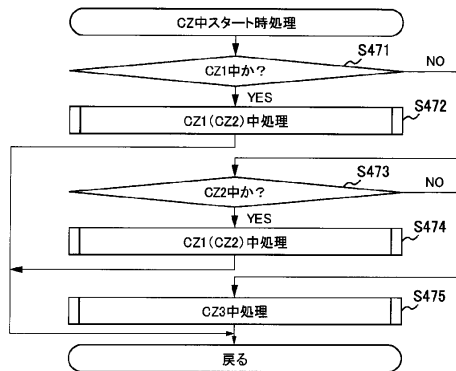
【図 1 1 2】



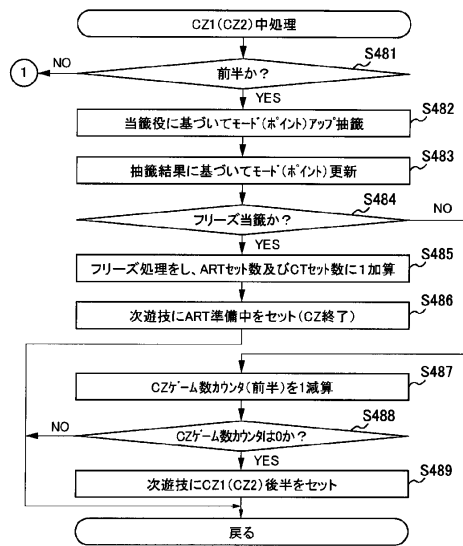
10

20

【図 1 1 3】



【図 1 1 4】

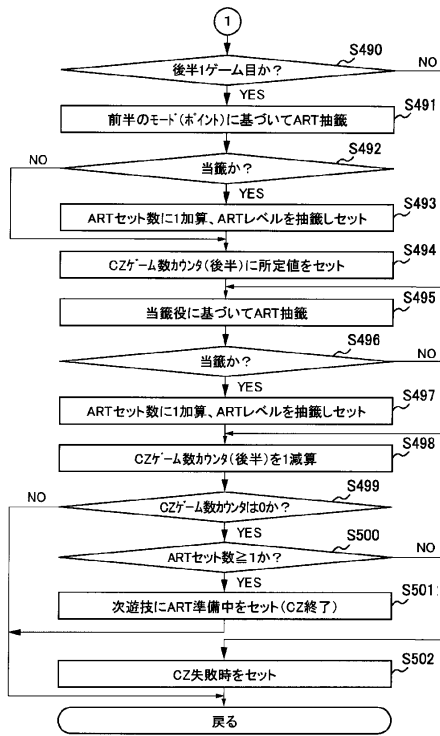


30

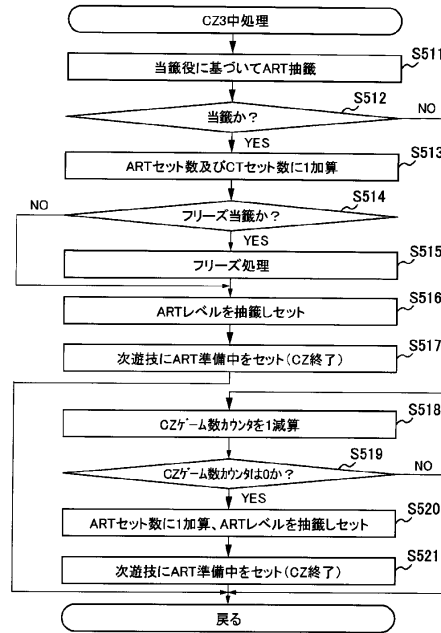
40

50

【 図 1 1 5 】



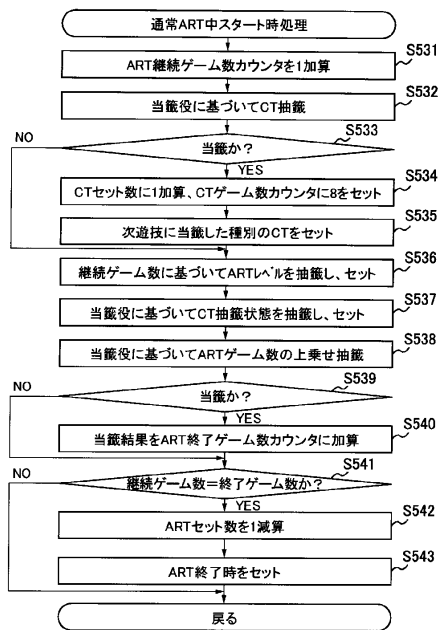
【 図 1 1 6 】



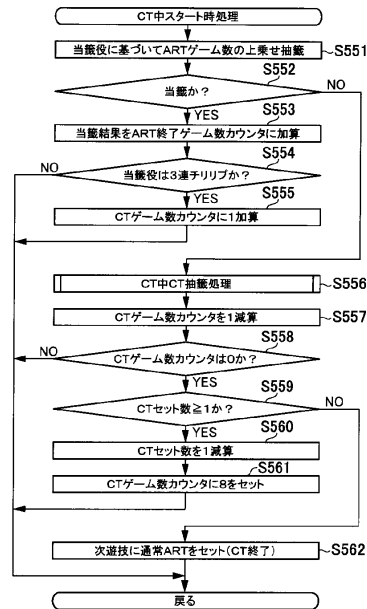
10

20

【 図 1 1 7 】



【 図 1 1 8 】

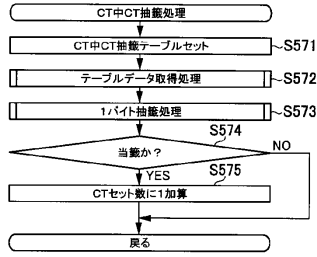


30

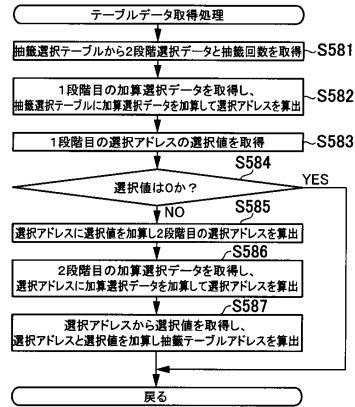
40

50

【 図 1 1 9 】



【 図 1 2 0 】



10

【 図 1 2 1 】

```

;= テーブルデータ取得処理
ESB_GTD2_00:
LDIN DE,(HL) ;加算RAMアドレス取得 E:1回目 D:2回目
LD B,(HL) ;抽籤回数取得
INC HL
LDQ A,(E)
RST SB_ADRA_00
RT ZA
ADDWB HLA
ESB_GTD2_20:
LDQ A,(D)
RST SB_ADRA_00
RST SB_ADRA_00
RET
  
```

【 図 1 2 2 】

```

;= CT中CT当籤抽籤テーブル
cABS_HIT EQU 0
dCTCTSTTB EQU $ ;当籤役別テーブル選択相対テーブル
DB LOW.wSUBFLGD ;サブフラグD
DB LOW.wCT_KIND ;CT種別
DB ? ;抽籤回数
DB 0,0,0,0,0 ;ハシレ,弱チリ,弱チリ,強チリ,確定役,3選チリリブ
DB dCTCTS_RER-$ ;リ-子目リブ
dCTCTS_RER: DB dNMCTCTS_RER-$ ;選給リ-子目リブ
DB dSPCTCTS_RER-$ ;高確リ-子目リブ
dNMCTCTS_RER: DB 00000011B ;判定ビット
DB 1 ;高確CT
DB 255 ;選給CT
;ハシレ
;高確リ-子目リブ
dSPCTCTS_RER: DB 00000001B ;判定ビット
DB cABS_HIT ;高確CT
;選給CT
;ハシレ
  
```

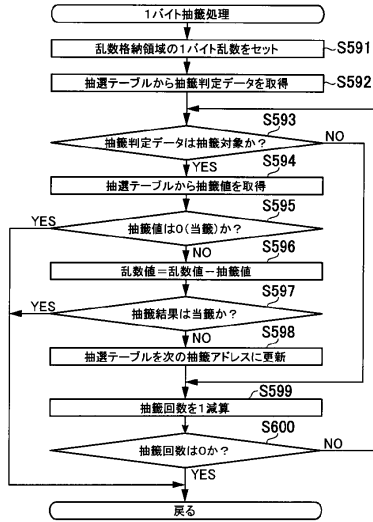
20

30

40

50

【図 1 2 3】



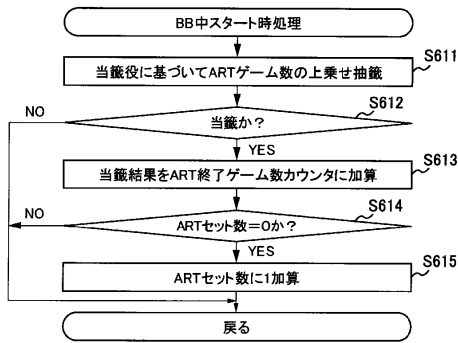
【図 1 2 4】

```

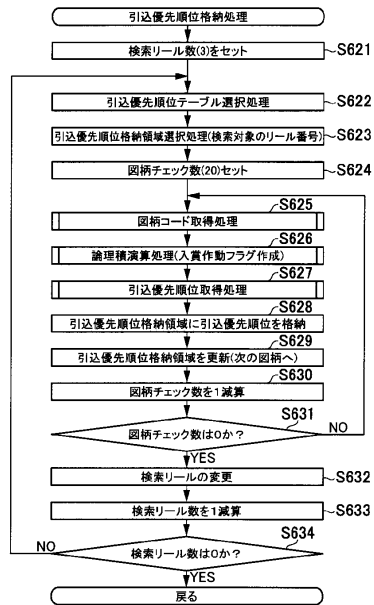
;ESB_LOTP_00 1バイト抽籤処理
ESB_LOTP_00:
LDQ DF,wRANDOMP ;乱数値P
ESB_LOT1_00:
LD C(HL) ;抽籤判定データ取得
INC HL
ESB_LOT1_01:
SRL C
JR NO,ESB_LOT1_02 ;抽籤対象でなければジャンプ
JT Z,(HL),ESB_LOT1_03 ;0なら当籤
;
LD A,(DE) ;抽籤実行
SUB (HL)
LD (DE),A
JR C,ESB_LOT1_03 ;当籤ならジャンプ
;
INC HL ;次のデータへ
ESB_LOT1_02:
DJNZ ESB_LOT1_01
ESB_LOT1_03:
LD A,B
RET
  
```

10

【図 1 2 5】



【図 1 2 6】



20

30

40

50

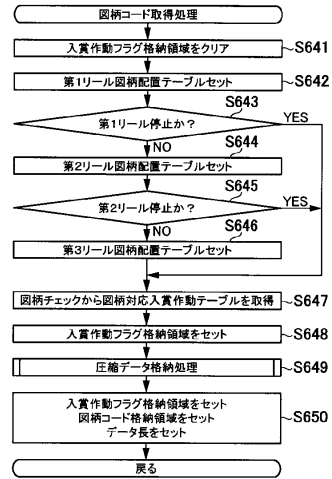
【図 1 2 7】

```

LD   A,cREEL_ZCNT
SUB  B           ; 図柄コード取得処理
CALLF ,STSB_RLTB_00 ; @@ DE = [wHITFLAG] 入賞作動フラグ格納領域
                           ; @@ HL = [wXARAY] 図柄コード格納領域
                           ; @@ B = cARYSIZE
:
;== 1 ラインに対する入賞作動フラグ作成
:
EX   DF,HL
CALLF SB,DAND_00 ; 論理積演算処理

```

【図 1 2 8】



10

【図 1 2 9】

```

STSB_RLTB_00:
CALLF SB,HTFLGOR_00 ; 入賞作動フラグクリア
:
LD   HL,dREELTB1 ; 第一回図柄配置テーブル
JBIT NZ,0,C,STSB_RLTB_01 ; 第一回図柄ならジャンプ
LD   HL,dREELTB2 ; 第二回図柄配置テーブル
JBIT NZ,1,C,STSB_RLTB_01 ; 第二回図柄ならジャンプ
LD   HL,dREELTB3 ; 第三回図柄配置テーブル
:
STSB_RLTB_01:
RST  SB,ADRA_00 ; 図柄コード相対アドレス取得
ADDW HL,A ; 図柄コードアドレス取得
:
LDQ  DE,wHITFLAG ; 入賞作動フラグデータ格納領域処理
CALLF SB,BTEP_00
:
LDQ  DE,wHITFLAG ; 入賞作動フラグ格納領域セット
LDQ  HL,wXARAY ; 図柄コード格納領域セット
LD   B,cARYSIZE ; データ長セット
RET

```

【図 1 3 0】

```

;== 第一回図柄 図柄配置テーブル
dREELTB1 EQU $
DB dR1_REP - $ ; 図柄位置 0
DB dR1_BEL - $ ; 1
DB dR1_SVN1 - $ ; 2
;
DB dR1_REP - $ ; 18
DB dR1_CCT2 - $ ; 19

```

```

;== 図柄対応入賞作動テーブル(第一回図)
dR1_SVN1:
DB 0101100B ; 白7 (第一回図)
DB 00010000B | 00000100B ; 格納領域 +2, +3, +4, +6
DB 00100000B | 00001000B ; フラグ
DB 10000000B | 01000000B | 00100000B
DB 00100000B | 00010000B | 00001000B
DB 00000100B ; 格納領域 +10
;C.BB1
DB 10000000B
dR1_SVN2:
DB 00100101B ; 青7 (第一回図)
;以下省略

```

20

30

40

50

【 図 1 3 1 】

A

```

:= 第二回胴 図柄配置テーブル
dREELTB2 EQU $
DB dR2_BEL_-$ : 図柄位置 0
DB dR2_REP_-$ : 1
DB dR2_SVN1_-$ : 2
~
DB dR2_REP_-$ : 18
DB dR2_CCT2_-$ : 19
  
```

B

```

:= 図柄対応入賞作動テーブル(第二回胴)
dR2_SVN1: ; 白7 (第二回胴)
DB 01111001B : 格納領域 +0, +3, +4, +5, +6
DB 00100000B
DB 01000000B [00000001B
DB 10000000B [00100000B [00001000B
DB 10000000B
DB 00010000B [00001000B
DB 00000110B : 格納領域 +9, +10
DB 10000000B [00100000B
DB 10000000B
dR2_SVN2: ; 青7 (第二回胴)
DB 00011101B : 格納領域 +0, +2, +3, +4
-以下省略-
  
```

【 図 1 3 2 】

A

```

:= 第三回胴 図柄配置テーブル
dREELTB3 EQU $
DB dR3_REP_-$ : 図柄位置 0
DB dR3_BEL_-$ : 1
DB dR3_SVN1_-$ : 2
~
DB dR3_CH2_-$ : 18
DB dR3_CCT1_-$ : 19
  
```

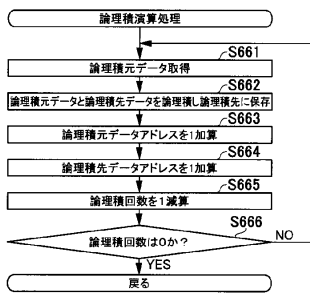
B

```

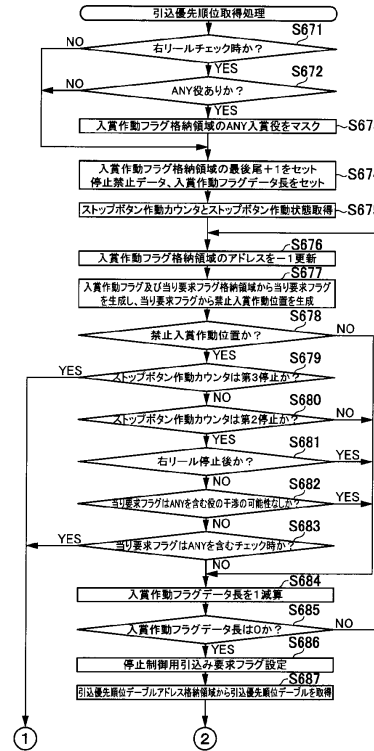
:= 図柄対応入賞作動テーブル(第三回胴)
dR3_SVN1: ; 白7 (第三回胴)
DB 01111001B : 格納領域 +0, +3, +4, +5, +6
DB 00001000B
DB 00100000B [00010000B [00000100B
DB 00010000B
DB 10000000B [00100000B [00010000B
DB 00100000B [00000001B
DB 00000101B : 格納領域 +8, +10
DB 00001000B [00000100B
DB 10000000B
dR3_SVN2: ; 青7 (第三回胴)
DB 01111001B : 格納領域 +0, +3, +4, +5, +6
-以下省略-
  
```

10

【 図 1 3 3 】



【 図 1 3 4 】



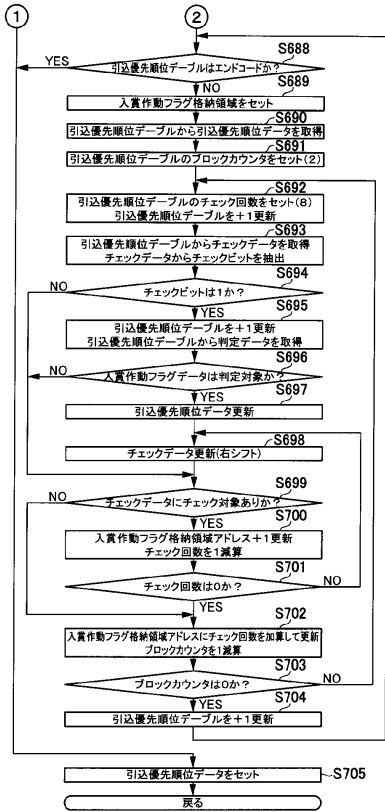
20

30

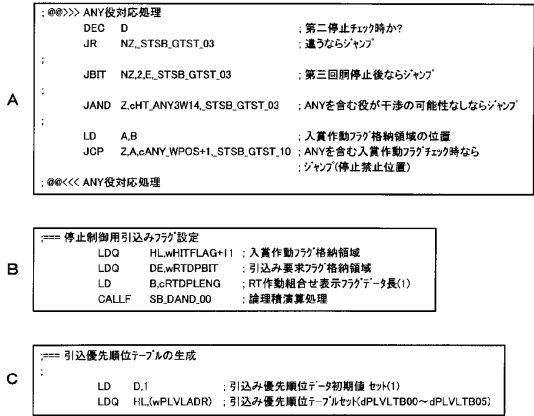
40

50

【図 1 3 5】



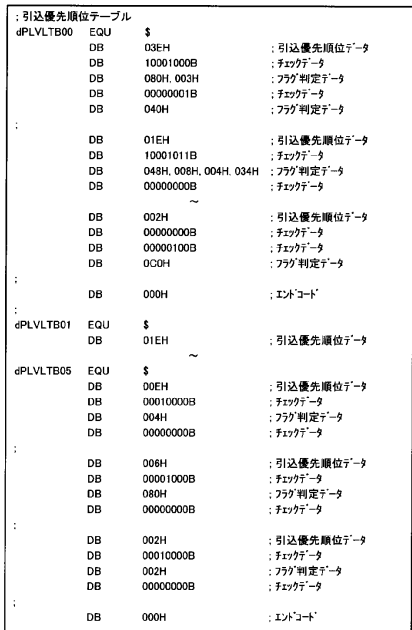
【図 1 3 6】



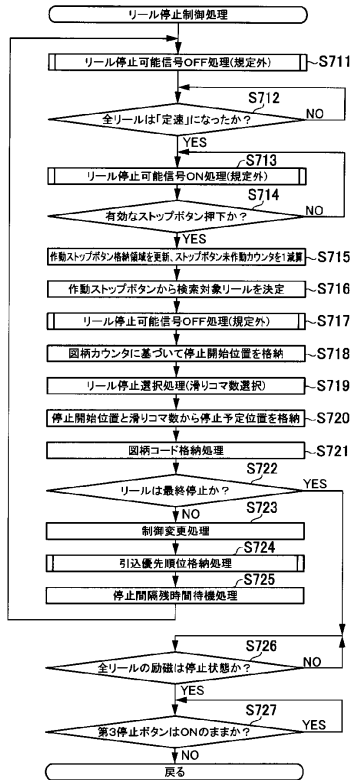
10

20

【図 1 3 7】



【図 1 3 8】



30

40

50

【図 1 3 9】

```

LD      HLOT_SLEDOF_00      ; リールストップ可能信号OFF処理(規格外メニュー)
MN_STOP_01:
CALLF  SB_OCALK_00        ; 領域外呼び出し処理
CALLF  SB_FXCHK_00        ; 定速チェック処理
JR     CMM_STOP_00        ; 定速判断でないならジャンプ
LDQ    HL_wSLAMPBIT        ; ストップボタン信号状態格納領域セット
LDO    A,(WBUIF+4,ONE+eFLSTPBTN) ; 入力ポートオンオフデータ取得(ストップボタン入力)
AND    (HL)                ; 有効な回転中のストップボタン入力?
JR     NZ,MN_STOP_02      ; そうならジャンプ (停止制御開始)
LD     HLOT_SLEDON_00      ; リールストップ可能信号ON処理(規格外メニュー)
JR     MN_STOP_01
;==== ストップ開始時の初期化 (同時降下時は左の回転を最優先)
MN_STOP_02:
LDQ    (wR1,CTRL-(wR2,CTRL-wR1,CTRL) ; 第一回周 制御時→格納領域セット
LD     C,00BH             ; ストップボタン初期化セット

```

【図 1 4 0】

```

MN_STOP_05:
;==== 回調制御終了のチェック
LDQ    A,(LOW.wR1,TIM)
ORQ    (LOW.wR2,TIM)
ORQ    (LOW.wR3,TIM)      ; 全回調の動磁がマージ合成
JR     NZ,MN_STOP_05     ; 停止終了でないならジャンプ

```

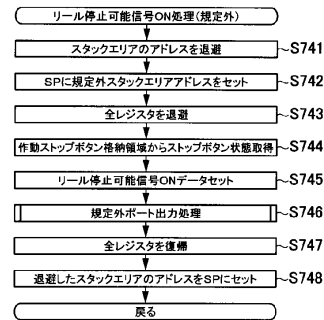
10

20

【図 1 4 1】



【図 1 4 2】

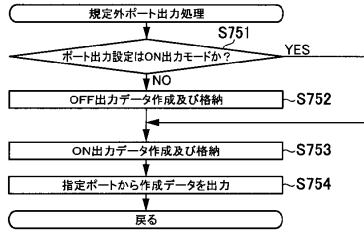


30

40

50

【 図 1 4 3 】



【 図 1 4 4 】

```

OSB_OUTX_00:
LD   A,C           ;出力モード、出力ポートデータセット
:
PUSH GPR           ;レジスタ退避
SRL  C             ;出力ポートデータ抽出
:
LD   HL,woXOUT0
ADDWB HL,C         ;領域外出力ポートバックアップ領域セット
RRCA                ;出力モード抽出 (CVフラグセット/リセット)
LD   A,B           ;出力制御データセット
== 出力オン/オフチェック
JR   C,OSB_OUTX_01 ;出力オンモードならジャンプ
:
XOR  (HL)          ;出力オフモードデータ作成
AND  (HL)
LD   (HL),A
OSB_OUTX_01:
OR   (HL)          ;出力オンモードデータ作成
LD   (HL),A
== メモリマップT/I/O出力
:
CALL OI1_OUTX_00  ;試験信号出力処理
:
POP  GPR           ;レジスタ復帰
XOR  A             ;クリア (兼 CVフラグクリア)
:
RET
  
```

OFF出力データ出力作成の一例

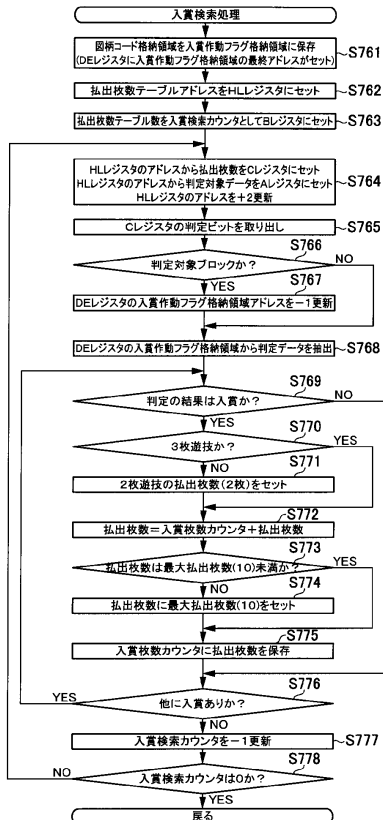
```

00010111 出力データ
01010011 バックアップデータ
01000100 XORした結果      OFF出力データ作成
01000000 ANDした結果
01000000 ORした結果      ON出力データ作成
  
```

10

20

【 図 1 4 5 】



【 図 1 4 6 】

```

MN_CKLN_00:
LDQ  HL,LOW.wXARAY ;図柄コード格納領域セット
LDQ  DE,LOW.wHITFLAG ;入賞作動フラグ格納領域セット
LD   B,12
LDIRS                ;図柄コードを入賞作動フラグに転送
:
LD   HL,dPAYNUMTB
LD   B,5             ;払出枚数データテーブル  
                    ;払出枚数データテーブルサイズ
MN_CKLN_01:
LDIN AC,(HL)        ;C = 払出枚数, A = 判定データ
SRL  C              ;バイト変換タミングか?
JR   NC,MN_CKLN_02 ;違うならジャンプ
DEC  DE
MN_CKLN_02:
AND  (DE)           ;判定ビットを抽出
MN_CKLN_03:
JSLAA NG,MN_CKLN_06 ;入賞なしならジャンプ
== 入賞 3枚 加算 (重複入賞 対応)
PUSH AF
LDQ  A,(LOW.wMEDLCTR) ;3枚カウンタ取得
JCP  Z,A,3,MN_CKLN_04 ;3枚遊技時ならジャンプ
LD   C,2            ;2枚遊技の払い出し枚数セット
MN_CKLN_04:
LDQ  A,(LOW.wHITCTR) ;入賞枚数カウンタ取得
ADD  A,C            ;払い出し枚数加算
:
JCP  C,A,9,MN_CKLN_05 ;獲得枚数の最大値未満ならジャンプ
LD   A,9            ;獲得枚数の最大値セット
MN_CKLN_05:
LDQ  (LOW.wHITCTR),A ;入賞枚数カウンタ保存
POP  AF
MN_CKLN_06:
JR   NZ,MN_CKLN_03 ;他に入賞ありならジャンプ
:
DJNZ RET            ;MN_CKLN_01
  
```

30

40

50

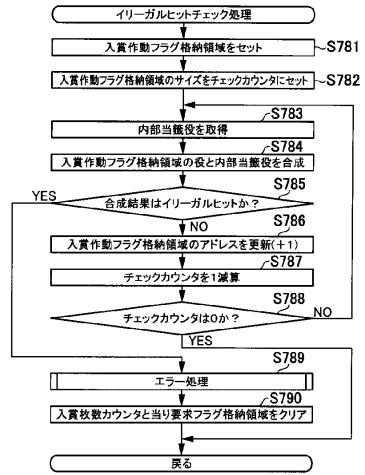
【 図 1 4 7 】

```

: 払出枚数データテーブル
oPAYNUMTB EQU $
DB 9*2 + 0, 111111110B ; @@ F.RB 役1~4
DB 9*2 + 0, 111111111B ; @@ F.3 振へル, 1st, F.3 振へル, 2nd, F.3 振へル, 3rd, F.共済へル
DB 1*2 + 0, 111111110B ; @@ F. 5 振へル, F. 5 振へル
DB 3*2 + 0, 111111110B ; @@ F. 5 振へル, F. 5 振へル
DB 2*2 + 0, 111110000B ; @@ 弱チカ, 強チカ, F. 特殊1~3
oPAYNUMTBNUM EQU ($-oPAYNUMTB)/2

```

【 図 1 4 8 】



10

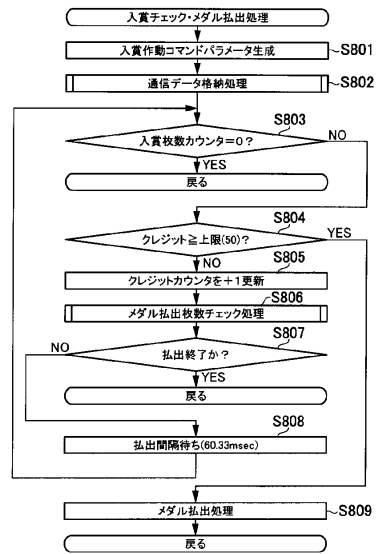
【 図 1 4 9 】

```

:イリーガルチェック処理
MN_ILCK_00:
LDQ HL, LOW.wHITFLAG ; 入賞作動フラグ格納領域セット
LD B, WV LENG ; 入賞作動フラグデータ長セット
:
MN_ILCK_01:
LD A, (HL+(wWAVEBIT-wHITFLAG)) ; 当り要求フラグ取得
XOR (HL) ; イリーガルヒットはあるか?
AND (HL) ; 入賞作動フラグと合成
JR NZ, MN_ILCK_02 ; そうならジャンプ
:
INC HL
DJNZ MN_ILCK_01
RET
:
--- イリーガルヒットエラーの表示
MN_ILCK_02:
LD E, 7 ; イリーガルヒットエラーコードセット
CALLF SB_ERRS_00 ; エラー処理

```

【 図 1 5 0 】



20

30

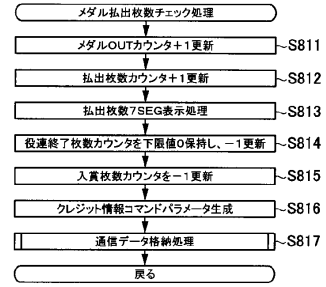
40

50

【 151 】

MN HCPS.02		
== 払出の制御		
CALLF	SB.CDMX.00	:クレジットは上限に達しているか?
LD	A.SB.PAY.HIT	:入賞旗行一対セット
JR	NC.SB.MPAY.00	:そうならメダル払出処理へ
:		
INC	(HL)	: [wCREDIT] クレジットカウンター加算更新
:		
CALLF	SB.MPCK.00	:メダル払出枚数チェック処理
RET	Z	:払出終了ならリターン
:		
LD	BC.TM.PAYC	
RST	SB.WIBC.00	:払出間隔待ち
:		
JR	MN.HCPS.02	:払出処理継続

【 152 】

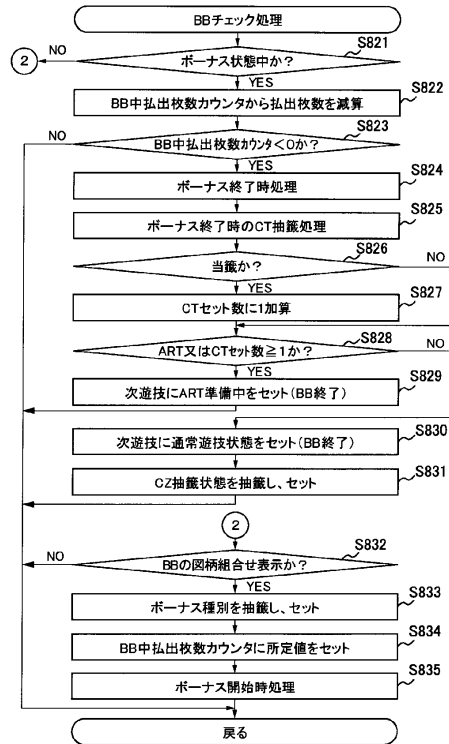


10

【 153 】

A		
INCQ	(LOW.wCTR.PAY)	:メダルOUTカウンタ要求加算更新
DEC	HL	: [wPAYNUM]
INC	(HL)	: 払出枚数カウンタ加算更新
:		
LD	A.(HL)	: 払出枚数表示データを取得
CALLF	SR.PAY7.00	: 払出枚数7SEG表示処理
:		
LDQ	HL.LOW.wGETCTR	: 役達終了枚数管理カウンタセット
DQPLD	(HL),0	: 役達終了枚数管理カウンタ更新(下限值なら0保持)
:		
B		
LDQ	HL.(LOW.wPAYNUM)	: パラメータ1(払出枚数カウンタ)
LDQ	C.(LOW.wCREDIT)	: パラメータ5セット(クレジットカウンタ)
:		
LD	A.wPC.CRST	: クレジット情報コマンドセット
RST	SB.OUTPUT.00	: 通信データ格納処理

【 154 】



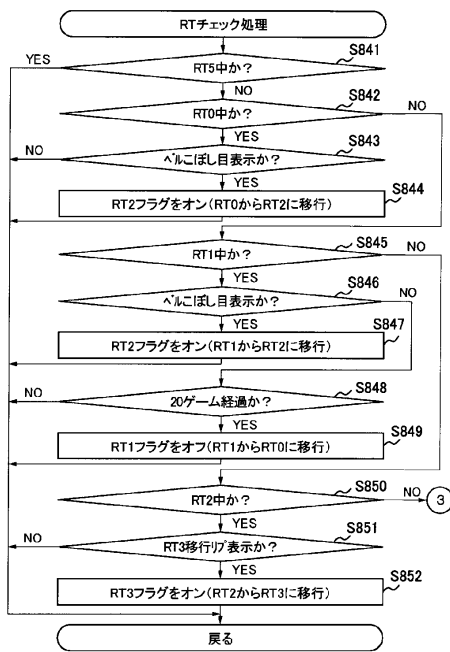
20

30

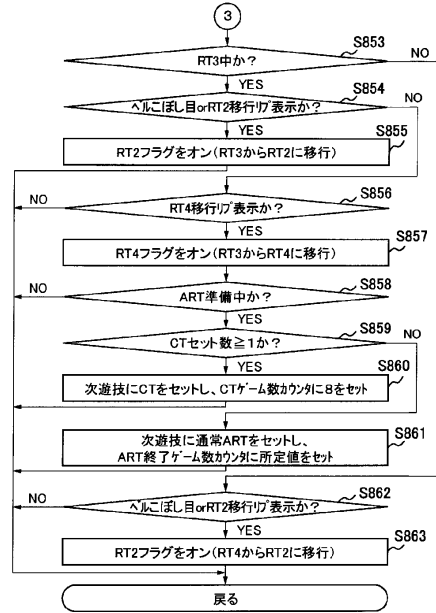
40

50

【図 1 5 5】



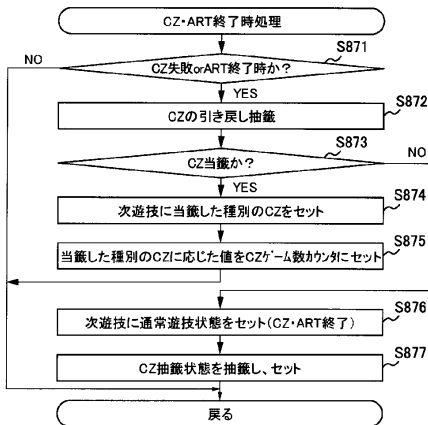
【図 1 5 6】



10

20

【図 1 5 7】



【図 1 5 8】

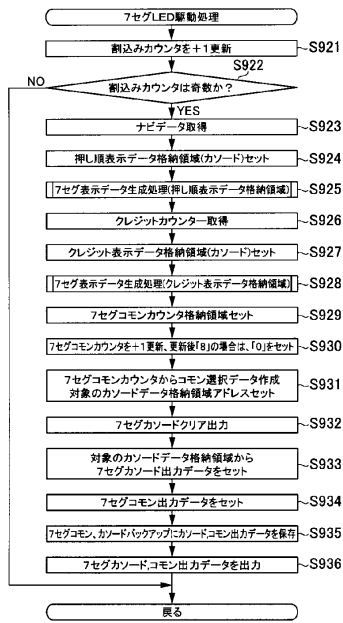


30

40

50

【図 159】



【図 160】

```

    H,7SEG,00:
    LDQ A,(wNAV/PTN) ; 7セグ格納領域
    LDQ DE,wLED_POD_M ; 押し順表示データ格納領域セット
    CALLF SB_DSP7,00 ; 7SEG表示処理

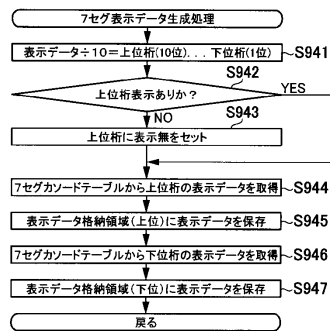
    ;== 7SEGカソード割付
    LDQ DE,LOW(wXOUT0+ePR_SEGCOM) ; 7SEG3モジュールバックアップ格納領域セット
    LD A,(DE) ; 出力ポートバックアップ取得
    AND eBX_SEGMSK ; 7SEGカソード割付
    LD (ePA_SEGCOM),A

    ;== 7SEG3モジュール、7SEGカソード出力
    OR C ; 7SEG3モジュール出力データセット
    LD C,A ; 7SEGカソード出力データセット
    LD B,(HL) ; 7SEG3モジュール出力データセット
    LD (DE),BC ; 7SEG3モジュール選択、7SEGカソードバックアップ
    LD (ePA_SEGCOM),BC ; 7SEG3モジュール選択、7SEGカソード出力
  
```

10

20

【図 161】



【図 162】

```

    SB_DSP7,00:
    DIV C,A,10 ; A=(商)上位表示データ
    ; C=(余)下位表示データ
    ; 上位表示ありならジャンプ
    JT NZ,A,SB_DSP7,01
    LD A,10 ; 上位に無表示データ[10]セット
    SB_DSP7,01:
    CALLF SB_DCD7,00 ; 7SEG7コード処理(上位)
    LD AC ; 7SEG7コードデータ(下位)セット
    SB_DCD7,00:
    LD HL,dSEQPARM ; 7SEGカソードテーブルセット
    RST SB_ADRA,00 ; 表示データ格納
    LD (DE),A ; 表示データ格納
    INC DE ; 次の格納領域へ
    RET
  
```

30

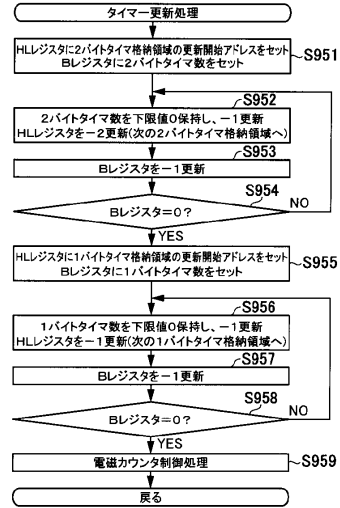
40

50

【図 163】

jSEGPARM	EQU	\$	
DB	01111110B	:	"0" 表示
DB	00110000B	:	"1" 表示
DB	01101101B	:	"2" 表示
DB	01111001B	:	"3" 表示
DB	00110011B	:	"4" 表示
DB	01011011B	:	"5" 表示
DB	01011111B	:	"6" 表示
DB	01110000B	:	"7" 表示
DB	01111111B	:	"8" 表示
DB	01111011B	:	"9" 表示
DB	00000000B	:	表示なし(テ-)

【図 164】

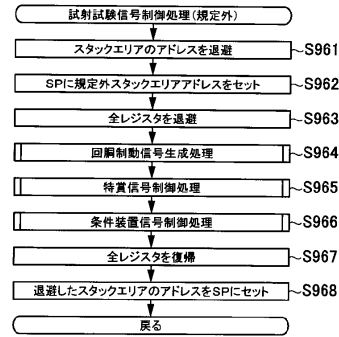


10

【図 165】

i1_TIME_00:	LDQ	HL,LOW(wXTIMER2BS-2)	: [wLOFF_TMR]
	LD	B,cTIMER2BL	
i1_TIME_01:	DCPWLD	(HL),0	: タイマ更新 (下限値なら0保持)
i1_TIME_02:	DEC	HL	: 次のタイマ格納領域へ
	DEC	HL	
	DJNZ	i1_TIME_01	

【図 166】



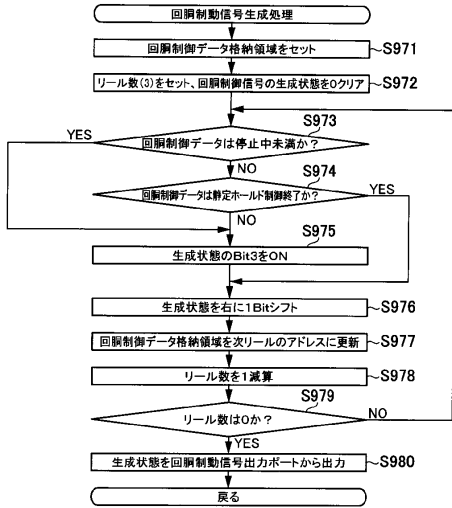
20

30

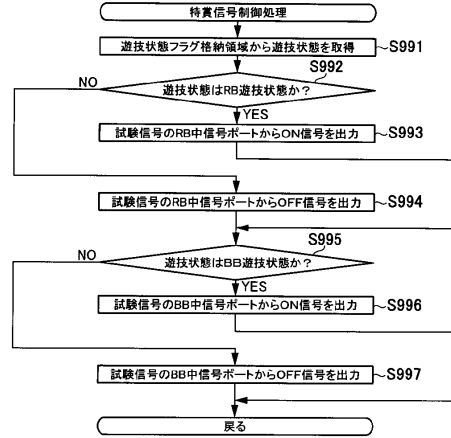
40

50

【図 167】



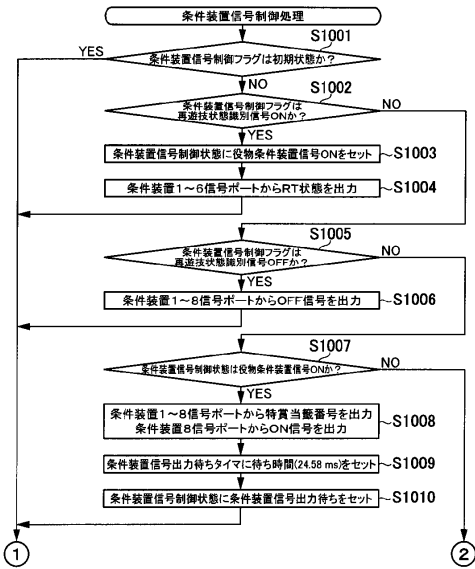
【図 168】



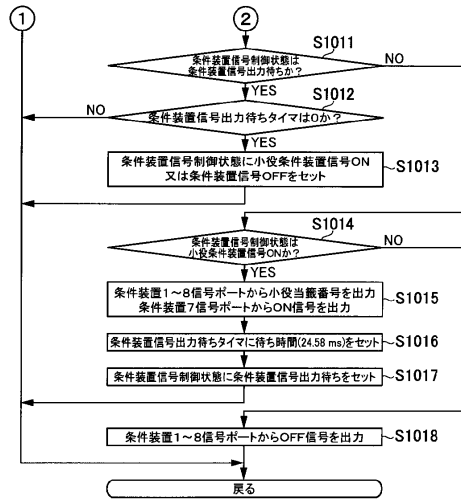
10

20

【図 169】



【図 170】

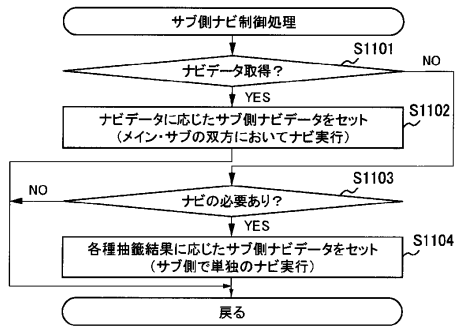


30

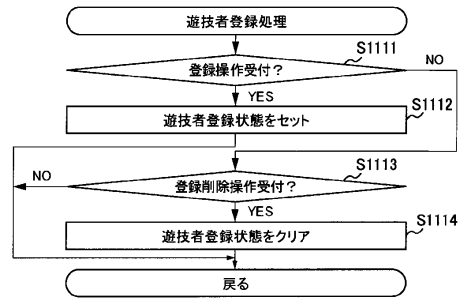
40

50

【図 171】

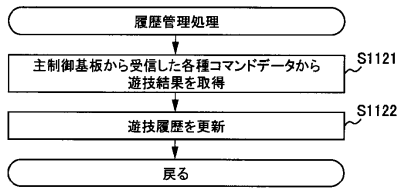


【図 172】

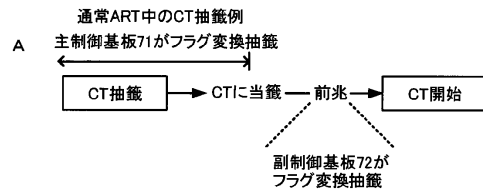


10

【図 173】



【図 174】



20

B

CT前兆中のフラグ変換抽籤テーブル

内容	当籤役
	非当籤
当籤	極高

※ 確率分母256

30

40

50

【 図 1 7 5 】

内部当籤役と停止図柄組合せ(略称)との対応関係

当籤役	第1停止操作		
	左(1st)	中(2nd)	右(3rd)
F.確リリア	チリリ(3連)	リプレイ	チリリ(2連)
F.1確リリア	チリリ(2連)	リプレイ	チリリ(3連)

通常ART中のフラグ変換抽籤とサブ側のナビとの関係

当籤役	フラグ変換抽籤		
	1段階目非当籤	1段階目当籤 2段階目非当籤	1段階目当籤 2段階目当籤
F.確リリア	リプレイナビ (第1停止操作中)	チリリ編リナビ (第1停止操作右)	チリリ揃いナビ (第1停止操作左)
F.1確リリア	リプレイナビ (第1停止操作中)	チリリ編リナビ (第1停止操作左)	チリリ揃いナビ (第1停止操作右)

【 図 1 7 6 】

ナビデータの対応関係

RT5中(BB1フラグ間)

内容	1	2	3	...	10	11	12	13	14	...
白7ナビ	左	中	右	...	白7	青7
ベルナビ				

RT5中(BB2フラグ間)

内容	1	2	3	...	10	11	12	13	14	...
青7ナビ	左	中	右	...	白7	青7
ベルナビ				

10

20

【 図 1 7 7 】

押し順とロック状態との関係

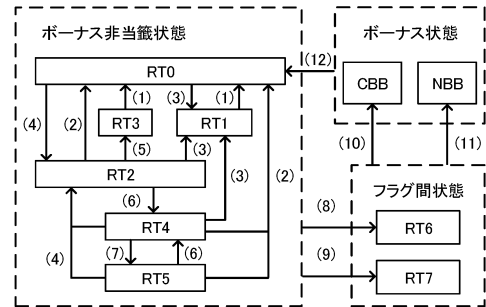
当籤役	押し順					
	左-中-右	左-右-中	中-左-右	中-右-左	右-左-中	右-中-左
F.維持リリア	0⇒1	維持	維持	維持	維持	1⇒0
F.維持リリア	維持	維持	0⇒1	維持	維持	維持
...

※ ロック状態0: ロックし難い状態
 ロック状態1: ロックし易い状態

ロック状態を移行するための報知

ロックによる利益	報知抽籤	報知手段	
		指示モニタ	表示装置
あり	メイン側で抽籤	○ 報知	○ 報知
なし	サブ側で抽籤	× 報知せず	○ 報知

【 図 1 7 8 】



30

移行条件	内容	RTの種類	リプレイ確率	ゲーム数
(1)	規定ゲーム数消化	RT0	低確率	∞
(2)	RT0移行図柄が表示	RT1	低確率	10G
(3)	RT1移行図柄が表示	RT2	中確率	∞
(4)	RT2移行図柄が表示	RT3	中確率	20G
(5)	RT3移行図柄が表示	RT4	高確率	∞
(6)	RT4移行図柄が表示	RT5	高確率	∞
(7)	RT5移行図柄が表示	RT6	中確率	∞
(8)	F.クラウBB、又は、F.青BBIに当籤	RT7	中確率	∞
(9)	F.赤BBIに当籤			
(10)	クラウBBの図柄が表示			
(11)	BBの図柄が表示			
(12)	ボーナス終了			

40

50

【図 187】

図柄組合せテーブル

図柄組合せ	当座役												
	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員
C.TP&.06													
C.TP&.07													
C.TP&.08													
C.TP&.09													
C.TP&.10													
C.TP&.11													
C.TP&.12													
C.TP&.13													
C.TP&.14													
C.TP&.15													
C.TP&.16													
C.TP&.17													
C.TP&.18													
C.CT&.01													
C.CT&.02													
C.CT&.03													
C.CT&.04													
C.CT&.05													
C.CT&.06													
C.CU&.01													
C.CU&.02													
C.CU&.03													
C.CU&.04													
C.CU&.05													
C.CU&.06													
C.CU&.07													
C.CU&.08													
C.CU&.09													
C.CU&.10													
C.CU&.11													
C.CU&.12													
C.CU&.13													
C.CU&.14													
C.CU&.15													
C.CU&.16													
C.CU&.17													
C.CU&.18													
C.BT&.01													
C.BT&.02													
C.BT&.03													
C.BT&.04													
C.BT&.05													
C.BT&.06													
C.BT&.07													
C.BT&.08													
C.BT&.09													
C.差1役員A.01													
C.差1役員A.02													
C.差1役員A.03													
C.差1役員A.04													
C.差1役員A.05													
C.差1役員A.06													
C.差1役員B.01													
C.差1役員B.02													
C.差1役員B.03													
C.差1役員B.04													
C.差1役員B.05													
C.差1役員B.06													
C.差1役員B.07													
C.差1役員B.08													
C.差1役員B.09													
C.差1役員B.10													
C.差1役員B.11													
C.差1役員B.12													
C.差1役員B.13													
C.差1役員B.14													
C.差1役員B.15													
C.差1役員B.16													
C.差1役員B.17													
C.差1役員B.18													
C.差1役員B.19													
C.差1役員B.20													
C.差1役員B.21													
C.差1役員B.22													
C.差1役員B.23													
C.差1役員B.24													
C.差1役員B.25													
C.差1役員B.26													
C.差1役員B.27													
C.差1役員B.28													
C.差1役員B.29													
C.差1役員B.30													
C.差1役員B.31													
C.差1役員B.32													
C.差1役員B.33													
C.差1役員B.34													
C.差1役員B.35													
C.差1役員B.36													
C.差1役員B.37													
C.差1役員B.38													
C.差1役員B.39													
C.差1役員B.40													
C.差1役員B.41													
C.差1役員B.42													
C.差1役員B.43													
C.差1役員B.44													
C.差1役員B.45													
C.差1役員B.46													
C.差1役員B.47													
C.差1役員B.48													
C.差1役員B.49													
C.差1役員B.50													
C.差1役員B.51													
C.差1役員B.52													
C.差1役員B.53													
C.差1役員B.54													
C.差1役員B.55													
C.差1役員B.56													
C.差1役員B.57													
C.差1役員B.58													
C.差1役員B.59													
C.差1役員B.60													
C.差1役員B.61													
C.差1役員B.62													
C.差1役員B.63													
C.差1役員B.64													
C.差1役員B.65													
C.差1役員B.66													
C.差1役員B.67													
C.差1役員B.68													
C.差1役員B.69													
C.差1役員B.70													
C.差1役員B.71													
C.差1役員B.72													
C.差1役員B.73													
C.差1役員B.74													
C.差1役員B.75													
C.差1役員B.76													
C.差1役員B.77													
C.差1役員B.78													
C.差1役員B.79													
C.差1役員B.80													
C.差1役員B.81													
C.差1役員B.82													
C.差1役員B.83													
C.差1役員B.84													
C.差1役員B.85													
C.差1役員B.86													
C.差1役員B.87													
C.差1役員B.88													
C.差1役員B.89													
C.差1役員B.90													
C.差1役員B.91													
C.差1役員B.92													
C.差1役員B.93													
C.差1役員B.94													
C.差1役員B.95													
C.差1役員B.96													
C.差1役員B.97													
C.差1役員B.98													
C.差1役員B.99													
C.差1役員B.100													

【図 188】

図柄組合せテーブル

図柄組合せ	当座役												
	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員	F.役員兼執行役員
C.右1役員A.06													
C.右1役員B.01													
C.右1役員B.02													
C.右1役員B.03													
C.右1役員B.04													
C.右1役員B.05													
C.右1役員B.06													
C.差移行役.01													
C.差移行役.02													
C.差移行役.03													
C.中移行役A.01													
C.中移行役A.02													
C.中移行役A.03													
C.中移行役A.04													
C.中移行役A.05													
C.中移行役A.06													

【図195】

図柄組合せテーブル

図柄組合せテーブル (Figure 195): A large grid table showing combinations of symbols (C, R, S, etc.) across various categories like 図柄組合せ, 当抽籤, and 抽籤結果.

【図196】

図柄組合せテーブル

図柄組合せテーブル (Figure 196): A grid table showing combinations of symbols (C, S, W, etc.) across various categories like 図柄組合せ, 抽籤結果, and 抽籤結果.

10

20

【図197】

図柄組合せの内容

図柄組合せの内容 (Figure 197): A table listing combinations of symbols (ベル, チェリー, スイカ) and their corresponding names and outcomes (R, T, BB).

【図198】

図柄組合せの内容

図柄組合せの内容 (Figure 198): A table listing combinations of symbols (スイカ2, リプレイ, BAR, etc.) and their corresponding names and outcomes (T, BB).

30

40

50

【図 199】

図柄組合せの内容				
コンビネーション	名称	払出 3BET	略称	
青7 チェリー	チェリー	C.RT377 C.02	0	
チェリー チェリー	赤7	C.RT377 C.03	0	
チェリー チェリー	赤7	C.RT377 C.04	0	
BAR チェリー	赤7	C.RT377 D.01	0	弱チェリブ (RT3移行図柄)
BAR チェリー	チェリー	C.RT377 D.02	0	
スイカ1 チェリー	赤7	C.RT377 D.03	0	
スイカ1 チェリー	チェリー	C.RT377 D.04	0	
BAR ベル1	ベル1	C.BB77 01	0	
BAR ベル1	スイカ2	C.BB77 02	0	
BAR ベル1	スイカ1	C.BB77 03	0	
BAR ベル2	ベル1	C.BB77 04	0	
BAR ベル2	スイカ2	C.BB77 05	0	
BAR ベル2	スイカ1	C.BB77 06	0	
BAR ベル3	ベル1	C.BB77 07	0	
BAR ベル3	スイカ2	C.BB77 08	0	
BAR ベル3	スイカ1	C.BB77 09	0	
BAR ベル1	ベル1	C.BB77 10	0	
スイカ1	ベル1	スイカ2	C.BB77 11	0
スイカ1	ベル1	スイカ1	C.BB77 12	0
スイカ1	ベル2	ベル1	C.BB77 13	0
スイカ1	ベル2	スイカ2	C.BB77 14	0
スイカ1	ベル2	スイカ1	C.BB77 15	0
スイカ1	ベル3	ベル1	C.BB77 16	0
スイカ1	ベル3	スイカ2	C.BB77 17	0
スイカ1	ベル3	スイカ1	C.BB77 18	0
ベル1	青7	リプレイ	C.BT77 01	0
ベル1	BAR	リプレイ	C.BT77 02	0
ベル1	ベル1	リプレイ	C.BT77 03	0
ベル2	青7	リプレイ	C.BT77 04	0
ベル2	BAR	リプレイ	C.BT77 05	0
ベル2	ベル1	リプレイ	C.BT77 06	0
ベル3	青7	リプレイ	C.BT77 07	0
ベル3	BAR	リプレイ	C.BT77 08	0
ベル3	ベル1	リプレイ	C.BT77 09	0
赤7	リプレイ	赤7	C.TP77 01	0
赤7	リプレイ	チェリー	C.TP77 02	0
青7	リプレイ	赤7	C.TP77 03	0
青7	リプレイ	チェリー	C.TP77 04	0
スイカ1	リプレイ	赤7	C.TP77 05	0
スイカ1	リプレイ	チェリー	C.TP77 06	0
リプレイ	チェリー	ベル1	C.TP77 01	0
リプレイ	チェリー	スイカ2	C.TP77 02	0
リプレイ	チェリー	スイカ1	C.TP77 03	0
赤7	リプレイ	ベル1	C.RT577 01	0
赤7	リプレイ	スイカ2	C.RT577 02	0
赤7	リプレイ	スイカ1	C.RT577 03	0
青7	リプレイ	ベル1	C.RT577 04	0
青7	リプレイ	スイカ2	C.RT577 05	0
青7	リプレイ	スイカ1	C.RT577 06	0
スイカ1	リプレイ	ベル1	C.RT577 07	0
スイカ1	リプレイ	スイカ2	C.RT577 08	0
スイカ1	リプレイ	スイカ1	C.RT577 09	0

【図 200】

図柄組合せの内容				
コンビネーション	名称	払出 3BET	略称	
赤7 赤7	赤7	C.CD777 A.01	0	
赤7 赤7	チェリー	C.CD777 B.01	0	
赤7 スイカ2	チェリー	C.CD777 B.02	0	
赤7 チェリー	赤7	C.CD777 C.01	0	
スイカ2	チェリー	赤7	C.CD777 C.02	0
リプレイ	チェリー	赤7	C.CD777 C.03	0
青7 赤7	赤7	C.CD777 D.01	0	
青7 赤7	チェリー	C.CD777 D.02	0	
スイカ1	赤7	赤7	C.CD777 D.03	0
スイカ1	赤7	チェリー	C.CD777 D.04	0
赤7	BAR	BAR	C.TP777 A.01	0
赤7	リプレイ	BAR	C.TP777 B.01	0
スイカ1	リプレイ	BAR	C.TP777 B.02	0
スイカ1	リプレイ	BAR	C.TP777 B.03	0
チェリー	リプレイ	BAR	C.TP777 B.04	0
スイカ2	赤7	BAR	C.CU777 A.0	0
スイカ2	赤7	リプレイ	C.CU777 B.01	0
スイカ2	リプレイ	リプレイ	C.CU777 B.02	0
青7	赤7	BAR	C.CU777 C.01	0
BAR	ベル1	BAR	C.CU777 C.02	0
ベル1	スイカ2	BAR	C.CU777 C.03	0
ベル1	スイカ2	BAR	C.CU777 C.04	0
赤7	BAR	リプレイ	C.CUBAR77 A.0	0
赤7	チェリー	リプレイ	C.CUBAR77 B.0	0
BAR	BAR	BAR	C.CDBAR77 A.0	0
BAR	BAR	リプレイ	C.CDBAR77 B.01	0
BAR	リプレイ	リプレイ	C.CDBAR77 B.02	0
BAR	ベル1	BAR	C.CDBAR77 C.01	0
BAR	ベル1	BAR	C.CDBAR77 C.02	0
赤7	赤7	BAR	C.BTBAR77 A.0	0
赤7	スイカ2	BAR	C.BTBAR77 B.0	0
スイカ1	赤7	BAR	C.BTBAR77 C.01	0
スイカ1	スイカ2	BAR	C.BTBAR77 C.02	0
赤7	赤7	ベル1	C.7477 A.01	0
赤7	赤7	スイカ2	C.7477 A.02	0
赤7	スイカ1	スイカ1	C.7477 A.03	0
赤7	チェリー	スイカ2	C.7477 B.02	0
赤7	チェリー	スイカ1	C.7477 B.03	0
スイカ2	赤7	スイカ2	C.7477 C.01	0
スイカ2	赤7	スイカ1	C.7477 C.02	0
スイカ2	リプレイ	スイカ2	C.7477 D.01	0
スイカ2	リプレイ	スイカ1	C.7477 D.02	0
スイカ2	リプレイ	チェリー	C.7477 E.01	0
スイカ2	赤7	赤7	C.7477 F.01	0
リプレイ	赤7	赤7	C.7477 F.02	0
スイカ2	リプレイ	赤7	C.7477 G.01	0
スイカ2	リプレイ	チェリー	C.7477 G.02	0
リプレイ	リプレイ	赤7	C.7477 G.03	0
リプレイ	リプレイ	チェリー	C.7477 G.04	0
スイカ2	スイカ2	青7	C.特狭7 A.01	0
スイカ2	スイカ2	BAR	C.特狭7 A.02	0
リプレイ	スイカ2	青7	C.特狭7 A.03	0
リプレイ	スイカ2	BAR	C.特狭7 A.04	0

10

20

【図 201】

図柄組合せの内容				
コンビネーション	名称	払出 3BET	略称	
スイカ2 スイカ2	チェリー	C.特狭7 B.01	0	
リプレイ スイカ2	チェリー	C.特狭7 B.02	0	
スイカ2 チェリー	青7	C.特狭7 C.01	0	
スイカ2 チェリー	BAR	C.特狭7 C.02	0	
リプレイ チェリー	青7	C.特狭7 C.03	0	
リプレイ チェリー	BAR	C.特狭7 C.04	0	
BAR 赤7	リプレイ	C.特狭7 D.01	0	
BAR スイカ2	リプレイ	C.特狭7 D.02	0	
ベル1	ベル1	ベル1	C.CD777 AAAA.01	8
ベル1	ベル1	ベル3	C.CD777 AAAA.02	8
ベル1	ベル2	ベル1	C.CD777 AAAA.03	8
ベル1	ベル2	ベル3	C.CD777 AAAA.04	8
ベル2	ベル1	ベル1	C.CD777 AAAA.05	8
ベル2	ベル1	ベル3	C.CD777 AAAA.06	8
ベル2	ベル2	ベル1	C.CD777 AAAA.07	8
ベル2	ベル2	ベル3	C.CD777 AAAA.08	8
ベル1	ベル1	ベル2	C.CD777 AAAB.01	8
ベル1	ベル2	ベル2	C.CD777 AAAB.02	8
ベル2	ベル1	ベル2	C.CD777 AAAB.03	8
ベル2	ベル2	ベル2	C.CD777 AAAB.04	8
ベル1	ベル3	ベル1	C.CD777 ABAA.01	8
ベル1	ベル3	ベル3	C.CD777 ABAA.02	8
ベル2	ベル3	ベル1	C.CD777 ABAA.03	8
ベル2	ベル3	ベル3	C.CD777 ABAA.04	8
ベル1	ベル3	ベル2	C.CD777 ABAB.01	8
ベル2	ベル3	ベル2	C.CD777 ABAB.02	8
ベル3	ベル1	ベル1	C.CD777 ABAB.03	8
ベル3	ベル2	ベル3	C.CD777 ABAB.04	8
ベル3	ベル1	ベル2	C.CD777 ABBA.01	8
ベル3	ベル3	ベル1	C.CD777 ABBA.02	8
ベル3	ベル3	ベル2	C.CD777 ABBA.03	8
ベル1	赤7	赤7	C.TP777 K.01	8
ベル1	赤7	チェリー	C.TP777 K.02	8
ベル1	スイカ2	赤7	C.TP777 L.03	8
ベル1	スイカ2	チェリー	C.TP777 L.04	8
ベル1	リプレイ	赤7	C.TP777 M.05	8
ベル1	リプレイ	チェリー	C.TP777 M.06	8
ベル2	赤7	赤7	C.TP777 N.07	8
ベル2	赤7	チェリー	C.TP777 N.08	8
ベル2	スイカ2	赤7	C.TP777 O.09	8
ベル2	スイカ2	チェリー	C.TP777 O.10	8
ベル2	リプレイ	赤7	C.TP777 P.11	8
ベル2	リプレイ	チェリー	C.TP777 P.12	8
ベル3	赤7	赤7	C.TP777 Q.13	8
ベル3	赤7	チェリー	C.TP777 Q.14	8
ベル3	スイカ2	赤7	C.TP777 R.15	8
ベル3	スイカ2	チェリー	C.TP777 R.16	8
ベル3	リプレイ	赤7	C.TP777 S.17	8
ベル3	リプレイ	チェリー	C.TP777 S.18	8

【図 202】

図柄組合せの内容				
コンビネーション	名称	払出 3BET	略称	
スイカ2	ベル1	リプレイ	C.CT777 01	8
スイカ2	ベル2	リプレイ	C.CT777 02	8
スイカ2	ベル3	リプレイ	C.CT777 03	8
リプレイ	ベル1	リプレイ	C.CT777 04	8
リプレイ	ベル2	リプレイ	C.CT777 05	8
リプレイ	ベル3	リプレイ	C.CT777 06	8
BAR	ベル1	赤7	C.CUA77 01	8
BAR	ベル1	チェリー	C.CUA77 02	8
BAR	ベル2	赤7	C.CUA77 03	8
BAR	ベル2	チェリー	C.CUA77 04	8
BAR	ベル3	赤7	C.CUA77 05	8
BAR	ベル3	チェリー	C.CUA77 06	8
スイカ1	ベル1	赤7	C.CUA77 07	8
スイカ1	ベル1	チェリー	C.CUA77 08	8
スイカ1	ベル2	赤7	C.CUA77 09	8
スイカ1	ベル2	チェリー	C.CUA77 10	8
スイカ1	ベル3	赤7	C.CUA77 11	8
スイカ1	ベル3	チェリー	C.CUA77 12	8
チェリー	ベル1	赤7	C.CUA77 13	8
チェリー	ベル1	チェリー	C.CUA77 14	8
チェリー	ベル2	赤7	C.CUA77 15	8
チェリー	ベル2	チェリー	C.CUA77 16	8
チェリー	ベル3	赤7	C.CUA77 17	8
チェリー	ベル3	チェリー	C.CUA77 18	8
BAR	チェリー	ベル1	C.BTA77 01	8
BAR	チェリー	ベル2	C.BTA77 02	8
BAR	チェリー	ベル3	C.BTA77 03	8
スイカ1	チェリー	ベル1	C.BTA77 04	8
スイカ1	チェリー	ベル2	C.BTA77 05	8
スイカ1	チェリー	ベル3	C.BTA77 06	8
チェリー	チェリー	ベル1	C.BTA77 07	8
チェリー	チェリー	ベル2	C.BTA77 08	8
チェリー	チェリー	ベル3	C.BTA77 09	8
ベル1	赤7	リプレイ	C.左1枚役A.01	1
ベル2	赤7	リプレイ	C.左1枚役A.03	1
ベル2	スイカ2	リプレイ	C.左1枚役A.04	1
ベル3	赤7	リプレイ	C.左1枚役A.05	1
ベル3	スイカ2	リプレイ	C.左1枚役A.06	1
ベル1	チェリー	青7	C.左1枚役B.01	1
ベル1	チェリー	BAR	C.左1枚役B.02	1
ベル2	チェリー	青7	C.左1枚役B.03	1
ベル2	チェリー	BAR	C.左1枚役B.04	1
ベル3	チェリー	青7	C.左1枚役B.05	1
ベル3	チェリー	BAR	C.左1枚役B.06	1
BAR	リプレイ	ベル1	C.右1枚役A.01	1
BAR	リプレイ	ベル2	C.右1枚役A.02	1
BAR	リプレイ	ベル3	C.右1枚役A.03	1
チェリー	リプレイ	ベル1	C.右1枚役A.04	1
チェリー	リプレイ	ベル2	C.右1枚役A.05	1
チェリー	リプレイ	ベル3	C.右1枚役A.06	1
スイカ2	青7	ベル1	C.右1枚役B.01	1
スイカ2	青7	ベル2	C.右1枚役B.02	1

30

40

50

【図 203】

図柄組合せの内容

コンビネーション	名称	払出 3BET	略称
スイカ2 青7 ベル3	C.右1枚役B.03	1	1枚出目
スイカ2 BAR ベル1	C.右1枚役B.04	1	
スイカ2 BAR ベル2	C.右1枚役B.05	1	
スイカ2 BAR ベル3	C.右1枚役B.06	1	
ベル1 チェリー リプレイ	C.左移行役.01	1	
ベル2 チェリー リプレイ	C.左移行役.02	1	
ベル3 チェリー リプレイ	C.左移行役.03	1	RT0移行図柄
スイカ2 ベル1 赤7	C.中移行役A.01	1	
スイカ2 ベル1 チェリー	C.中移行役A.02	1	
スイカ2 ベル2 赤7	C.中移行役A.03	1	
スイカ2 ベル2 チェリー	C.中移行役A.04	1	
リプレイ ベル1 赤7	C.中移行役A.05	1	
リプレイ ベル1 チェリー	C.中移行役A.06	1	
リプレイ ベル2 赤7	C.中移行役A.07	1	
リプレイ ベル2 チェリー	C.中移行役A.08	1	
スイカ2 ベル3 スイカ2	C.中移行役B.01	1	
スイカ2 ベル3 スイカ1	C.中移行役B.02	1	
スイカ2 ベル3 チェリー	C.中移行役B.03	1	
リプレイ ベル3 スイカ2	C.中移行役B.04	1	
リプレイ ベル3 スイカ1	C.中移行役B.05	1	
リプレイ ベル3 チェリー	C.中移行役B.06	1	
スイカ2 リプレイ ベル1	C.右移行役.01	1	スイカ
スイカ2 リプレイ ベル2	C.右移行役.02	1	
スイカ2 リプレイ ベル3	C.右移行役.03	1	
リプレイ リプレイ ベル1	C.右移行役.04	1	
リプレイ リプレイ ベル2	C.右移行役.05	1	
リプレイ リプレイ ベル3	C.右移行役.06	1	
スイカ2 スイカ2 スイカ2	C.スハA.01	3	
スイカ2 スイカ2 スイカ1	C.スハA.02	3	
リプレイ スイカ2 ベル2	C.スハB.01	3	
リプレイ スイカ2 ベル3	C.スハB.02	3	
スイカ2 スイカ2 ベル2	C.スハC.01	3	
スイカ2 スイカ2 ベル3	C.スハC.02	3	
リプレイ スイカ2 スイカ2	C.スハD.01	3	
リプレイ スイカ2 スイカ1	C.スハD.02	3	
スイカ1 スイカ2 スイカ2	C.スハE.01	3	
スイカ1 スイカ2 スイカ1	C.スハE.02	3	
BAR スイカ2 青7	C.スハF.01	3	
BAR スイカ2 BAR	C.スハF.02	3	
青7 チェリー 青7	C.チェリ-A.01	3	
青7 チェリー BAR	C.チェリ-A.02	3	
チェリー ベル1 青7	C.チェリ-B.01	3	
チェリー ベル1 BAR	C.チェリ-B.02	3	
チェリー ベル2 青7	C.チェリ-B.03	3	
チェリー ベル2 BAR	C.チェリ-B.04	3	
チェリー ベル3 青7	C.チェリ-B.05	3	
チェリー ベル3 BAR	C.チェリ-B.06	3	
チェリー ベル1 リプレイ	C.チェリ-C.01	3	
チェリー ベル2 リプレイ	C.チェリ-C.02	3	
チェリー ベル3 リプレイ	C.チェリ-C.03	3	
チェリー チェリー 青7	C.チェリ-D.01	3	
チェリー チェリー BAR	C.チェリ-D.02	3	
青7 チェリー リプレイ	C.チェリ-E.01	3	
チェリー チェリー リプレイ	C.チェリ-E.02	3	

【図 204】

図柄組合せの内容

コンビネーション	名称	払出 3BET	略称
リプレイ 青7 スイカ2	C.SP役A.01	1	確定出目
リプレイ 青7 スイカ1	C.SP役A.02	1	
リプレイ BAR スイカ2	C.SP役A.03	1	
リプレイ BAR スイカ1	C.SP役A.04	1	
リプレイ 青7 ベル1	C.SP役B.01	1	
リプレイ BAR ベル1	C.SP役B.02	1	
リプレイ リプレイ スイカ2	C.SP役C.01	1	
リプレイ リプレイ スイカ1	C.SP役C.02	1	
リプレイ 青7 ベル2	C.SP役D.01	1	
リプレイ 青7 ベル3	C.SP役D.02	1	
リプレイ BAR ベル2	C.SP役E.01	1	
リプレイ BAR ベル3	C.SP役E.02	1	
青7 リプレイ 青7	C.SP役F.01	1	BB中ベル
青7 リプレイ BAR	C.SP役F.02	1	
青7 リプレイ リプレイ	C.SP役G	1	
ベル1 ベル1 赤7	C.V&H.01	12	
ベル1 ベル1 チェリー	C.V&H.02	12	
ベル1 ベル2 赤7	C.V&H.03	12	
ベル1 ベル2 チェリー	C.V&H.04	12	
ベル1 ベル3 赤7	C.V&H.05	12	
ベル1 ベル3 チェリー	C.V&H.06	12	
ベル2 ベル1 赤7	C.V&H.07	12	
ベル2 ベル1 チェリー	C.V&H.08	12	
ベル2 ベル2 赤7	C.V&H.09	12	
ベル2 ベル2 チェリー	C.V&H.10	12	
ベル2 ベル3 赤7	C.V&H.11	12	
ベル2 ベル3 チェリー	C.V&H.12	12	
ベル3 ベル1 赤7	C.V&H.13	12	
ベル3 ベル1 チェリー	C.V&H.14	12	
ベル3 ベル2 赤7	C.V&H.15	12	
ベル3 ベル2 チェリー	C.V&H.16	12	
ベル3 ベル3 赤7	C.V&H.17	12	
ベル3 ベル3 チェリー	C.V&H.18	12	

10

20

20

【図 205】

(A) 内部当籤役と図柄組合せとの対応関係(非押し順役)

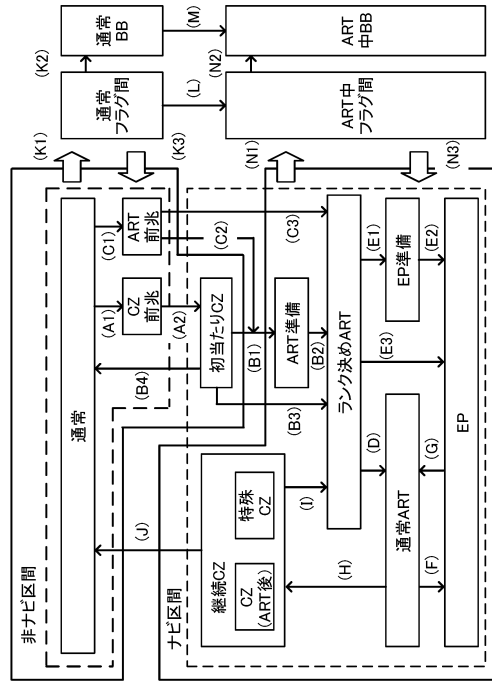
当籤役	図柄組合せ	当籤役	図柄組合せ
F.クワ&BB	クワ&BB	F.BAR/A	BAR揃リプレイ(RT5移行図柄)
F.赤BB	BB	F.共通ベル	ベル
F.青BB	BB	F.強ベル	ベル
F.通常リ	平行リプレイ(RT1移行図柄)	F.弱スハ	スハ
F.維持リ	斜めリプレイ	F.強スハA	スハ
F.弱リ	弱リプレイ(RT3移行図柄)	F.強スハB	スハ
F.強リ	強リプレイ(RT5移行図柄)	F.強チェリ	チェリ
F.チャンスリ	小山リプレイ(RT4移行図柄)	F.確定チェリ	確定出目
F.リーチ目リ	リーチ目リ	F.CBBベル	CBB中ベル
F.フェイクリ	フェイクリ	F.BB中弱チェリ	BB中リプレイ
F.7リ	7揃リプレイ(RT5移行図柄)	F.BB中共通ベル	ベル
F.7リB	7揃リプレイ(RT5移行図柄)	F.BB中強ベル	ベル

(B) 内部当籤役と図柄組合せとの対応関係(押し順役)

当籤役	図柄組合せ(押し順毎)					
	123	132	213	231	312	321
F.6振維持リ123	C.CU/A	C.BT/A	C.CT/A	C.CT/A	C.BT/A	C.BT/A
F.6振維持リ132	C.BT/A	C.CU/A	C.CT/A	C.CT/A	C.BT/A	C.BT/A
F.6振維持リ213	C.BT/A	C.BT/A	C.CU/A	C.CT/A	C.BT/A	C.BT/A
F.6振維持リ231	C.BT/A	C.BT/A	C.CT/A	C.CU/A	C.BT/A	C.BT/A
F.6振維持リ312	C.BT/A	C.BT/A	C.CT/A	C.CT/A	C.CU/A	C.BT/A
F.6振維持リ321	C.BT/A	C.BT/A	C.CT/A	C.CT/A	C.BT/A	C.CU/A
F.6振突入り123	小山ワレ	C.BT/A	C.CT/A	C.CT/A	C.BT/A	C.BT/A
F.6振突入り132	C.BT/A	小山ワレ	C.CT/A	C.CT/A	C.BT/A	C.BT/A
F.6振突入り213	C.BT/A	C.BT/A	小山ワレ	C.CT/A	C.BT/A	C.BT/A
F.6振突入り231	C.BT/A	C.BT/A	C.CT/A	小山ワレ	C.BT/A	C.BT/A
F.6振突入り312	C.BT/A	C.BT/A	C.CT/A	C.CT/A	小山ワレ	C.BT/A
F.6振突入り321	C.BT/A	C.BT/A	C.CT/A	C.CT/A	C.BT/A	小山ワレ
F.6振転落リ123	C.CU/A	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ
F.6振転落リ132	小山ワレ	C.CU/A	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ
F.6振転落リ213	小山ワレ	小山ワレ	C.CU/A	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ
F.6振転落リ231	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ	C.CU/A	小山ワレ	小山ワレ
F.6振転落リ312	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ	C.CU/A	小山ワレ
F.6振転落リ321	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ	小山ワレ	C.CU/A
F.3振昇格リ1xx	強チャンスリ	強チャンスリ	C.CT/A	C.CT/A	C.CU/A	C.CU/A
F.3振昇格リ2xx	C.CU/A	C.CU/A	強チャンスリ	強チャンスリ	C.BT/A	C.BT/A
F.3振昇格リ3xx	C.BT/A	C.BT/A	C.CU/A	C.CU/A	強チャンスリ	強チャンスリ

※ 押し順ベルについては、省略

【図 206】



30

40

50

【図 2 0 7】

移行条件	移行元	移行先	内容
(A1)	通常	CZ前兆	CZ抽籤に当籤、かつ、前兆あり
(A2)	CZ前兆	初当たりCZ	前兆G数を消化
(B1)	初当たりCZ	ART準備	ART抽籤に当籤、かつ、低RT
(B2)	ART準備	ランク決めART	高RT1に移行
(B3)	初当たりCZ	ランク決めART	ART抽籤に当籤、かつ、高RT
(B4)	初当たりCZ	通常	ART抽籤に非当籤
(C1)	通常	ART前兆	ART抽籤に当籤、かつ、前兆あり
(C2)	ART前兆	ART準備	前兆G数を消化、かつ、低RT
(C3)	ART前兆	ランク決めART	前兆G数を消化、かつ、高RT
(D)	ランク決めART	通常ART	1G消化、かつ、ランク3以下
(E1)	ランク決めART	EP準備	1G消化、かつ、ランク4、かつ、RT4
(E2)	EP準備	EP	RT5移行
(E3)	ランク決めART	EP	1G消化、かつ、ランク4、かつ、RT5
(F)	通常ART	EP	ナビ高確中に3択昇格リプ当籤し、RT5移行
(G)	EP	通常ART	保証なし時の転落リプ当籤時に押し順ミスし、RT4移行
(H)	通常ART	継続CZ	通常ARTのG数消化
(I)	継続CZ	ランク決めART	ART抽籤に当籤、又は、ストック放出
(J)	継続CZ	通常	ART抽籤に非当籤、かつ、ストックなし
(K1)	特定状態	通常BBフラグ間	BB当籤
(K2)	通常フラグ間	通常BB	BB作動
(K3)	通常BB	特定状態	BB終了
(L)	通常フラグ間	ART中フラグ間	ART抽籤に当籤
(M)	通常BB	ART中BB	ART抽籤に当籤
(N1)	所定状態	ART中フラグ間	BB当籤
(N2)	ART中フラグ間	ART中BB	BB作動
(N3)	ART中BB	ART準備	BB終了

【図 2 0 8】

(A) 内部当籤役と抽籤用フラグとの対応関係(スタート時の抽籤用)

当籤役	抽籤用フラグ	当籤役	抽籤用フラグ
はずれ	はずれ	6択維持リプ	通常リプ
F.ケウBB	BB(CBB)	押し順ベル	ベル
F.青BB	BB(NBB)	F.共通ベル	ベル
F.青BB	BB(NBB)	F.強ベル	強ベル
F.通常リプ	通常リプ	F.弱スッパ	弱スッパ
F.維持リプ	通常リプ	F.強スッパ	強スッパ
F.弱チェリ	弱チェリ	F.強スッパB	強スッパ
F.強チェリ	強チェリ	F.強チェリ	強チェリ
F.チャンスリプ	弱チェリ	F.確定チェリ	確定チェリ
F.リプ目リプ	リプ目リプ	F.CBBベル	CBBベル
F.フイリ	フイリ	BB中のはずれ	ベルはずれA
F.リプA	7揃い	F.BB中弱チェリ	ベルはずれB
F.リプB	7揃い	F.BB中共通ベル	中段ベル
F.BARリプ	BAR揃い	F.BB中強ベル	斜めベル

(B) 内部当籤役と抽籤用フラグとの対応関係(スタート時又は停止時の抽籤用)

当籤役	抽籤用フラグ				備考
	非ナビ区間(停止時)	ナビ区間(スタート時)			
	押し順正解	押し順不正解	ナビ高確	非ナビ高確	
6択突入りリプ	弱チェリ	通常リプ	弱チェリ	通常リプ	正解時にRT2⇒RT4
6択転落リプ	通常リプ	弱チェリ	弱チェリ	通常リプ	不正解時にRT5⇒RT4
3択昇格リプ	強チェリ	通常リプ	強チェリ	通常リプ	正解時にRT4⇒RT5

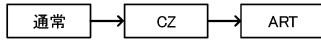
10

20

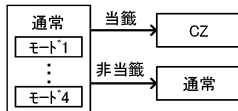
【図 2 0 9】

通常中の遊技の流れ

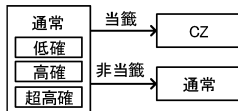
(A)通常⇒CZ⇒ART



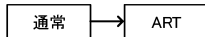
(A-1)通常⇒CZ(ベル当籤時のモードに応じた抽籤)



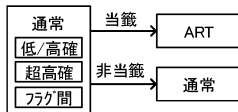
(A-2)通常⇒CZ(抽籤用フラグと状態に応じた抽籤)



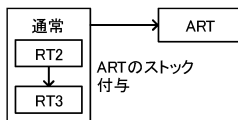
(B)通常⇒ART



(B-1)通常⇒ART(抽籤用フラグと状態に応じた抽籤)



(B-2)通常⇒ART(RT3への移行)



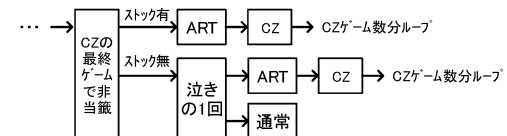
【図 2 1 0】

CZ中の遊技の流れ

(A)CZからARTへの基本的な流れ



※ ループの最初のCZを「初当たりCZ」と呼び、ART後のCZを「継続CZ」と呼ぶ



(B)初当たりCZの概要

残りCZゲーム数	...	2	1	0	終了次遊技
ART移行契機	フェースA	フェースB	フェースC		

(C)継続CZの概要

残りCZゲーム数	...	2	1	0	0	終了次遊技
ART移行契機	フェースA	フェースD	フェースC			

30

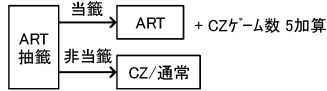
40

50

【図 2 1 1】

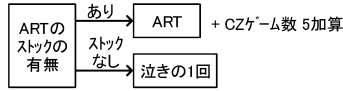
(D)各フェーズの概要

抽籤フェーズA、B、C

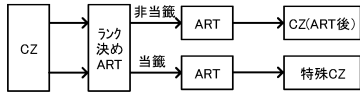


※ 抽籤フェーズ毎に当籤確率が異なる

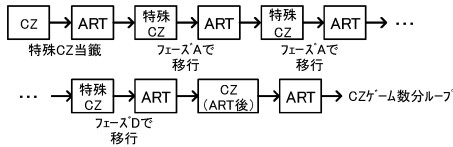
放出フェーズD



(E)継続CZの種別抽籤



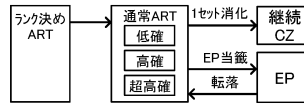
(F)特殊CZの流れ



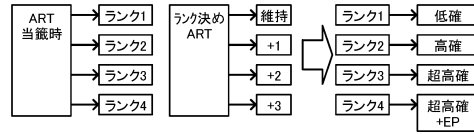
【図 2 1 2】

ART中の遊技の流れ

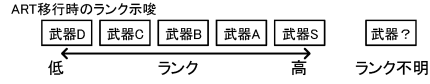
(A)ARTの概要



(B)ART中のランク(低確・高確・超高確)の決め方



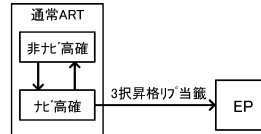
(C)ランク示唆演出の概要



通常ART中の抽籤状態示唆

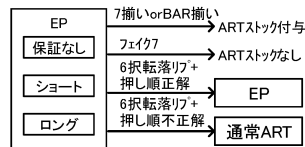
ARTの抽籤状態	演出ステージ
低確	ステージ1
高確	ステージ2
超高確	ステージ3

(D)通常ART⇒EP



【図 2 1 3】

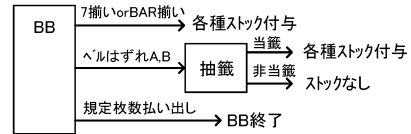
(E)EPの概要



※ 7揃い、BAR揃い又はフェイク7当籤時に転落モード移行(転落)
 (ただし、7揃い又はBAR揃いが一度当籤するまでは転落なし)
 ※ 転落モード「保証なし」では、6択転落リガの押し順を報知せず、
 転落モード「ショート」「ロング」では、6択転落リガの押し順を報知する。
 ※ レア役や自力押し順正解時に転落モードの移行(昇格)

【図 2 1 4】

BB中の遊技の流れ



※ NBB中は、ヘルはずれで、各種抽籤
 CBB中は、7揃いorBAR揃いで、各種ストック付与
 ※ 抽籤の種別や、ストックの種別は、状態(通常BBorART中BB)
 によって異なる。

10

20

30

40

50

【 図 2 1 5 】

(A) モード移行抽籤テーブル(NBB終了時用)

抽籤結果	移行前のモード			
	モード1	モード2	モード3	モード4
モード1	192	0	0	0
モード2	48	192	0	0
モード3	12	48	192	0
モード4	4	16	64	256

(B) モード移行抽籤テーブル(CBB終了時用)

抽籤結果	移行前のモード			
	モード1	モード2	モード3	モード4
モード1	128	0	0	0
モード2	96	128	0	0
モード3	24	96	128	0
モード4	8	32	128	256

(C) モード移行抽籤テーブル(初当たりCZ失敗時用)

抽籤結果	移行前のモード			
	モード1	モード2	モード3	モード4
モード1	240	224	192	0
モード2	12	24	48	0
モード3	3	6	12	0
モード4	1	2	4	256

(D) モード移行抽籤テーブル(継続OZ終了時用)

抽籤結果	抽籤値
モード1	192
モード2	48
モード3	12
モード4	4

(E) モード移行抽籤テーブル(設定変更時用)

抽籤結果	抽籤値
モード1	176
モード2	64
モード3	16
モード4	0

【 図 2 1 6 】

(A)状態移行抽籤テーブル(低確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ				強ハル	フェイ07
	はずれ	通常ハル	弱ハル	強ハル		
低確	256	128	204	0	0	204
高確保証なし	0	0	0	256	256	256
高確A	0	127	50	0	0	50
高確B	0	0	0	24	0	0
超高確	0	0	1	2	0	0

(B)状態移行抽籤テーブル(高確保証10未満時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ				強ハル	フェイ07
	はずれ	通常ハル	弱ハル	強ハル		
低確	26	0	0	0	0	0
高確保証なし	230	128	204	230	256	256
高確A	0	127	50	0	0	50
高確B	0	0	0	24	0	0
超高確	0	0	1	2	0	0

※保証1以上ある場合、抽籤の結果として低確が決定されても、高確に滞在したままとなる。

(C)状態移行抽籤テーブル(高確保証10以上時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ				強ハル	フェイ07
	はずれ	通常ハル	弱ハル	強ハル		
低確	0	0	0	0	0	0
高確保証なし	256	224	240	240	256	256
高確A	0	0	0	0	0	0
高確B	0	0	0	0	0	0
超高確	0	0	32	16	0	16

10

20

【 図 2 1 7 】

(D)状態移行抽籤テーブル(超高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ				強ハル	フェイ07
	はずれ	通常ハル	弱ハル	強ハル		
低確	0	0	0	256	256	0
高確保証なし	0	0	0	0	0	0
高確A	0	224	224	224	0	224
高確B	0	0	0	0	0	0
超高確	256	32	32	32	0	32

(F)状態移行抽籤テーブル(設定変更時用)

抽籤結果	抽籤値
低確	192
高確保証なし	0
高確A	0
高確B	64
超高確	0

(E)状態移行抽籤テーブル(BB終了時用)

抽籤結果	移行前の抽籤状態
低確	128
高確	0
高確保証なし	0
高確A	230
高確B	124
超高確	4

(G)状態移行抽籤テーブル(OZ終了時用)

抽籤結果	抽籤値
低確	0
高確保証なし	0
高確A	256
高確B	0
超高確	0

【 図 2 1 8 】

高確保証ゲーム数抽籤テーブル

抽籤結果	高確A当籤時	高確B当籤時
+10G	4	64
+20G	12	64
+30G	48	128
+50G	192	0

30

40

50

【 2 1 9 】

モード別OZ抽籤テーブル

抽籤結果	現在のモード			
	モード1	モード2	モード3	モード4
非当籤	256	255	250	214
当籤	0	1	6	42

※ 通常時のベル当籤時にOZ抽籤を行う。
同遊技においてART抽籤に当籤していた場合には、抽籤をしない。

【 2 2 0 】

(A)BB当籤時状態別CZ抽籤テーブル(低確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)											
	通常時・ベル	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ
非当籤	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(B)BB当籤時状態別CZ抽籤テーブル(高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)											
	通常時・ベル	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ
非当籤	256	254	254	254	192	128	128	128	128	128	128	256
当籤	0	2	2	2	64	128	128	128	128	128	128	0

(C)BB当籤時状態別CZ抽籤テーブル(超高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)											
	通常時・ベル	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ
非当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当籤	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256

※ 通常時のBB当籤時に重複して当籤した役に応じてCZ抽籤を行う。
同遊技においてART抽籤に当籤していた場合には、抽籤をしない。

10

20

【 2 2 1 】

(A)状態別CZ抽籤テーブル(低確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常時	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ
非当籤	256	255	224	192	192	192	192	192	192	255	256	256
当籤	0	0	1	1	32	64	64	64	64	1	0	0

(B)状態別CZ抽籤テーブル(高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常時	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ
非当籤	256	254	254	192	128	128	128	128	128	254	256	256
当籤	0	2	2	64	128	128	128	128	128	2	0	0

(C)状態別CZ抽籤テーブル(超高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常時	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ	強ハカ
非当籤	255	192	128	128	0	0	0	0	0	192	255	255
当籤	1	64	64	64	128	256	256	256	256	64	1	1

※ 通常時のBB非当籤時の抽籤用フラグに応じてCZ抽籤を行う。
同遊技においてART抽籤に当籤していた場合には、抽籤をしない。

【 2 2 2 】

OZ前兆ゲーム数抽籤テーブル

抽籤結果	BB非当籤時	BB当籤時
0G	0	64
5~8G	0	0
9~12G	16	12
13~20G	48	36
21~28G	176	132
29~30G	16	12
31~34G	0	0

※ 当籤した前兆ゲーム数範囲の中から、均等に前兆ゲーム数を決定

30

40

50

【 2 2 3 】

(A)BB当籤時ART抽籤テーブル(NBB当籤、状態:通常or高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)										
	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	254	254	254	254	254	254	254	254	254	254	254
当籤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

(B)BB当籤時ART抽籤テーブル(CBB当籤、状態:通常or高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)										
	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	252	252	252	252	252	252	252	252	252	252	252
当籤	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

(C)BB当籤時ART抽籤テーブル(状態:超高確時orCZ前兆時orART前兆時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)										
	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	192	192	192	192	192	192	192	192	192	192	192
当籤	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64

※ BB当籤時に重複して当籤した役に応じてART抽籤を行う。

【 2 2 4 】

(A)通常時ART抽籤テーブル(状態:低確or高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ										
	はずれ	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(B)通常時ART抽籤テーブル(状態:超高確時orCZ前兆時orART前兆時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ										
	はずれ	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	258	258	258	258	258	258	258	258	258	258	258
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(C)通常時ART抽籤テーブル(通常フラグ間時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(持ち続けているBBと重複している当籤役に応じた抽籤用フラグ)										
	はずれ	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 通常時に抽籤用フラグに応じてART抽籤を行う。

【 2 2 5 】

ART前兆ゲーム数抽籤テーブル

抽籤結果	抽籤値
0G	0
5~8G	16
9~12G	0
13~20G	24
21~28G	88
29~30G	32
31~34G	96

※ 通常時にARTに当籤した場合に前兆ゲーム数を抽籤当籤した前兆ゲーム数範囲の中から、均等に前兆ゲーム数を決定

【 2 2 6 】

(A)CZ中ART抽籤テーブル(初当たりCZ、かつ、残りゲーム以上時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ										
	はずれ	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224
当籤	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

(B)CZ中ART抽籤テーブル(初当たりCZ、かつ、残りゲーム時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ										
	はずれ	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224	224
当籤	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32

(C)CZ中ART抽籤テーブル(初当たりCZ終了の次遊技用)

抽籤結果	抽籤用フラグ										
	はずれ	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(D)CZ中ART抽籤テーブル(CZ(ART後)、かつ、非ナド高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ										
	はずれ	通常ワ、ベル	朝スカ	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子	朝子
非当籤	224	255	0	224	0	0	0	0	0	224	0
当籤	32	1	256	32	256	256	256	256	256	32	256

【 2 2 7 】

(E)CZ中ART抽籤テーブル(CZ(ART後)、かつ、ナビ高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(F)CZ中ART抽籤テーブル(CZ(ART後)終了の次選抜用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	0	256	0	256	0	256	0	256	0	256	0	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(G)CZ中ART抽籤テーブル(特殊CZ、かつ、ナビ高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	128	240	0	128	0	0	0	0	0	0	128	0
当籤	128	16	256	128	256	256	256	256	256	256	128	256

(H)CZ中ART抽籤テーブル(特殊CZ、かつ、ナビ高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	0	240	0	128	0	0	0	0	0	0	128	0
当籤	256	16	256	128	256	256	256	256	256	256	128	256

※ BB当籤時は、本テーブルは参照せず、ART中BB当籤時ストック抽籤テーブルを参照(必ず当籤)

【 2 2 8 】

(A)ART中ストック抽籤テーブル(通常ART、かつ、状態:低確or高確、かつ、ナビ高確中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(B)ART中ストック抽籤テーブル(通常ART、かつ、状態:低確or高確、かつ、ナビ高確中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(C)ART中ストック抽籤テーブル(通常ART、かつ、状態:超高確、かつ、ナビ高確中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	256	256	255	256	240	224	224	224	224	224	256	0
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(D)ART中ストック抽籤テーブル(通常ART、かつ、状態:超高確、かつ、ナビ高確中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	255	256	255	256	240	224	224	224	224	224	256	0
当籤	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【 2 2 9 】

(E)ART中ストック抽籤テーブル(EP中、かつ、転落モード:保証なし時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	256	256	256	256	255	252	256	252	256	0	256	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(F)ART中ストック抽籤テーブル(EP中、かつ、転落モード:ショット時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	255	256	255	256	240	224	256	224	256	0	256	0
当籤	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(G)ART中ストック抽籤テーブル(EP中、かつ、転落モード:ロング時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	128	224	128	256	0	0	256	0	256	0	256	0
当籤	128	32	128	0	0	256	256	0	256	0	256	256

【 2 3 0 】

(H)ART中ストック抽籤テーブル(ランク決めART、又は、EP準備中)、かつ、ナビ高確中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	256	255	256	224	192	192	192	256	0	0	0	0
当籤	0	0	0	0	32	64	64	64	0	256	256	0

(I)ART中ストック抽籤テーブル(ランク決めART、又は、EP準備中)、かつ、ナビ高確中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	255	256	255	256	224	192	192	256	0	0	0	0
当籤	1	0	0	0	1	32	64	0	64	0	256	256

(J)ART中ストック抽籤テーブル(ART準備中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	256	256	256	255	252	252	252	256	256	256	256	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(K)ART中ストック抽籤テーブル(ART中フラグ間用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(持ち越ししているBBと重複している当籤役に応じた抽籤用フラグ)											
	はずれ	通常ワ、ベル	朝込カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ	朝子カ
非当籤	256	255	256	240	224	224	224	224	224	256	0	256
当籤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 同遊技がBB当籤(初当たり)時である場合には、抽籤をしない。

【 2 3 1 】

(A)ART中BB当籤時ストック抽籤テーブル(状態:低確or高確、又は、EP中の転落モード:保証なし時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)			
	通常ワ、ハル	弱スハ	弱チカ	弱チカ
非当籤	252	252	252	252
当籤	4	4	4	4

(B)ART中BB当籤時ストック抽籤テーブル(状態:超高確、又は、EP中の転落モード:ショット時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)			
	通常ワ、ハル	弱スハ	弱チカ	弱チカ
非当籤	224	224	224	224
当籤	32	32	32	32

(C)ART中BB当籤時ストック抽籤テーブル(ランク決めART、又は、EP準備中時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)			
	通常ワ、ハル	弱スハ	弱チカ	弱チカ
非当籤	192	192	192	192
当籤	64	64	64	64

(D)ART中BB当籤時ストック抽籤テーブル(CZ又はCZ終了の次遊技、又は、EP中の転落モード:ロング時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)			
	通常ワ、ハル	弱スハ	弱チカ	弱チカ
非当籤	0	0	0	0
当籤	256	256	256	256

(E)ART中BB当籤時ストック抽籤テーブル(ART準備中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB当籤時に重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)			
	通常ワ、ハル	弱スハ	弱チカ	弱チカ
非当籤	252	252	252	252
当籤	4	4	4	4

【 2 3 2 】

ART当籤時ストック数抽籤テーブル

抽籤結果	当籤契機		
	初当り	上乗せA	上乗せB
ストック+1	0	252	254
ストック+2	248	4	2
ストック+3	8	0	0

当籤契機	内容
初当り	通常中、CZ前兆中、ART前兆中、初当たりCZ中、通常フラグ間、又は、通常BB中のART当籤時
上乗せA	EP中のART当籤時
上乗せB	継続CZ(CZ(ART後)又は特殊CZ)中のART当籤時
上乗せC	上記以外のART当籤時

10

20

【 2 3 3 】

特殊CZ移行抽籤テーブル

抽籤結果	ARTストック	
	なし	あり
非当籤	255	254
当籤	1	2

※ ランク決めART開始時に抽籤を行う。
ARTストックなし時に当籤すると、ストック+1

【 2 3 4 】

(A)ART当籤時ランク抽籤テーブル(当籤タイミング:通常時、CZ前兆時、ART前兆時、又は、EP以外のART中)

抽籤結果	はずれ	抽籤用フラグ(BB非当籤時)				7抽い	BAR抽い
		弱スハ	弱チカ	弱チカ	弱チカ		
ランク1	192	192	192	192	192	192	0
ランク2	58	58	58	58	58	58	0
ランク3	5	5	5	5	5	5	230
ランク4	1	1	1	1	1	1	26

(B)ART当籤時ランク抽籤テーブル(当籤タイミング:通常時、CZ前兆時、ART前兆時、又は、EP以外のART中)

抽籤結果	はずれ	抽籤用フラグ(NBBと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)				7抽い	BAR抽い
		弱スハ	弱チカ	弱チカ	弱チカ		
ランク1	128	128	128	128	128	128	0
ランク2	58	58	58	58	116	116	230
ランク3	5	5	5	5	10	10	24
ランク4	1	1	1	1	2	2	2

(C)ART当籤時ランク抽籤テーブル(当籤タイミング:通常時、CZ前兆時、ART前兆時、又は、EP以外のART中)

抽籤結果	はずれ	抽籤用フラグ(CBBと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)				7抽い	BAR抽い
		弱スハ	弱チカ	弱チカ	弱チカ		
ランク1	128	128	128	128	0	0	0
ランク2	116	116	116	116	230	230	230
ランク3	10	10	10	10	24	24	192
ランク4	2	2	2	2	2	2	64

30

40

50

【 2 3 5 】

(D)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (当籤タイムミニング: ART準備中)

抽籤結果	抽籤用フラグ (BB非当籤時)					
	強4枚	強3枚	強2枚	強1枚	強ハズレ	強ヘル
ランク1	192	192	192	192	192	192
ランク2	58	58	58	58	58	58
ランク3	5	5	5	5	5	5
ランク4	1	1	1	1	1	1

(E)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (当籤タイムミニング: ART準備中)

抽籤結果	抽籤用フラグ (NBBと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)					
	通常ワ、ヘル	弱4枚	弱3枚	弱2枚	弱1枚	確定ナロー
ランク1	192	192	192	192	128	128
ランク2	58	58	58	58	116	116
ランク3	5	5	5	5	10	10
ランク4	1	1	1	1	2	2

(F)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (当籤タイムミニング: ART準備中)

抽籤結果	抽籤用フラグ (CBBと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)					
	はずれ、通常ワ、ヘル	弱4枚	弱3枚	弱2枚	弱1枚	確定ナロー
ランク1	128	128	128	128	128	0
ランク2	116	116	116	116	230	230
ランク3	10	10	10	10	24	24
ランク4	2	2	2	2	2	2

【 2 3 6 】

(G)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (当籤タイムミニング: EP中)

抽籤結果	抽籤用フラグ (BB非当籤時)					
	はずれ、通常ワ、ヘル	強4枚	強3枚	強2枚	強1枚	BAR揃い
ランク1	192	192	192	192	192	192
ランク2	58	58	58	58	58	58
ランク3	5	5	5	5	5	5
ランク4	1	1	1	1	1	1

(H)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (当籤タイムミニング: EP中)

抽籤結果	抽籤用フラグ (NBBと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)					
	通常ワ、ヘル	弱4枚	弱3枚	弱2枚	弱1枚	確定ナロー
ランク1	128	128	128	128	0	0
ランク2	116	116	116	116	230	230
ランク3	10	10	10	10	24	24
ランク4	2	2	2	2	2	2

(I)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (EP中)

抽籤結果	抽籤用フラグ (CBBと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)					
	はずれ、通常ワ、ヘル	弱4枚	弱3枚	弱2枚	弱1枚	確定ナロー
ランク1	0	0	0	0	0	0
ランク2	230	230	230	230	128	128
ランク3	24	24	24	24	116	116
ランク4	2	2	2	2	2	2

10

20

【 2 3 7 】

(J)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (当籤タイムミニング: CZ中)

抽籤結果	抽籤用フラグ (BB非当籤時)					
	強4枚	強3枚	強2枚	強1枚	強ハズレ	強ヘル
ランク1	230	230	230	0	0	0
ランク2	24	24	230	230	230	0
ランク3	1	1	24	24	24	0
ランク4	1	1	1	2	2	2

(K)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (CZ中)

抽籤結果	抽籤用フラグ (NBBと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)					
	通常ワ、ヘル	弱4枚	弱3枚	弱2枚	弱1枚	確定ナロー
ランク1	128	128	128	0	0	0
ランク2	116	116	230	128	128	0
ランク3	10	10	24	116	116	230
ランク4	2	2	2	12	12	12

(L)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (当籤タイムミニング: CZ中)

抽籤結果	抽籤用フラグ (CBBと重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)					
	はずれ、通常ワ、ヘル	弱4枚	弱3枚	弱2枚	弱1枚	確定ナロー
ランク1	128	128	128	0	0	0
ランク2	116	116	116	128	0	0
ランク3	10	10	10	230	230	230
ランク4	2	2	2	12	26	26

【 2 3 8 】

(M)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (待ち親しているBBと重複している当籤役に応じた抽籤用フラグ)

抽籤結果	抽籤用フラグ (待ち親しているBBと重複している当籤役に応じた抽籤用フラグ)					
	強4枚	強3枚	強2枚	強1枚	強ハズレ	強ヘル
ランク1	192	192	192	192	192	192
ランク2	58	58	58	58	58	58
ランク3	5	5	5	5	5	5
ランク4	1	1	1	1	1	1

(N)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (当籤タイムミニング: BB中)

抽籤結果	抽籤用フラグ					
	ヘル、ヘル	ヘル	強4枚	強3枚	強2枚	強1枚
ランク1	192	192	192	192	192	192
ランク2	58	58	58	58	58	58
ランク3	5	5	5	5	5	5
ランク4	1	1	1	1	1	1

(O)ART 当籤時ランク抽籤テーブル (当籤契機: 複数ストックした場合の2つ目以降)

抽籤結果	抽籤値
ランク1	230
ランク2	24
ランク3	1
ランク4	1

30

40

50

【 図 2 3 9 】

ストック放出順序抽籤テーブル

抽籤結果	抽籤値
4⇒3⇒2⇒1	64
4⇒3⇒1⇒2	192

【 図 2 4 0 】

(A)ラング決めART中ラング昇格抽籤テーブル(非ナビ高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB非当籤時)											
	はずれ	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル
維持	192	0	192	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ラング+1	62	0	248	62	248	248	248	248	62	192	192	0
ラング+2	1	1	7	1	7	7	7	7	7	1	56	56
ラング+3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8

(B)ラング決めART中ラング昇格抽籤テーブル(ナビ高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB非当籤時)											
	はずれ	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル
維持	0	254	0	192	0	0	0	0	0	0	192	0
ラング+1	248	0	248	62	248	248	248	248	62	192	192	0
ラング+2	7	1	7	1	7	7	7	7	7	7	1	56
ラング+3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8

(C)ラング決めART中ラング昇格抽籤テーブル(BB当籤時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ(BB重複して当籤した当籤役に応じた抽籤用フラグ)											
	はずれ	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル
維持	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ラング+1	192	192	192	192	192	192	192	192	192	192	192	0
ラング+2	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56	56	128
ラング+3	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	128

10

20

【 図 2 4 1 】

(A)ナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブル(通常ART、かつ、状態:低確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル
非当籤	255	224	224	255	255	192	192	192	255	256	256	256
ナビ高確+5G	0	28	0	0	0	0	56	56	56	0	0	0
ナビ高確+10G	1	0	4	1	1	1	8	8	8	1	0	0

(B)ナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブル(通常ART、かつ、状態:高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル
非当籤	224	224	224	252	252	128	128	128	224	224	256	256
ナビ高確+5G	28	1	28	28	0	0	112	112	112	28	0	0
ナビ高確+10G	4	0	4	4	4	4	16	16	16	4	0	0

(C)ナビ高確ゲーム数獲得抽籤テーブル(通常ART、かつ、状態:超高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル
非当籤	128	243	128	128	0	0	0	0	128	256	256	256
ナビ高確+5G	112	13	112	112	224	224	128	128	128	112	0	0
ナビ高確+10G	16	0	16	16	32	32	128	128	128	16	0	0

【 図 2 4 2 】

(A)CZゲーム数獲得抽籤テーブル(ART準備中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル
非当籤	256	224	256	192	128	0	0	0	0	256	256	256
CZ+5G	0	56	224	112	224	0	0	0	0	0	0	0
CZ+10G	0	6	28	14	28	224	224	224	224	28	28	28
CZ+20G	0	1	3	1	3	28	28	28	28	3	3	3
CZ+30G	0	1	1	1	1	4	4	4	4	1	1	1

(B)CZゲーム数獲得抽籤テーブル(通常ART、かつ、ナビ高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル
非当籤	256	224	256	192	128	0	0	0	0	256	0	0
CZ+5G	0	28	0	56	112	224	224	224	224	28	28	28
CZ+10G	0	2	0	6	14	28	28	28	28	6	6	6
CZ+20G	0	1	0	1	1	3	3	3	3	3	3	3
CZ+30G	0	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(C)CZゲーム数獲得抽籤テーブル(通常ART、かつ、ナビ高確時用)

抽籤結果	抽籤用フラグ											
	はずれ	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル	通常ワ・ベル
非当籤	224	224	256	192	128	0	256	0	256	0	0	0
CZ+5G	28	28	0	56	112	224	0	224	0	224	224	28
CZ+10G	2	2	0	6	14	28	0	28	0	28	28	28
CZ+20G	1	1	0	1	1	3	0	3	0	3	3	3
CZ+30G	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1

※ CZ中のフェーズA,B,Cで当籤又はCZ中のフェーズDでストック放出するとCZゲーム数獲得

30

40

50

【 図 2 4 3 】

ARTゲーム数獲得抽籤テーブル(ART中、ART準備中、継続CZ中用)

抽籤結果	抽籤用フラグ	
	NBB	CBB
ART+10G	224	0
ART+20G	28	224
ART+30G	4	32

※ ART中のBB当籤でARTゲーム数を獲得

【 図 2 4 4 】

転落モード抽籤テーブル

抽籤結果	EPの当籤タイミング	
	ランク決めART中	ランク決めART中以外
保証なし	0	0
ショート	254	192
ロング	2	64

【 図 2 4 5 】

(A)転落モード移行抽籤テーブル(転落モード:保証なし時)

抽籤結果	抽籤用フラグ									
	はずれ	通常W、ヘル	弱スガ	強スガ	強フェリ	強ヘル	フェリ7	7抽い	BAR抽い	EP継続時
保証なし	192	236	192	0	0	0	236	236	236	0
ショート	63	0	63	252	240	240	0	0	0	255
ロング	1	0	1	4	16	16	0	0	0	1

※ EP継続時:保証なし時の8枚転落リブ当籤において押し順に正解した時

(B)転落モード移行抽籤テーブル(転落モード:ショート時)

抽籤結果	抽籤用フラグ									
	はずれ	通常W、ヘル	弱スガ	強スガ	強フェリ	強ヘル	フェリ7	7抽い	BAR抽い	
保証なし	0	0	0	0	0	0	248	248	248	
ショート	248	256	248	224	192	192	8	8	8	
ロング	8	0	8	32	64	64	0	0	0	

(C)転落モード移行抽籤テーブル(転落モード:ロング時)

抽籤結果	抽籤用フラグ									
	はずれ	通常W、ヘル	弱スガ	強スガ	強フェリ	強ヘル	フェリ7	7抽い	BAR抽い	
保証なし	0	0	0	0	0	0	52	0	0	
ショート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ロング	256	256	256	256	256	256	204	256	256	

※ BB当籤時は抽籤を行わない。

【 図 2 4 6 】

EP中BB当籤時転落モード移行抽籤テーブル

抽籤結果	NBB当籤時の現在のモード			CBB当籤時の現在のモード		
	保証なし	ショート	ロング	保証なし	ショート	ロング
保証なし	0	0	0	0	0	0
ショート	240	192	0	224	128	0
ロング	16	64	256	32	128	256

10

20

30

40

50

【 図 2 4 7 】

(A)BB中ART抽籤テーブル(通常BB、又は、ART中BB中用)

抽籤結果	CBBヘル	中球ヘル	256	256	252	256	7抽い	7抽い	BAF抽い
非当籤	0	0	0	0	4	0	0	0	256
当籤	0	0	0	0	4	0	0	0	256

※ 通常BB中に当籤した場合は、次遊技からART中BB

(B)BB中CZ抽籤テーブル(通常BB中用)

抽籤結果	CBBヘル	中球ヘル	256	256	146	146	256	256	256
非当籤	0	0	0	0	110	110	0	0	0
当籤	0	0	0	0	110	110	0	0	0

(C)BB中EPストック抽籤テーブル(ART中BB中用)

抽籤結果	CBBヘル	中球ヘル	256	256	146	146	256	256	256
非当籤	0	0	0	0	110	110	0	0	0
当籤	0	0	0	0	110	110	0	0	256

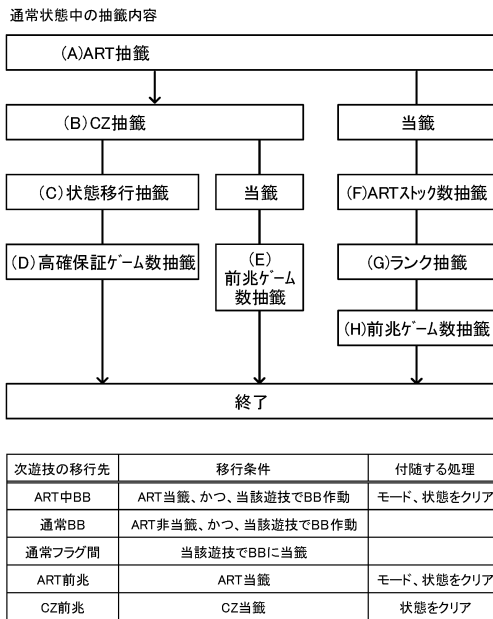
【 図 2 4 8 】



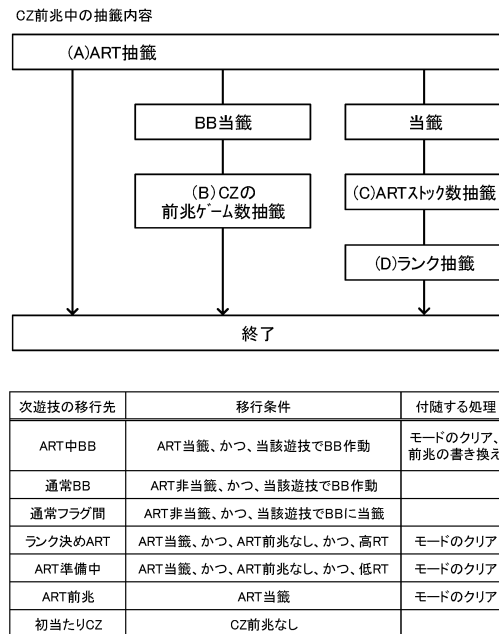
10

20

【 図 2 4 9 】



【 図 2 5 0 】

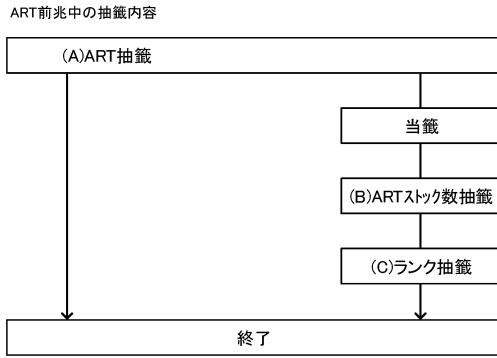


30

40

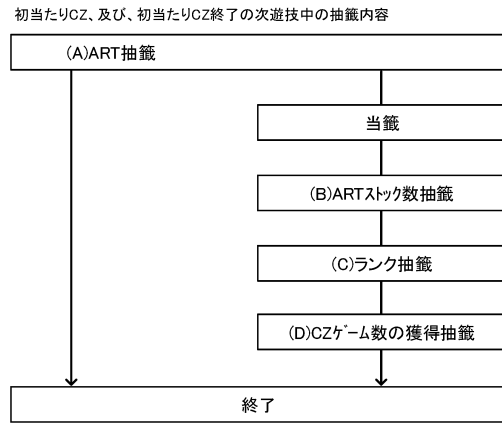
50

【 図 2 5 1 】



次遊技の移行先	移行条件	付随する処理
ART中BB	当該遊技でBB作動	
通常フラグ間	当該遊技でBBに当籤	
ランク決めART	ART前兆なし、かつ、高RT	CZゲーム数に「10」をセット
ART準備中	ART前兆なし、かつ、低RT	CZゲーム数に「10」をセット

【 図 2 5 2 】

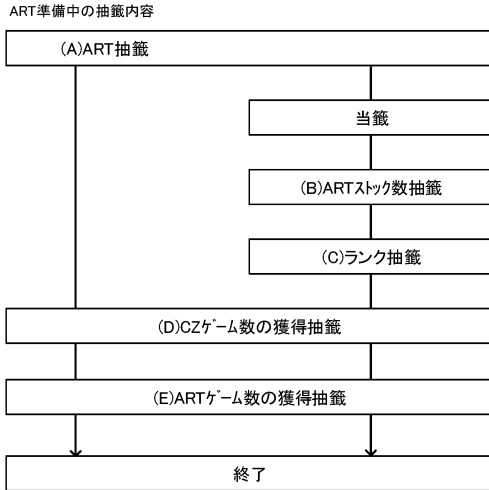


次遊技の移行先	移行条件	付随する処理
ART中BB	当該遊技でBB作動	モードのクリア
ART中フラグ間	当該遊技でBBに当籤	モードのクリア
ランク決めART	ART当籤、かつ、高RT	モードのクリア
ART準備中	ART当籤、かつ、低RT	モードのクリア
CZ前兆	CZ失敗、かつ、CZストックあり時	モード、前兆ゲーム数抽籤
通常	CZ失敗、かつ、CZストックなし時	モード、状態、高確保証ゲーム数抽籤

10

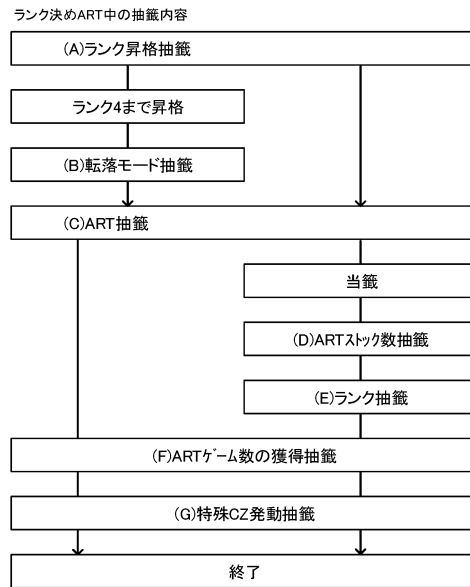
20

【 図 2 5 3 】



次遊技の移行先	移行条件	付随する処理
ART中BB	当該遊技でBB作動	
ART中フラグ間	当該遊技でBBに当籤	
ランク決めART	RT4移行時(下の条件を除く)	
通常ART	ART中のBBからのRT4移行時	
EP準備	EP中のBBからのRT4移行時	
	EPストックあり時のRT4移行時	初回EP処理

【 図 2 5 4 】



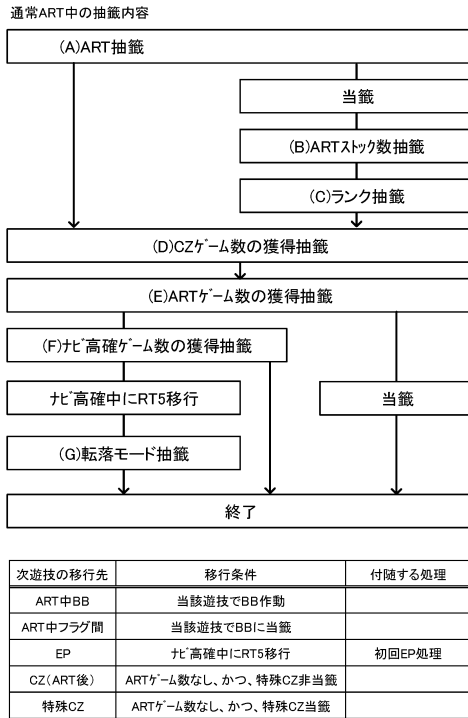
次遊技の移行先	移行条件	付随する処理
ART中BB	当該遊技でBB作動	
ART中フラグ間	当該遊技でBBに当籤	
EP	ランク4、かつ、RT5	初回EP処理
EP準備	ランク4、かつ、RT5以外	初回EP処理
通常ART	特になし(基本動作)	

30

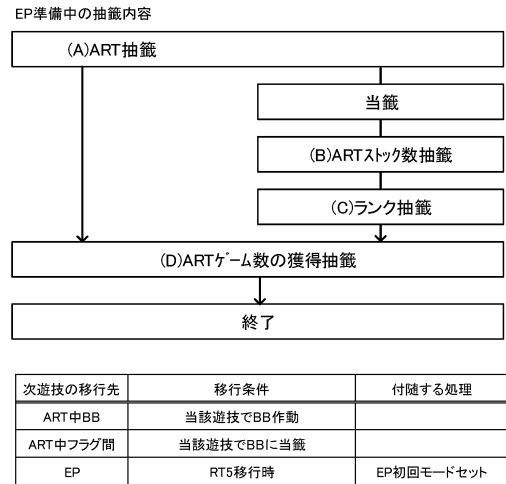
40

50

【図 2 5 5】



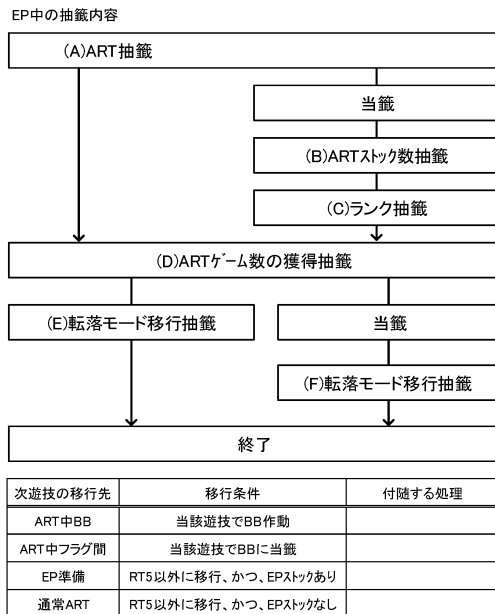
【図 2 5 6】



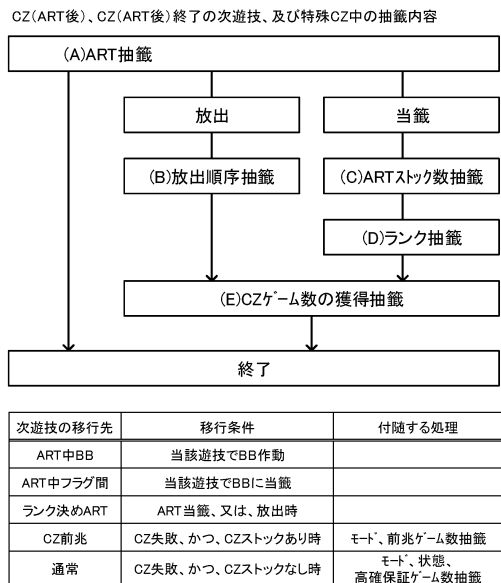
10

20

【図 2 5 7】



【図 2 5 8】



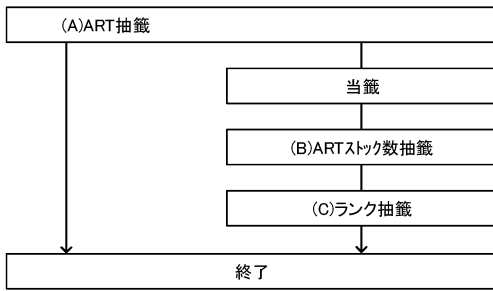
30

40

50

【 図 2 5 9 】

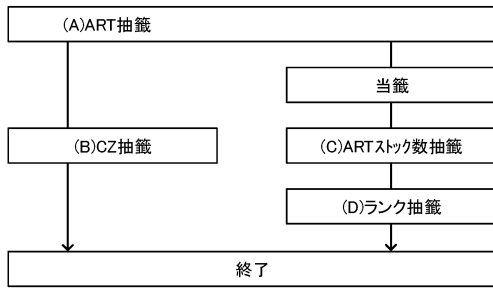
通常フラグ間中の抽籤内容



次遊技の移行先	移行条件	付随する処理
通常BB	BB作動時にARTストックなし	
ART中BB	BB作動時にARTストックあり	

【 図 2 6 0 】

通常BB中の抽籤内容

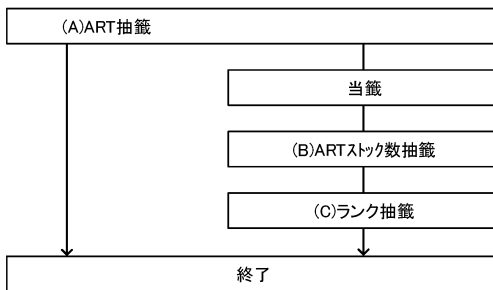


次遊技の移行先	移行条件	付随する処理
ART中BB	BB中にART当籤	
ART準備	ARTストックあり、かつ、前兆ゲーム数なし	
初当たりCZ	CZストックあり、かつ、前兆ゲーム数なし	モード、状態抽籤
CZ前兆	CZストックあり、かつ、前兆ゲーム数あり	モード、状態抽籤
通常	各種ストックなし	モード、状態抽籤

10

【 図 2 6 1 】

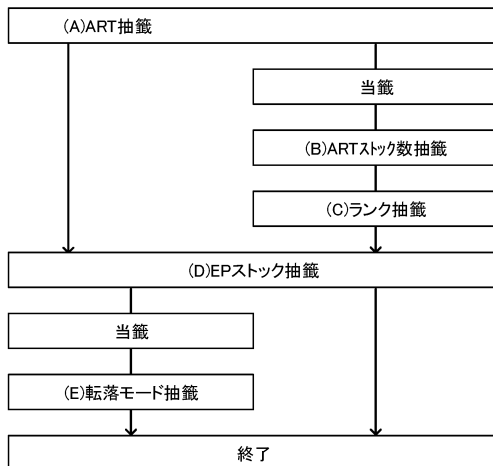
ART中フラグ間中の抽籤内容



次遊技の移行先	移行条件	付随する処理
ART中BB	BB作動時にARTストックあり	

【 図 2 6 2 】

ART中BB中の抽籤内容



次遊技の移行先	移行条件	付随する処理
ART準備	特になし(基本動作)	

20

30

40

50

【図 2 6 3】

(A) CZの残りゲーム数と各抽籤との関係例1

残りCZゲーム数	...	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ART抽籤	...	テーブルA	テーブルB	テーブルC	テーブルD	テーブルE				
ランク抽籤	...	テーブルV	テーブルW	テーブルX	テーブルY	テーブルZ				

(B) CZの残りゲーム数と各抽籤との関係例2

残りCZゲーム数	...	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ART抽籤	...	テーブルA	テーブルB	テーブルC	テーブルD	テーブルE				
ランク抽籤	...	テーブルX	テーブルY	テーブルZ						

【図 2 6 4】

(A) CZ中のストックの有無と各抽籤との関係例1

残りCZゲーム数	...	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
ストックあり時	ART抽籤	テーブルA									
	ランク抽籤	テーブルZ									
ストックなし時	ART抽籤	テーブルB									
	ランク抽籤	テーブルY									

(B) CZ中のストックの有無と各抽籤との関係例2

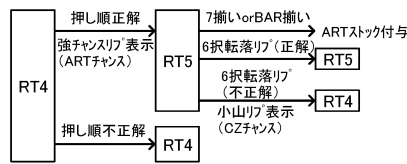
残りCZゲーム数	...	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ストックあり時	ART抽籤	テーブルA	テーブルB	テーブルC	テーブルD	テーブルE				
	ランク抽籤	テーブルV	テーブルW	テーブルX	テーブルY	テーブルZ				
ストックなし時	ART抽籤	テーブルF	テーブルG	テーブルH	テーブルI	テーブルJ				
	ランク抽籤	テーブルQ	テーブルR	テーブルS	テーブルT	テーブルU				

(C) CZ中のストックの有無と各抽籤との関係例3

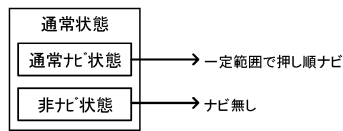
残りCZゲーム数	...	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ストックあり時	ART抽籤	テーブルA	テーブルB	テーブルC	テーブルD	テーブルE				
	ランク抽籤	テーブルX	テーブルY	テーブルZ						
ストックなし時	ART抽籤	テーブルF	テーブルG	テーブルH						
	ランク抽籤	テーブルU	テーブルV	テーブルW						

【図 2 6 5】

(A) 通常状態中のRT4,RT5におけるART抽籤



(B) 通常状態中のナビ制御



【図 2 6 6】

押し順ベル当籤時の押し順と図柄組合せとの対応関係

当籤役	123	132	213	312	321
F.123<A>	C. TP<A>	C. 中移行役	C. OD<A>	C. OD<A>	C. OD<A>
F.123	C. TP	C. 右移行役	又はR.1st移行	又はR.1st移行	又はR.1st移行
F.132<A>	C. TP<A>	C. 中移行役	C. OD<A>	C. OD<A>	C. OD<A>
F.132	C. TP	C. 右移行役	又はR.1st移行	又はR.1st移行	又はR.1st移行
F.213<A>	C. OD<A>	C. 中移行役	C. OD<A>	C. OD<A>	C. OD<A>
F.213	C. OD	C. 右移行役	又はR.2nd移行	又はR.2nd移行	又はR.2nd移行
F.231<A>	C. OD<A>	C. 中移行役	C. OD<A>	C. OD<A>	C. OD<A>
F.231	C. OD	C. 右移行役	又はR.2nd移行	又はR.2nd移行	又はR.2nd移行
F.312<A>	C. OD<A>	C. 中移行役	C. OD<A>	C. OD<A>	C. OD<A>
F.312	C. OD	C. 右移行役	又はR.1st移行	又はR.1st移行	又はR.1st移行
F.321<A>	C. OD<A>	C. 中移行役	C. OD<A>	C. OD<A>	C. OD<A>
F.321	C. OD	C. 右移行役	又はR.1st移行	又はR.1st移行	又はR.1st移行

10

20

30

40

50

【 図 2 6 7 】

(A) 押し順ヘル当籤時のRT制御

Table with columns for '当籤役' (Winning Game) and '図柄組合せ(押し順毎)' (Symbol Combination per Push Order). Rows include combinations like F.123ヘルA, F.123ヘルB, etc., with values such as '8枚', 'RT0移行', and '1/4で8枚 3/4でRT2移行'.

(B) 押し順ヘル当籤時のRT制御の別例1

Table similar to (A), showing alternative RT control rules for winning games with push order symbols.

【 図 2 6 8 】

(C) 押し順ヘル当籤時のRT制御の別例2

Table similar to (A), showing another alternative RT control rule for winning games with push order symbols.

(D) 押し順ヘル当籤時のRT制御の別例3

Table similar to (A), showing a third alternative RT control rule for winning games with push order symbols.

10

20

【 図 2 6 9 】

(A) ナビ高確ゲーム数の更新例1

Table showing 'ナビ高確ゲーム数' (Navigation High Probability Game Count) updates across various game states like '遊技状態', '内部当籤役', and 'RT状態'.

(B) ナビ高確ゲーム数の更新例2

Table showing alternative 'ナビ高確ゲーム数' updates for different game states.

(C) ナビ高確ゲーム数の更新例3

Table showing a third alternative 'ナビ高確ゲーム数' update rule.

【 図 2 7 0 】

(A) ナビ高確の有無と継続CZ中のART抽籤(3択昇格リブ当籤時)

Table comparing 'ナビ高確の有無' (Presence of Navigation High Probability) and '継続CZ' (Continuation CZ) for 3-choice promotion ribbons.

(B) ナビ高確の有無とランク決めART中の昇格抽籤1(3択昇格リブ当籤時)

Table comparing 'ナビ高確の有無' and 'ランク決めART' (Rank-determined ART) for 3-choice promotion ribbons.

(C) ナビ高確の有無とランク決めART中の昇格抽籤2(はずれ時)

Table comparing 'ナビ高確の有無' and 'ランク決めART' for 3-choice promotion ribbons during a miss.

(D) RT状態とランク決めART中の昇格抽籤

Table comparing 'RT状態' (RT State) and 'ランク決めART' for promotion ribbons.

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2003-033475(JP,A)
特開2017-047081(JP,A)
特開2010-172446(JP,A)
特開2003-122629(JP,A)
特開2014-180324(JP,A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
A63F 5/04
A63F 7/02